

ホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）の結果 （概要版）

厚生労働省社会・援護局地域福祉課
生活困窮者自立支援室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

- アンケート実施概要
- 生活実態調査結果の概要

I. アンケート実施概要

目的

- 「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」（平成14年法律第105号）及び「ホームレスの自立の支援等に関する基本方針」（平成30年7月31日厚生労働省・国土交通省告示第2号）の見直しを検討するにあたって、政策評価等の実施に必要なデータを得ること。

調査対象

- 法第2条に規定する「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として日常生活を営んでいる者」。

調査方法及び回答実績

- 調査方法：約 1,300 人を目標に個別面接（別表参照）。
- 回答実績：1,169 人から回答を得られた。
- 調査対象自治体は、東京都23区・政令指定都市及び令和3年1月調査（概数調査）で20名以上のホームレス数の報告があった市。

調査の実施時期

- 令和3年11月

Ⅱ．生活実態調査結果の概要

※カッコ書きは平成28年調査時との差

性別・年齢の状況

○ 男女構成

男性	95.8%	(▲0.4%)
女性	4.2%	(+0.4%)

○ 年齢階層

～39歳	2.8%	(▲0.6%)
40～49歳	7.5%	(▲1.4%)
50～54歳	8.9%	(▲0.1%)
55～59歳	10.7%	(▲2.3%)
60～64歳	15.6%	(▲7.3%)
65～69歳	20.0%	(▲3.1%)
70歳～	34.4%	(+14.7%)

→平均年齢 63.6歳 (+2.1歳)

路上での生活

○ 路上生活の形態

- ・生活場所が決まっている者は79.5% (+2.0%)
- ・生活場所

公園	27.4%	(▲5.6%)
河川	24.8%	(▲1.5%)
道路	15.3%	(0.0%)
その他	23.1%	(+7.4%)

○ 路上生活の期間（今回の路上生活の期間）

10年以上	40.0%	(+5.4%)
5年以上10年未満	19.1%	(▲1.4%)
3年以上5年未満	9.2%	(▲1.3%)
1年以上3年未満	11.4%	(▲0.8%)
1年未満	19.7%	(▲1.9%)

○ 仕事と収入の状況

- ・仕事をしている者は48.9% (▲6.7%)
→主な内訳は「廃品回収」が66.4% (▲4.4%) と最も多い

・仕事による収入月額

1万円未満	6.0%	(▲3.6%)
1万～3万円未満	18.7%	(▲12.0%)
3万～5万円未満	27.5%	(▲6.1%)
5万円以上	47.9%	(+22.0%)

→仕事をしている者の月平均収入は約5.8万円 (+2.0万円)

Ⅱ．生活実態調査結果の概要

※カッコ書きは平成28年調査時との差

路上生活までのいきさつ

○ 路上生活の直前の職業と雇用形態

・職業

「建設・採掘従事者」 36.3%(▲11.9%)

「生産工程従事者」 12.9%(▲0.1%)

・雇用形態

「常勤職員・従業員（正社員）」 45.8%(+5.4%)

「臨時・パート・アルバイト」 23.2%(▲0.9%)

○ 路上生活に至った理由

(複数回答、その他を除く上位3つを掲載)

「仕事が減った」 24.5% (▲2.3%)

「倒産や失業」 22.9% (▲3.2%)

「人間関係がうまくいなくて、仕事を辞めた」
18.9% (+1.8%)

※上位3位以外では

「アパート等の家賃が払えなくなった」
13.2% (+2.2%)

前回調査結果

「仕事が減った」26.8%、「倒産や失業」26.1%、
「人間関係がうまくいなくて、仕事を辞めた」17.1%

健康状態

○ 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と訴える者

34.9% (+7.8%)

→このうち治療等をうけていない者

63.5% (+2.6%)

※段階的に変更状態を把握するため今回調査にて選択肢を次のように修正した。前回調査結果との比較は「悪い」との比較となっており、参考値である。

・今回調査選択肢

「たいへんよい」「よい」「あまりよくない」「よくない」

・前回調査選択肢

「良い」「悪い」「普通」「わからない」

Ⅱ．生活実態調査結果の概要

※カッコ書きは平成28年調査時との差

福祉制度の周知・利用

- 巡回相談員にあったことがある 78.9% (▲10.9%)
 →あったことがあり相談した 29.5% (▲17.4%)
- シェルターを知っている 69.2% (▲1.0%)
 →知っており利用した 21.9% (+1.3%)
- 自立支援センターを知っている 68.3% (▲4.9%)
 →知っており利用した 13.3% (▲1.8%)
- 生活保護制度を利用したことがある 32.7% (▲0.2%)

今後の生活について

- 今後どのような生活を望むか
 「アパートに住み、就職して自活したい」 17.5% (▲4.2%)
 「アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事を
 みつきたい」 12.0% (▲0.8%)
 「今のままでいい」 40.9% (+5.6%)
- 求職活動状況
 「求職活動している」 8.4% (▲3.0%)
 「今も求職活動をしていないし、今後も求職活動を
 する予定がない」 75.5% (+2.9%)

Ⅱ．生活実態調査結果の概要

新型コロナウイルス関連

○ 路上生活での新型コロナウイルス感染症の影響

(複数回答、その他を除く上位3つを掲載)

「収入が減った」 15.3%

「食べ物の量が減った、食べ物を得にくくなった」

10.0%

「緊張感を感じるようになった」 8.8%

※その他では「特に変化なし」「感染の不安・対策に関すること」

「マスク着用に関すること」の意見がみられた。

○ 路上生活を行うようになった理由

(新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるもの)

6.3%

(今回の路上生活期間を3年未満を対象)

○ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い受けたいサービス

(複数回答、その他を除く上位3つを掲載)

「ワクチンの接種」 27.6%

「マスクの配布」 26.0%

「手指消毒等の配布」 11.6%

別表

調査対象自治体の報告者数及び概数調査（令和3年1月実施）におけるホームレス数

地域	報告者数	目標数	ホームレス数
大阪市	250人	378人	943人
東京都23区	320人	320人	800人
横浜市	131人	152人	378人
福岡市	78人	78人	193人
川崎市	100人	73人	182人
名古屋市	48人	40人	98人
仙台市	31人	31人	76人
京都市	12人	21人	51人
北九州市	21人	20人	50人
神戸市	22人	18人	45人
札幌市	14人	14人	34人
千葉市	13人	13人	32人
さいたま市	12人	12人	29人
広島市	7人	7人	17人
相模原市	1人	6人	14人
静岡市	1人	5人	11人
浜松市	5人	5人	11人
岡山市	4人	4人	10人
新潟市	0人	4人	9人
堺市	4人	4人	9人
熊本市	4人	4人	8人
平塚市	21人	16人	38人
那覇市	11人	13人	32人
市川市	12人	12人	30人
戸田市	12人	12人	28人
川口市	13人	11人	27人
尼崎市	8人	11人	27人
厚木市	10人	10人	24人
久留米市	4人	9人	22人
計	1,169人	1,303人	3,228人
			84.4%
全国計			3,824人
			100.0%

ホームレスの実態に関する全国調査(生活実態調査)の結果(詳細版)

生活実態調査においては、1,169 人から回答を得た。

生活実態調査の集計表凡例

◇ 択一式の場合

表1-1 問1-1 具体的な寝場所

	人数	%	有効%
1.公園	250	21.4	27.4
2.道路	139	11.9	15.3
3.河川	226	19.3	24.8
4.駅舎	86	7.4	9.4
5.その他	210	18.0	23.1
有効回答数	911	77.9	100.0
無回答	2	0.2	
非該当	256	21.9	
合計	1,169	100.0	

※1 ↓ ※2 ↓ ※3 ↓

※1「非該当」…生活実態調査回答者全員が答える必要のない問(枝問)における回答不要者の数及び割合

※2「 %」…生活実態調査回答者全員(1,169 人)に占める割合

※3「有効%」…有効回答者数(1,105人)に占める割合

◇ 複数選択式の場合

表6-1 問6-1 現在している仕事の内容

(複数回答)	件数	回答%	ケース%
1.建設日雇	64	10.8	11.4
2.廃品回収	12	2.0	2.1
3.運輸日雇	371	62.8	66.4
4.その他の雑業	13	2.2	2.3
5.その他	131	22.2	23.4
有効回答数	591	100.0	105.7
有効回答者数	559	47.8	
無回答	1	0.2	
非該当	609	52.1	
合計	1,169	100.0	

※1 ↓ ※2 ↓

※1「回答%」…有効回答者数(591人)に占める割合

※2「ケース%」…有効回答者数(559人)に占める割合

第1章 調査対象者の基本的属性

本章では、生活実態調査対象ホームレスの基本的属性を「性別」、「年齢」で表した。

1 性別

性別は、有効回答数1,154人のうち、男性1,106人(95.8%)、女性48人(4.2%)であった。

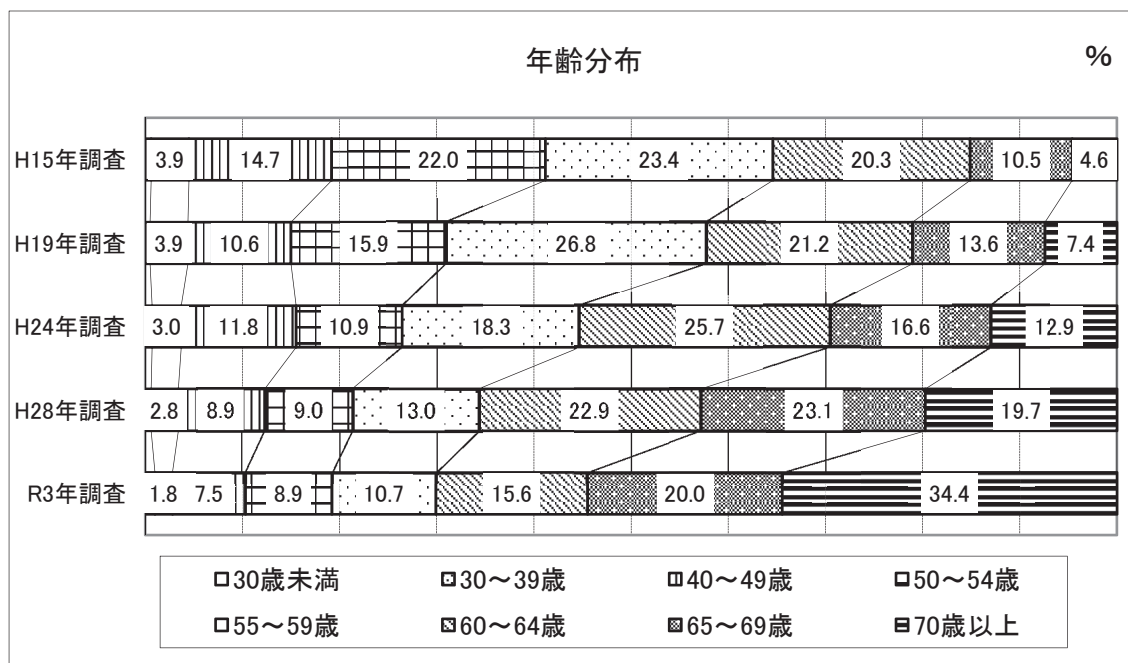
	人	%	有効%
男性	1,106	94.6	95.8
女性	48	4.1	4.2
有効回答数	1,154	98.7	100.0
無回答	15	1.3	
合計	1,169	100.0	



2 年齢分布

年齢分布は下表のとおりである。最も多かったのが「70～74歳」276人(23.8%)、次いで「65～69歳」232人(20.0%)、「60～64歳」181人(15.6%)であり、これらの合計が全体の59.4%を占めている。

年齢分布	人	%	有効%
19歳以下	1	0.1	0.1
20～24歳	6	0.5	0.5
25～29歳	5	0.4	0.4
30～34歳	9	0.8	0.8
35～39歳	12	1.0	1.0
40～44歳	29	2.5	2.5
45～49歳	58	5.0	5.0
50～54歳	103	8.8	8.9
55～59歳	124	10.6	10.7
60～64歳	181	15.5	15.6
65～69歳	232	19.8	20.0
70～74歳	276	23.6	23.8
75～79歳	78	6.7	6.7
80歳以上	45	3.8	3.9
有効回答数	1,159	99.1	100.0
無回答数	10	0.9	
合計	1,169	100.0	



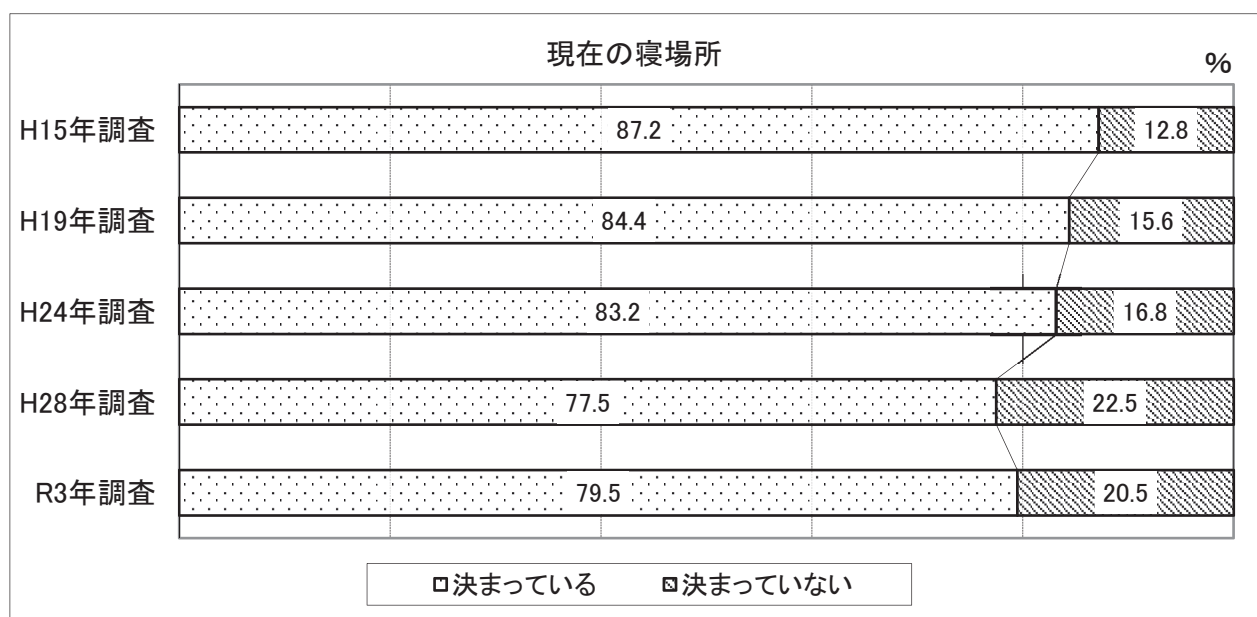
第2章 路上(野宿)生活について

1 路上(野宿)生活の形態

路上(野宿)場所については、「決まっている」が913人(79.5%)、「決まっていない」が235人(20.5%)となっている(表1)。

表1 問1 寝ている場所はだいたいいつも決まっていますか。1つ選んでください。

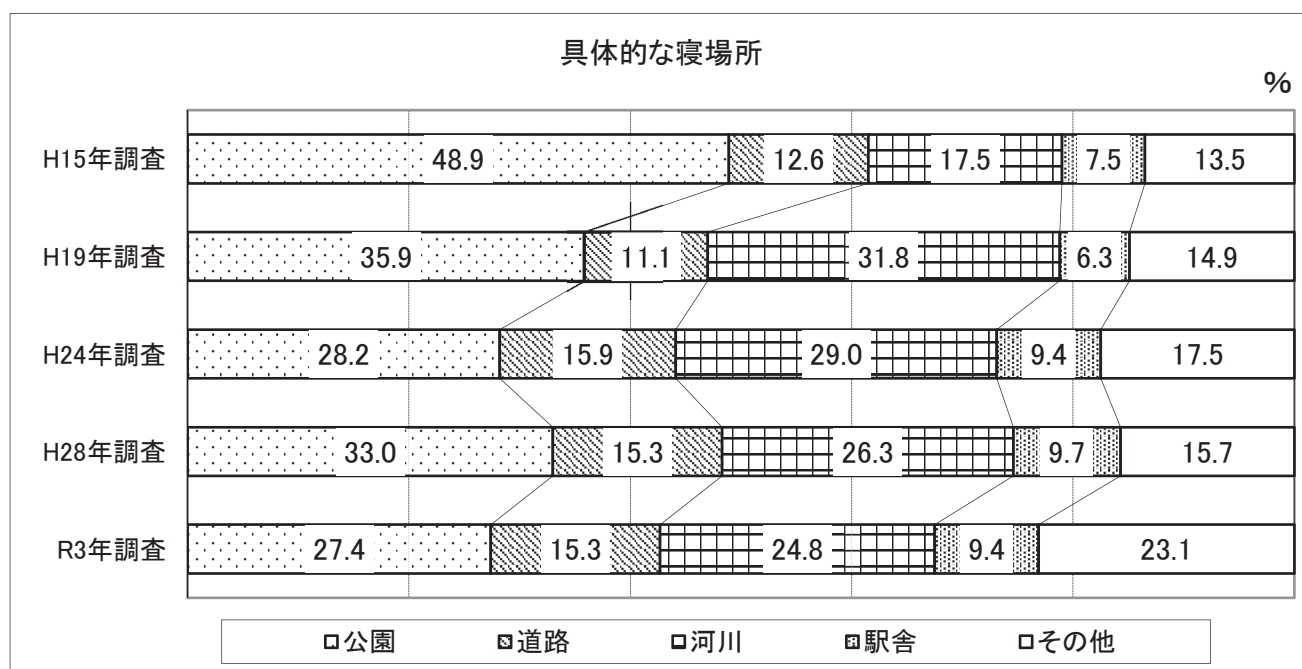
	人	%	有効%
1. 決まっている	913	78.1	79.5
2. 決まっていない	235	20.1	20.5
有効回答数	1,148	98.2	100.0
無回答	21	1.8	
合計	1,169	100.0	



なお、「決まっている」者の具体的な場所としては「公園」が最も多く250人(27.4%)、次いで「河川」が226人(24.8%)となっている(表1-1)。

表1-1 問1-1 問1で「1.決まっている」と答えた方について、具体的にはどこですか。
1つ選んでください。

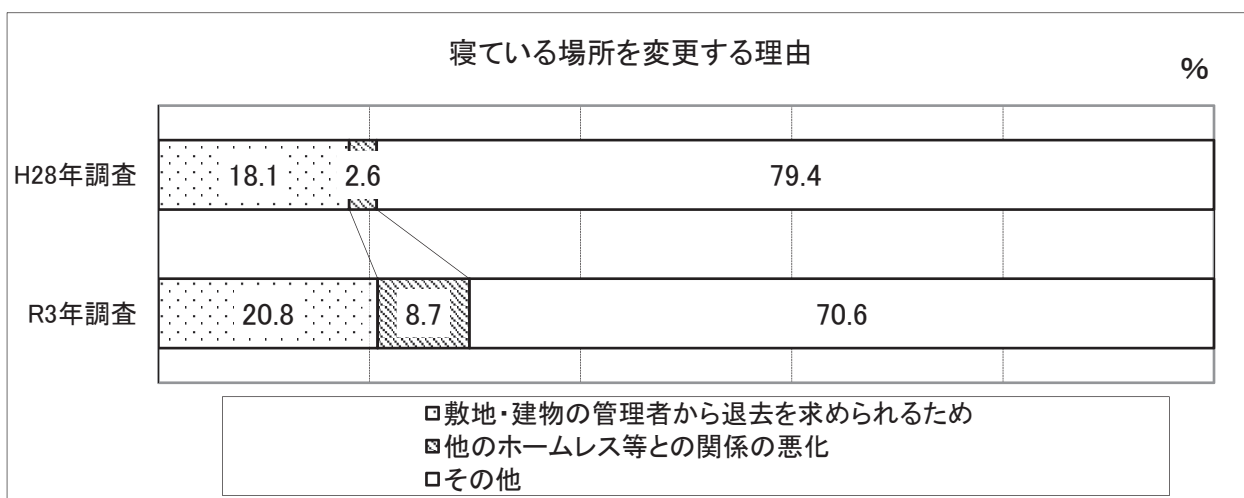
	人	%	有効%
1. 公園	250	21.4	27.4
2. 道路	139	11.9	15.3
3. 河川	226	19.3	24.8
4. 駅舎	86	7.4	9.4
5. その他	210	18.0	23.1
有効回答数	911	77.9	100.0
無回答	2	0.2	
非該当	256	21.9	
合計	1,169	100.0	



「決まっていない」者が寝ている場所を変更する理由としては、「退去を求められるため」が48人(20.8%)、「他のホームレス等との関係の悪化」が20人(8.7%)となっている(表1-2)。

表1-2 問1-2 問1で「2.決まっていない」と答えた方について、寝ている場所を変更する理由は、どうですか。1つ選んでください。

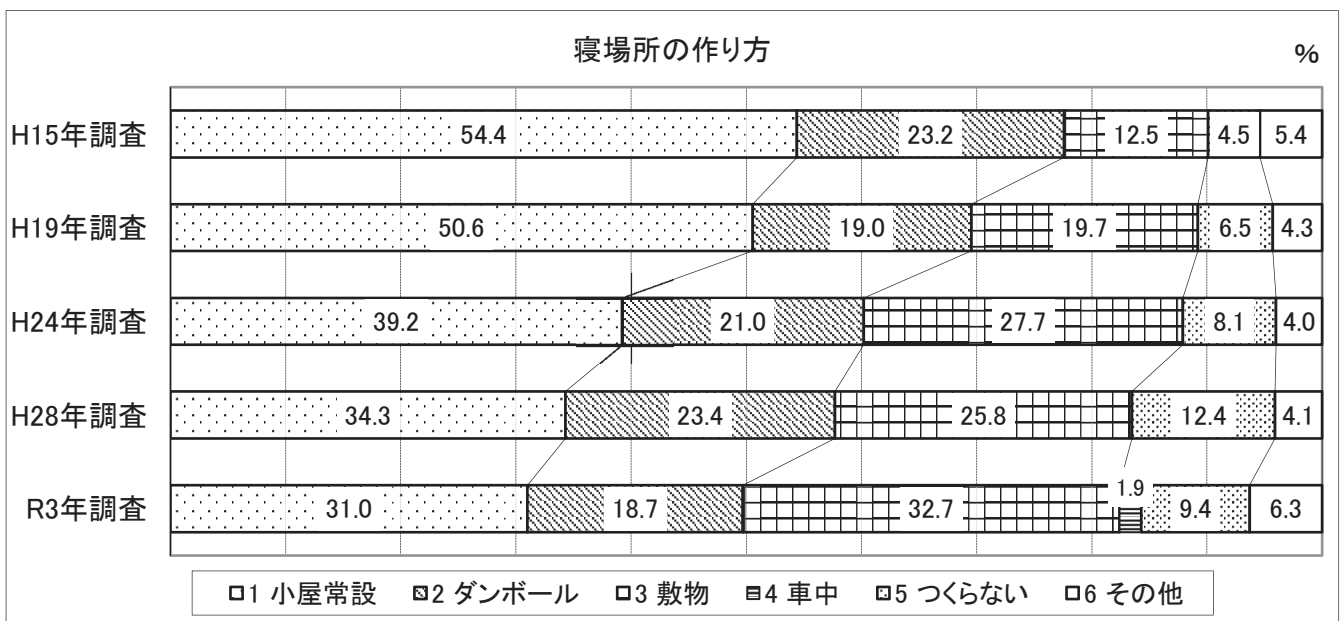
	人	%	有効%
1. 敷地・建物の管理者から退去を求められるため	48	4.1	20.8
2. 他のホームレス等との関係の悪化	20	1.7	8.7
3. その他	163	13.9	70.6
有効回答数	231	19.8	100.0
無回答	4	0.3	
非該当	934	79.9	
合計	1,169	100.0	



野宿の形態については、「簡単に敷物(寝袋・毛布等)を敷いて寝ている」が最も多く371人(32.7%)、次いで「テント又は小屋を常設」が351人(31.0%)となっている(表2)。

表2 問2 どのようにして寝(野宿)場所を作っていますか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設	351	30.0	31.0
2. ダンボール等を利用して寝場所を毎晩つくっている	212	18.1	18.7
3. 簡単に敷物(寝袋・毛布等)を敷いて寝ている	371	31.7	32.7
4. 車中で寝起きしている	22	1.9	1.9
5. 寝場所は特につくらない	107	9.2	9.4
6. その他	71	6.1	6.3
有効回答数	1,134	97.0	100.0
無回答	35	3.0	
合計	1,169	100.0	

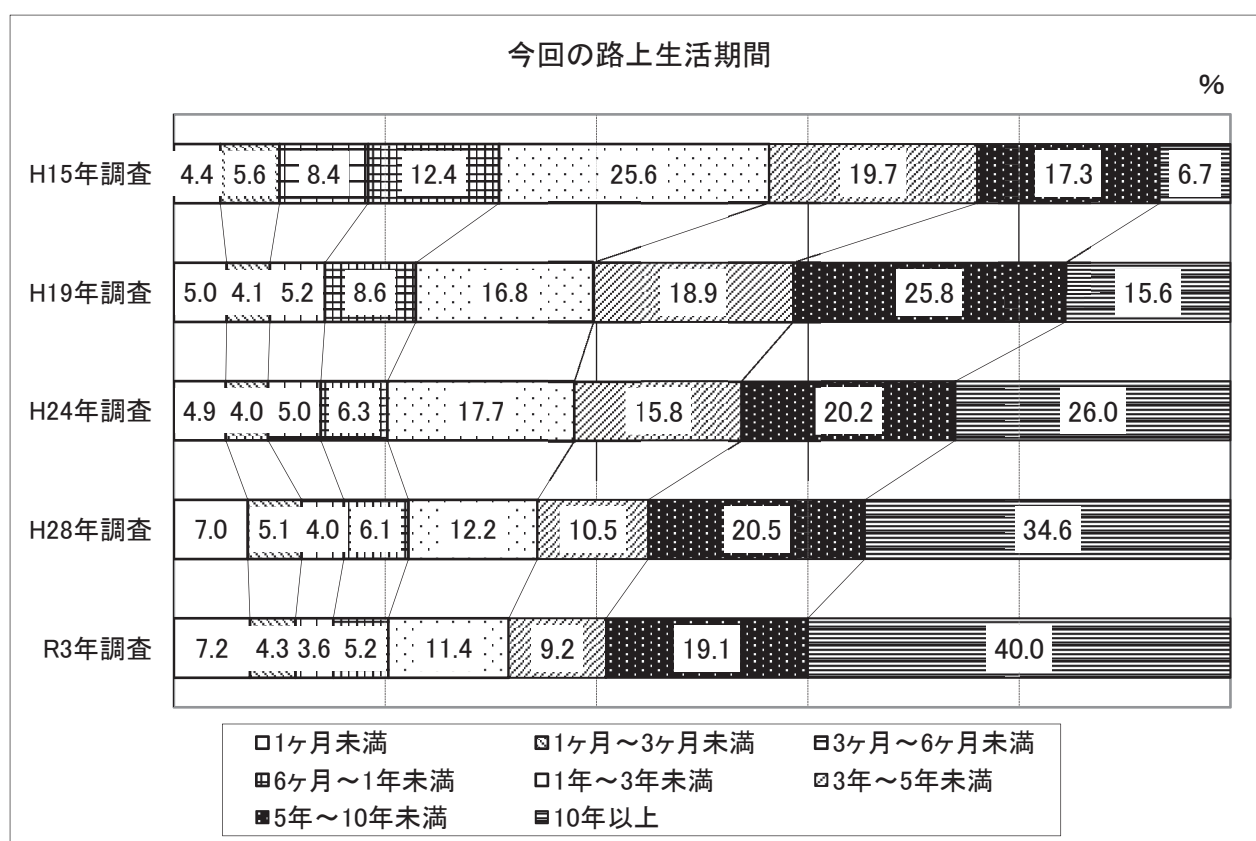


2 今回の路上(野宿)生活の期間・継続状況

今回の路上(野宿)生活の期間については、「10年以上」が最も多く454人(40.0%)、次いで「5年～10年未満」が217人(19.1%)、「1年～3年未満」が129人(11.4%)となっている(表3)。

表3 問3 今回の路上(野宿)生活をするようになって、どのくらいたちますか。(昔のことは除く)

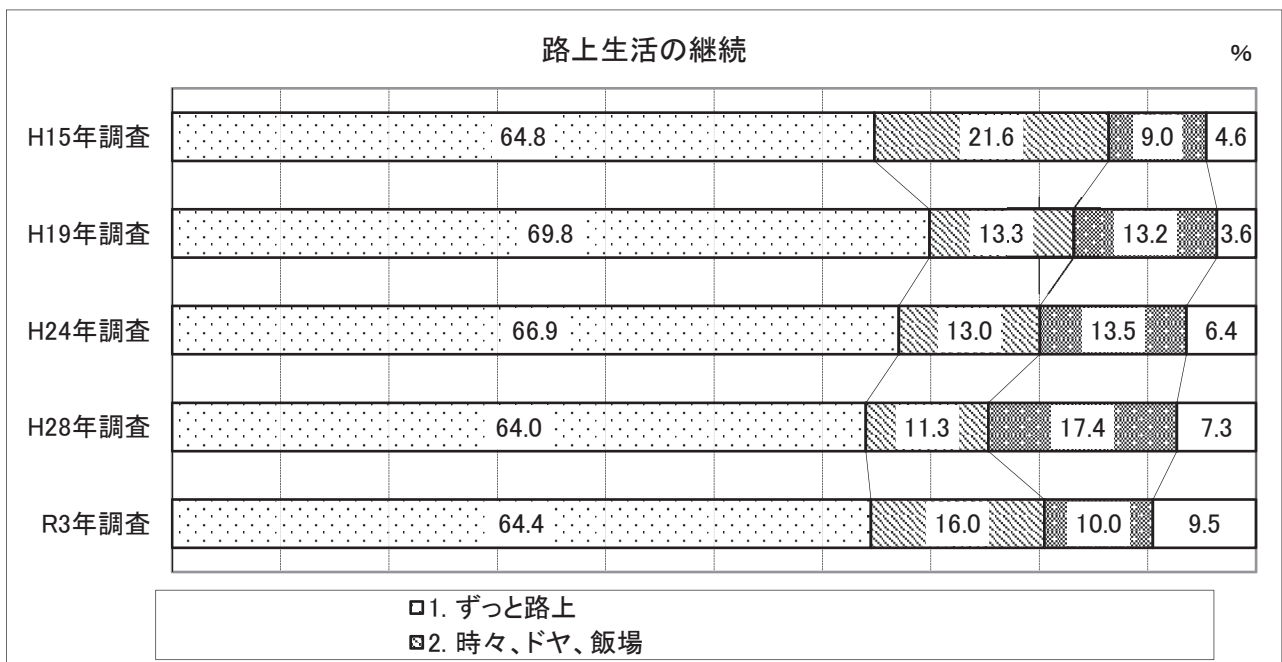
	人	%	有効%
1ヶ月未満	82	7.0	7.2
1ヶ月～3ヶ月未満	49	4.2	4.3
3ヶ月～6ヶ月未満	41	3.5	3.6
6ヶ月～1年未満	59	5.0	5.2
1年～3年未満	129	11.0	11.4
3年～5年未満	104	8.9	9.2
5年～10年未満	217	18.6	19.1
10年以上	454	38.8	40.0
有効回答数	1,135	97.1	100.0
無回答	34	2.9	
合計	1,169	100.0	



今回の路上(野宿)生活の間の居住場所については、「ずっと路上(野宿)生活をしていた」が最も多く736人(64.4%)、次いで「時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた」が183人(16.0%)となっている(表4)。

表4 問4 今回の路上(野宿)生活の間、ずっと継続して路上(野宿)生活が続いていますか。または、どこかに行き来していましたか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. ずっと路上(野宿)生活をしていた	736	63.0	64.4
2. 時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた	183	15.7	16.0
3. 病院に一時的に入っていたことがある	30	2.6	2.6
4. 施設に一時的に入っていたことがある	29	2.5	2.5
5. 自立支援センターに一時的に入っていたことがある	22	1.9	1.9
6. 緊急一時宿泊施設(シェルター)(一時生活支援事業)等に一時的に入っていたことがある	34	2.9	3.0
7. その他	109	9.3	9.5
有効回答数	1,143	97.8	100.0
無回答	26	2.2	
合計	1,169	100.0	

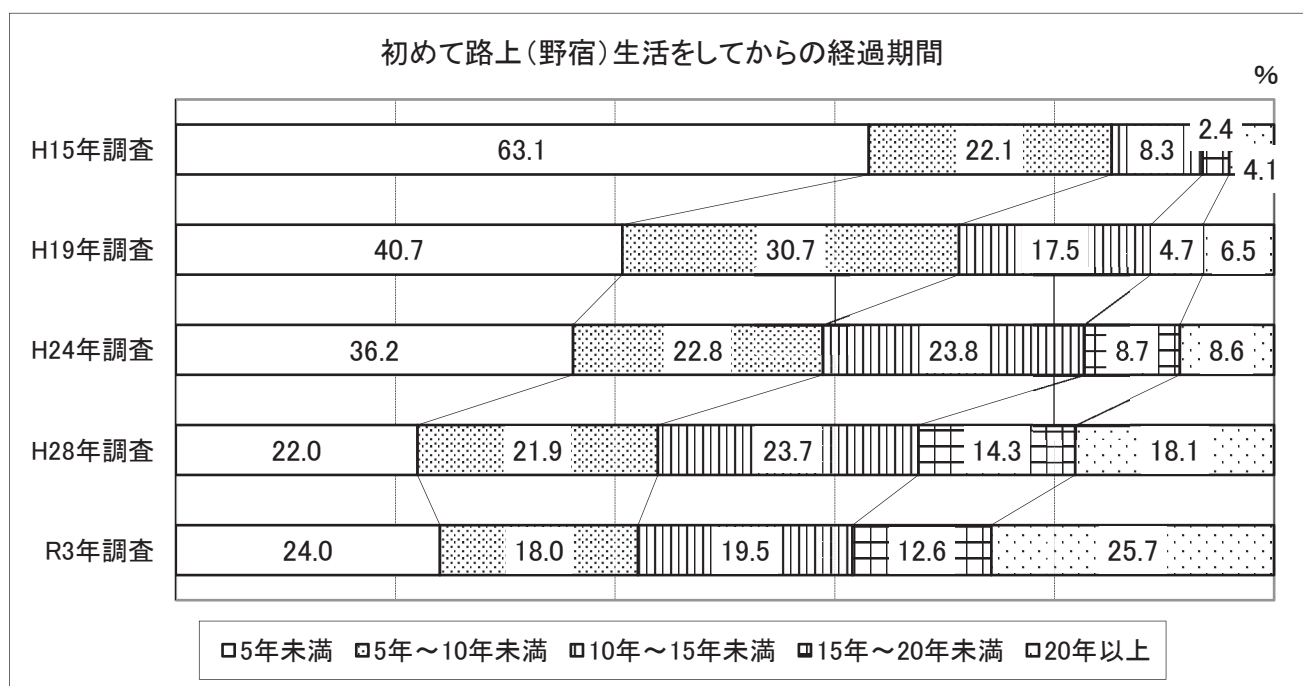


3 初めて路上(野宿)生活をしてからの期間

初めて路上(野宿)生活をしてからの期間については、「20年以上」が最も多く293人(25.7%)、次いで「10年～15年未満」が222人(19.5%)となっている(表5)。

表5 問5 初めて路上(野宿)生活をしたのは、どのくらい前ですか。

	人	%	有効%
1ヶ月未満	38	3.3	3.3
1ヶ月～3ヶ月未満	22	1.9	1.9
3ヶ月～6ヶ月未満	21	1.8	1.8
6ヶ月～1年未満	31	2.7	2.7
1年～3年未満	79	6.8	6.9
3年～5年未満	84	7.2	7.4
5年～10年未満	205	17.5	18.0
10年～15年未満	222	19.0	19.5
15年～20年未満	143	12.2	12.6
20年以上	293	25.1	25.7
有効回答数	1,138	97.3	100.0
無回答	31	2.7	
合計	1,169	100.0	

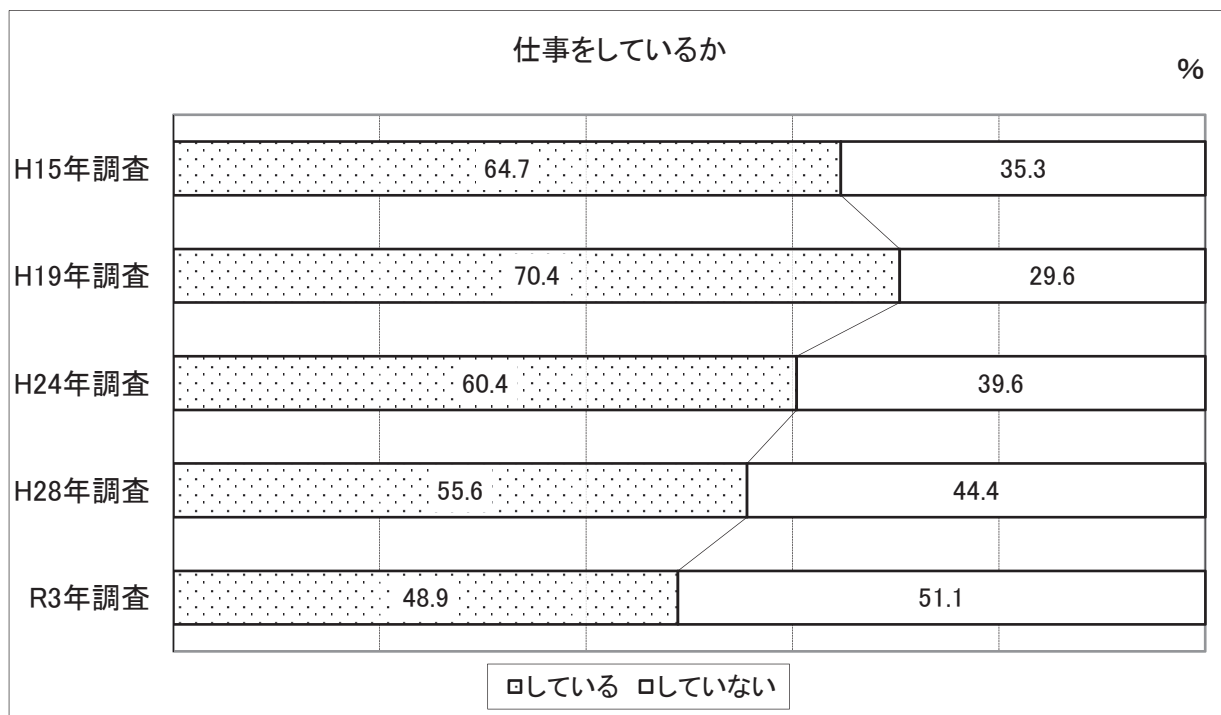


4 仕事と収入の状況

現在の仕事の状況については、「している」が560人(48.9%)、「していない」が585人(51.1%)となっており、約5割の者が何らかの仕事をしている(表6)。

表6 問6 現在収入のある仕事をしていますか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. している	560	47.9	48.9
2. していない	585	50.0	51.1
有効回答数	1,145	97.9	100.0
無回答	24	2.1	
合計	1,169	100.0	

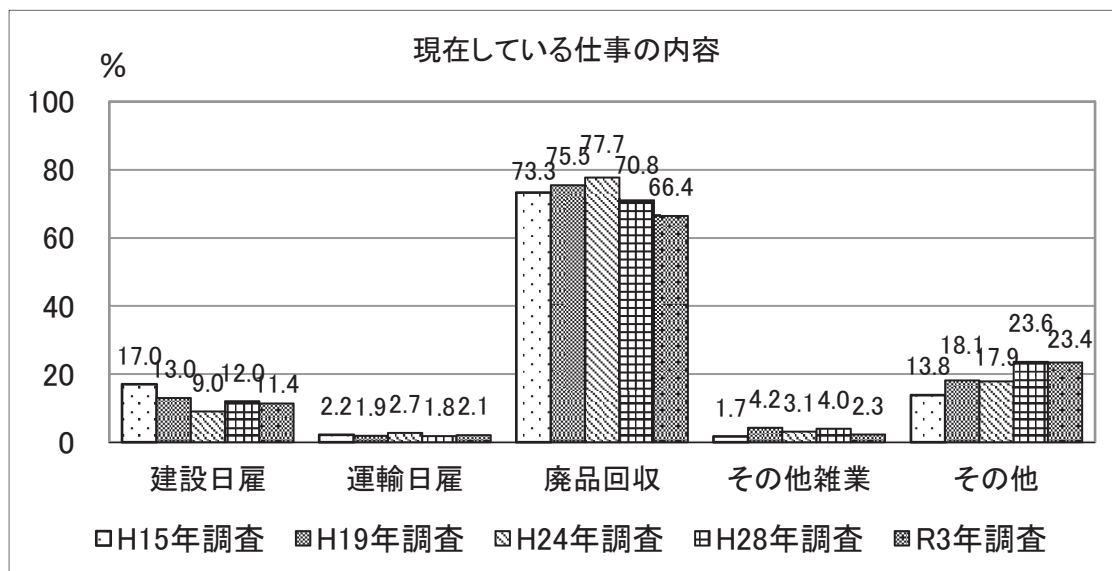


また、その内容については、「廃品回収」が371人(66.4%)と最も多く、次いで「建設日雇」が64人(11.4%)となっている(表6-1)。

表6-1 問6-1 問6で「1.している」と答えた方について、具体的には、どのような仕事をして
いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 建設日雇	64	10.8	11.4
2. 運輸日雇(運搬作業、引越し等)	12	2.0	2.1
3. 廃品回収(アルミ缶・ダンボール・粗大ゴミ・雑誌集め)	371	62.8	66.4
4. その他雑業(看板持ち・チケットならび・雑誌の販売等)	13	2.2	2.3
5. その他	131	22.2	23.4
有効回答数	591	100.0	105.7
有効回答者数	559	47.8	
無回答	1	0.2	
非該当	609	52.1	
合計	1,169	100.0	

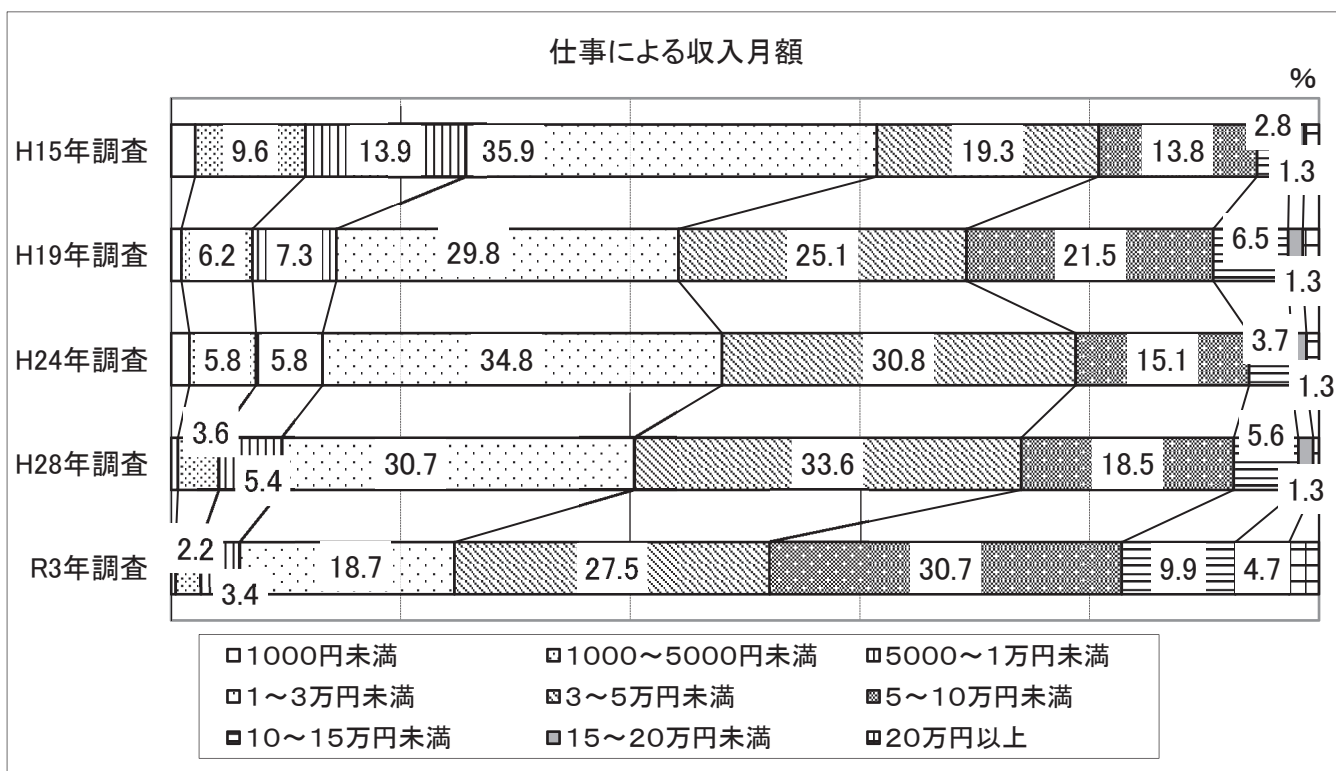
※回答%は有効回答数に占める割合、ケース%は有効回答者数に占める割合



また、現在の仕事による月収月額(ここ3ヶ月の平均)については、「5～10万円未満」が164人(30.7%)と最も多く、次いで「3～5万円未満」が147人(27.5%)、「1～3万円未満」が100人(18.7%)となっている(表6-2)。

表6-2 問6-2 問6で「1.している」と答えた方について、仕事による収入は月額どれくらいありますか。(ここ3ヶ月くらいの平均)

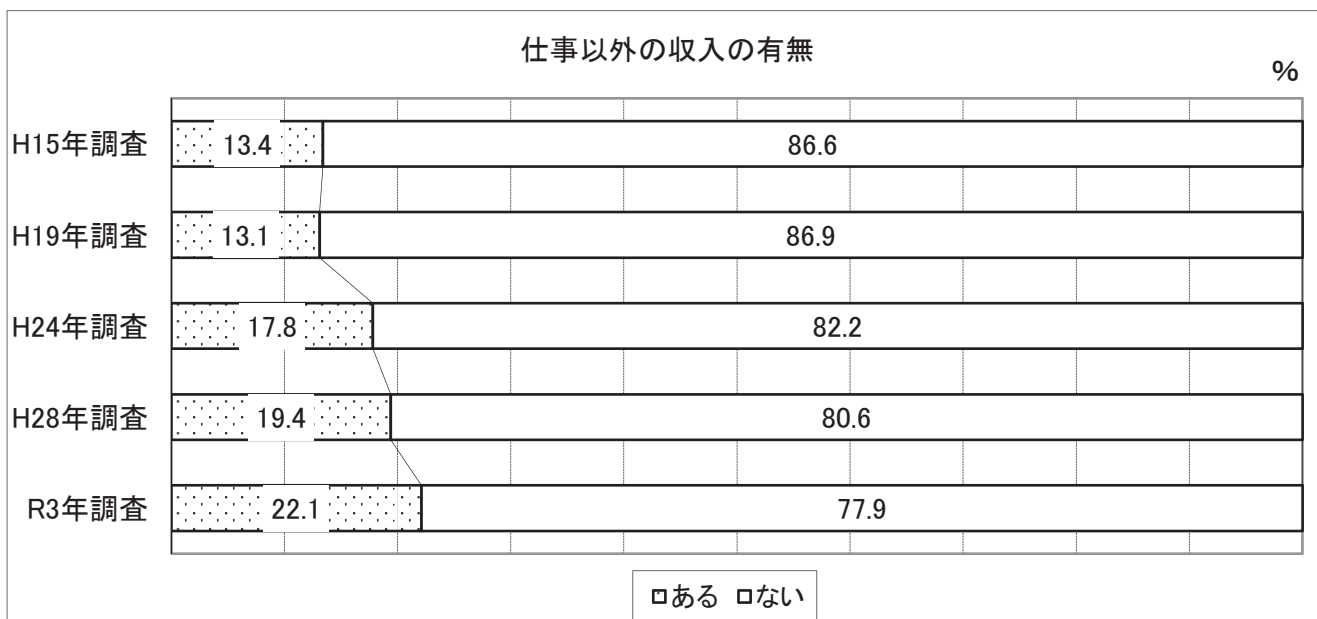
	人	%	有効%
1000円未満	2	0.2	0.4
1000～5000円未満	12	1.0	2.2
5000～1万円未満	18	1.5	3.4
1～3万円未満	100	8.6	18.7
3～5万円未満	147	12.6	27.5
5～10万円未満	164	14.0	30.7
10～15万円未満	53	4.5	9.9
15～20万円未満	25	2.1	4.7
20万円以上	14	1.2	2.6
有効回答数	535	45.8	100.0
無回答	25	2.1	
非該当	609	52.1	
合計	1,169	100.0	



一方、ここ3ヶ月での仕事以外の収入の有無については、「ある」が252人(22.1%)、「ない」が890人(77.9%)となっている(表7)。

表7 問7 ここ3ヶ月間で、仕事以外の収入がありますか。1つ選んでください。

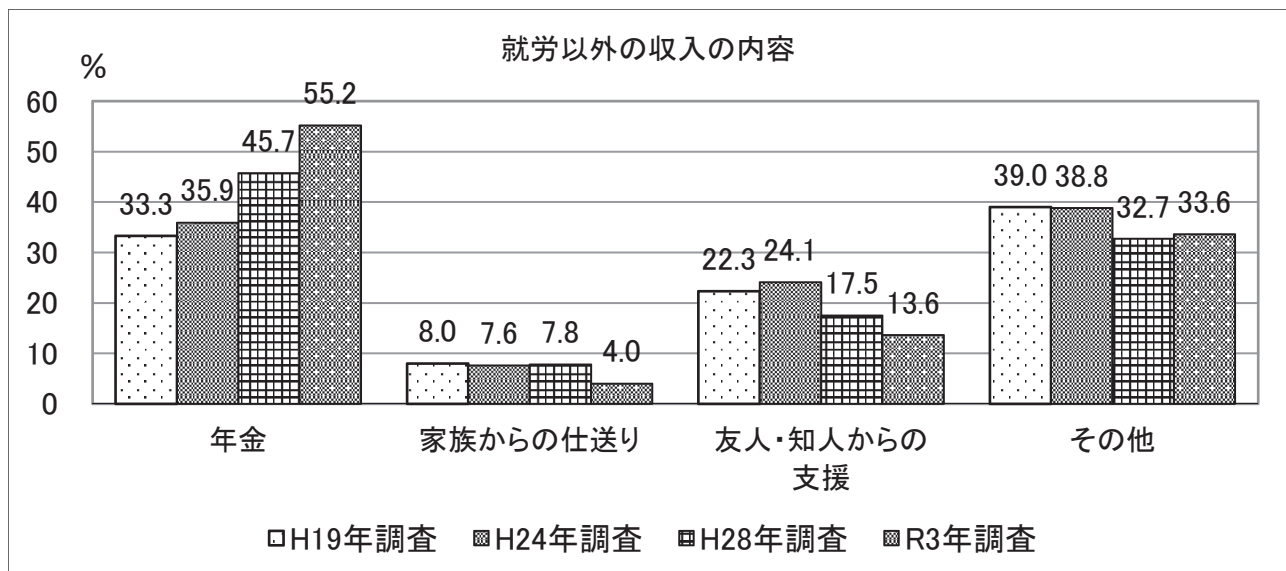
	人	%	有効%
1. ある	252	21.6	22.1
2. ない	890	76.1	77.9
有効回答数	1,142	97.7	100.0
無回答	27	2.3	
合計	1,169	100.0	



また、その収入源は、「年金」が最も多く138人(55.2%)、次いで「友人・知人からの支援」が34人(13.6%)となっている(表7-1)。

表7-1 問7-1 問7で「1.ある」と答えた方について、具体的には、どのような収入ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

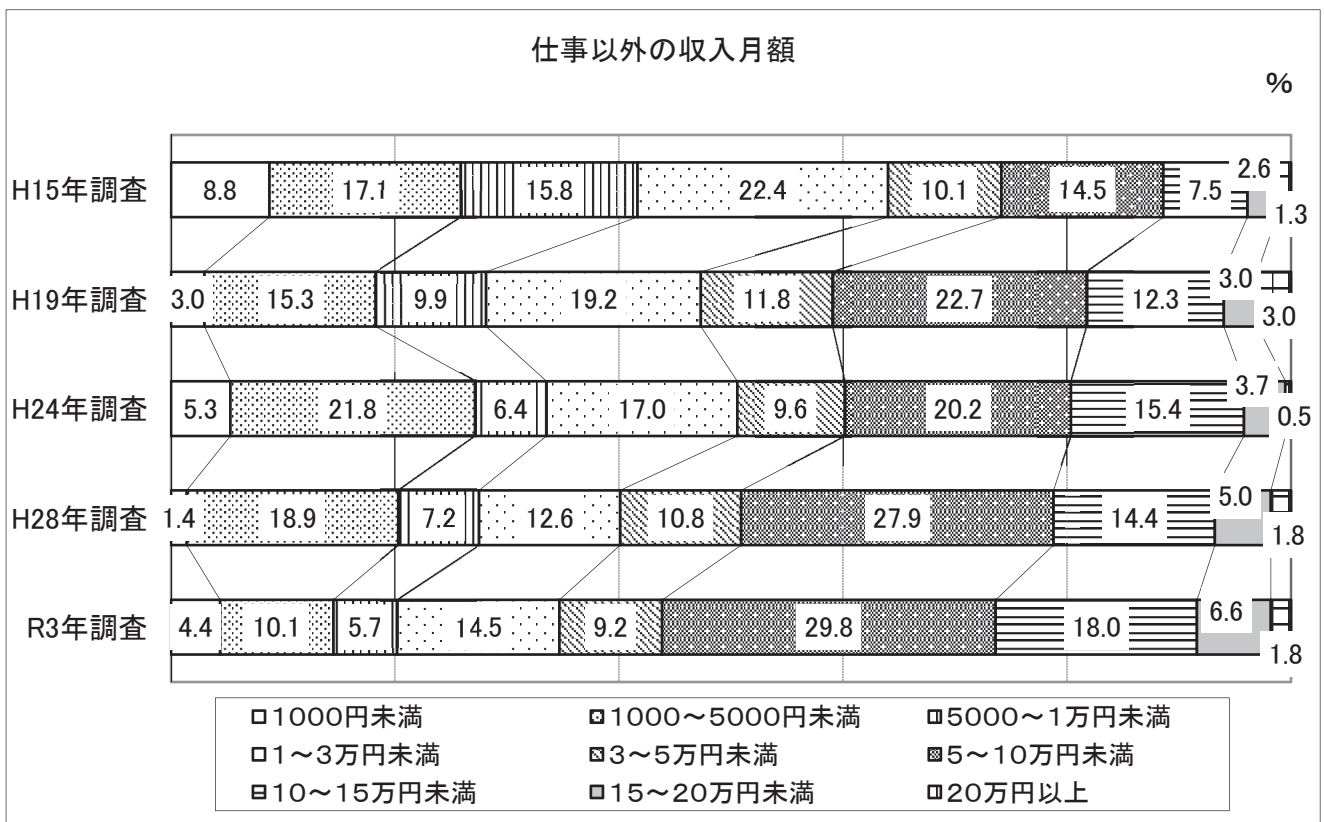
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 年金	138	51.9	55.2
2. 家族からの仕送り	10	3.8	4.0
3. 友人・知人からの支援	34	12.8	13.6
4. その他	84	31.6	33.6
有効回答数	266	100.0	106.4
有効回答者数	250	21.4	
無回答	2	0.2	
非該当	917	78.4	
合計	1,169	100.0	



仕事以外の収入月額(ここ3ヶ月の平均)については「5～10万円未満」が68人(29.8%)で最も多く、次いで「10～15万円未満」が41人(18.0%)となっている(表7-2)。

表7-2 問7-2 問7で「1.ある」と答えた方について、仕事以外の収入はここ3ヶ月平均してひと月いくぐらいになりますか。

	人	%	有効%
1000円未満	10	0.9	4.4
1000～5000円未満	23	2.0	10.1
5000～1万円未満	13	1.1	5.7
1～3万円未満	33	2.8	14.5
3～5万円未満	21	1.8	9.2
5～10万円未満	68	5.8	29.8
10～15万円未満	41	3.5	18.0
15～20万円未満	15	1.3	6.6
20万円以上	4	0.3	1.8
有効回答数	228	19.5	100.0
無回答	24	2.1	
非該当	917	78.4	
合計	1,169	100.0	

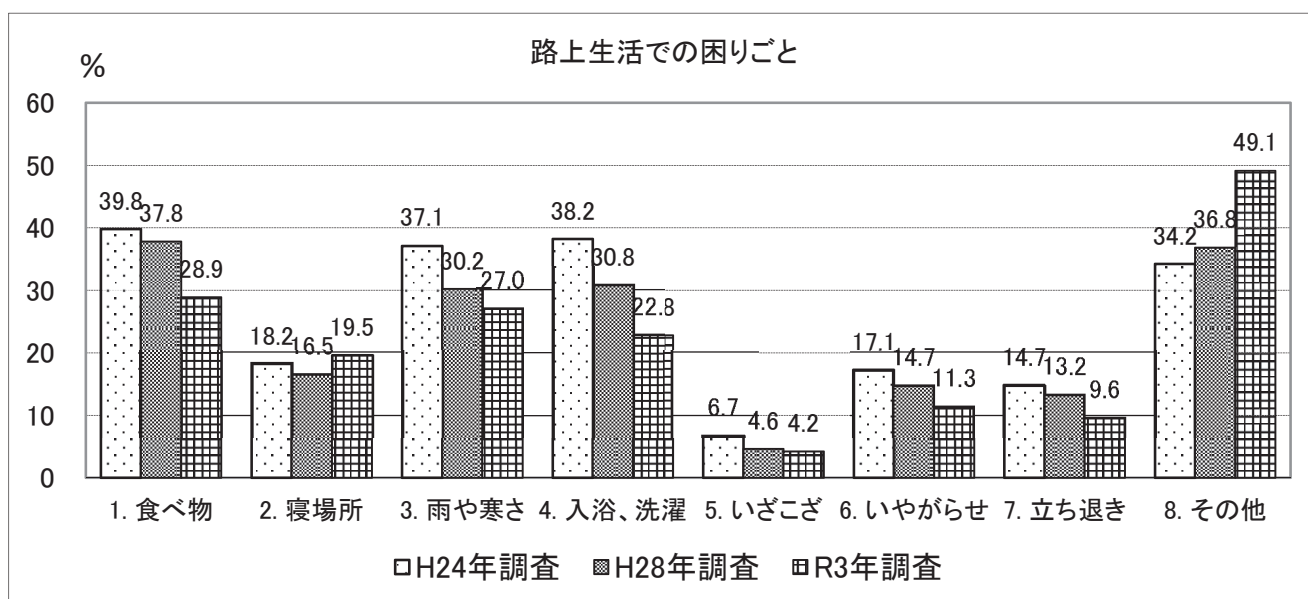


5 路上(野宿)生活で困ること

路上(野宿)生活において困ることについては、「食べ物がないので困っている」が320人(28.9%)と最も多く、次いで「雨や寒さをしのげず困っている」が299人(27.0%)、「入浴、洗濯等ができなくて、清潔に保つことができず困っている」が253人(22.8%)となっている(表8)。

表8 問8 路上(野宿)生活の中で、困っていることはどのような事ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

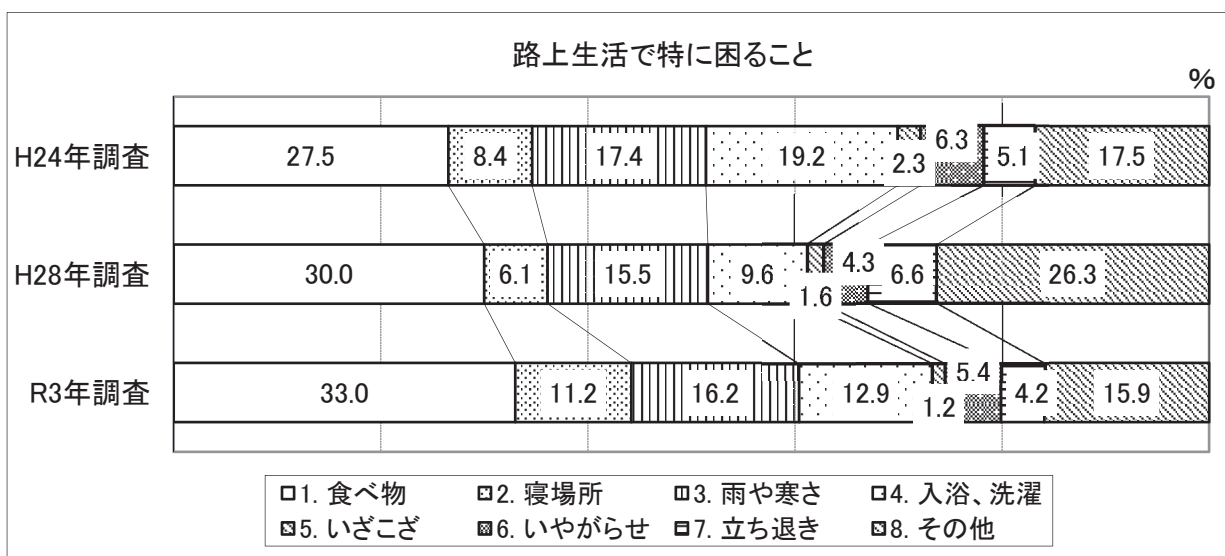
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 食べ物がないので困っている	320	16.8	28.9
2. 寝る場所を探すのに苦労している	216	11.3	19.5
3. 雨や寒さをしのげず困っている	299	15.7	27.0
4. 入浴、洗濯等ができなくて、清潔に保つことができず困っている	253	13.2	22.8
5. ホームレス同士のいざこざで困っている	47	2.5	4.2
6. ホームレス以外の人にいやがらせを受けて困っている	125	6.5	11.3
7. 立ち退くよう言われて困っている	106	5.5	9.6
8. その他	544	28.5	49.1
有効回答数	1,910	100.0	172.4
有効回答者数	1,108	94.8	
無回答	61	5.2	
合計	1,169	100.0	



また、特に困っていることは、「食べ物がないので困っている」が141人(33.0%)となっている(表8-1)。

表8-1 また、特に困っていること(1つ)については、◎をつけてください。

	人	%	有効%
1. 食べ物がないので困っている	141	12.1	33.0
2. 寝る場所を探すのに苦労している	48	4.1	11.2
3. 雨や寒さをしのげず困っている	69	5.9	16.2
4. 入浴、洗濯等ができなくて、清潔に保つことができず困っている	55	4.7	12.9
5. ホームレス同士のいざこざで困っている	5	0.4	1.2
6. ホームレス以外の人にいやがらせを受けて困っている	23	2.0	5.4
7. 立ち退くよう言われて困っている	18	1.5	4.2
8. その他	68	5.8	15.9
有効回答数	427	36.5	100.0
無回答	742	63.5	
合計	1,169	100.0	

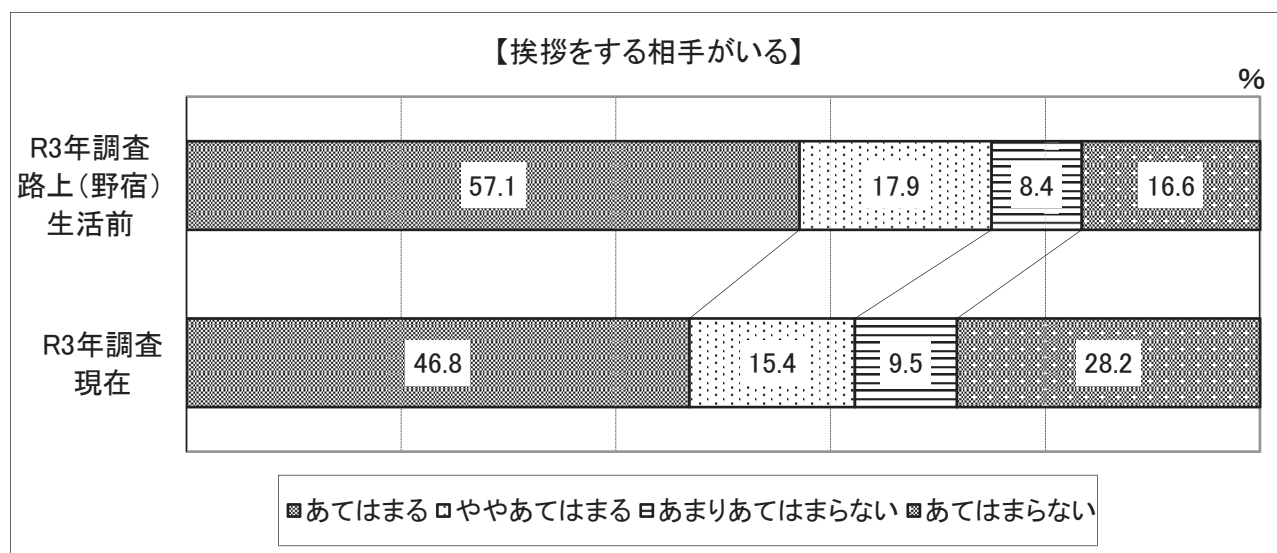


6 周囲とのつながり

周囲とのつながりにおいて【挨拶をする相手がいる】については、「あてはまる」が路上（野宿）生活前では640人（57.1%）、現在では525人（46.9%）、「ややあてはまる」が路上（野宿）生活前では200人（17.9%）、現在では173人（15.4%）、「あまりあてはまらない」が路上（野宿）生活前では94人（8.4%）、現在では107人（9.6%）、「あてはまらない」が路上（野宿）生活前では186人（16.6%）、現在では316人（28.2%）となっている。

表9-1 問9 周囲とのつながりについて、路上（野宿）生活前と現在の路上（野宿）生活において、あてはまるもの1つを選んでください。【1. 挨拶をする相手がいる】

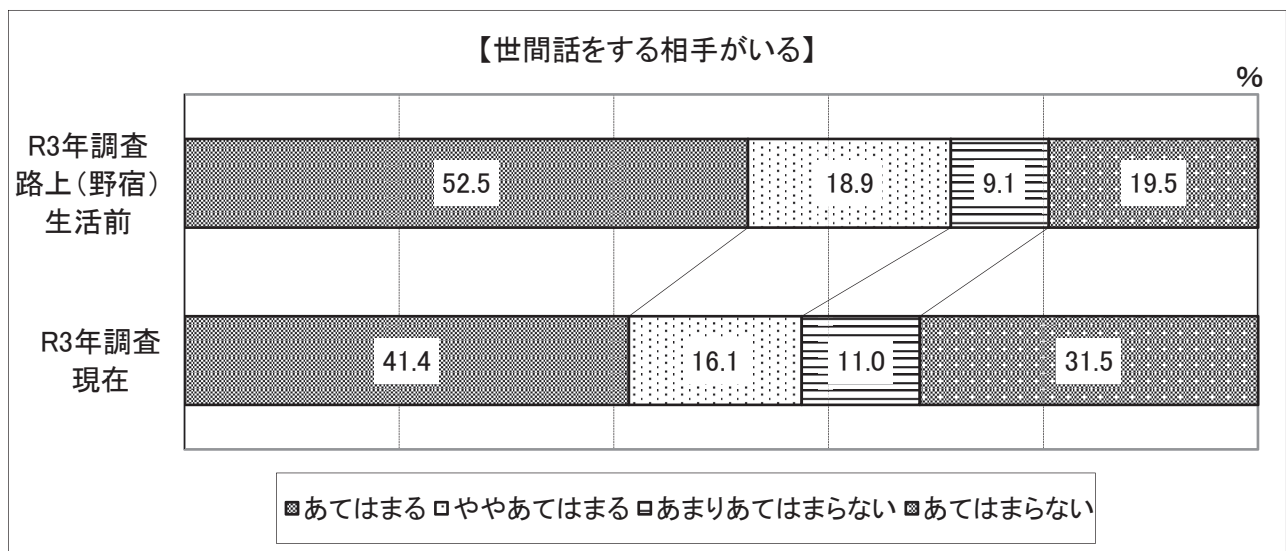
	路上（野宿）生活前			現在		
	人	%	有効%	人	%	有効%
あてはまる	640	54.7	57.1	525	44.9	46.8
ややあてはまる	200	17.1	17.9	173	14.8	15.4
あまりあてはまらない	94	8.0	8.4	107	9.2	9.5
あてはまらない	186	15.9	16.6	316	27.0	28.2
有効回答数	1,120	95.8	100.0	1,121	95.9	100.0
無回答	49	4.2		48	4.1	
合計	1,169	100.0		1,169	100.0	



【世間話をする相手がいる】については、「あてはまる」が路上(野宿)生活前では591人(52.5%)、現在では465人(41.4%)、「ややあてはまる」が路上(野宿)生活前では213人(18.9%)、現在では181人(16.1%)、「あまりあてはまらない」が路上(野宿)生活前では102人(9.1%)、現在では123人(11.0%)、「あてはまらない」が路上(野宿)生活前では220人(19.5%)、現在では353人(31.5%)となっている(表9-2)。

表9-2 問9 周囲とのつながりについて、路上(野宿)生活前と現在の路上(野宿)生活において、あてはまるもの1つを選んでください。【2. 世間話をする相手がいる】

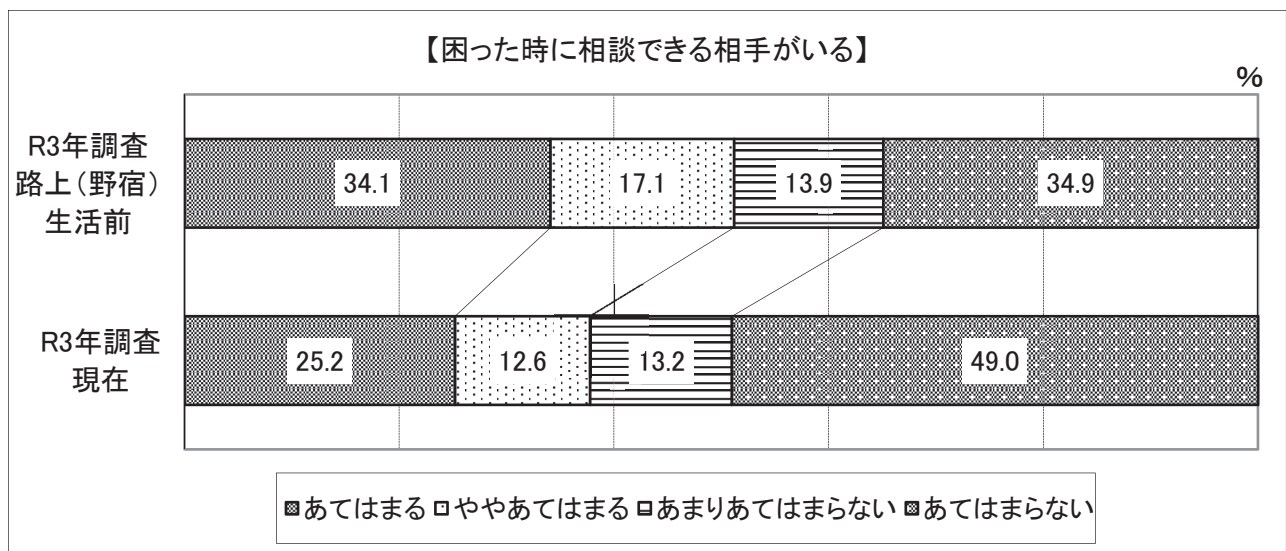
	路上(野宿)生活前			現在		
	人	%	有効%	人	%	有効%
あてはまる	591	50.6	52.5	465	39.8	41.4
ややあてはまる	213	18.2	18.9	181	15.5	16.1
あまりあてはまらない	102	8.7	9.1	123	10.5	11.0
あてはまらない	220	18.8	19.5	353	30.2	31.5
有効回答数	1,126	96.3	100.0	1,122	96.0	100.0
無回答	43	3.7		47	4.0	
合計	1,169	100.0		1,169	100.0	



【困った時に相談できる相手がいる】については、「あてはまる」が路上(野宿)生活前では380人(34.1%)、現在では283人(25.2%)、「ややあてはまる」が路上(野宿)生活前では191人(17.1%)、現在では141人(12.6%)、「あまりあてはまらない」が路上(野宿)生活前では155人(13.9%)、現在では148人(13.2%)、「あてはまらない」が路上(野宿)生活前では390人(34.9%)、現在では549人(49.0%)となっている(表9-3)。

表9-3 問9 周囲とのつながりについて、路上(野宿)生活前と現在の路上(野宿)生活において、あてはまるもの1つを選んでください。【3. 困った時に相談できる相手がいる】

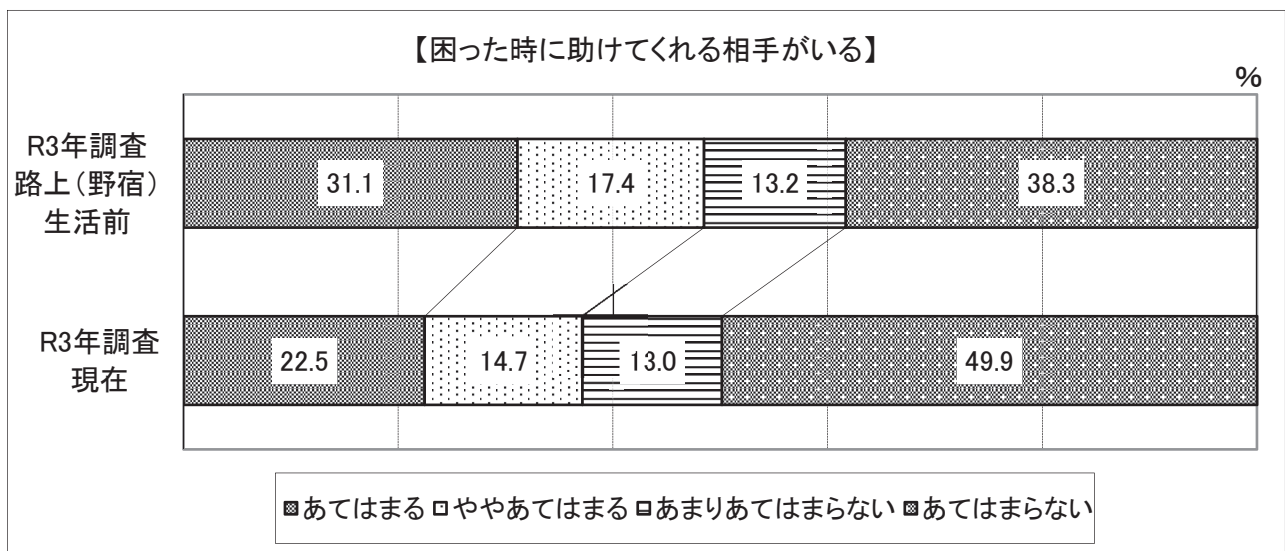
	路上(野宿)生活前			現在		
	人	%	有効%	人	%	有効%
あてはまる	380	32.5	34.1	283	24.2	25.2
ややあてはまる	191	16.3	17.1	141	12.1	12.6
あまりあてはまらない	155	13.3	13.9	148	12.7	13.2
あてはまらない	390	33.4	34.9	549	47.0	49.0
有効回答数	1,116	95.5	100.0	1,121	95.9	100.0
無回答	53	4.5		48	4.1	
合計	1,169	100.0		1,169	100.0	



【困った時に助けてくれる相手がいる】については、「あてはまる」が路上(野宿)生活前では347人(31.1%)、現在では252人(22.5%)、「ややあてはまる」が路上(野宿)生活前では194人(17.4%)、現在では164人(14.7%)、「あまりあてはまらない」が路上(野宿)生活前では147人(13.2%)、現在では145人(13.0%)、「あてはまらない」が路上(野宿)生活前では427人(38.3%)、現在では558人(49.9%)となっている(表9-4)。

表9-4 問9 周囲とのつながりについて、路上(野宿)生活前と現在の路上(野宿)生活において、あてはまるもの1つを選んでください。【4. 困った時に助けてくれる相手がいる】

	路上(野宿)生活前			現在		
	人	%	有効%	人	%	有効%
あてはまる	347	29.7	31.1	252	21.6	22.5
ややあてはまる	194	16.6	17.4	164	14.0	14.7
あまりあてはまらない	147	12.6	13.2	145	12.4	13.0
あてはまらない	427	36.5	38.3	558	47.7	49.9
有効回答数	1,115	95.4	100.0	1,119	95.7	100.0
無回答	54	4.6		50	4.3	
合計	1,169	100.0		1,169	100.0	

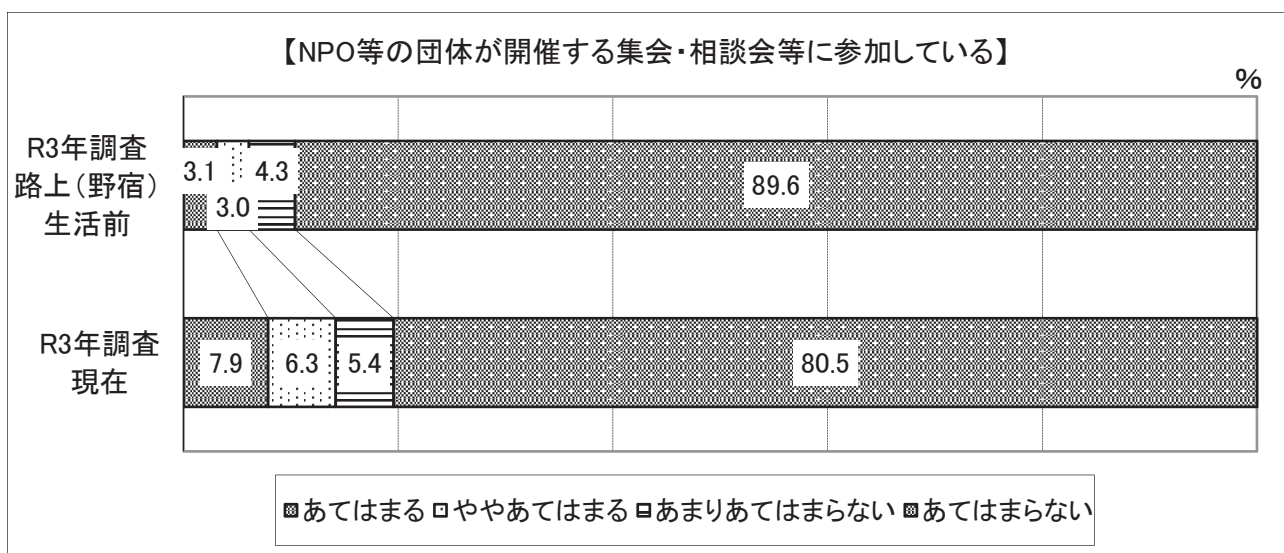


【NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している】については、「あてはまる」が路上(野宿)生活前では35人(3.1%)、現在では88人(7.9%)、「ややあてはまる」が路上(野宿)生活前では33人(3.0%)、現在では71人(6.3%)、「あまりあてはまらない」が路上(野宿)生活前では48人(4.3%)、現在では60人(5.4%)、「あてはまらない」が路上(野宿)生活前では1,001人(89.6%)、現在では902人(80.5%)となっている(表9-5)。

表9-5 問9 周囲とのつながりについて、路上(野宿)生活前と現在の路上(野宿)生活において、あてはまるもの1つを選んでください。

【5. NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している】

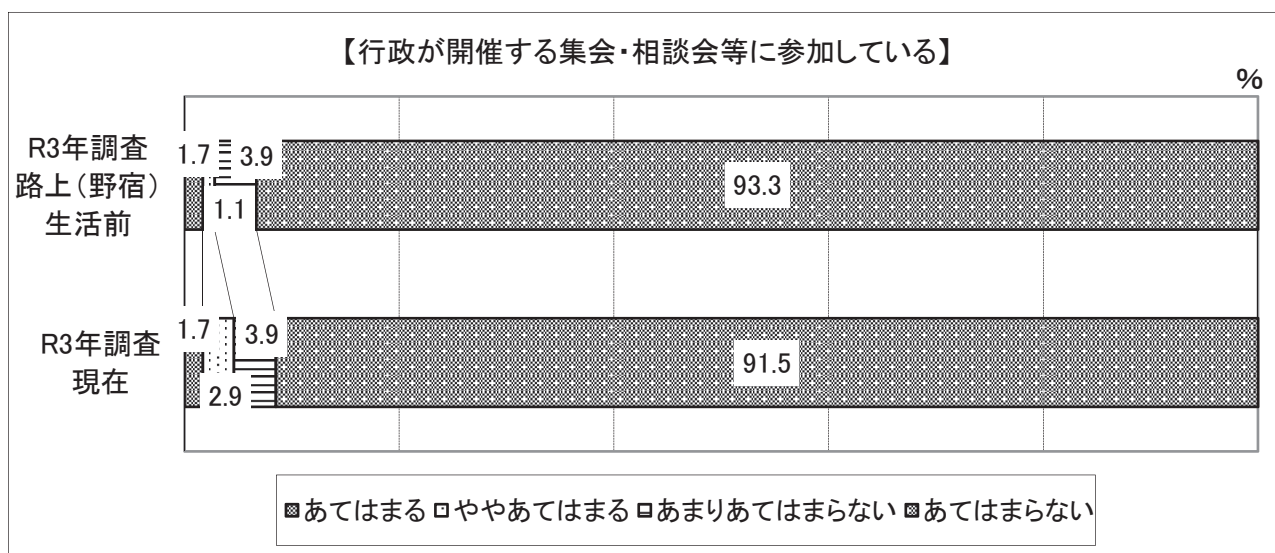
	路上(野宿)生活前			現在		
	人	%	有効%	人	%	有効%
あてはまる	35	3.0	3.1	88	7.5	7.9
ややあてはまる	33	2.8	3.0	71	6.1	6.3
あまりあてはまらない	48	4.1	4.3	60	5.1	5.4
あてはまらない	1,001	85.6	89.6	902	77.2	80.5
有効回答数	1,117	95.6	100.0	1,121	95.9	100.0
無回答	52	4.4		48	4.1	
合計	1,169	100.0		1,169	100.0	



【行政が開催する集会・相談会等に参加している】については、「あてはまる」が路上(野宿)生活前では19人(1.7%)、現在では19人(1.7%)、「ややあてはまる」が路上(野宿)生活前では12人(1.1%)、現在では33人(2.9%)、「あまりあてはまらない」が路上(野宿)生活前では44人(3.9%)、現在では44人(3.9%)、「あてはまらない」が路上(野宿)生活前では1,043人(93.3%)、現在では1,027人(91.5%)となっている(表9-6)。

表9-6 問9 周囲とのつながりについて、路上(野宿)生活前と現在の路上(野宿)生活において、あてはまるもの1つを選んでください。【6. 行政が開催する集会・相談会等に参加している】

	路上(野宿)生活前			現在		
	人	%	有効%	人	%	有効%
あてはまる	19	1.6	1.7	19	1.6	1.7
ややあてはまる	12	1.0	1.1	33	2.8	2.9
あまりあてはまらない	44	3.8	3.9	44	3.8	3.9
あてはまらない	1,043	89.2	93.3	1,027	87.9	91.5
有効回答数	1,118	95.6	100.0	1,123	96.1	100.0
無回答	51	4.4		46	3.9	
合計	1,169	100.0		1,169	100.0	

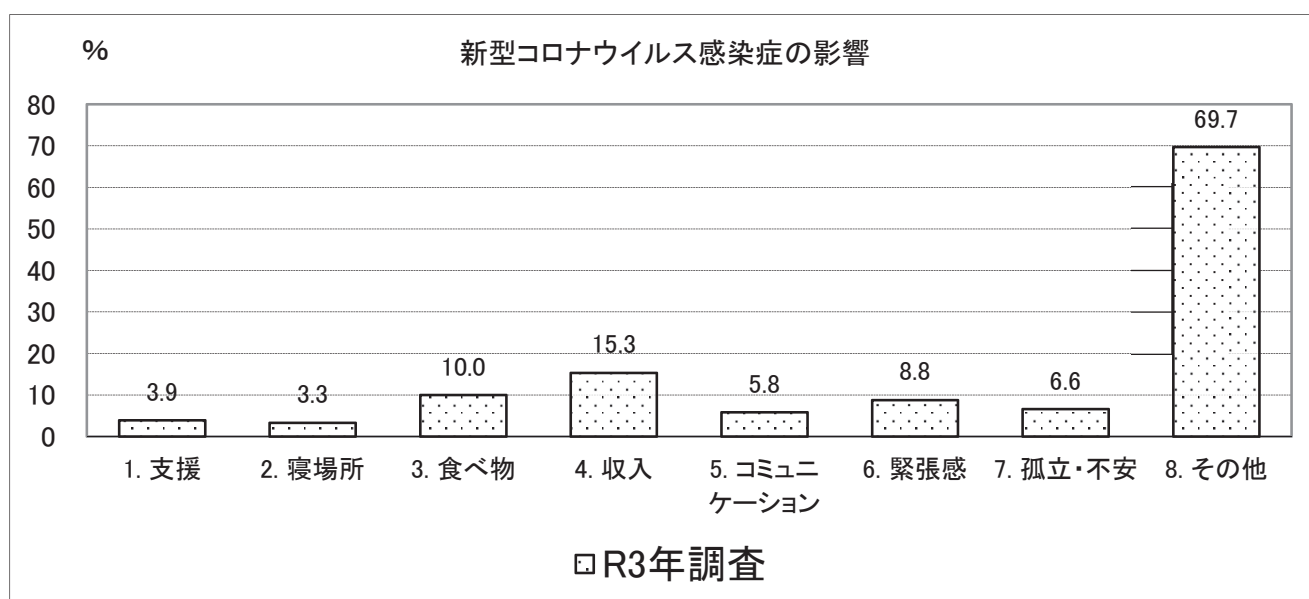


7 新型コロナウイルス感染症の影響

路上(野宿)生活の中で出た新型コロナウイルス感染症の影響としては、「収入が減った」が165人(15.3%)と最も多く、次いで「食べ物の量が減った、食べ物を得にくくなった」が107人(10.0%)、「緊張感を感じるようになった」が95人(8.8%)となっている(表10)。

表10 問10 路上(野宿)生活の中で、新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 支援を利用しにくくなった	42	3.2	3.9
2. 寝る場所等を確保しにくくなった	35	2.6	3.3
3. 食べ物の量が減った、食べ物を得にくくなった	107	8.1	10.0
4. 収入が減った	165	12.4	15.3
5. コミュニケーションが減った	62	4.7	5.8
6. 緊張感を感じるようになった	95	7.2	8.8
7. 孤立や不安を感じるようになった	71	5.4	6.6
8. その他	749	56.5	69.7
有効回答数	1,326	100.0	123.3
有効回答者数	1,075	92.0	
無回答	94	8.0	
合計	1,169	100.0	



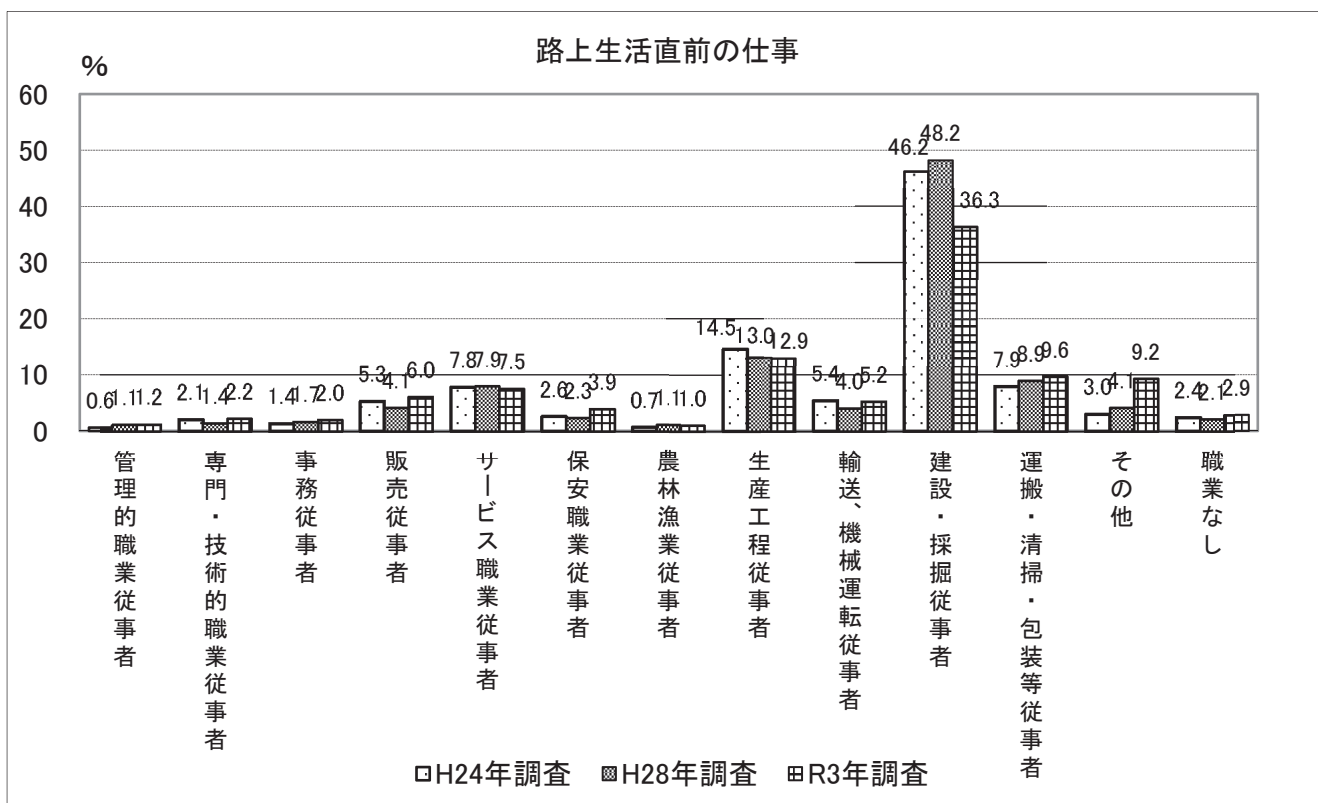
第3章 路上(野宿)生活までのいきさつ

1 路上(野宿)生活直前の仕事、従業上の地位、居住形態、地域

路上(野宿)生活直前の仕事については、「建設・採掘従事者」が410人(36.3%)で、次いで「生産工程従事者」が146人(12.9%)となっている(表11)。

表11 問11 初めて路上(野宿)生活をするすぐ前にやっていた仕事は何ですか。

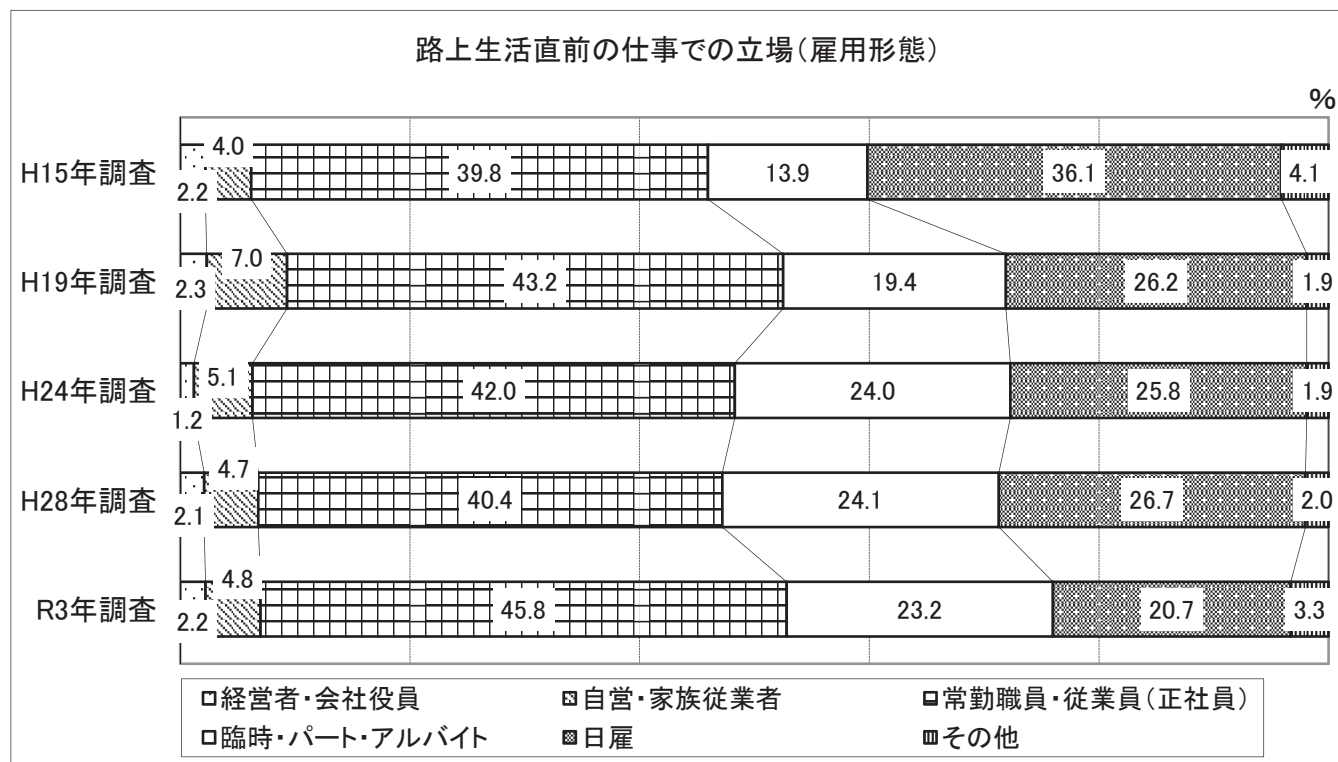
	人	%	有効%
01. 管理的職業従事者	13	1.1	1.2
02. 専門・技術的職業従事者	25	2.1	2.2
03. 事務従事者	23	2.0	2.0
04. 販売従事者	68	5.8	6.0
05. サービス職業従事者	85	7.3	7.5
06. 保安職業従事者	44	3.8	3.9
07. 農林漁業従事者	11	0.9	1.0
08. 生産工程従事者	146	12.5	12.9
09. 輸送、機械運転従事者	59	5.0	5.2
10. 建設・採掘従事者	410	35.1	36.3
11. 運搬・清掃・包装等従事者	108	9.2	9.6
12. その他	104	8.9	9.2
13. 職業なし	33	2.8	2.9
有効回答数	1,129	96.6	100.0
無回答	40	3.4	
合計	1,169	100.0	



また、路上(野宿生活)直前に就いていた仕事の従業上の地位については、「常勤職員・従業者(正社員)」が501人(45.8%)と最も多く、次いで「臨時・パート・アルバイト」が254人(23.2%)、「日雇」が226人(20.7%)となっている(表11-1)。

表11-1 問11-1 問11で「01」～「12」と答えた方について、その時の立場は何でしたか。1つ選んでください。

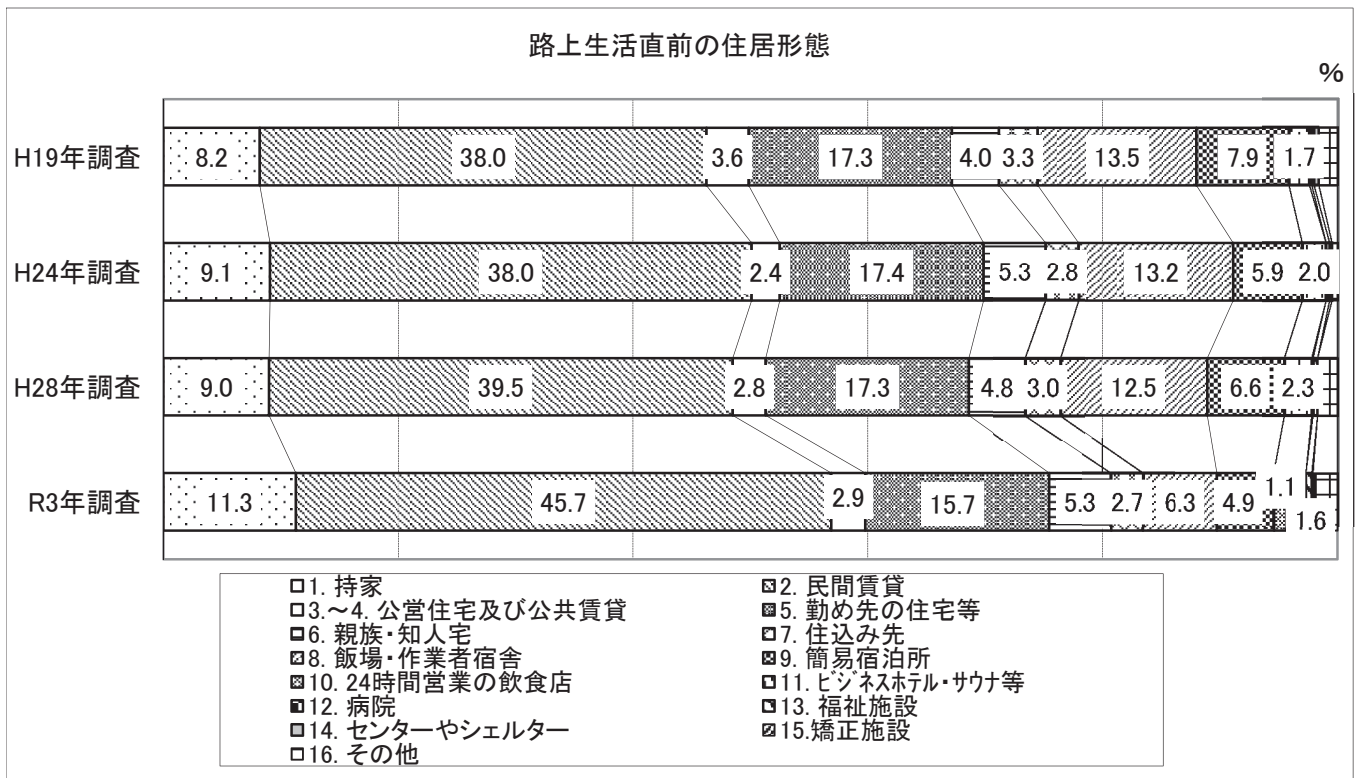
	人	%	有効%
1. 経営者・会社役員	24	2.1	2.2
2. 自営・家族従業者	52	4.4	4.8
3. 常勤職員・従業者(正社員)	501	42.9	45.8
4. 臨時・パート・アルバイト	254	21.7	23.2
5. 日雇	226	19.3	20.7
6. その他	36	3.1	3.3
有効回答数	1,093	93.5	100.0
無回答	3	0.3	
非該当	73	6.2	
合計	1,169	100.0	



路上(野宿)生活をする直前の住居形態については、「民間賃貸住宅(アパート・マンション)」が518人(45.7%)で最も多く、次いで「勤め先の住宅や寮」が178人(15.7%)、「持家(一戸建て、マンション等)」が128人(11.3%)となっている(表12)。

表12 問12 初めて路上(野宿)生活をする前に、住んでいたのはどこですか。1つ選んでください。(路上(野宿)生活中に一時的に泊まったところは除く。路上(野宿)生活が多くなる前の住居)

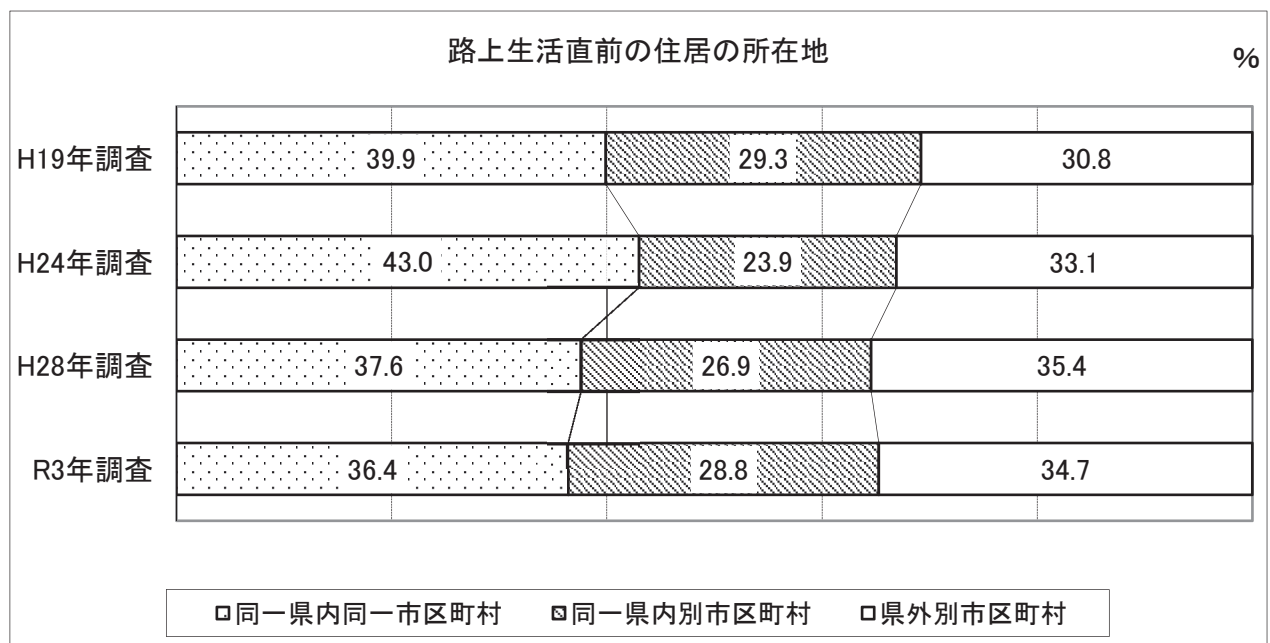
	人	%	有効%
01. 持家(一戸建て、マンション等)	128	10.9	11.3
02. 民間賃貸住宅(アパート・マンション)	518	44.3	45.7
03. 公営住宅	26	2.2	2.3
04. 公営住宅以外の公共賃貸住宅(都市機構賃貸住宅(旧公団賃貸住宅)等)	7	0.6	0.6
05. 勤め先の住宅や寮	178	15.2	15.7
06. 親族・知人宅	60	5.1	5.3
07. 住込み先	31	2.7	2.7
08. 飯場・作業者宿舎(飯場等の現場に仮設された宿舎)	71	6.1	6.3
09. 簡易宿泊所(ドヤ)	55	4.7	4.9
10. 24時間営業の飲食店(マンガ喫茶・インターネットカフェ等を含む)	12	1.0	1.1
11. ビジネスホテル・カプセルホテル・サウナ	18	1.5	1.6
12. 病院	-	-	-
13. 更生施設等の福祉施設	6	0.5	0.5
14. 自立支援センターやシェルター	1	0.1	0.1
15. 矯正施設	2	0.2	0.2
16. その他	21	1.8	1.9
有効回答数	1,134	97.0	100.0
無回答	35	3.0	
合計	1,169	100.0	



路上(野宿)生活直前に住んでいた地域については、「現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町村」が412人(36.4%)、それ以外が719人(63.5%)となっている(表13)。

表13 問13 初めて路上(野宿)生活をする前に、住んでいた地域はどこですか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町村	412	35.2	36.4
2. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の別の市区町村	326	27.9	28.8
3. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県外の市区町村	393	33.6	34.7
有効回答数	1,131	96.7	100.0
無回答	38	3.3	
合計	1,169	100.0	

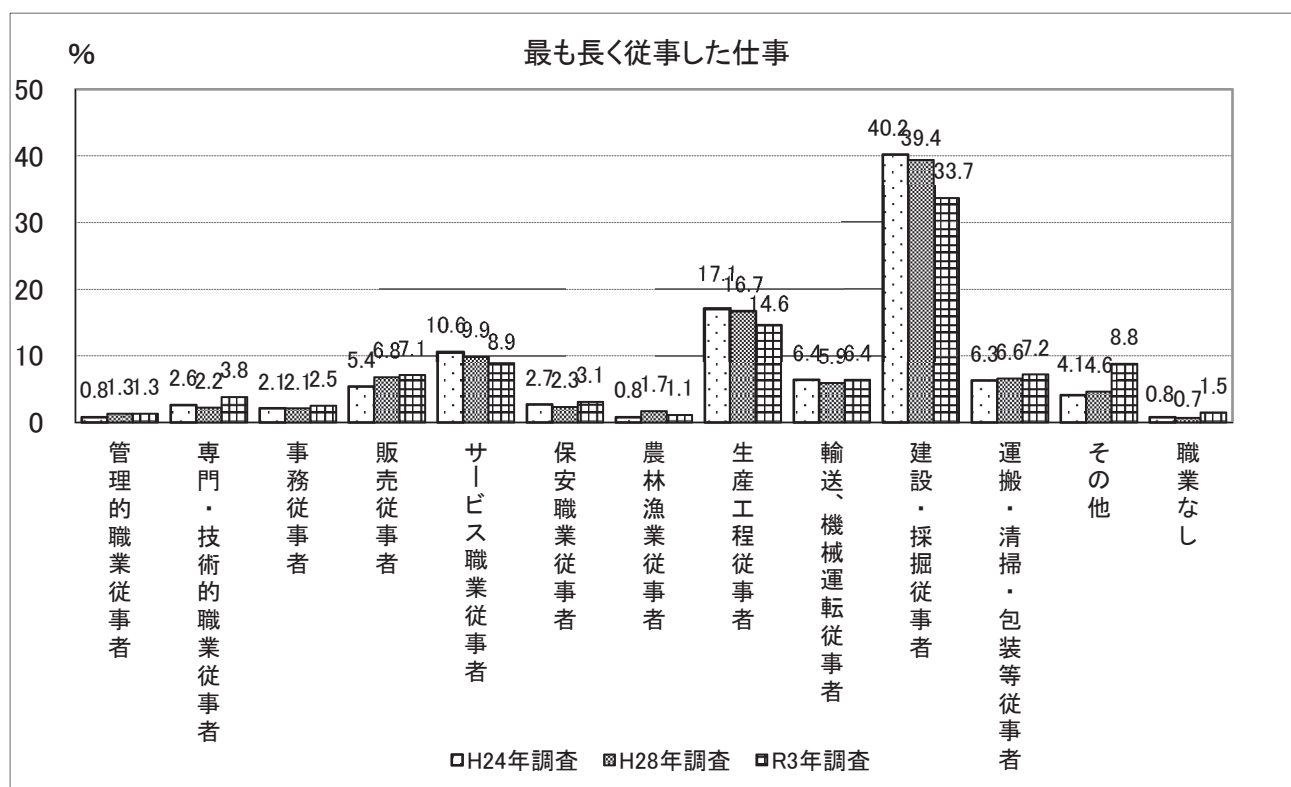


2 最も長く従事した仕事、その時の従業上の地位、住居形態、地域

最も長く従事した仕事については、「建設・採掘従事者」が381人(33.7%)で最も多く、次いで「生産工程従事者」が165人(14.6%)、「サービス職業従事者」が101人(8.9%)となっている(表14)。

表14 問14 これまで一番長くやっていた仕事は何ですか。(主な仕事)

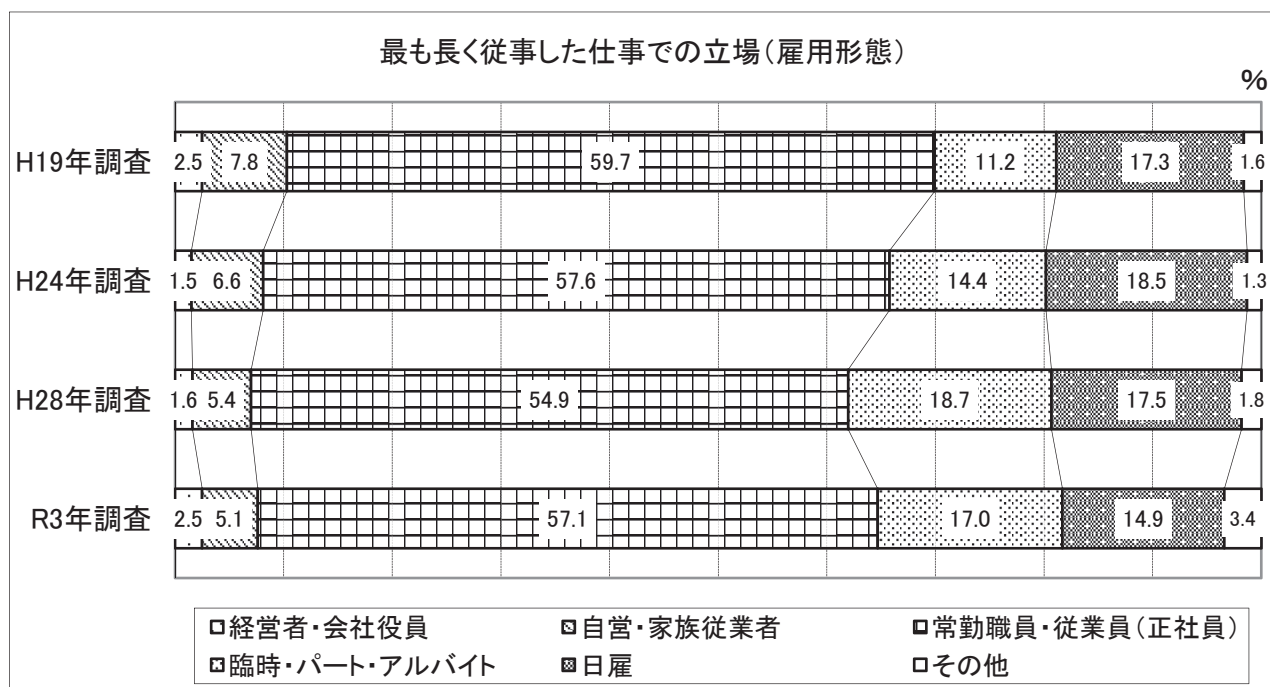
	人	%	有効%
01. 管理的職業従事者	15	1.3	1.3
02. 専門・技術的職業従事者	43	3.7	3.8
03. 事務従事者	28	2.4	2.5
04. 販売従事者	80	6.8	7.1
05. サービス職業従事者	101	8.6	8.9
06. 保安職業従事者	35	3.0	3.1
07. 農林漁業従事者	13	1.1	1.1
08. 生産工程従事者	165	14.1	14.6
09. 輸送、機械運転従事者	72	6.2	6.4
10. 建設・採掘従事者	381	32.6	33.7
11. 運搬・清掃・包装等従事者	82	7.0	7.2
12. その他	100	8.6	8.8
13. 職業なし	17	1.5	1.5
有効回答数	1,132	96.8	100.0
無回答	37	3.2	
合計	1,169	100.0	



また、その時の従業上の地位については、「常勤職員・従業員（正社員）」が637人（57.1%）と最も多く、次いで「臨時・パート・アルバイト」が189人（17.0%）、「日雇」が166人（14.9%）となっている（表14-1）。

表14-1 問14-1 問14で「01」～「12」と答えた方について、その仕事をしているときは、どのような立場で働いていましたか。1つ選んでください。

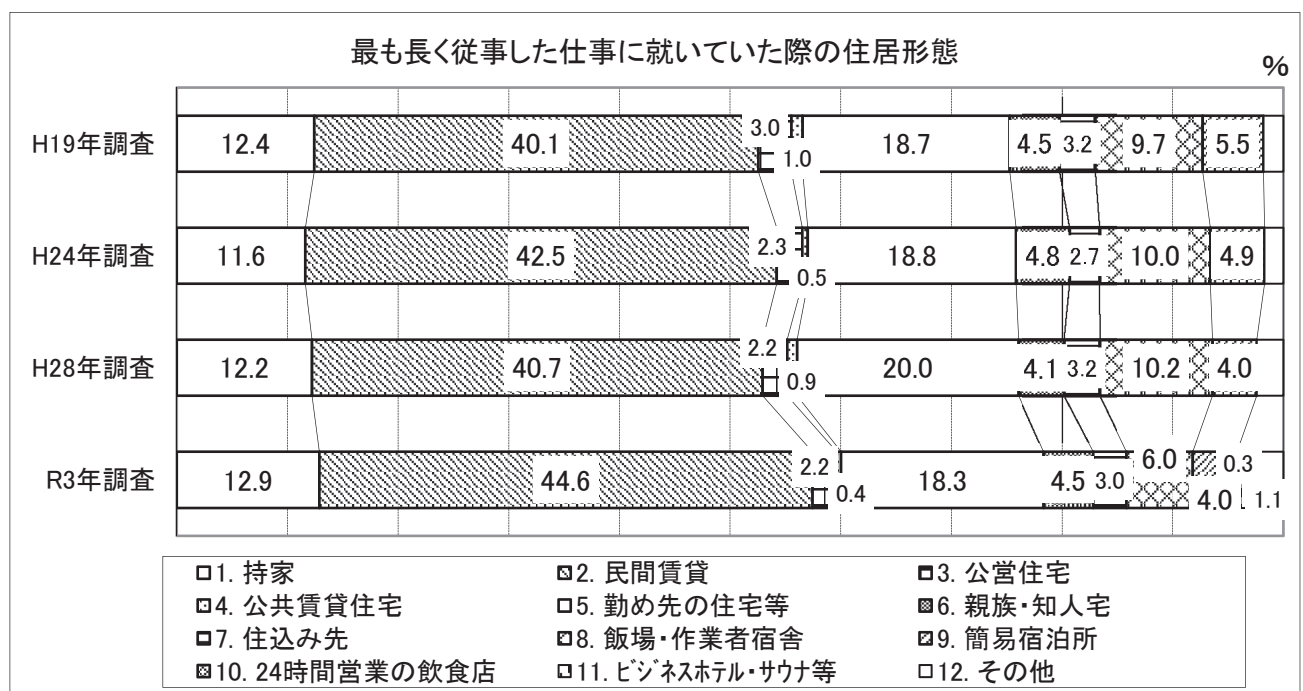
	人	%	有効%
1. 経営者・会社役員	28	2.4	2.5
2. 自営・家族従業者	57	4.9	5.1
3. 常勤職員・従業員（正社員）	637	54.5	57.1
4. 臨時・パート・アルバイト	189	16.2	17.0
5. 日雇	166	14.2	14.9
6. その他	38	3.3	3.4
有効回答数	1,115	95.4	100.0
無回答	—	—	—
非該当	54	4.6	—
合計	1,169	100.0	—



最も長く従事した仕事に就いていた際の住居形態については、「民間賃貸住宅」が502人(44.6%)、「勤め先の社宅や寮」が206人(18.3%)、「持家」が145人(12.9%)となっている(表15)。

表15 問15 これまで一番長く仕事を行っていた際に、住んでいたのはどこですか。1つ選んでください。

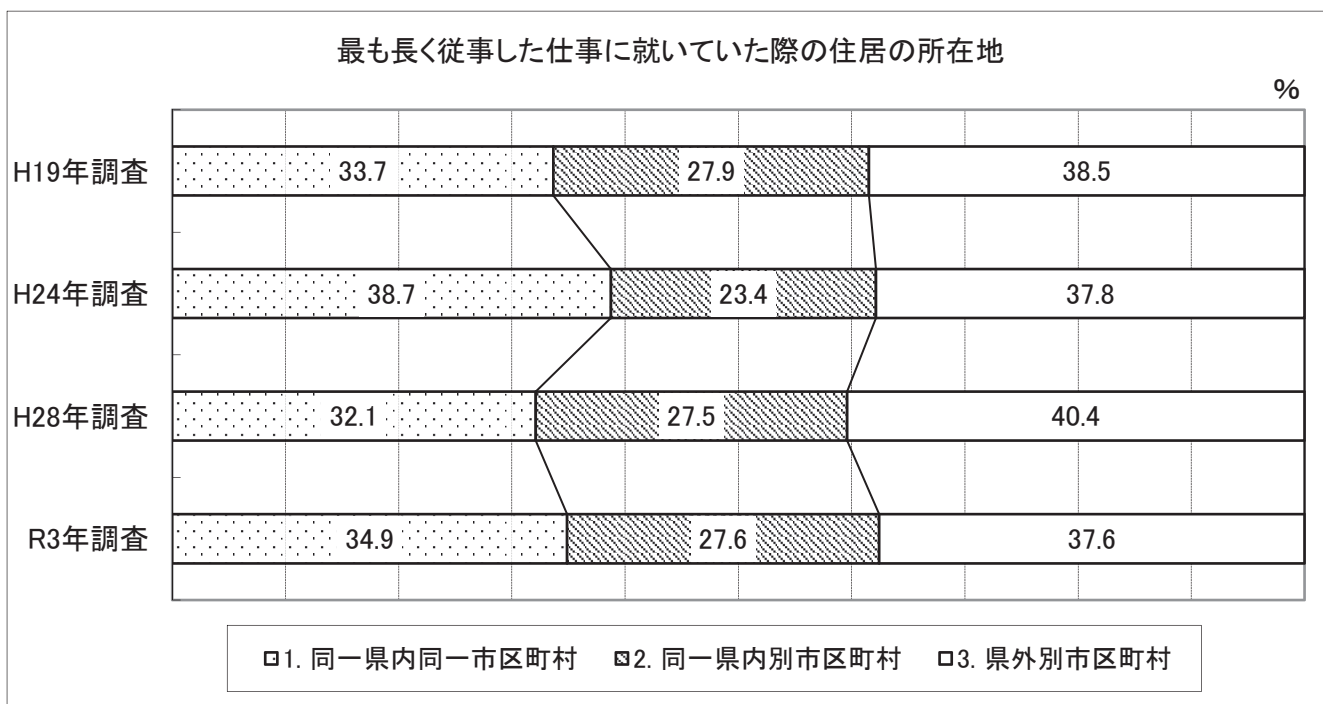
	人	%	有効%
01. 持家(一戸建て、マンション等)	145	12.4	12.9
02. 民間賃貸住宅(アパート・マンション)	502	42.9	44.6
03. 公営住宅	25	2.1	2.2
04. 公営住宅以外の公共賃貸住宅(都市機構賃貸住宅(旧公団賃貸住宅)等)	4	0.3	0.4
05. 勤め先の社宅や寮	206	17.6	18.3
06. 親族・知人宅	51	4.4	4.5
07. 住込み先	34	2.9	3.0
08. 飯場・作業者宿舎(飯場等の現場に仮設された宿舎)	67	5.7	6.0
09. 簡易宿泊所(ドヤ)	45	3.8	4.0
10. 24時間営業の飲食店(マンガ喫茶・インターネットカフェ等を含む)	3	0.3	0.3
11. ビジネスホテル・カプセルホテル・サウナ	12	1.0	1.1
12. その他	31	2.7	2.8
有効回答数	1,125	96.2	100.0
無回答	44	3.8	
非該当	0	0.0	
合計	1,169	100.0	



最も長く従事した仕事に就いていた際に住んでいた地域については、「現在路上(野宿)生活をしている都道府県外の市区町村」が421人(37.6%)、それ以外が700人(62.5%)となっている(表16)。

表16 問16 これまで一番長く仕事を行っていた際に、住んでいた地域はどこですか。
1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町村	391	33.4	34.9
2. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の別の市区町村	309	26.4	27.6
3. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県外の市区町村	421	36.0	37.6
有効回答数	1,121	95.9	100.0
無回答	48	4.1	
非該当	0	0.0	
合計	1,169	100.0	

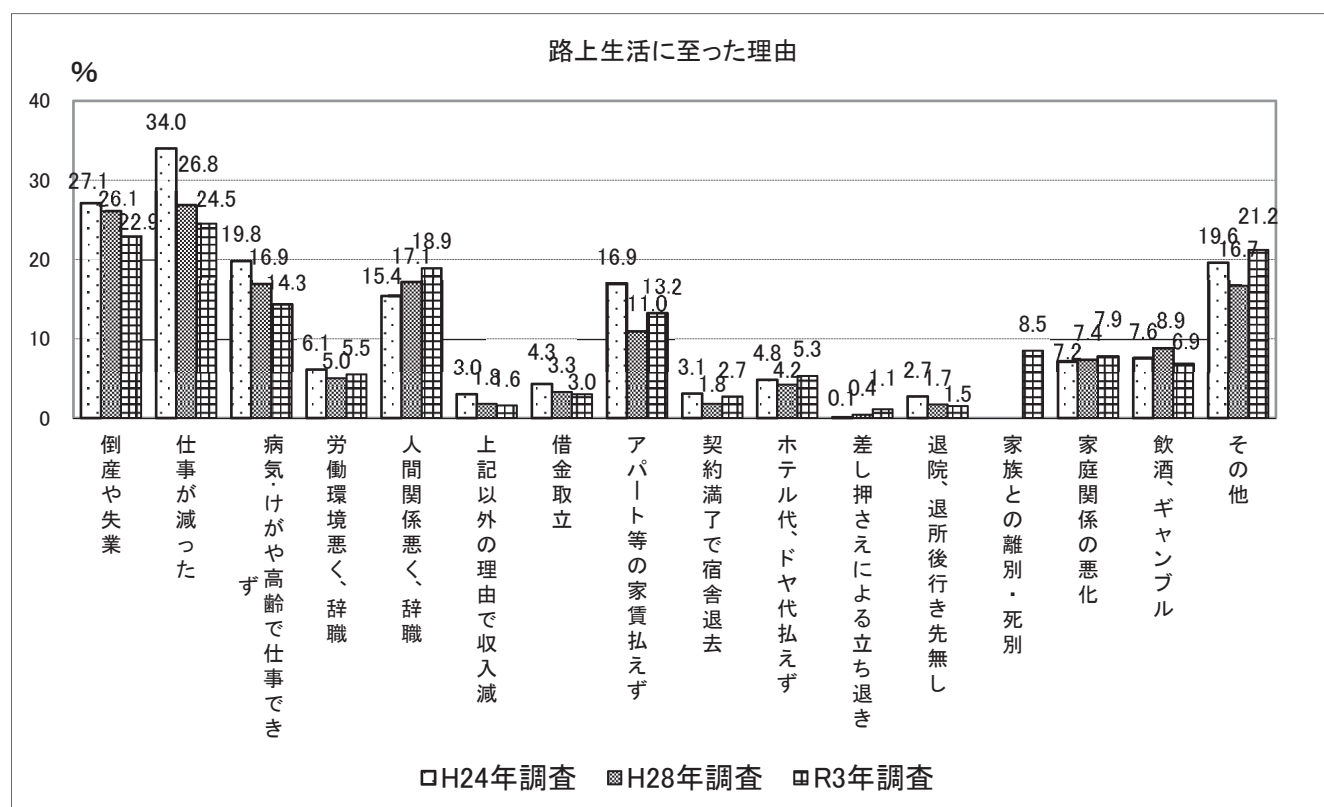


3 路上(野宿)生活になった理由

路上(野宿)生活になった理由については、「仕事が減った」が278人(24.5%)と最も多く、次いで「倒産や失業」が260人(22.9%)、「人間関係がうまくいなくて、仕事を辞めた」が214人(18.9%)、「病気・けがや高齢で仕事ができなくなった」が162人(14.3%)となっている(表17)。

表17 問17 今回の路上(野宿)生活をするようになった主な理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

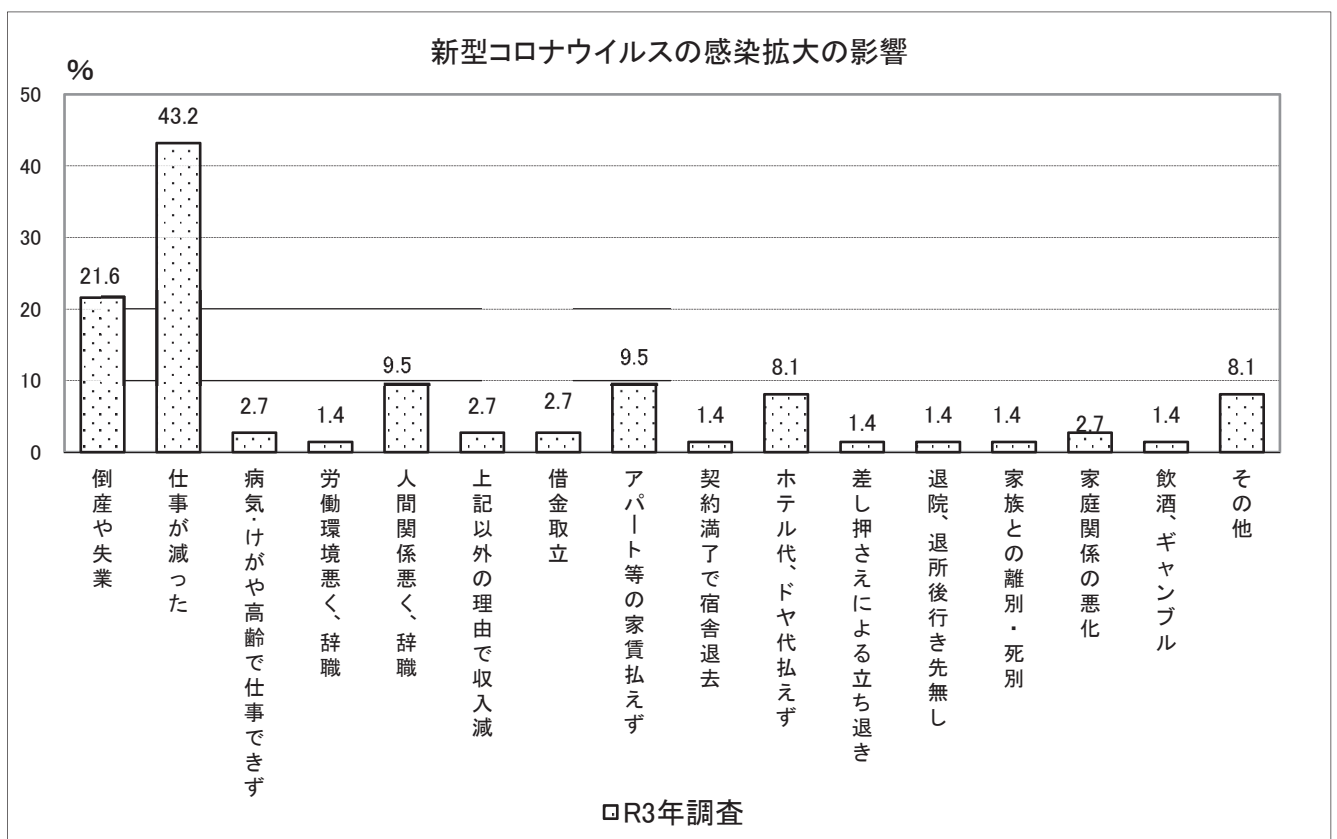
(複数回答)	人	回答%	ケース%
01. 倒産や失業	260	14.4	22.9
02. 仕事が減った	278	15.4	24.5
03. 病気・けがや高齢で仕事ができなくなった	162	9.0	14.3
04. 労働環境が劣悪なため、仕事を辞めた	62	3.4	5.5
05. 人間関係がうまくいなくて、仕事を辞めた	214	11.9	18.9
06. 上記以外の理由で収入が減った	18	1.0	1.6
07. 借金取立により家を出た	34	1.9	3.0
08. アパート等の家賃が払えなくなった	150	8.3	13.2
09. 契約期間満了で宿舍を出た	31	1.7	2.7
10. ホテル代、ドヤ代等が払えなくなった	60	3.3	5.3
11. 差し押さえによって立ち退きさせられた	12	0.7	1.1
12. 病院や施設等から出た後行き先がなかった	17	0.9	1.5
13. 家族との離別・死別	96	5.3	8.5
14. 家庭関係の悪化	90	5.0	7.9
15. 飲酒、ギャンブル	78	4.3	6.9
16. その他	241	13.4	21.2
有効回答数	1,803	100.0	158.9
有効回答者数	1,135	97.1	
無回答	34	2.9	
合計	1,169	100.0	



また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるものは、「仕事が減った」が32人(43.2%)が最も多く、次いで「倒産や失業」が16人(18.2%)、「人間関係がうまくいかなくて、仕事を辞めた」、「アパート等の家賃が払えなくなった」が7人(9.50%)となっている(表17-1-1)。

表17-1 新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるもの(すべて)は◎をつけてください。
(今回の路上生活歴が3年未満を対象)

(複数回答)	人	回答%	ケース%
01. 倒産や失業	16	18.2	21.6
02. 仕事が減った	32	36.4	43.2
03. 病気・けがや高齢で仕事ができなくなった	2	2.3	2.7
04. 労働環境が劣悪なため、仕事を辞めた	1	1.1	1.4
05. 人間関係がうまくいかなくて、仕事を辞めた	7	8.0	9.5
06. 上記以外の理由で収入が減った	2	2.3	2.7
07. 借金取立により家を出た	2	2.3	2.7
08. アパート等の家賃が払えなくなった	7	8.0	9.5
09. 契約期間満了で宿舎を出た	1	1.1	1.4
10. ホテル代、ドヤ代等が払えなくなった	6	6.8	8.1
11. 差し押さえによって立ち退きさせられた	1	1.1	1.4
12. 病院や施設等から出た後行き先がなかった	1	1.1	1.4
13. 家族との離別・死別	1	1.1	1.4
14. 家庭関係の悪化	2	2.3	2.7
15. 飲酒、ギャンブル	1	1.1	1.4
16. その他	6	6.8	8.1
有効回答数	88	100.0	118.9
有効回答者数	74	6.3	
非該当	1,095	93.7	
合計	1,169	100.0	

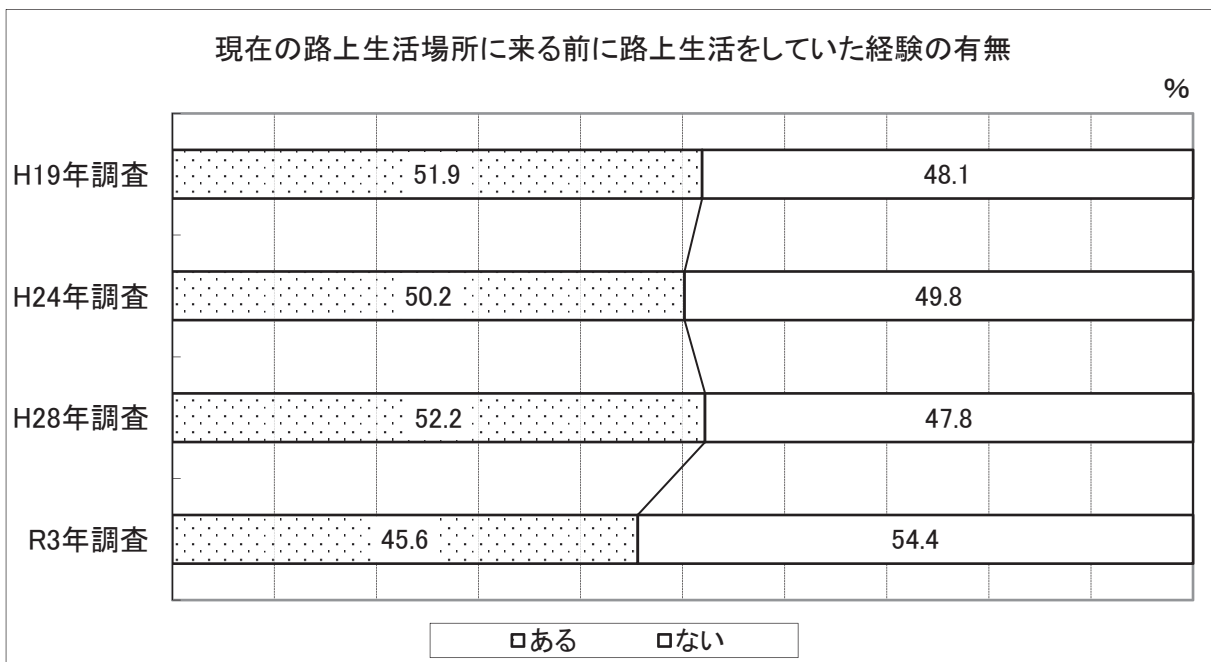


4 路上(野宿)生活をしてからの移動

現在、路上(野宿)生活をしている場所にくる前に、別の場所での路上(野宿)生活経験の有無については、「ある」が519人(45.6%)、「ない」が618人(54.4%)となっている(表18)。

表18 問18 現在の路上(野宿)生活場所にくる前に、別の場所で路上(野宿)生活をしていたことがありますか。1つ選んでください。

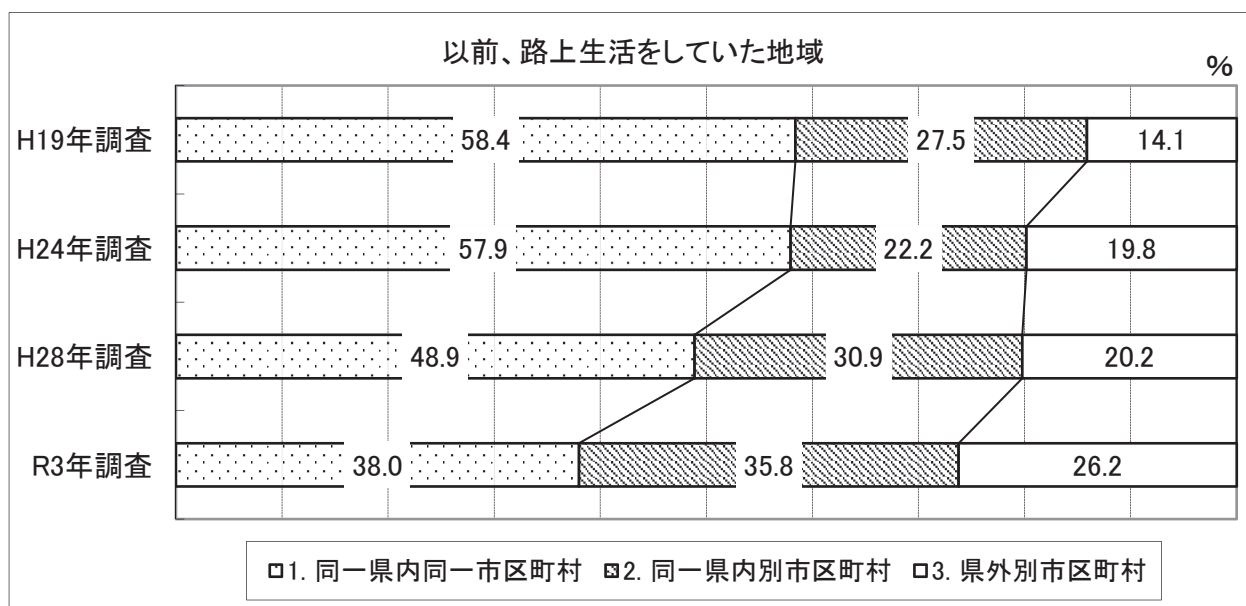
	人	%	有効%
1. ある	519	44.4	45.6
2. ない	618	52.9	54.4
有効回答数	1,137	97.3	100.0
無回答	32	2.7	
合計	1,169	100.0	



また、その場所については、「現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町村」が197人(38.0%)、それ以外が322人(62.0%)となっている(表18-1)。

表18-1 問18-1 問18で「1.ある」と答えた方について、その場所はどこですか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町	197	16.9	38.0
2. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の別の市区町	186	15.9	35.8
3. 現在路上(野宿)生活をしている都道府県外の市区町村	136	11.6	26.2
有効回答数	519	44.4	100.0
無回答	-	-	
非該当	650	55.6	
合計	1,169	100.0	

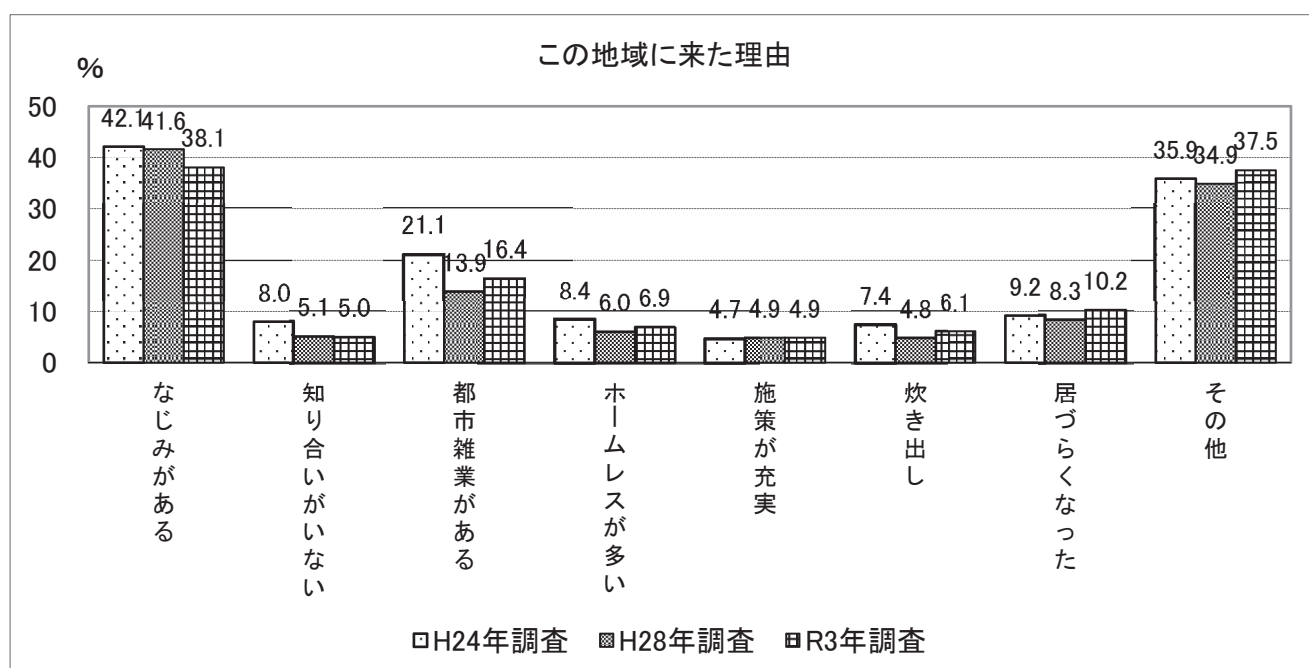


5 路上(野宿)生活をしている場所に来た理由

現在、路上(野宿)生活をしている場所に来た理由については、「以前住んでいた、仕事先があったりで、なじみがある」が432人(38.1%)と最も多く、次いで「収入を得られるような仕事(アルミ缶、段ボール集め、建設現場での日雇い労働等)がある」が186人(16.4%)、「前いた場所に居づらくなった」が115人(10.2%)となっている(表19)。

表19 問19 現在路上(野宿)生活をしているこの市区町村に来た主な理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

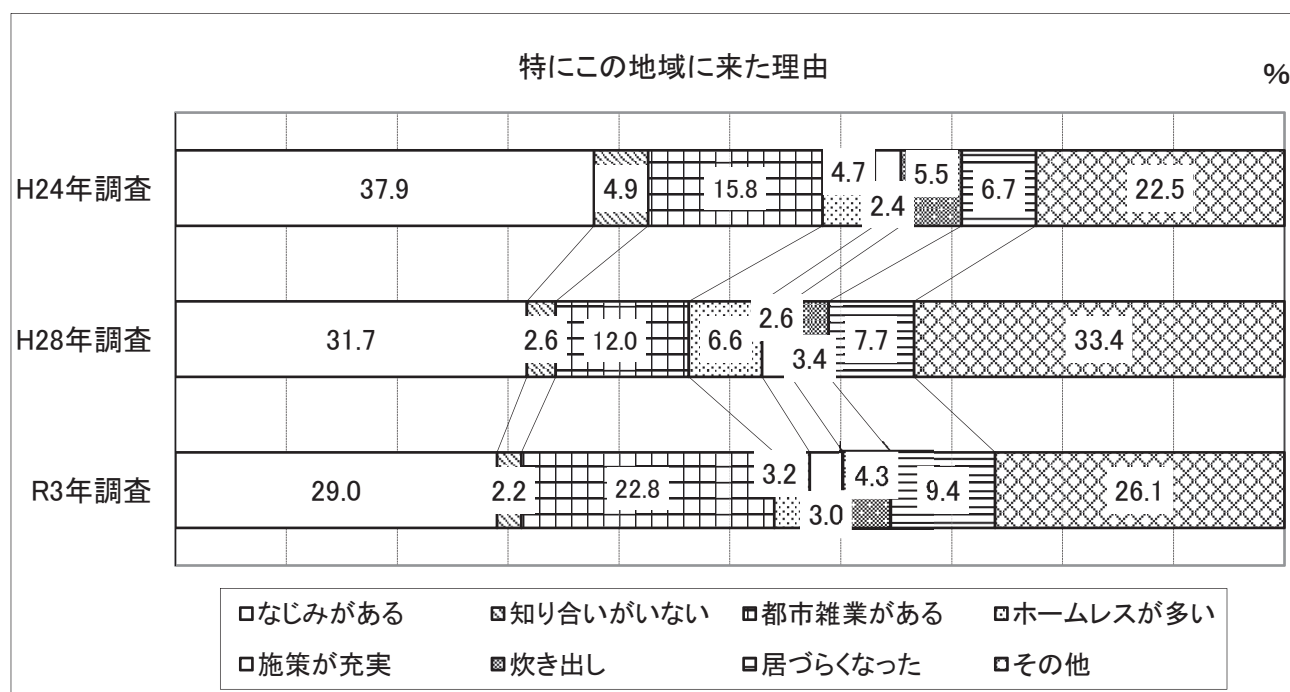
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 以前住んでいた、仕事先があったりで、なじみがある	432	30.5	38.1
2. 以前の知り合いが誰もいなそうである	57	4.0	5.0
3. 収入を得られるような仕事(アルミ缶、段ボール集め、建設現場での日雇い労働等)がある	186	13.1	16.4
4. ホームレスが多いと聞いた	78	5.5	6.9
5. ホームレスのための施策が充実していると聞いた(施設、住宅、食事券・宿泊券、就労対策、その他)	56	3.9	4.9
6. ボランティア団体等による炊き出しがある	69	4.9	6.1
7. 前いた場所に居づらくなった	115	8.1	10.2
8. その他	425	30.0	37.5
有効回答数	1,418	100.0	125.2
有効回答者数	1,133	96.9	
無回答	36	3.1	
合計	1,169	100.0	



また、その中で特にあてはまるものも、「以前住んでいたり、仕事先があったりで、なじみがある」が108人(29.0%)が多くなっている(表19-1)。

表19-1 また、特にあてはまるものに◎をつけてください。

	人	%	有効%
1. 以前住んでいたり、仕事先があったりで、なじみがある	108	9.2	29.0
2. 以前の知り合いが誰もいなそうである	8	0.7	2.2
3. 収入を得られるような仕事(アルミ缶、段ボール集め、建設現場での日雇い労働等)がある	85	7.3	22.8
4. ホームレスが多いと聞いた	12	1.0	3.2
5. ホームレスのための施策が充実していると聞いた(施設、住宅、食事券・宿泊券、就労対策、その他)	11	0.9	3.0
6. ボランティア団体等による炊き出しがある	16	1.4	4.3
7. 前いた場所に居づらくなった	35	3.0	9.4
8. その他	97	8.3	26.1
有効回答数	372	31.8	100.0
無回答	797	68.2	
合計	1,169	100.0	

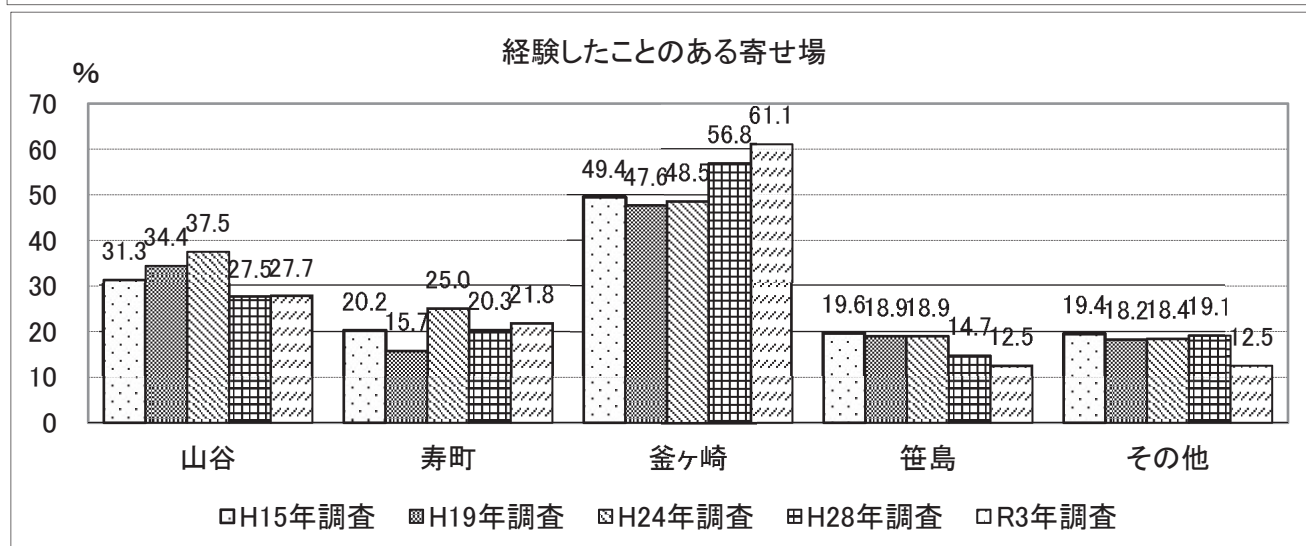
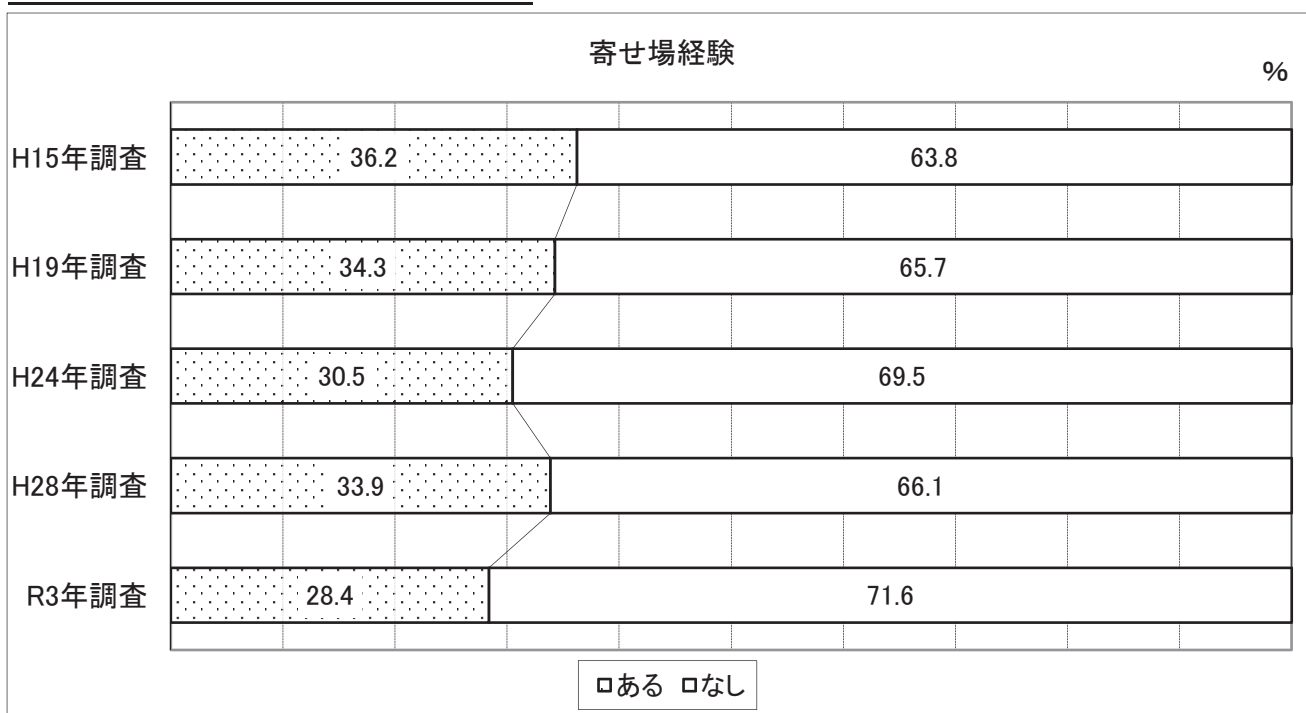


6 特定地域・場所での就労・求職状況

下記の特定期域・場所での就労・求職状況については、321(27.5%)が就労又は求職を行っている(表20)。

表20 問20 これまでに東京・山谷、横浜・寿町、大阪・釜ヶ崎、名古屋・笹島等で、仕事をしたり仕事を探したことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 山谷(東京)	89	20.5	27.7
2. 寿町	70	16.1	21.8
3. 釜ヶ崎	196	45.1	61.1
4. 笹島	40	9.2	12.5
5. その他の寄せ場	40	9.2	12.5
寄せ場経験あり	435	100.0	135.5
寄せ場経験あり	321	27.5	28.4
なし	810	69.3	71.6
有効回答数	1,131	96.8	100.0
無回答	38	3.3	
合計	1,169	100.0	



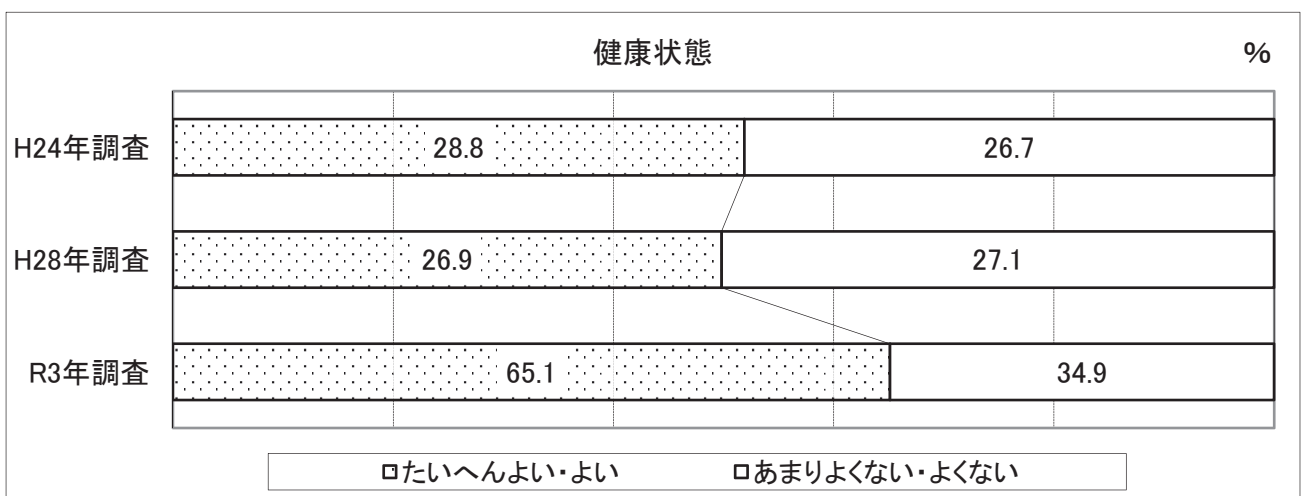
第4章 健康状態

1 健康状態

現在の健康状態について、健康状態が「たいへんよい・よい」と回答した者が743人(65.1%)、「あまりよくない・よくない」と回答した者が398人(34.9%)となっており、回答者の約3割以上がどこか身体の具合が悪いと感じている(表21)。

表21 問21 現在、健康状態はどうですか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. たいへんよい	130	11.1	11.4
2. よい	613	52.4	53.7
3. あまりよくない	323	27.6	28.3
4. よくない	75	6.4	6.6
有効回答数	1,141	97.6	100.0
無回答	28	2.4	
合計	1,169	100.0	



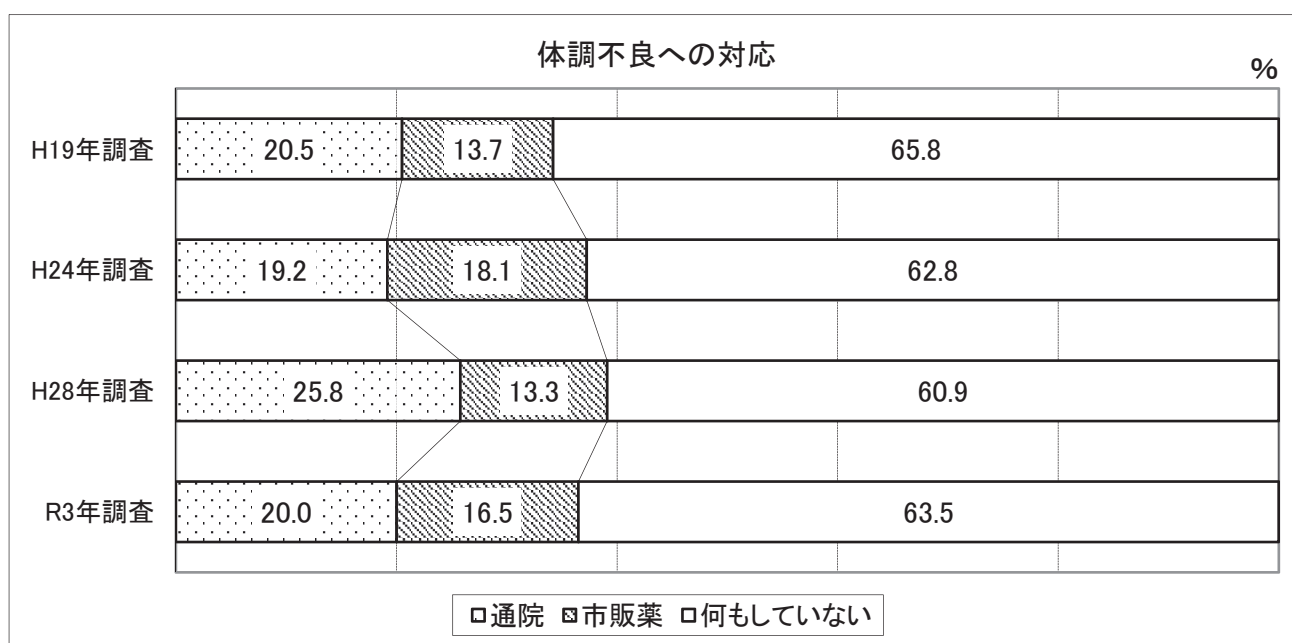
※段階的に変更状態を把握するため今回調査にて選択肢を次のように修正した。
 前回調査結果との比較は「悪い」との比較となっており、参考値である。

- ・今回調査選択肢
 「たいへんよい」「よい」「あまりよくない」「よくない」
- ・前回調査選択肢
 「良い」「悪い」「普通」「わからない」

また、「あまりよくない」「よくない」と回答した者のうち、「通院」、「市販薬」などで対処している者が144人（36.5%）であり、何もしていない者が251人（63.5%）と約6割となっている（表21-1）。

表21-1 問21-1 問21で「3.あまりよくない」、「4.よくない」と答えた方について、どのような対処をしていますか。1つ選んでください。

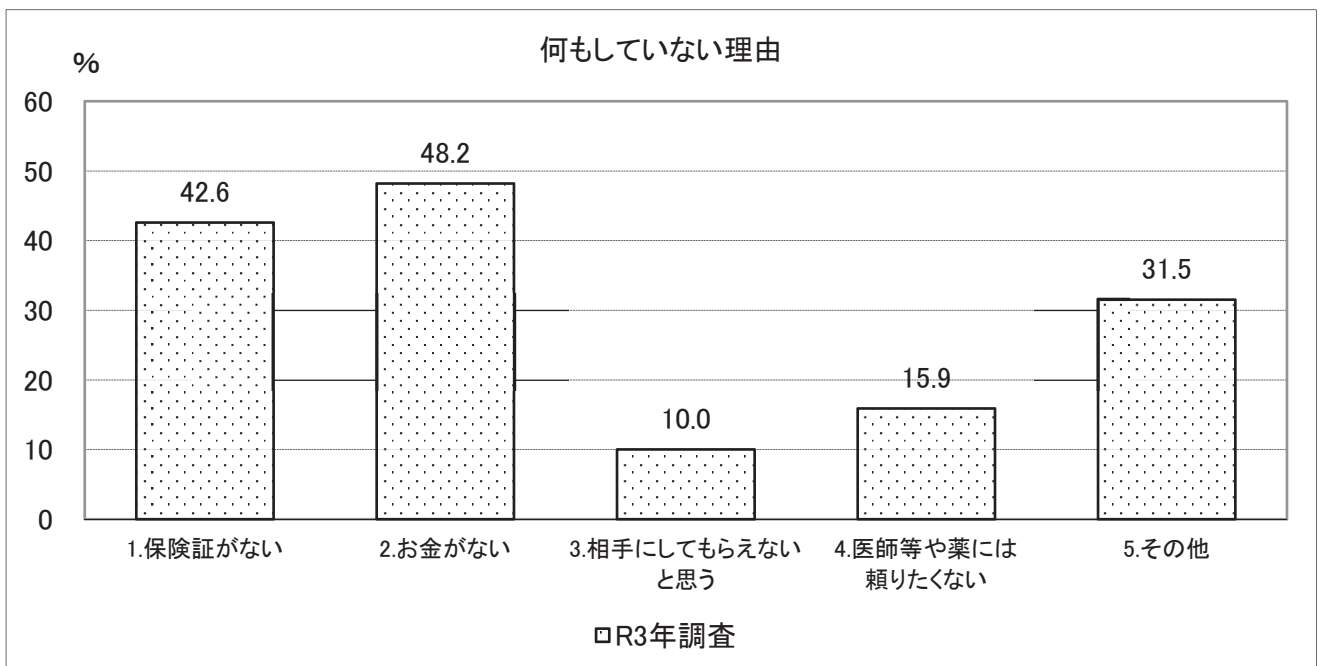
	人	%	有効%
1. 通院	79	6.8	20.0
2. 市販薬	65	5.6	16.5
3. 何もしていない	251	21.5	63.5
有効回答数	395	33.8	100.0
無回答	3	0.3	
非該当	771	66.0	
合計	1,169	100.0	



さらに、「何もしていない」と回答した者が何もしていない理由については、「通院や薬を購入するためのお金がない」が121人(48.2%)と最も多く、次いで「保険証がない」が107人(42.6%)、「医師等や薬には頼りたくない」が40人(15.9%)となっている(表21-2)。

表21-2 問21-2 問21-1で「3.何もしていない」と答えた方について、何もしていない理由を教えてください。
あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 保険証がない	107	28.8	42.6
2. 通院や薬を購入するためのお金がない	121	32.5	48.2
3. 医療機関に行っても相手にしてもらえないと思う	25	6.7	10.0
4. 医師等や薬には頼りたくない	40	10.8	15.9
5. その他	79	21.2	31.5
有効回答数	372	100.0	148.2
有効回答者数	251	21.5	
無回答	-	-	
非該当	918	78.5	
合計	1,169	100.0	



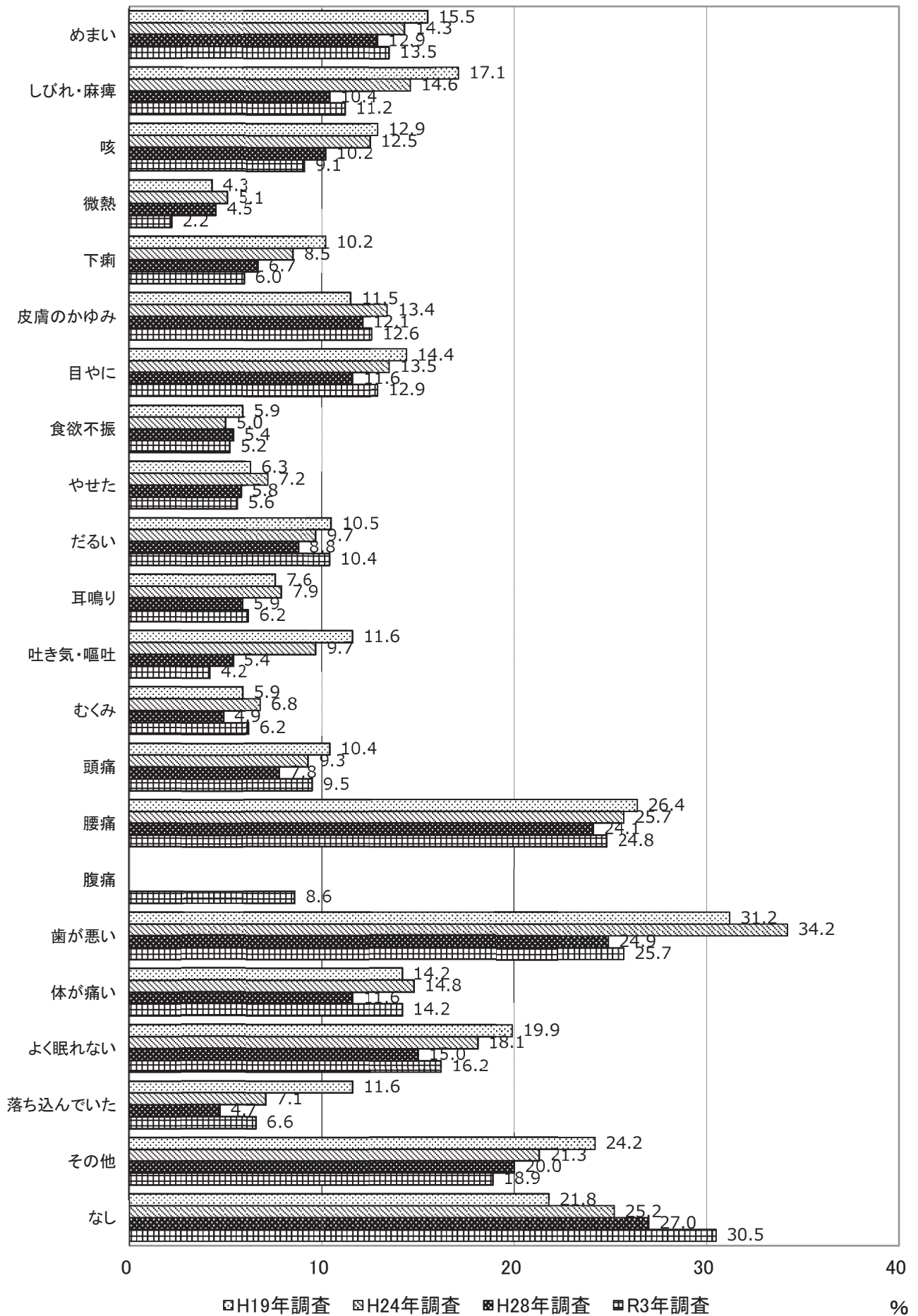
次に具体的な自覚症状については、「歯が悪い」が292人(25.7%)と最も多く、次いで「腰痛」が282人(24.8%)となっている。

一方、「なし」と回答した者は、347人(30.5%)となっている(表22)。

表22 問22 路上(野宿)生活している間(路上(野宿)生活の長い方はここ1年以内)で、次のような症状がありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
01. めまい	154	5.2	13.5
02. しびれ・麻痺	127	4.3	11.2
03. 咳が続く	104	3.5	9.1
04. 微熱がつづく	25	0.8	2.2
05. ひどい下痢が続いた	68	2.3	6.0
06. 皮膚のかゆみや発疹	143	4.8	12.6
07. 目やにが出る・目がかすむ	147	5.0	12.9
08. 食欲不振	59	2.0	5.2
09. 急激にやせた	64	2.2	5.6
10. ひどくだるい	118	4.0	10.4
11. 耳鳴りがひどい	71	2.4	6.2
12. 吐き気・嘔吐	48	1.6	4.2
13. むくみ	70	2.4	6.2
14. 頭痛	108	3.6	9.5
15. 腰痛	282	9.5	24.8
16. 腹痛	98	3.3	8.6
17. 歯が悪い	292	9.9	25.7
18. 体の節々が痛む	162	5.5	14.2
19. よく眠れない日が続いた	184	6.2	16.2
20. 2週間以上毎日のように落ち込んでいた時期があった	75	2.5	6.6
21. その他	215	7.3	18.9
22. なし	347	11.7	30.5
有効回答数	2,961	100.0	260.4
有効回答者数	1,137	97.3	
無回答	32	2.7	
合計	1,169	100.0	

現在の自覚症状



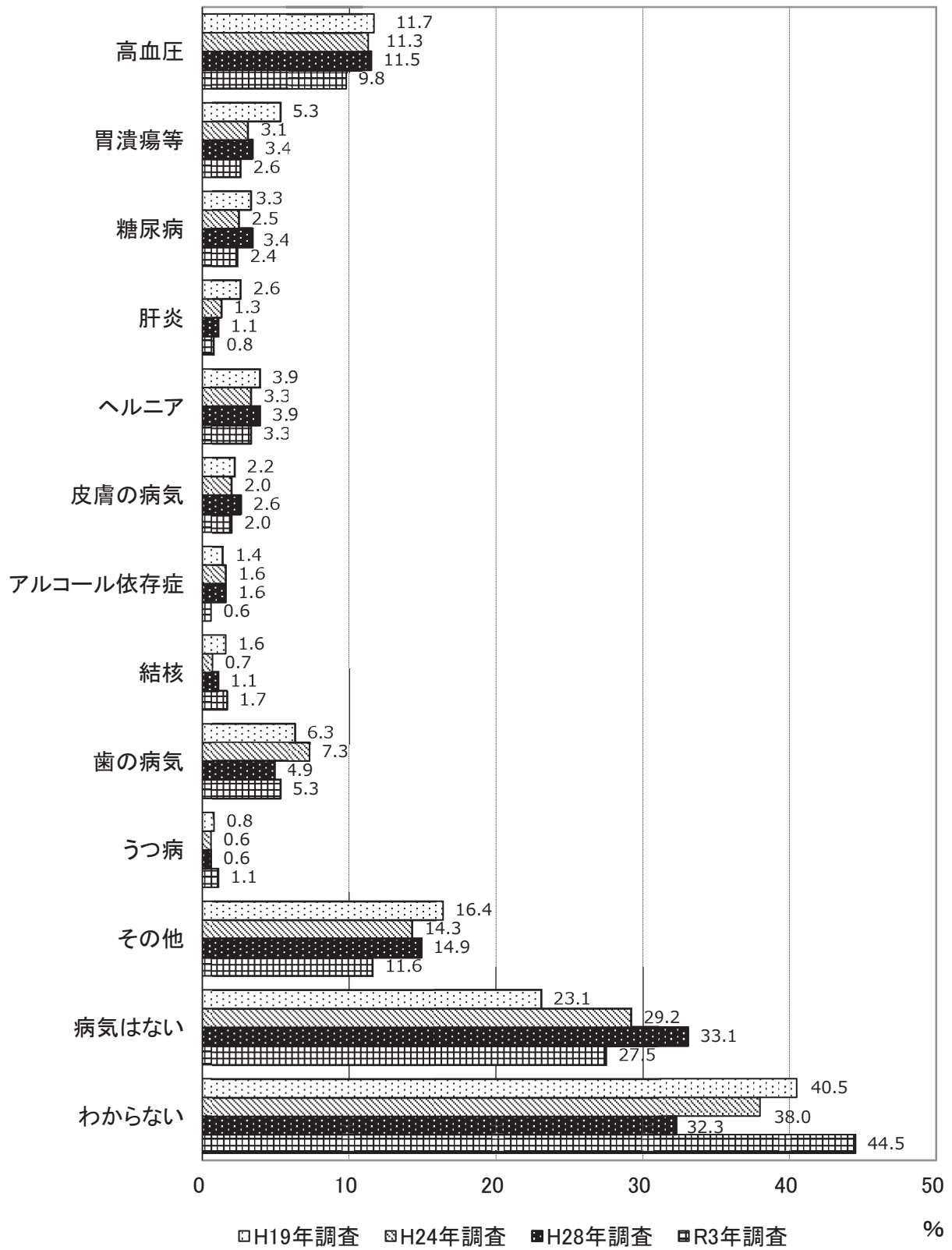
路上(野宿)生活をしてから具体的に診断された病気については、「高血圧」が111人(9.8%)で最も多くなっている。

一方、「病気はない」と回答した者は312人(27.5%)、「受診していないので病気かどうかわからない」は505人(44.5%)となっている(表23)。

表23 問23 路上(野宿)生活をしてから、次のような病気であると診断されたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
01. 高血圧	111	8.6	9.8
02. 胃・十二指腸潰瘍	29	2.3	2.6
03. 糖尿病	27	2.1	2.4
04. 肝炎	9	0.7	0.8
05. ヘルニア(腰痛等)	38	3.0	3.3
06. 皮膚の病気	23	1.8	2.0
07. アルコール依存症	7	0.5	0.6
08. 結核	19	1.5	1.7
09. 歯の病気(虫歯、歯槽膿漏等)	60	4.7	5.3
10. うつ病	13	1.0	1.1
11. その他	132	10.3	11.6
12. 病気はない	312	24.3	27.5
13. 受診していないので病気かどうかわからない	505	39.3	44.5
有効回答数	1,285	100.0	113.1
有効回答者数	1,136	98.0	
無回答	33	2.0	
合計	1,169	100.0	

診断の履歴

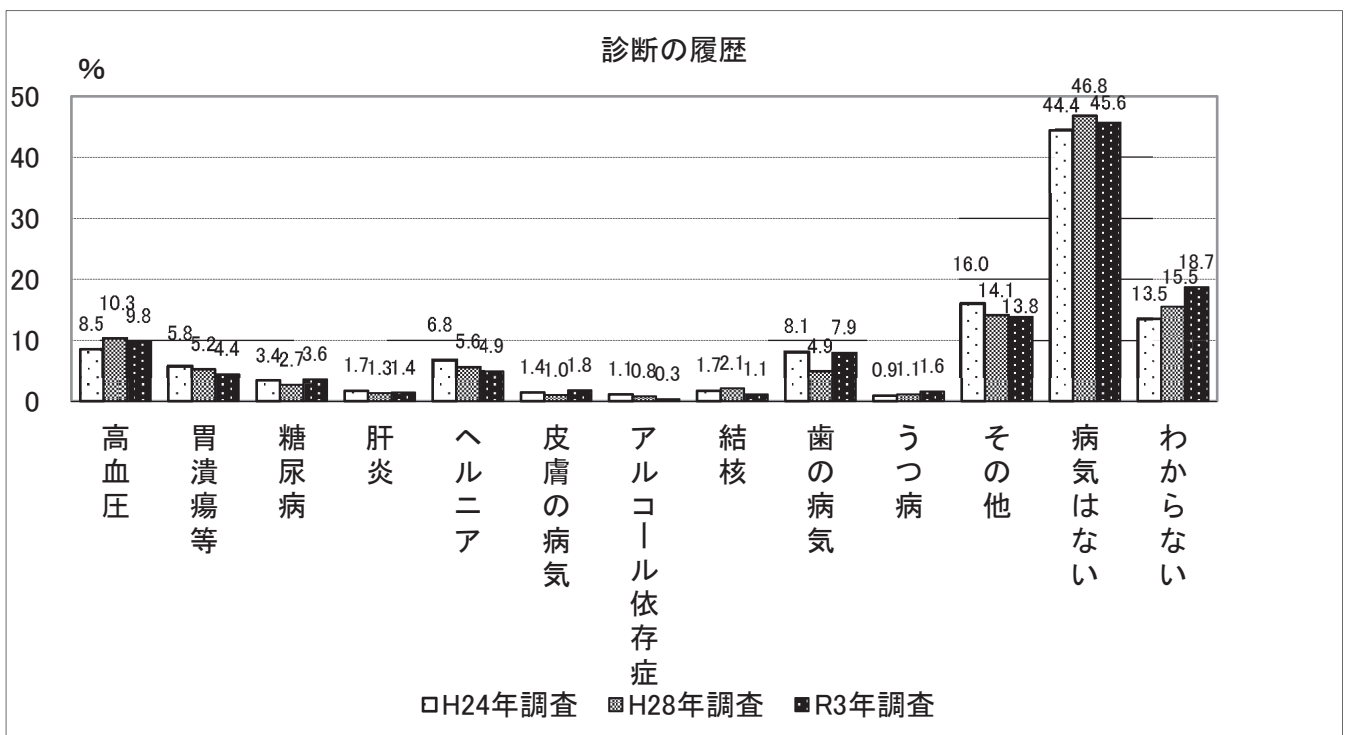


路上(野宿)生活をする前に具体的に診断された病気については、「高血圧」が111人(9.8%)と最も多くなっている。

一方、「病気はない」と回答した者は519人(45.6%)、「受診していないので病気かどうか分からない」は213人(18.7%)となっている(表24)。

表24 問24 路上(野宿)生活をする前から、次のような病気であると診断されたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

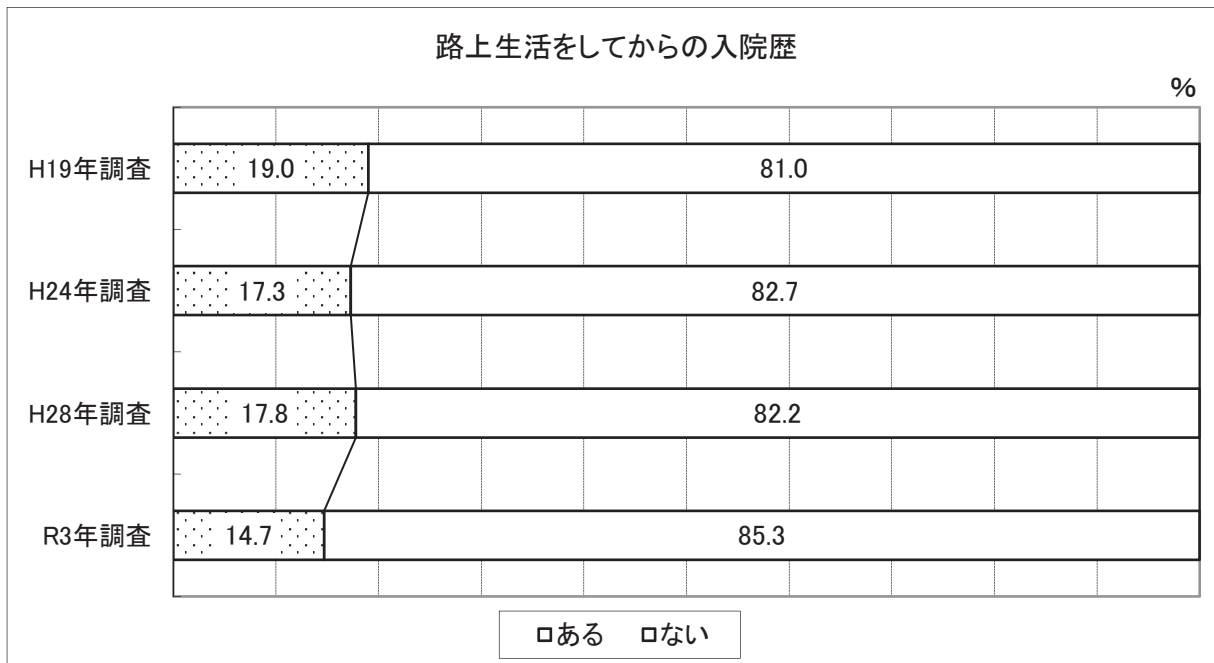
(複数回答)	人	回答%	ケース%
01. 高血圧	111	8.5	9.8
02. 胃・十二指腸潰瘍	50	3.8	4.4
03. 糖尿病	41	3.1	3.6
04. 肝炎	16	1.2	1.4
05. ヘルニア(腰痛等)	56	4.3	4.9
06. 皮膚の病気	21	1.6	1.8
07. アルコール依存症	3	0.2	0.3
08. 結核	12	0.9	1.1
09. 歯の病気(虫歯、歯槽膿漏等)	90	6.9	7.9
10. うつ病	18	1.4	1.6
11. その他	157	12.0	13.8
12. 病気はない	519	39.7	45.6
13. 受診していないので病気かどうか分からない	213	16.3	18.7
有効回答数	1,307	100.0	114.9
有効回答者数	1,138	98.0	
無回答	31	2.0	
合計	1,169	100.0	



路上(野宿)生活をしてからの入院経験については、「ある」が168人(14.7%)、「ない」が972人(85.3%)となっている(表25)。

表25 問25 路上(野宿)生活をしてから、入院したことはありますか。1つ選んでください。

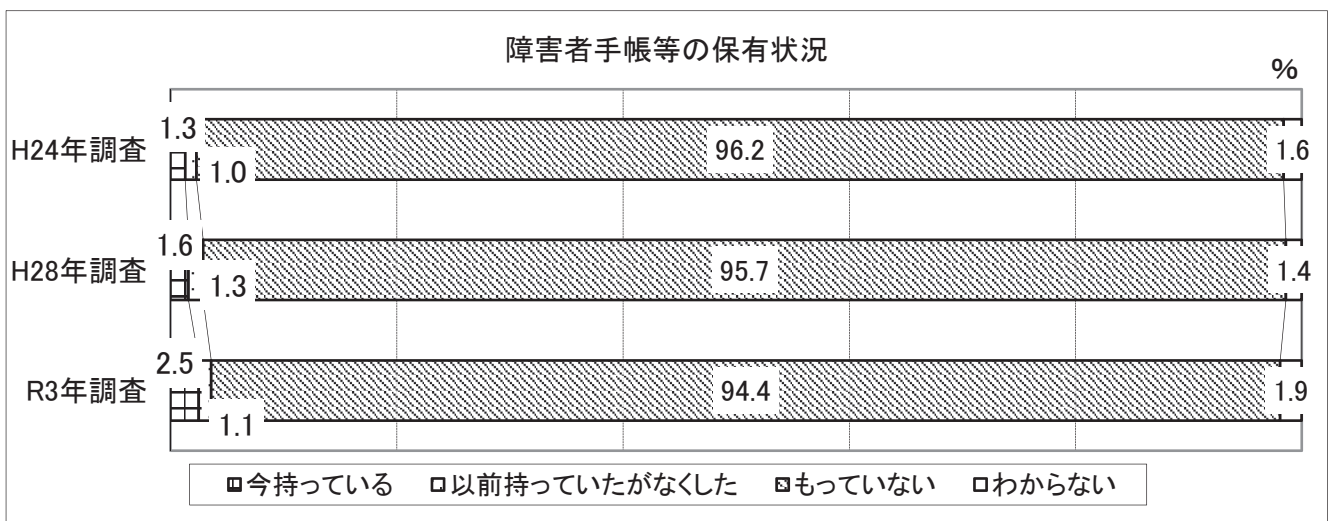
	人	%	有効%
1. ある	168	14.4	14.7
2. ない	972	83.1	85.3
有効回答数	1,140	97.5	100.0
無回答	29	2.5	
合計	1,169	100.0	



障害者手帳等の各種所持状況については、「持っていない」が1,076人(94.4%)と最も多くなっている(表26)。

表26 問26 身体障害者手帳や療育手帳(愛の手帳)、精神障害者保健福祉手帳等の障害者の手帳を持っていますか。または持っていましたか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 今持っている	29	2.5	2.5
2. 以前持っていたがなくした	13	1.1	1.1
3. 持っていない	1,076	92.0	94.4
4. わからない	22	1.9	1.9
有効回答数	1,140	97.5	100.0
無回答	29	2.5	
合計	1,169	100.0	



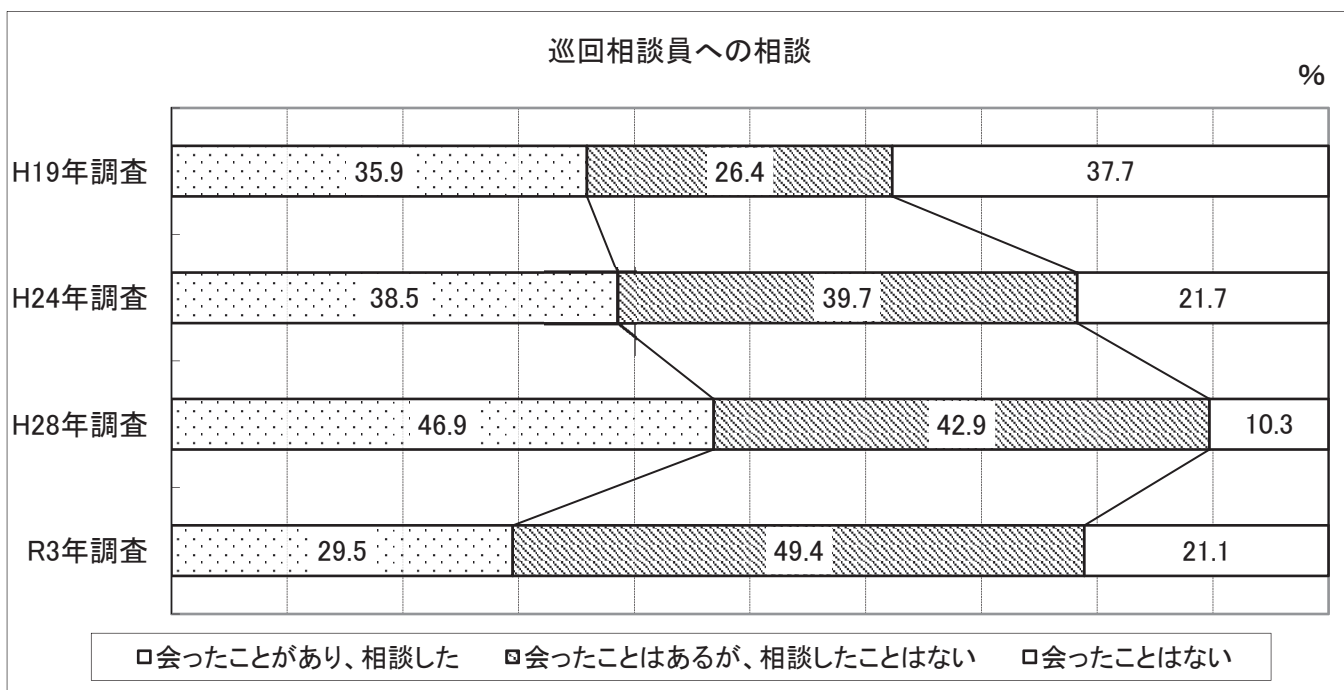
第5章 福祉制度

1 相談事業の利用

巡回相談への相談状況については、巡回相談員に「会ったことがあり、相談した」が336人(29.5%)、「会ったことはあるが、相談したことはない」が563人(49.4%)、「会ったことはない」が240人(21.1%)となっており、巡回相談員に会ったことがある者は899人(78.9%)で全体の約8割となっている(表27)。

表27 問27 巡回相談員に会ったことはありますか。1つ選んでください。

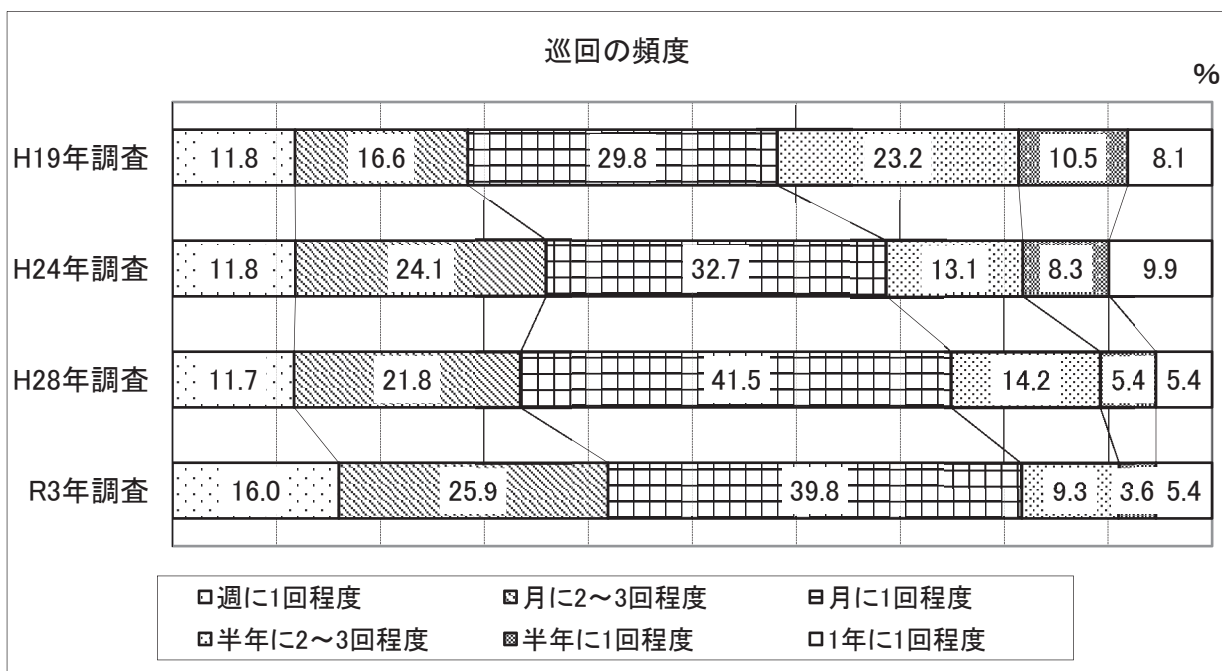
	人	%	有効%
1. 会ったことがあり、相談した	336	28.7	29.5
2. 会ったことはあるが、相談したことはない	563	48.2	49.4
3. 会ったことはない	240	20.5	21.1
有効回答数	1,139	97.4	100.0
無回答	30	2.6	
合計	1,169	100.0	



問27で「会ったことがあり、相談した」または「会ったことはあるが、相談したことはない」と回答した者が、どのくらいの頻度で巡回相談員に会っているかについては、「月に1回程度」が354人(39.8%)と最も多く、次いで「月に2～3回程度」が230人(25.9%)、「週に1回程度」が142人(16.0%)となっている(表27-1)。

表27-1 問27-1 問27で「1.会ったことがあり、相談した」または「2. 会ったことはあるが、相談したことはない」と答えた方について、どのくらいの頻度で会っていますか。1つ選んでください。

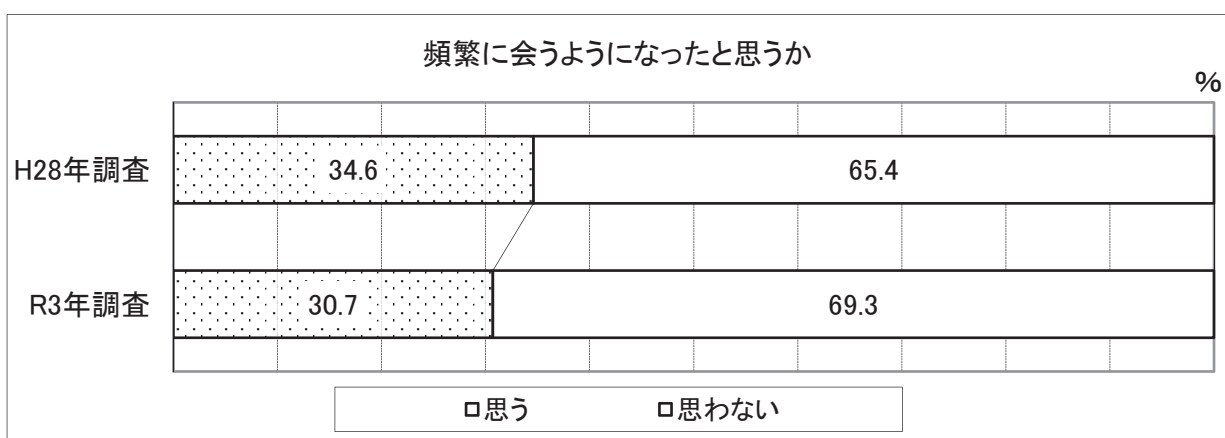
	人	%	有効%
1. 週に1回程度	142	12.1	16.0
2. 月に2～3回程度	230	19.7	25.9
3. 月に1回程度	354	30.3	39.8
4. 半年に2～3回程度	83	7.1	9.3
5. 半年に1回程度	32	2.7	3.6
6. 1年に1回程度	48	4.1	5.4
有効回答数	889	76.0	100.0
無回答	10	0.9	
非該当	270	23.1	
合計	1,169	100.0	



問27で「会ったことがあり、相談した」または「会ったことはあるが、相談したことはない」と回答した者が、ここ1年で、以前と比べて相談員が頻繁に会うようになったと思うかについては、「思う」が269人（30.7%）、「思わない」が608人（69.3%）となっている（表27-2）。

表27-2 問27-2 問27で「1.会ったことがあり、相談した」または「2. 会ったことはあるが、相談したことはない」と答えた方について、ここ1年で、以前と比べて相談員は頻繁に会うようになったと思いますか。1つ選んでください。

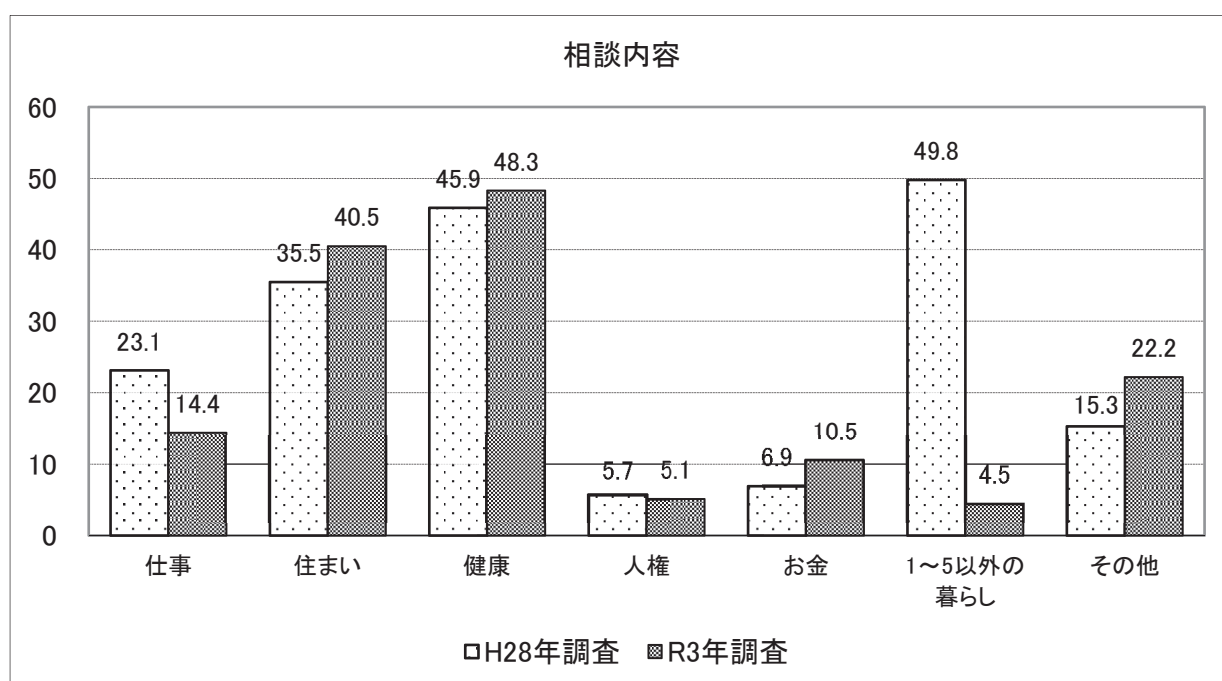
	人	%	有効%
1. 思う	269	23.0	30.7
2. 思わない	608	52.0	69.3
有効回答数	877	75.0	100.0
無回答	22	1.9	
非該当	270	23.1	
合計	1,169	100.0	



問27で「会ったことがあり、相談した」と回答した者が、どのような相談をしたかについては、「健康に関する相談」が161人(48.3%)、「住まいに関する相談」が135人(40.5%)、「仕事に関する相談」が48人(14.4%)となっている(表27-3)。

表27-3 問27-3 問27で「1.会ったことがあり、相談した」と答えた方について、どのような相談をしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 仕事に関する相談	48	9.9	14.4
2. 住まいに関する相談	135	27.8	40.5
3. 健康に関する相談	161	33.2	48.3
4. 人権に関する相談	17	3.5	5.1
5. お金に関する相談	35	7.2	10.5
6. 1～5以外の暮らしに関する相談	15	3.1	4.5
7. その他	74	15.3	22.2
有効回答数	485	100.0	145.6
有効回答者数	333	28.5	
無回答	3	0.3	
非該当	833	71.3	
合計	1,169	100.0	

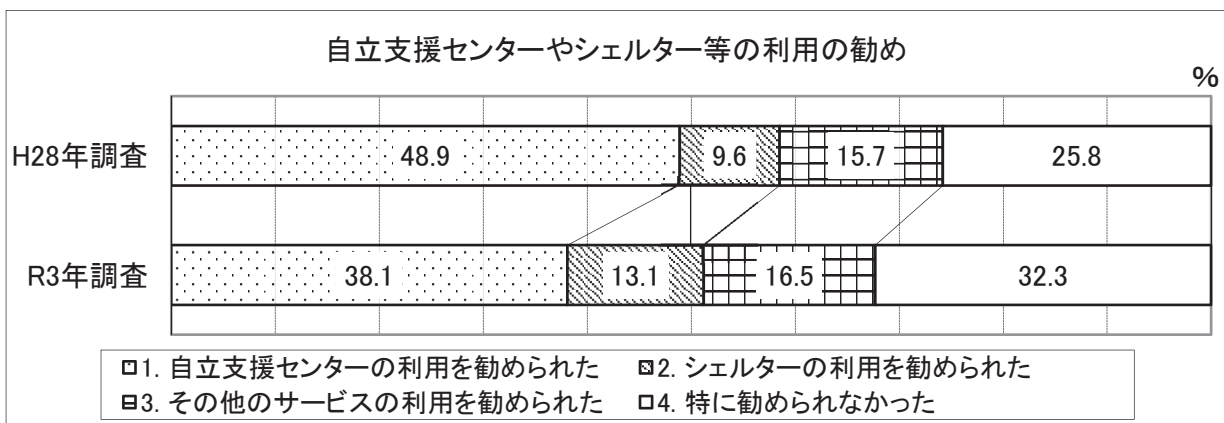


※R3年調査時の選択肢「1～5以外の暮らしに関する相談」は、H28年調査時は「暮らしに関する相談」としていた

問27で「会ったことがあり、相談した」または「会ったことはあるが、相談したことはない」と回答した者が、その際に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められたかについては、「自立支援センターの利用を勧められた」が332人(38.1%)、「シェルターの利用を勧められた」が114人(13.1%)となっている(表27-4)。

表27-4 問27-4 問27で「1.会ったことがあり、相談した」または「2. 会ったことはあるが、相談したことはない」と答えた方について、その際に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められましたか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 自立支援センターの利用を勧められた	332	28.4	38.1
2. シェルターの利用を勧められた	114	9.8	13.1
3. その他のサービスの利用を勧められた	144	12.3	16.5
4. 特に勧められなかった	282	24.1	32.3
有効回答数	872	74.6	100.0
無回答	27	2.3	
非該当	270	23.1	
合計	1,169	100.0	

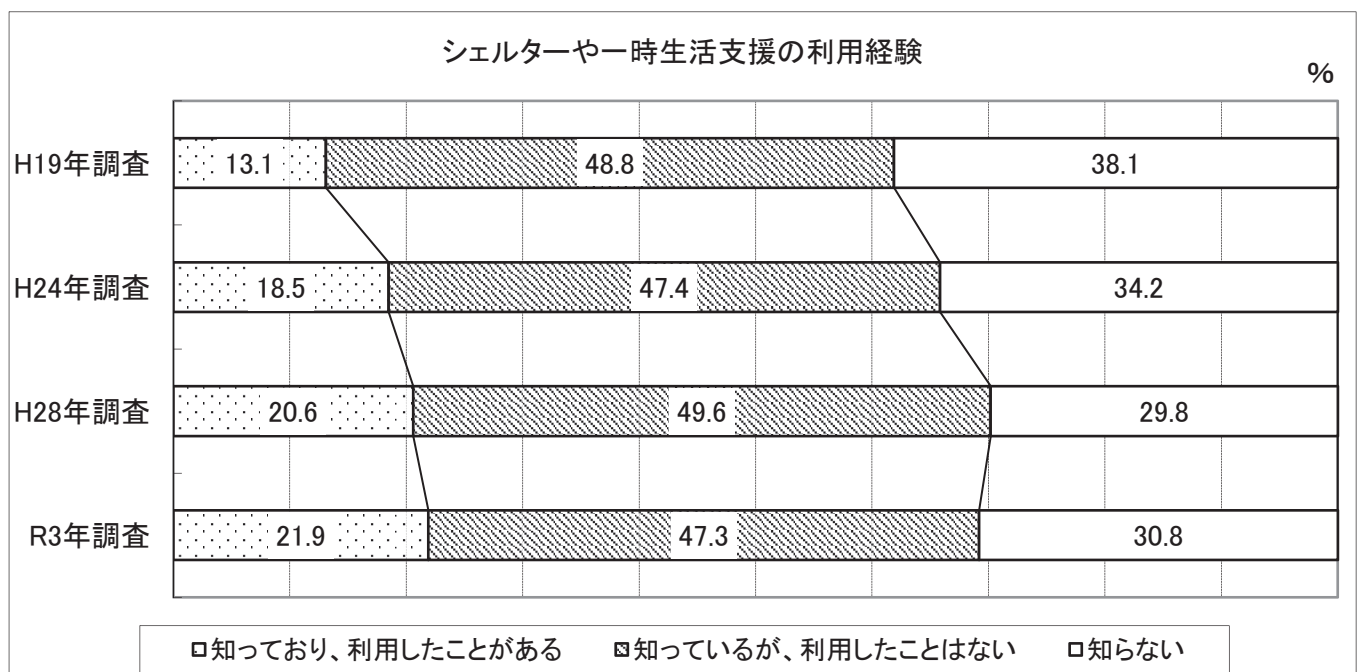


2 シェルターの利用

緊急的な一時宿泊場所であるシェルターや一時生活支援の利用状況については、「知っており、利用したことがある」が246人(21.9%)、「知っているが、利用したことはない」が531人(47.3%)、「知らない」が346人(30.8%)となっており、シェルターや一時生活支援を知っていると回答した者は777人(69.2%)で全体の約7割となっている(表28)。

表28 問28 緊急的な一時宿泊場所としてシェルターや一時生活支援がありますが、この施設の内容を知っていますか。1つ選んでください。

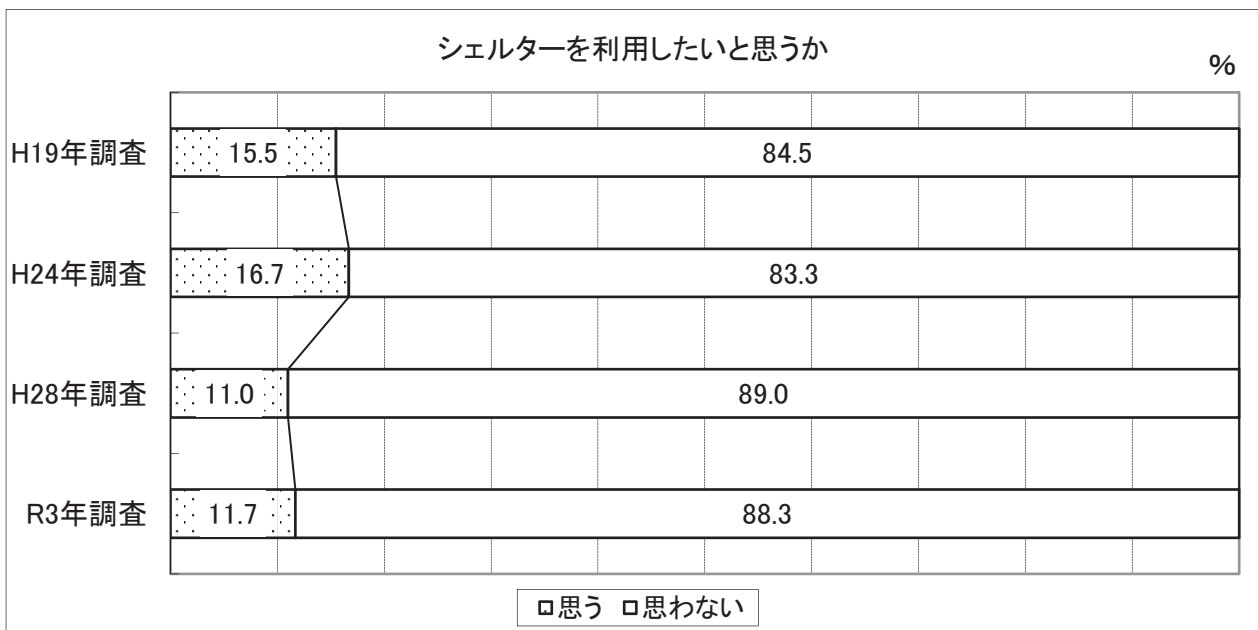
	人	%	有効%
1. 知っており、利用したことがある	246	21.0	21.9
2. 知っているが、利用したことはない	531	45.4	47.3
3. 知らない	346	29.6	30.8
有効回答数	1,123	96.1	100.0
無回答	46	3.9	
合計	1,169	100.0	



問28で「知っているが、利用したことはない」と回答した者が今後シェルターを利用したいと思うかについては、「思う」が62人(11.7%)、「思わない」が468人(88.3%)となっている(表28-1)。

表28-1 問28-1 問28で「2.知っているが、利用したことはない」と答えた方について、今後シェルターを利用したいと思いますか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 思う	62	5.3	11.7
2. 思わない	468	40.0	88.3
有効回答数	530	45.3	100.0
無回答	1	0.1	
非該当	638	54.6	
合計	1,169	100.0	

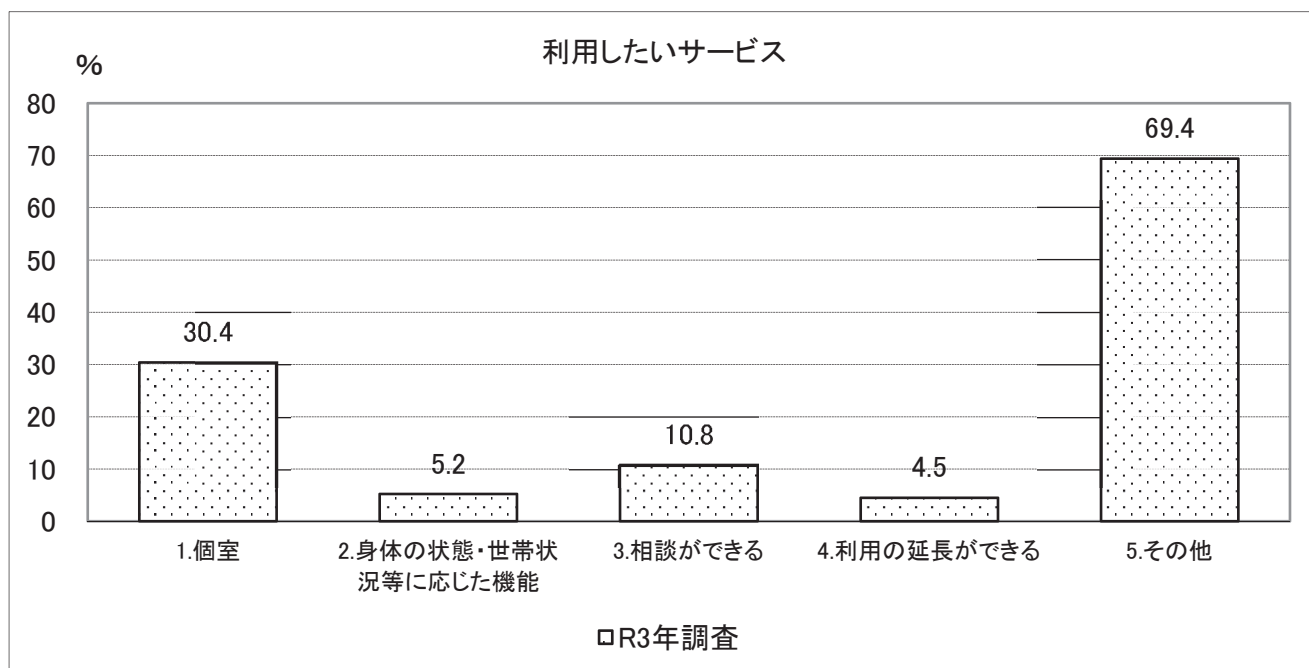


思わないにコメントのあった398人の内訳	人	%
ひとりが良い・団体が苦手	88	22.1
必要に感じない	86	21.6
今の生活で良い	49	12.3
制限が煩わしい	22	5.5
わからない・なんとなく	15	3.8
施設が嫌、利用したくない	15	3.8
世話になりたくない	14	3.5
印象・評判が悪い	10	2.5
めんどくさい	9	2.3
環境の問題(遠い、虫が出るなど)	9	2.3
健康だから	5	1.3
ペットがいる	5	1.3
個別理由	71	17.8
合計	398	

問28-1で「思わない」と回答した者が利用したいと思うサービスについては、「個室(完全個室または間仕切られている個室)」が135人(30.4%)と最も多く、次いで「今後の生活・住居の確保等、さまざまな相談ができる」が48人(10.8%)となっている(表28-2)。

表28-2 問28-2 問28-1で「2.思わない」と答えた方について、どのようなサービスがあれば利用したいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 個室(完全個室または間仕切られている個室)	135	25.3	30.4
2. 身体の状態・世帯状況等に応じた機能が備わっている (エレベーター・車いす対応トイレ・浴室の設置、性別・世帯構成に配慮した設計)	23	4.3	5.2
3. 今後の生活・住居の確保等、さまざまな相談ができる	48	9.0	10.8
4. 利用の延長ができる(期限を設けて急かされない)	20	3.7	4.5
5. その他	308	57.7	69.4
有効回答数	534	100.0	120.3
有効回答者数	444	38.0	
無回答	24	2.1	
非該当	701	60.0	
合計	1,169	100.0	

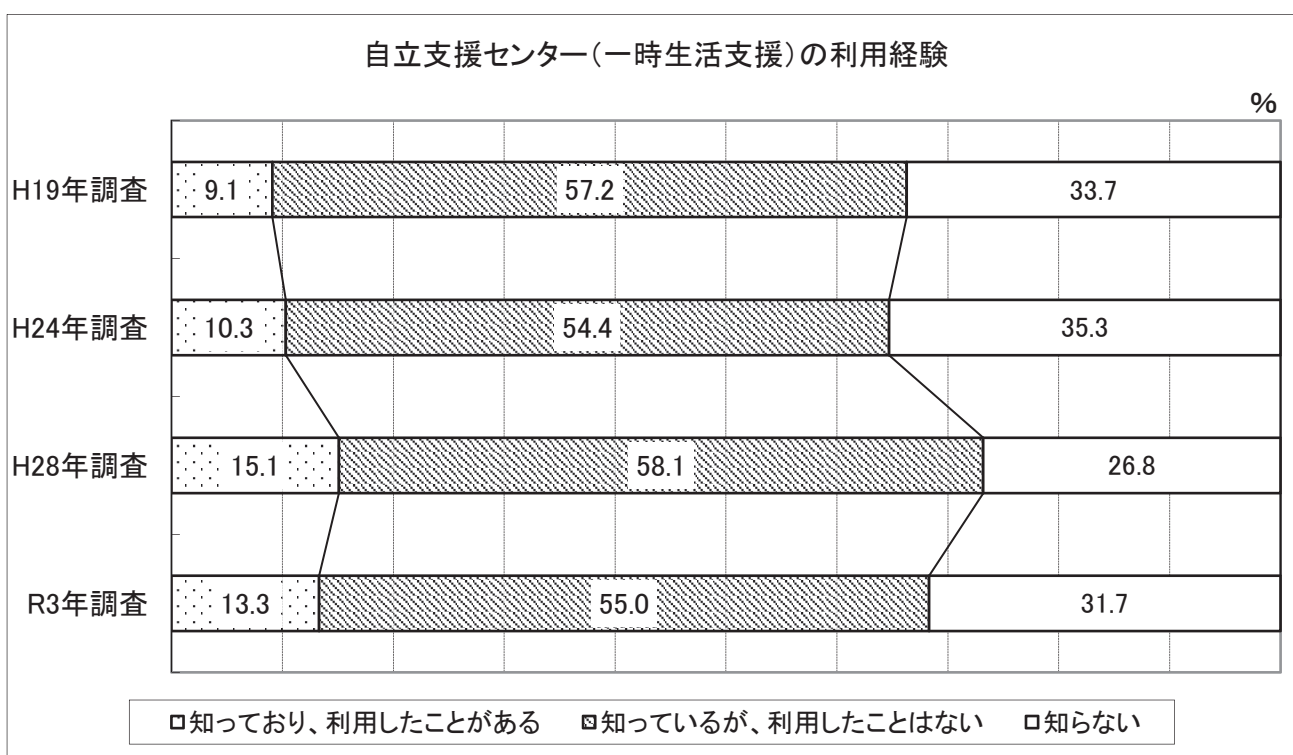


3 自立支援センターの利用

自立支援センター（一時生活支援）の利用状況については、「知っており、利用したことがある」が149人（13.3%）、「知っているが、利用したことはない」が617人（55.0%）、「知らない」が356人（31.7%）となっており、センターを知っていると回答した者は、766人（68.3%）と、全体の約7割に達している（表29）。

表29 問29 一定期間入所して、食事、健康管理、生活相談や職業相談を受け、就労による自立をするための施設（自立支援センター（一時生活支援））がありますが、この施設の内容を知っていますか。1つ選んでください。

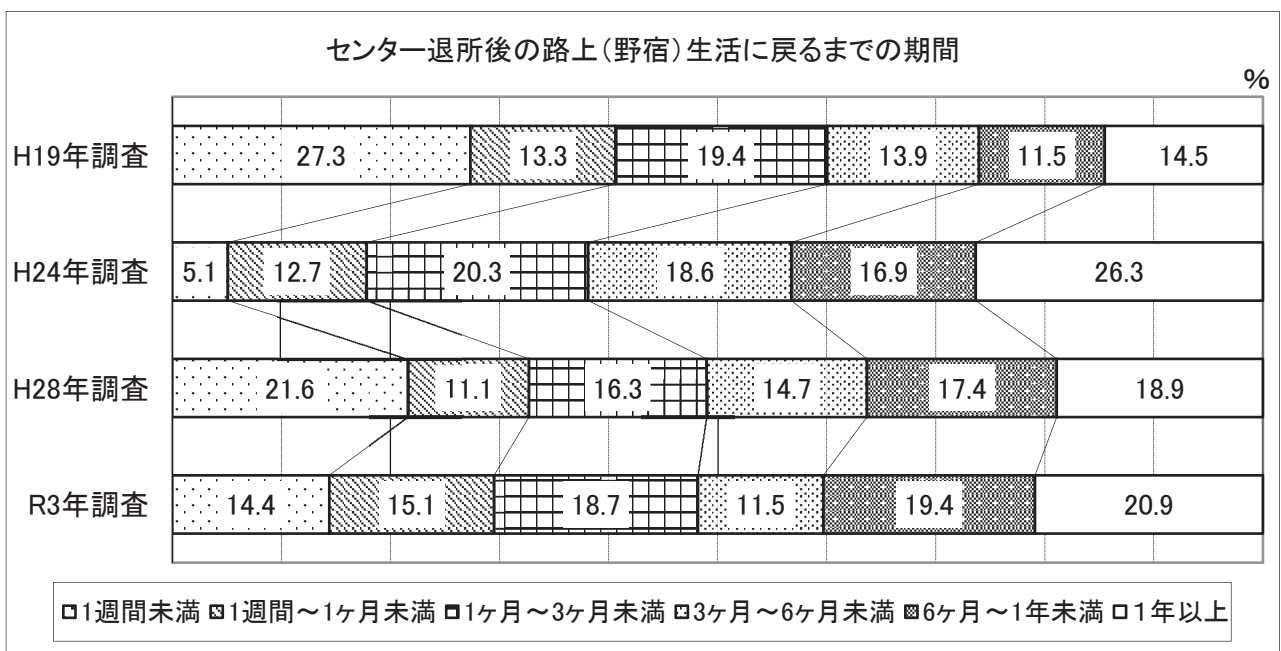
	人	%	有効%
1. 知っており、利用したことがある	149	12.7	13.3
2. 知っているが、利用したことはない	617	52.8	55.0
3. 知らない	356	30.5	31.7
有効回答数	1,122	96.0	100.0
無回答	47	4.0	
合計	1,169	100.0	



問29で「知っており、利用したことがある」と回答した者が自立支援センターを退所してから路上（野宿）生活に戻るまでの期間については、「1年以上」が29人（20.9%）と最も多く、次いで「6ヶ月～1年未満」が27人（19.4%）となっている（表29-1）。

表29-1 問29-1 問29で「1.知っており、利用したことがある」と答えた方について、退所から路上（野宿）生活に戻るまでの期間はどのくらいでしたか。

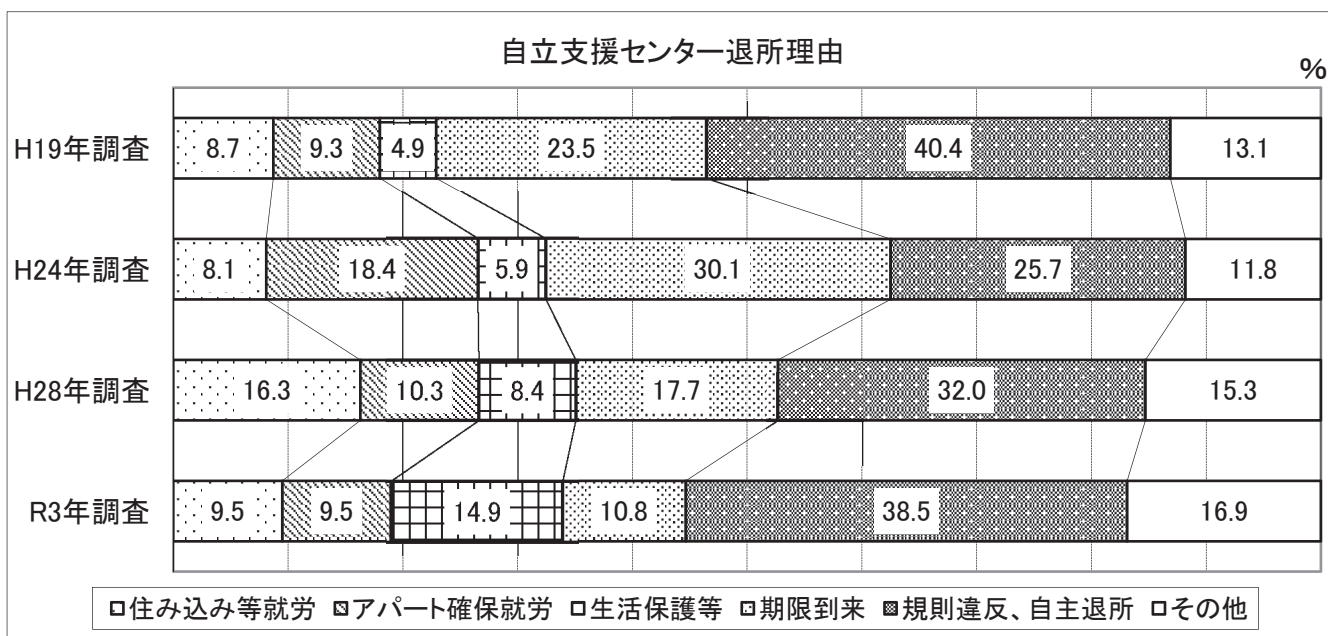
	人	%	有効%
1週間未満	20	1.7	14.4
1週間～1ヶ月未満	21	1.8	15.1
1ヶ月～3ヶ月未満	26	2.2	18.7
3ヶ月～6ヶ月未満	16	1.4	11.5
6ヶ月～1年未満	27	2.3	19.4
1年以上	29	2.5	20.9
有効回答数	139	11.9	100.0
無回答	10	0.9	
非該当	1,020	87.3	
合計	1,169	100.0	



また、問29で「知っており、利用したことがある」と回答した者が自立支援センターを退所した理由は、「期限到来前に規則違反、自主退所、無断退所により退所」が57人(38.5%)と最も多く、次いで「生活保護の適用による入院、施設入所及びアパート等居宅の確保により退所」が22人(14.9%)となっている(表29-2)。

表29-2 問29-2 問29で「1.知っており、利用したことがある」と答えた方について、退所理由は何ですか。
1つ選んでください。

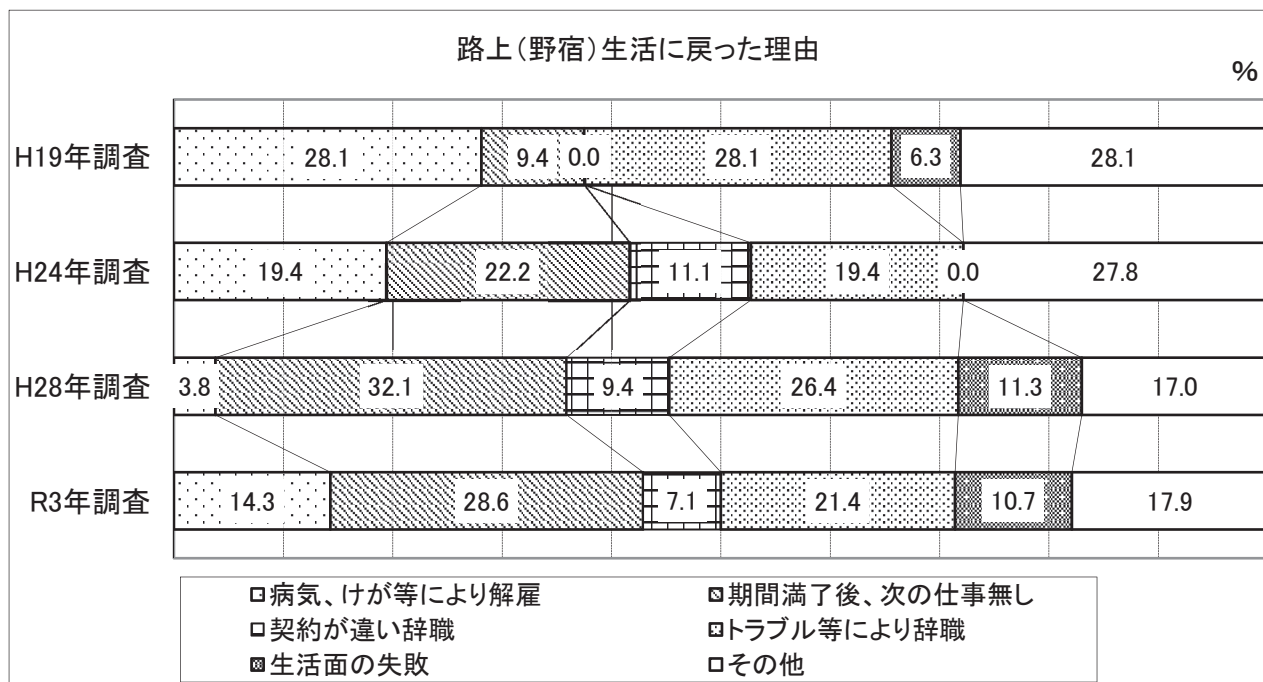
	人	%	有効%
1. 会社の寮、住み込み等による就労退所	14	1.2	9.5
2. アパートを確保しての就労退所	14	1.2	9.5
3. 生活保護の適用による入院、施設入所及びアパート等居宅の確保により退所	22	1.9	14.9
4. 期限到来により退所	16	1.4	10.8
5. 期限到来前に規則違反、自主退所、無断退所により退所	57	4.9	38.5
6. その他	25	2.1	16.9
有効回答数	148	12.7	100.0
無回答	1	0.1	
非該当	1,020	87.3	
合計	1,169	100.0	



問29-2で就労により退所(「会社の寮、住み込み等による就労退所」または「アパートを確保しての就労退所」)した者が路上生活に戻った理由については、「仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった」が8人(28.6%)と最も多くなっている。

表29-3 問29-3 問29-2で「1. 会社の寮、住み込み等による就労退所」または「2. アパートを確保しての就労退所」と答えた方について、路上(野宿)生活に戻った主な理由は何ですか。1つ選んでください。

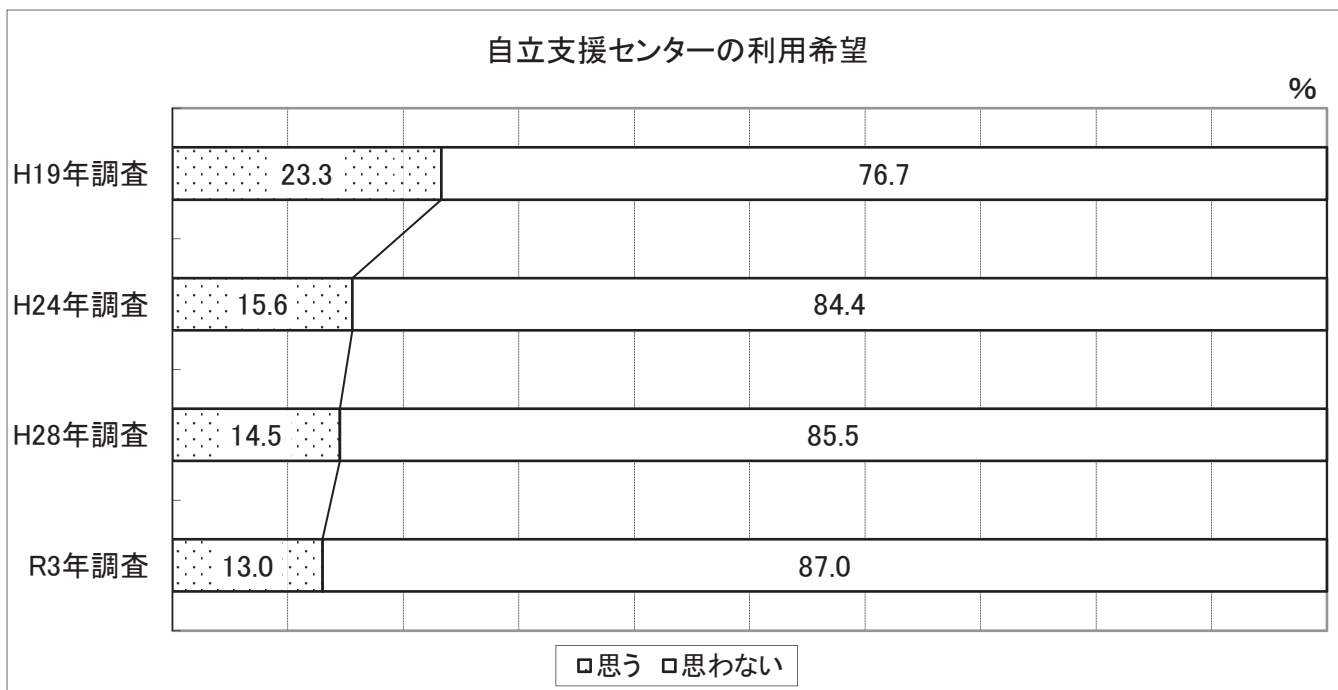
	人	%	有効%
1. 病気、けが、高齢等の理由で仕事を解雇された	4	0.3	14.3
2. 仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった	8	0.7	28.6
3. 仕事の内容が聞いていたもの(雇用契約)と違い、自ら仕事を辞めた	2	0.2	7.1
4. 周囲とのトラブルや仕事になじめない等により、仕事を辞めた	6	0.5	21.4
5. 生活の面で失敗があった	3	0.3	10.7
6. その他	5	0.4	17.9
有効回答数	28	2.4	100.0
無回答	-	-	
非該当	1,141	97.6	
合計	1,169	100.0	



問29で「知っているが、利用したことはない」と回答した者が今後自立支援センターを利用したいと思うかについては、「思う」が79人(13.0%)、「思わない」が531人(87.0%)となっている(表29-4)。

表29-4 問29-4 問29で「2.知っているが、利用したことはない」と答えた方について、今後自立支援センターを利用したいと思いますか。1つ選んでください。

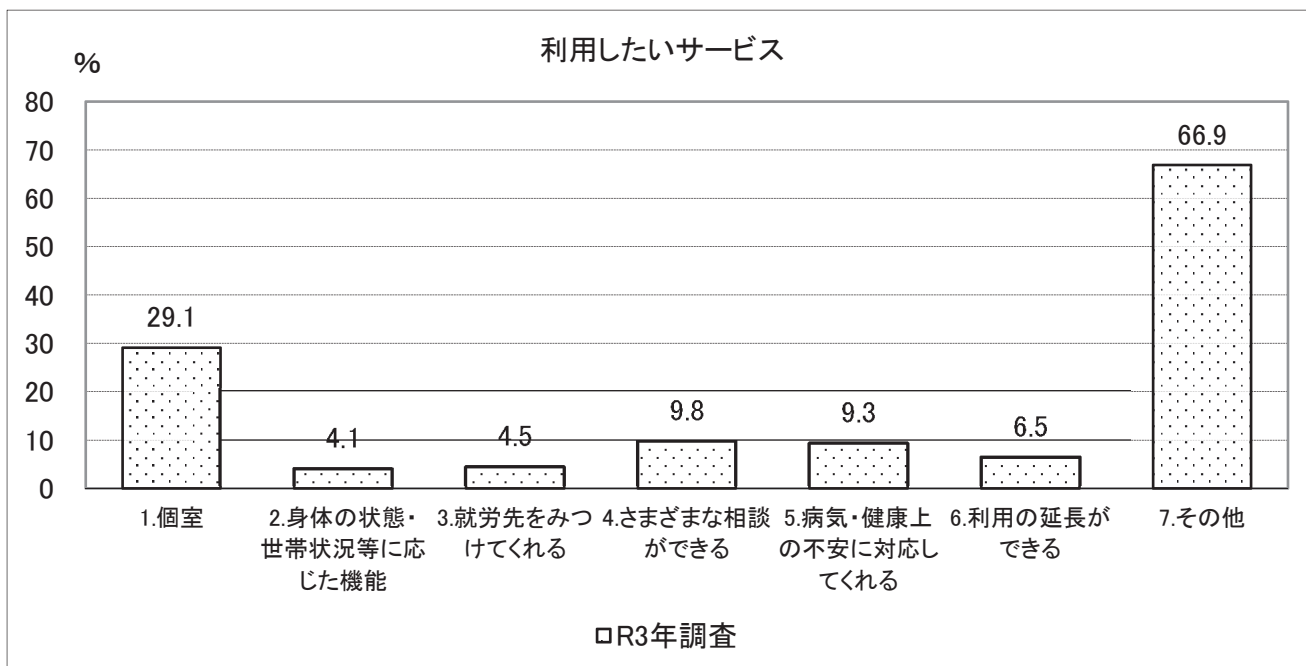
	人	%	有効%
1. 思う	79	6.8	13.0
2. 思わない	531	45.4	87.0
有効回答数	610	52.2	100.0
無回答	7	0.6	
非該当	552	47.2	
合計	1,169	100.0	



問29-4で「思わない」と回答した者が利用したいと思うサービスについては、「個室(完全個室または間仕切られている個室)」が143人(29.1%)と最も多く、次いで「就労だけではなく、今後の生活・住居の確保等、さまざまな相談ができる」が48人(9.8%)、「病気や健康上の不安にも対応してくれる」が46人(9.3%)となっている(表29-5)。

表29-5 問29-5 問29-4で「2.思わない」と答えた方について、どのようなサービスがあれば、自立支援センターを利用したいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 個室(完全個室または間仕切られている個室)	143	22.3	29.1
2. 身体の状態・世帯状況等に応じた機能が備わっている (エレベーター・車いす対応トイレ・浴室の設置、性別・世帯構成に配慮した設計)	20	3.1	4.1
3. 年齢に関わらず就労先をみつけてくれる	22	3.4	4.5
4. 就労だけではなく、今後の生活・住居の確保等、さまざまな相談ができる	48	7.5	9.8
5. 病気や健康上の不安にも対応してくれる	46	7.2	9.3
6. 利用の延長ができる(期限を設けて急かされない)	32	5.0	6.5
7. その他	329	51.4	66.9
有効回答数	640	100.0	130.1
有効回答者数	492	42.1	
無回答	39	3.3	
非該当	638	54.6	
合計	1,169	100.0	

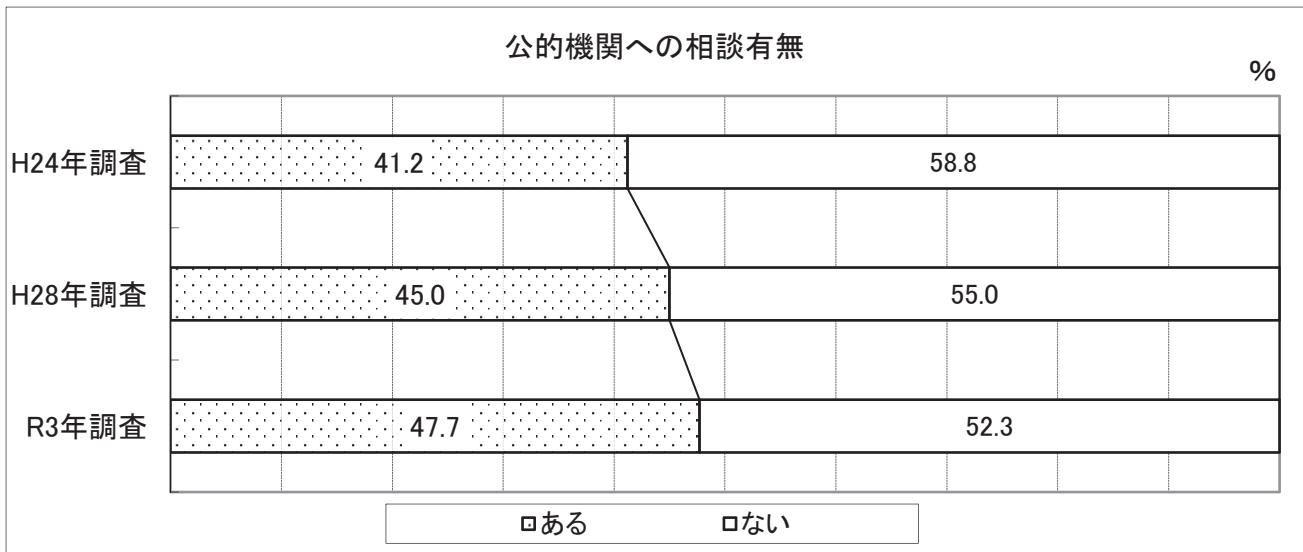


4 公的機関への相談状況

公的機関への相談状況については、「ある」が541人(47.7%)、「ない」が594人(52.3%)となっている(表30)。

表30 問30 これまで福祉事務所等の公的機関に相談に行ったことがありますか。1つ選んでください。

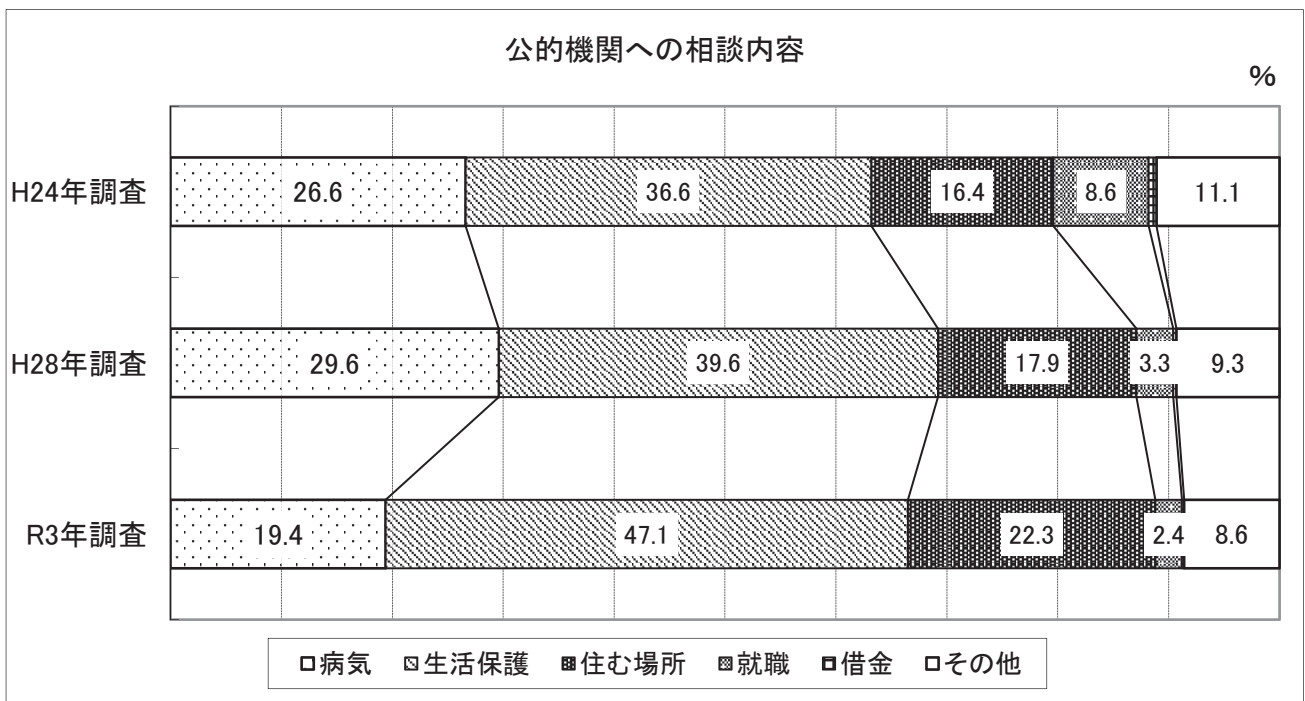
	人	%	有効%
1. ある	541	46.3	47.7
2. ない	594	50.8	52.3
有効回答数	1,135	97.1	100.0
無回答	34	2.9	
合計	1,169	100.0	



問30で「ある」と回答した者がどのような相談をしたかについては、「生活保護」が253人(47.1%)と最も多く、次いで「住む場所」が120人(22.3%)となっている(表30-1)。

表30-1 問30-1 問30で「1.ある」と答えた方について、どういう相談をしましたか。1つ選んでください。

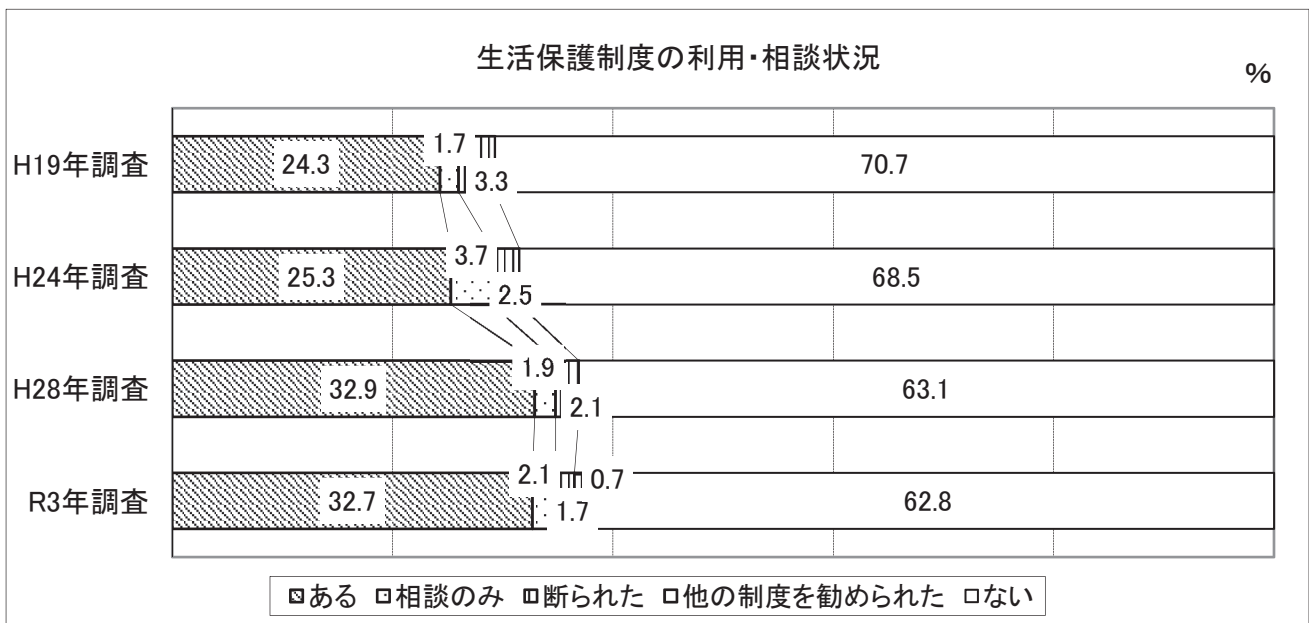
	人	%	有効%
1. 病気	104	8.9	19.4
2. 生活保護	253	21.6	47.1
3. 住む場所	120	10.3	22.3
4. 就職	13	1.1	2.4
5. 借金	1	0.1	0.2
6. その他	46	3.9	8.6
有効回答数	537	45.9	100.0
無回答	4	0.3	
非該当	628	53.7	
合計	1,169	100.0	



生活保護の利用状況については、「ある」が371人(32.7%)、「相談には行ったが利用したことはない」が24人(2.1%)、「相談には行ったが断られた」が19人(1.7%)、「相談に行き制度を勧められた」が8人(0.7%)、「ない」が712人(62.8%)となっている(表31)。

表31 問31 これまで生活保護制度を利用したことがありますか。1つ選んでください。

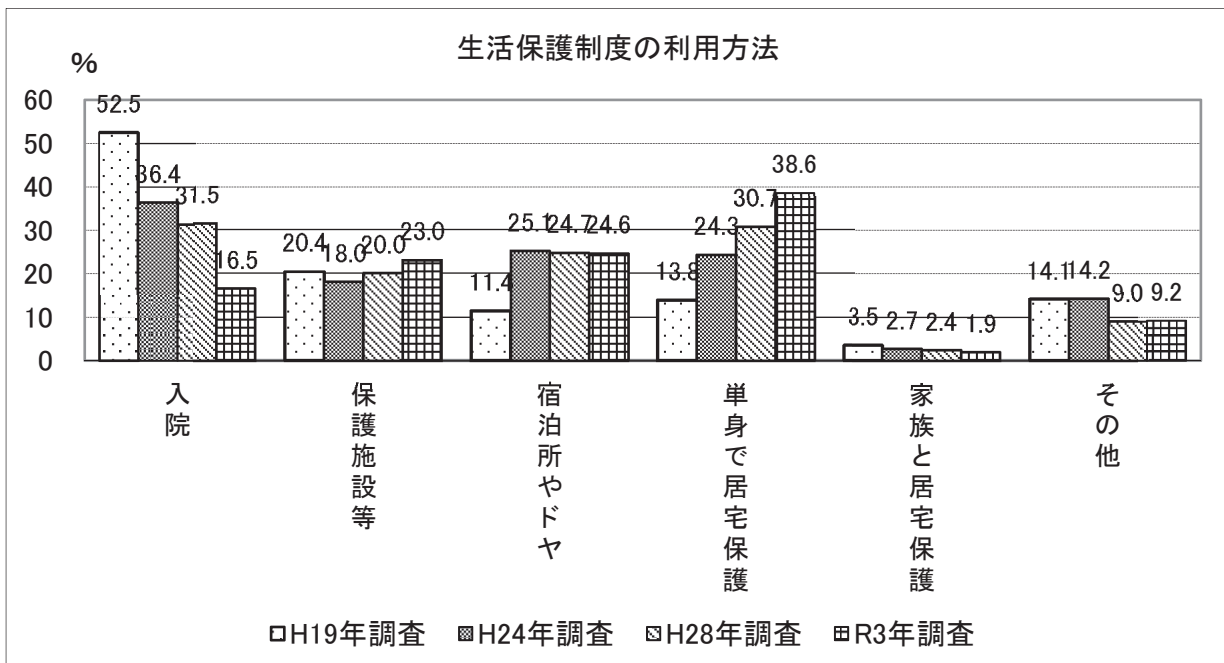
	人	%	有効%
1. ある	371	31.7	32.7
2. 相談には行ったが利用したことはない	24	2.1	2.1
3. 相談には行ったが断られた	19	1.6	1.7
4. 相談に行き他の制度を勧められた	8	0.7	0.7
5. ない	712	60.9	62.8
有効回答数	1,134	97.0	100.0
無回答	35	3.0	
合計	1,169	100.0	



次に、問31で「ある」と回答した者の利用方法については、「アパート等で単身で生活保護を受けた」が143人(38.6%)と最も多く、次いで「宿泊所やドヤ等で生活保護を受けた」が91人(24.6%)、「保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた」が85人(23.0%)となっている(表31-1)。

表31-1 問31-1 問31で「1.ある」と答えた方の利用の方法は次のどれでしたか。あてはまるものをすべて選んで下さい。

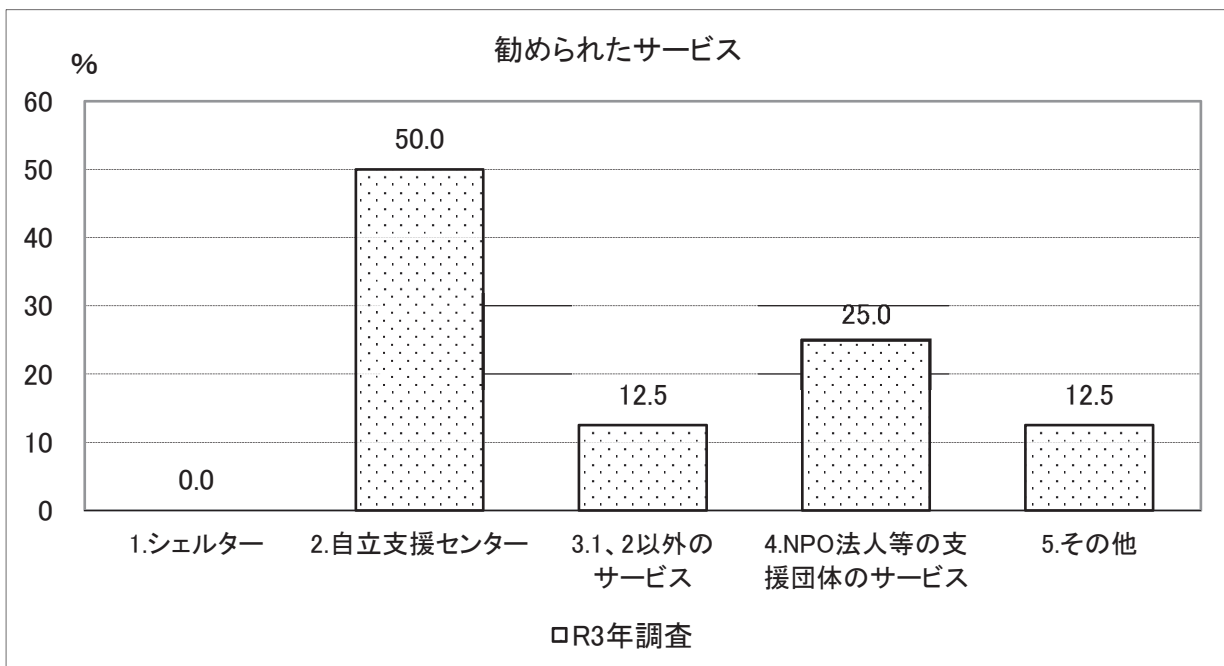
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 病院に入院して生活保護を受けた	61	14.5	16.5
2. 保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた	85	20.2	23.0
3. 宿泊所やドヤ等で生活保護を受けた	91	21.6	24.6
4. アパート等で単身で生活保護を受けた	143	34.0	38.6
5. アパート等で家族と一緒に生活保護を受けた	7	1.7	1.9
6. その他	34	8.1	9.2
有効回答数	421	100.0	113.8
有効回答者数	370	31.7	
無回答	1	0.1	
非該当	798	68.3	
合計	1,169	100.0	



問31で「相談に行き他の制度を勧められた」と回答した者の勧められたサービスについては、「公的機関が実施するサービス(自立支援センター)」が4人(50.0%)と最も多く、次いで「NPO法人等の支援団体のサービス」が2人(25.0%)となっている(表31-2)。

表31-2 問31-2 問31で「4.相談に行き他の制度を勧められた」と答えた方について、勧められたサービスはどのようなサービスでしたか。あてはまるものをすべて選んでください。

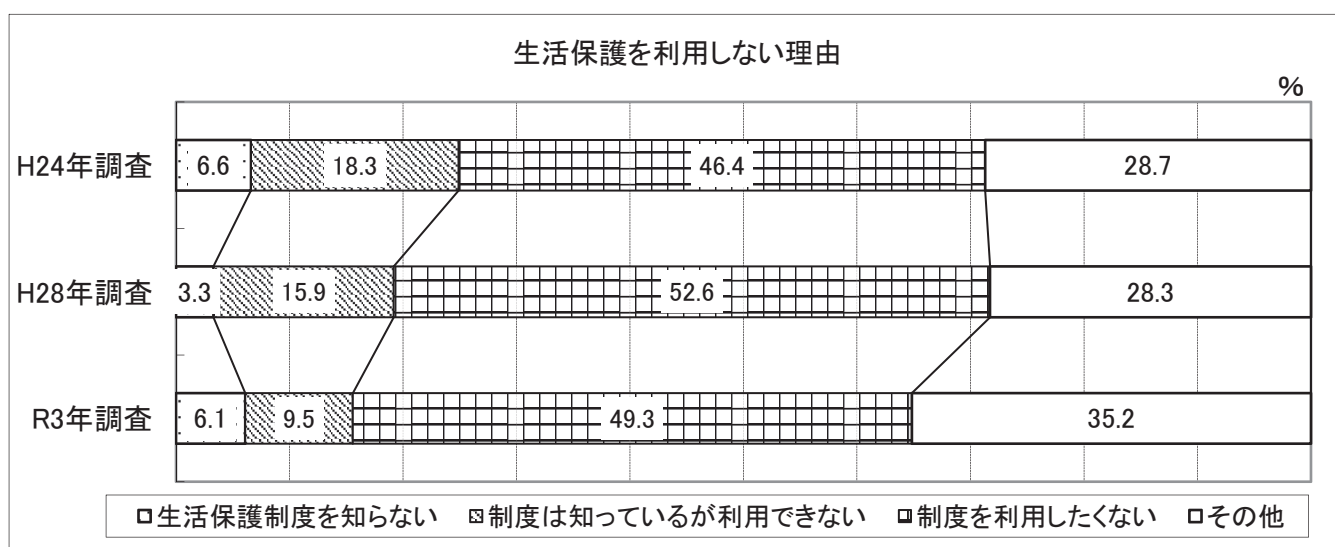
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 公的機関が実施するサービス(シェルター)	—	—	—
2. 公的機関が実施するサービス(自立支援センター)	4	50.0	50.0
3. 公的機関が実施するサービス(1、2以外のサービス)	1	12.5	12.5
4. NPO法人等の支援団体のサービス	2	25.0	25.0
5. その他	1	12.5	12.5
有効回答数	8	100.0	100.0
有効回答者数	8	0.7	
無回答	—	—	
非該当	1,161	99.3	
合計	1,169	100.0	



また、問31で「ない」と回答した者の利用したことがない理由については、「制度を利用したくない」が349人（49.3%）、「制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」が67人（9.5%）となっている（表31-3）。

表31-3 問31-3 問31で「5. ない」と答えた方について、それはなぜですか。1つ選んでください。

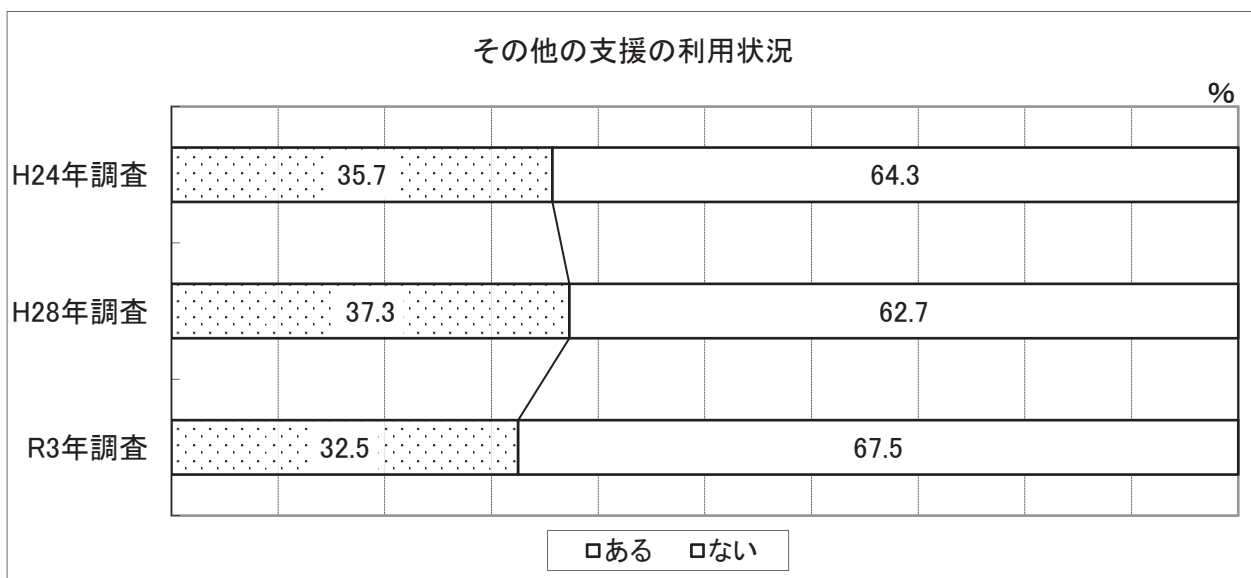
	人	%	有効%
1. 生活保護制度を知らない	43	3.7	6.1
2. 制度は知っているが、自分は利用できないと思っている	67	5.7	9.5
3. 制度を利用したくない	349	29.9	49.3
4. その他	249	21.3	35.2
有効回答数	708	60.6	100.0
無回答	4	0.3	
非該当	457	39.1	
合計	1,169	100.0	



その他の公的機関への相談状況については、「ある」が368人(32.5%)、「ない」が766人(67.5%)となっている(表32)。

表32 問32 その他のホームレスに対する公的支援(住宅の斡旋や宿泊事業、健康診断、食糧支給、衣類の支給等)を利用したことがありますか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. ある	368	31.5	32.5
2. ない	766	65.5	67.5
有効回答数	1,134	97.0	100.0
無回答	35	3.0	
合計	1,169	100.0	

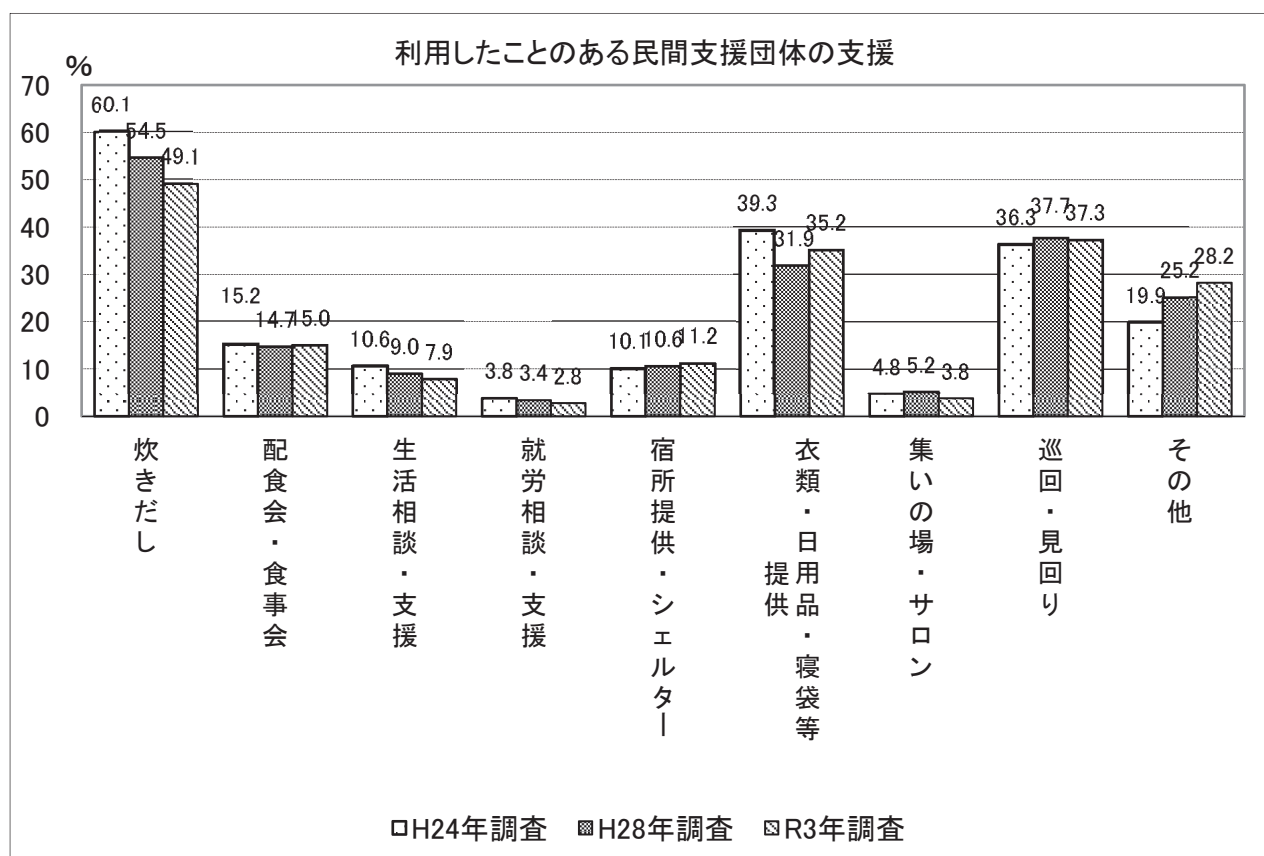


5 民間団体の支援の利用

民間団体の支援の利用状況については、「炊きだし」が505人(49.1%)と最も多く、次いで「巡回・見回り」が383人(37.3%)となっている(表33)。

表33 問33 これまでにどのような民間団体の支援を利用したことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

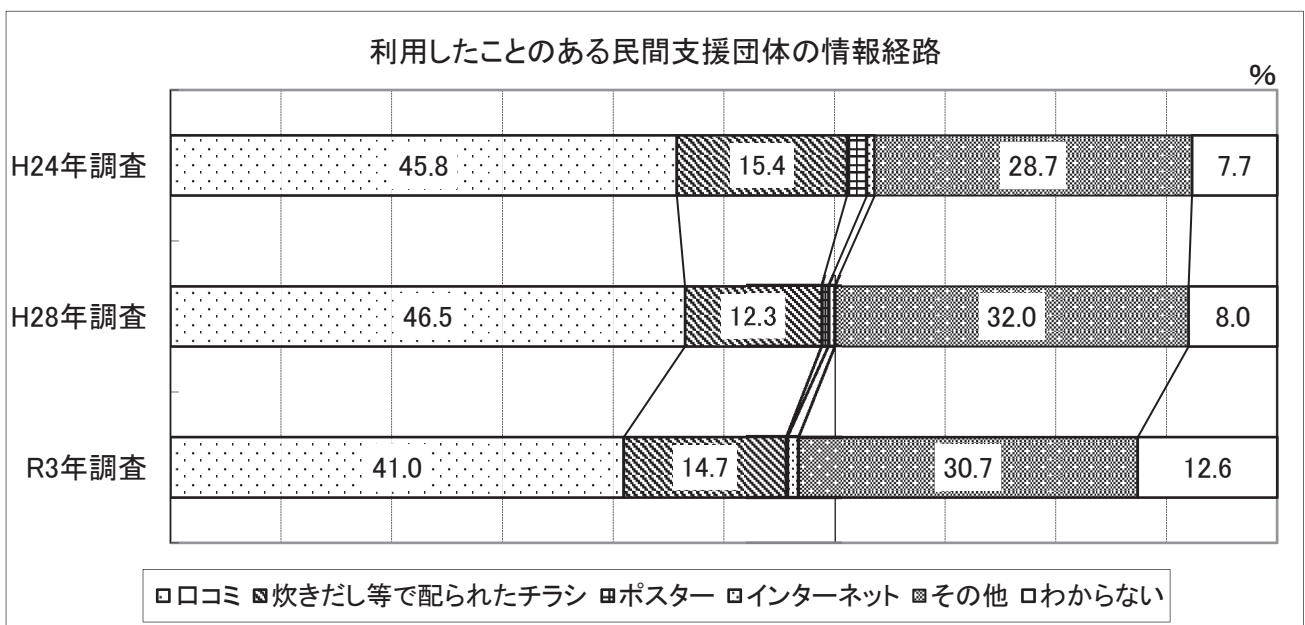
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 炊きだし	505	25.8	49.1
2. 配食会・食事会	154	7.9	15.0
3. 生活相談・支援	81	4.1	7.9
4. 就労相談・支援	29	1.5	2.8
5. 宿所提供・シェルター	115	5.9	11.2
6. 衣類・日用品・寝袋等提供	362	18.5	35.2
7. 集いの場・サロン	39	2.0	3.8
8. 巡回・見回り	383	19.6	37.3
9. その他	290	14.8	28.2
有効回答数	1,958	100.0	190.5
有効回答者数	1,028	87.9	
無回答	141	12.1	
合計	1,169	100.0	



利用したことのある支援団体を知った手段については、「口コミ」が408人(41.0%)と最も多く、次いで「炊きだしや夜回りで配られたチラシ等」が146人(14.7%)となっている(表34)。

表34 問34 あなたが利用したことのある支援団体について、どこで知りましたか。

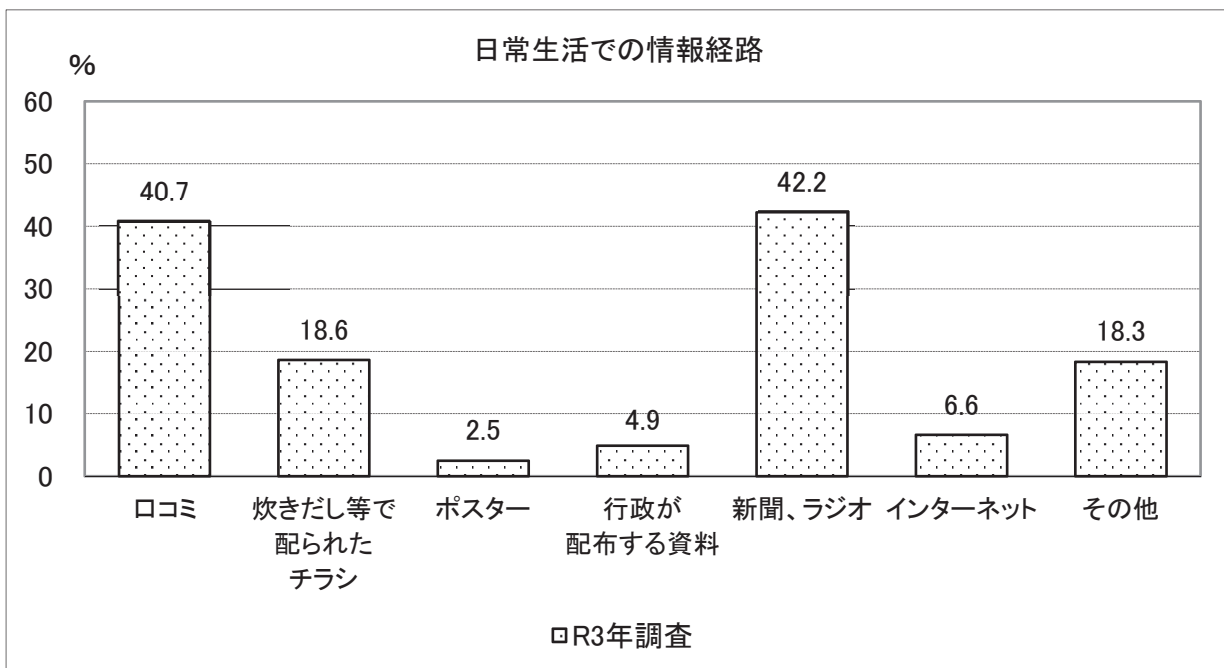
	人	%	有効%
1. 口コミ	408	34.9	41.0
2. 炊きだしや夜回りで配られたチラシ等	146	12.5	14.7
3. ポスター	1	0.1	0.1
4. インターネット	10	0.9	1.0
5. その他	306	26.2	30.7
6. わからない	125	10.7	12.6
有効回答数	996	85.2	100.0
有効回答者数	996	85.2	
無回答	173	14.8	
合計	1,169	100.0	



普段情報を得ている媒体については、「新聞、ラジオ」が470人(42.2%)と最も多く、次いで「口コミ」が453人(40.7%)となっている(表35)。

表35 問35 支援団体に限らず、普段どのような媒体から情報を得ていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 口コミ	453	30.4	40.7
2. 炊きだしや夜回りで配られたチラシ等	207	13.9	18.6
3. ポスター	28	1.9	2.5
4. 行政が配布する資料	55	3.7	4.9
5. 新聞、ラジオ	470	31.5	42.2
6. インターネット	74	5.0	6.6
7. その他	204	13.7	18.3
有効回答数	1,491	100.0	133.8
有効回答者数	1,114	95.3	
無回答	55	4.7	
合計	1,169	100.0	



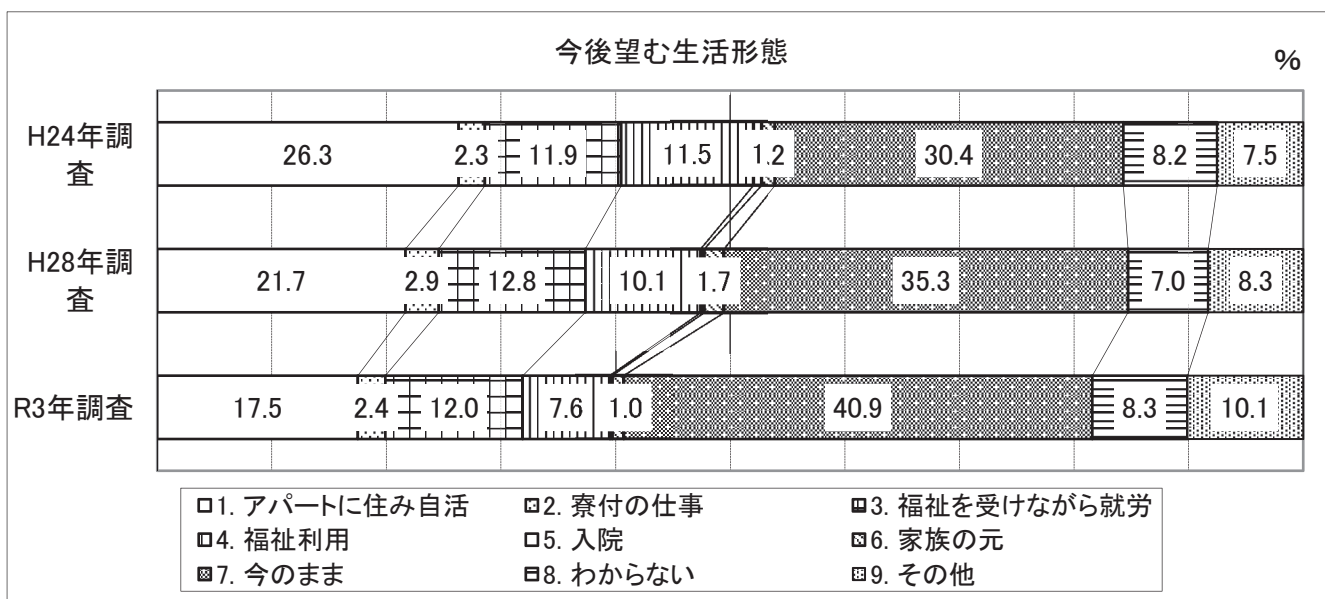
第6章 今後の生活について

1 今後の希望

今どのような生活を望んでいるかについては、「今のままでいい(路上(野宿)生活)」が466人(40.9%)で最も多く、次いで「アパートに住み、就職して自活したい」が199人(17.5%)、「アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつけないが」が137人(12.0%)となっている(表36)。

表36 問36 今後、どのような生活を望んでいますか。1つ選んでください。

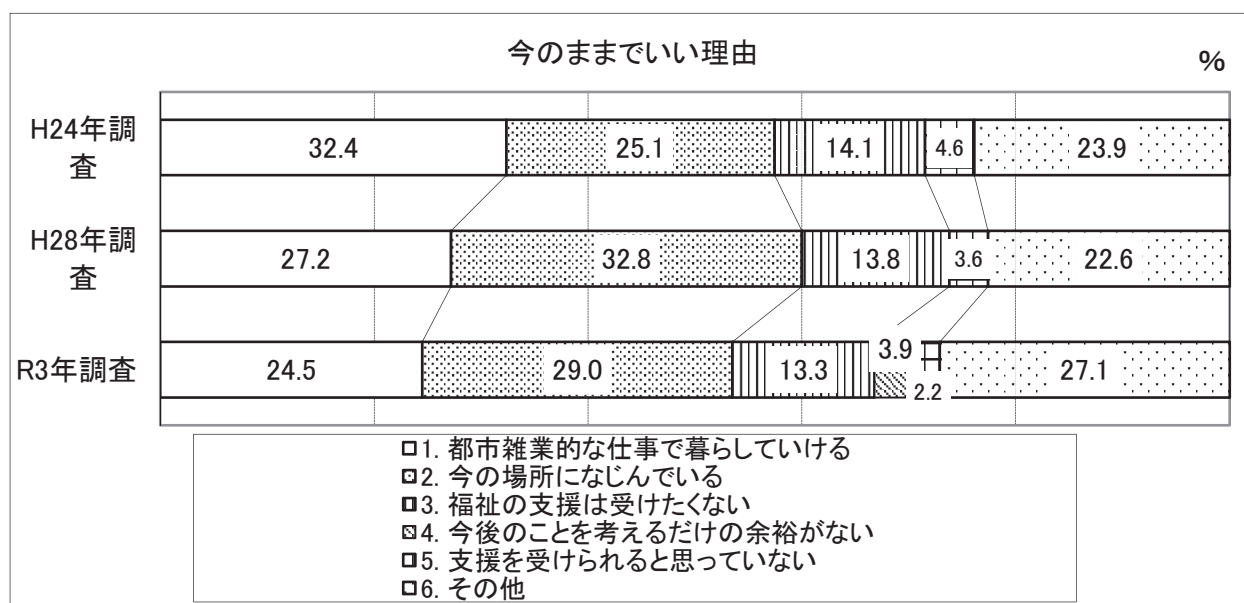
	人	%	有効%
1. アパートに住み、就職して自活したい	199	17.0	17.5
2. 寮付の仕事で自活したい	27	2.3	2.4
3. アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつけないが	137	11.7	12.0
4. 就職することはできないので何らかの福祉(生活保護や施設入所等)を利用して生活したい	86	7.4	7.6
5. 入院したい	2	0.2	0.2
6. 家族の元に戻りたい	11	0.9	1.0
7.今のままでいい(路上(野宿)生活)	466	39.9	40.9
8. わからない	95	8.1	8.3
9. その他	115	9.8	10.1
有効回答数	1,138	97.3	100.0
無回答	31	2.7	
合計	1,169	100.0	



問36で「今のままでいい」と回答した者の理由については、「今の場所になじんでいる」が135人（29.0%）と最も多く、次いで「アルミ缶、雑誌集め等の都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」が114人（24.5%）となっている（表36-1）。

表36-1 問36-1 問36で「7.今のままでいい」と答えた方について、それはどうしてですか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. アルミ缶、雑誌集め等の都市雑業的な仕事があるので暮らしていける	114	9.8	24.5
2. 今の場所になじんでいる	135	11.5	29.0
3. 福祉の支援は受けたくない	62	5.3	13.3
4. 今後のことを考えるだけの余裕がない	18	1.5	3.9
5. 支援を受けられると思っていない	10	0.9	2.2
6. その他	126	10.8	27.1
有効回答数	465	39.8	100.0
無回答	1	0.1	
非該当	703	60.1	
合計	1,169	100.0	



2 求職活動

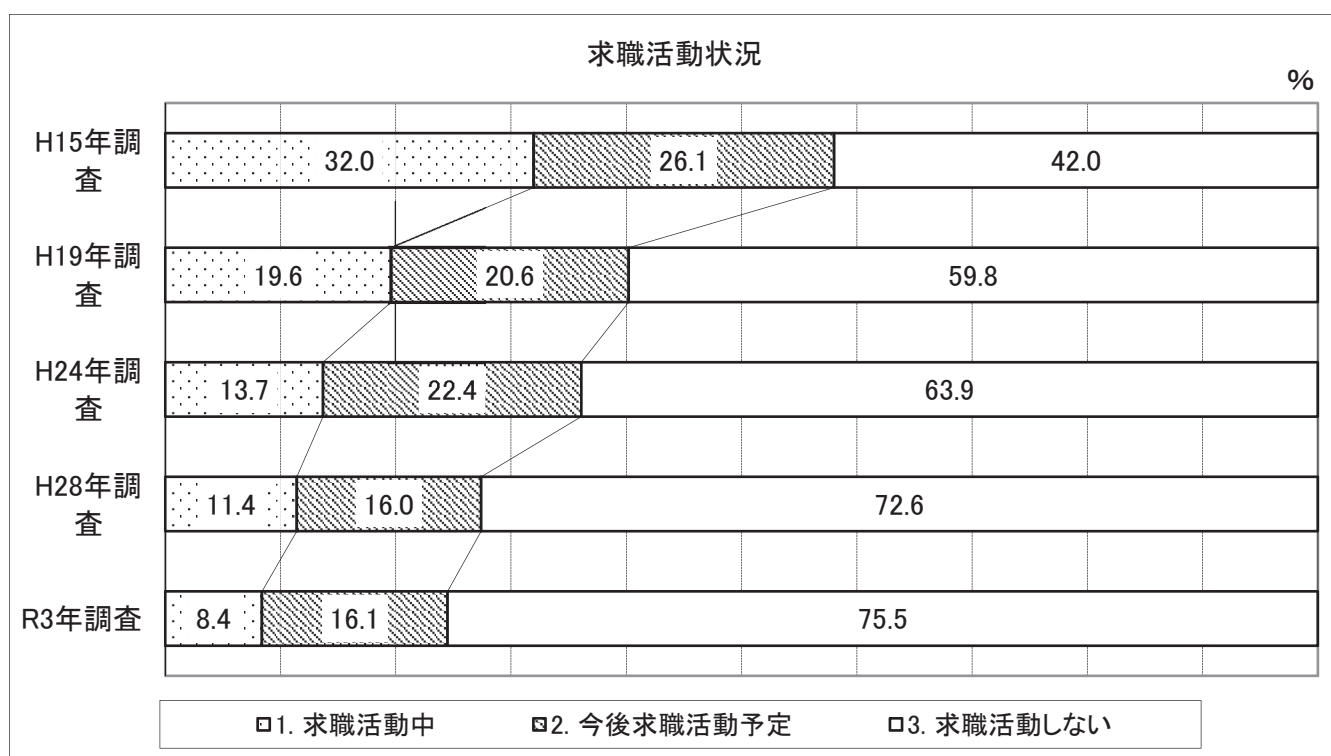
求職活動については、「求職活動中」が95人(8.4%)となっている。

一方、「今は求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」が856人(75.5%)となっている。

また、「今は求職活動をしていないが、今後、求職活動をする予定である」が183人(16.1%)となっている(表37)。

表37 問37 現在、就職するための求職活動をしていますか。1つ選んでください。

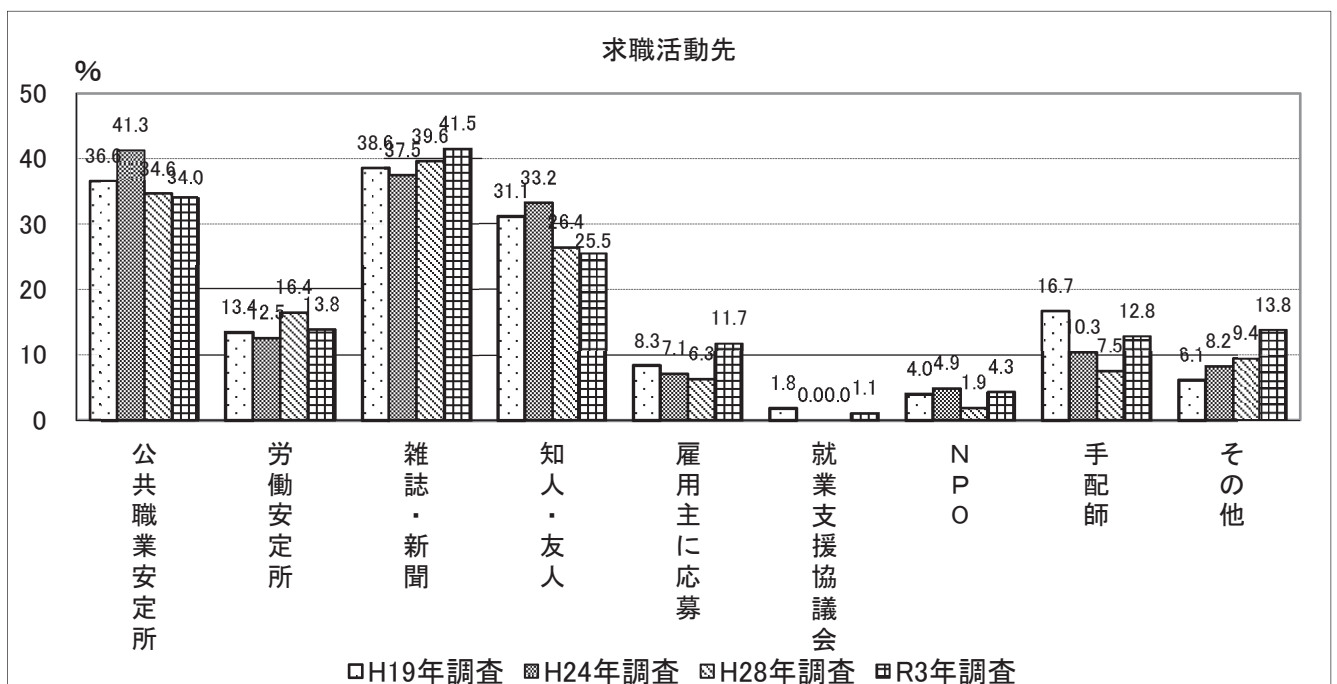
	人	%	有効%
1. 求職活動をしている	95	8.1	8.4
2. 今は求職活動をしていないが、今後、求職活動をする予定である	183	15.7	16.1
3. 今は求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない	856	73.2	75.5
有効回答数	1,134	97.0	100.0
無回答	35	3.0	
合計	1,169	100.0	



次に問37で「求職活動をしている」と回答した者がどのように求職活動しているかについては、「求人雑誌・新聞」が39人(41.5%)と最も多く、次いで「一般の公共職業安定所(ハローワーク)」が32人(34.0%)となっている(表37-1)。

表37-1 問37-1 問37で「1.求職活動をしている」と答えた方について、どのように求職活動していますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

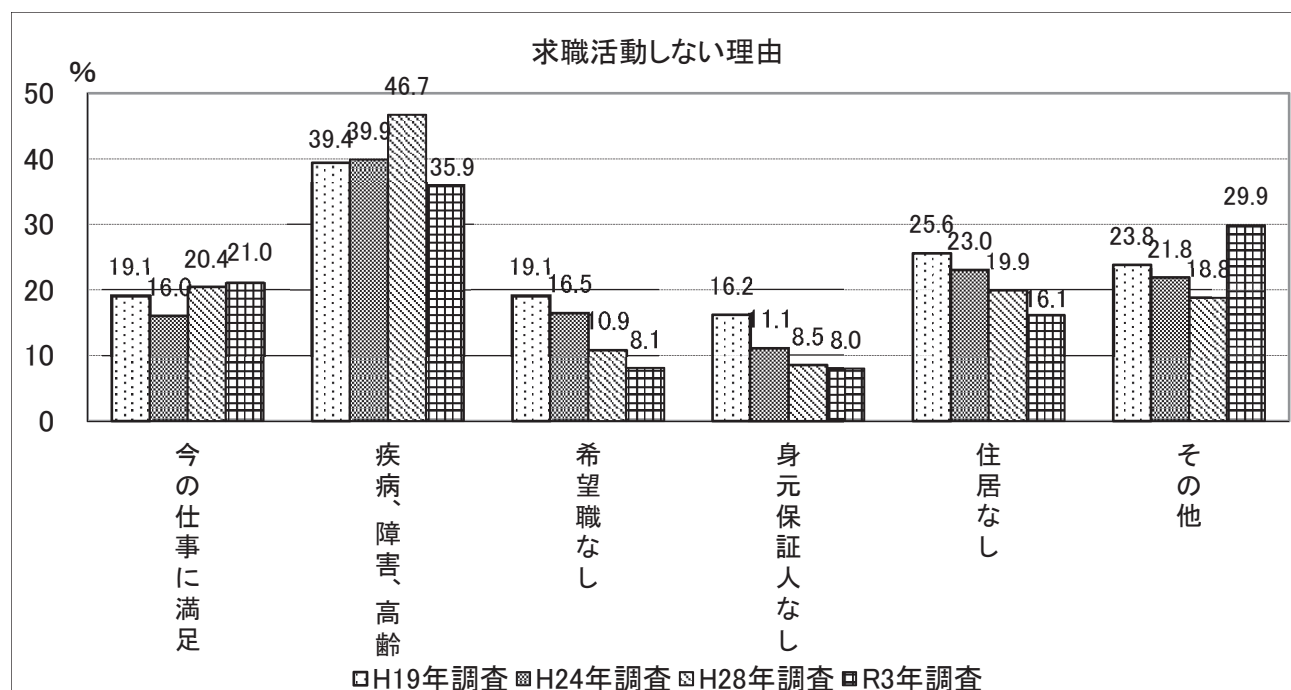
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 一般の公共職業安定所(ハローワーク)	32	21.5	34.0
2. 労働安定所(日雇労働者を主に扱う公共職業安定所)	13	8.7	13.8
3. 求人雑誌・新聞	39	26.2	41.5
4. 知人・友人等からの情報	24	16.1	25.5
5. 直接雇用主に応募	11	7.4	11.7
6. ホームレス就業支援事業推進協議会	1	0.7	1.1
7. NPO団体	4	2.7	4.3
8. 手配師	12	8.1	12.8
9. その他	13	8.7	13.8
有効回答数	149	100.0	158.5
有効回答者数	94	8.0	100.0
無回答	1	0.1	
非該当	1,074	91.9	
合計	1,169	100.0	



また、問37で「今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」または「今は求職活動をしていないが、今後、求職活動する予定である」と回答した者の求職活動をしていない理由については、「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」が366人(35.9%)と最も多く、次いで「今の仕事で満足しているから」が214人(21.0%)となっている(表37-2)。

表37-2 問37-2 問37で「2.今は求職活動をしていないが、今後、求職活動をする予定である」または「3.今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」と答えた方について、なぜ求職活動をしていないのですか。あてはまるものをすべて選んでください。

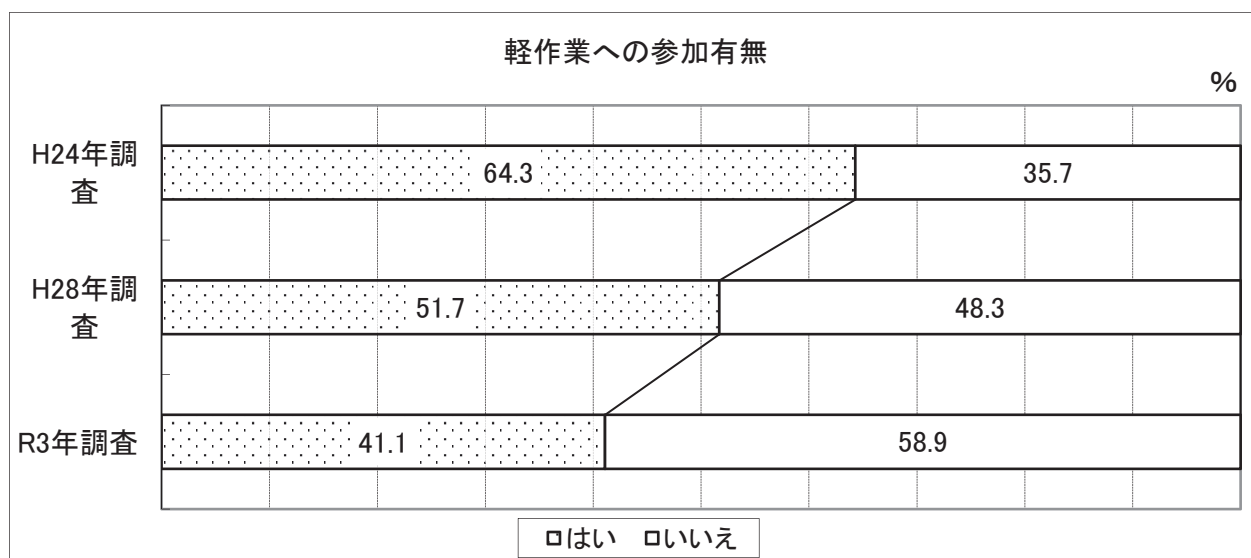
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 今の仕事で満足しているから	214	17.6	21.0
2. 疾病、障害、病弱、高齢で働けないから	366	30.1	35.9
3. 自分の希望する職業を探してもないと思うから	83	6.8	8.1
4. 就職の際の身元保証人がいないと難しいと思うから	82	6.8	8.0
5. 住居がないと採用されないと思うから	164	13.5	16.1
6. その他	305	25.1	29.9
有効回答数	1,214	100.0	119.1
有効回答者数	1,019	87.2	
無回答	20	1.7	
非該当	130	11.1	
合計	1,169	100.0	



また、問37-2で「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」、「自分の希望する職業を探してもないと思うから」、「就職の際の身元保証人がいないと難しいと思うから」、「住居がないと採用されないと思うから」と回答した者のうち、生活リズムをつくるための軽作業を勧められたら参加するかについて、「はい」が211人(41.1%)、「いいえ」が303人(58.9%)となっている(表37-3)。

表37-3 問37-3 問37-2で「2.疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」または「3.自分の希望する職業を探してもないと思うから」または「4.就職の際の身元保証人がいないと難しいと思うから」または「5.住居がないと採用されないと思うから」と答えた方について、生活のリズムをつくるための軽作業を勧められたら参加しますか。1つ選んでください。

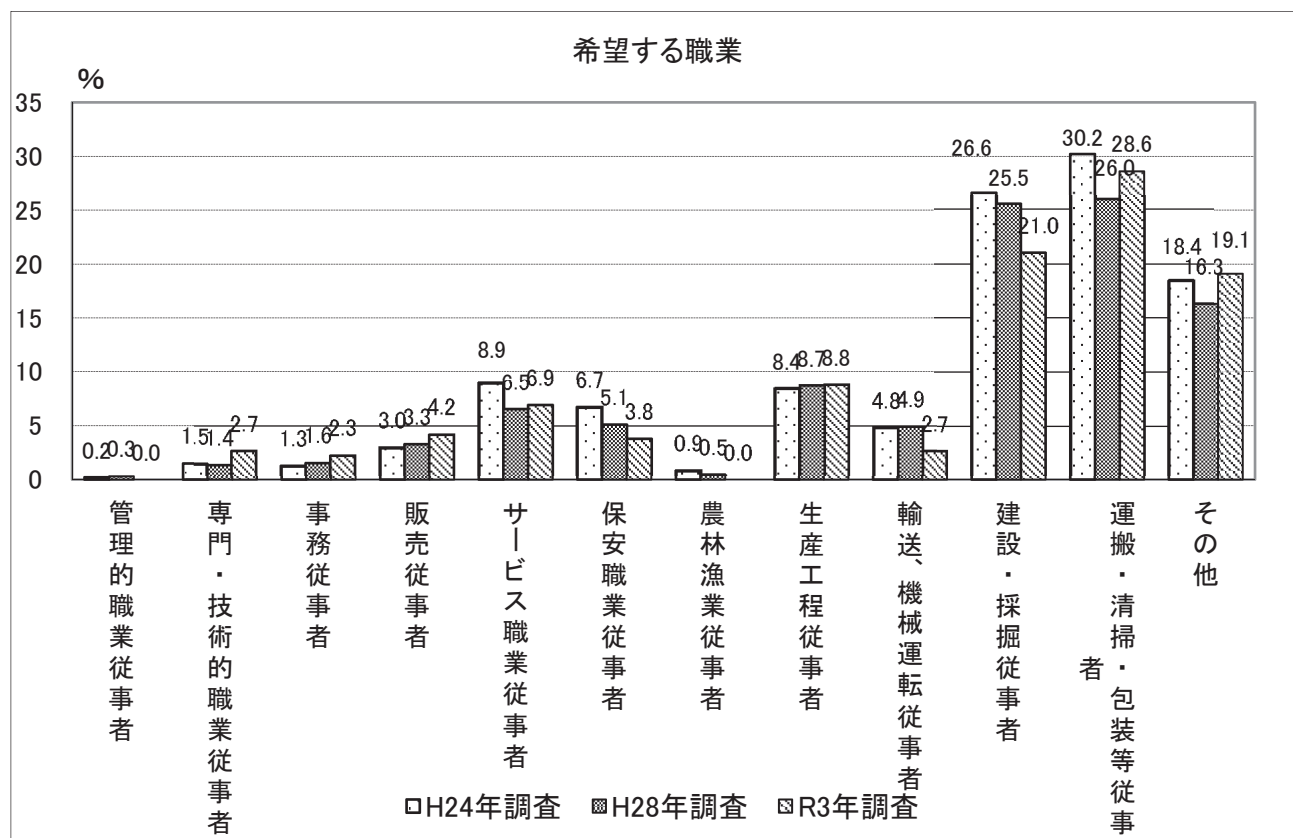
	人	%	有効%
1. はい	211	18.0	41.1
2. いいえ	303	25.9	58.9
有効回答数	514	44.0	100.0
無回答	32	2.7	
非該当	623	53.3	
合計	1,169	100.0	



問37で「求職活動をしている」、「今は求職活動をしていないが、今後、求職活動する予定である」と回答した者が希望する職業については、「運搬・清掃・包装等従事者」が75人(28.6%)と最も多く、次いで「建設・採掘従事者」が55人(21.0%)となっている(表37-4)。

表37-4 問37-4 問37で「1.求職活動をしている」または「2.今は求職活動をしていないが、今後、求職活動をする予定である」と答えた方について、どのような職業を希望していますか。

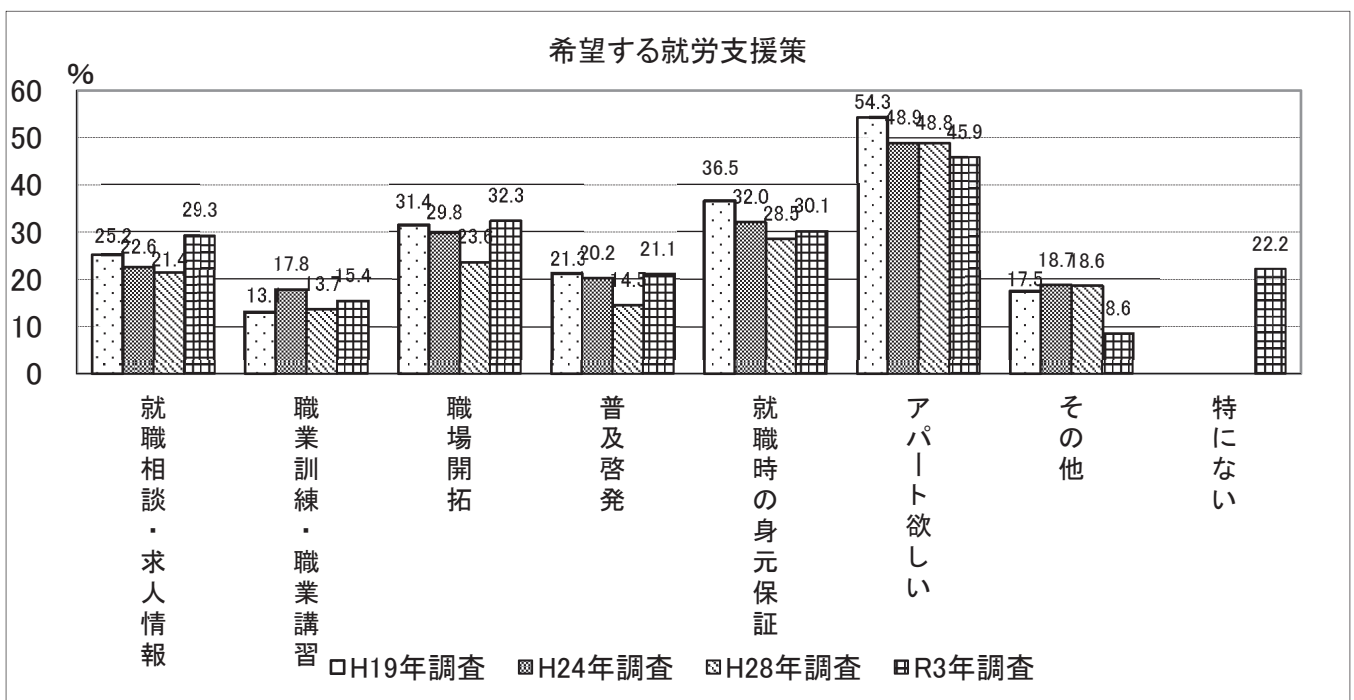
	人	%	有効%
01. 管理的職業従事者	—	—	—
02. 専門・技術的職業従事者	7	0.6	2.7
03. 事務従事者	6	0.5	2.3
04. 販売従事者	11	0.9	4.2
05. サービス職業従事者	18	1.5	6.9
06. 保安職業従事者	10	0.9	3.8
07. 農林漁業従事者	—	—	—
08. 生産工程従事者	23	2.0	8.8
09. 輸送、機械運転従事者	7	0.6	2.7
10. 建設・採掘従事者	55	4.7	21.0
11. 運搬・清掃・包装等従事者	75	6.4	28.6
12. その他	50	4.3	19.1
有効回答数	262	22.4	100.0
無回答	16	1.4	
非該当	891	76.2	
合計	1,169	100.0	



また、就職するために望む支援については、「住所を設定する必要があるのでアパートがほしい」が122人(45.9%)と最も多く、次いで「自分たちにあった仕事を開拓してほしい」が86人(32.3%)、「就職の際の身元保証の援助をしてほしい」が80人(30.1%)となっている(表37-5)。

表37-5 問37-5 就職するためにあなたが望む支援は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. もっと身近に就職の相談や求人情報をみられるようにしてほしい	78	14.3	29.3
2. 職業訓練、職業講習を受けられるようにしてほしい	41	7.5	15.4
3. 自分たちにあった仕事を開拓してほしい	86	15.8	32.3
4. 事業主のホームレスに対する理解を進めてほしい	56	10.3	21.1
5. 就職の際の身元保証の援助をしてほしい	80	14.7	30.1
6. 住所を設定する必要があるのでアパートがほしい	122	22.4	45.9
7. その他	23	28.8	8.6
8. 特にない	59	10.8	22.2
有効回答数	545	100.0	204.9
有効回答者数	266	22.8	
無回答	12	1.0	
非該当	891	76.2	
合計	1,169	100.0	

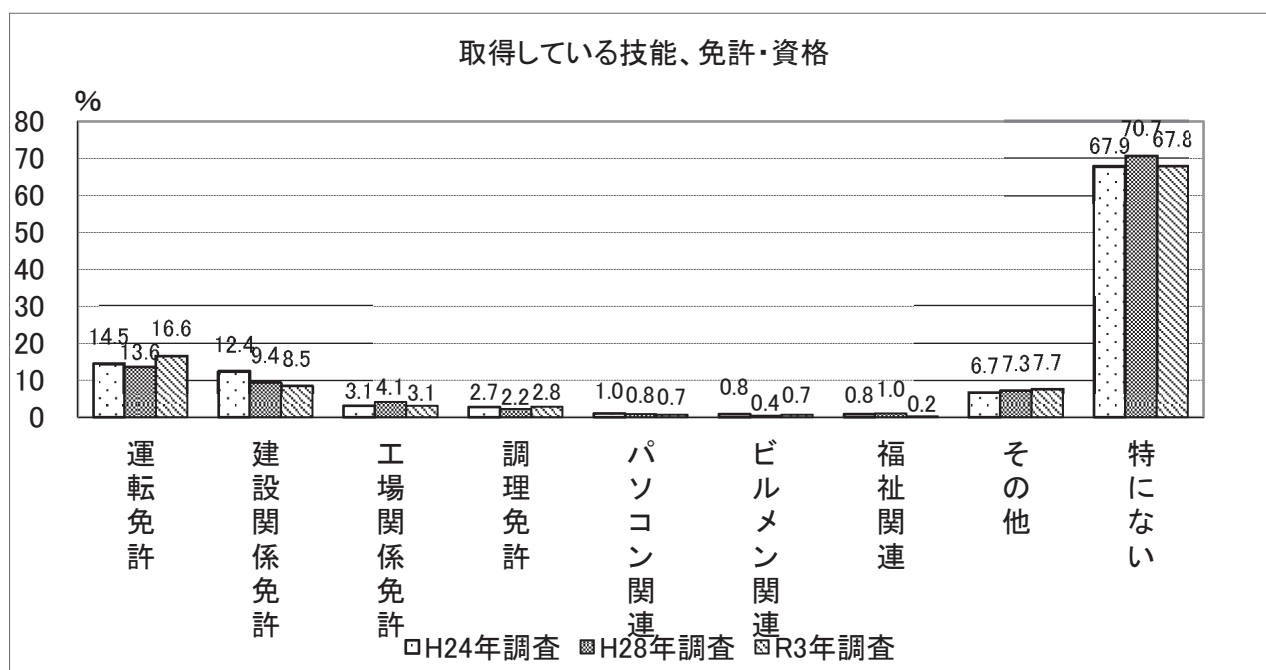


3 技能、免許・資格

現在習得している技能、免許・資格については、「特にない」が606人(67.8%)と最も多く、次いで「自動車運転免許(1種、2種、大型)」が148人(16.6%)、「建設関係免許」が76人(8.5%)となっている(表38)。

表38 問38 現在取得している有効な免許・資格をすべて選んでください。

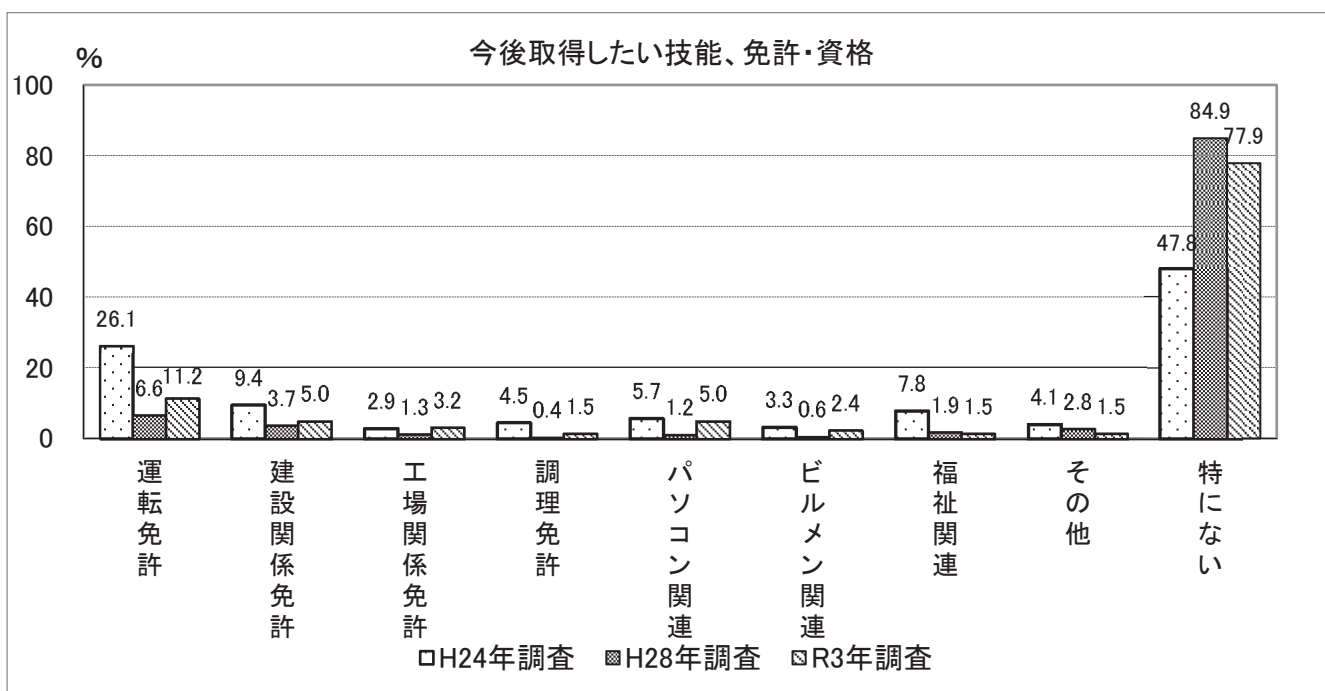
(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 自動車運転免許(1種、2種、大型)	148	15.3	16.6
2. 建設関係免許	76	7.9	8.5
3. 工場関係免許	28	2.9	3.1
4. 調理免許	25	2.6	2.8
5. パソコン関連資格	6	0.6	0.7
6. ビルメンテナンス関連資格	6	0.6	0.7
7. 福祉関連資格(ホームヘルパー等)	2	0.2	0.2
8. その他	69	7.1	7.7
9. 特にない	606	62.7	67.8
有効回答数	966	100.0	108.1
有効回答者数	894	76.5	
無回答	275	23.5	
合計	1,169	100.0	



また、今後取得したいものについては、「特にない」が265人(77.9%)と最も多く、次いで「自動車運転免許(1種、2種、大型)」が38人(11.2%)となっている(表38-1)。

表38-1 問38-1 また、今後、取得してみたいと思うものに◎(あてはまるものすべて)をつけてください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 自動車運転免許(1種、2種、大型)	38	10.2	11.2
2. 建設関係免許	17	4.6	5.0
3. 工場関係免許	11	3.0	3.2
4. 調理免許	5	1.3	1.5
5. パソコン関連資格	17	4.6	5.0
6. ビルメンテナンス関連資格	8	2.2	2.4
7. 福祉関連資格(ホームヘルパー等)	5	1.3	1.5
8. その他	5	1.3	1.5
9. 特にない	265	71.4	77.9
有効回答数	371	100.0	109.1
有効回答者数	340	29.1	
無回答	829	70.9	
合計	1,169	100.0	

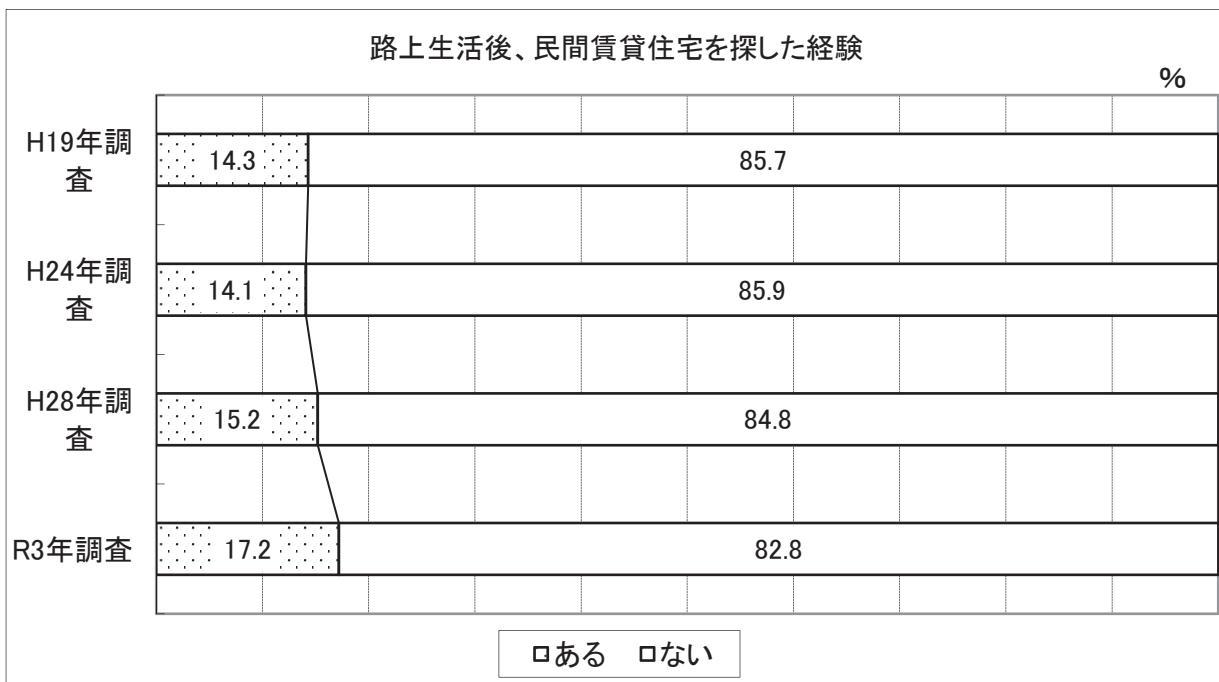


4 民間賃貸住宅等に関する情報提供の状況

路上(野宿)生活を始めてから民間賃貸住宅を探した経験の有無については、「ある」が195人(17.2%)、「ない」が942人(82.8%)となっている(表39)。

表39 問39 路上(野宿)生活を始めてから、民間賃貸住宅を探した経験はありますか。1つ選んでください。

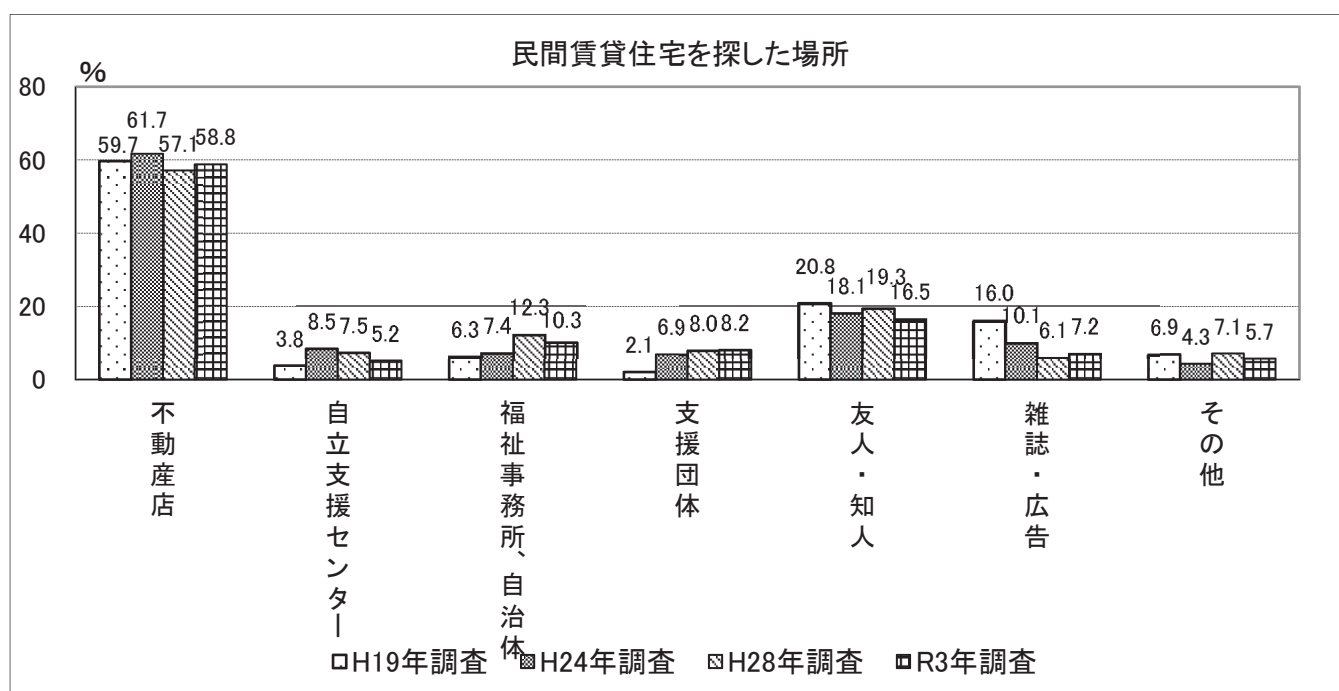
	人	%	有効%
1. ある	195	16.7	17.2
2. ない	942	80.6	82.8
有効回答数	1,137	97.3	100.0
無回答	32	2.7	
合計	1,169	100.0	



問39で「ある」と回答した者が具体的にどこで民間賃貸住宅を探したかについては、「不動産店」が114人（58.8%）と約6割をしめている（表39-1）。

表39-1 問39-1 問39で「1.ある」と答えた方について、具体的にどこで探しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

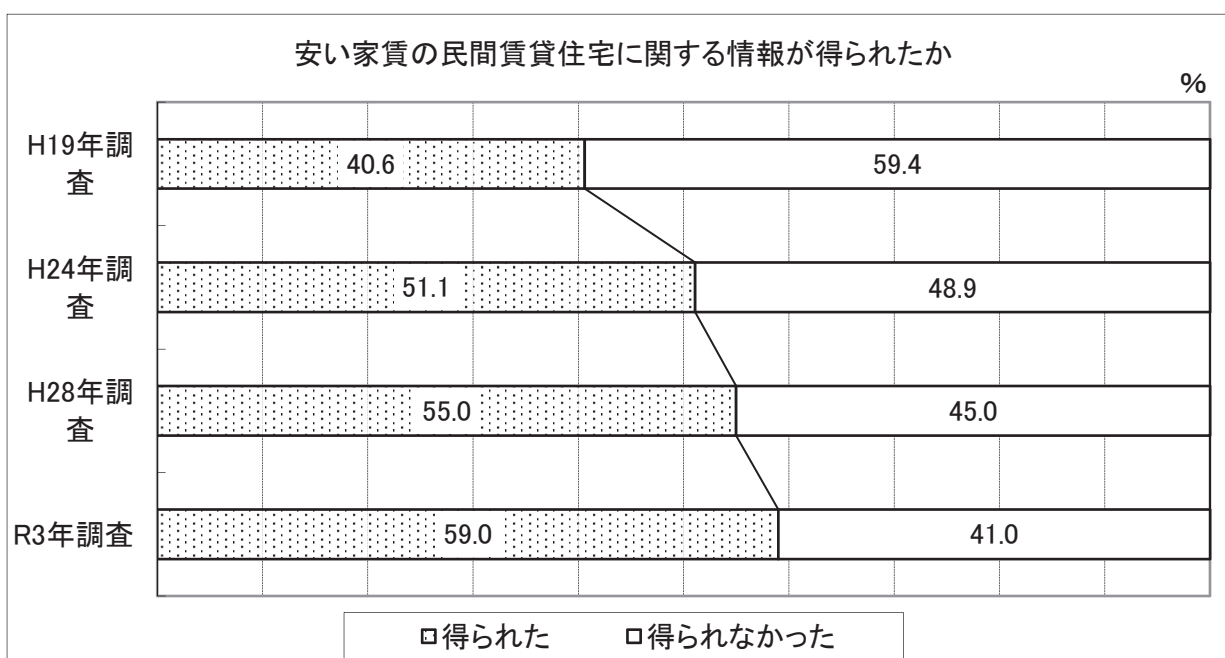
（複数回答）	人	回答%	ケース%
1. 不動産店	114	52.5	58.8
2. 自立支援センター	10	4.6	5.2
3. 福祉事務所や地方公共団体	20	9.2	10.3
4. 支援団体	16	7.4	8.2
5. 友人・知人	32	14.7	16.5
6. 雑誌・広告	14	6.5	7.2
7. その他	11	5.1	5.7
有効回答数	217	100.0	111.9
有効回答者数	194	16.6	
無回答	1	0.1	
非該当	974	83.3	
合計	1,169	100.0	



また、問39-1で「不動産店」、「自立支援センター」、「福祉事務所や地方公共団体」と回答した者が安い家賃の民間賃貸住宅に関する情報が得られたかについては、「得られた」が82人(59.0%)、「得られなかった」が57人(41.0%)となっている(表39-2)。

表39-2 問39-2 問39-1で「1.不動産店」または「2.自立支援センター」もしくは「3.福祉事務所や地方公共団体」と答えた方について、安い家賃の民間賃貸住宅に関する情報が得られましたか。1つ選んでください。

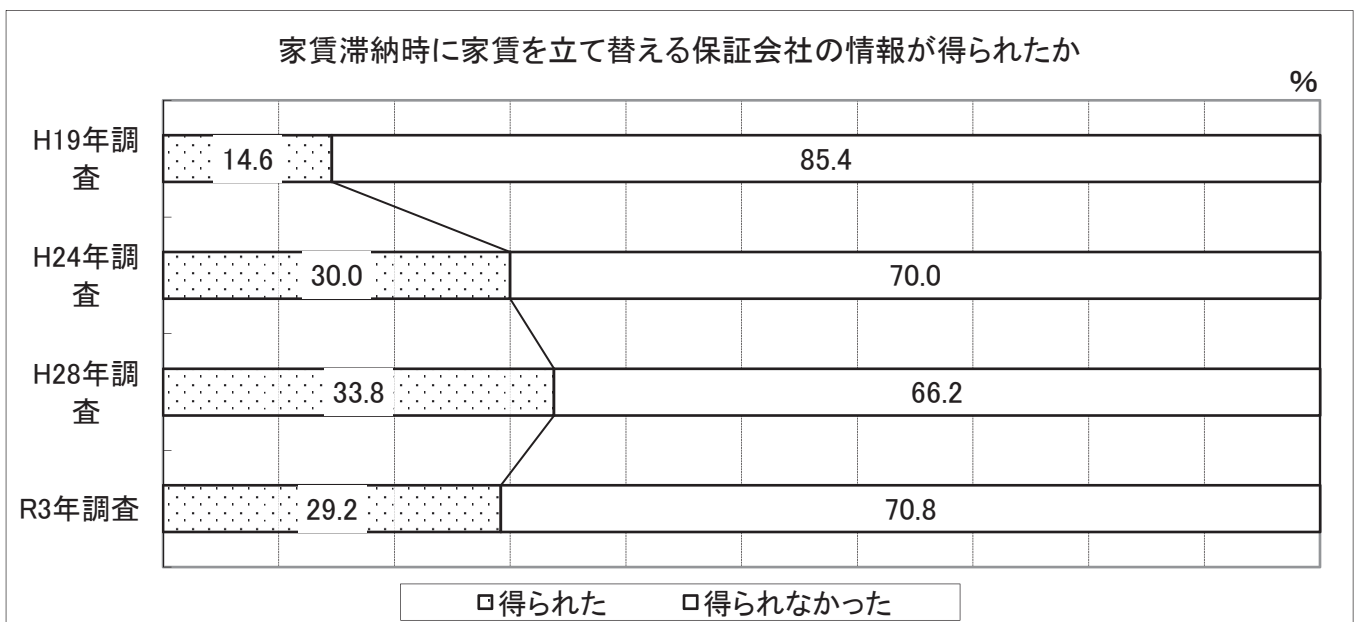
	人	%	有効%
1. 得られた	82	7.0	59.0
2. 得られなかった	57	4.9	41.0
有効回答数	139	11.9	100.0
無回答	-	-	
非該当	1,030	88.1	
合計	1,169	100.0	



また、問39-1で「不動産店」、「自立支援センター」、「福祉事務所や地方公共団体」と回答した者が家賃を滞納した場合に家主に立替え払いをする民間の保証会社に関する情報が得られたかについては、「得られた」が40人(29.2%)、「得られなかった」が97人(70.8%)となっている(表39-3)。

表39-3 問39-3 問39-1で「1.不動産店」または「2.自立支援センター」もしくは「3.福祉事務所や地方公共団体」と答えた方について、家賃を滞納した場合に家主に立替え払いをする民間の保証会社に関する情報が得られましたか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 得られた	40	3.4	29.2
2. 得られなかった	97	8.3	70.8
有効回答数	137	11.7	100.0
無回答	2	0.2	
非該当	1,030	88.1	
合計	1,169	100.0	



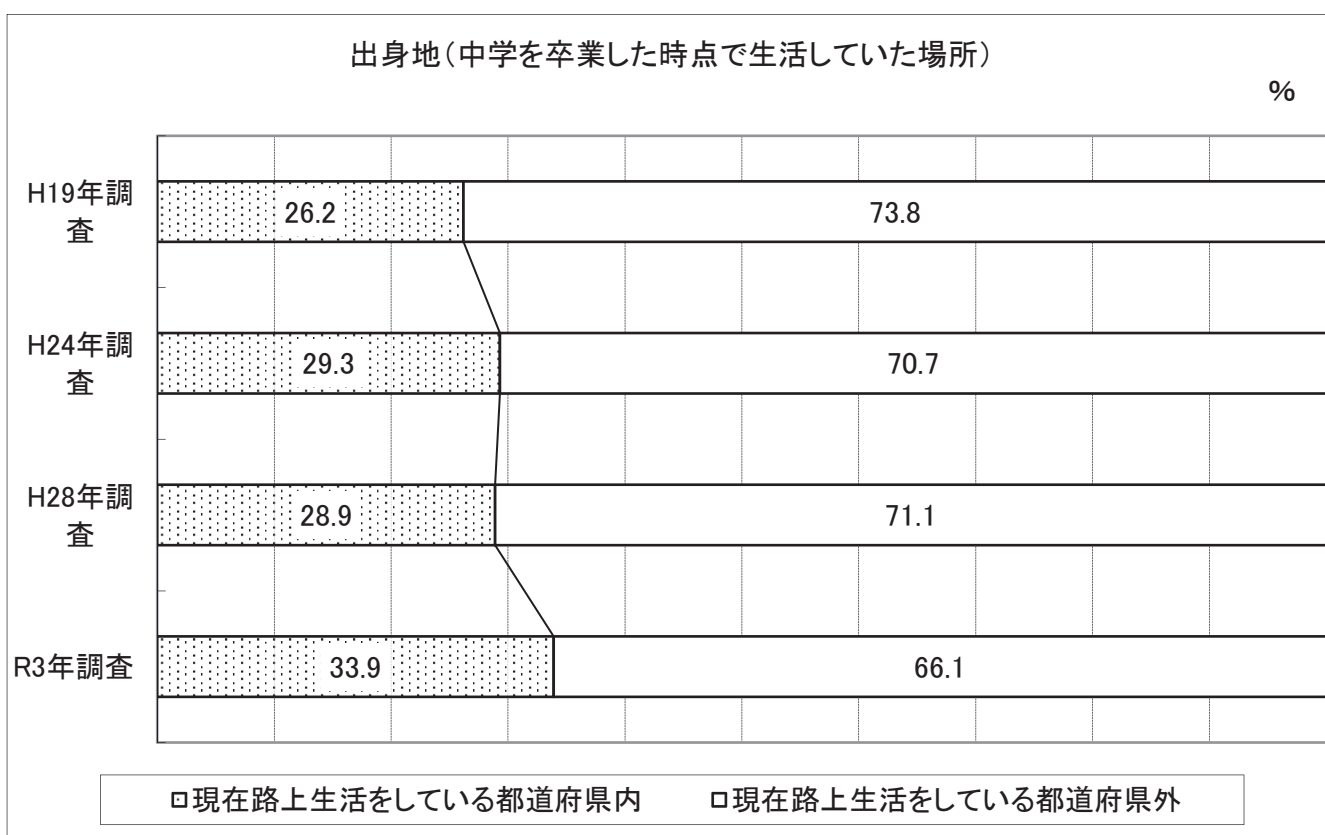
第7章 生活歴

1 出身地

出身地については、「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内」が380人（33.9%）、「路上（野宿）生活をしている都道府県外」が742人（66.1%）となっている（表40）。

表40 問40 出身地（中学を卒業した時点（卒業していない人は15歳時点）で生活していた場所をいう。）はどこですか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 現在路上（野宿）生活をしている都道府県内	380	32.5	33.9
2. 路上（野宿）生活をしている都道府県外	742	63.5	66.1
有効回答数	1,122	96.0	100.0
無回答	47	4.0	
合計	1,169	100.0	

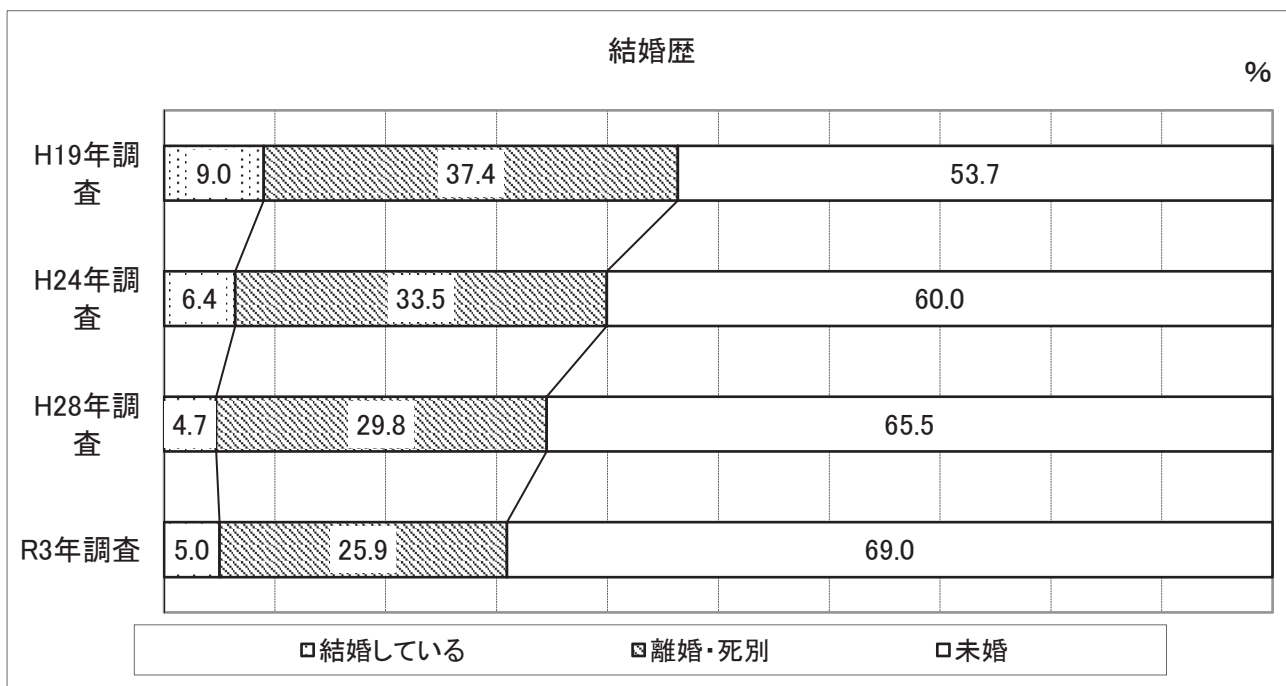


2 家族の状況

結婚歴については、「結婚している」が56人(5.0%)、「離婚・死別」が289人(25.9%)、「未婚」が769人(69.0%)となっている(表41)。

表41 問41 結婚(内縁を含む)はしましたか。1つ選んでください。

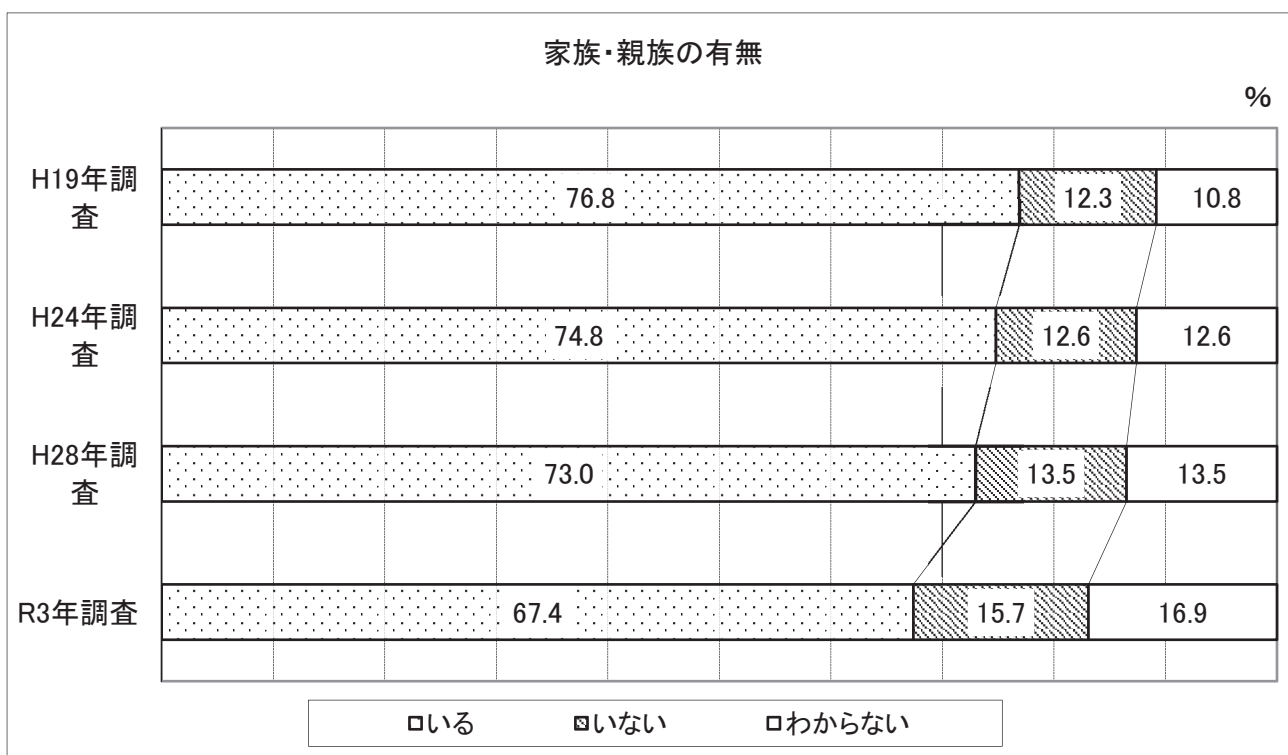
	人	%	有効%
1. 結婚している	56	4.8	5.0
2. 離婚・死別	289	24.7	25.9
3. 未婚	769	65.8	69.0
有効回答数	1,114	95.3	
無回答	55	4.7	
合計	1,169	100.0	



また、家族・親族の有無については、「いる」が759人(67.4%)、「いない」が177人(15.7%)、「わからない」が190人(16.9%)となっている(表42)。

表42 問42 親や兄弟等の家族・親族はいますか。1つ選んでください。

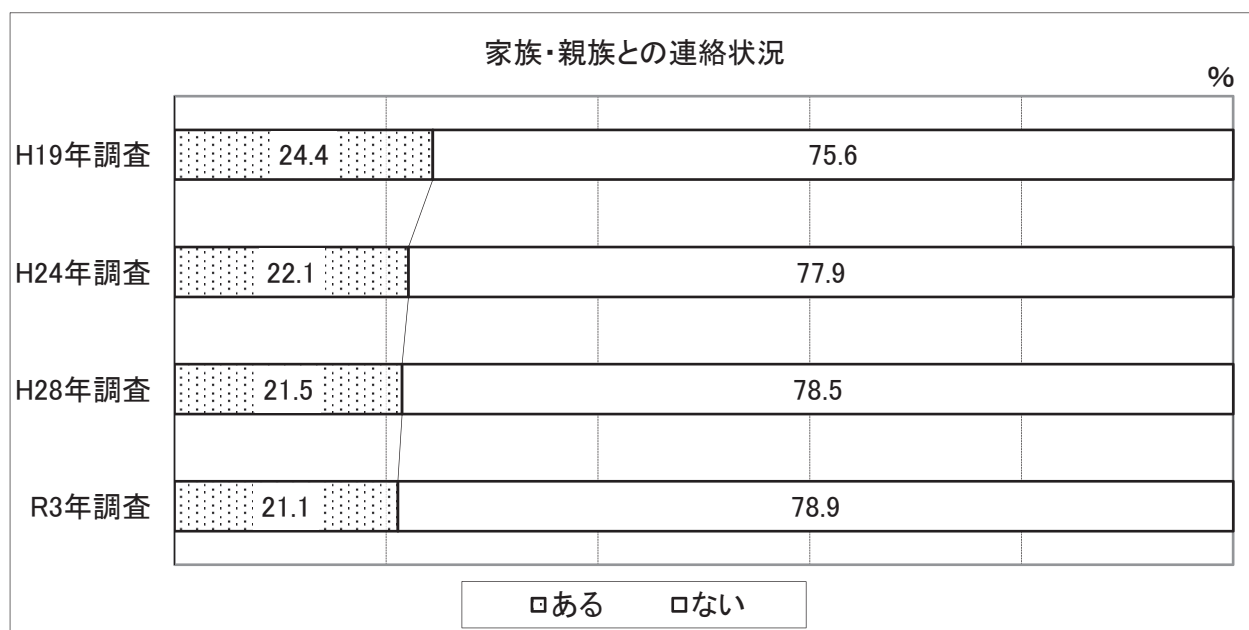
	人	%	有効%
1. いる	759	64.9	67.4
2. いない	177	15.1	15.7
3. わからない	190	16.3	16.9
有効回答数	1,126	96.3	
無回答	43	3.7	
合計	1,169	100.0	



問42で「いる」と回答した者のこの一年間での家族・親族との連絡状況については、「ある」が160人(21.1%)、「ない」が598人(78.9%)となっている(表42-1)。

表42-1 問42-1 問42で「1. いる」と答えた方について、この一年間で家族・親族と連絡がありますか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. ある	160	13.7	21.1
2. ない	598	51.2	78.9
有効回答数	758	64.8	100.0
無回答	1	0.1	0.1
非該当	410	35.1	54.1
合計	1,169	100.0	154.2

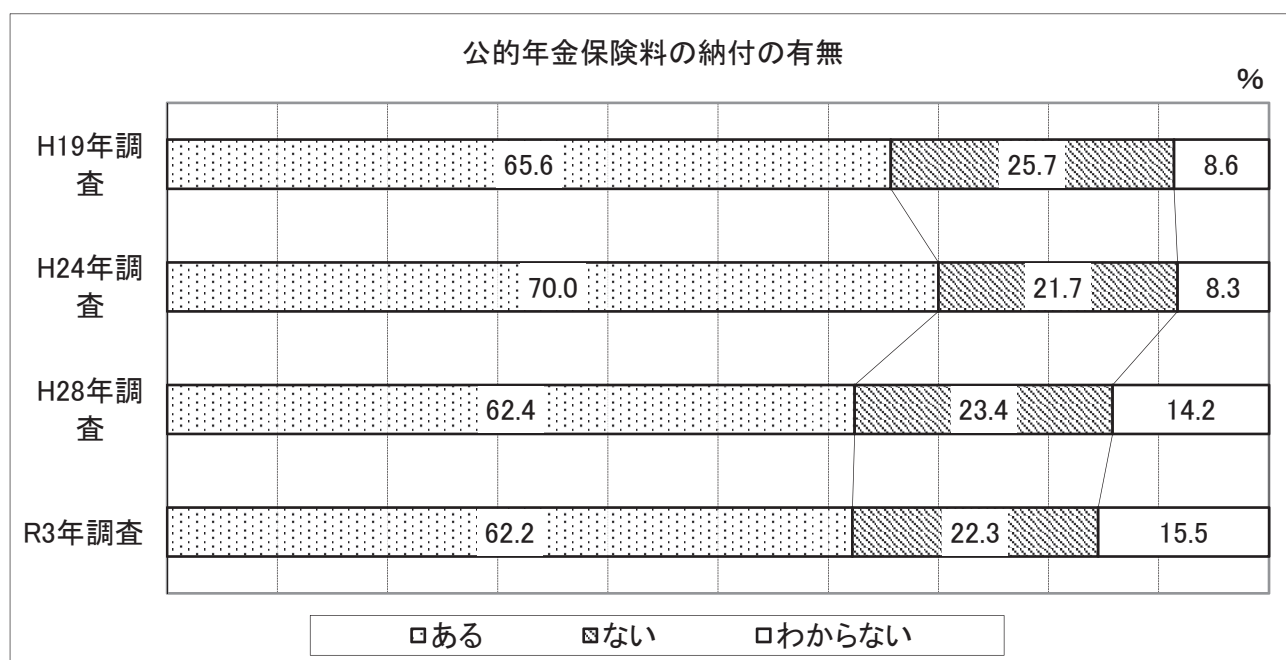


3 年金・借金の状況

公的年金保険料の納付有無については、「ある」が702人(62.2%)、「ない」が251人(22.3%)となっている(表43)。

表43 問43 公的年金の保険料納付していたことがありますか。1つ選んでください。

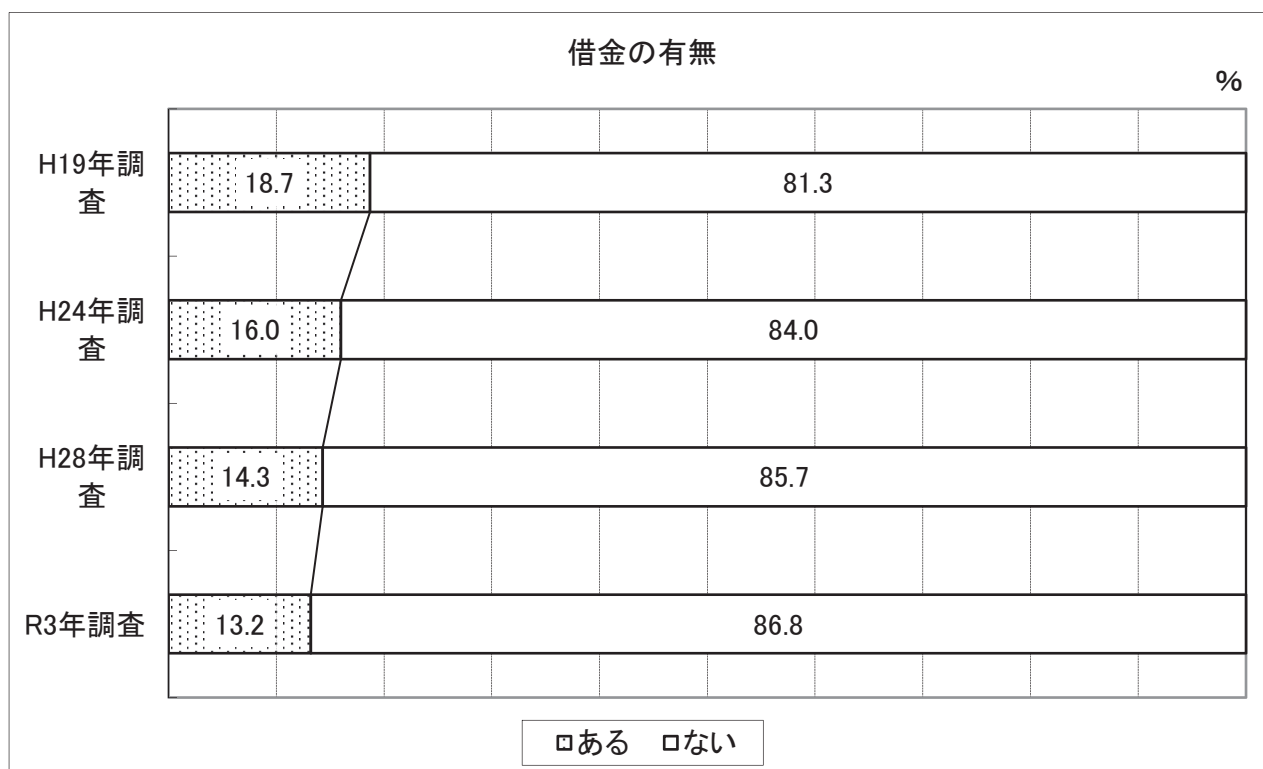
	人	%	有効%
1. ある	702	60.1	62.2
2. ない	251	21.5	22.3
3. わからない	175	15.0	15.5
有効回答数	1,128	96.5	
無回答	41	3.5	
合計	1,169	100.0	



金融機関や消費者金融などへの借金の有無については、「ある」が148人(13.2%)、「ない」が969人(86.8%)となっている(表44)。

表44 問44 金融機関や消費者金融等に借金がありますか。1つ選んでください。

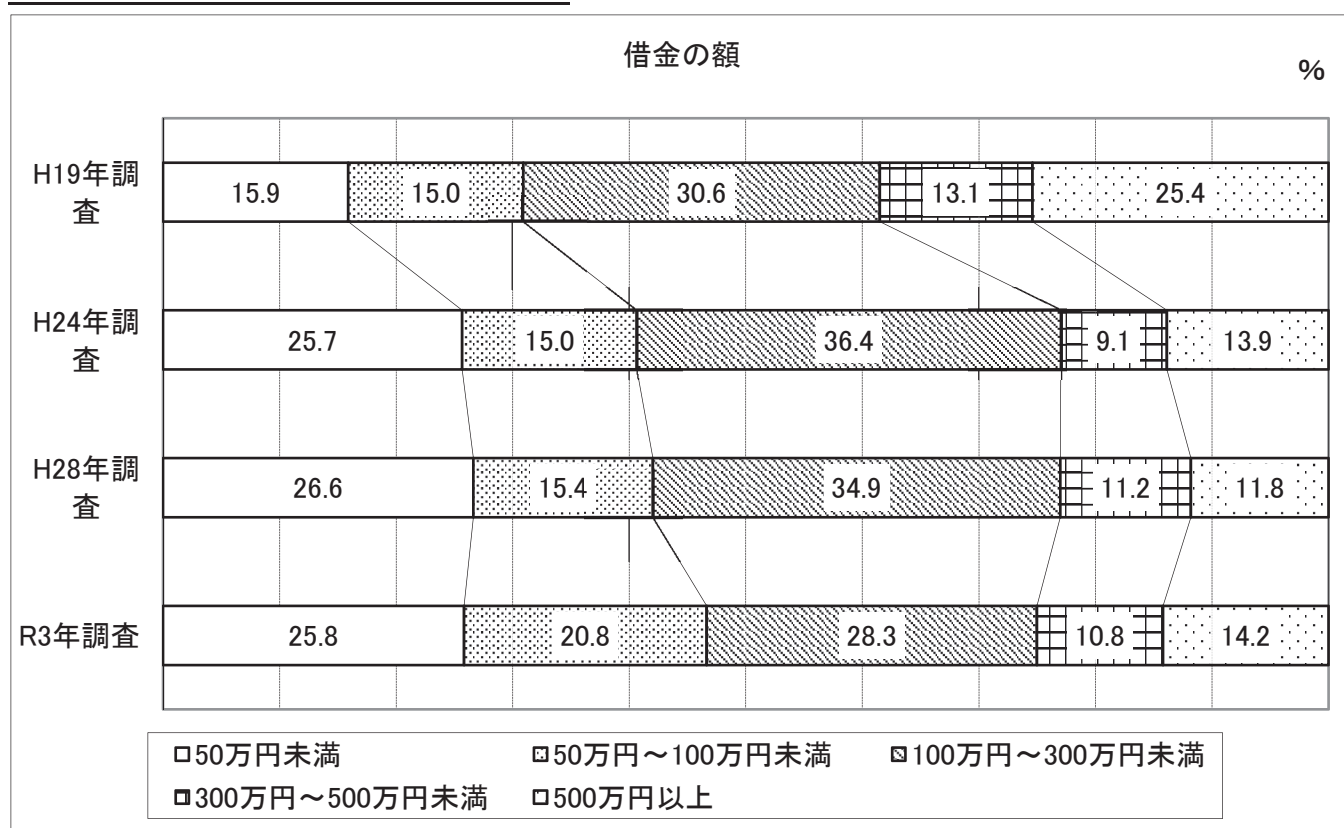
	人	%	有効%
1. ある	148	12.7	13.2
2. ない	969	82.9	86.8
有効回答数	1,117	95.6	100.0
無回答	52	4.4	
合計	1,169	100.0	



また、「ある」と回答した者については、「100万円～300万円未満」が34人(28.3%)と最も多く、次いで「50万円未満」が31人(25.8%)となっている(表44-1)。

表44-1 問44-1 問44で「1. ある」と答えた方について、それはいくらぐらいですか。

	人	%	有効%
50万円未満	31	2.7	25.8
50万円～100万円未満	25	2.1	20.8
100万円～300万円未満	34	2.9	28.3
300万円～500万円未満	13	1.1	10.8
500万円以上	17	1.5	14.2
有効回答数	120	10.3	100.0
無回答	28	2.4	
非該当	1,021	87.3	
合計	1,169	100.0	

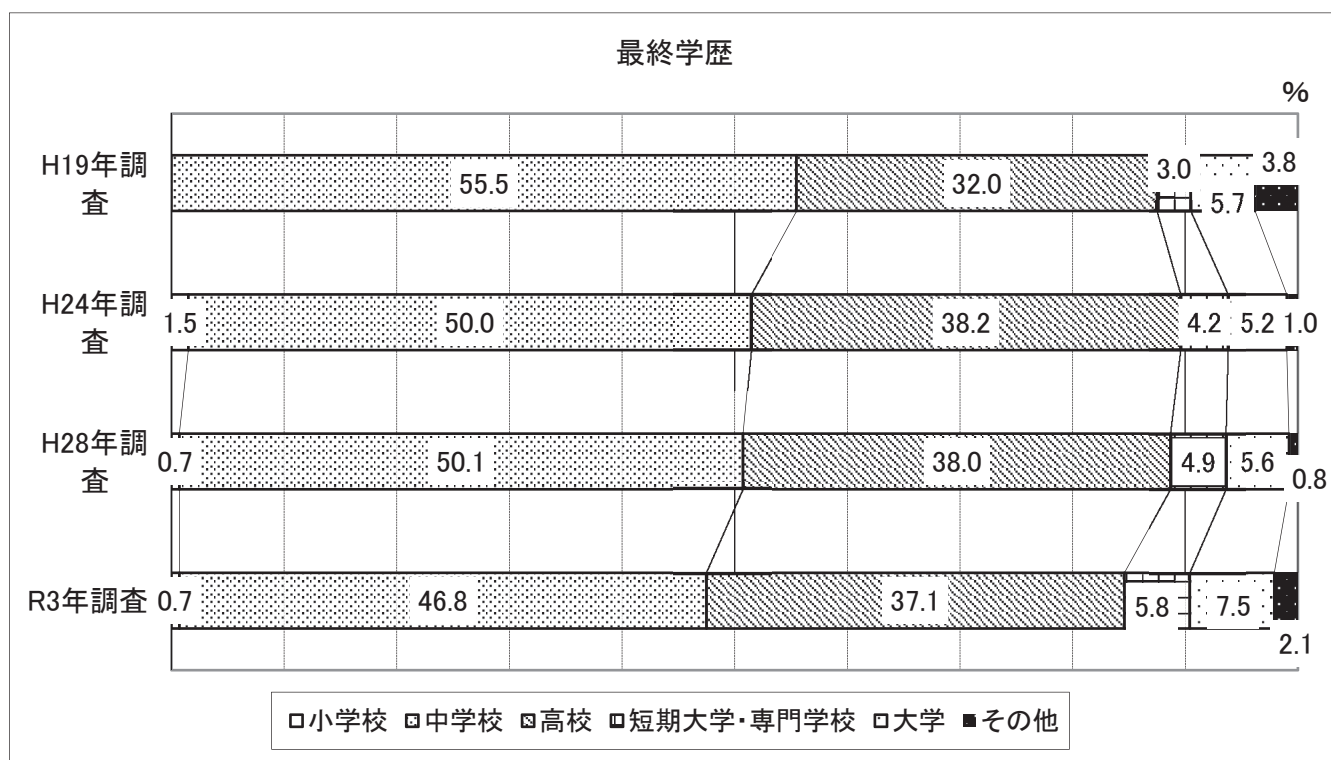


4 学歴

最後に出た学校については「中学校」が526人(46.8%)と最も多く、次に「高校」が417人(37.1%)となっている(表45)。

表45 問45 最後に出た学校は次のどれですか。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 小学校	8	0.7	0.7
2. 中学校	526	45.0	46.8
3. 高校	417	35.7	37.1
4. 短期大学・専門学校	65	5.6	5.8
5. 大学	84	7.2	7.5
6. その他	24	2.1	2.1
有効回答数	1,124	96.2	100.0
無回答	45	3.8	
合計	1,169	100.0	



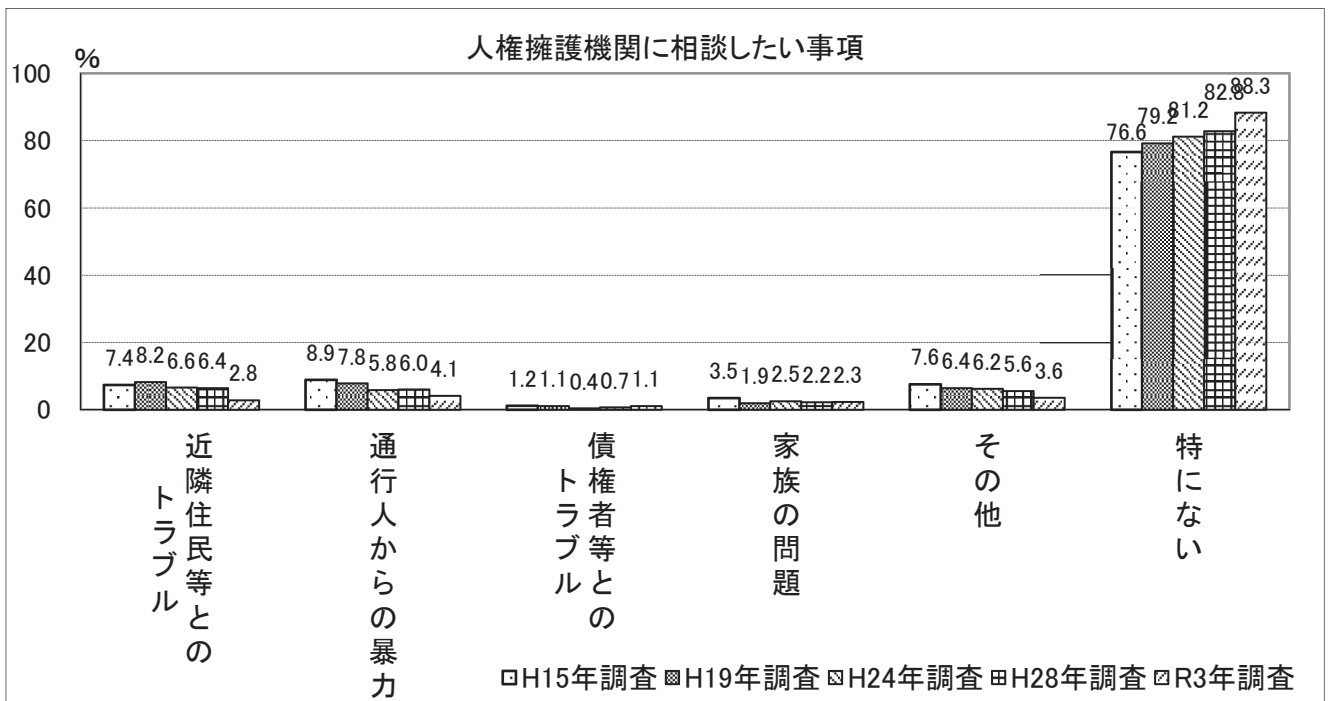
第8章 相談・要望

1 法務省の人権擁護機関に対して相談したい事項

法務省の人権擁護機関に対し、人権問題について相談したい事項については、「通行人からの暴力」が46人(4.1%)、「近隣住民等とのトラブル」が32人(2.8%)等全体の約1割に当たる人から人権問題について相談したいとの回答があった(表46)。

表46 問46 法務省の人権擁護機関(法務局・人権擁護委員)においては、人権問題についての相談に応じていますが、どのような事項について相談したいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 近隣住民等とのトラブル	32	2.8	2.8
2. 通行人からの暴力	46	4.0	4.1
3. 債権者等とのトラブル	13	1.1	1.1
4. 家族の問題	26	2.2	2.3
5. その他	41	3.5	3.6
6. 特にない	1,002	86.4	88.3
有効回答数	1,160	100.0	102.2
有効回答者数	1,135	97.1	
無回答	34	2.9	
合計	1,169	100.0	

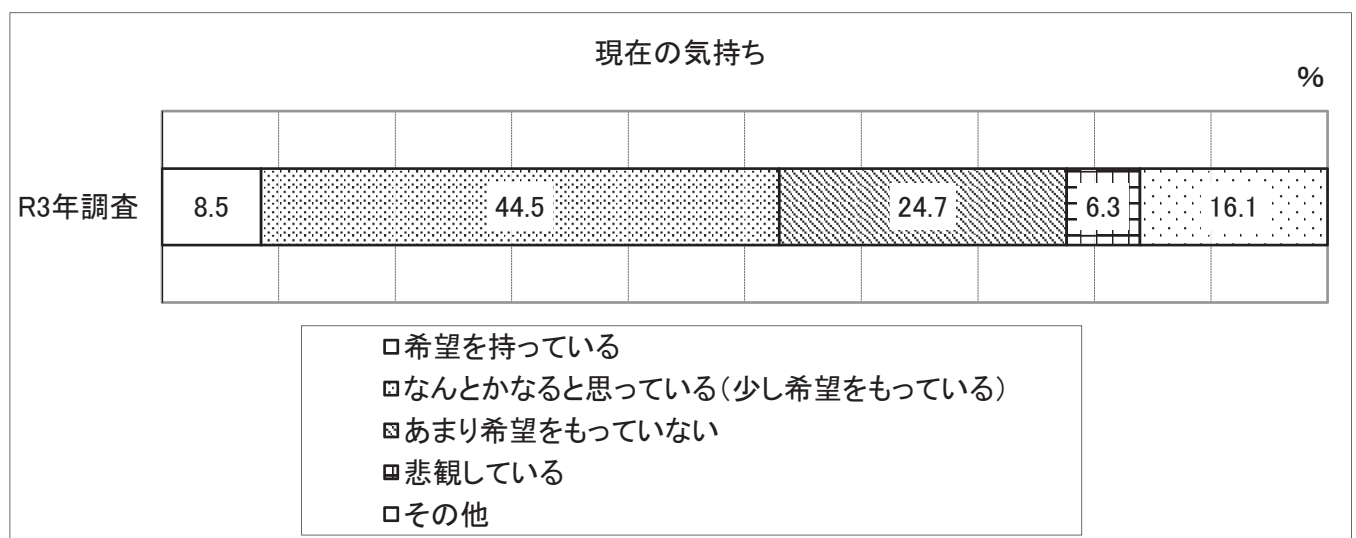


2 現在の気持ち

路上(野宿)生活をしている現在の気持ちについては、「なんとかなると思っている(少し希望をもっている)」が504人(44.5%)と最も多く、次いで「あまり希望をもっていない」が280人(24.7%)となっている(表47)。

表47 問47 路上(野宿)生活をしている現在の気持ちについて教えてください。1つ選んでください。

	人	%	有効%
1. 希望を持っている	96	8.2	8.5
2. なんとかなると思っている(少し希望をもっている)	504	43.1	44.5
3. あまり希望をもっていない	280	24.0	24.7
4. 悲観している	71	6.1	6.3
5. その他	182	15.6	16.1
有効回答数	1,133	96.9	100.0
無回答	36	3.1	
合計	1,169	100.0	

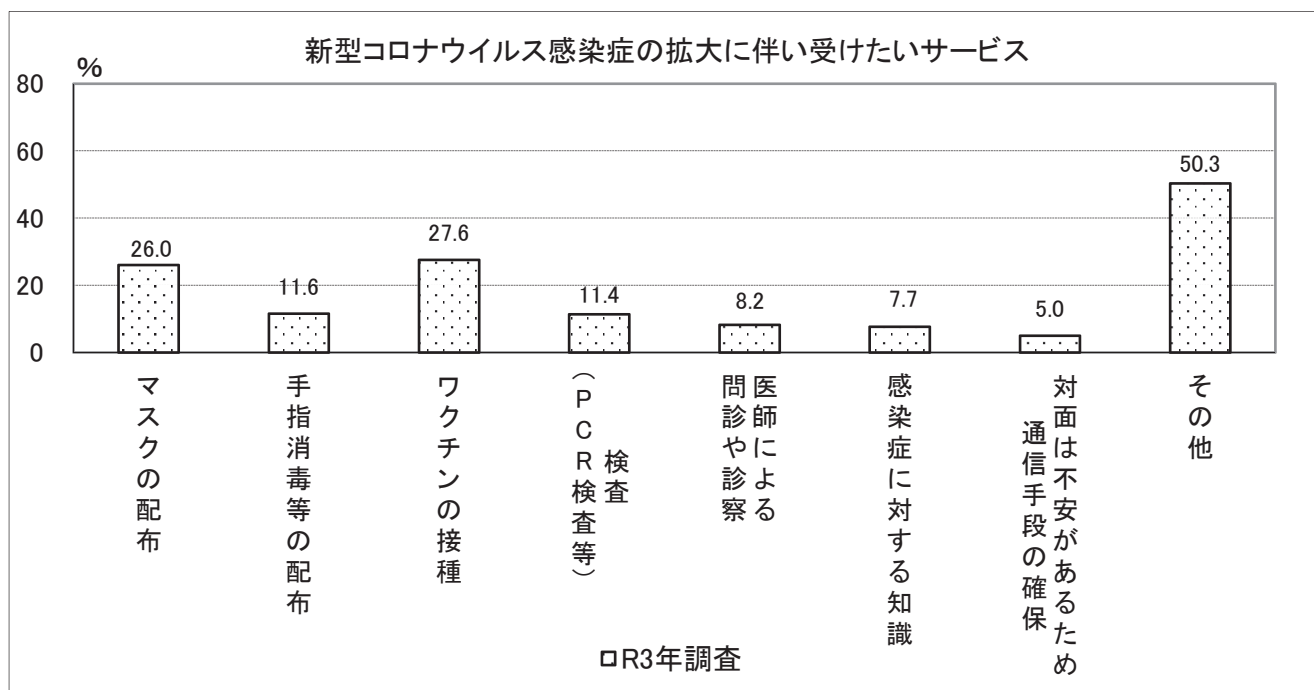


3 コロナ禍で受けたいサービス

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い受けたいサービスについては、「ワクチンの接種」が299人(27.6%)と最も多く、次いで「マスクの配布」が282人(26.0%)、「手指消毒等の配布」が126人(11.6%)となっている(表48)。

表48 問48 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い受けたいサービスはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. マスクの配布	282	17.6	26.0
2. 手指消毒等の配布	126	7.9	11.6
3. ワクチンの接種	299	18.7	27.6
4. 検査(PCR検査等)	123	7.7	11.4
5. 医師による問診や診察	89	5.6	8.2
6. 感染症に対する知識	83	5.2	7.7
7. 対面は不安があるため通信手段の確保	54	3.4	5.0
8. その他	545	34.0	50.3
有効回答数	1,601	100.0	147.8
有効回答者数	1,083	92.6	
無回答	86	7.4	
合計	1,169	100.0	

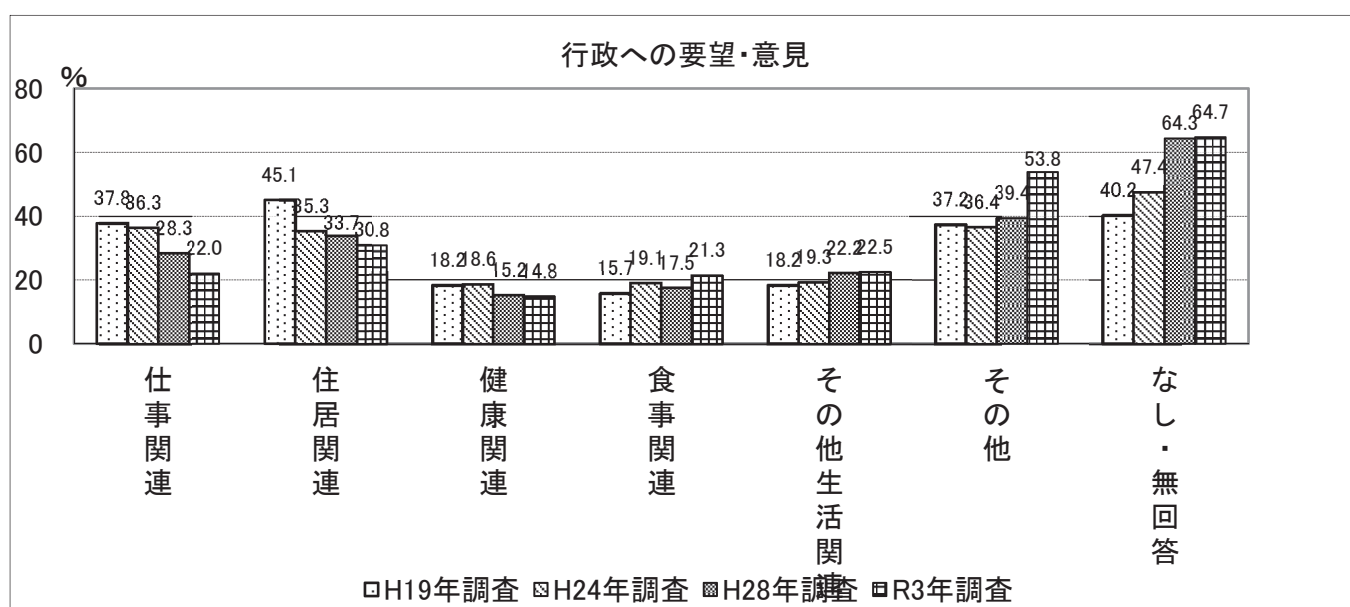


4 行政や民間団体への要望・意見

行政や民間団体への要望意見については、「住居関連」が127人(30.8%)と最も多く、次いで「仕事関連」が91人(22.0%)となっている(表49)。

表49 問49 行政や民間団体への要望・意見を教えてください。

(複数回答)	人	回答%	ケース%
1. 仕事関連	91	13.3	22.0
2. 住居関連	127	18.6	30.8
3. 健康関連	61	8.9	14.8
4. 食事関連	88	12.9	21.3
5. その他の生活関連	93	13.6	22.5
6. その他	222	32.6	53.8
有効回答数	682	100.0	165.1
有効回答者数	413	35.3	
なし・無回答	756	64.7	
合計	1169	100.0	



ホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）の 分析結果

厚生労働省社会・援護局地域福祉課
生活困窮者自立支援室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

基本クロスのパターンについて	3
(1) 性別	6
(2) 年齢階層別	50
(3) 今回の路上生活期間別	109
(4) 支援制度利用タイプ別	145
(5) 地域別（事業実施別）	152
(6) 地域別（人口別）	177
(7) 設問間クロス集計	210

基本クロスのパターンについて

令和3年11月に実施したホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）より、詳細に分析・検証を進めるに当たり、主に以下の6つ ＜（１）～（６）＞の基本クロスのパターンにより分析を行った。

（１）性別

以下の２分類

- ①男性
- ②女性

（２）年齢階層別

以下の14分類

- ① 19歳以下
- ② 20～24歳
- ③ 25～29歳
- ④ 30～34歳
- ⑤ 35～39歳
- ⑥ 40～44歳
- ⑦ 45～49歳
- ⑧ 50～54歳
- ⑨ 55～59歳
- ⑩ 60～64歳
- ⑪ 65～69歳
- ⑫ 70～74歳
- ⑬ 75～79歳
- ⑭ 80歳以上

基本クロスのパターンについて

（３）今回の路上生活期間別

以下の８分類

- ①１ヶ月未満
- ②１ヶ月～３ヶ月未満
- ③３ヶ月～６ヶ月未満
- ④６ヶ月～１年未満
- ⑤１年～３年未満
- ⑥３年～５年未満
- ⑦５年～１０年未満
- ⑧１０年以上

（４）支援制度利用別

以下の５分類

- ①自立相談支援事業（巡回相談）
巡回相談員に相談したことがあるものの、以下②、③に該当しない（問27が１、問28、問29が１以外）
- ②一時生活支援事業（自立支援センター利用）
ホームレス自立支援センターを利用したケース（問29が１）
- ③一時生活支援事業（シェルター）
シェルターを利用したことがあるものの、②以外（問28が１、問29が１以外）
- ④その他支援
住宅の斡旋や宿泊事業、健康診断、食料・衣類の支給などの公的支援を利用したことがあるものの、①～③に該当しないケース
- ⑤制度利用内
①～④のいずれにも該当しないケース

基本クロスのパターンについて

（５）地域別（事業実施別）

以下の３（５）分類

- ①一時生活支援事業（自立支援センター）実施9自治体
仙台市、東京都23区、川崎市、横浜市、名古屋市、
京都市、大阪市、北九州市、福岡市
- ②一時生活支援事業（シェルター）実施自治体
ア．シェルター、自立支援センターの双方実施7自治体
仙台市、東京都23区、横浜市、名古屋市、京都市、
大阪市、福岡市
イ．シェルターのみ実施15自治体
札幌市、さいたま市、千葉市、市川市、相模原市、
平塚市、新潟市、静岡市、堺市、神戸市、岡山市、
広島市、久留米市、熊本市、那覇市、
- ③一時生活支援事業未実施5自治体
戸田市、川口市、厚木市、浜松市、尼崎市

<※令和４年４月現在（生活困窮者自立支援室調べ）数値精査中>

（６）地域別（人口別）

以下の５分類

- ①200万人以上（4自治体）
東京23区、横浜市、名古屋市、大阪市
- ②100～200万人未満（8自治体）
札幌市、仙台市、さいたま市、川崎市、京都市、
神戸市、広島市、福岡市
- ③50～100万人未満（10自治体）
川口市、千葉市、相模原市、新潟市、浜松市、静岡市、
堺市、岡山市、北九州市、熊本市
- ④30～50万人未満（4自治体）
市川市、尼崎市、久留米市、那覇市
- ⑤30万人未満（3自治体）
戸田市、厚木市、平塚市

<※令和３年1月1日現在（住民基本台帳）>

性別

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

性別の傾向について

路上での生活

- 具体的な寝場所では、男女ともに公園の割合が最も高い。男性に比べ女性は河川の割合が低い。
- 寝場所をつくる方法では、男女ともに簡易な敷物が最も高い。男性に比べ女性は寝場所をつくらない割合が高い。
- 仕事では、男性に比べ女性は仕事をしている者の割合が低い一方で、仕事以外の収入がある割合は高く、その内容は年金収入である。
- 障害者手帳の所持では、男性に比べ女性は、今持っている割合が高い。

路上生活までのいきさつ

- これまで一番長くやってきた仕事では、男性は建設関係、女性は事務・サービス業の割合が高い。
- 路上生活に至った理由は、男性は仕事関係、女性は家庭の事情に起因するものの割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルターや自立支援センターの周知度・利用度は、いずれも女性より男性の割合が高い。
- 生活保護制度を利用しない理由では、男女ともに「制度を利用したくない」が最も高いが、男性に比べ女性は、「制度をしらない」「制度を知っているが自分は利用できないと思っている」の割合が高い。

性別の傾向について

今後の生活

- 今後望んでいる生活では、男女ともに現状維持を望む割合が高い。変化を望む人では、男性はアパートでの自活や福祉の手をかりても軽い仕事につきたい割合が高い一方で、女性は何らかの福祉を利用した生活を望む割合がやや高い。

生活歴

- 結婚歴では、男性に比べ女性は結婚歴のある割合が高く、家族と連絡を取り合っている割合もやや高い。

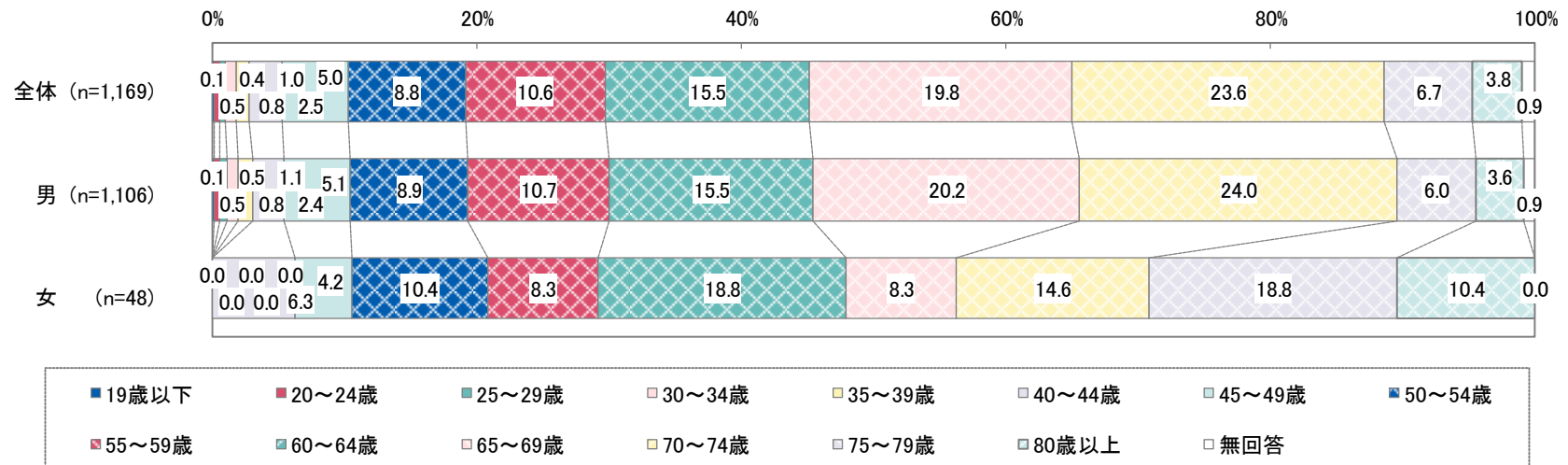
現在の気持ち

- 現在の気持ちでは、男性に比べ女性は希望を持っている割合が低い。

年齢

- 年齢については、「男性」では「70～74歳」の割合が24.0%（女性：14.6%）である一方、「女性」では「75～79歳」の割合が18.8%（男性：6.0%）と高い。

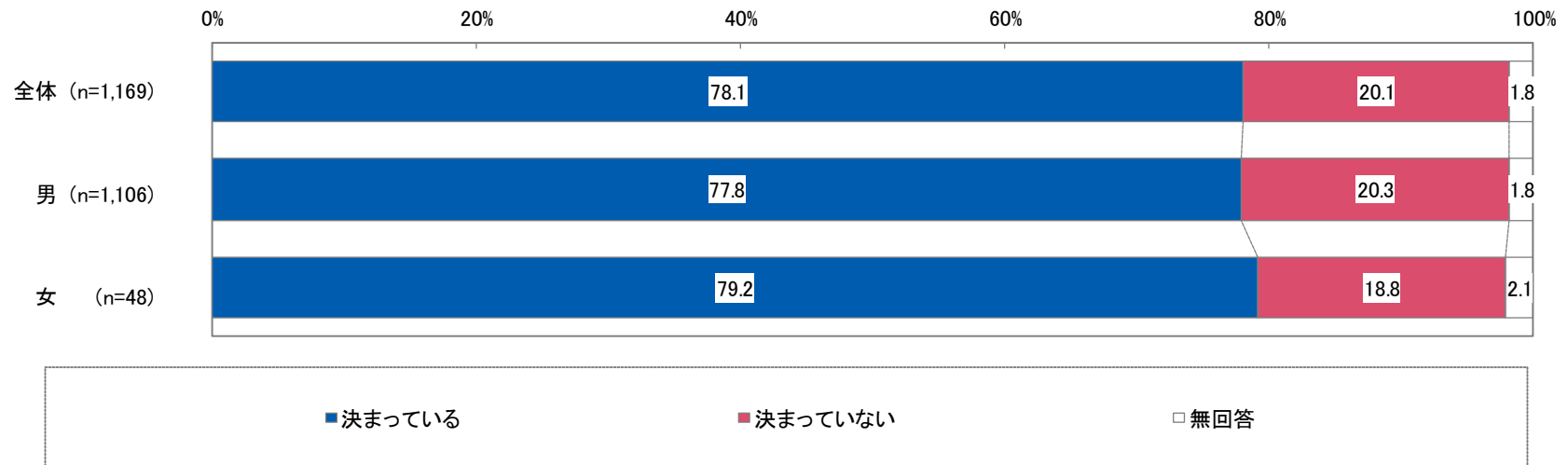
図表1 年齢階層（性別）



問 1 寝ている場所

- 寝ている場所については、「男性」では一定の場所で「決まっている」の割合が77.8%であり、「女性」では一定の場所で「決まっている」の割合が79.2%と男性に比べ若干高い。

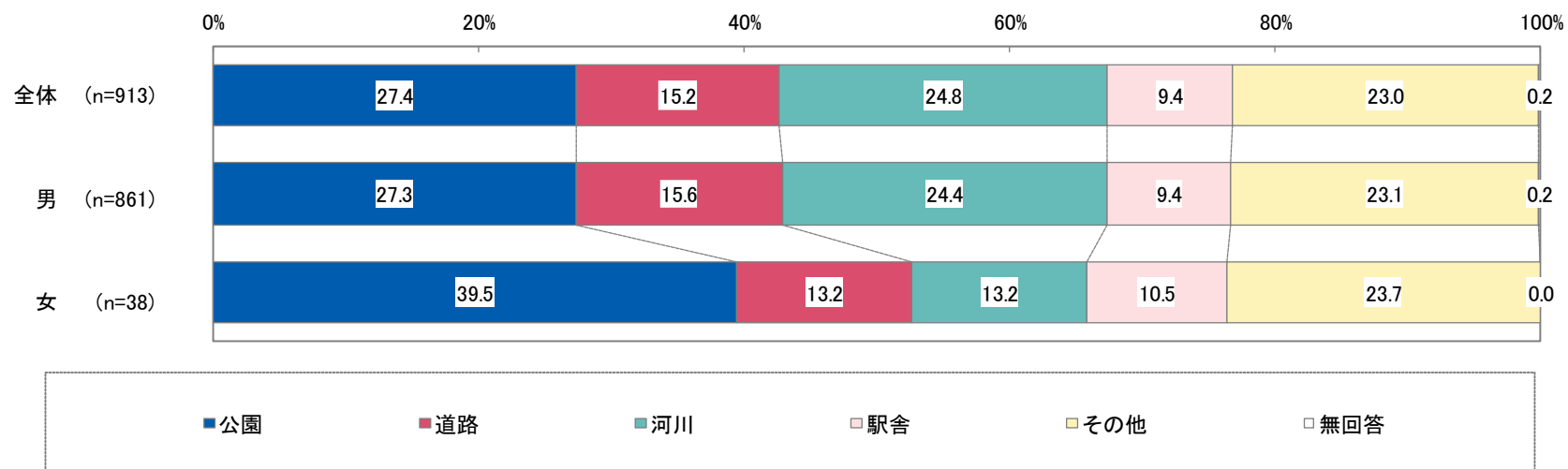
図表2 寝ている場所（性別）



問 1 - 1 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所については、「男性」では「公園」（27.3%）、「女性」でも「公園」（39.5%）の割合が高い。「女性」では「河川」（13.2%）の割合が低い。

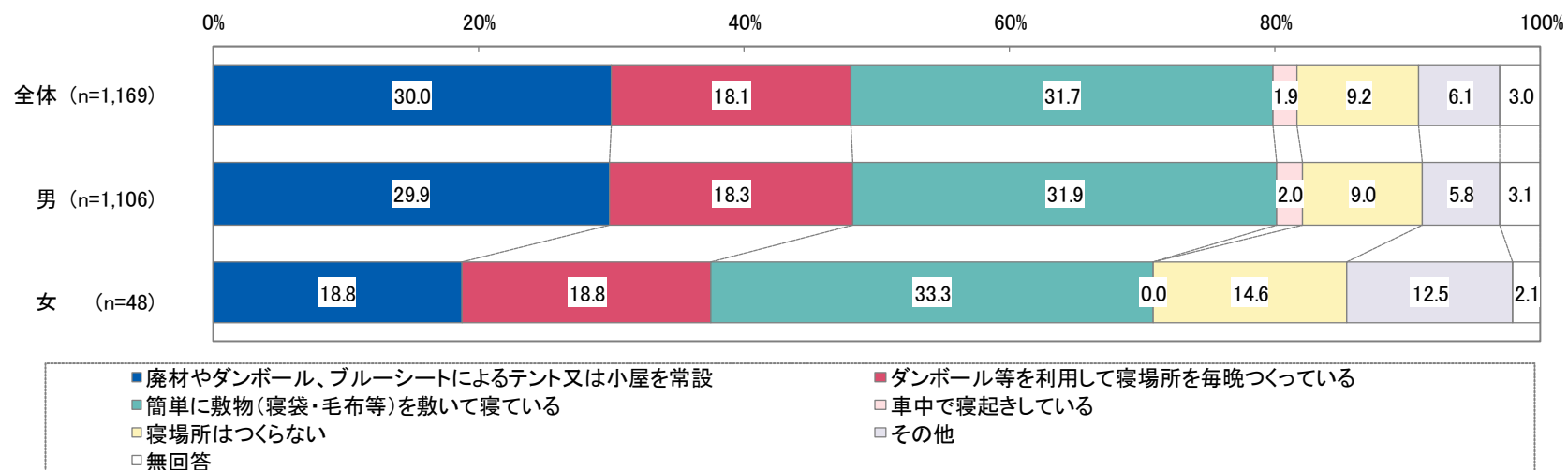
図表3 寝ている場所（具体的に）（性別）



問 2 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「男性」では「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」（29.9%）の割合が高く、「女性」では「簡単に敷物（寝袋・毛布等）を敷いて寝ている」（33.3%）「寝場所につくらない」（14.6%）の割合が高い。

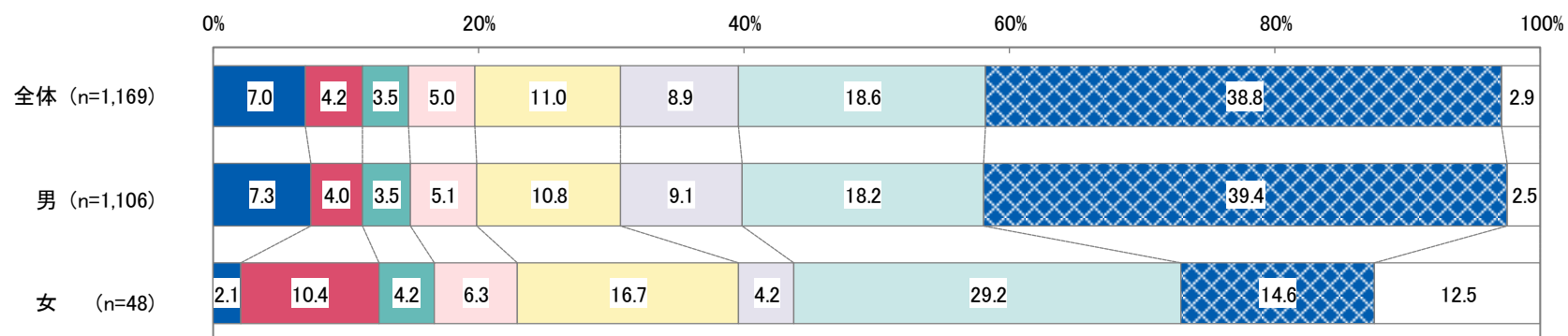
図表4 寝場所を作る方法（性別）



問 3 今回の路上生活の期間

- 今回の路上（野宿）生活の期間については、「男性」では「10年以上」（39.4%）の割合が高く、「女性」では「5年～10年未満」（29.2%）の割合が高い。

図表5 今回の路上生活の期間（性別）

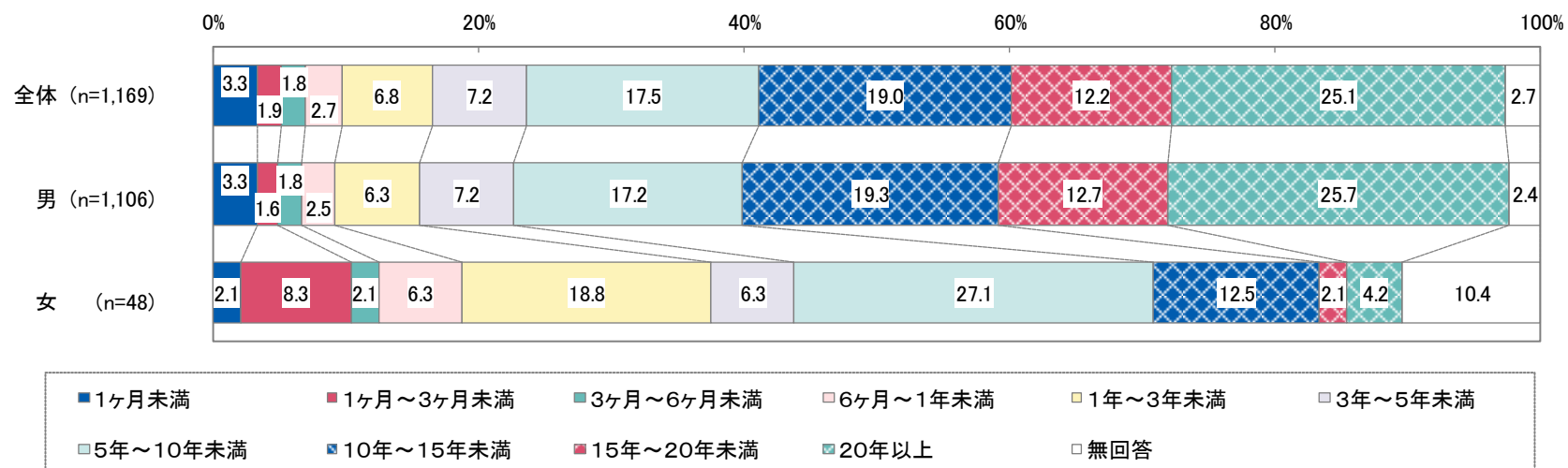


■ 1ヶ月未満 ■ 1ヶ月～3ヶ月未満 ■ 3ヶ月～6ヶ月未満 ■ 6ヶ月～1年未満 ■ 1年～3年未満 ■ 3年～5年未満 ■ 5年～10年未満 ■ 10年以上 □ 無回答

問 5 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上（野宿）生活してからの経過期間については、「全体」及び「男性」では「20年以上」（全体：25.1%、男性：25.7%、女性：4.2%）の割合が高く、「女性」では「5年～10年未満」（男性17.2%、女性27.1%）の割合が高い。

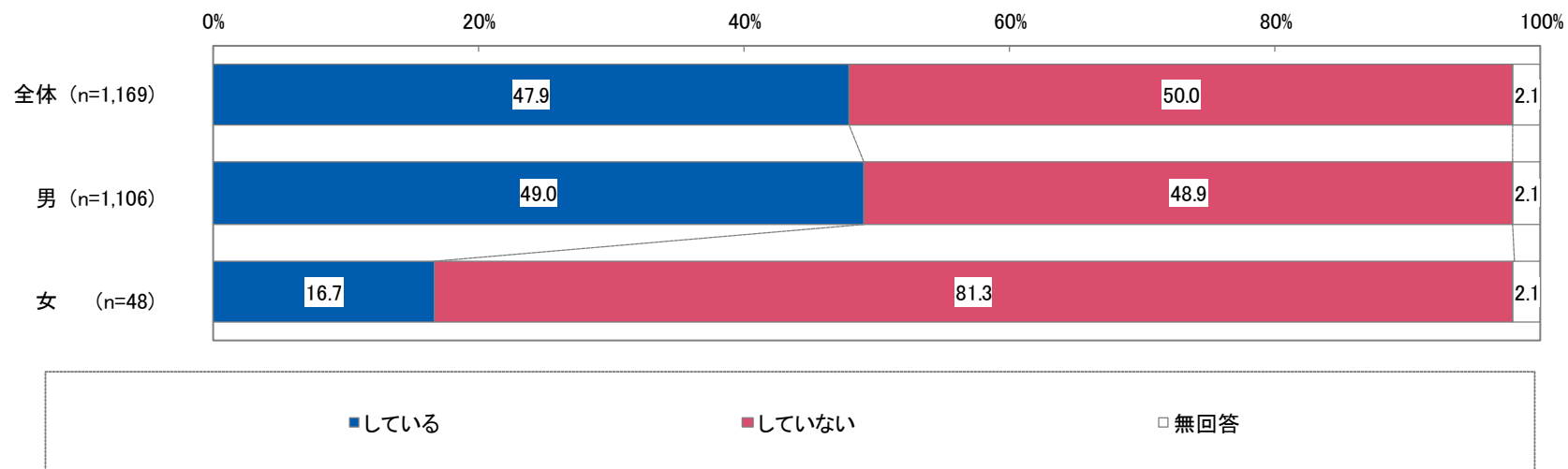
図表6 初めて路上生活をしてからの期間（性別）



問 6 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「男性」では「している」（49.0%）の割合が高く、「女性」では「していない」（81.3%）の割合が高い。

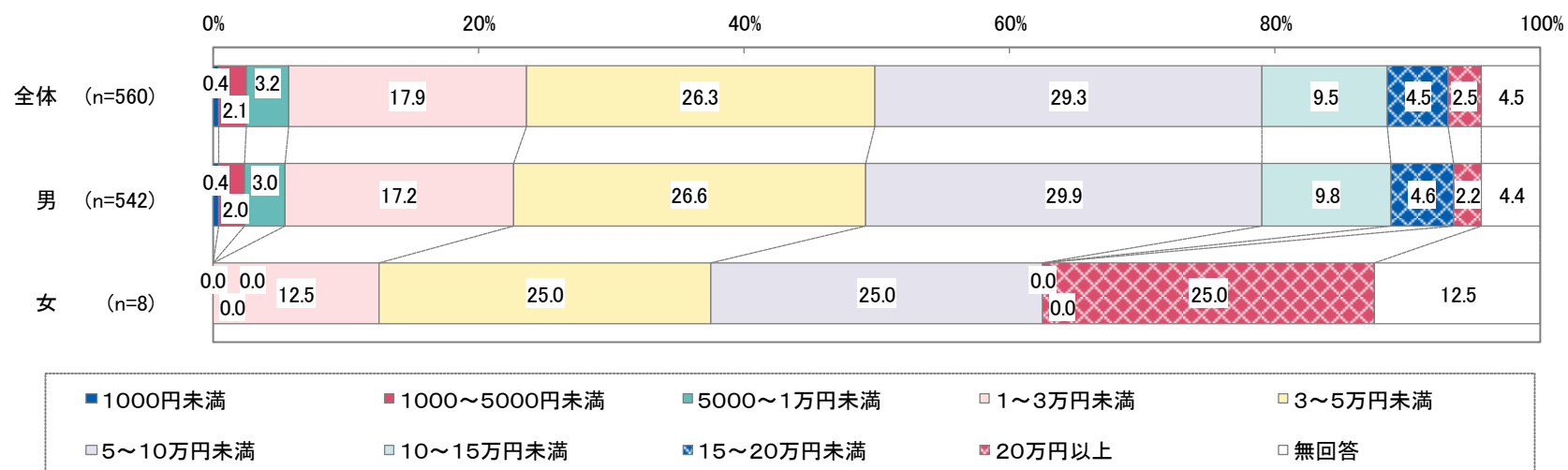
図表7 現在収入のある仕事（性別）



問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による平均収入（性別）については、「男性」では「5～10万円未満」（29.9%）及び「3～5万円未満」（26.6%）の割合が高く、「女性」では「3～5万円未満」「5～10万円未満」「20万円以上」（それぞれ25.0%）の割合が高い。

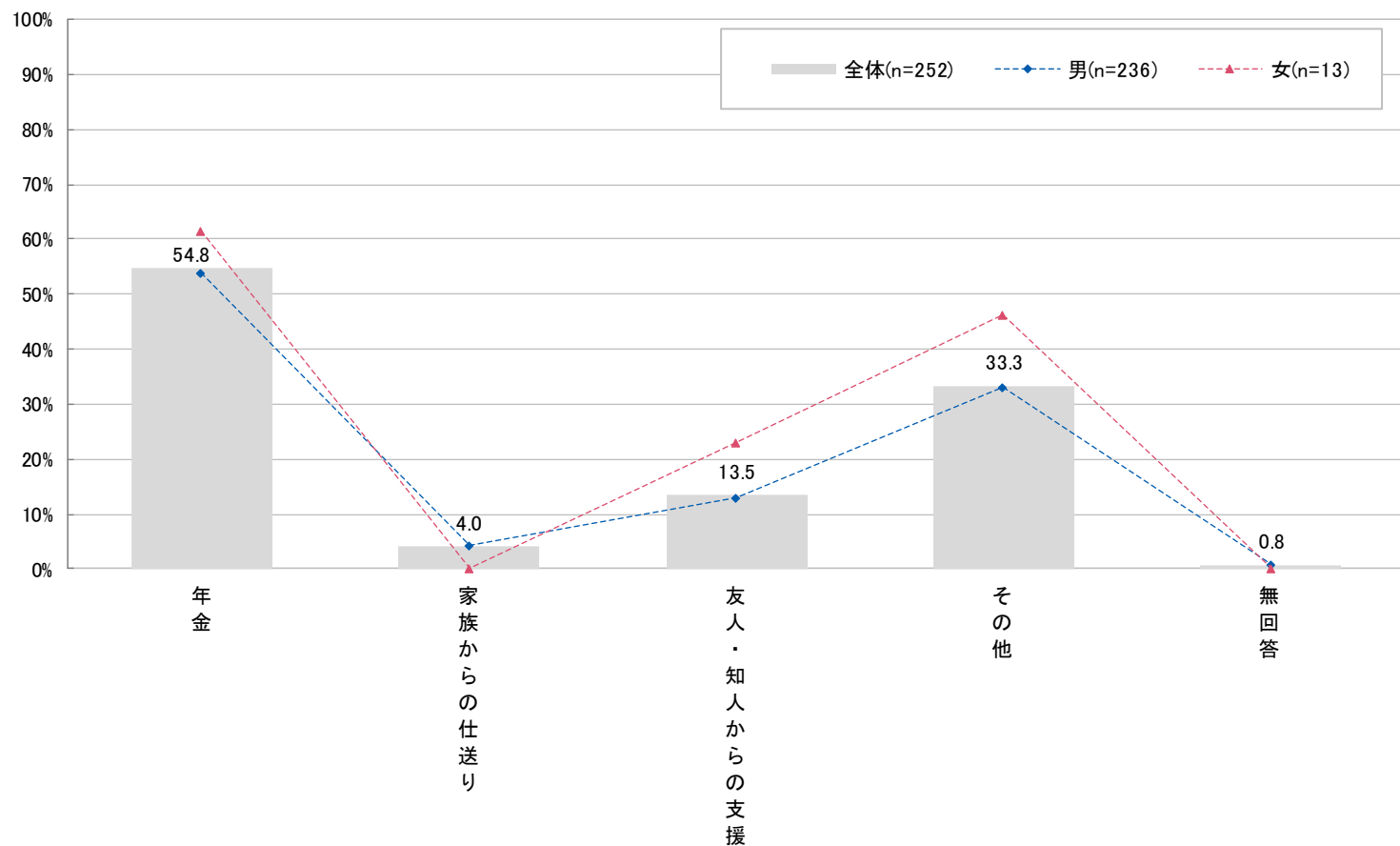
図表8 仕事による平均収入（性別）



問 7 - 1 仕事以外の収入の種類

- 仕事以外の収入の種類については、「男性」「女性」ともに「年金」の割合が高い。

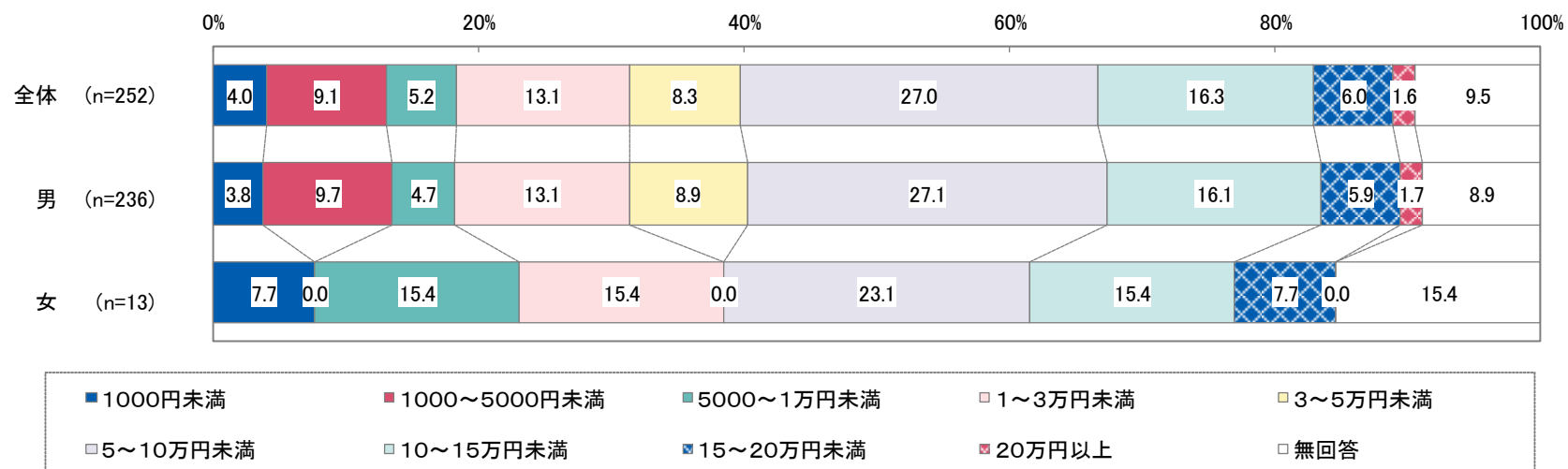
図表9 仕事以外の収入の種類（性別）



問 7 - 2 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の平均収入（性別）について、「男性」では、「5～10万円未満」（27.1%）の割合が高く、「女性」においても「5～10万円未満」（23.1%）の割合が高い。

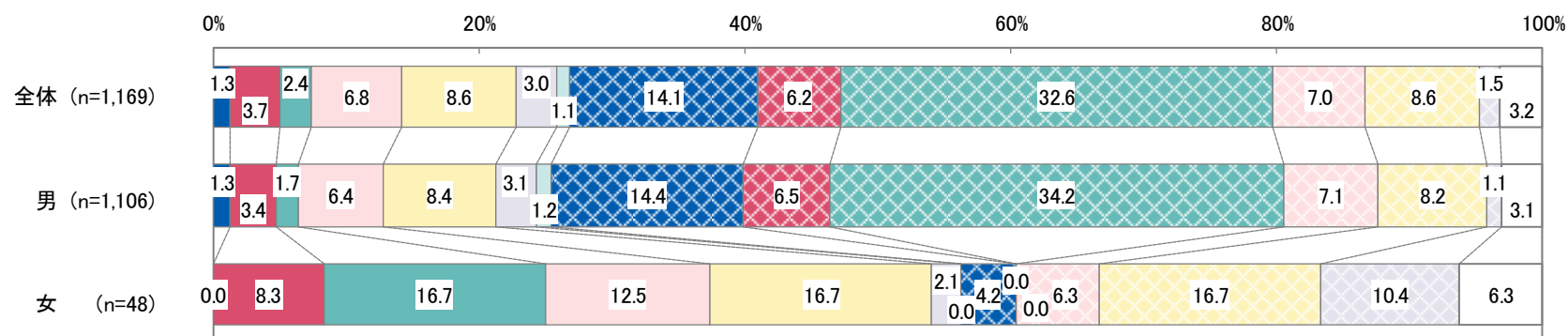
図表10 仕事以外の平均収入（性別）



問 1 4 これまで一番長くやっていた仕事

- これまで一番長くやっていた仕事については、「男性」では「建設・採掘従事者」（34.2%）の割合が高いのに対し、「女性」では「その他」を除き、「事務従事者」「サービス職業従事者」（それぞれ16.7%）の割合が高い。

図表 1 1 これまで一番長くやっていた仕事（性別）

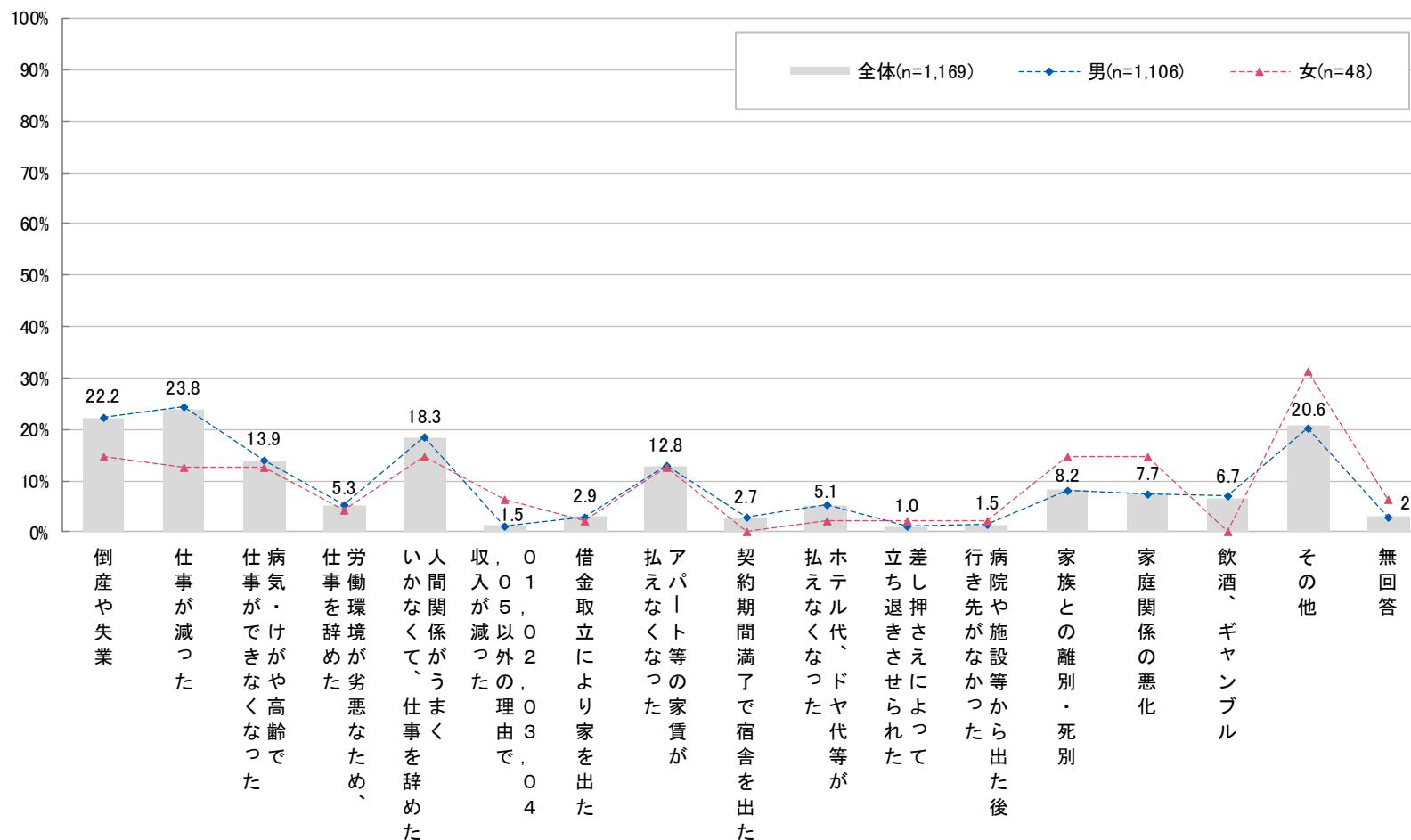


- 管理的職業従事者（会社・団体役員、工場長、支店長、管理職等）
- 専門的・技術的職業従事者（建築士、測量士、教師、公認会計士、プログラマー等）
- 事務従事者（一般事務、経理事務等）
- 販売従事者（小売、卸売店主、店員、勧誘員、外交員、営業等）
- サービス職業従事者（理美容師、調理人、クリーニング工、ホテル従業員、バーテンダー、アパート管理人等）
- 保安職業従事者（警察、自衛官、看守、消防員、警備員等）
- 農林漁業従事者（農業、漁業等）
- 生産工程従事者（プレス工、機械組立工、食品製造工、洋服仕立工等）
- 輸送・機械運転従事者（運転手、機関士等）
- 建設・採掘従事者（大工、とび、左官、畳職、配管工、電気工、クレーン運転工、炭鉱夫等）
- 運搬・清掃・包装等従事者（新聞配達、宅配便運転手、倉庫作業、荷役作業、廃品回収、ビル・建物清掃、道路・公園清掃等）
- その他
- 職業なし
- 無回答

問 17 今回の路上生活をするようになった主な理由

- 今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由については、「男性」では「仕事が減った」「倒産や失業」の割合が高く、「女性」では「その他」を除き、「倒産や失業」「人間関係がうまくいなくて、仕事を辞めた」の割合が高い。

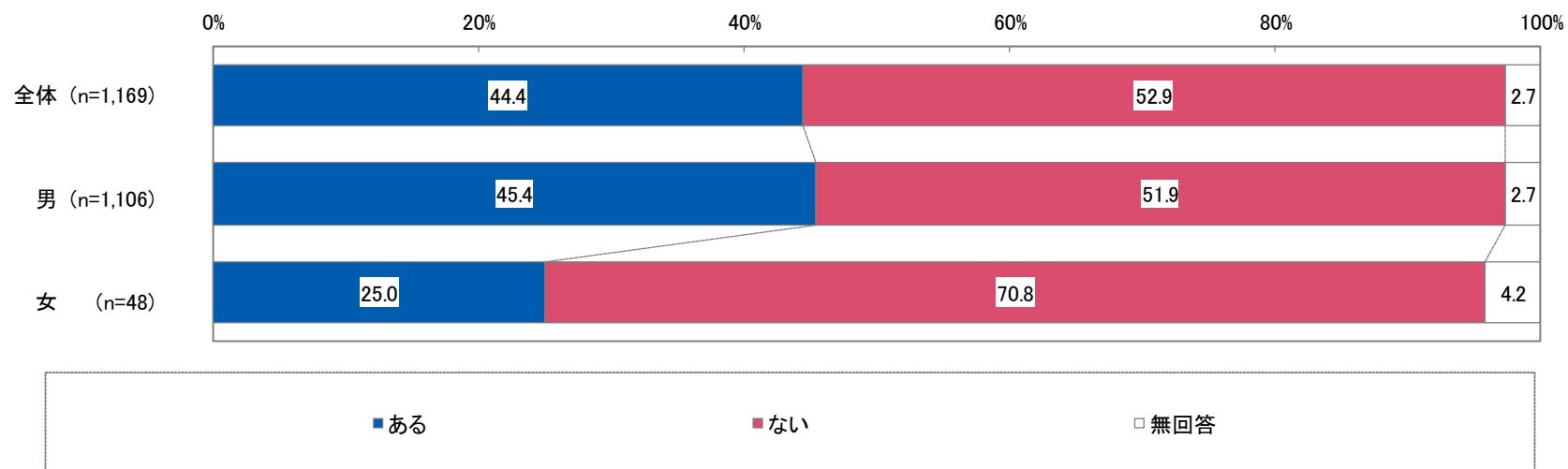
図表12 今回の路上生活をするようになった主な理由（性別）



問 1 8 別の場所での路上生活の経験

- 別の場所での路上（野宿）生活経験については、「男性」では「ある」の割合が45.4%である一方、「女性」では25.0%と低い。

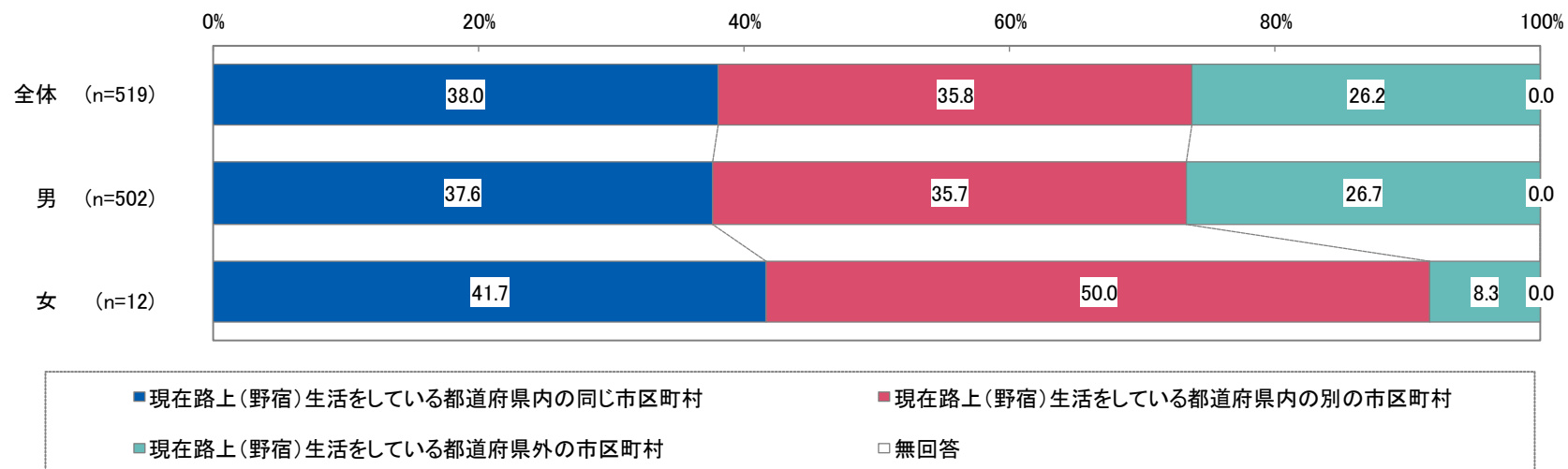
図表 13 別の場所での路上生活の経験（性別）



問 1 8 - 1 別の路上生活場所

- （路上（野宿）生活の経験がある人の）別の路上（野宿）生活場所については、「男性」では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」（37.6%）の割合が高く、「女性」では「都道府県内の別の市区町村」（50.0%）の割合が高い。

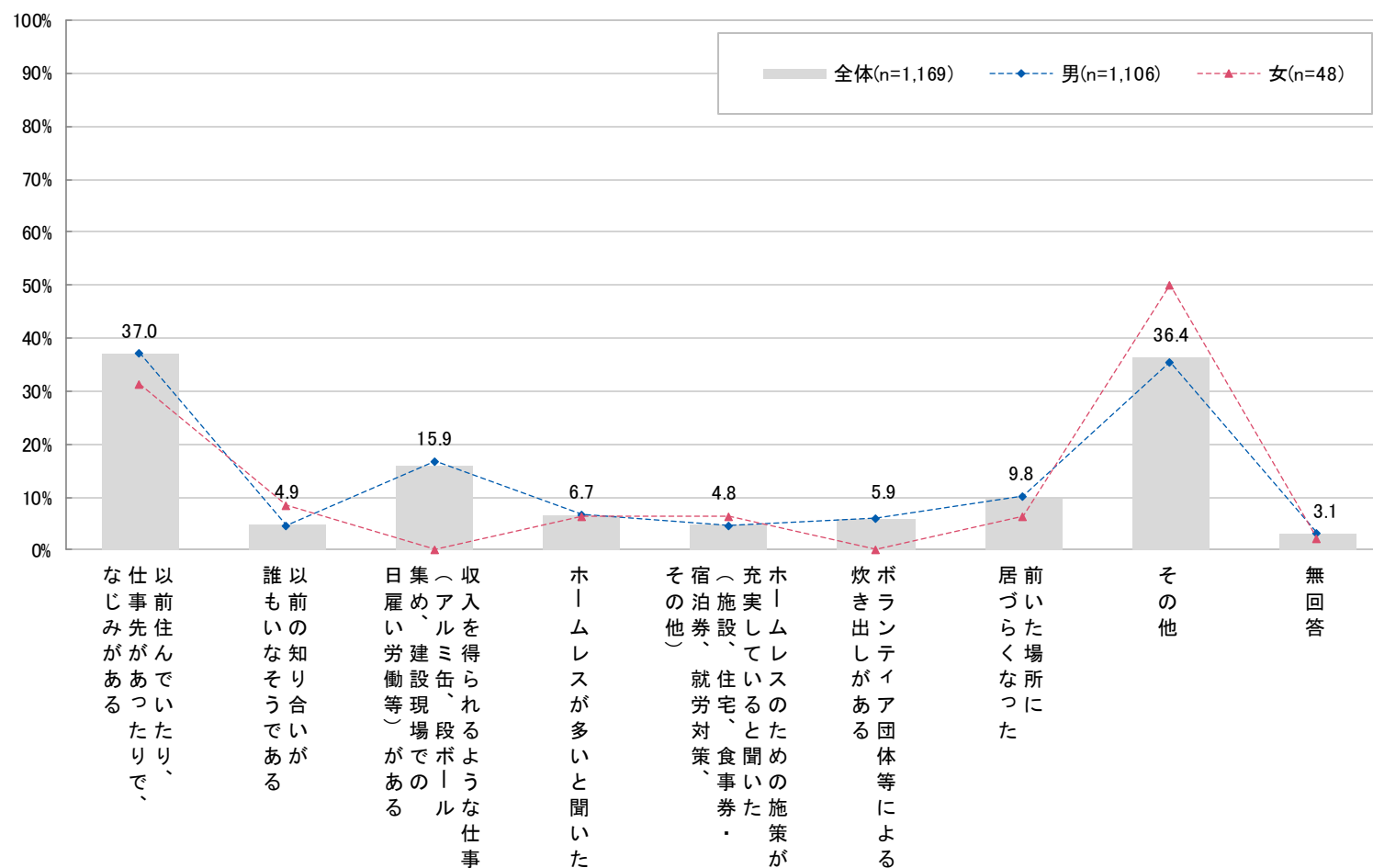
図表 1 4 別の路上生活場所（性別）



問 1 9 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村にきた主な理由については、「その他」を除き、「男性」では「以前住んでいた、仕事先があったり、なじみがある」「収入を得られるような仕事がある」の割合が高く、「女性」では「以前住んでいた、仕事先があったり、なじみがある」「以前の知り合いが誰もいない」という割合が高い。

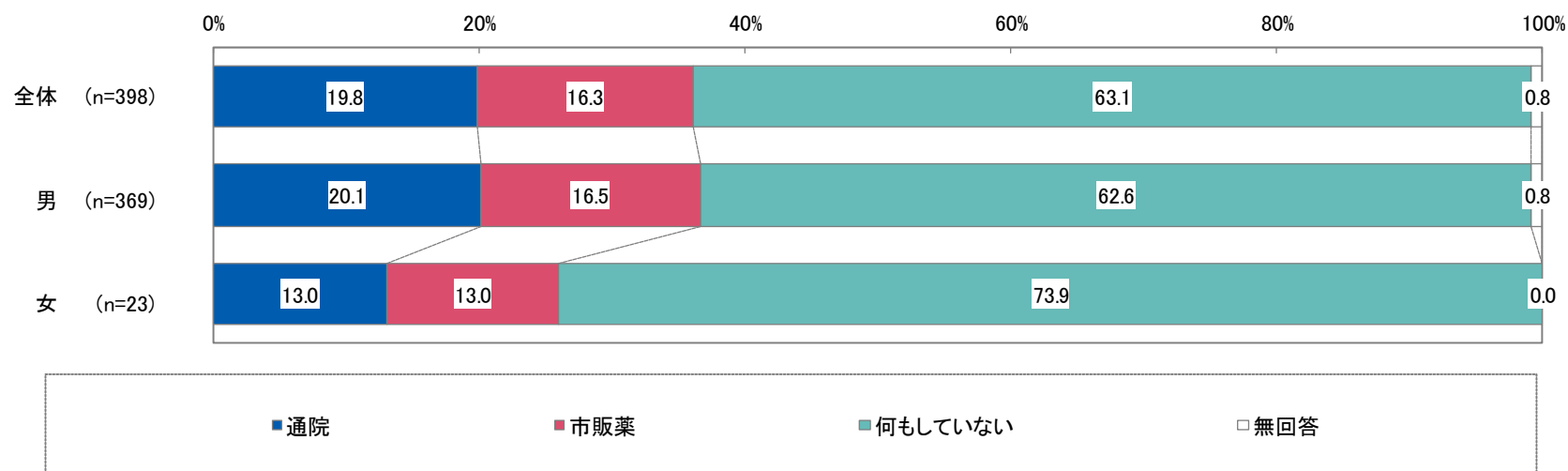
図表15 現在の市区町村にきた主な理由（性別）



問 2 1 - 1 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法

- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法については、「男性」「女性」とともに「何もしていない」（それぞれ62.6%、73.9%）の割合が高い。

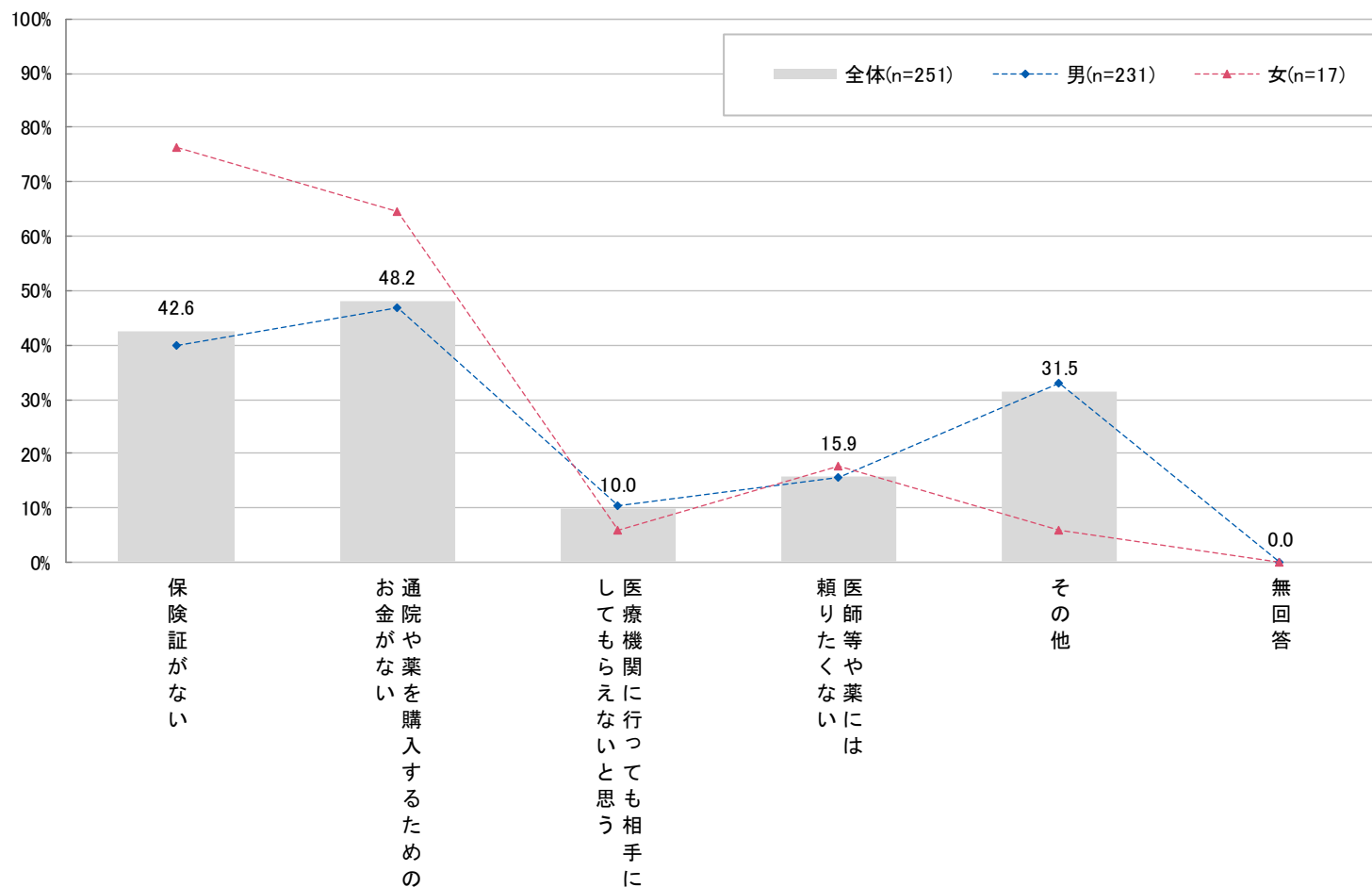
図表 16 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法（性別）



問 2 1 - 2 何も対処しない理由

- 何も対処しない理由について、「男性」では「通院や薬を購入するためのお金がない」の割合が高く、「女性」では「保険証がない」「通院や薬を購入するためのお金がない」の割合が高い。

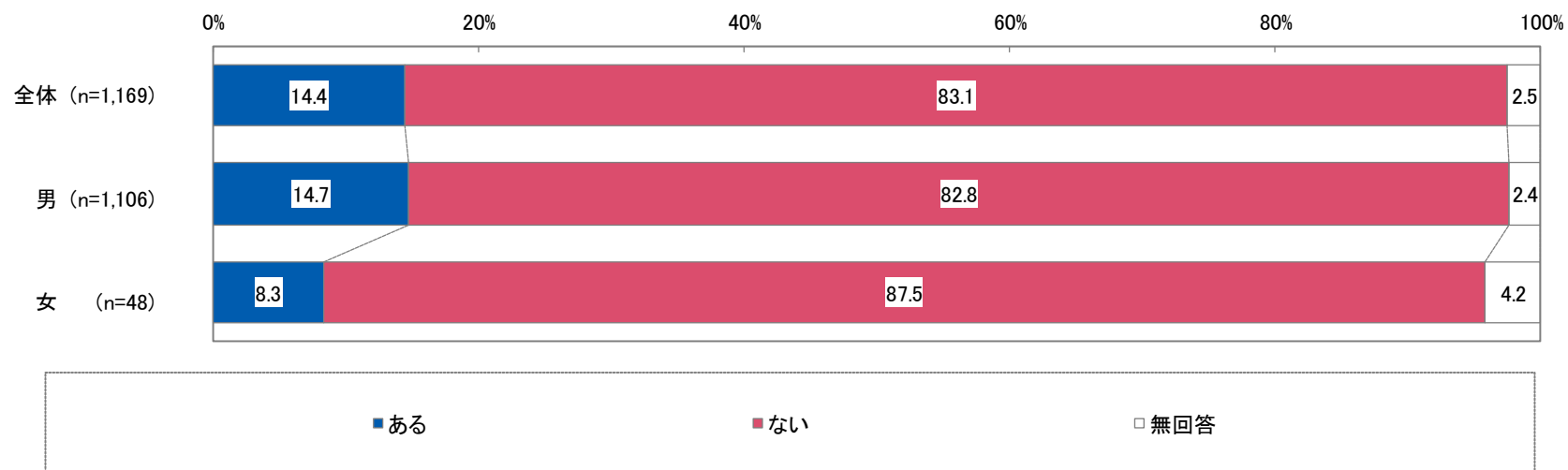
図表17 何も対処しない理由（性別）



問 2 5 路上生活してからの入院

- 路上（野宿）生活をしてからの入院経験については、「男性」では「ある」（14.7%）、「女性」では「ある」（8.3%）となっている。

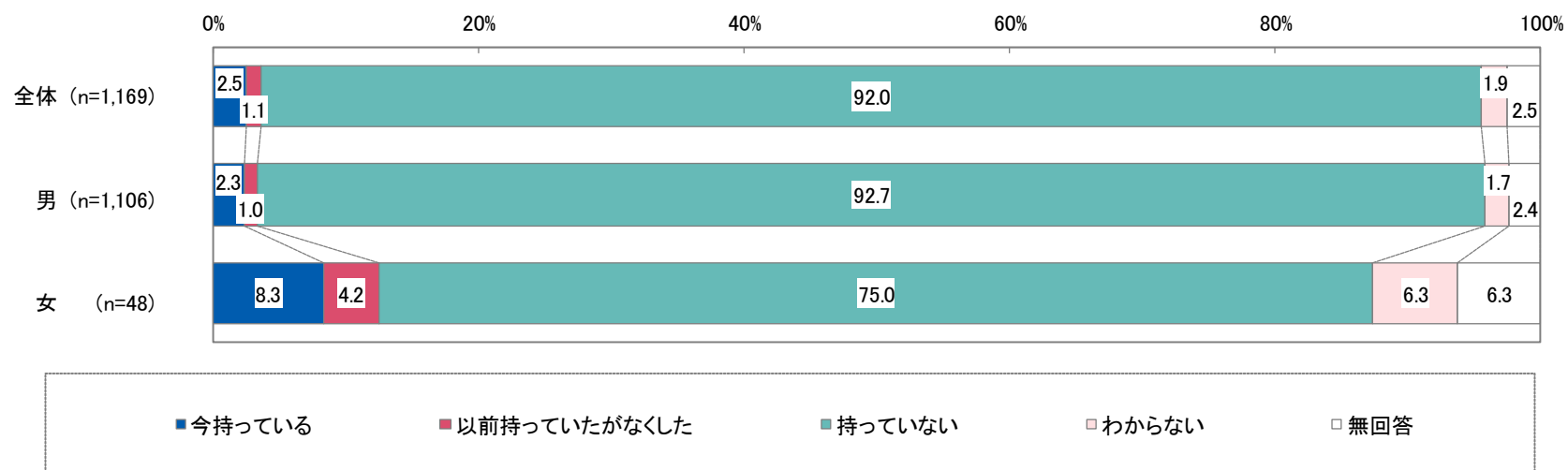
図表 18 路上生活してからの入院（性別）



問 2 6 障害者手帳の所有

- 障害者手帳の所持状況については、「男性」では「今持っている」（2.3%）に対し、「女性」では「今持っている」（8.3%）との割合が高い。

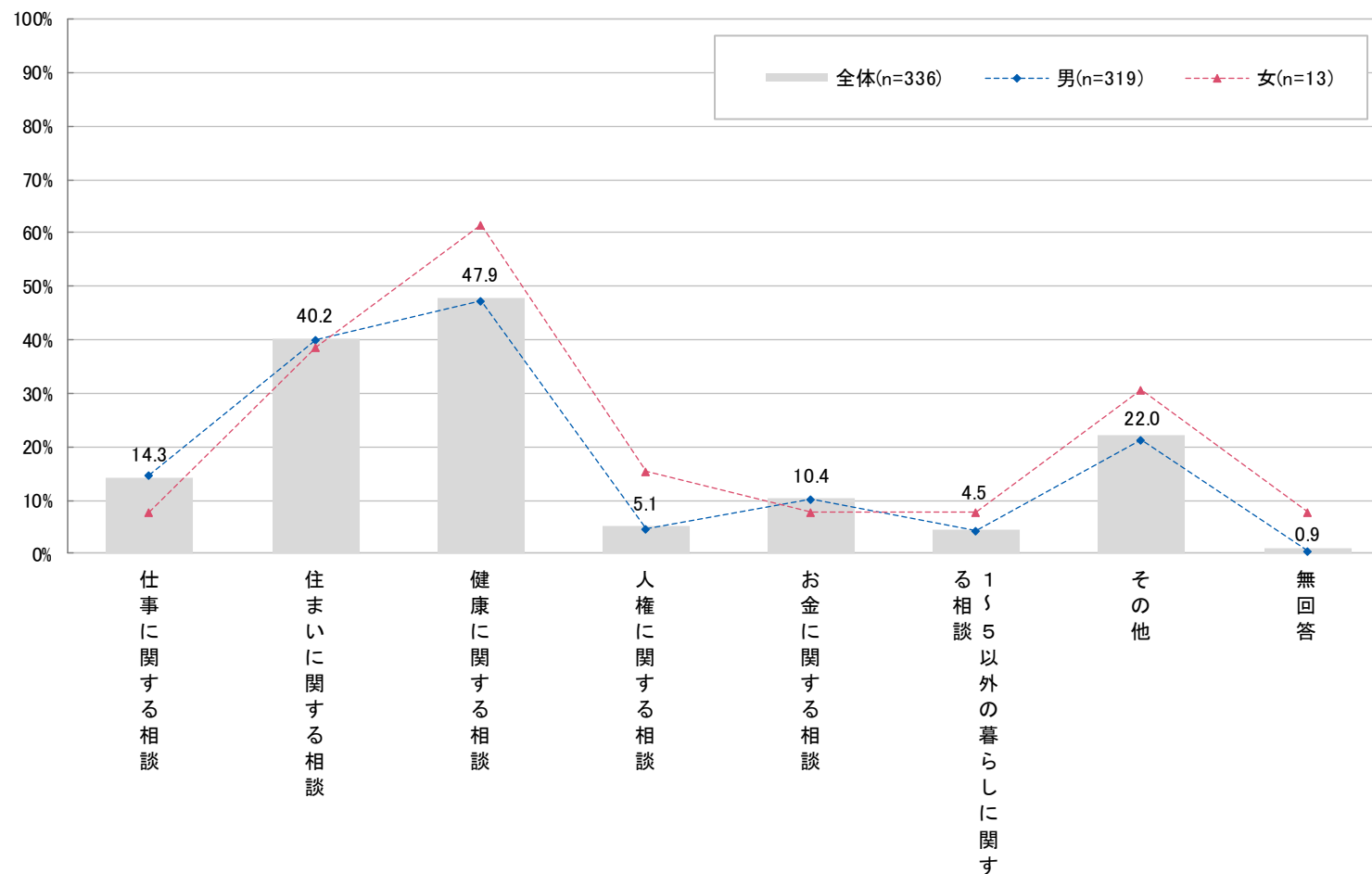
図表19 障害者手帳の所有（性別）



問 27-3 どのような相談をしたか

- 巡回相談員への相談状況について、「男性」「女性」ともに、「健康に関する相談」「住まいに関する相談」の割合が高い。

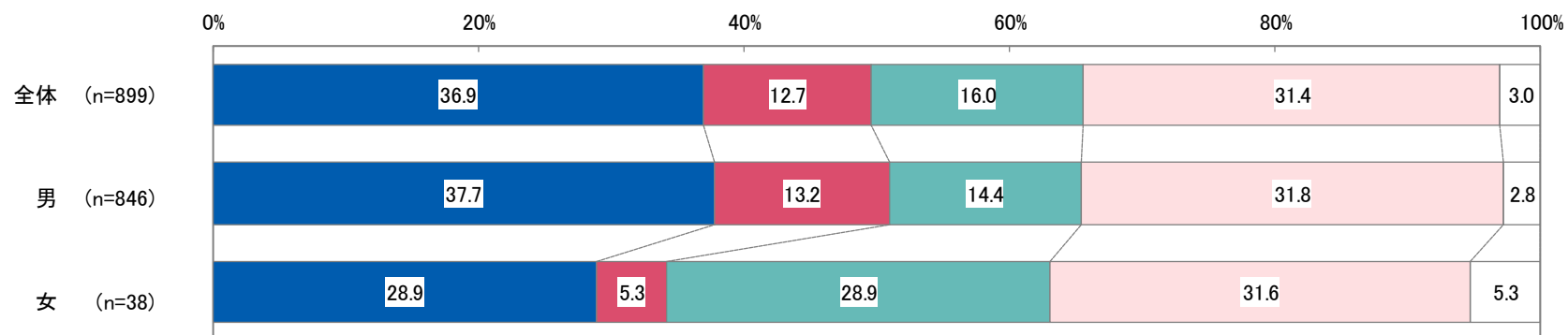
図表20 どのような相談をしたか（性別）



問 27-4 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員から自立支援センターやシェルター等の利用勧奨状況について、「男性」では「自立支援センターの利用を勧められた」（37.7%）の割合が高く、「女性」では「その他のサービスの利用を勧められた」（28.9%）の割合が高い。

図表21 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（性別）

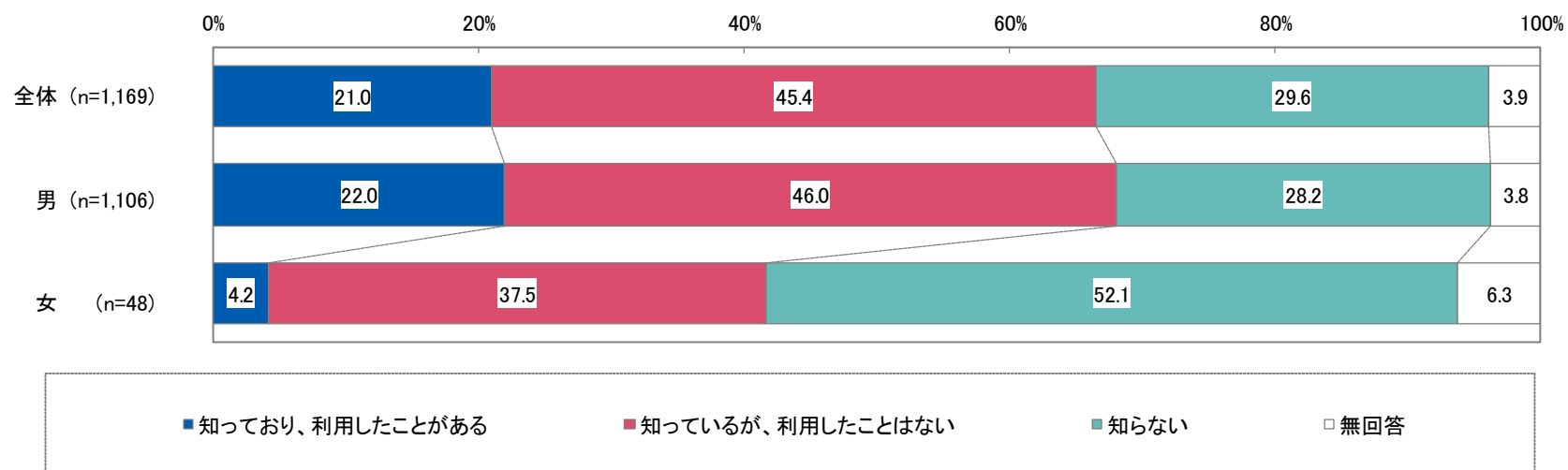


■ 自立支援センターの利用を勧められた ■ シェルターの利用を勧められた ■ その他のサービスの利用を勧められた ■ 特に勧められなかった □ 無回答

問 2 8 シェルター内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「男性」では「知っているが、利用したことはない」（46.0%）の割合が高く、「女性」では「知らない」（52.1%）の割合が高い。

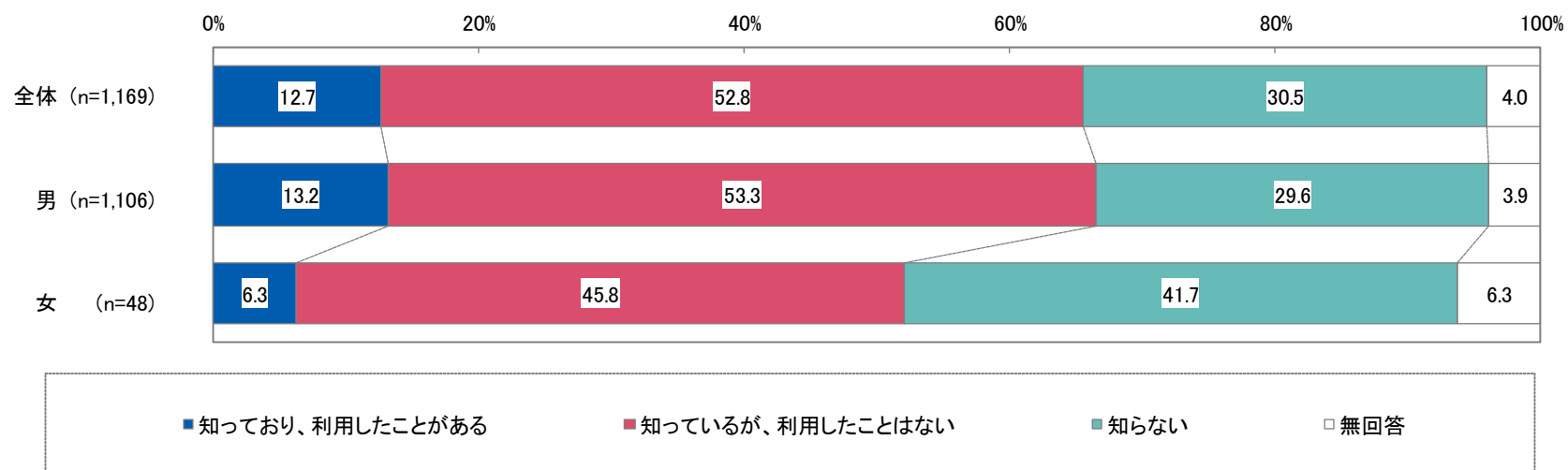
図表22 シェルター内容の認知度・利用度（性別）



問 2 9 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、「男性」では「知っているが、利用したことはない」（53.3%）の割合が高く、「女性」では「知らない」（41.7%）の割合が高い。

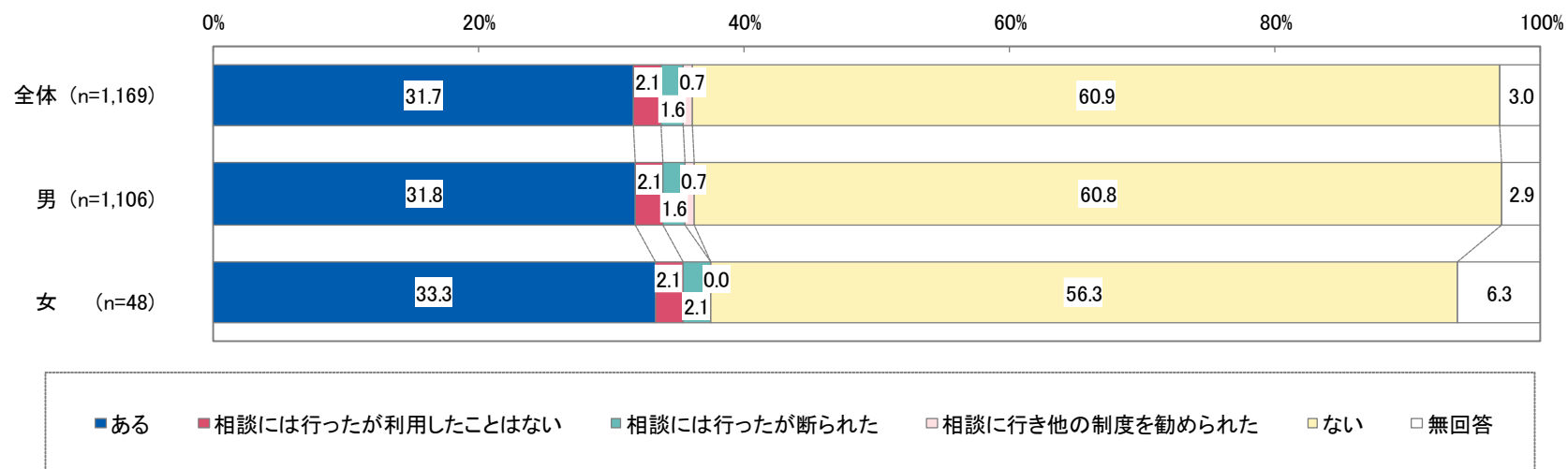
図表 23 自立支援センターの内容の認知度・利用度（性別）



問 3 1 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「男性」「女性」とともに「ない」（それぞれ60.8%、56.3%）の割合が高く、次いで「ある」（それぞれ31.8%、33.3%）となっている。

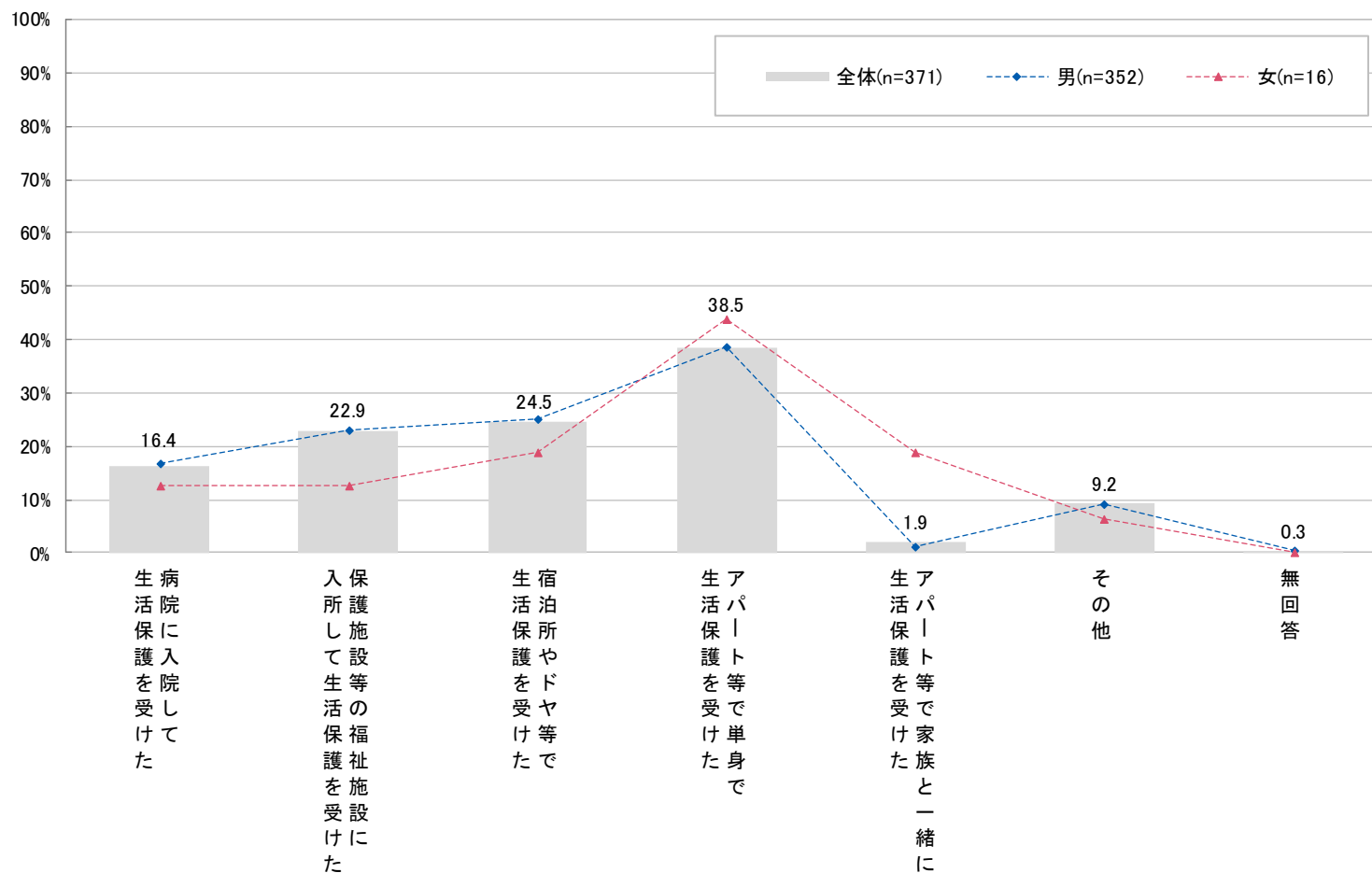
図表 2 4 生活保護の利用経験（性別）



問 3 1 - 1 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「男性」「女性」とともに「アパート等で単身で生活保護を受けた」「宿泊所やドヤ等で生活保護を受けた」の割合が高く、「女性」のみでは「アパート等で家族と一緒に生活保護を受けた」の割合が高い。

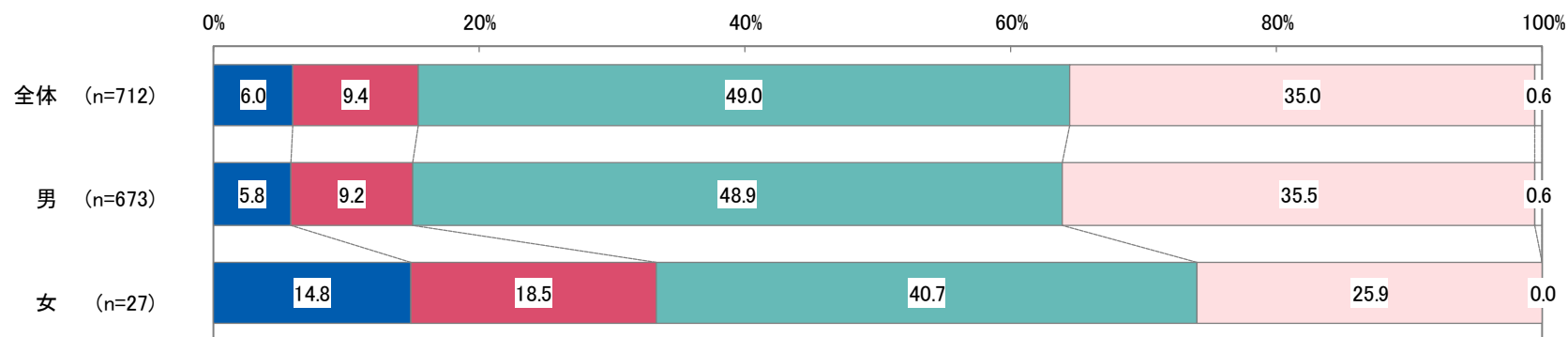
図表25 生活保護制度の利用方法（性別）



問 3 1 - 3 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「男性」「女性」ともに「生活保護制度を利用したくない」（それぞれ48.9%、40.7%）の割合が高く、「女性」のみでは「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（18.5%）、「生活保護制度を知らない」（14.8%）の割合が高い。

図表 26 生活保護制度を利用しなかった理由（性別）

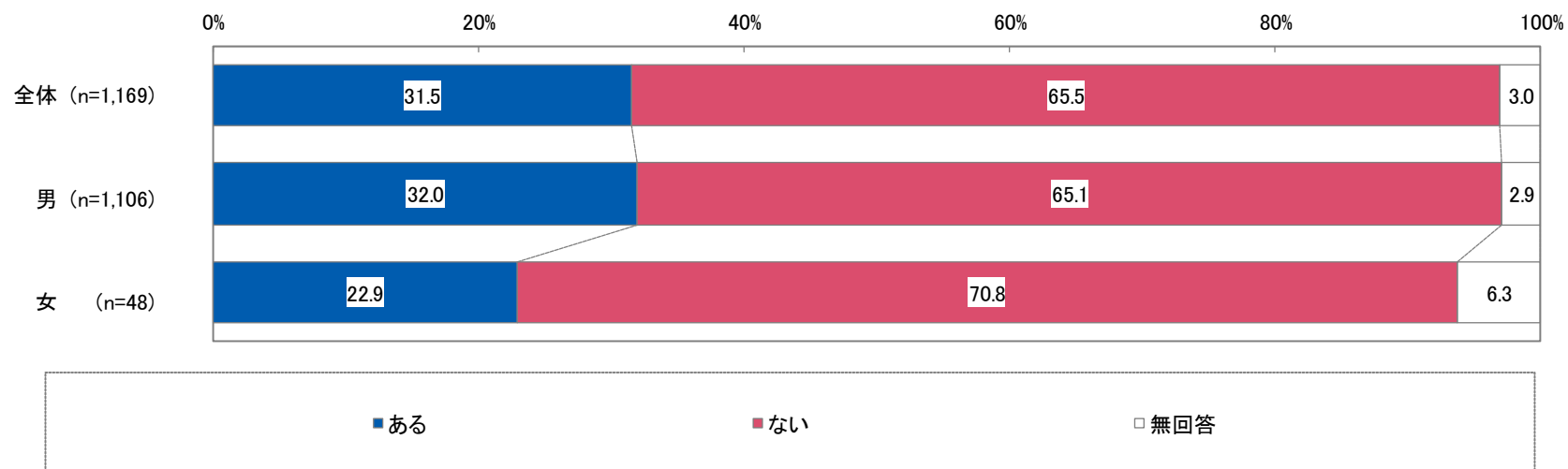


■生活保護制度を知らない ■生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている ■生活保護制度を利用したくない □その他 □無回答

問 3 2 その他の公的支援の利用

- その他の公的支援の利用経験については、「男性」では「ある」（32.0%）に対し、「女性」では「ある」（22.9%）と割合が低い。

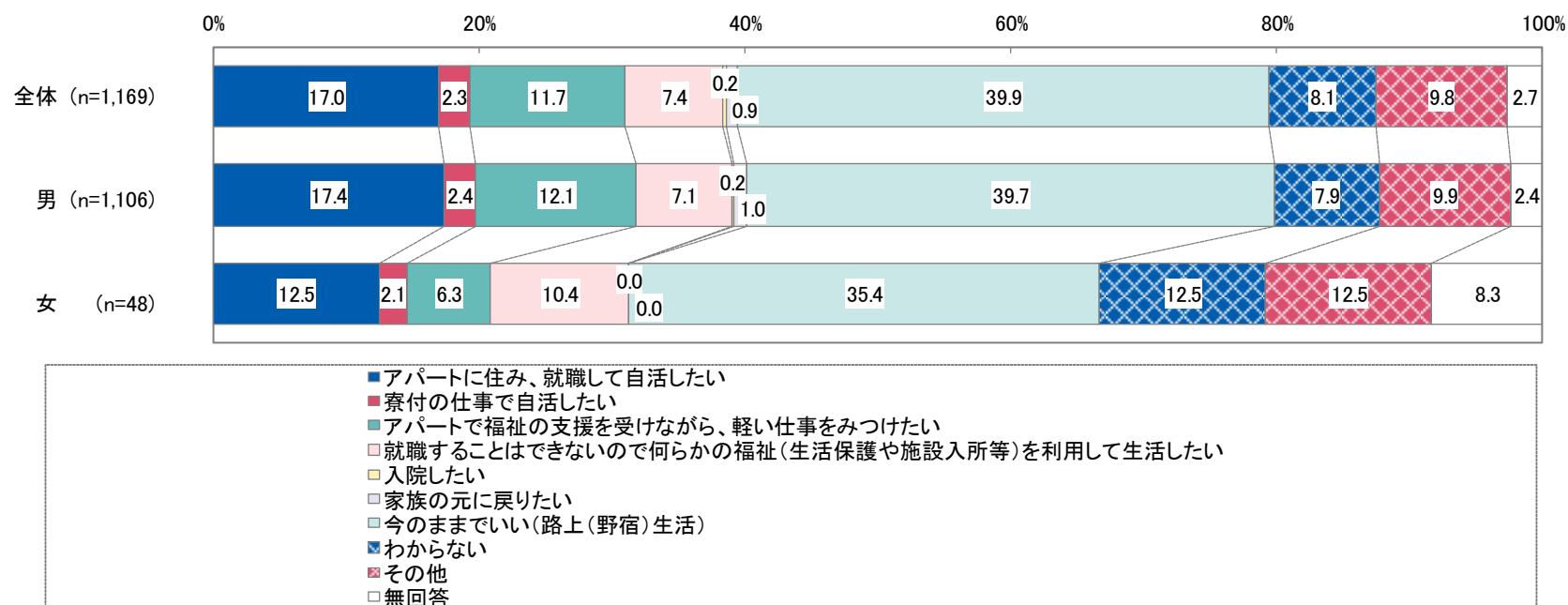
図表27 その他の公的支援の利用（性別）



問 3 6 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「男性」「女性」とともに「今のままでいい」（男性：39.7%、女性：35.4%）、「アパートに住み、就職して自活したい」（男性：17.4%、女性：12.5%）の割合が高く、「女性」では「就職することはできないので何らかの福祉を利用して生活したい」（男性：7.1%、女性：10.4%）の割合が高い。

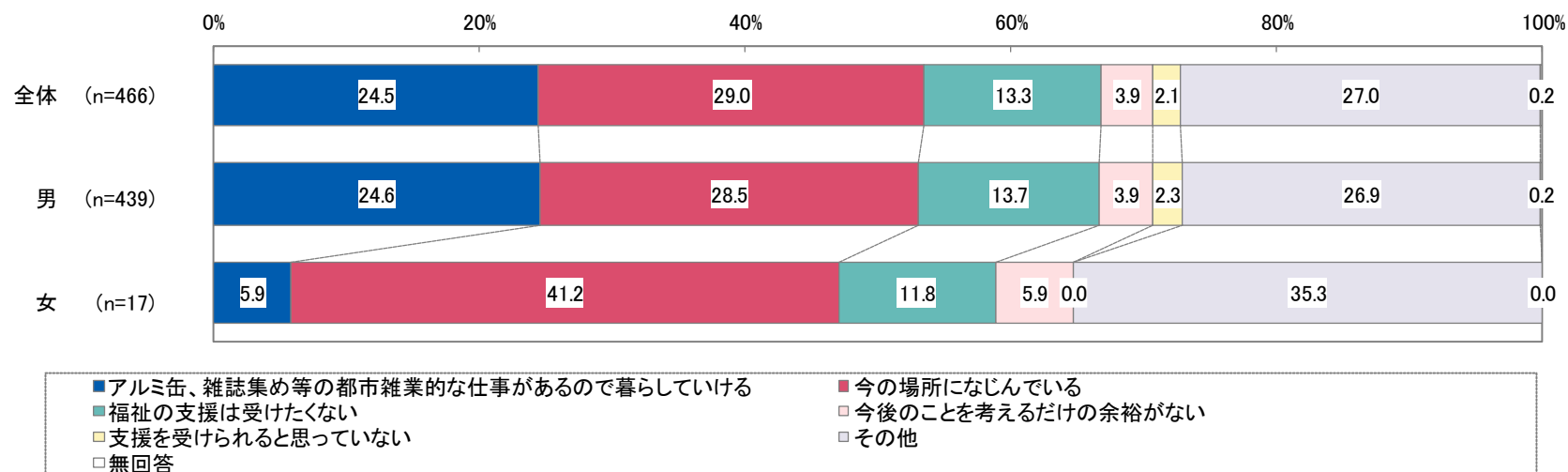
図表28 今後望んでいる生活（性別）



問 3 6 – 1 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「男性」では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」（男性：24.6%、女性：5.9%）の割合が高く、「女性」では「今の場所になじんでいる」（男性：28.5%、女性：41.2%）の割合が高い。

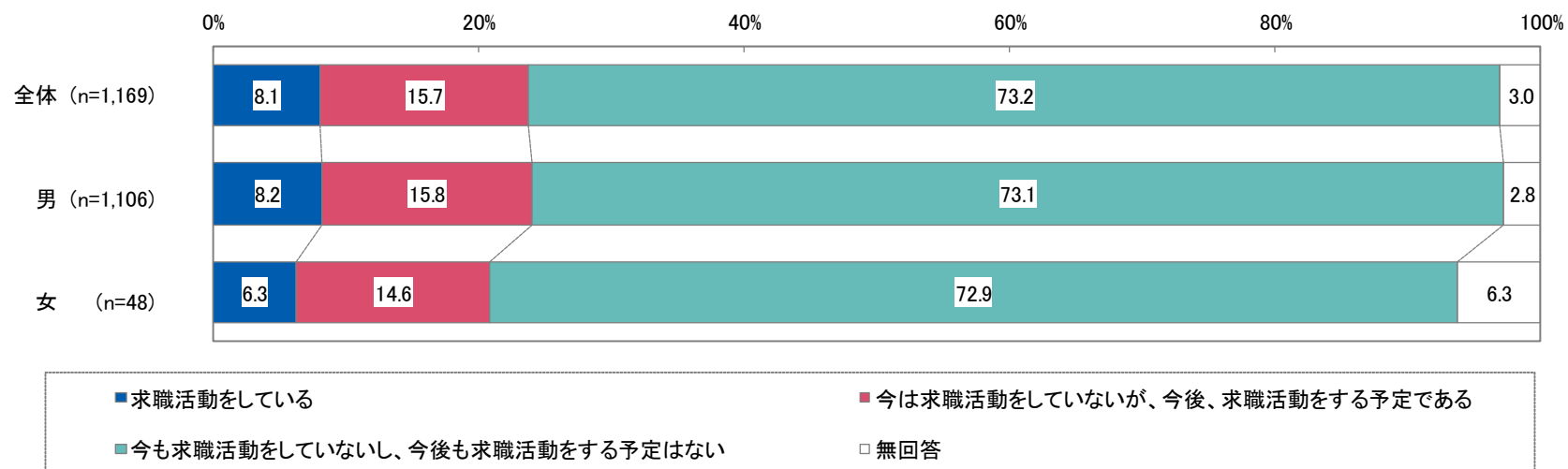
図表29 今のままでいい理由（性別）



問 3 7 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動の状況については、「男性」「女性」とともに「今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」（73.1%、72.9%）の割合が高い。

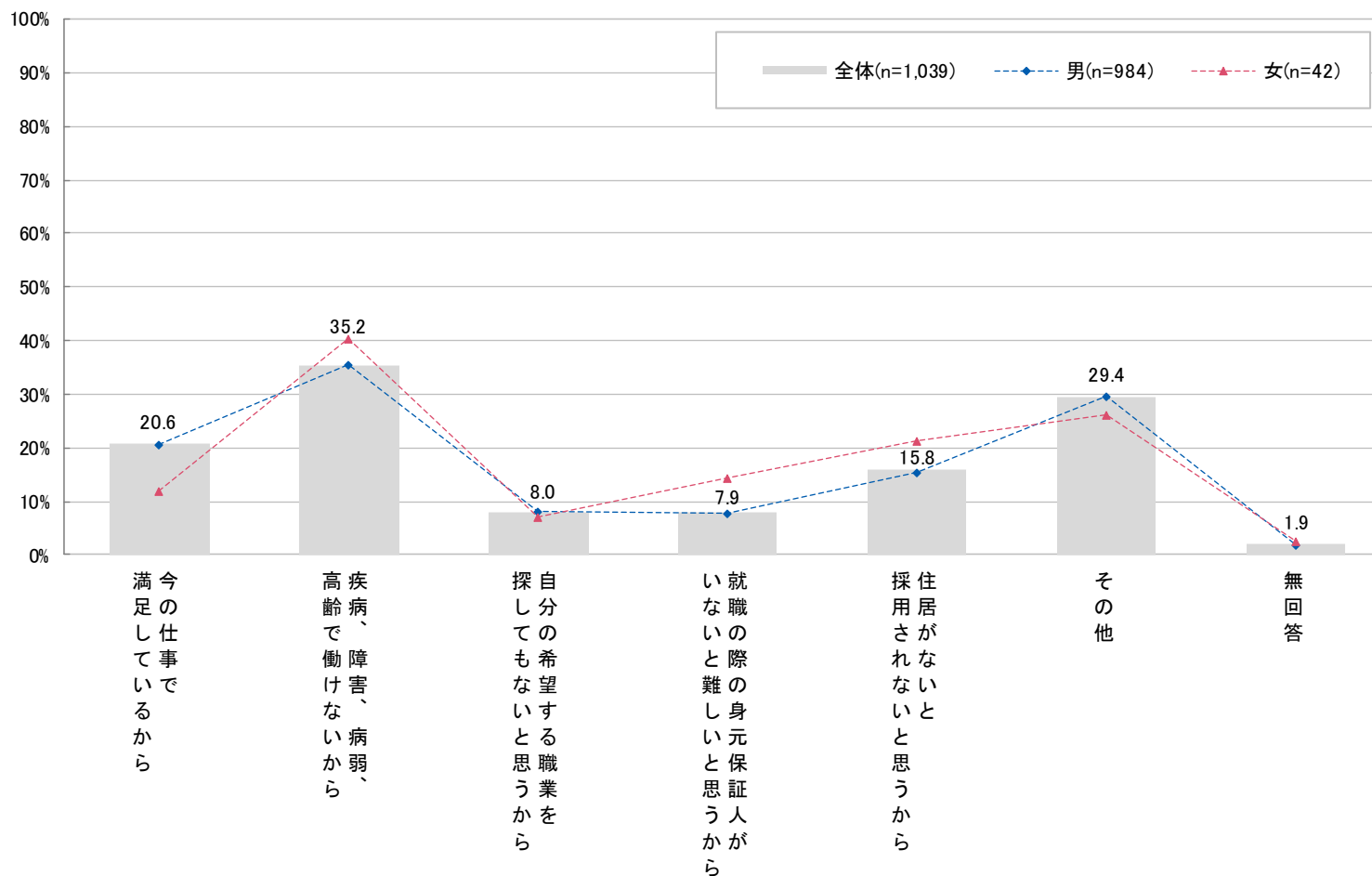
図表30 就職するための求職活動（性別）



問 3 7 - 2 求職活動をしていない理由

- 求職活動をしていない理由については、「男性」では「今の仕事で満足しているから」の割合が高く、「女性」では「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」の割合が高い。

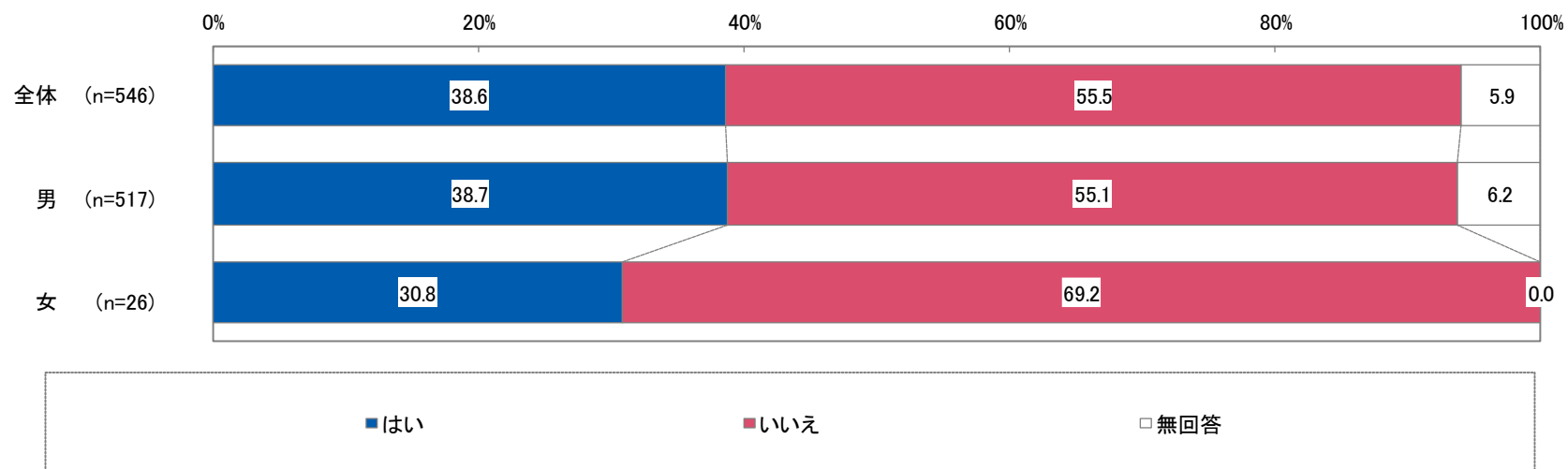
図表31 求職活動をしていない理由（性別）



問 3 7 - 3 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向の有無については、「はい」の割合が「男性」では38.7%であるのに対し、「女性」では30.8%と低い。

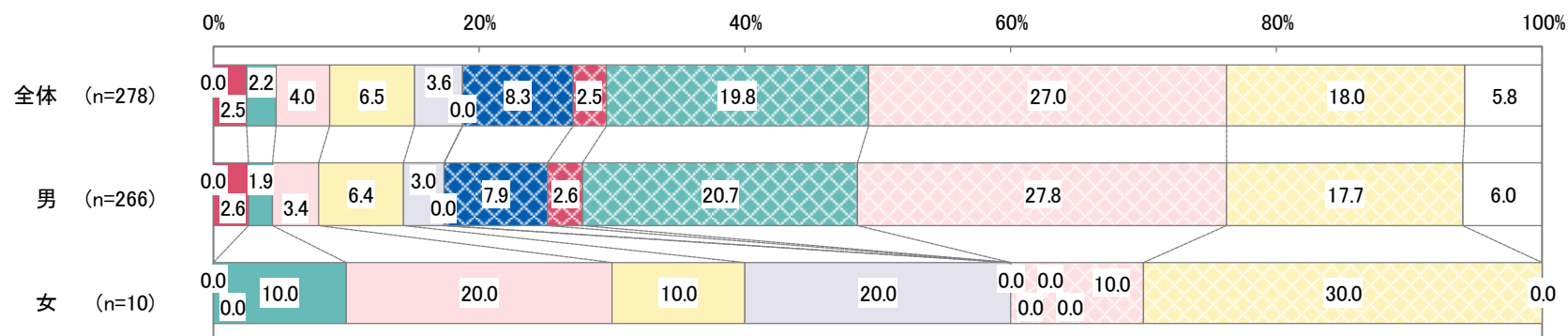
図表32 軽作業への参加意向（性別）



問 3 7 - 4 希望の職業

- 希望の職業については、「男性」では「建設・採掘従事者」（男性：20.7%、女性：0%）、「運搬・清掃・包装等従事者」（男性：27.8%、女性：10.0%）の割合が高く、「女性」では「販売従事者」（男性：3.4%、女性：20.0%）、「保安職業従事者」（男性：3.0%、女性：20.0%）の割合が高い。

図表33 希望の職業（性別）

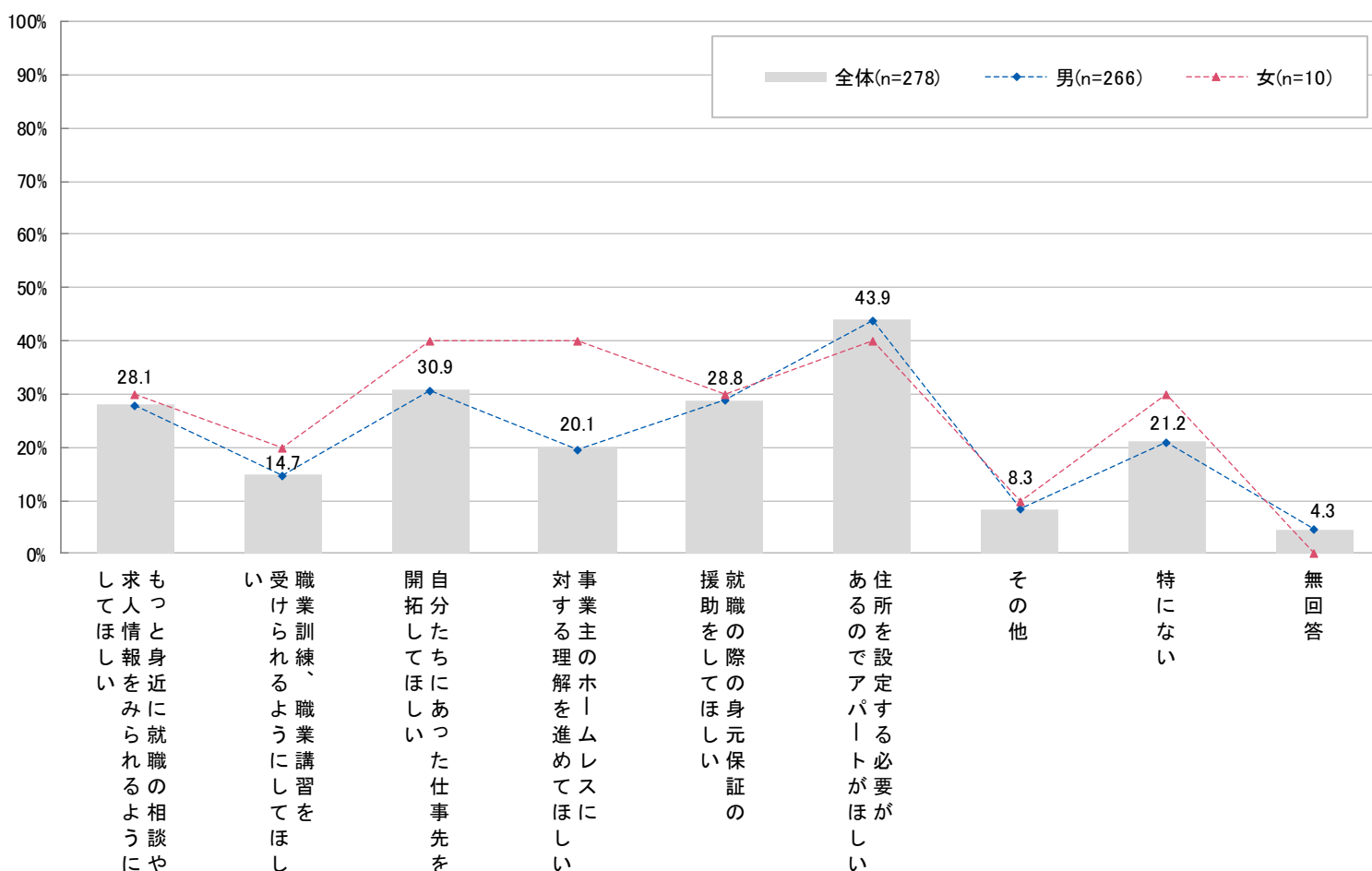


- 管理的職業従事者（会社・団体役員、工場長、支店長、管理職等）
- 専門的・技術的職業従事者（建築士、測量士、教師、公認会計士、プログラマー等）
- 事務従事者（一般事務、経理事務等）
- 販売従事者（小売、卸売店主、店員、勧誘員、外交員、営業等）
- サービス職業従事者（理美容師、調理人、クリーニング工、ホテル従業員、バーテンダー、アパート管理人等）
- 保安職業従事者（警察、自衛官、看守、消防員、警備員等）
- 農林漁業従事者（農業、漁業等）
- 生産工程従事者（プレス工、機械組立工、食品製造工、洋服仕立工等）
- 輸送、機械運転従事者（運転手、機関士等）
- 建設・採掘従事者（大工、とび、左官、畳職、配管工、電気工、クレーン運転工、炭鉱夫等）
- 運搬・清掃・包装等従事者（新聞配達、宅配便運転手、倉庫作業、荷役作業、廃品回収、ビル・建物清掃、道路・公園清掃等）
- その他
- 無回答

問 3 7 - 5 就職するために望む支援

- 就職するために望む支援については、「男性」では「アパートがほしい」の割合が高く、「女性」では「自分たちにあった仕事を開拓してほしい」、「事業主のホームレスに対する理解を進めてほしい」の割合が高い。

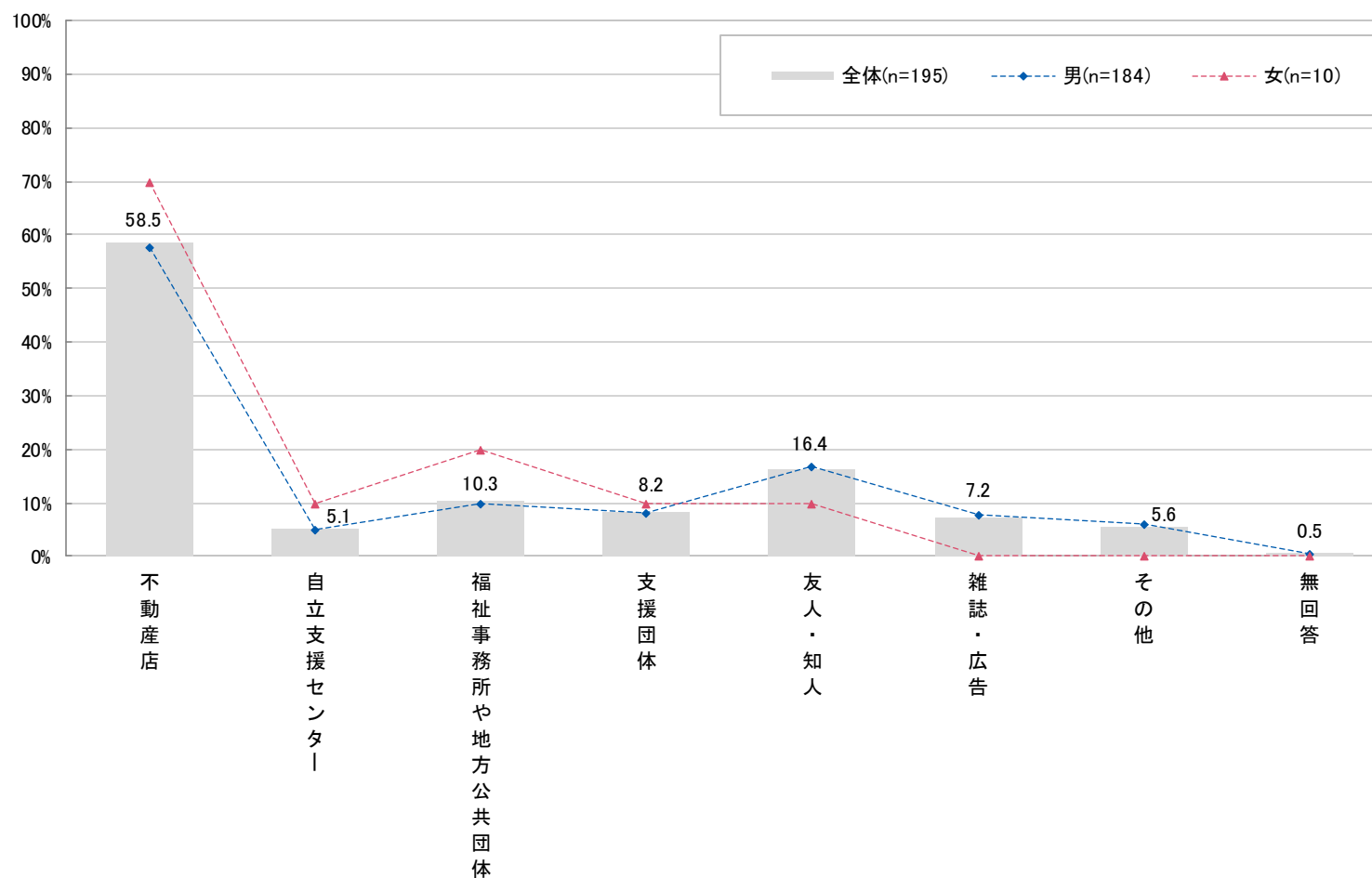
図表34 就職するために臨む支援（性別）



問 3 9 - 1 住宅を探した場所

- 住宅を探した場所については、男女ともに「不動産店」の割合が高いが、「男性」では「友人・知人」の割合が高く、「女性」では「福祉事務所や地方公共団体」、「自立支援センター」の割合が高い。

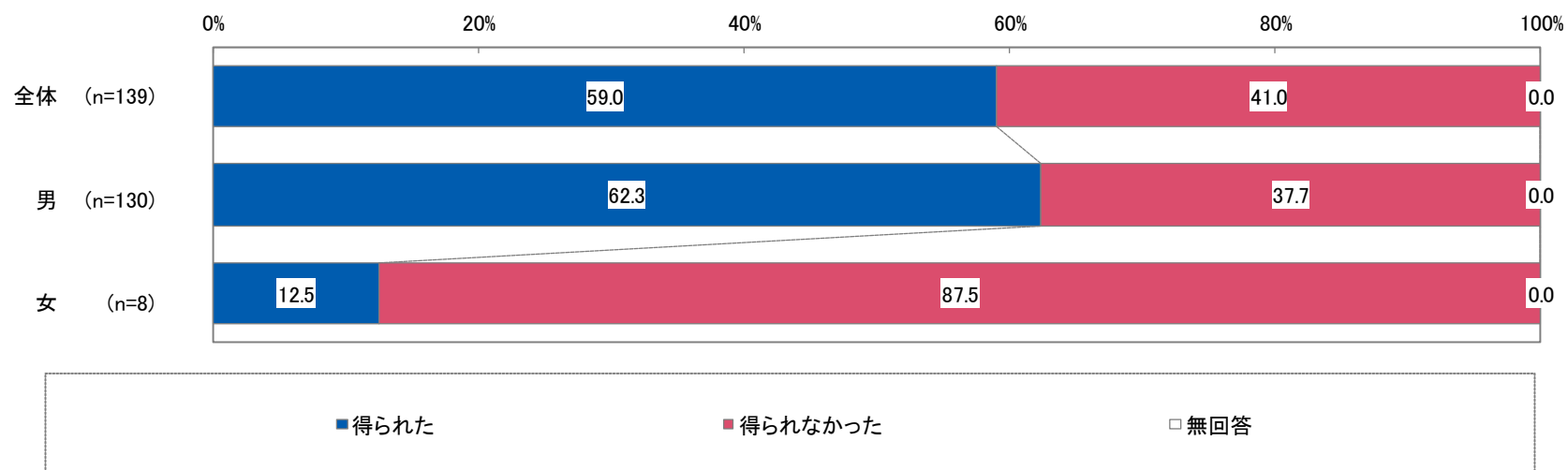
図表35 住宅を探した場所（性別）



問 3 9 - 2 安い家賃の情報

- 安い家賃の情報については、「男性」では「得られた」が62.3%と高く、「女性」では「得られなかった」が87.5%と高い。

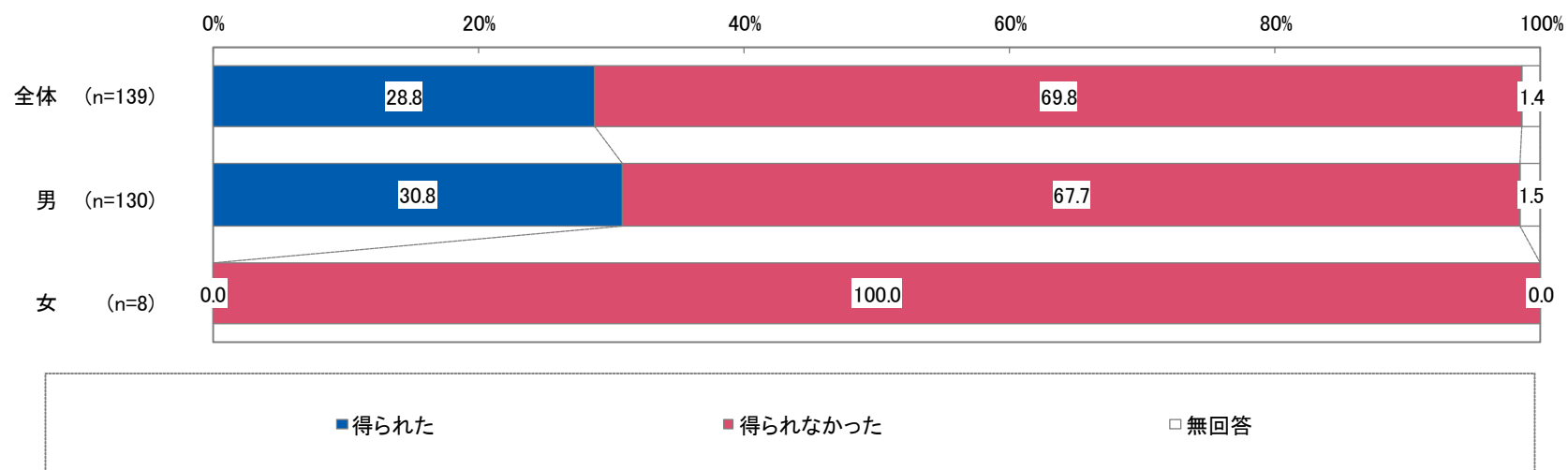
図表36 安い家賃の情報（性別）



問 3 9 - 3 民間保証会社の情報

- 民間保証会社の情報が得られたかについては、「男性」では「得られた」が30.8%と高く、「女性」では「得られなかった」が100.0%となっている。

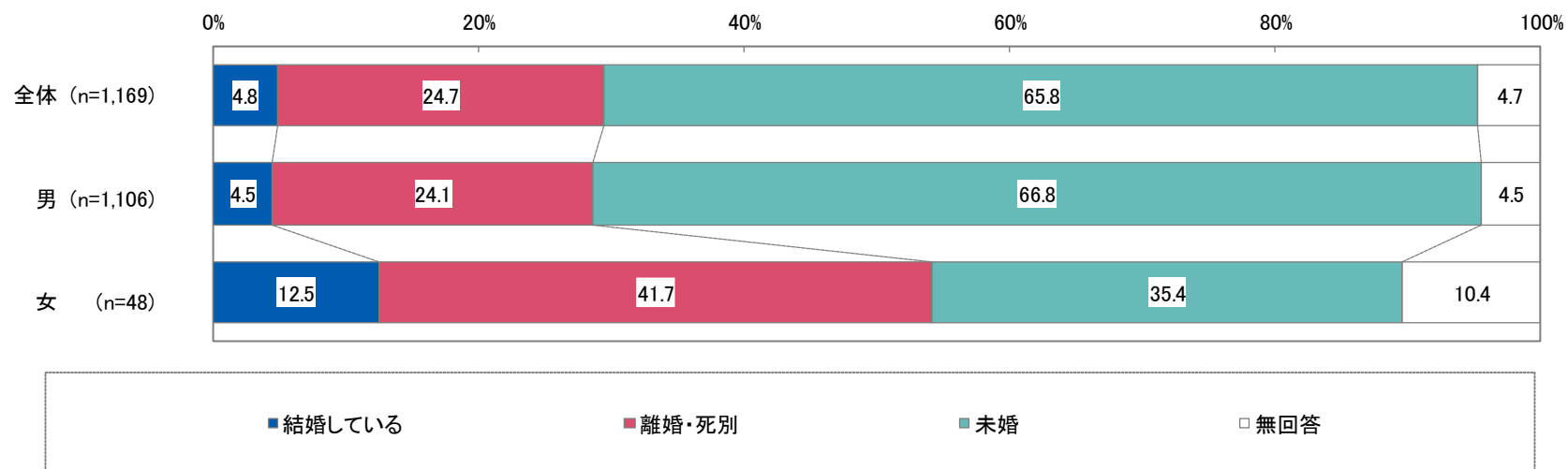
図表37 民間保証会社の情報（性別）



問 4 1 結婚の状況

- 結婚については、「女性」では「結婚している」（男性：4.5%、女性：12.5%）、「離婚・死別」（男性：24.1%、女性：41.7%）の割合が高い。

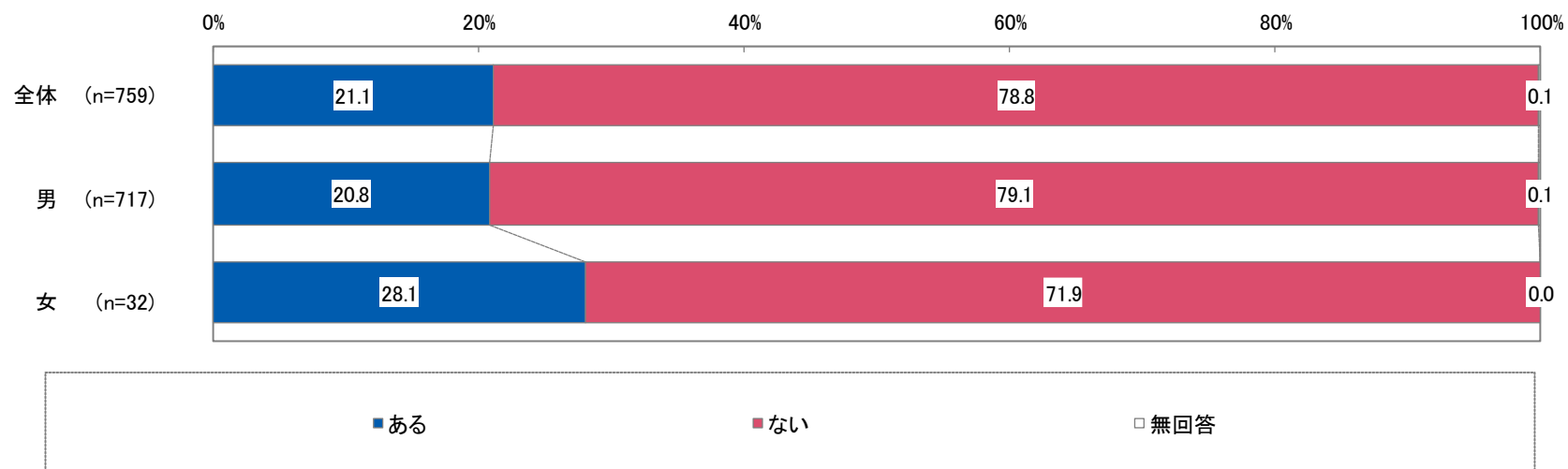
図表38 結婚の状況（性別）



問 4 2 - 1 家族・親族との連絡

- 家族・親族との連絡については、「女性」では「ある」が28.1%と高く、「男性」では「ない」が79.1%と割合が高い。

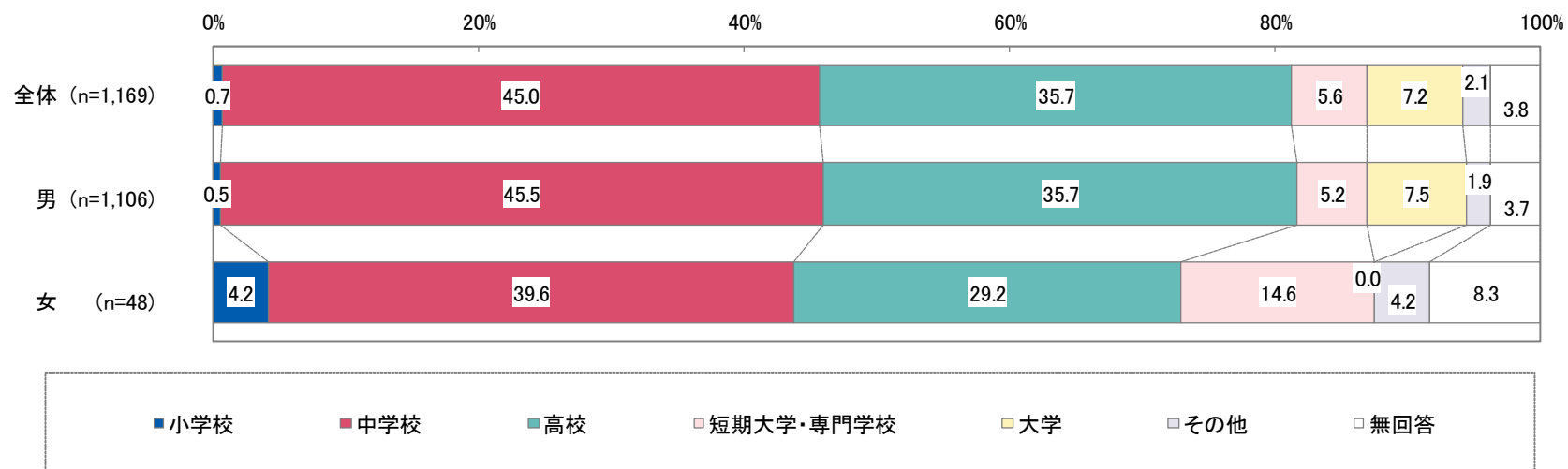
図表39 家族・親族との連絡（性別）



問 4 5 最後に出た学校

- 最後に出た学校については、男女ともに「中学校」及び「高校」の割合が高いが、「女性」では「短期大学・専門学校」（男性：5.2%、女性：14.6%）の割合が高い。

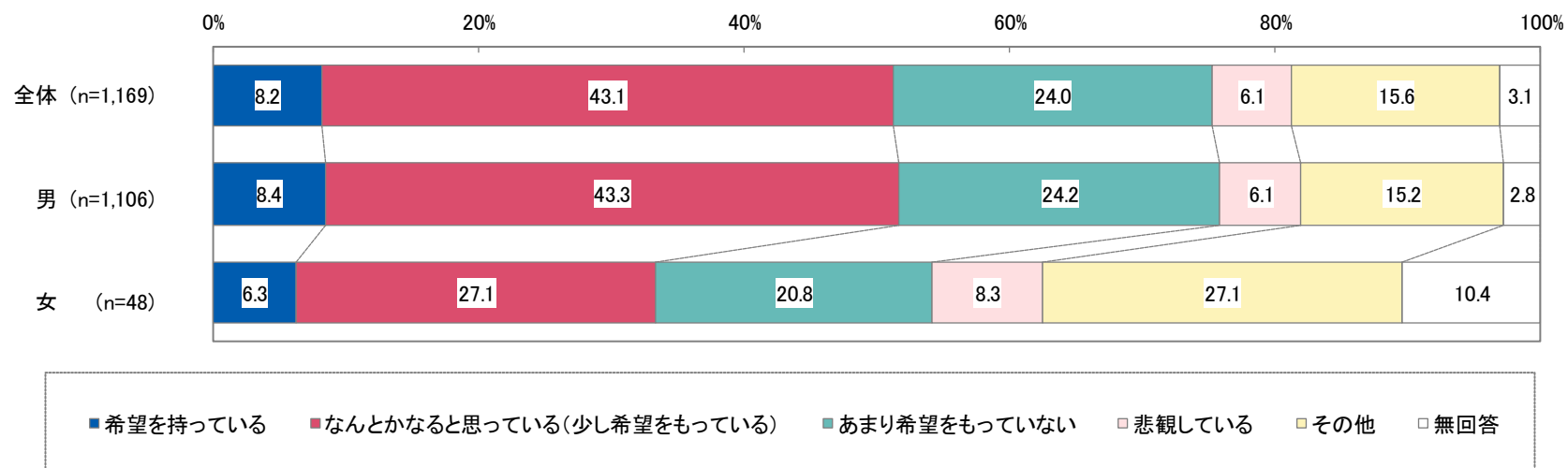
図表40 最後に出た学校（性別）



問 4 7 現在の気持ち

- 現在の気持ちについては、「男性」は、「希望を持っている」（男性：8.4%、女性：6.3%）、「なんとかなると思っている（少し希望を持っている）」（男性：43.3%、女性：27.1%）が高く、「女性」は、「悲観している」（男性：6.1%、女性：8.3%）が高い。

図表 4 1 現在の気持ち（性別）



年齢階層別

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

年齢階層別の傾向について

路上での生活

- 具体的な寝場所では、年齢階層が上がるほど一定の場所で決まっている割合が高くなり、具体的な場所では、年齢が上がるとともに河川の割合が高くなっている。
- 寝場所をつくる方法では、年齢階層が上がるほど、テントやダンボール、あるいは簡易な敷物などで寝場所をつくる割合が高くなる一方、年齢階層が下がるほど、寝場所をつくらない割合が高い。
- 仕事では、24歳以下及び30～39歳では仕事により収入を得ている割合が低い。仕事以外の収入では、75歳以上が仕事以外の収入があると回答している割合が高い。
- 現在、困ったときに相談できる相手がいるかでは、40～44歳、65～69歳、80歳以上が他の年齢層に比べて、相談できる相手がいる割合が高い。

路上生活までのいきさつ

- 路上生活に至った理由では、全年齢階層で仕事関係による割合が高いが、44歳以下では家族との離別・死別、家庭関係の悪化の割合がやや高い。

年齢階層別の傾向について

福祉制度の周知・利用状況

- シェルターや自立支援センターの周知度・利用度では、30歳以上では年齢階層が下がれば下がるほど、周知度・利用度ともに高くなる傾向がある。
- シェルター・自立支援センターの利用意向では、年齢階層が下がるほど、利用意向が高い。

今後の生活

- 今後望んでいる生活は、年齢階層が下がるほどアパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高く、年齢階層が上がるほど福祉を利用しながらの生活を希望する又は現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

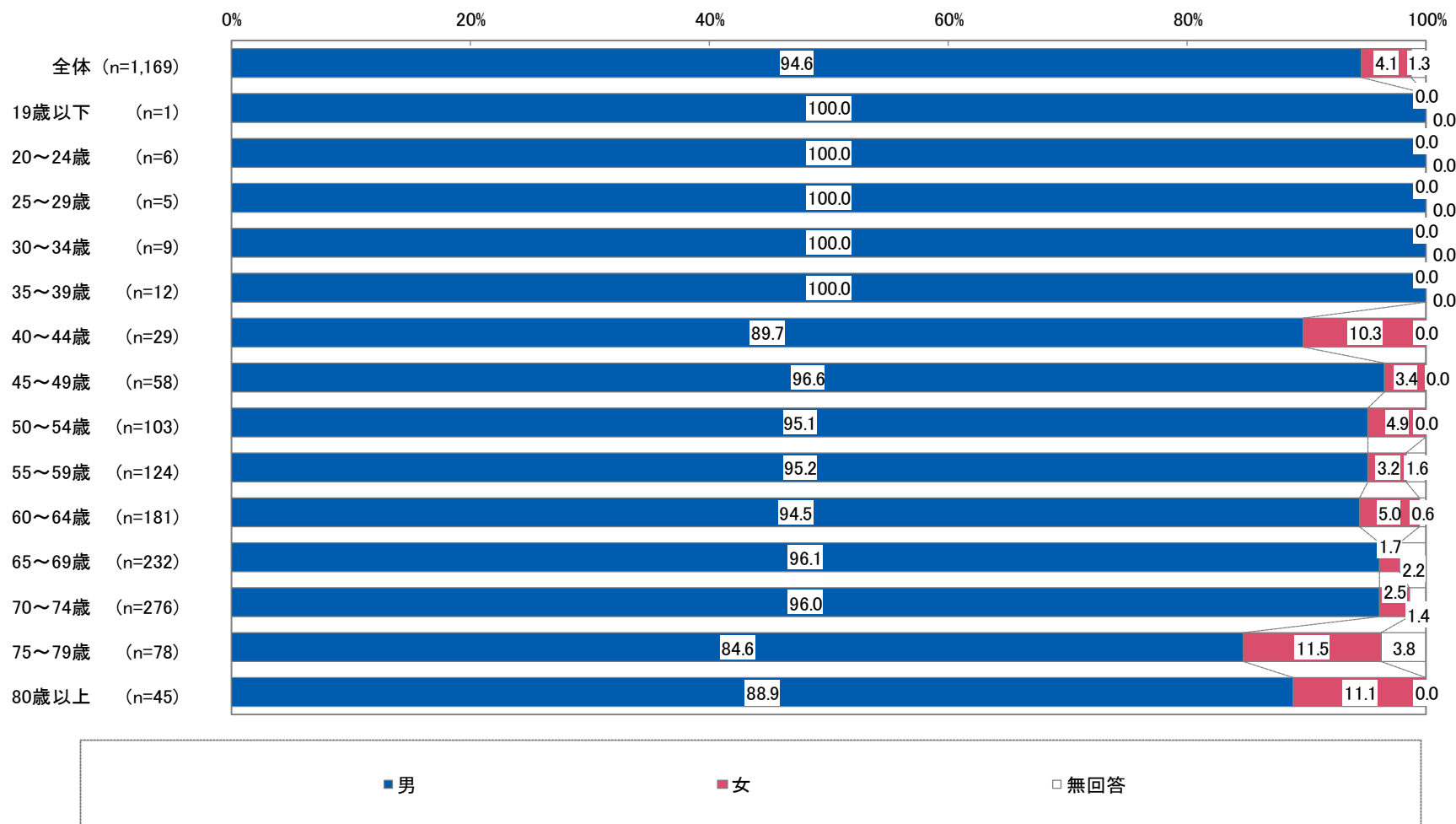
現在の気持ち

- 現在の気持ちでは、年齢階層が下がるほど希望を持っている割合が高い。44歳以下では45歳以上よりも悲観している割合が高い。

性別

- 性別については、どの年代でも「男性」の割合が高い。「75～79歳」では「女性」の割合が11.5%と高い。

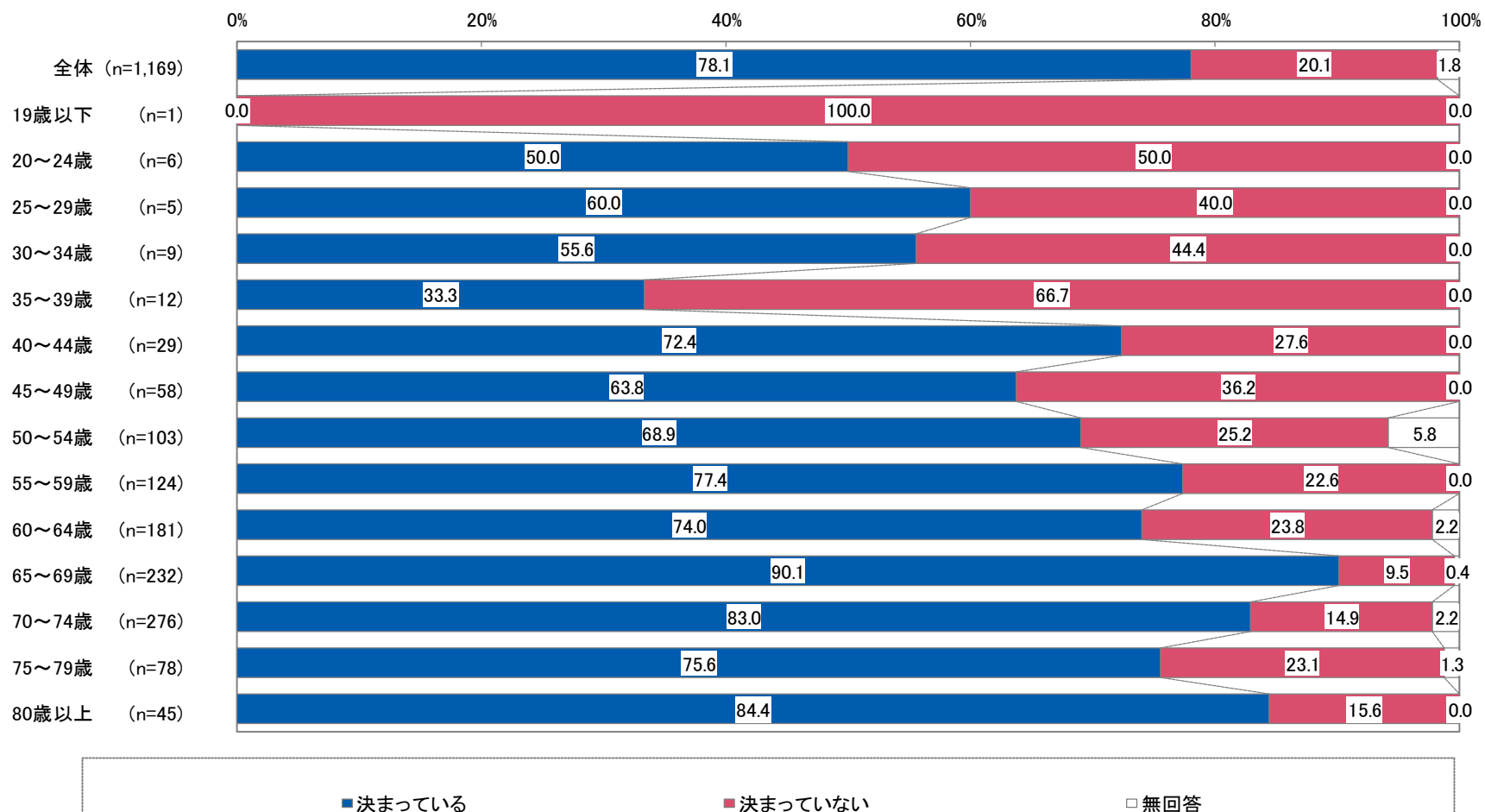
図表42 性別（年齢階層別）



問 1 寝ている場所

- 寝ている場所については、「35～39歳以下」の者では「決まっていない」の割合が高く、その他の年代については「決まっている」の割合が高い。

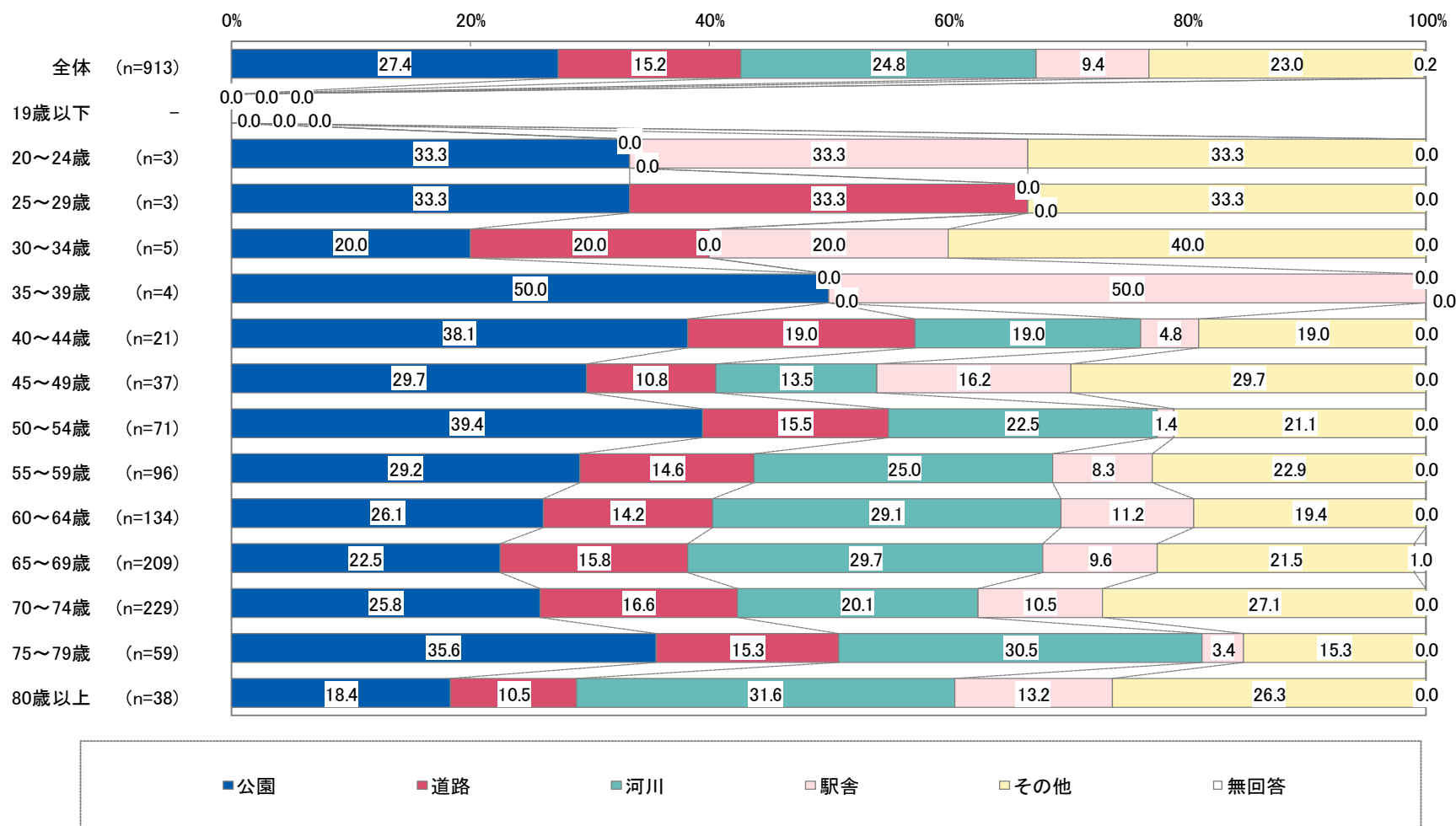
図表43 寝ている場所（年齢階層別）



問 1 - 1 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所については、「35～59歳以下」の者では「公園」の割合が高く、「80歳以上」の者では「河川」の割合が高い。

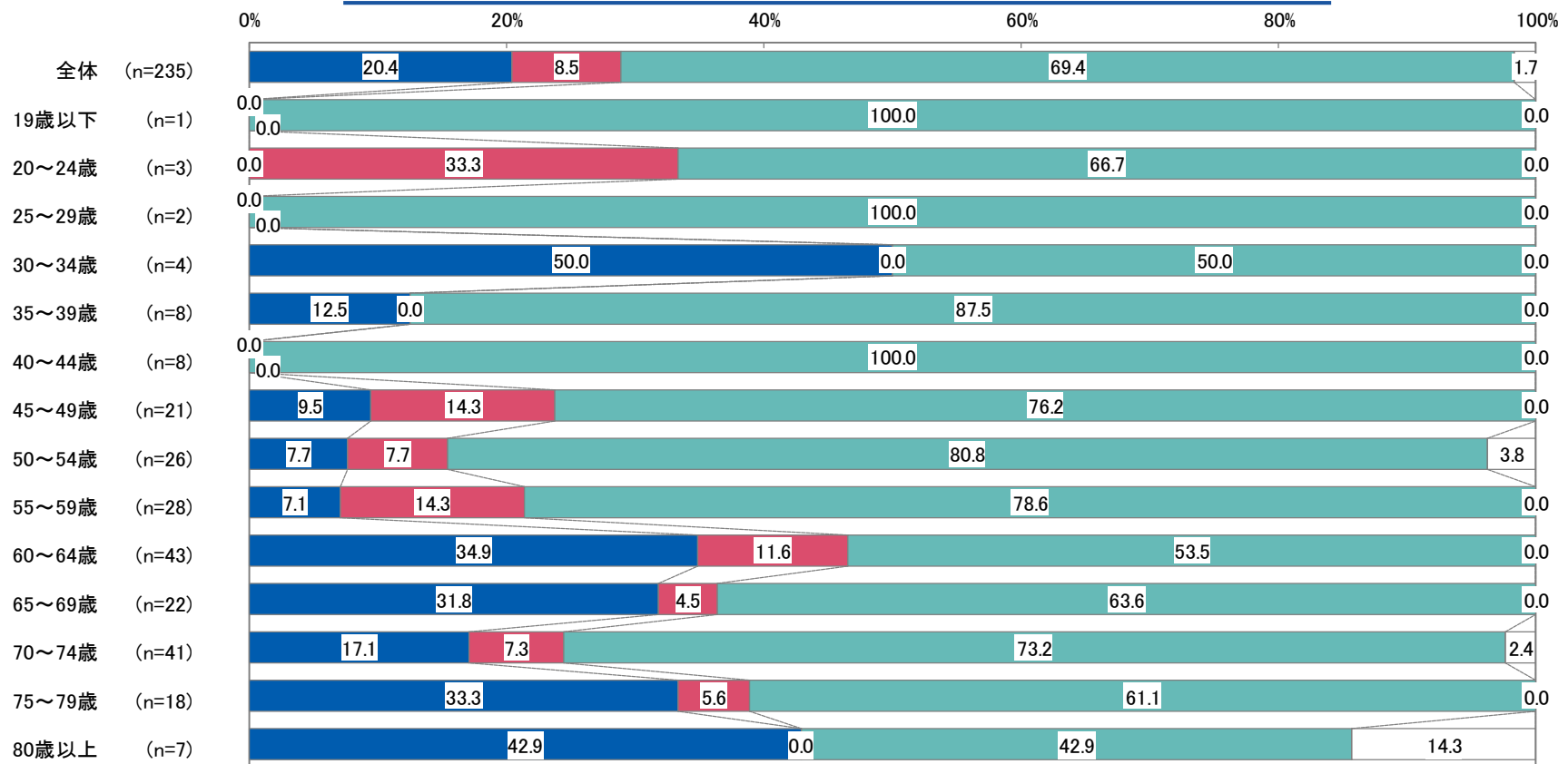
図表44 寝ている場所（具体的に）（年齢階層別）



問 1 - 2 寝ている場所を変更する理由

- 寝ている場所を変更する理由については、「30～34歳以下」の者では「敷地・建物の管理者から退去を求められるため」（全体：20.4%、30～34歳以下：50.0%）の割合が高く、「20～24歳以下」「45～49歳以下」「55～59歳以下」の者では「ほかのホームレスとの関係悪化」（全体：8.5%、20～24歳以下：33.3%、45～49歳以下：14.3%、55～59歳以下：14.3%）と割合が高くなっている。

図表45 寝ている場所を変更する理由（年齢階層別）



■ 敷地・建物の管理者から退去を求められるため

■ 他のホームレス等との関係の悪化

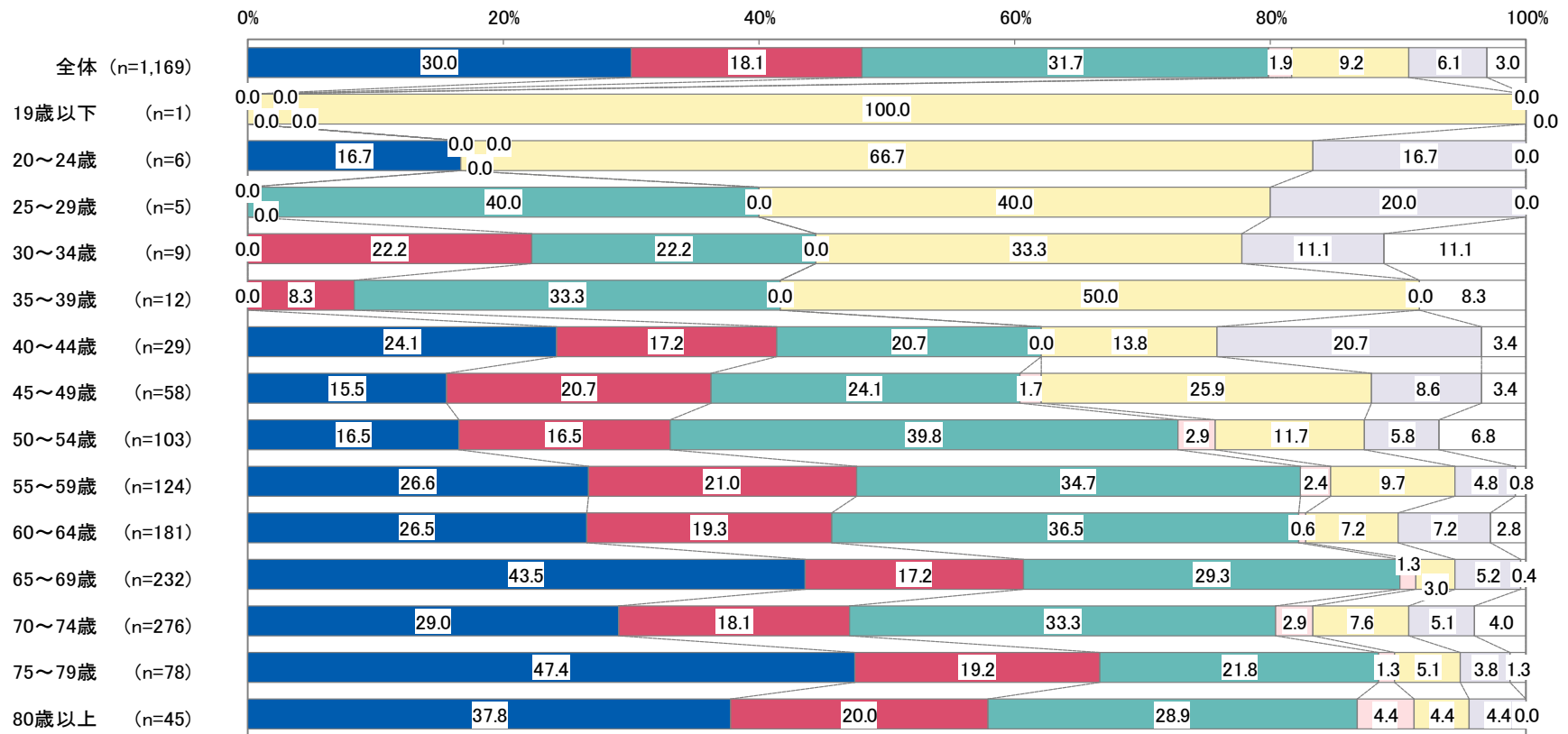
■ その他

□ 無回答

問 2 寝場所を作る方法

- 寝ている場所を作る方法については、「65～69歳以下」の者では「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」（全体：30.0%、65～69歳以下：43.5%）の割合が高い。

図表46 寝場所を作る方法（年齢階層別）



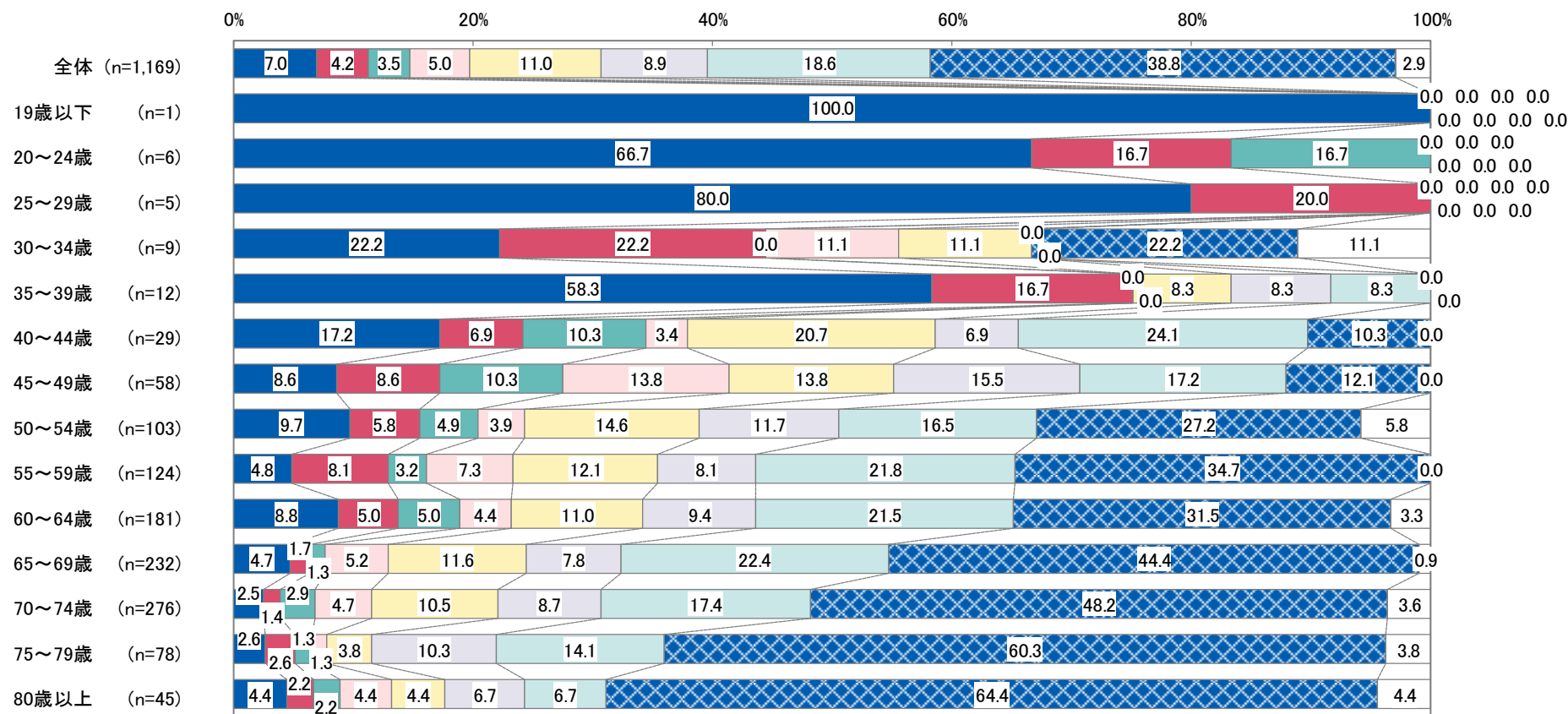
■ 廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設
 ■ 簡単に敷物(寝袋・毛布等)を敷いて寝ている
 ■ 寝場所はつくらない
 □ 無回答

■ ダンボール等を利用して寝場所を毎晩つくっている
 ■ 車中で寝起きしている
 ■ その他

問3 今回の路上生活の期間

- 今回の路上生活の期間について、「50歳～54歳以下」から「80歳以上」は「10年以上」の割合が高い。

図表47 今回の路上生活の期間（年齢階層別）

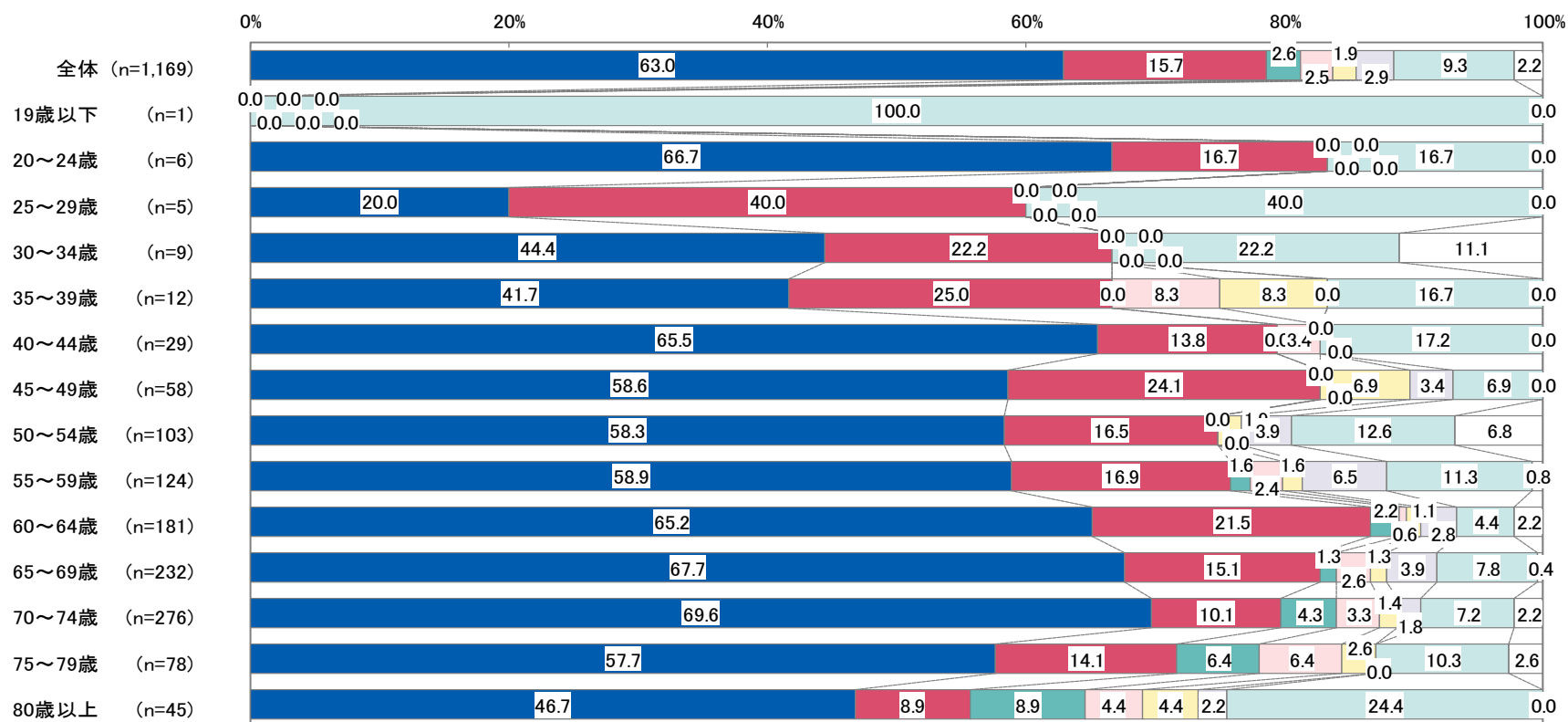


■1ヶ月未満 ■1ヶ月～3ヶ月未満 ■3ヶ月～6ヶ月未満 ■6ヶ月～1年未満 ■1年～3年未満 ■3年～5年未満 ■5年～10年未満 ■10年以上 □無回答

問 4 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上生活の継続については、「70～74歳以下」の者では「ずっと路上生活をしていた」（全体：63.0%、70～74歳以下：69.6%）の割合が高い。

図表48 今回の路上生活の継続について（年齢階層別）

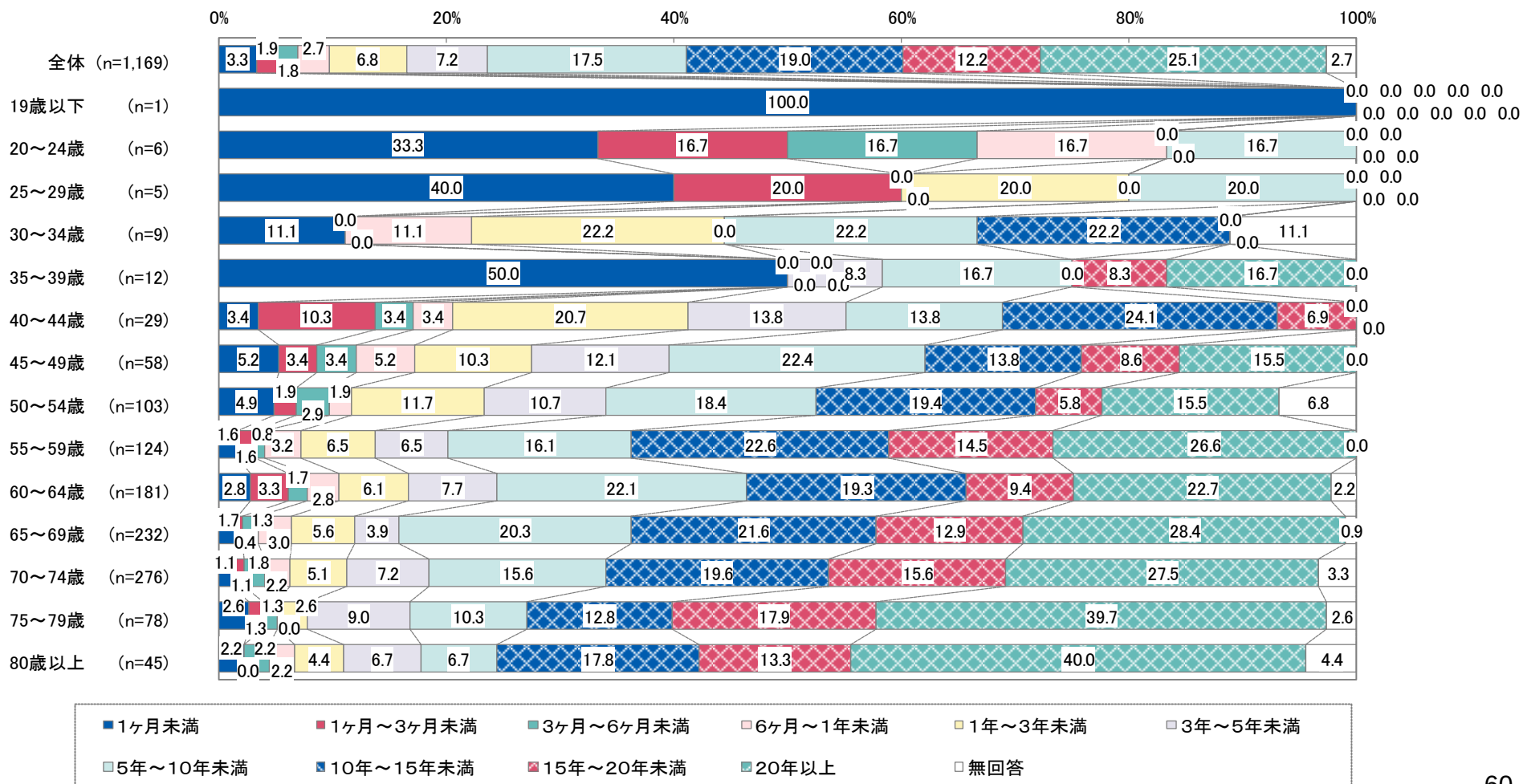


- ずっと路上(野宿)生活をしていた
- 時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた
- 病院に一時的に入っていたことがある
- 施設に一時的に入っていたことがある
- 自立支援センターに一時的に入っていたことがある
- 緊急一時宿泊施設(シェルター)等に一時生活支援事業等に一時的に入っていたことがある
- その他
- 無回答

問 5 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上生活をしてからの期間について、「55歳～59歳」から「80歳以上」は「10年以上」の割合が高い。

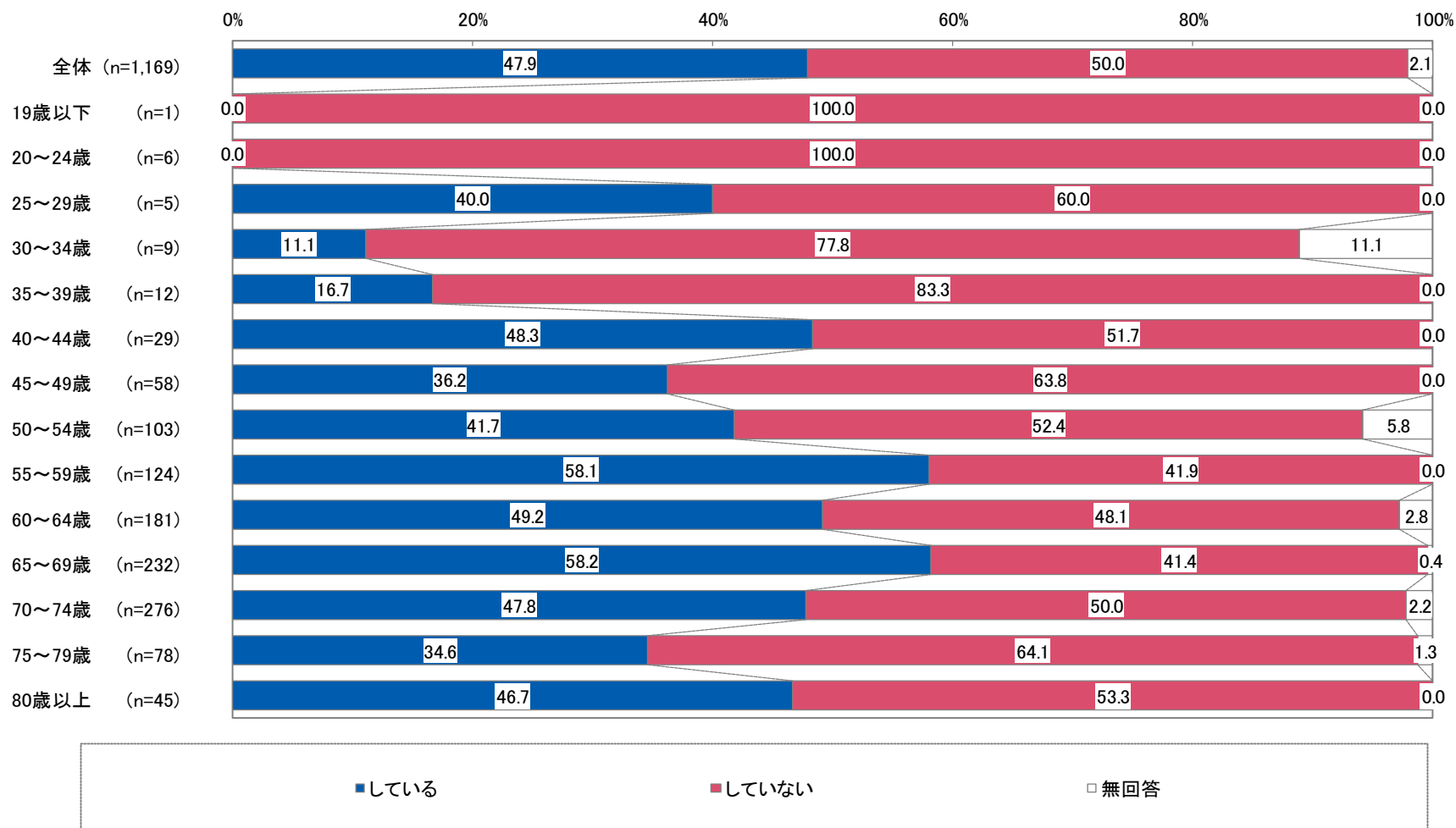
図表49 初めて路上生活をしてからの期間（年齢階層別）



問 6 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「55～59歳以下」「65～69歳以下」の者では「している」（全体：47.9%、55～59歳以下：58.1%、65～69歳以下：58.2%）の割合が高い。

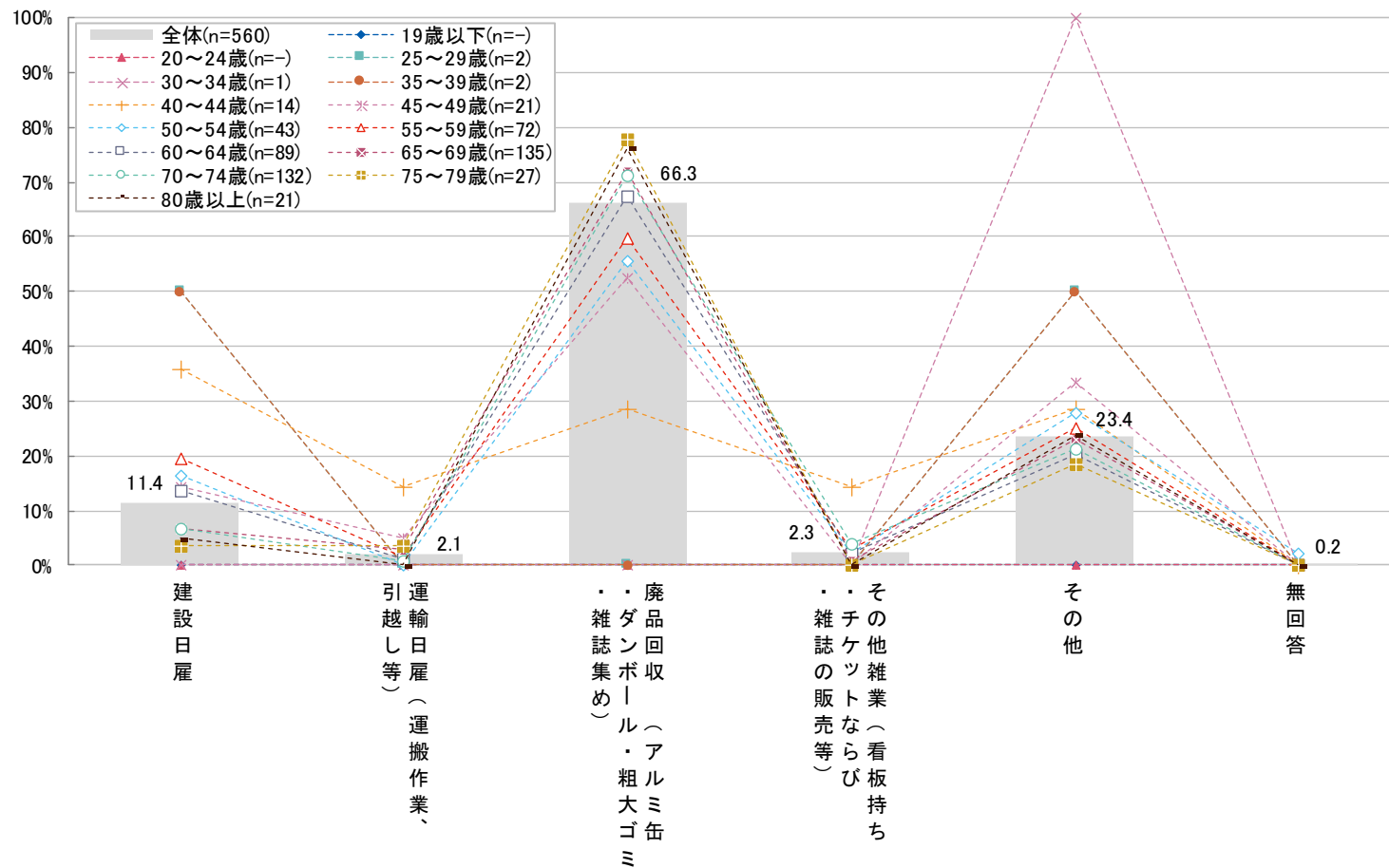
図表50 現在収入のある仕事（年齢階層別）



問 6 - 1 仕事（具体的に）

- 仕事については、いずれの年代でも「廃品回収」の割合が高い。

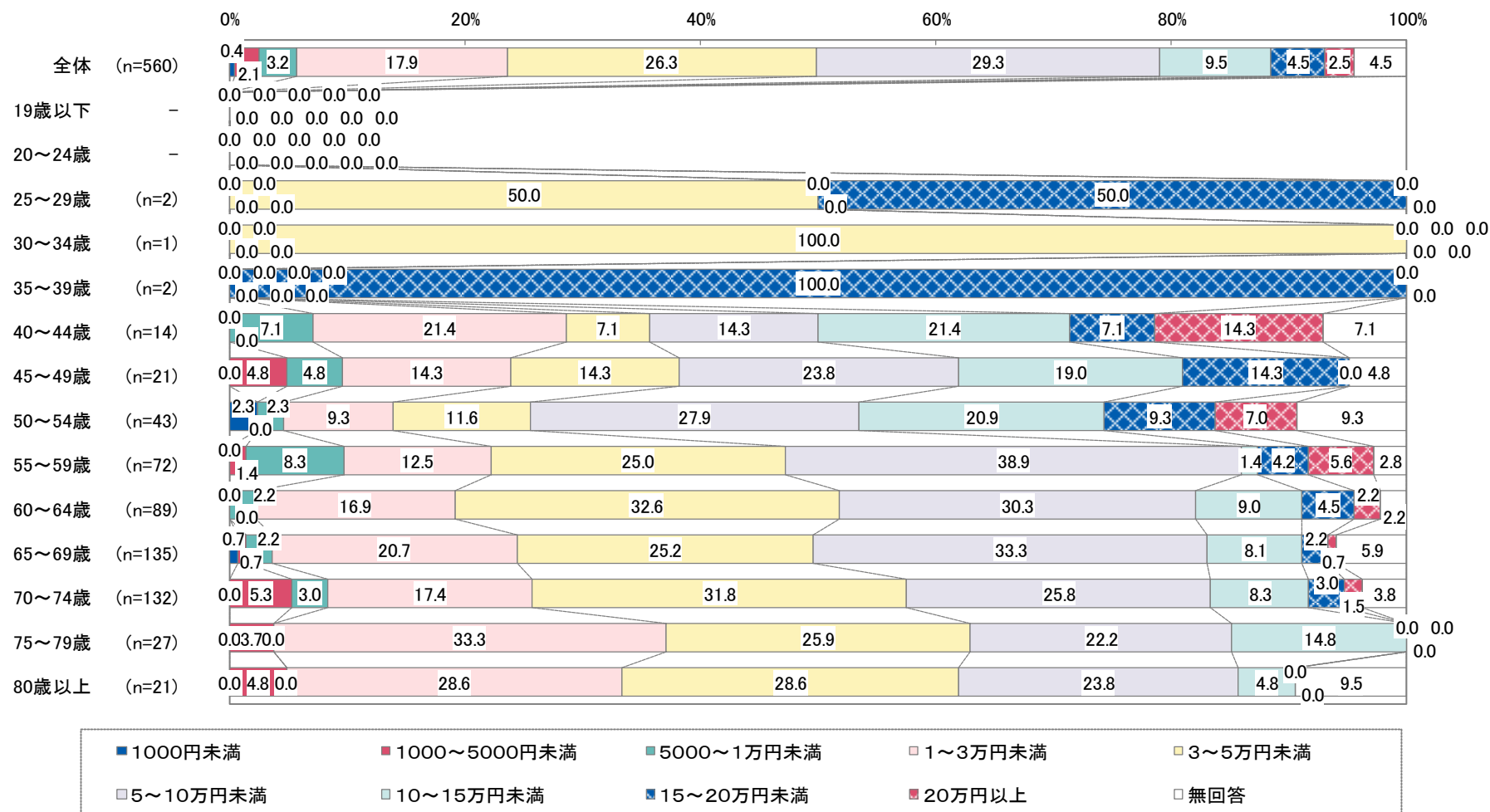
図表51 仕事（具体的に）（年齢階層別）



問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による平均収入については、「60～64歳以下」「70～74歳以下」の者では「3～5万円未満」の割合が高く、「65～69歳以下」の者では「5～10万円未満」の割合が高い。

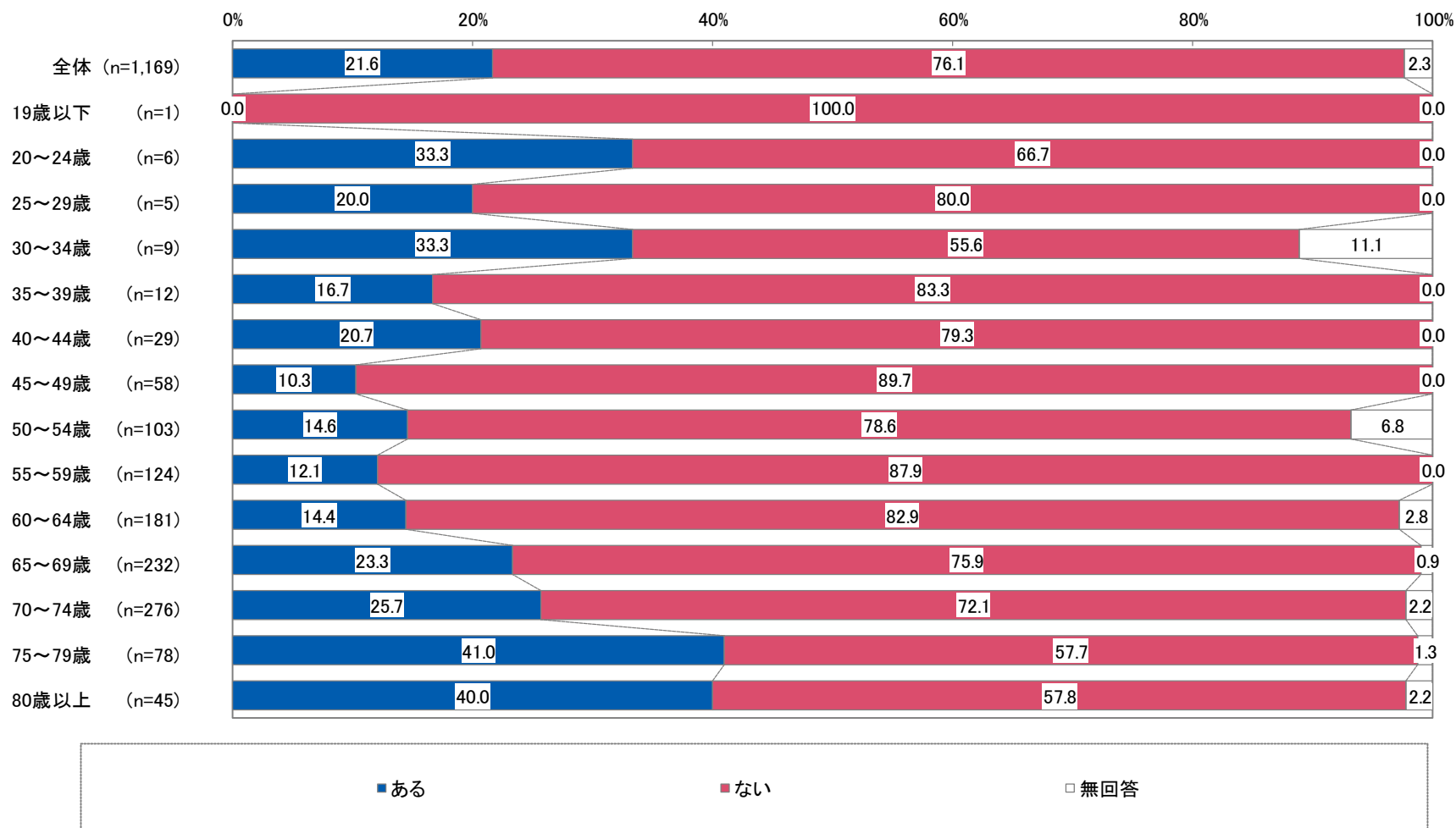
図表52 仕事による平均収入（年齢階層別）



問 7 仕事以外の収入

- 仕事以外の収入については、「20～24歳以下」「30～34歳以下」及び「75～79歳以下」「80歳以上」の者では「ある」の割合が高い。

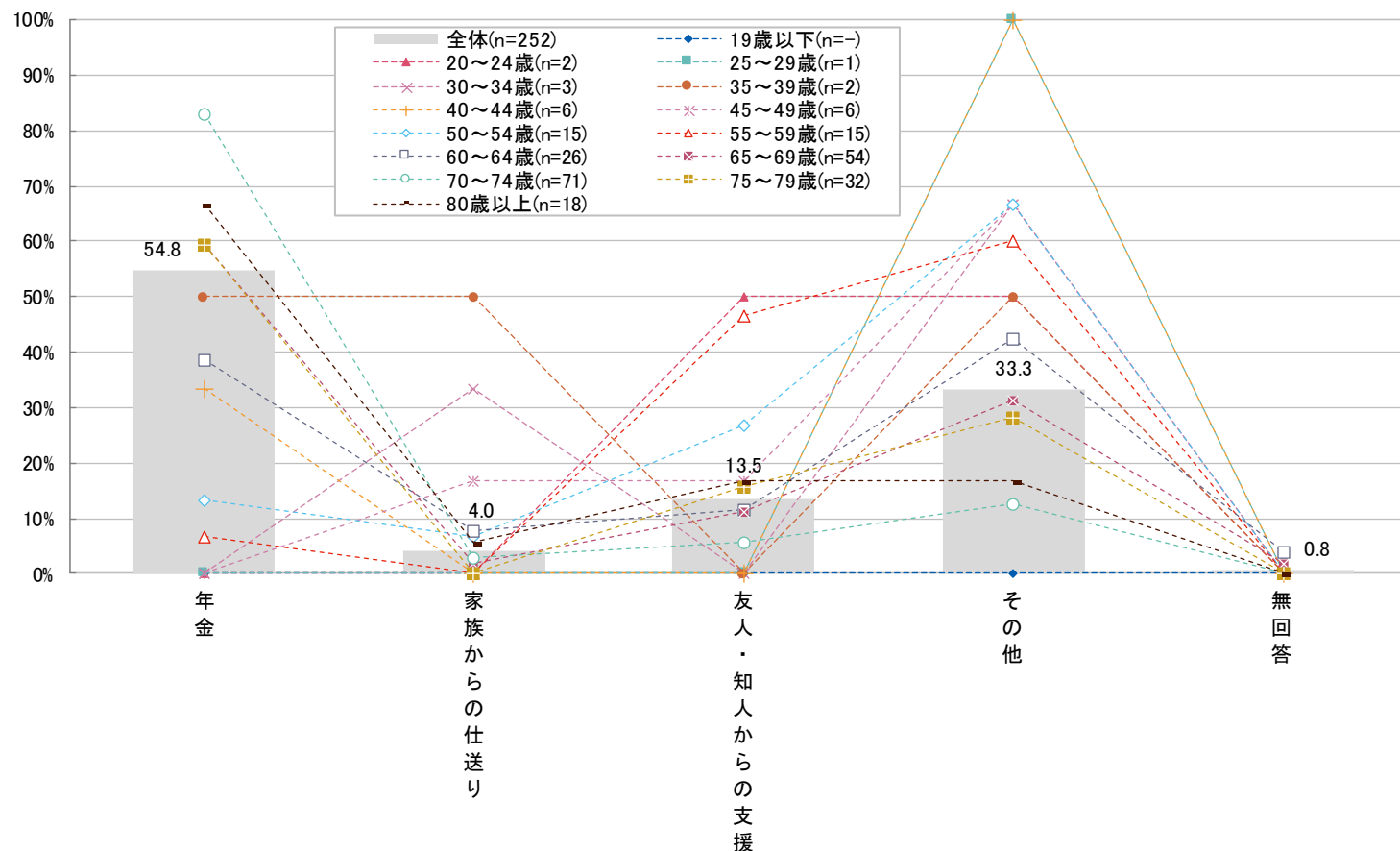
図表53 仕事以外の収入（年齢階層別）



問 7 - 1 仕事以外の収入の種類

- 仕事以外の収入の種類については、「65歳以上」の者では「年金」の割合が高い。

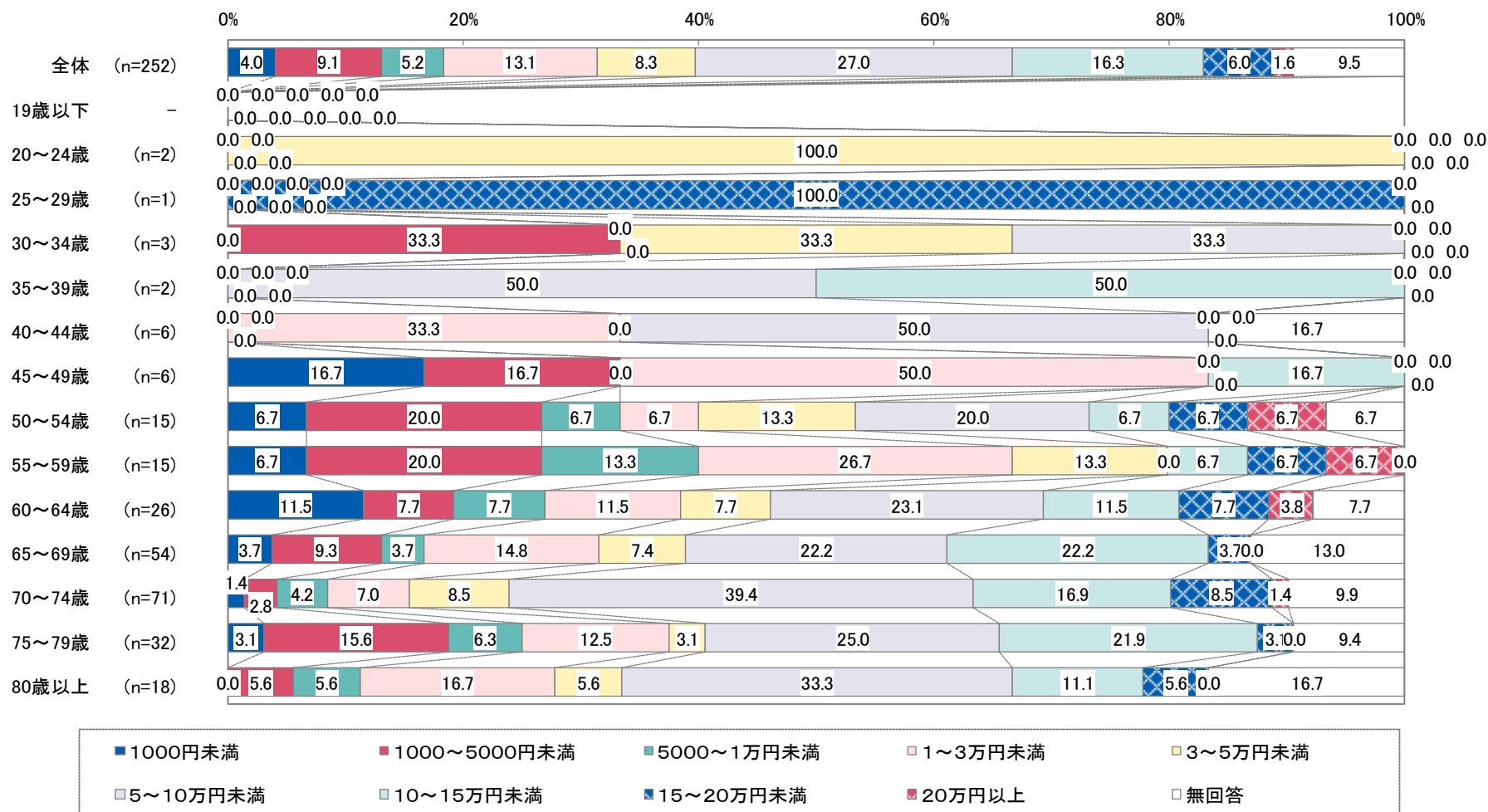
図表54 仕事以外の収入の種類（年齢階層別）



問 7 - 2 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の平均収入については、「40～59歳以下」の者では、「1～3万円未満」の割合が高く、「70～74歳以上」の者では、「5～10万円未満」の割合が高い。

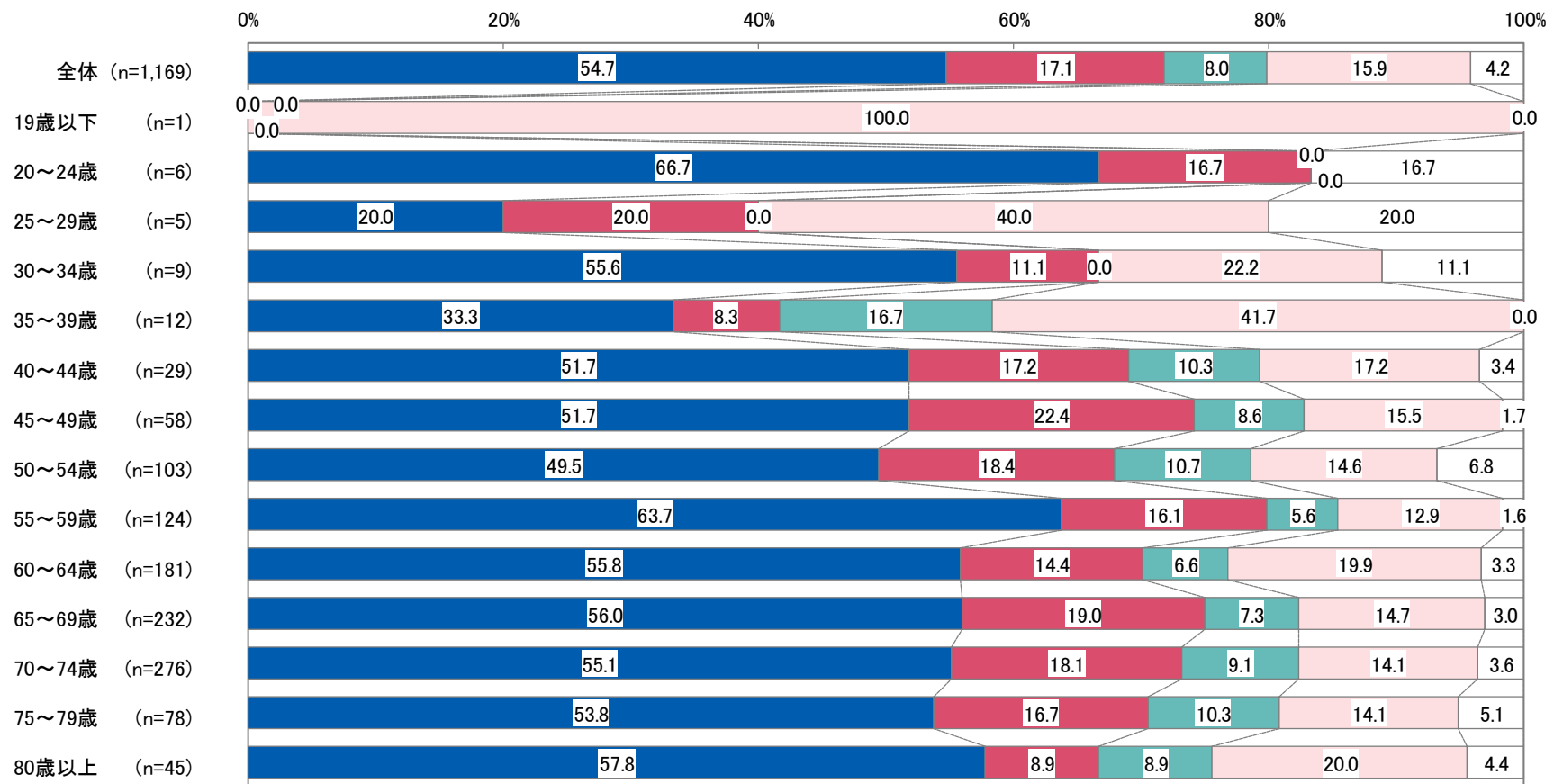
図表55 仕事以外の平均収入（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、挨拶をする相手がいたかについて、「55歳～59歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：54.7%、55歳～59歳：63.7%）

図表56-1 周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



■ あてはまる

■ ややあてはまる

■ あまりあてはまらない

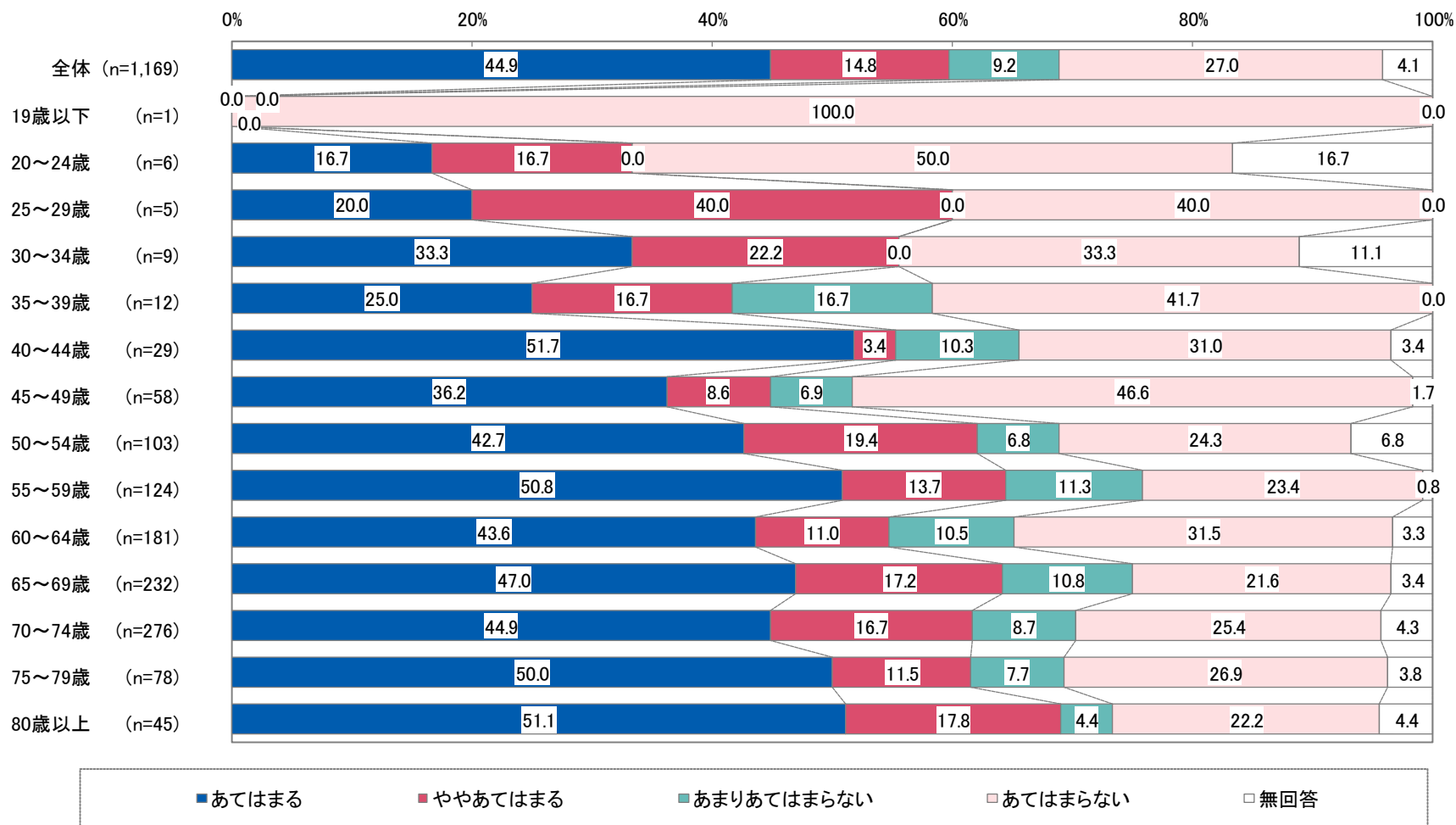
■ あてはまらない

□ 無回答

問 9 周囲とのつながり

- 現在、挨拶をする相手がいるかについて、「40歳～44歳」「55歳～59歳」「80歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：44.9%、40歳～44歳：51.7%、55歳～59歳：50.8%、80歳以上：51.1%）

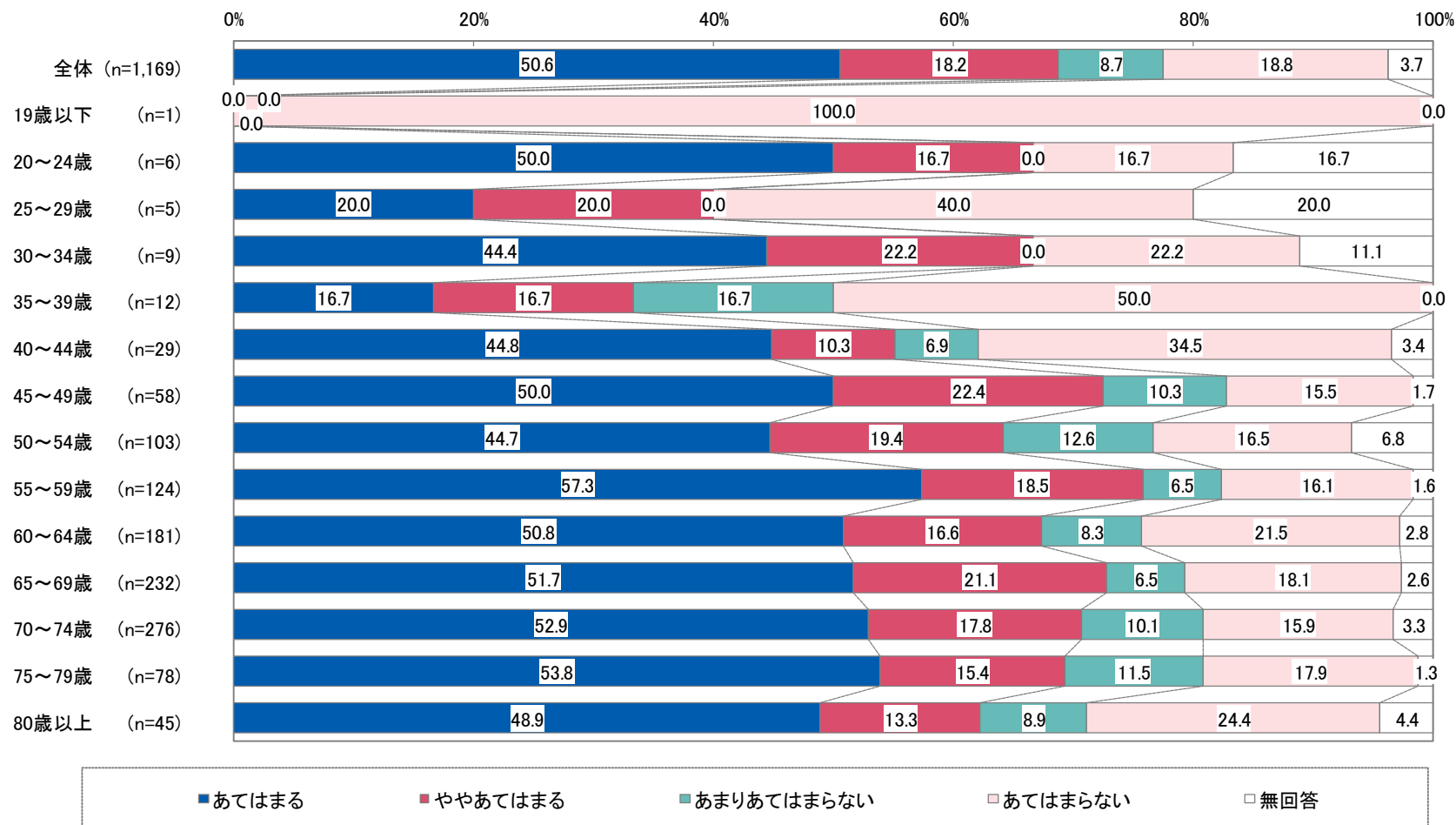
図表56-2 周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、世間話をする相手がいたかについて、「55歳～59歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：50.6%、55歳～59歳：57.3%）

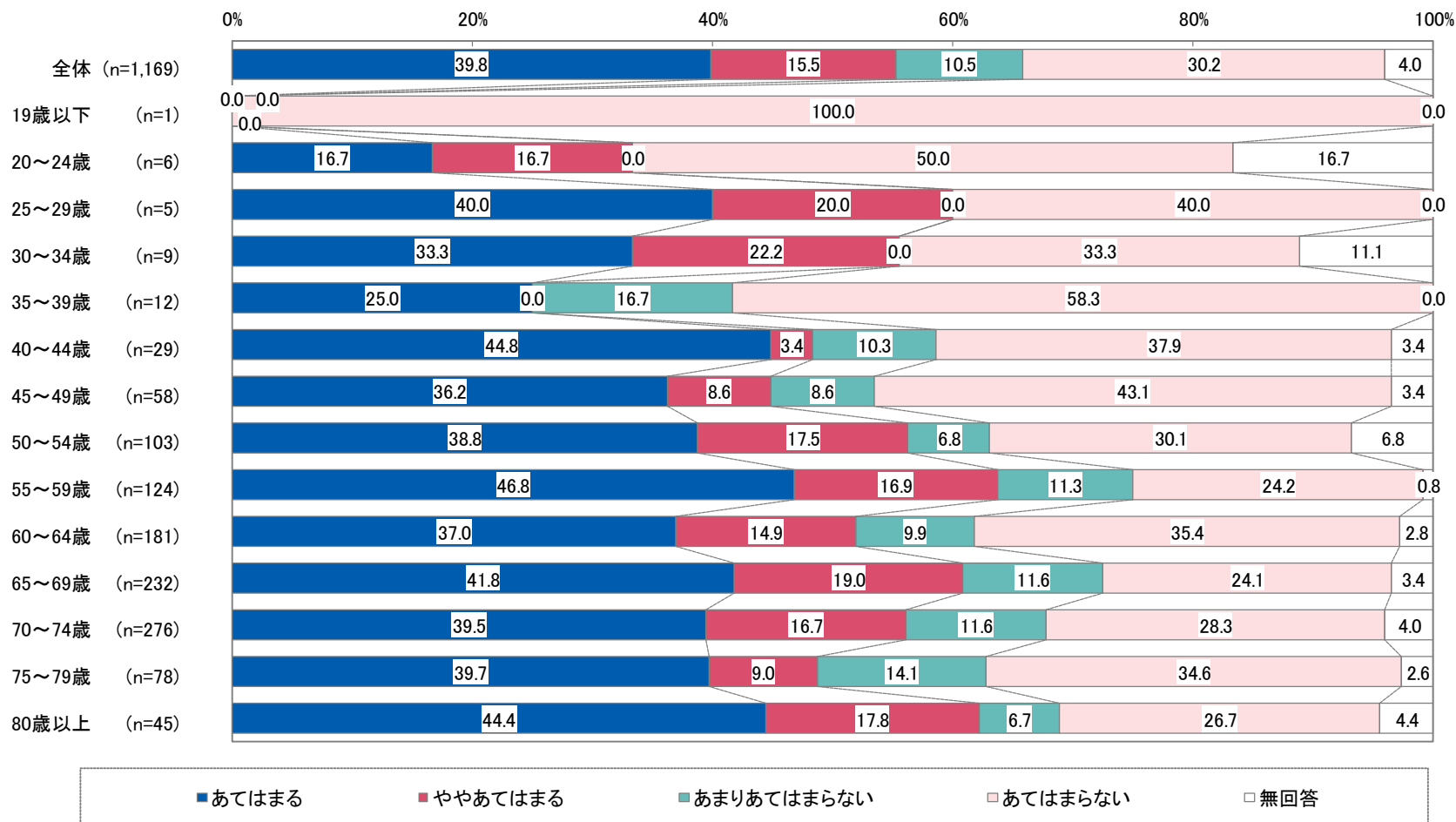
図表56-3 周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 現在、世間話をする相手がいるかについて、「40歳～44歳」「55歳～59歳」「80歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：39.8%、40歳～44歳：44.8%、55歳～59歳：46.8%、80歳以上：44.4%）

図表56-4 周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜現在＞（年齢階層別）

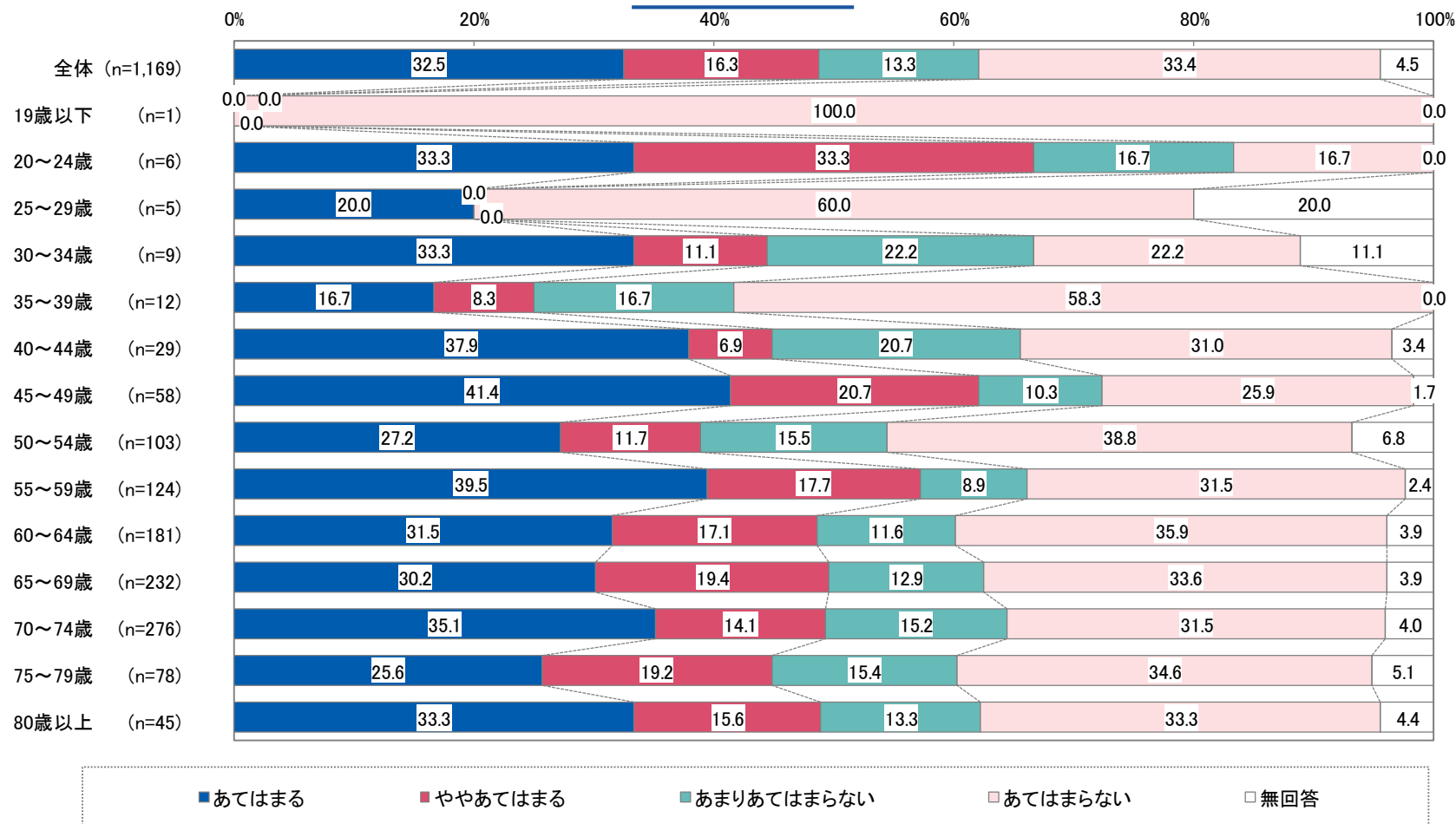


問 9 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、困った時に相談できる相手がいたかについて、「45歳～49歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：32.5%、45歳～49歳：41.4%）

図表56-5 周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜路上（野宿）生活前＞

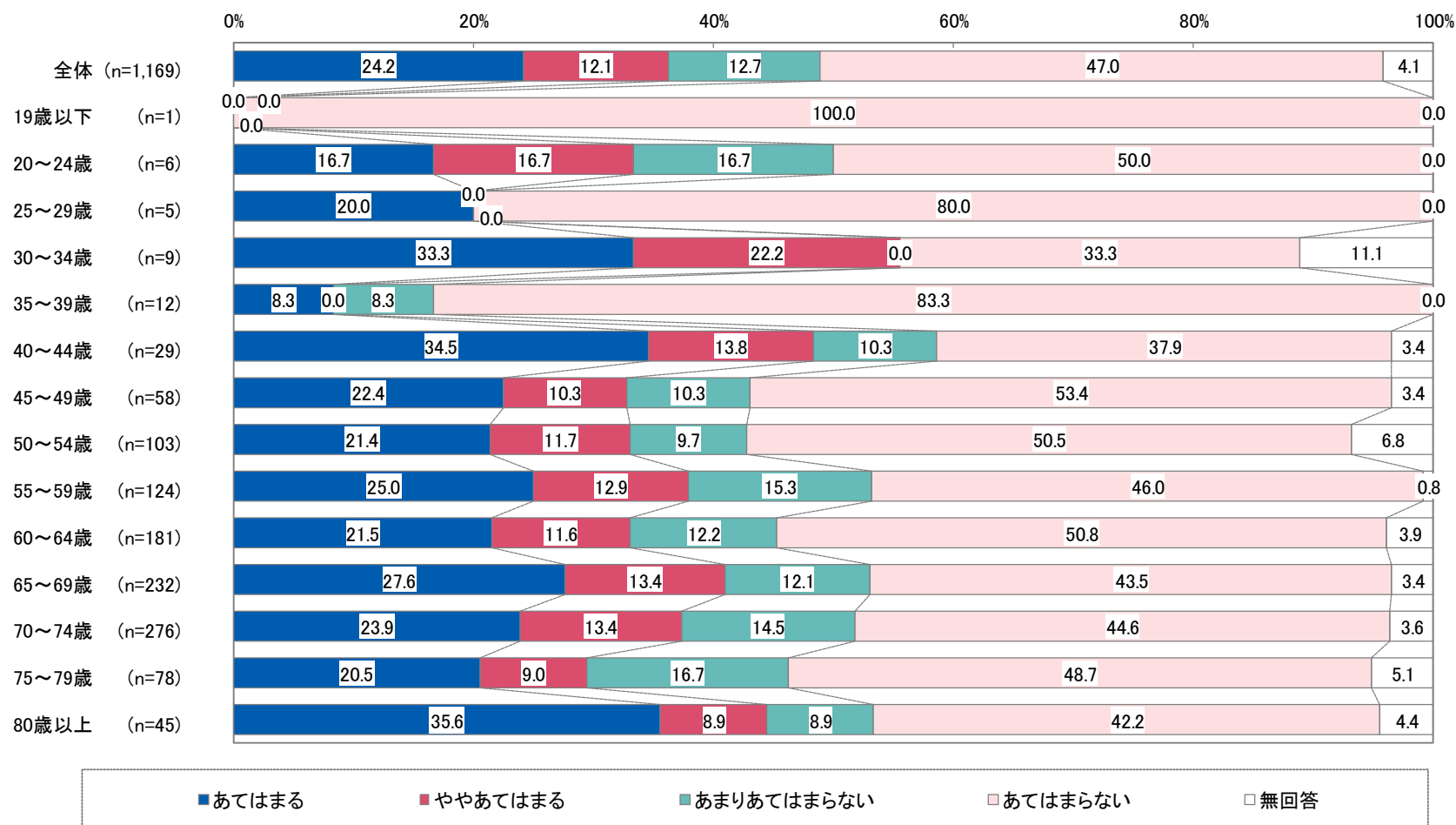
（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 現在、困った時に相談できる相手がいるかについて、「30歳～34歳」「40歳～44歳」「80歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：24.2%、30歳～34歳：33.3%、40歳～44歳：34.5%、80歳以上：35.6%）

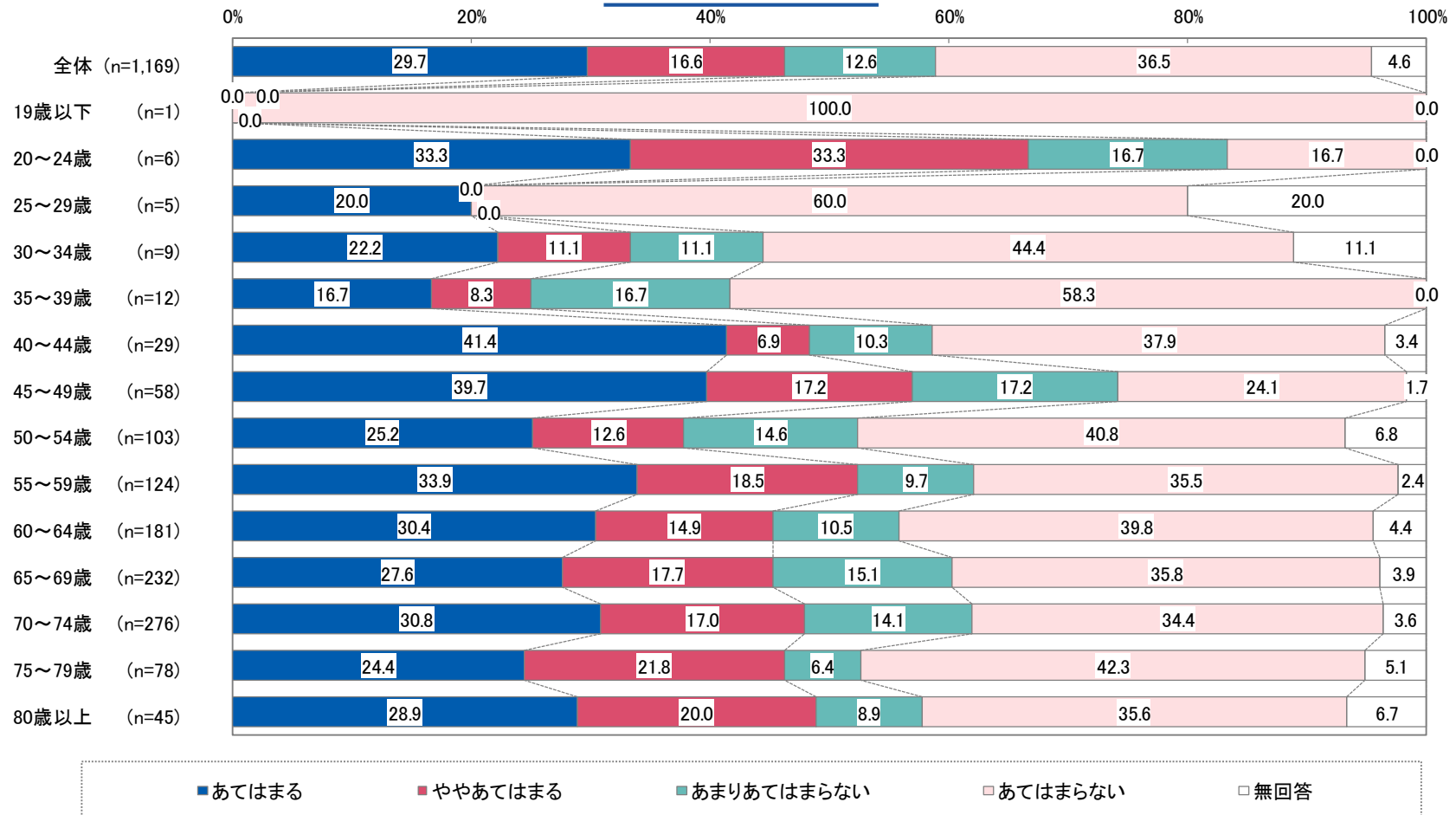
図表56-6 周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、困った時に助けてくれる相手がいたかについて、「40歳～44歳」「45歳～49歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：29.7%、40歳～44歳：41.4%、45歳～49歳：39.7%）

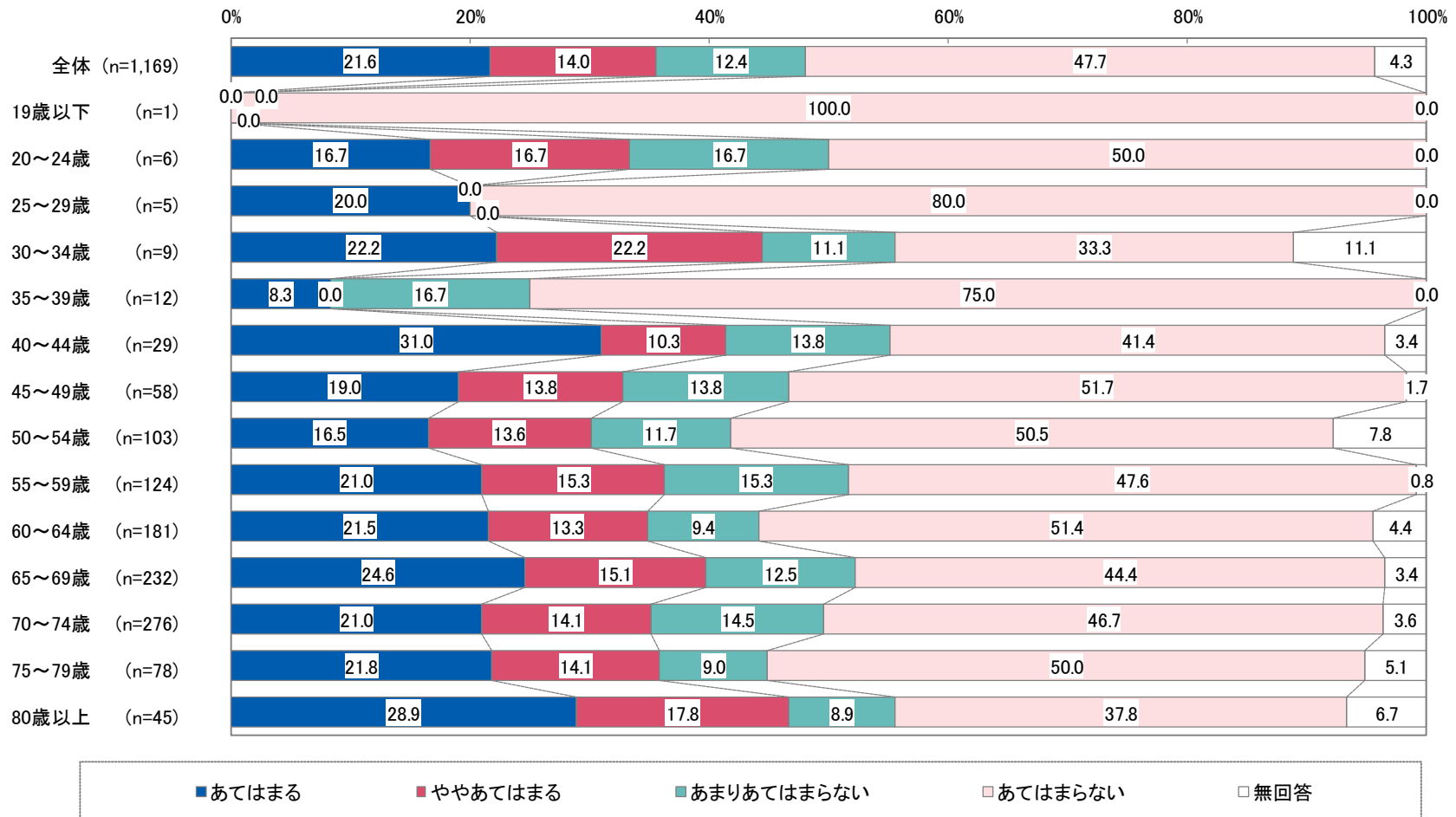
図表56-7 周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜路上（野宿）生活前＞
（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 現在、困った時に助けてくれる相手がいるかについて、「40歳～44歳」「80歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：21.6%、40歳～44歳：31.0%、80歳以上：28.9%）

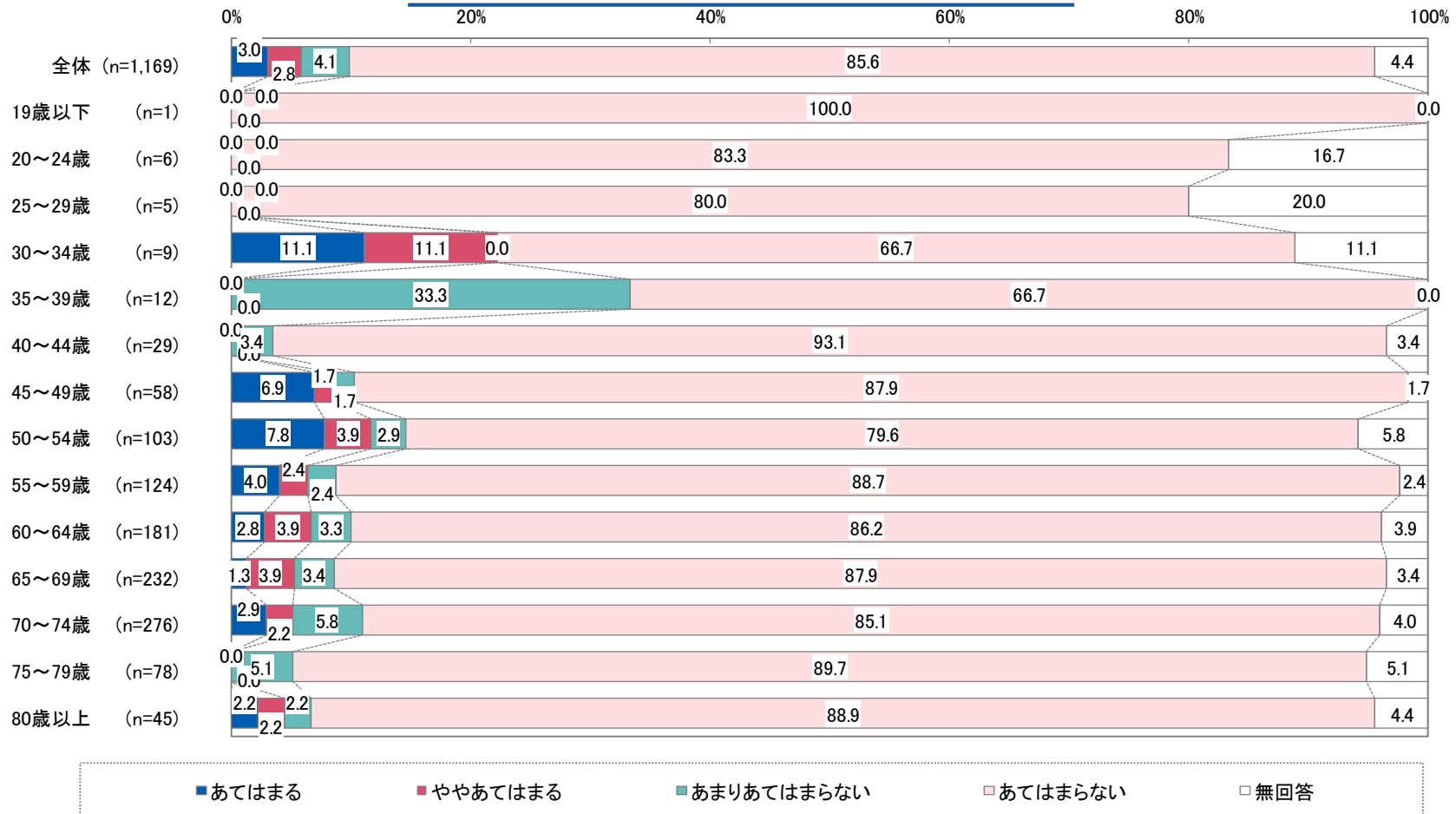
図表56-8 周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加していたかについて、「30歳～34歳」の者では「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が高い。（全体：5.8%、30歳～34歳：22.2%）

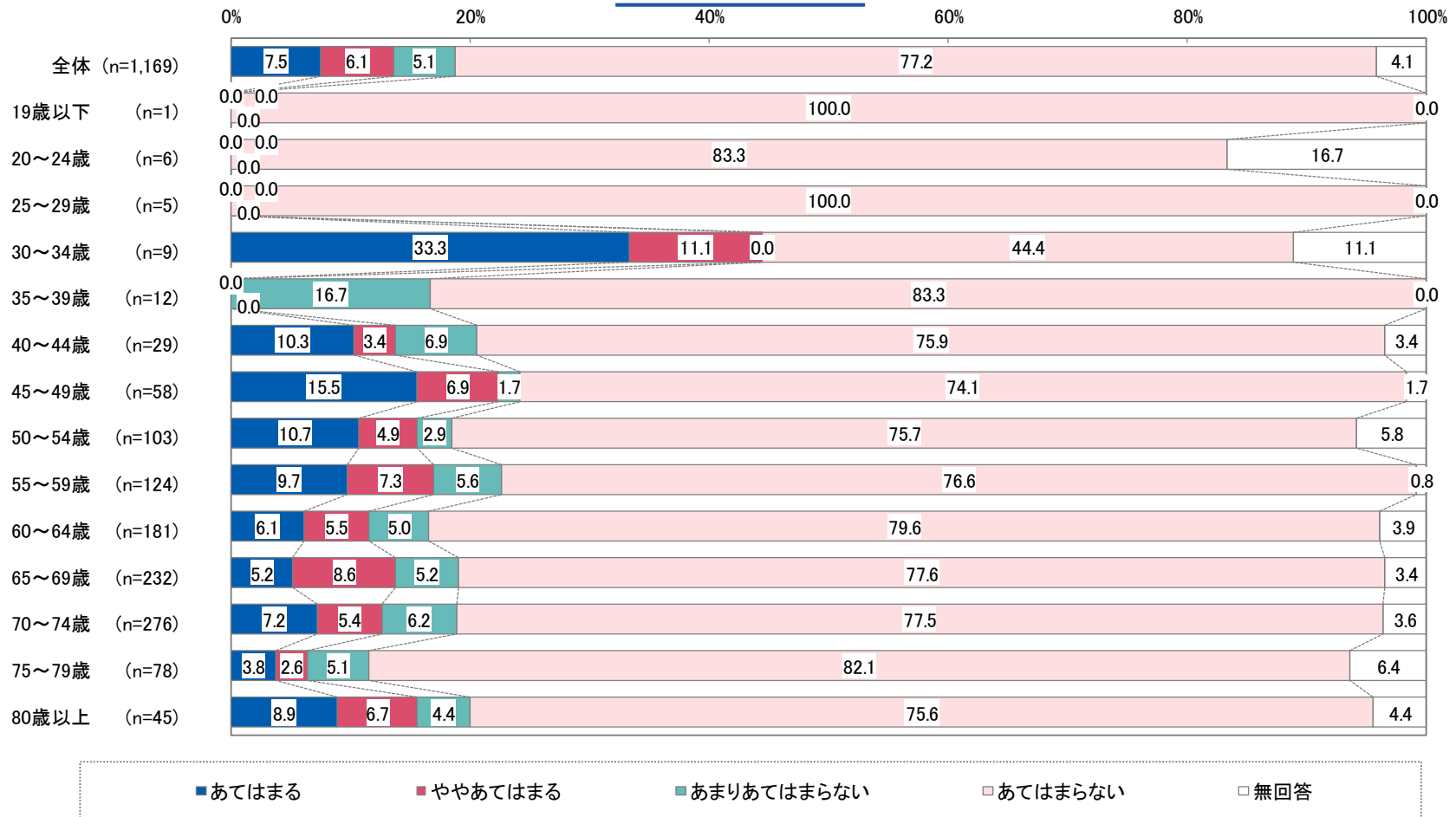
図表56-9 周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している
＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- ・ 現在、NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加しているかについて、「30歳～34歳」の者では「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が高い。（全体：13.6%、30歳～34歳：44.4%）

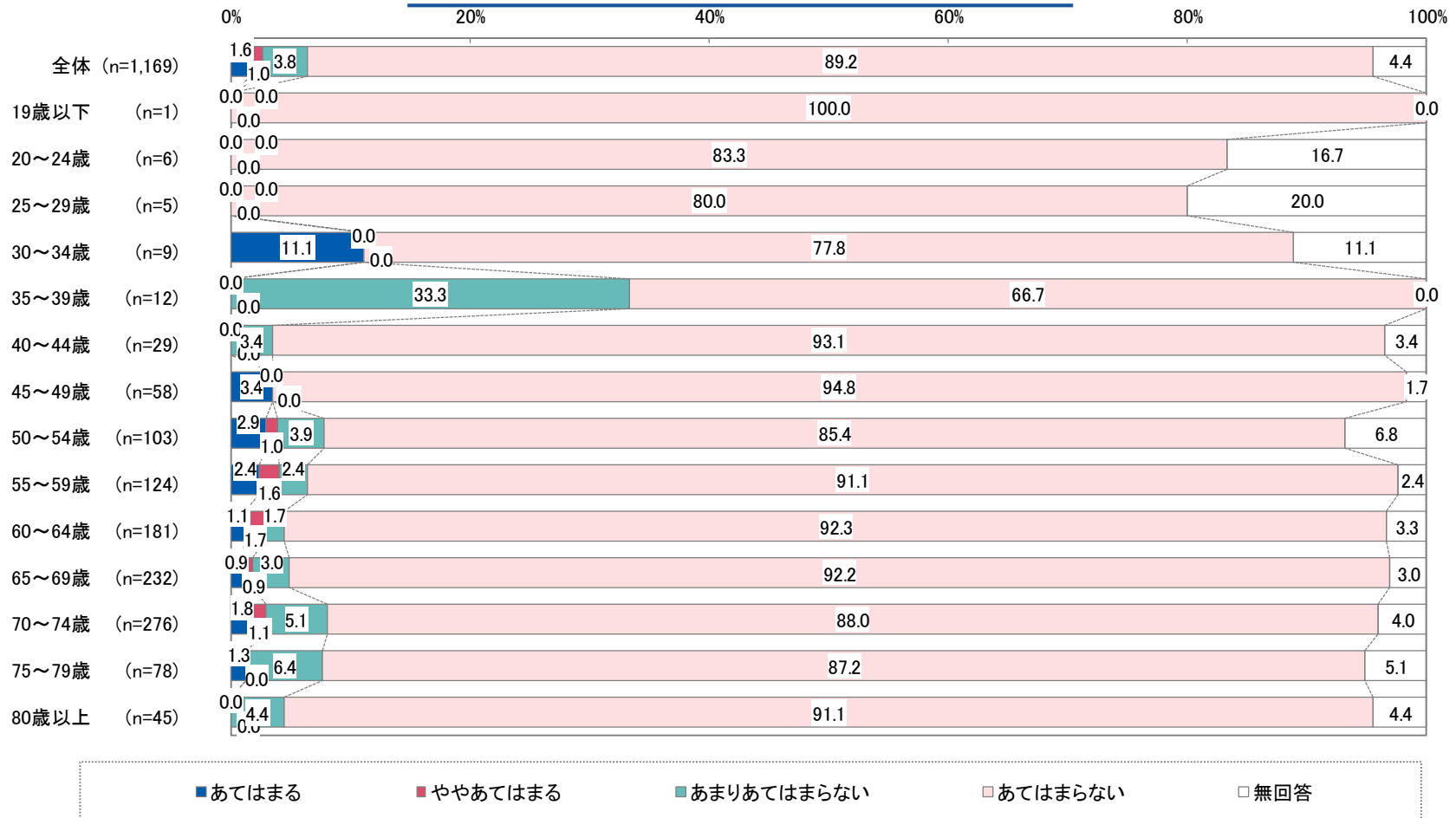
図表56-10 周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞
（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、行政が開催する集会・相談会等に参加していたかについて、「30歳～34歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。
（全体：1.6%、30歳～34歳：11.1%）

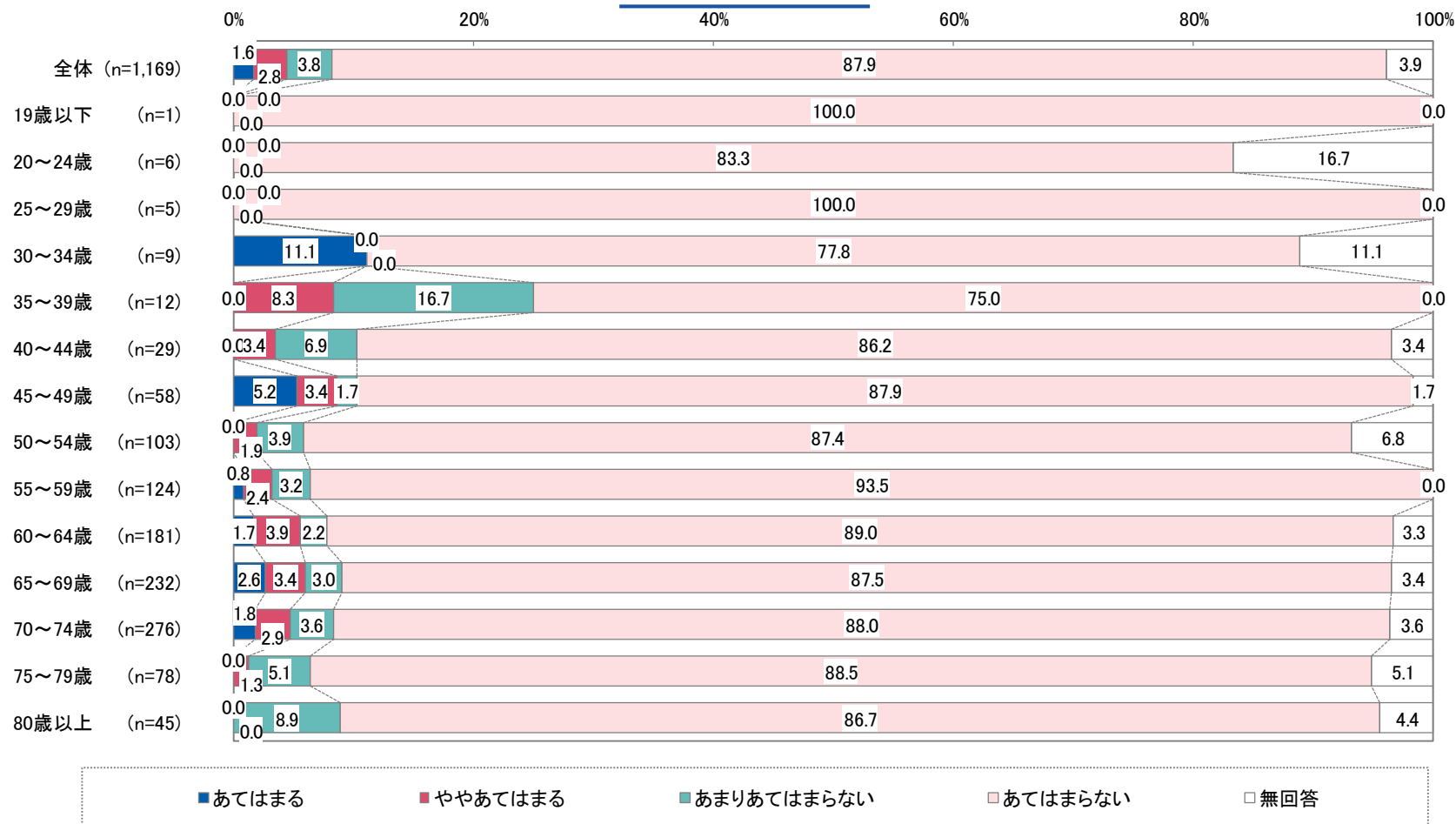
図表56-11 周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している
＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問 9 周囲とのつながり

- 現在、行政が開催する集会・相談会等に参加しているかについて、「30歳～34歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：1.6%、30歳～34歳：11.1%）

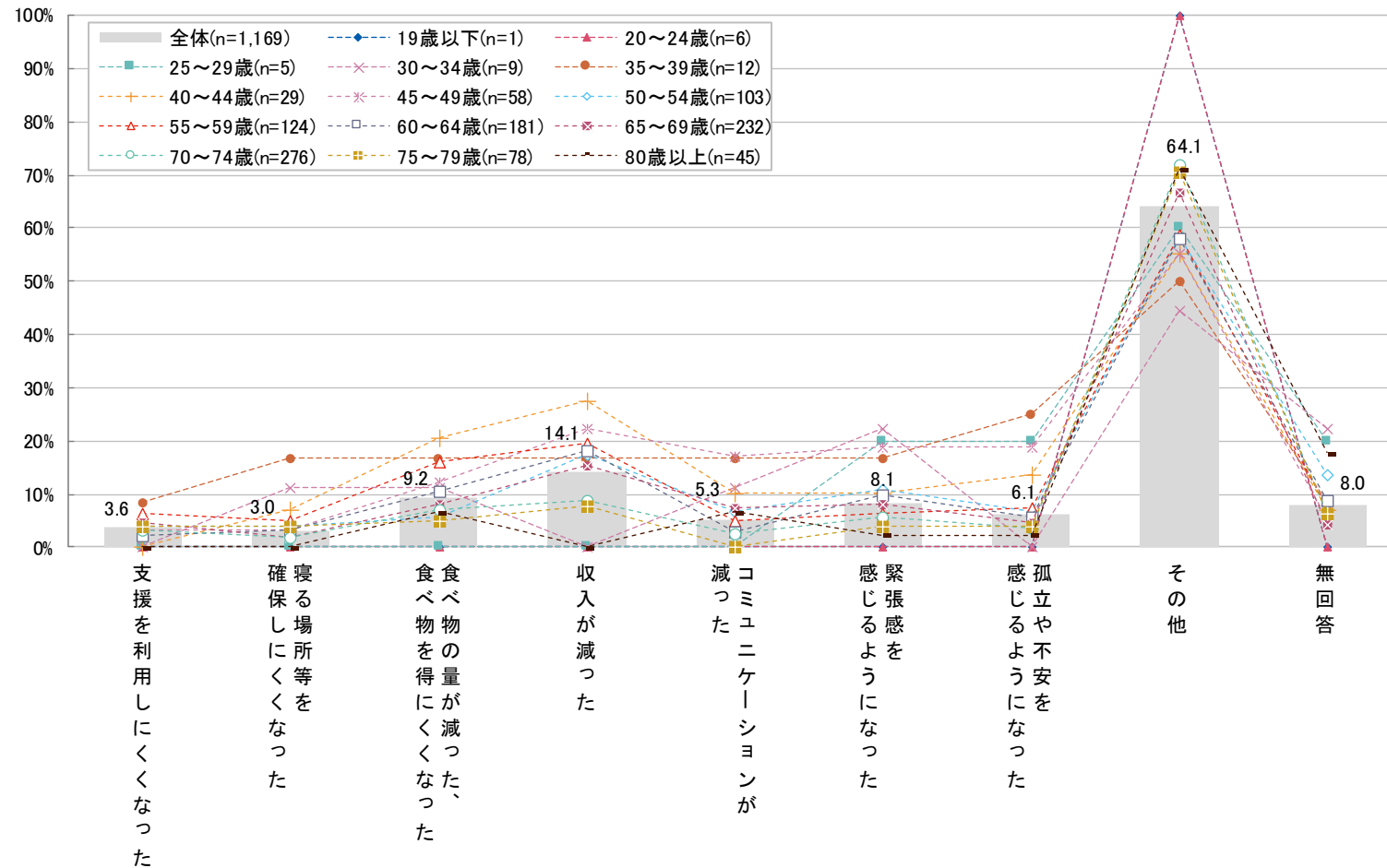
図表56-12 周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞
（年齢階層別）



問 1 0 コロナの影響

- コロナの影響について、「40～44歳」の者では「収入が減った」の割合が高い。

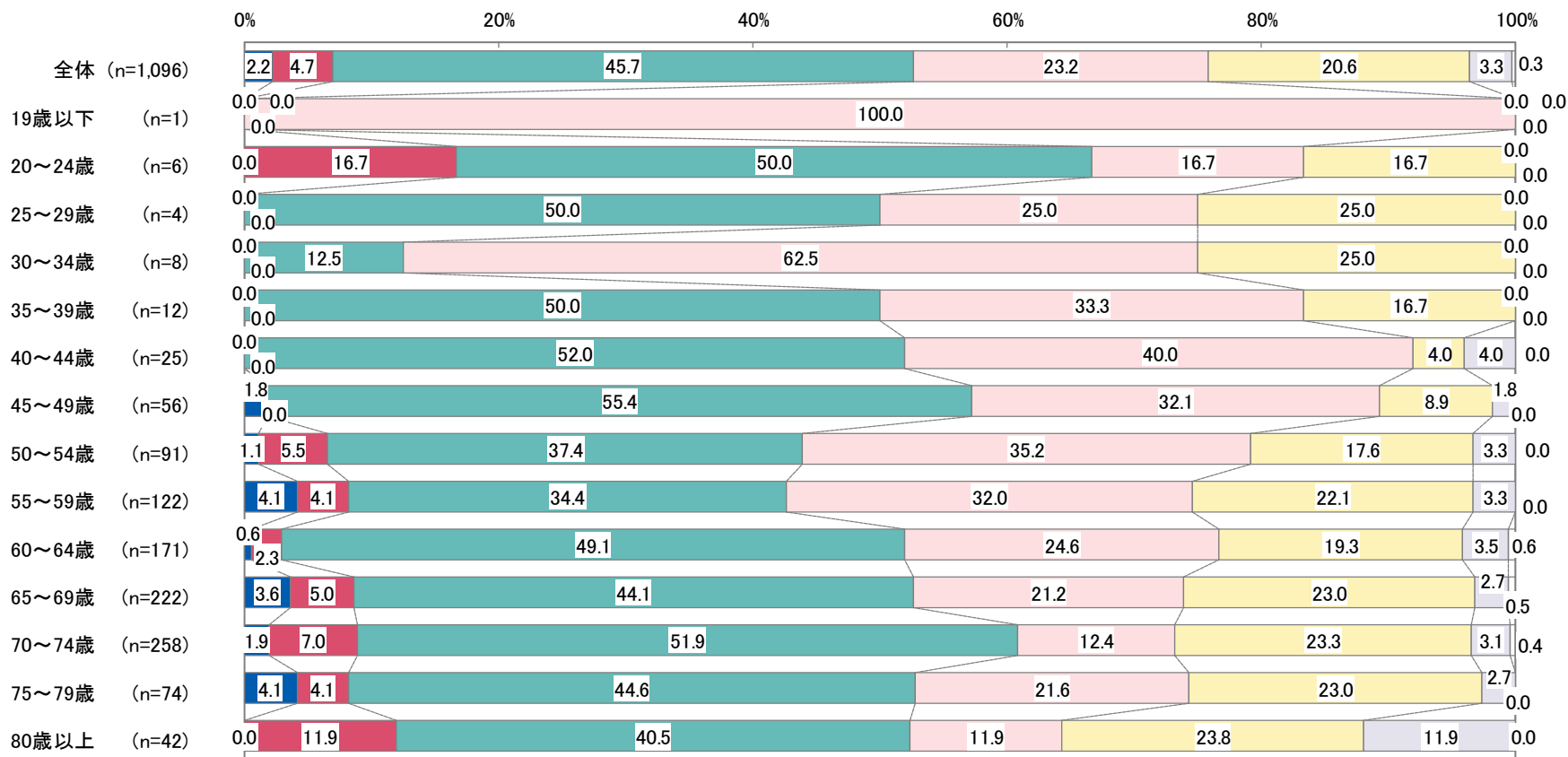
図表57 コロナの影響（年齢階層別）



問 1 1 - 1 路上生活前の仕事の立場

- 路上生活前の仕事の立場については、「30～34歳以下」の者では、「臨時・パート・アルバイト」の割合が高く（62.5%）、「45～49歳以下」の者では「常勤職員・従業員（正社員）」の割合が高い（55.4%）。

図表58 路上生活前の仕事の立場（年齢階層別）

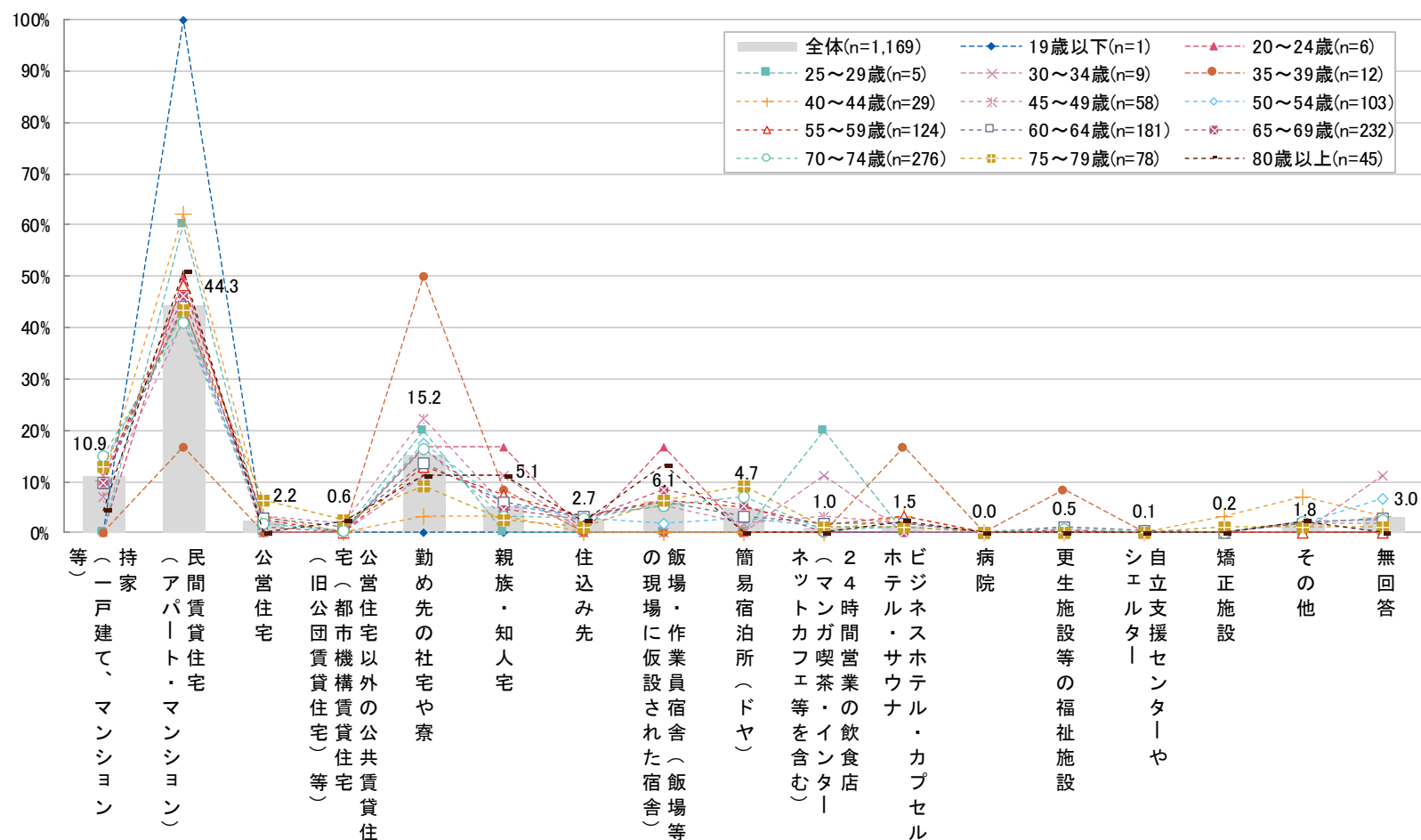


■ 経営者・会社役員 ■ 自営・家族従業者 ■ 常勤職員・従業員(正社員) ■ 臨時・パート・アルバイト ■ 日雇 ■ その他 ■ 無回答

問 1 2 初めて路上生活する前に住んでいたところ

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいたところについては、「25～29歳以下」「40～44歳以下」の者では「民間賃貸住宅」の割合が高く、「35～39歳以下」の者では「勤め先の社宅や寮」及び「ビジネスホテル・カプセルホテル・サウナ」の割合が高い。「25～29歳以下」の者では「24時間営業の飲食店」の割合が他の年代と比べ高い。

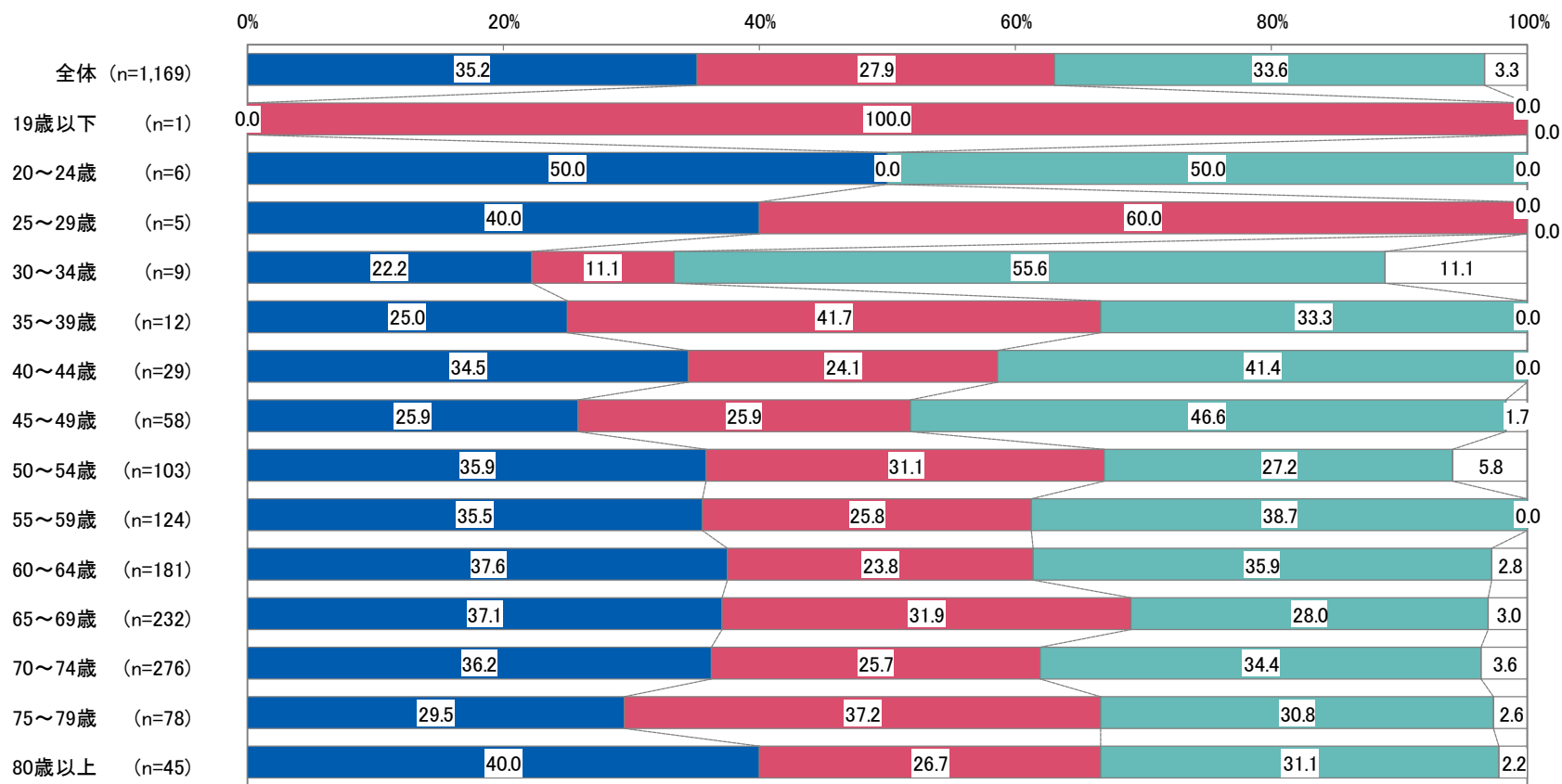
図表59 初めて路上生活する前に住んでいたところ（年齢階層別）



問 1 3 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「30～34歳以下」の者では「都道府県外」の割合が高く（55.6%）、「80歳以上」の者では「同じ市区町村」の割合が高い（40.0%）。

図表60 路上生活する前に住んでいた地域（年齢階層別）



■ 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町村

■ 現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の別の市区町村

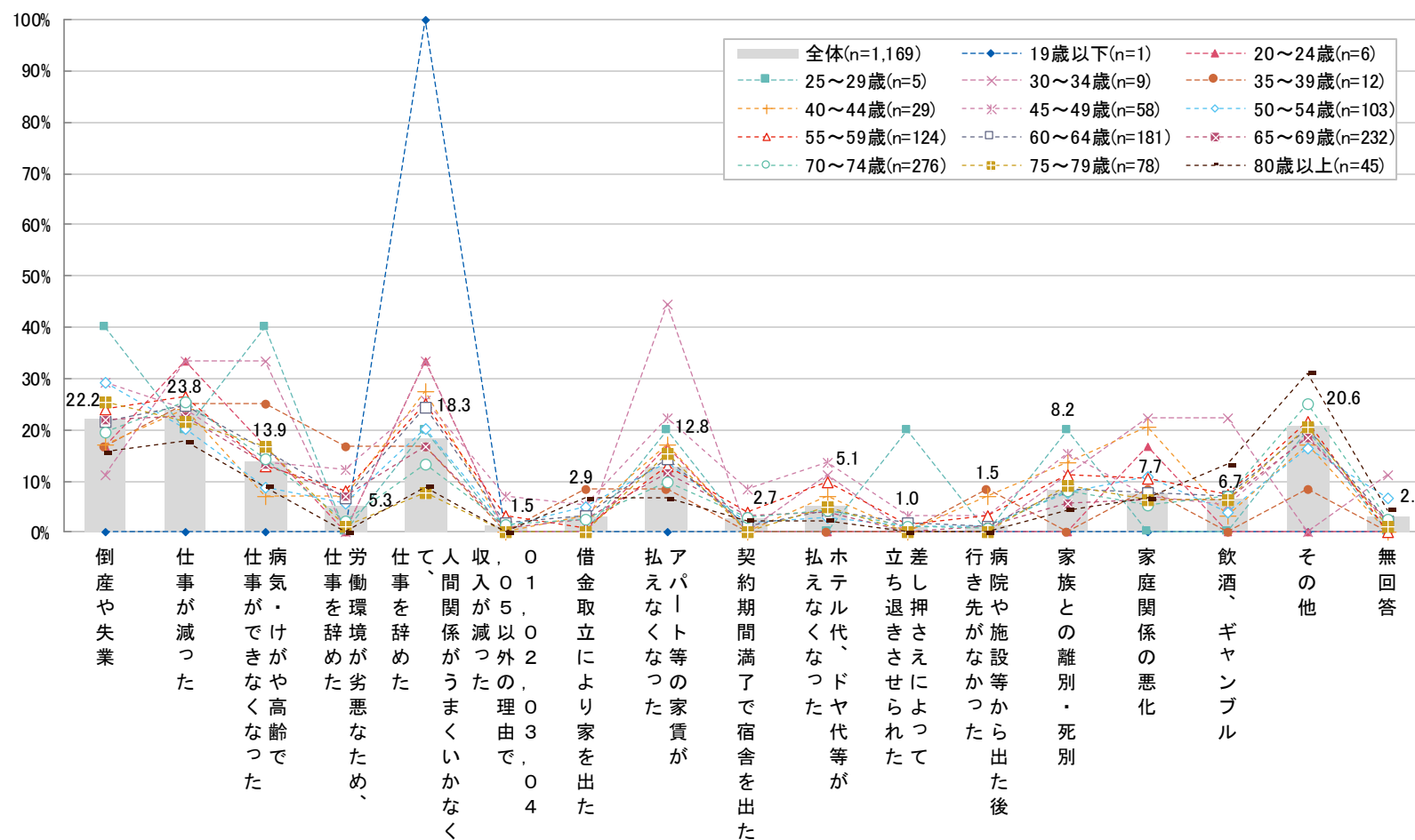
■ 現在路上(野宿)生活をしている都道府県外の市区町村

□ 無回答

問 1 7 今回の路上生活をするようになった主な理由

- 今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由については、「25～29歳以下」の者では「倒産や失業」「病気・けがや高齢で仕事が出来なくなった」の割合が高く、「30～34歳以下」の者では「アパート等の家賃が払えなくなった」の割合が高い。

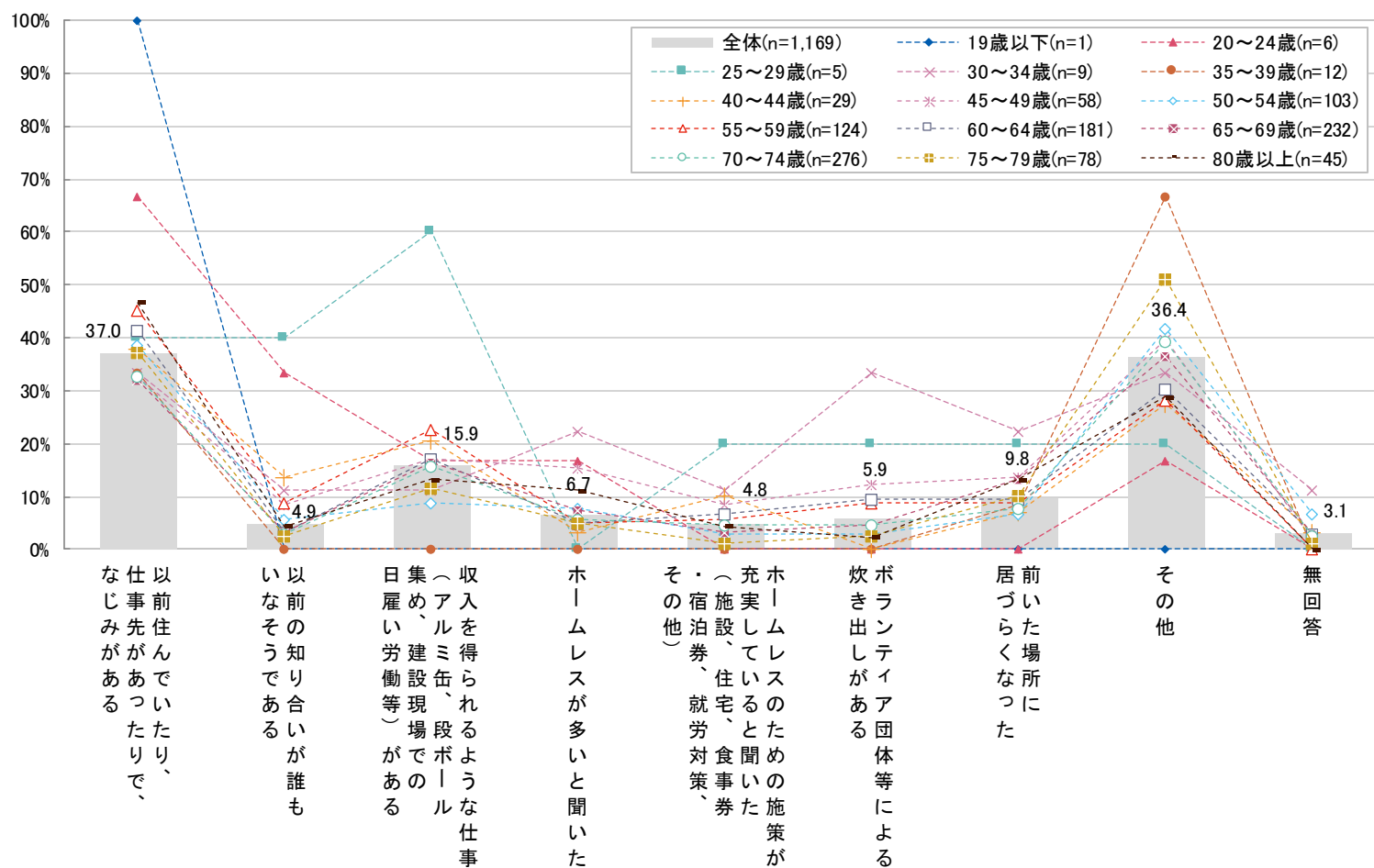
図表61 今回の路上生活をするようになった主な理由（年齢階層別）



問 1 9 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村にきた主な理由については、「25～29歳以下」の者では「収入を得られるような仕事がある」の割合が高く、「30～34歳以下」の者では「なじみがある」「ボランティア団体等による炊き出しがある」の割合が高く、「20～24歳以下」の者では「なじみがある」の割合が高い。

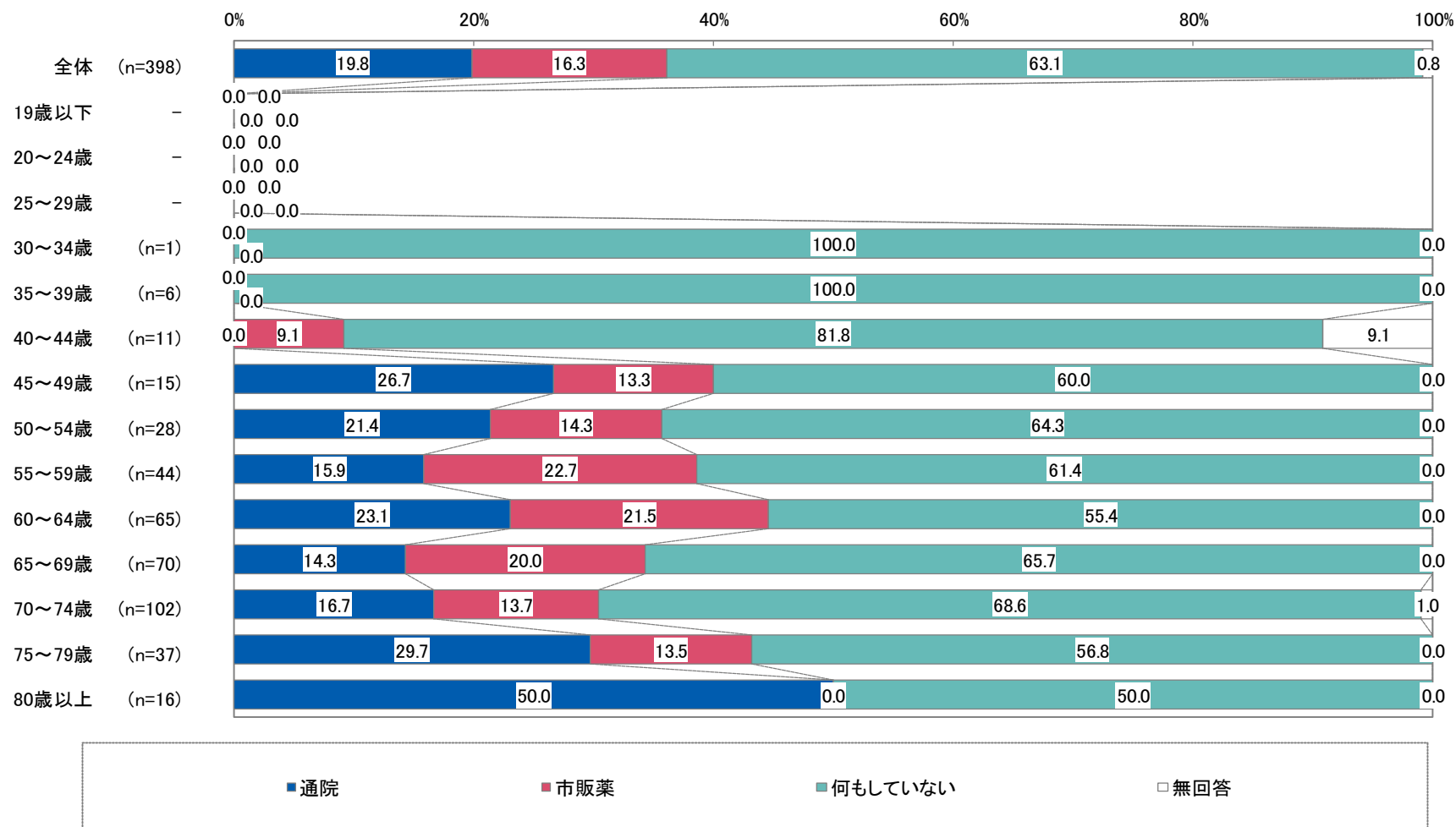
図表62 現在の市区町村にきた主な理由（年齢階層別）



問 2 1 - 1 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法

- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法について、「55歳～59歳」は「市販薬」の割合が高い（22.7%）。「80歳以上」は、「通院」の割合が高い（50.0%）。

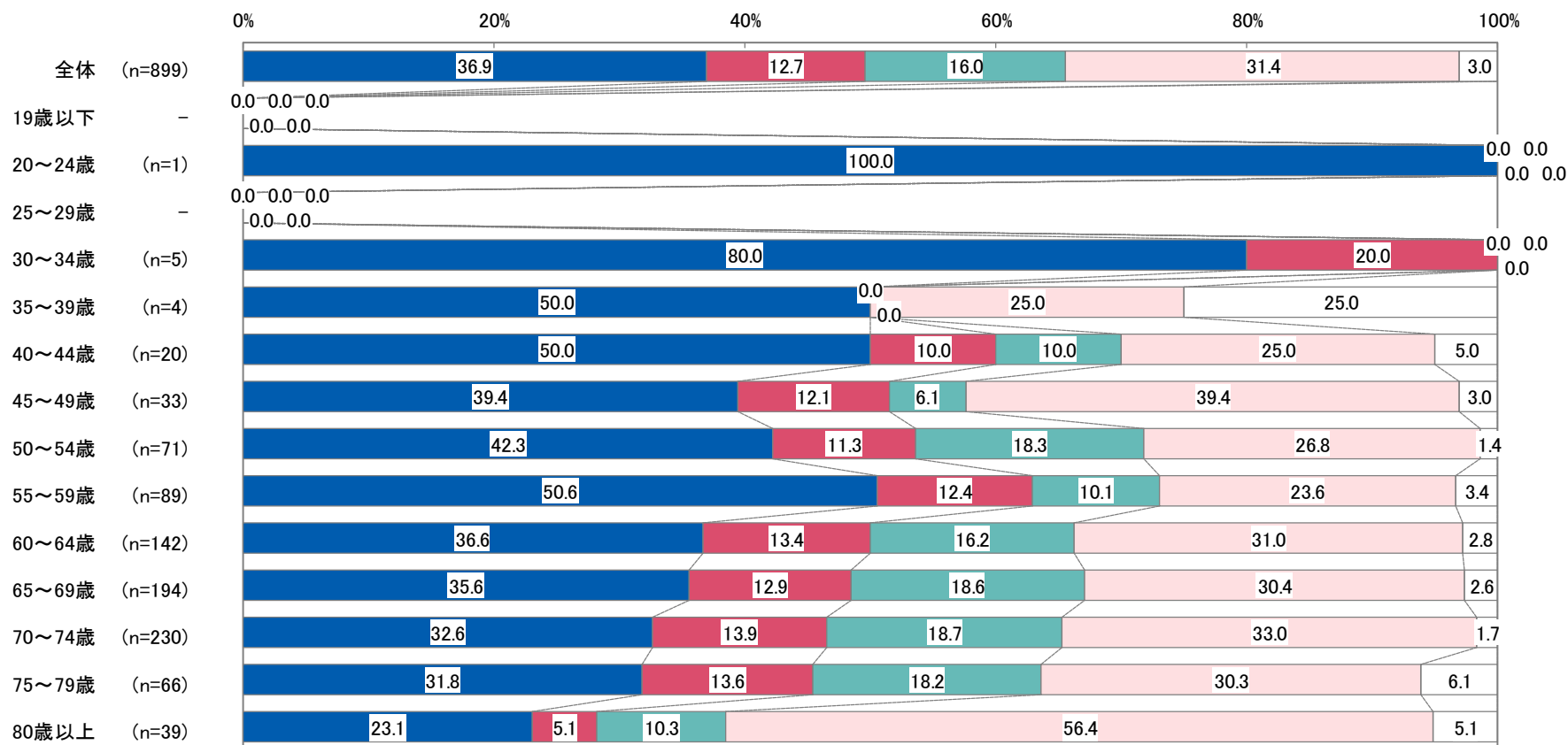
図表63 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法（年齢階層別）



問 27-4 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 自立支援センターやシェルター等の利用の勧めについては、「55～59歳以下」の者では「自立支援センターの利用を勧められた」の割合が高く（50.6%）、「80歳以上」の者では「特に勧められなかった」の割合が高い（56.4%）。

図表64 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（年齢階層別）

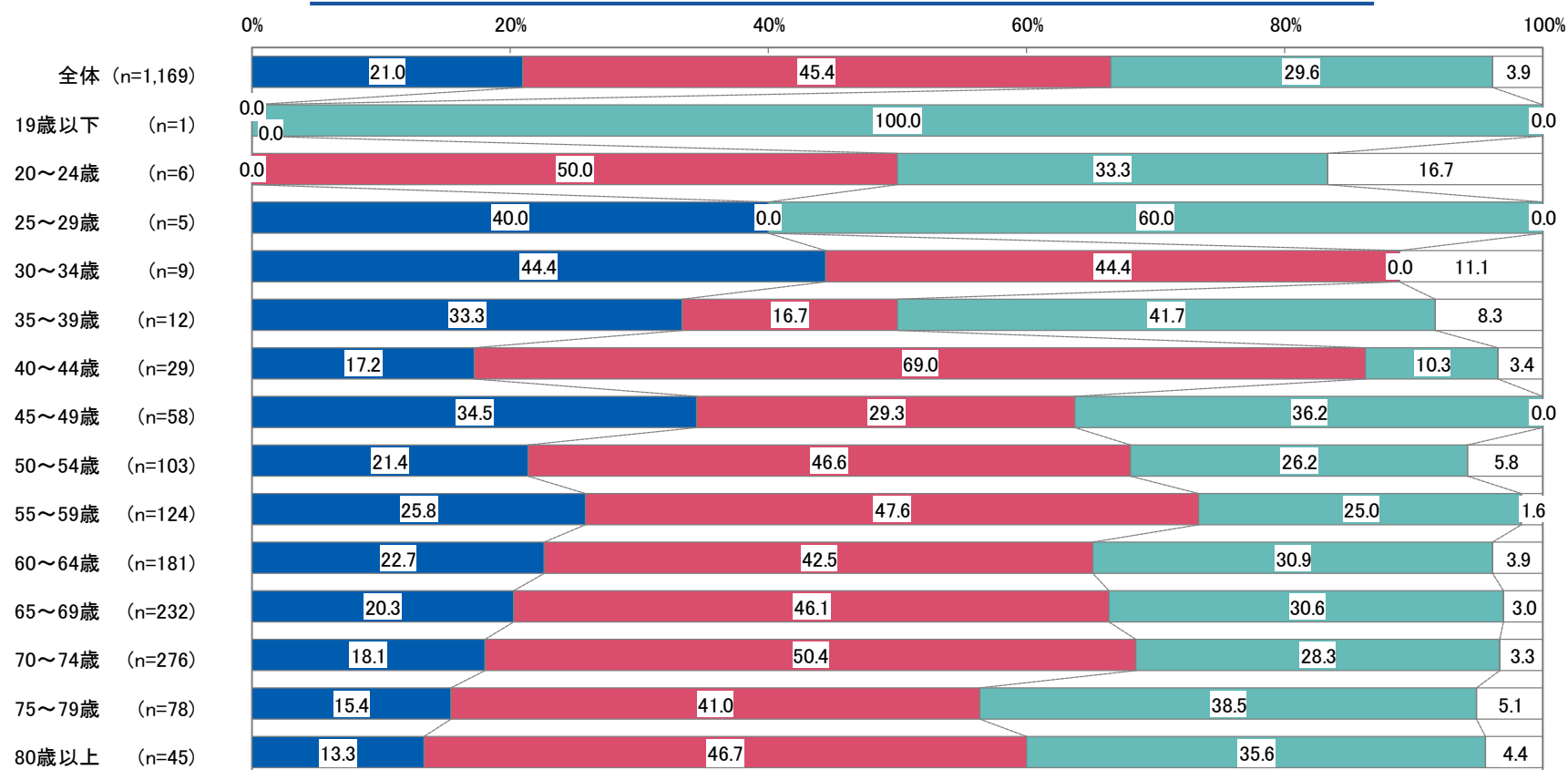


■ 自立支援センターの利用を勧められた ■ シェルターの利用を勧められた ■ その他のサービスの利用を勧められた □ 特に勧められなかった □ 無回答

問 2 8 シェルター内容の認知度・利用度

- ・ シェルターの内容の認知度・利用度については、「30～34歳以下」では「知っており、利用したことがある」の割合が高く（44.4%）、「75～79歳以下」及び「80歳以上」の者では「知っており、利用したことがある」の割合が低く（それぞれ15.4%、13.3%）、「40～44歳以下」の者では「知っているが、利用したことはない」の割合が高い（69%）。

図表65 シェルター内容の認知度・利用度（年齢階層別）



■ 知っており、利用したことがある

■ 知っているが、利用したことはない

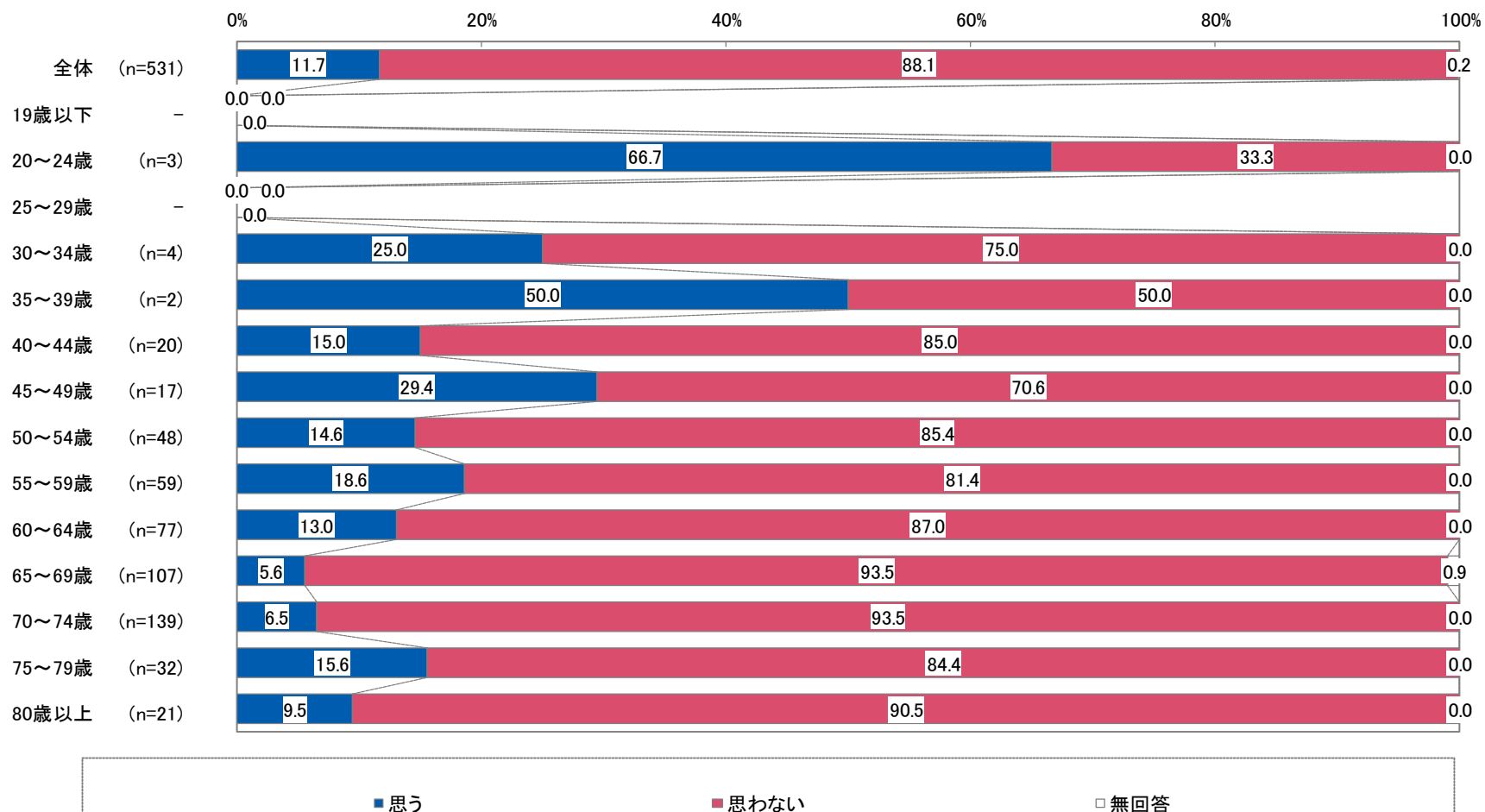
■ 知らない

□ 無回答

問 2 8 - 1 シェルターの利用意向

- ・ シェルターの利用意向については、すべての年齢において「思わない」の割合が高いが、「45～49歳以下」（29.4%）、「55～59歳以下」（18.6%）及び「75～79歳以下」（15.6%）の者では比較的「思う」の割合が高い。

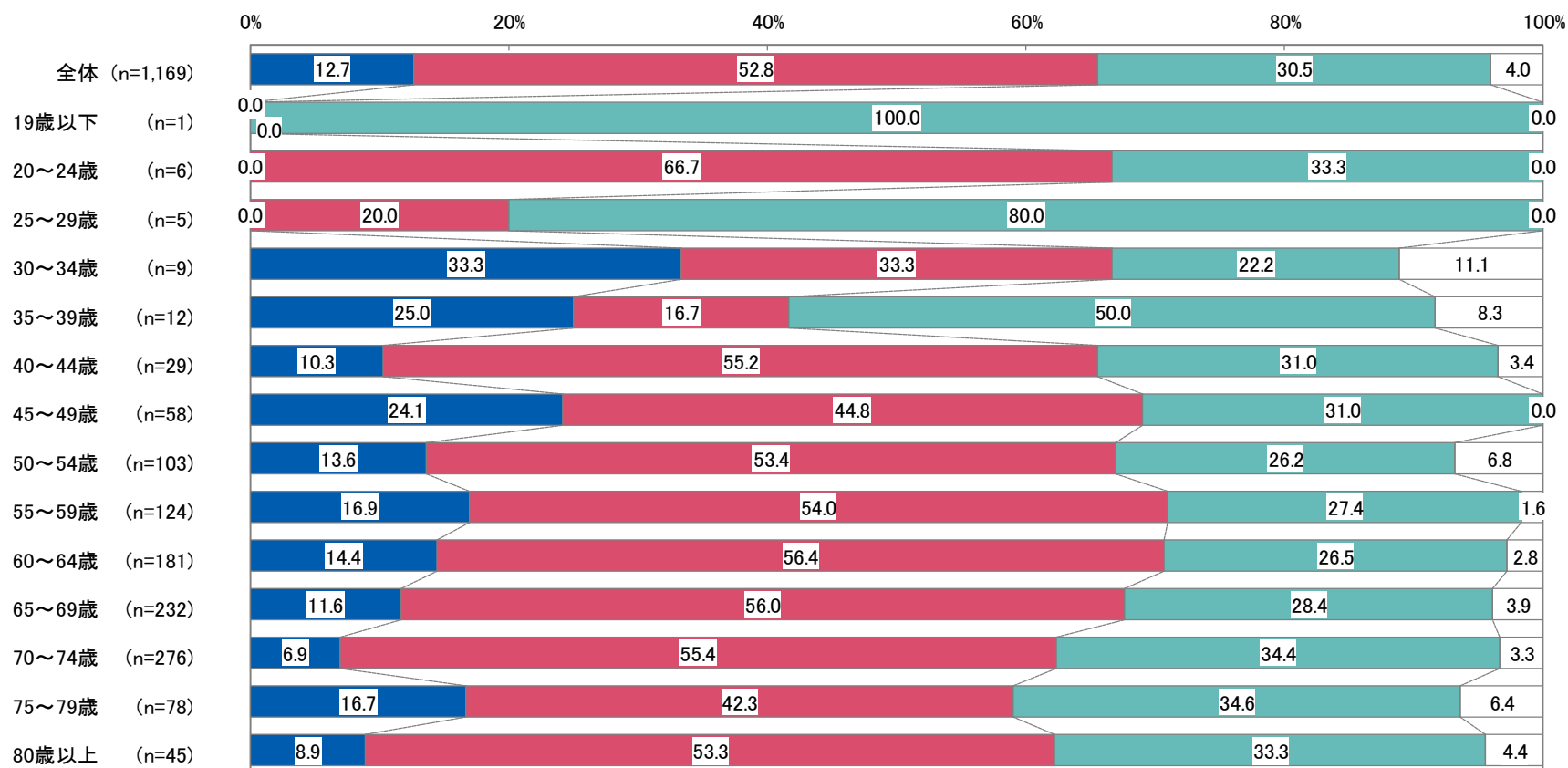
図表66 シェルターの利用意向（年齢階層別）



問 2 9 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、年齢が下がることに伴って、「知っており、利用したことがある」の割合が高くなる傾向にある。「75～79歳以下」の者では「知っており、利用したことがある」の割合が高い（16.7%）。
- 「35～39歳以下」の者では「知らない」の割合が高い（50.0%）。

図表67 自立支援センターの内容の認知度・利用度（年齢階層別）



■ 知っており、利用したことがある

■ 知っているが、利用したことはない

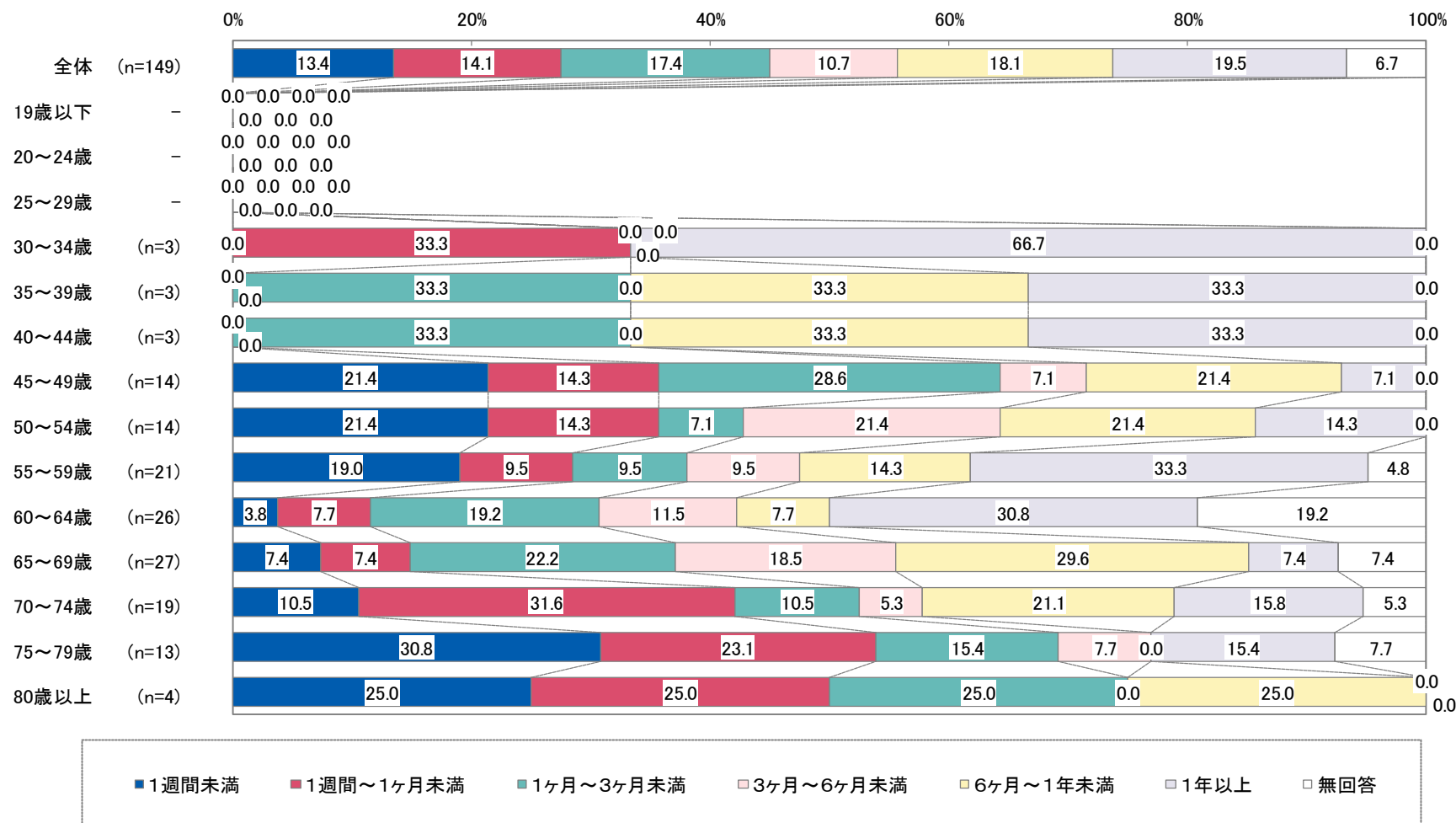
■ 知らない

□ 無回答

問 2 9 - 1 退所から路上生活に戻るまでの期間

- 退所から路上生活に戻るまでの期間については、「55～59歳以下」の者では「1年以上」の割合が高く（33.3%）、「70～74歳以下」の者では「1週間～1ヶ月未満」の割合が高く（31.6%）、「75～79歳以下」の者では「1週間未満」の割合が高い（30.8%）。

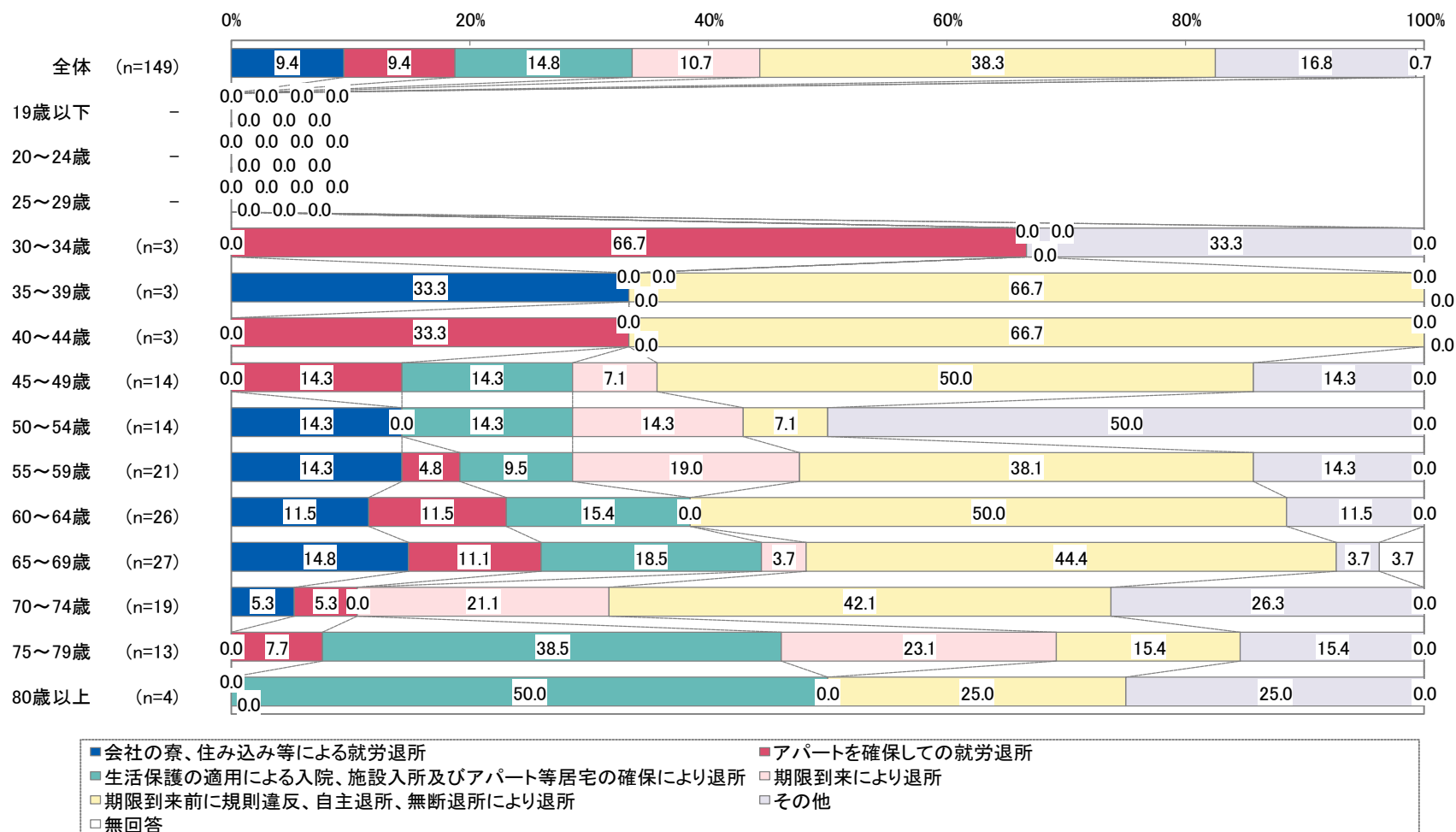
図表68 退所から路上生活に戻るまでの期間（年齢階層別）



問 2 9 - 2 退所理由

- 退所理由については、「75～79歳以下」の者では「生活保護の適用による退所」（38.5%）及び「期限到来による退所」（23.1%）の割合が高く、「45～49歳以下」「60～64歳以下」及び「65～69歳以下」の者では「無断退所等」の割合が高い傾向にある（それぞれ50.0%、50.0%、44.4%）。

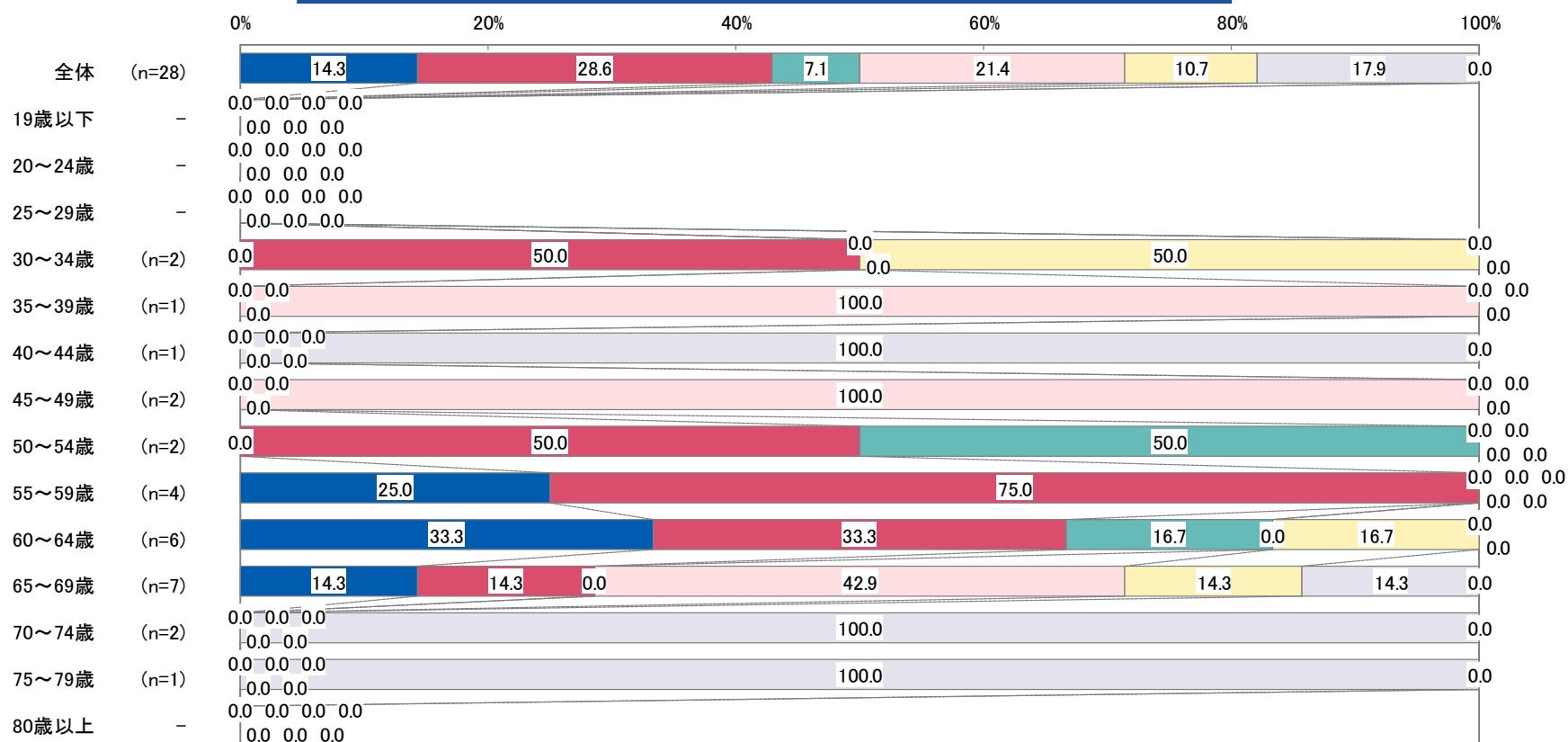
図表69 退所理由（年齢階層別）



問 2 9 - 3 路上生活に戻った主な理由

- 路上生活に戻った主な理由については、「60～64歳以下」の者では「病気・けが・高齢等」「仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった」の割合が高く（33.3%）、「55～59歳以下」の者では「仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった」の割合が高い傾向にある（75.0%）。

図表70 路上生活に戻った主な理由（年齢階層別）

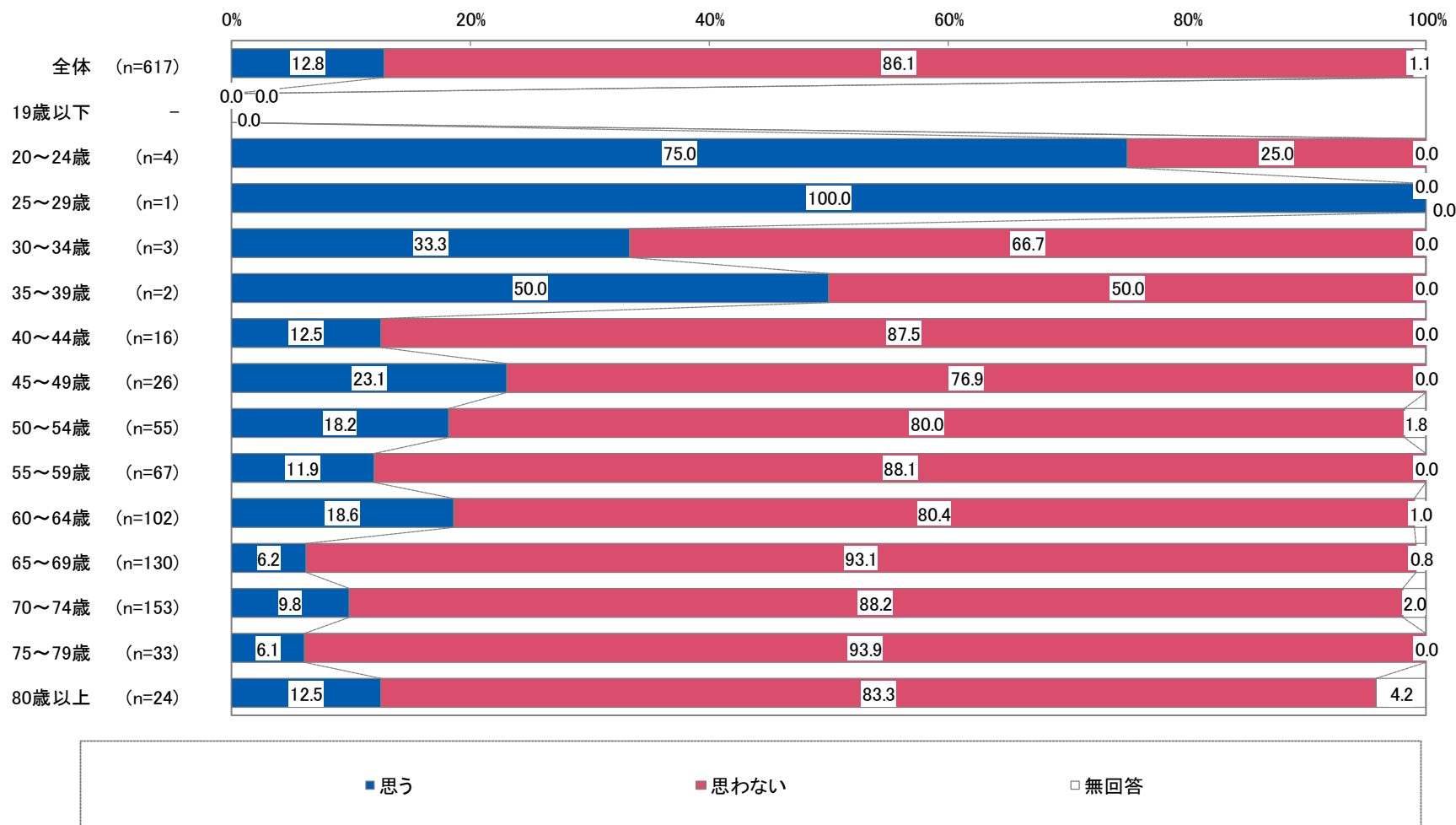


- 病気、けが、高齢等の理由で仕事を解雇された
- 仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった
- 仕事の内容が聞いていたもの（雇用契約）と違い、自ら仕事を辞めた
- 生活の面で失敗があった
- 周囲とのトラブルや仕事になじめない等により、仕事を辞めた
- その他
- 無回答

問 2 9 - 4 自立支援センターの利用意向

- 自立支援センターの利用意向については、「75～79歳以下」の者では「思わない」の割合が高く（93.9%）、「45～49歳以下」の者では「思う」の割合が高い傾向にある（23.1%）。

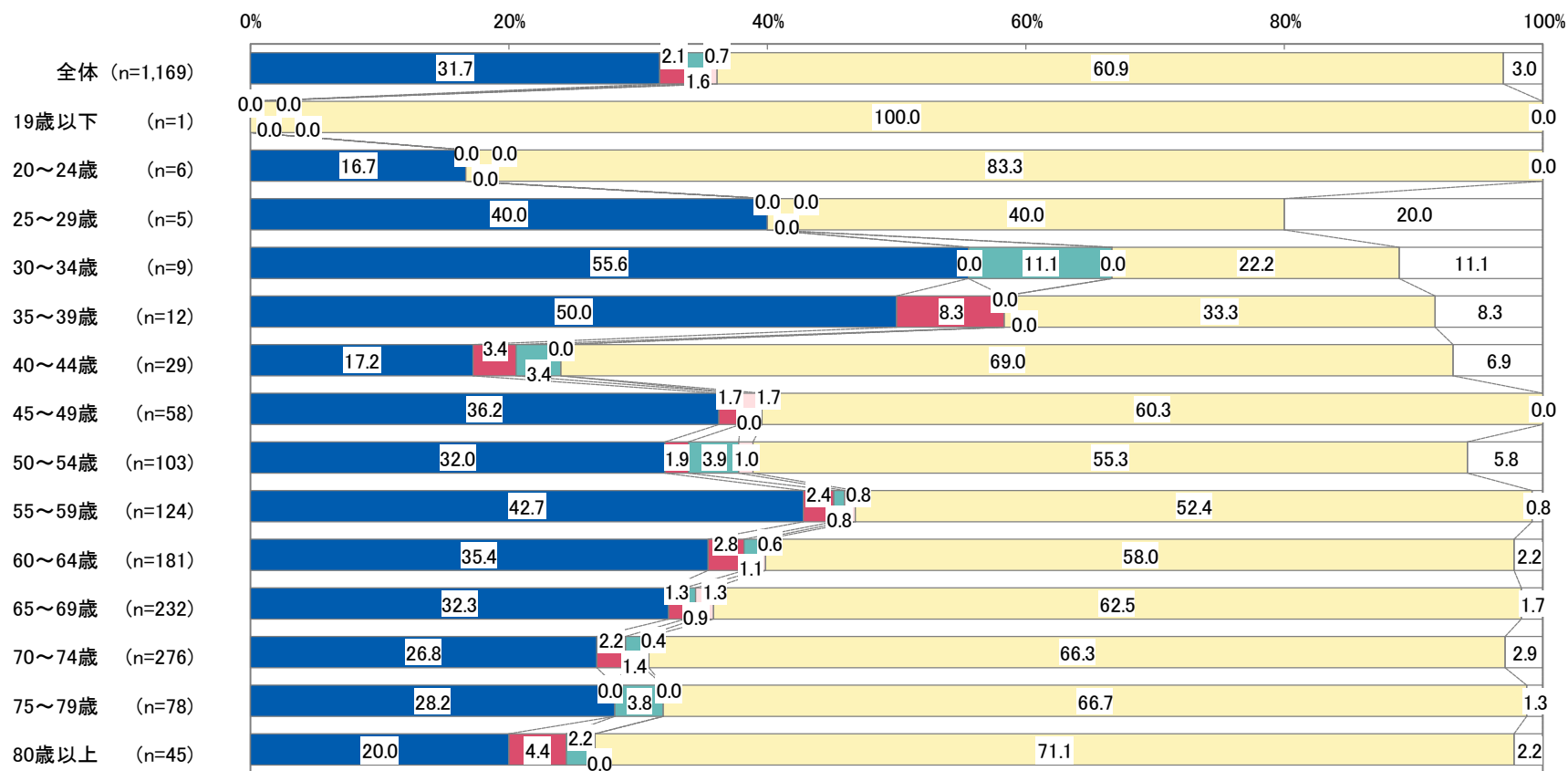
図表71 自立支援センターの利用意向（年齢階層別）



問 3 1 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「35～59歳以下」の者では「ある」の割合が高い（50.0%）。

図表72 生活保護の利用経験（年齢階層別）

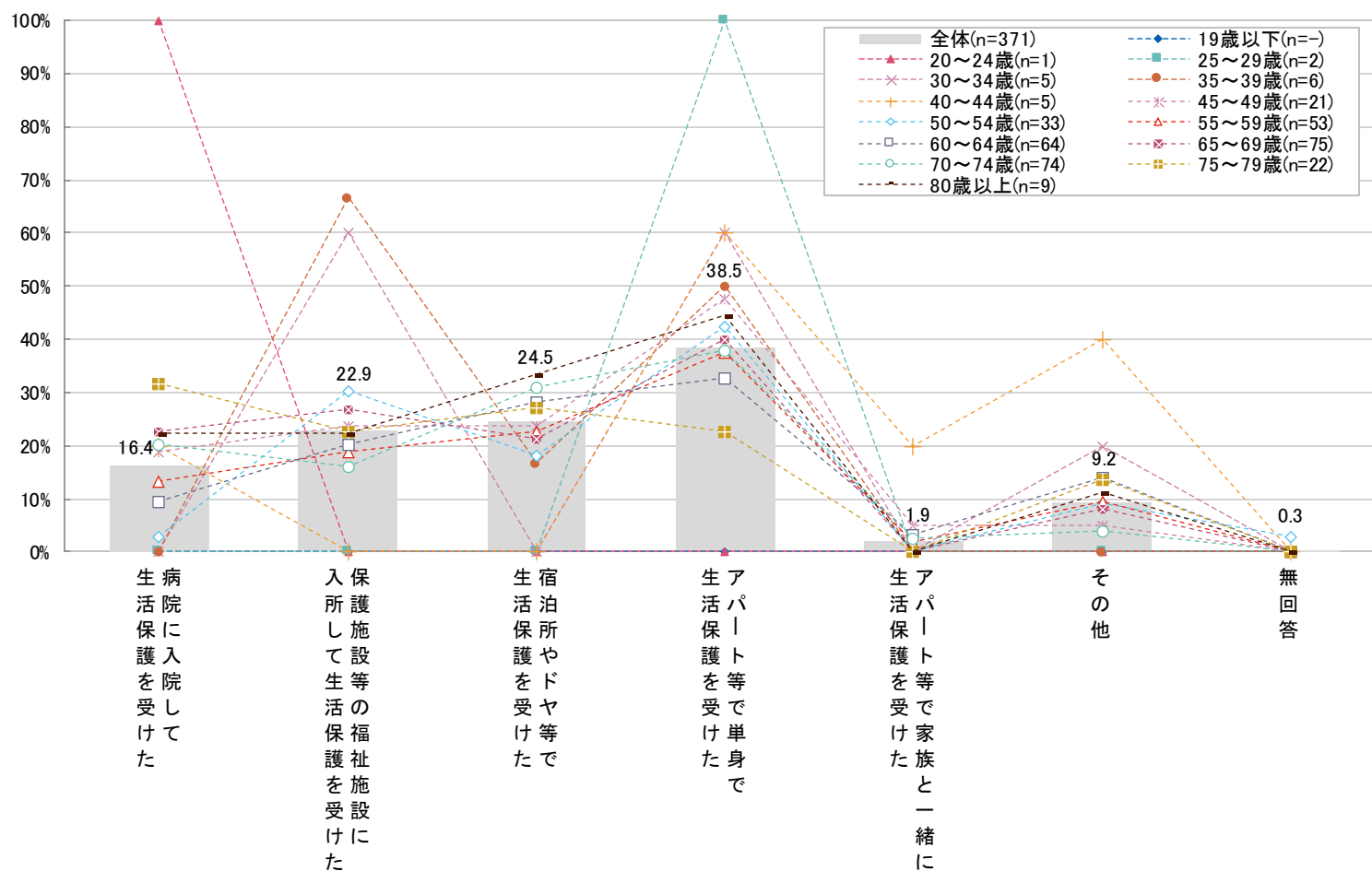


■ ある
 ■ 相談には行ったが利用したことはない
 ■ 相談には行ったが断られた
 ■ 相談に行き他の制度を勧められた
 ■ ない
 □ 無回答

問 3 1 - 1 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「40～44歳以下」及び「65～69歳以下」の者では「アパート等で単身」の割合が高く、「35～39歳以下」の者では「福祉施設」の割合が高く、「75～79歳以下」の者では「病院に入院していた」の割合が高い。

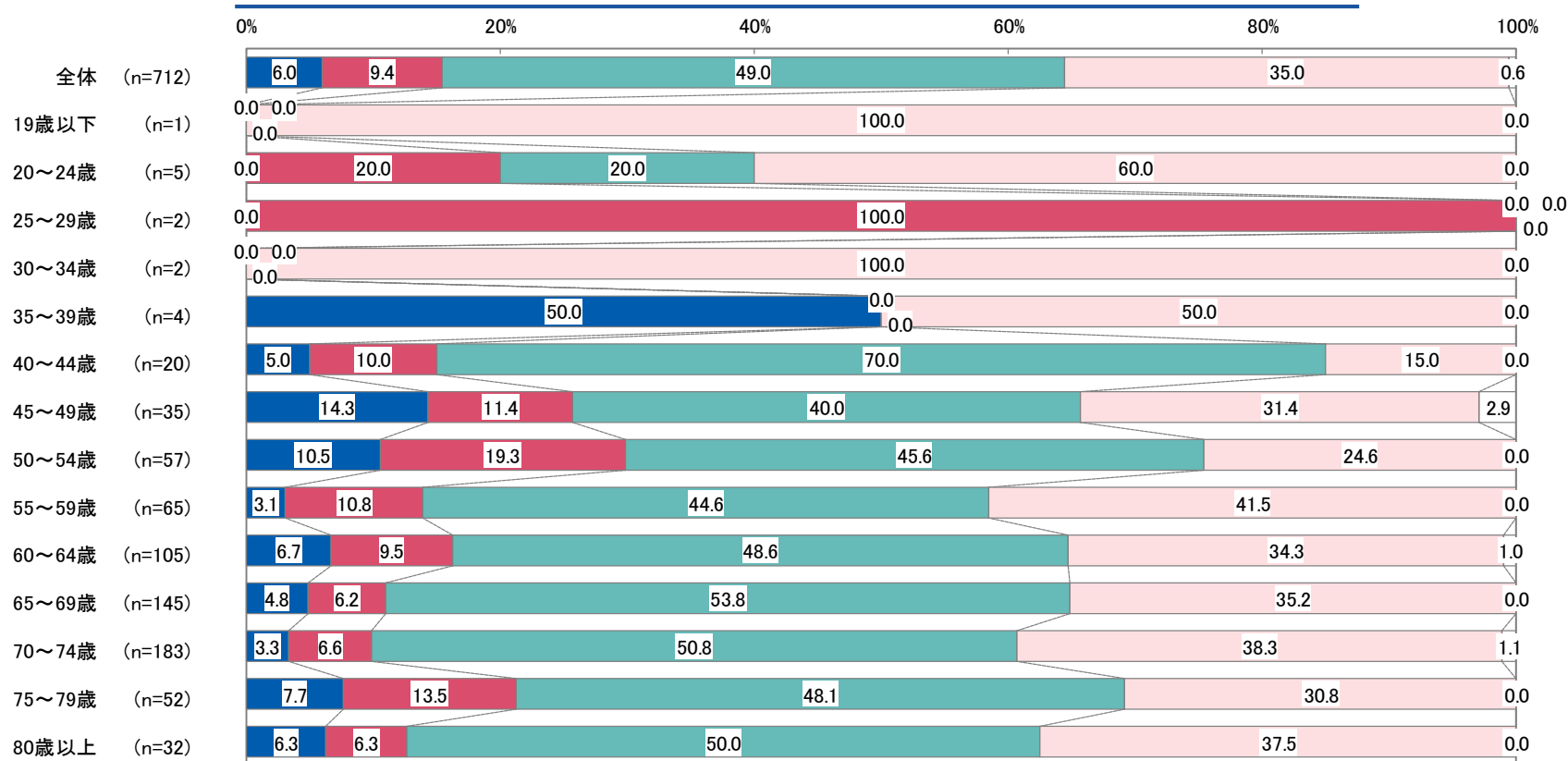
図表73 生活保護制度の利用方法（年齢階層別）



問 3 1 - 2 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「50～54歳以下」及び「75～79歳以下」の者では「利用できないと思っている」の割合が高く（それぞれ19.3%、13.5%）、「40～44歳以下」及び「65～69歳以下」の者では「利用したくない」の割合が高い（それぞれ70.0%、53.8%）。

図表74 生活保護制度を利用しなかった理由（年齢階層別）

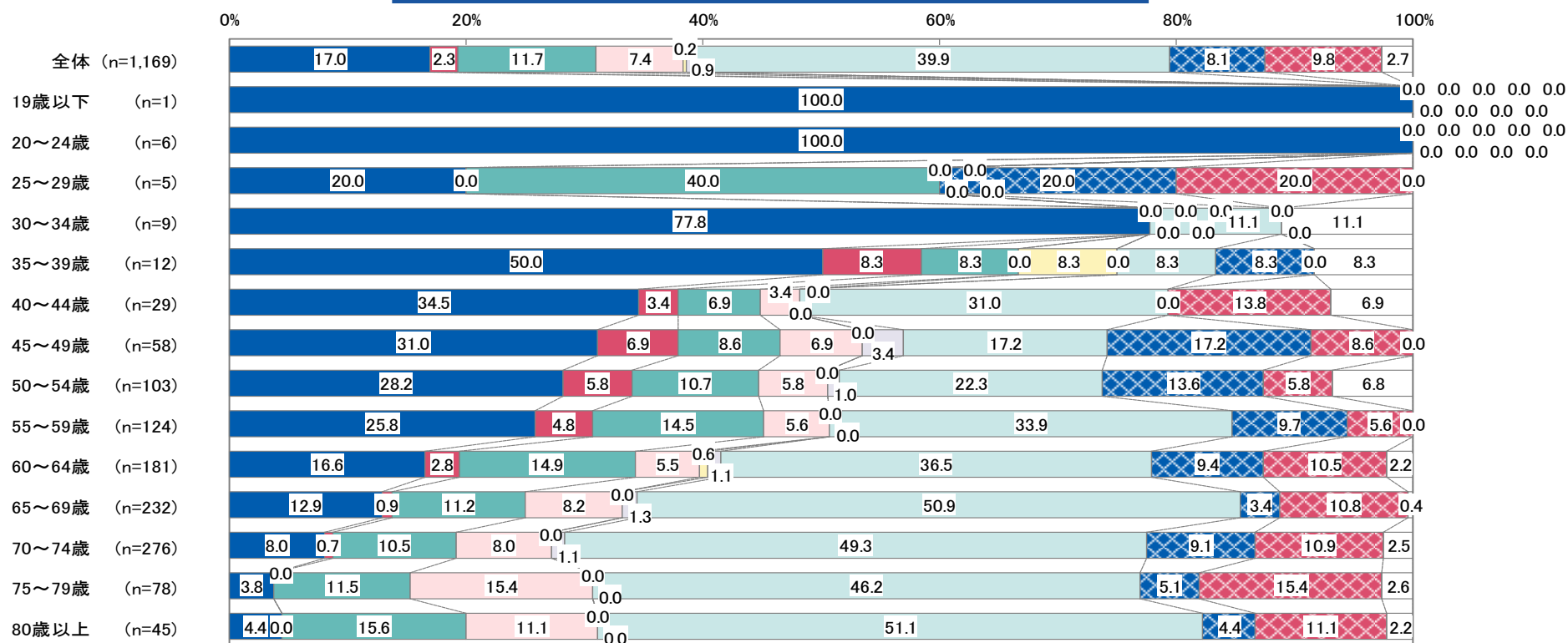


■生活保護制度を知らない ■生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている ■生活保護制度を利用したくない □その他 □無回答

問 3 6 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、年齢が下がるごとに、「アパートに住み、就職して自活したい」の割合が高くなり、年齢が上がるごとに「今のままでいい」の割合が高くなる傾向にある。

図表75 今後望んでいる生活（年齢階層別）

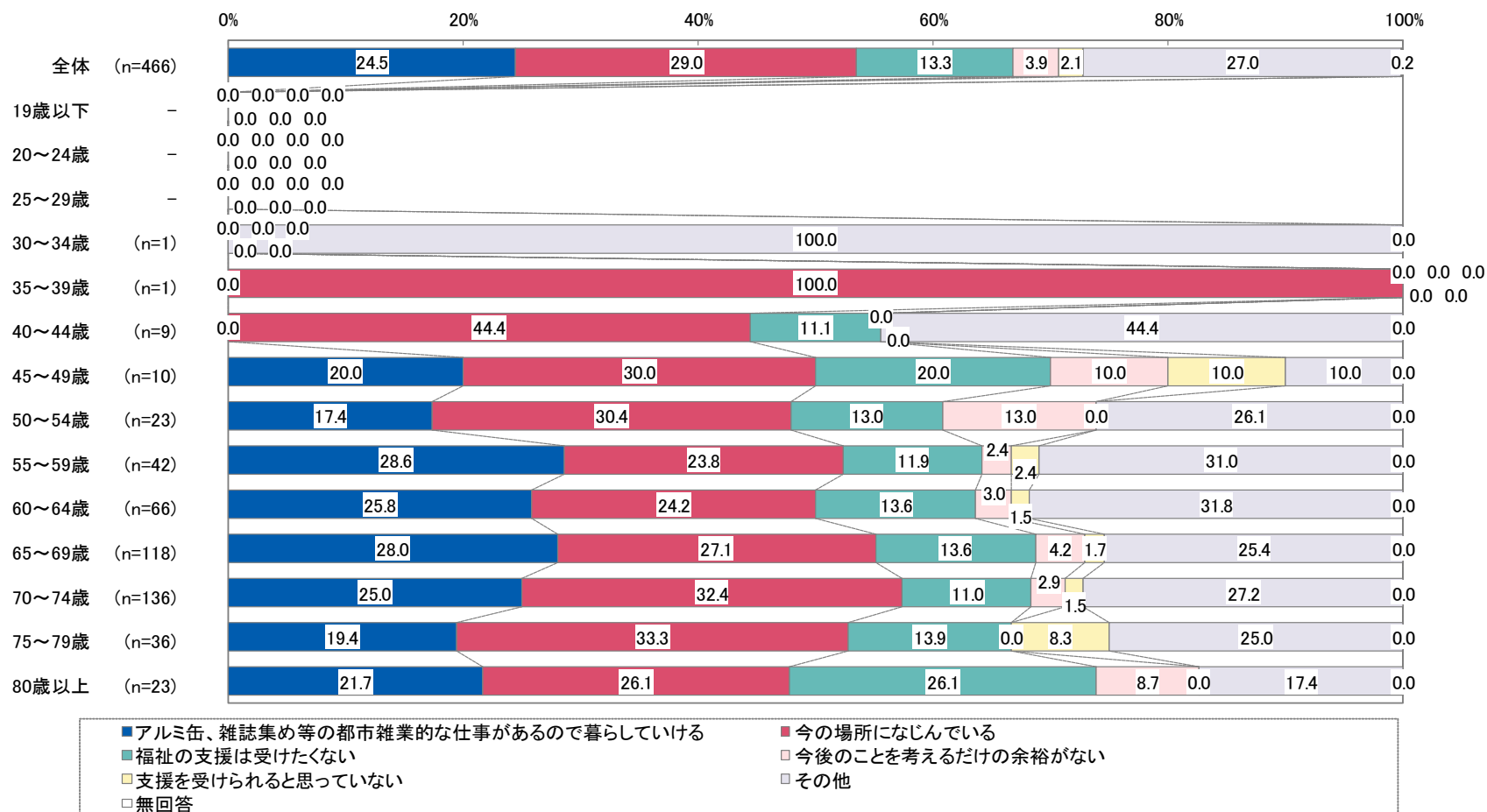


- アパートに住み、就職して自活したい
- 寮付の仕事で自活したい
- アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつめたい
- 就職することではできないので何らかの福祉(生活保護や施設入所等)を利用して生活したい
- 入院したい
- 家族の元に戻りたい
- 今のままでいい(路上(野宿)生活)
- わからない
- その他
- 無回答

問 3 6 - 1 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「55～59歳以下」の者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く（28.6%）、「75～79歳以下」の者では「今の場所になじんでいる」（33.3%）、「80歳以上」の者では「今の場所になじんでいる」「福祉の支援は受けたくない」の割合が高い傾向にある（26.1%）。

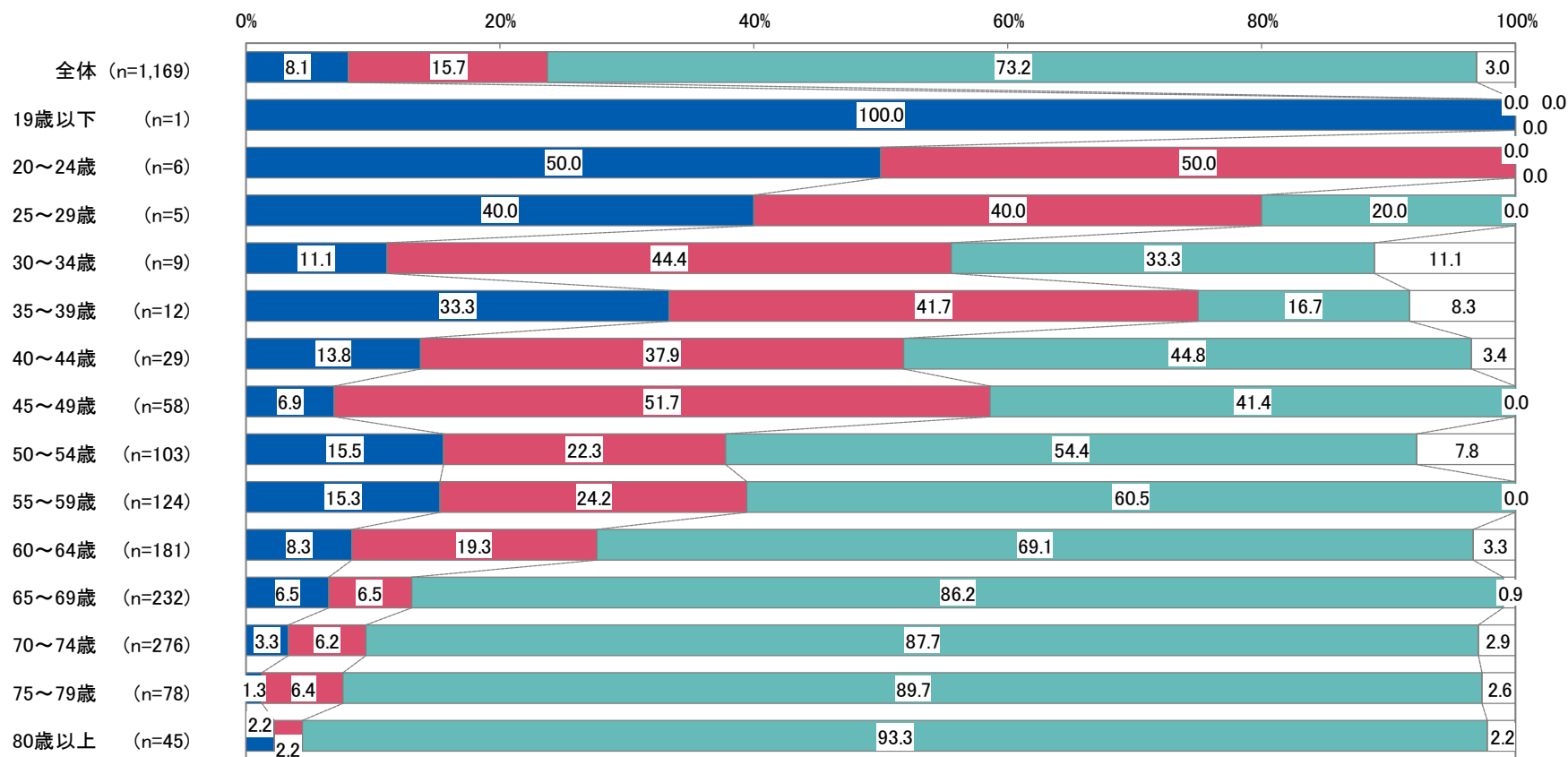
図表76 今のままでいい理由（年齢階層別）



問 3 7 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「49歳以下」の者では「求職活動をしている」及び「今後、求職活動する予定である」の割合が高く、「50歳以上」の者では「求職活動する予定はない」の割合が高い。

図表77 就職するための求職活動（年齢階層別）



■ 求職活動をしている

■ 今は求職活動をしていないが、今後、求職活動をする予定である

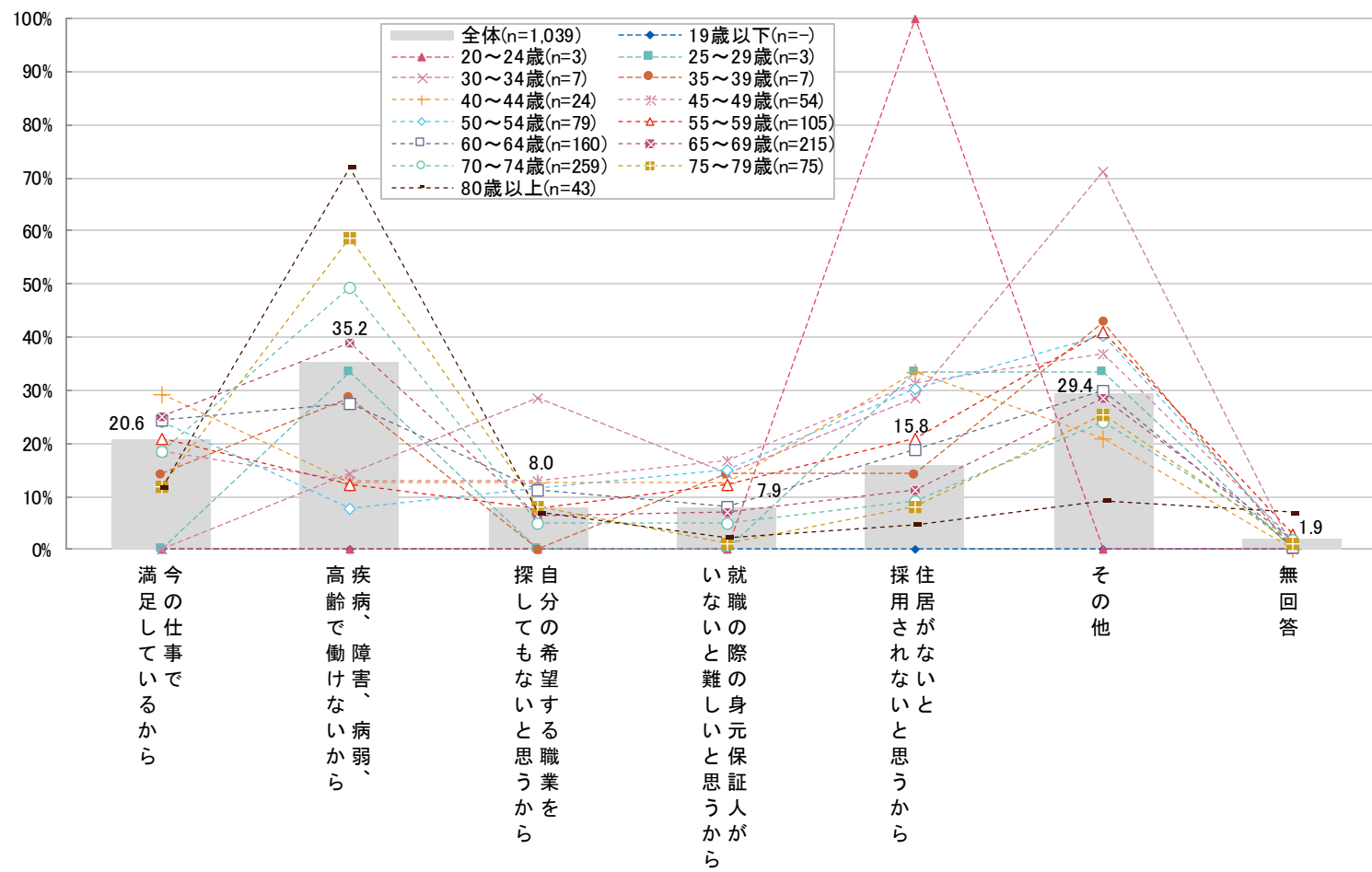
■ 今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない

□ 無回答

問 3 7 - 2 求職活動をしていない理由

- 求職活動をしていない理由については、「40～44歳以下」「45～49歳以下」「50～54歳以下」の者では「住居がないと採用されないと思う」の割合が高く、「65歳以上」の者では「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」の割合が高い傾向にある。

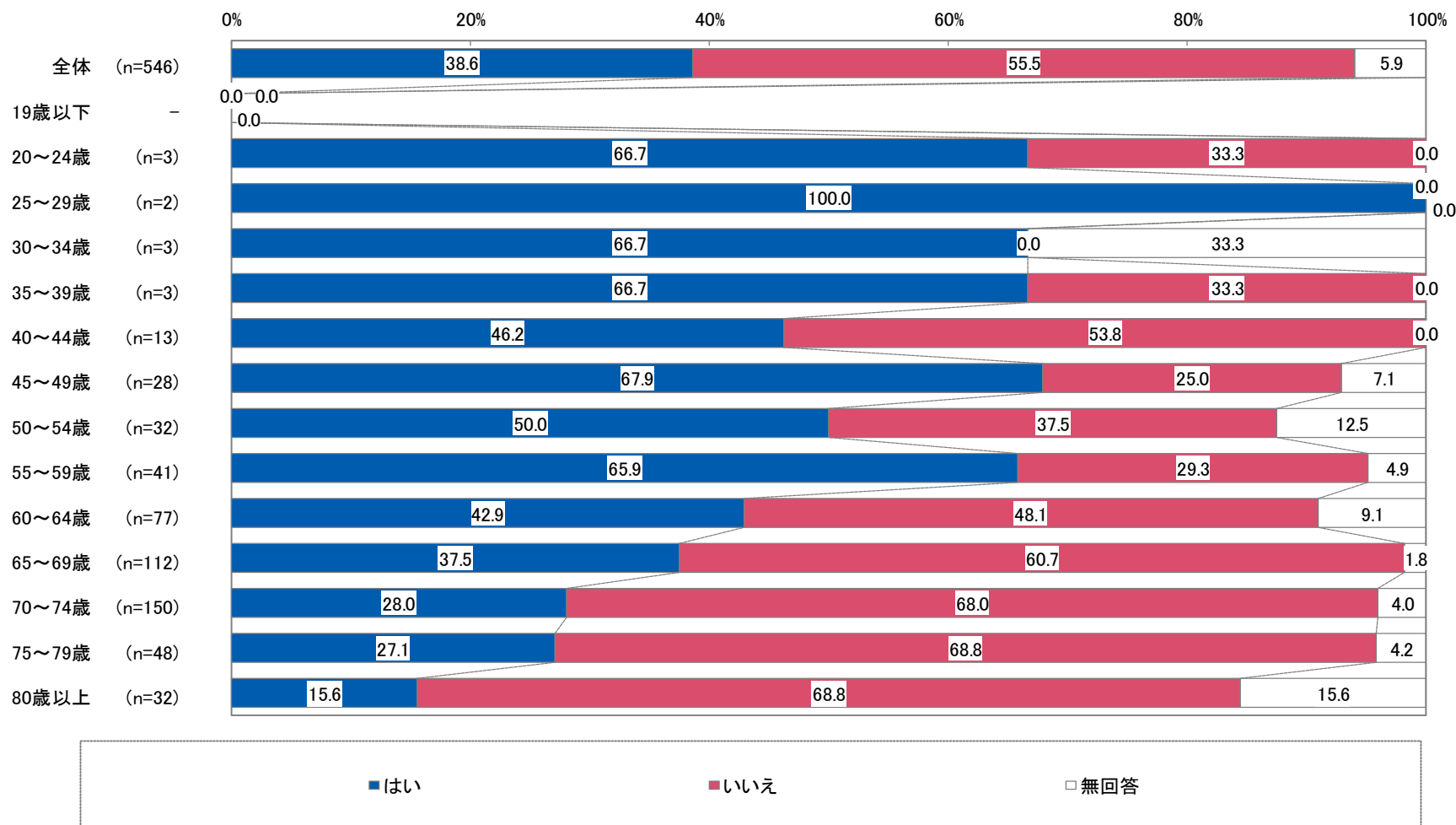
図表78 求職活動をしていない理由（年齢階層別）



問 3 7 - 3 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向について、「59歳以下」（40～44歳以下を除く）の者では「はい」の割合が高く、「60歳以上」の者では「いいえ」の割合が低い。

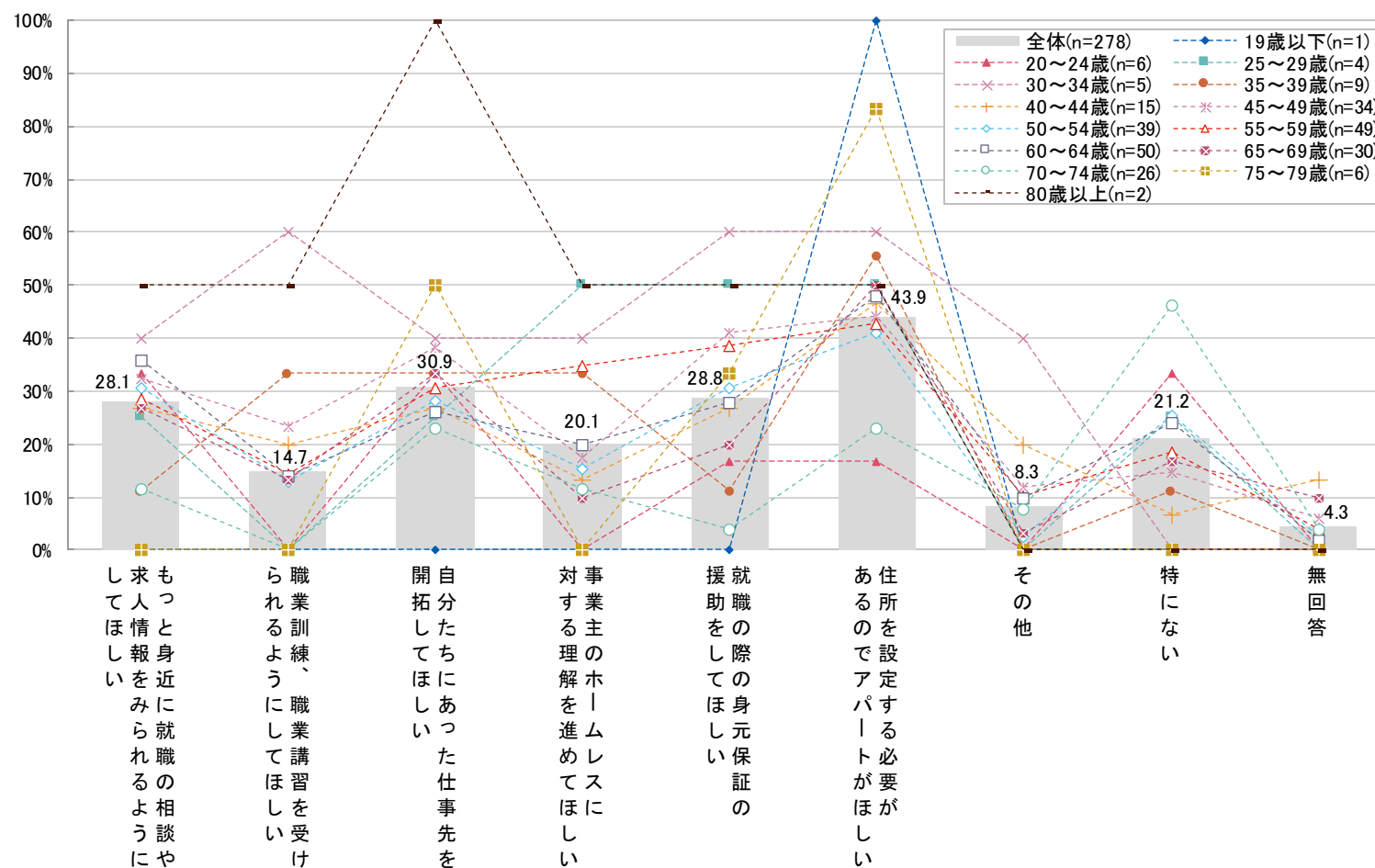
図表79 軽作業への参加意向（年齢階層別）



問 3 7 - 5 就職するために望む支援

- 就職するために望む支援については、「20～24歳以下」「80歳以上」を除く年齢で「住所を設定する必要があるのでアパートが欲しい」の割合が高い。

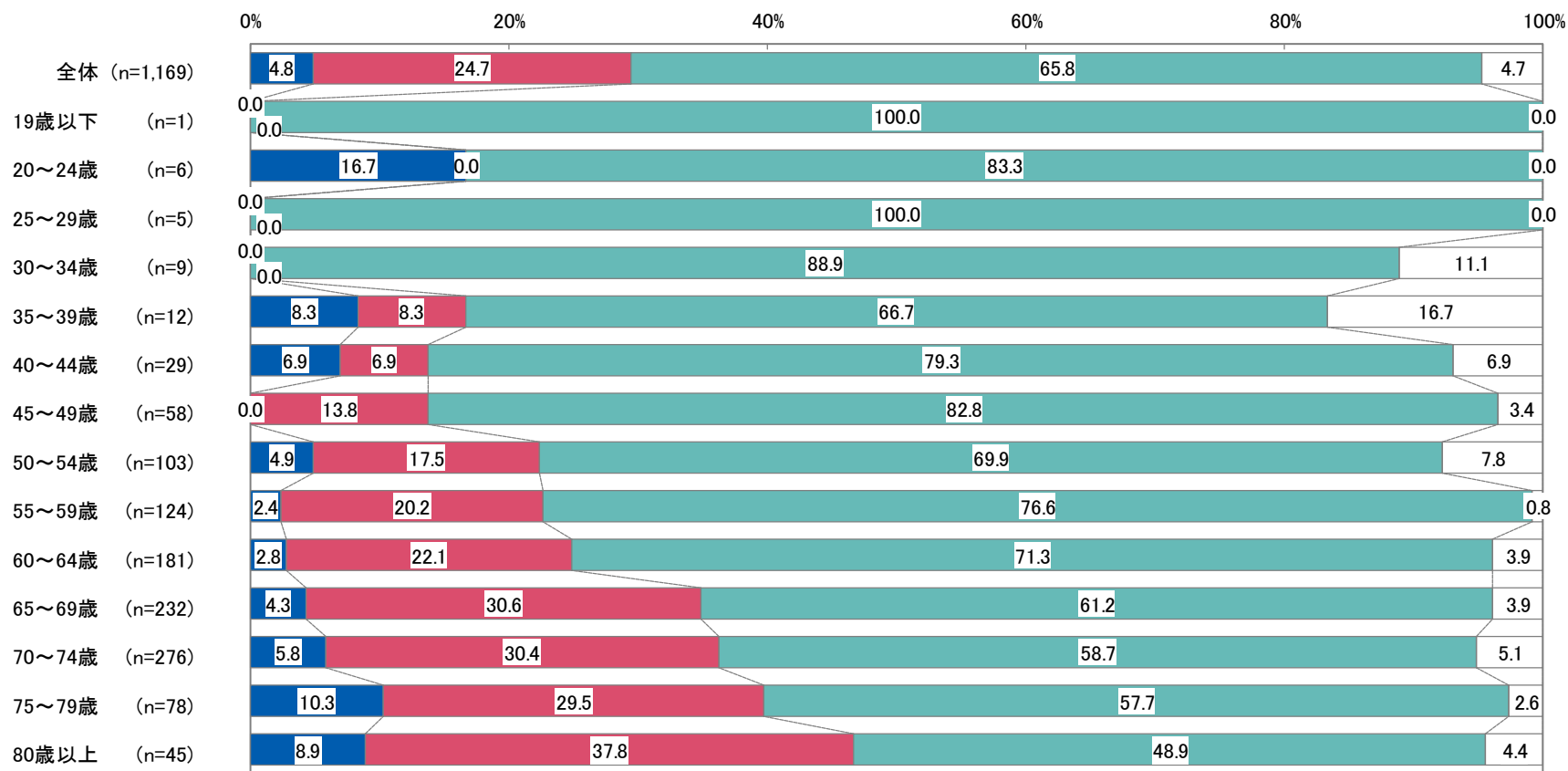
図表80 就職するために望む支援（年齢階層別）



問 4 1 結婚の状況

- 結婚については、「50歳以上」の者では「結婚歴のある人（「結婚している」＋「離婚・死別」）」の割合が高くなる傾向にある。

図表 8 1 結婚の状況（年齢階層別）



■ 結婚している

■ 離婚・死別

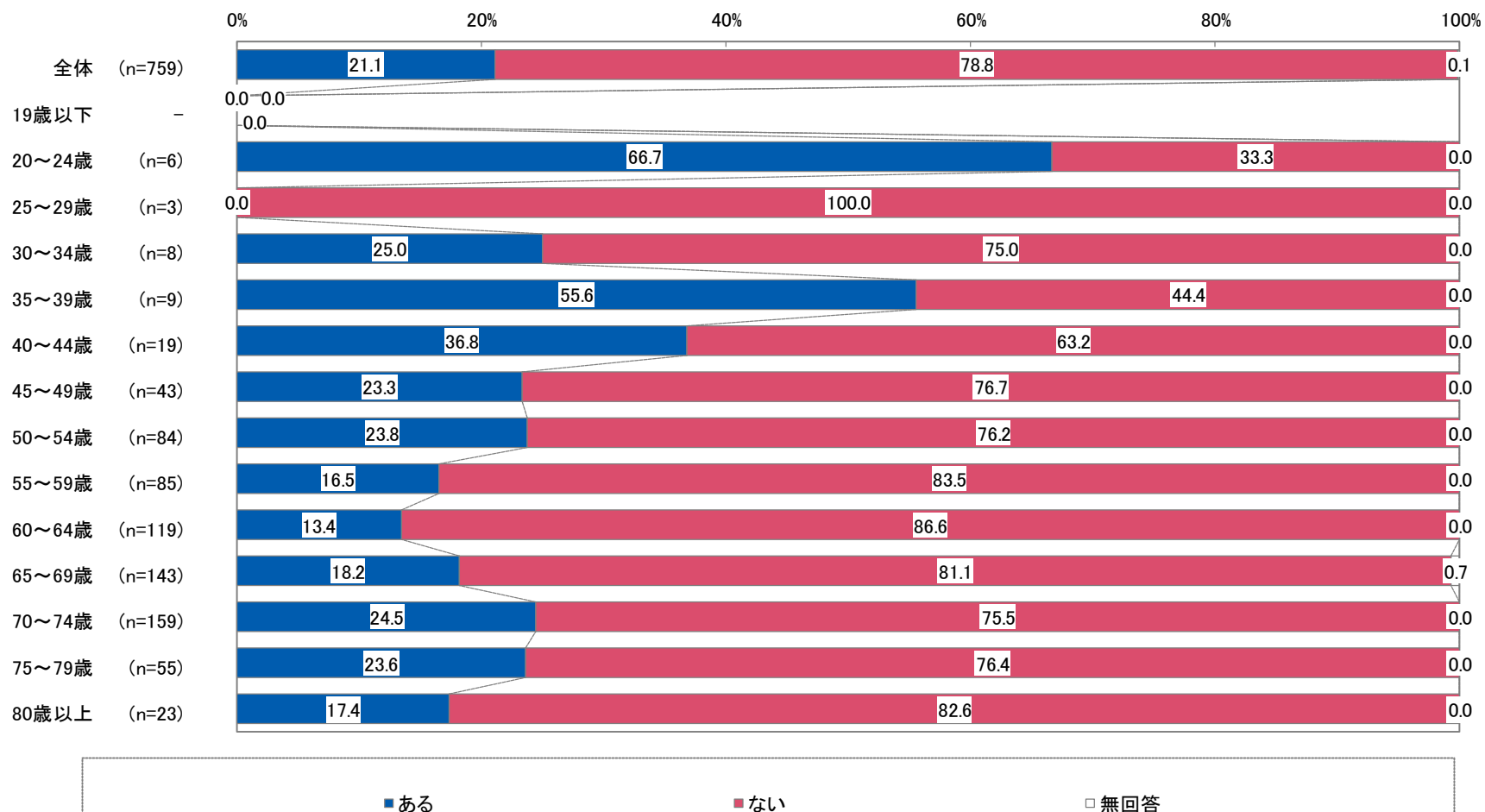
■ 未婚

□ 無回答

問 4 2 - 1 家族・親族との連絡

- 家族・親族との連絡については、全世代で「ない」の割合が高いが、「40～44歳以下」及び「70～74歳以下」の者では「ある」の割合が高い（それぞれ36.8%、24.5%）。

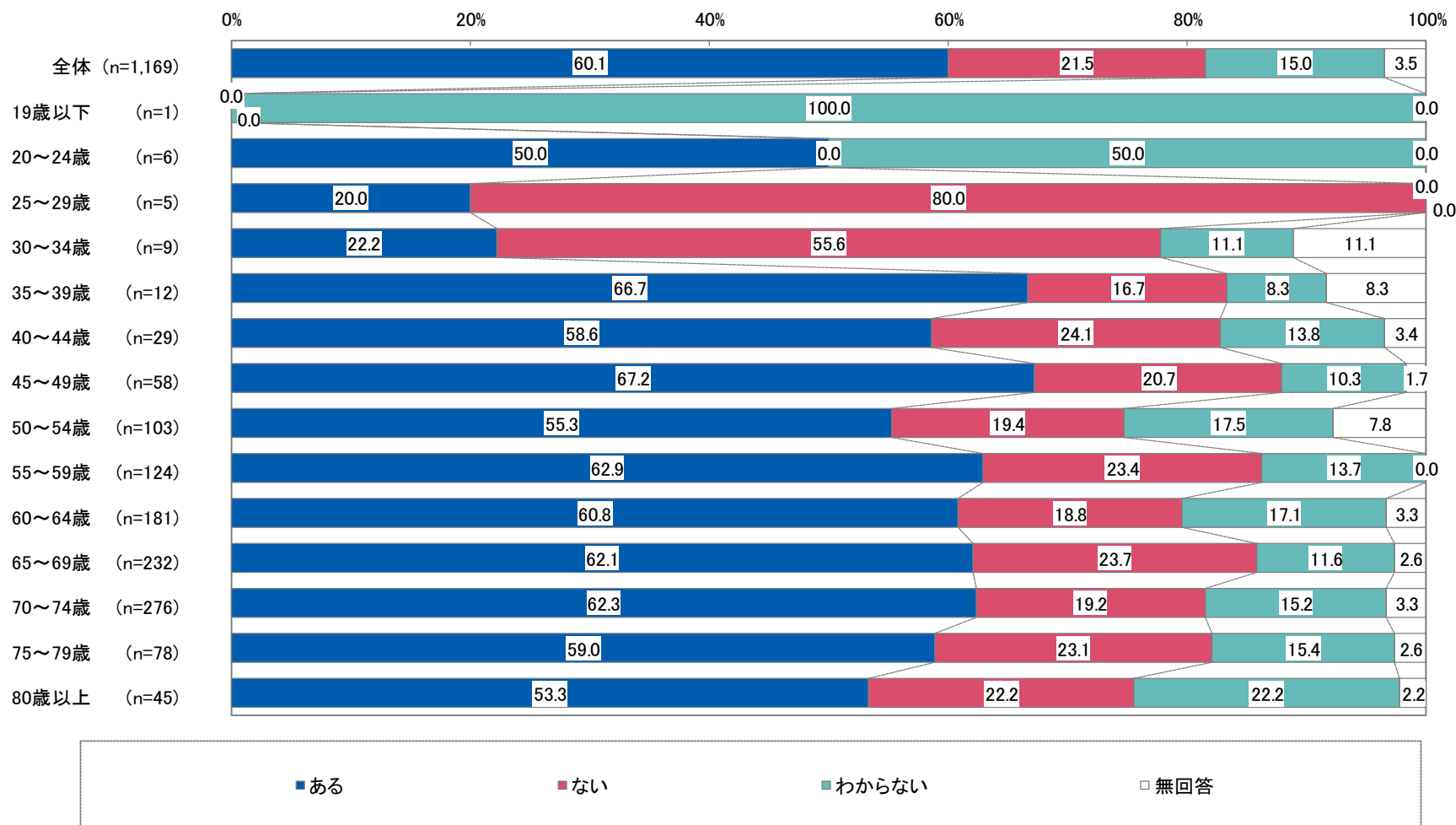
図表82 家族・親族との連絡（年齢階層別）



問 4 3 公的年金の保険料の納付

- 公的年金の保険料の納付については、「35歳以上」の者では「ある」の割合が高く、「25～34歳以下」の者では「ない」の割合が高い。

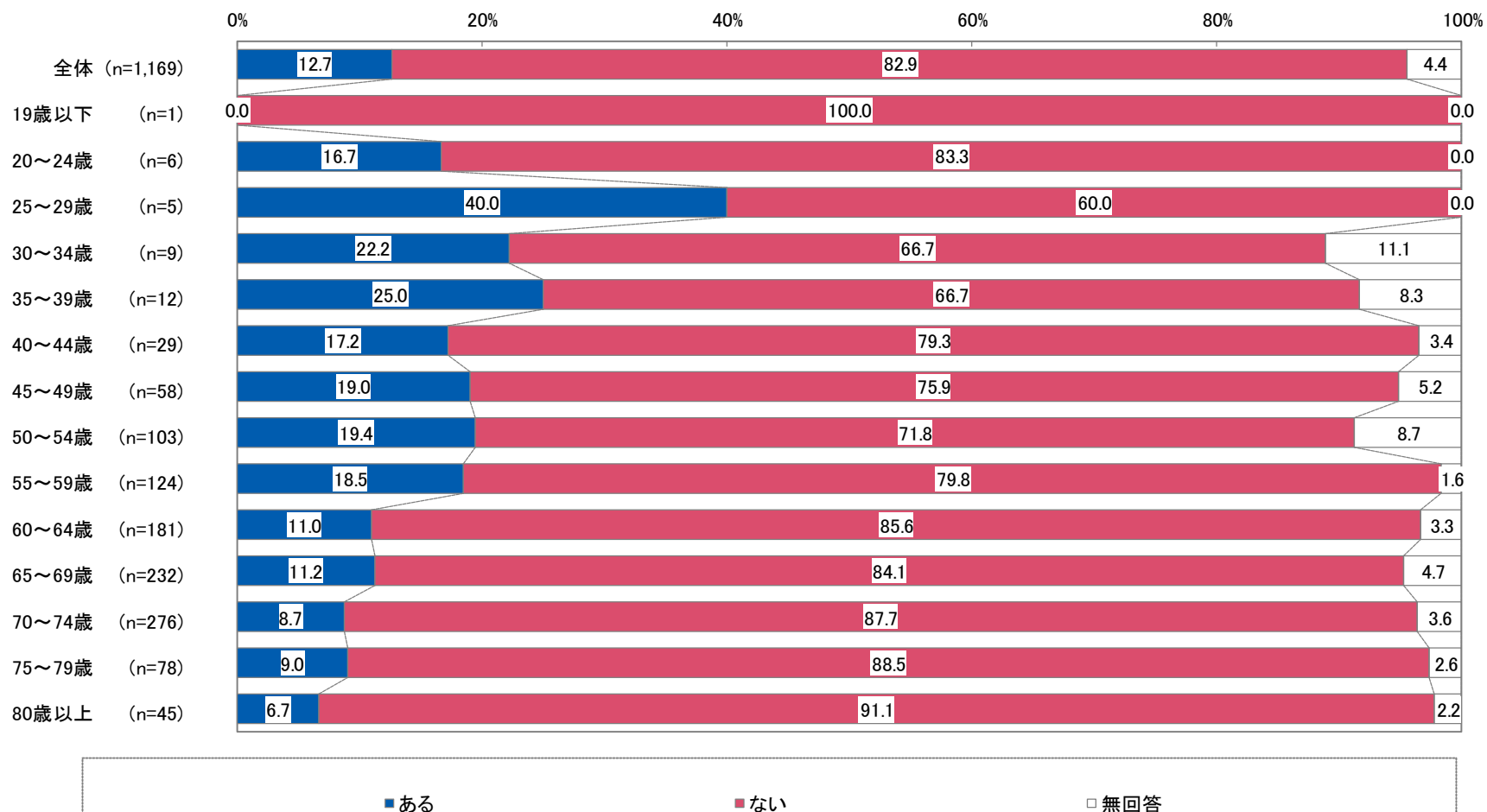
図表83 公的年金の保険料の納付（年齢階層別）



問 4 4 金融機関や消費者金融等への借金

- 金融機関や消費者金融からの借金については、年齢が下がることに伴って、「ある」の割合が高い傾向にある。

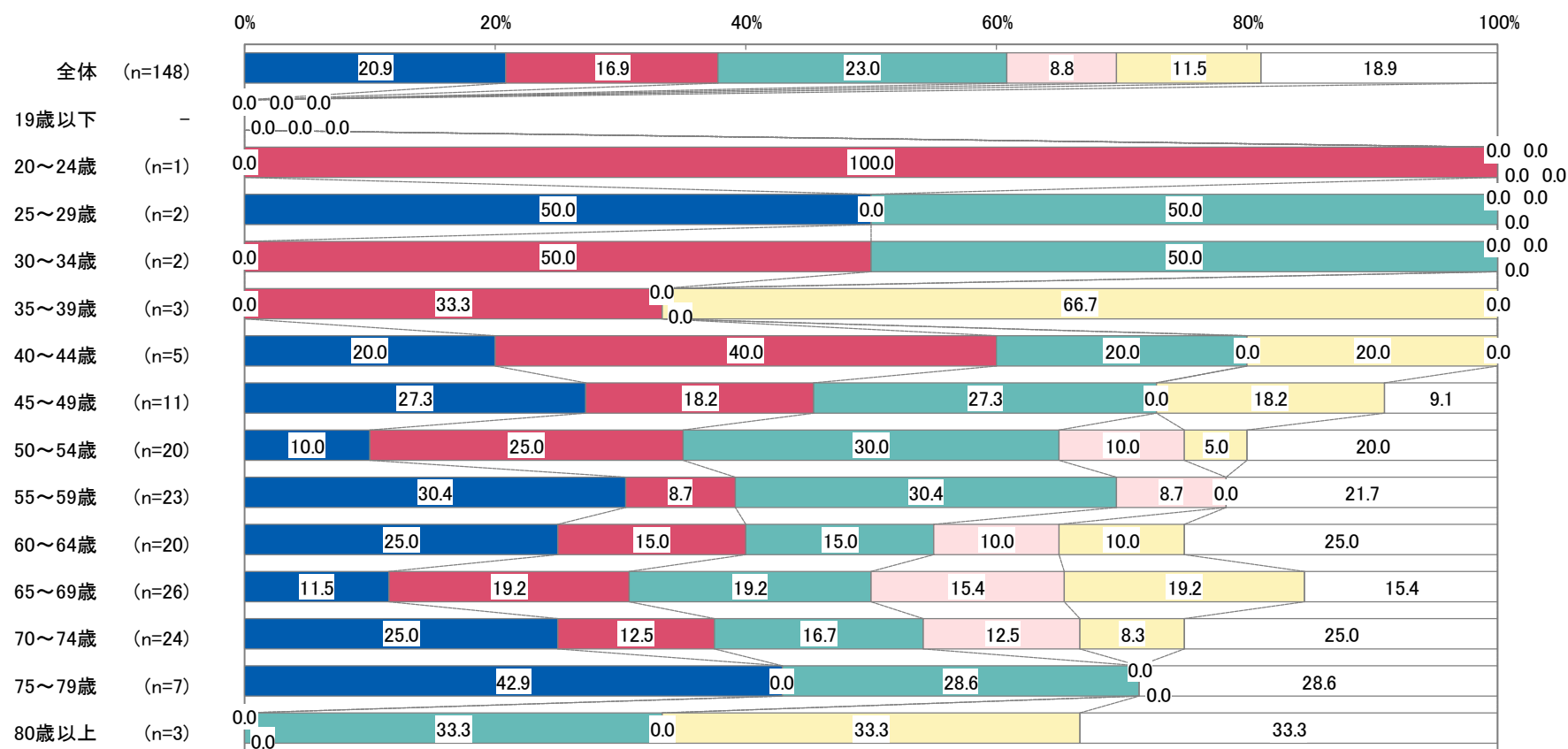
図表84 金融機関や消費者金融等への借金（年齢階層別）



問 4 4 - 1 借金の金額

- 借金の金額については、年齢が上がることに伴って、借金の金額が高くなる傾向にある。

図表85 借金の金額（年齢階層別）

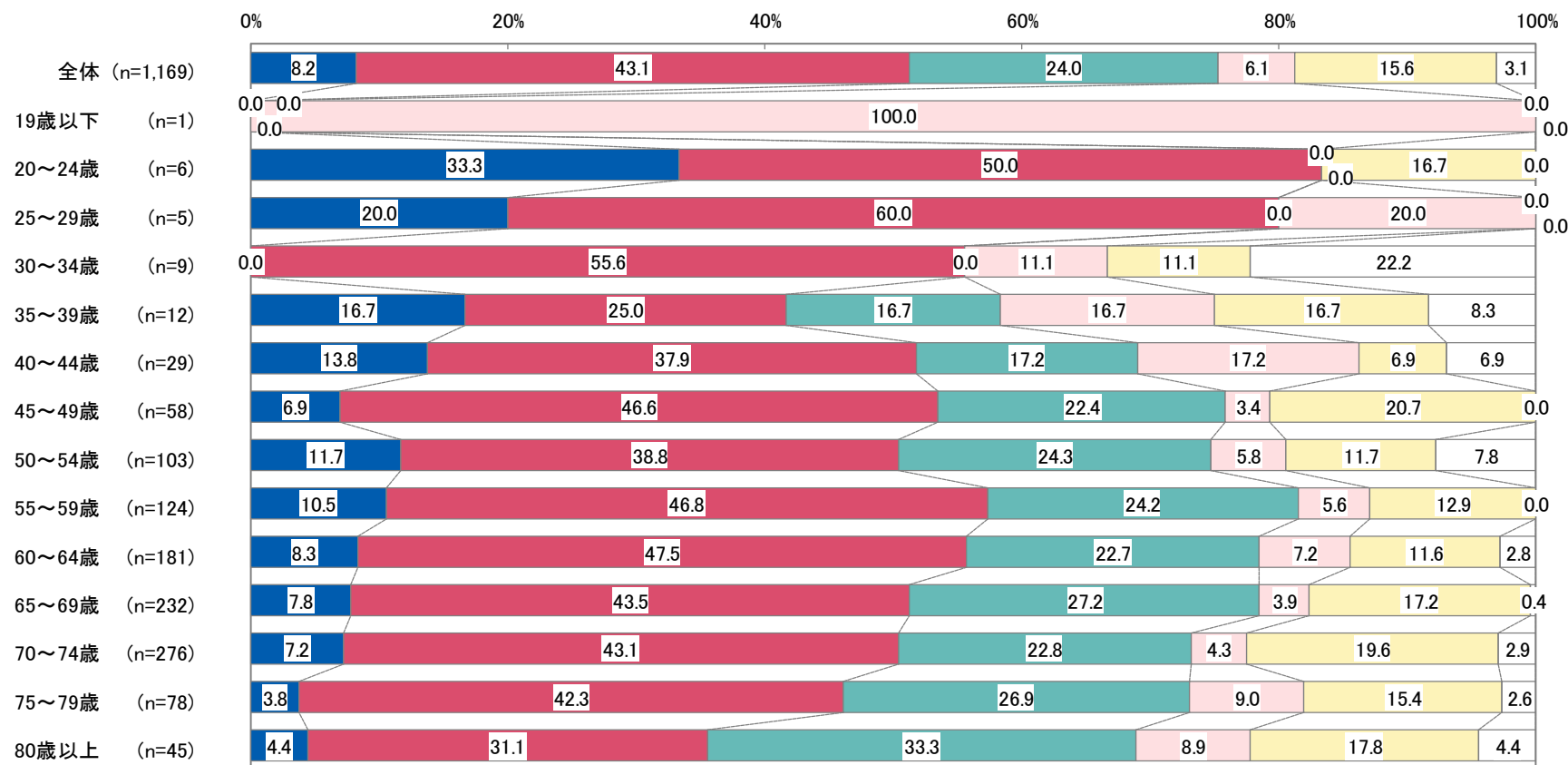


■ 50万円未満 ■ 50万円～100万円未満 ■ 100万円～300万円未満 ■ 300万円～500万円未満 ■ 500万円以上 □ 無回答

問 4 7 現在の気持ち

- 現在の気持ちについて、「35歳～39歳」「80歳以上」は、「希望をもっている」「なんとかなると思っている（少し希望をもっている）」をあわせた割合が低い。（全体：51.3%、35歳～39歳：41.7%、80歳以上：35.5%）

図表86 現在の気持ち（年齢階層別）



■ 希望をもっている ■ なんとかなると思っている(少し希望をもっている) ■ あまり希望をもっていない ■ 悲観している ■ その他 □ 無回答

今回の

路上生活期間別

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

路上生活期間別の傾向について

路上での生活

- 路上での生活期間が長くなるに伴い、年齢も上がる傾向にある。
- 寝場所は、路上生活期間が長くなるほど一定の場所に決まっている割合が高い。
- 具体的な寝場所では、路上生活期間が1年を超えると河川の割合が高くなる。
- 寝場所をつくる方法では、路上生活期間が長くなるほど、テントや小屋を常設の割合が高くなる。
- 仕事では、路上生活期間が3年以上は仕事による収入を得ている割合が高い。
- 周囲とのつながりでは、路上生活期間が短いほど挨拶や世間話をする割合が低い。一方、「3ヶ月～1年未満」はNPO法人や公的機関の集会や相談会への参加割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルターや自立支援センターの周知度・利用度では、大きな差が見られないが、路上生活期間が短いほど、シェルター・自立支援センターの利用意向が高い。

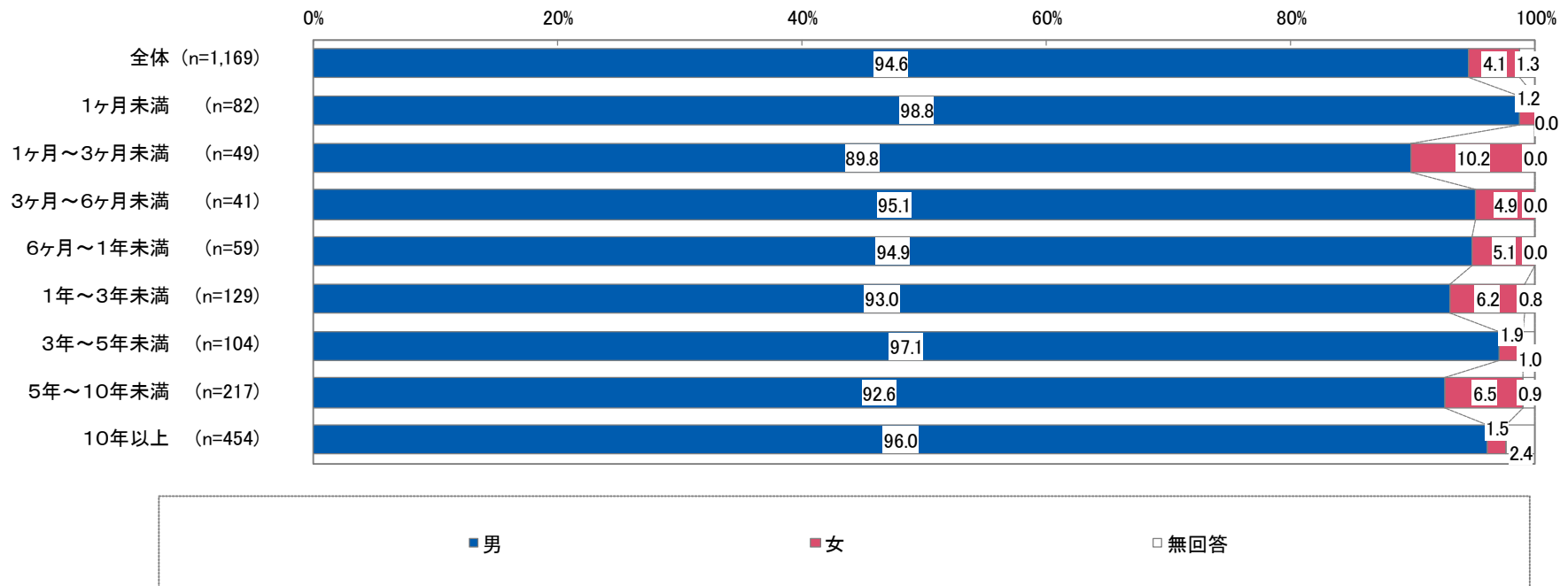
今後の生活

- 今後望んでいる生活は、路上生活期間が短くなればなるほど、アパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高い。
- 路上生活期間が短いほど、求職活動中、求職活動意向、軽作業への参加意向の割合が高い。

性別

- 今回の路上生活期間別については、全体の「女性」が4.1%である一方で、「1ヶ月～3年未満」の者では「女性」10.2%と割合が高い。

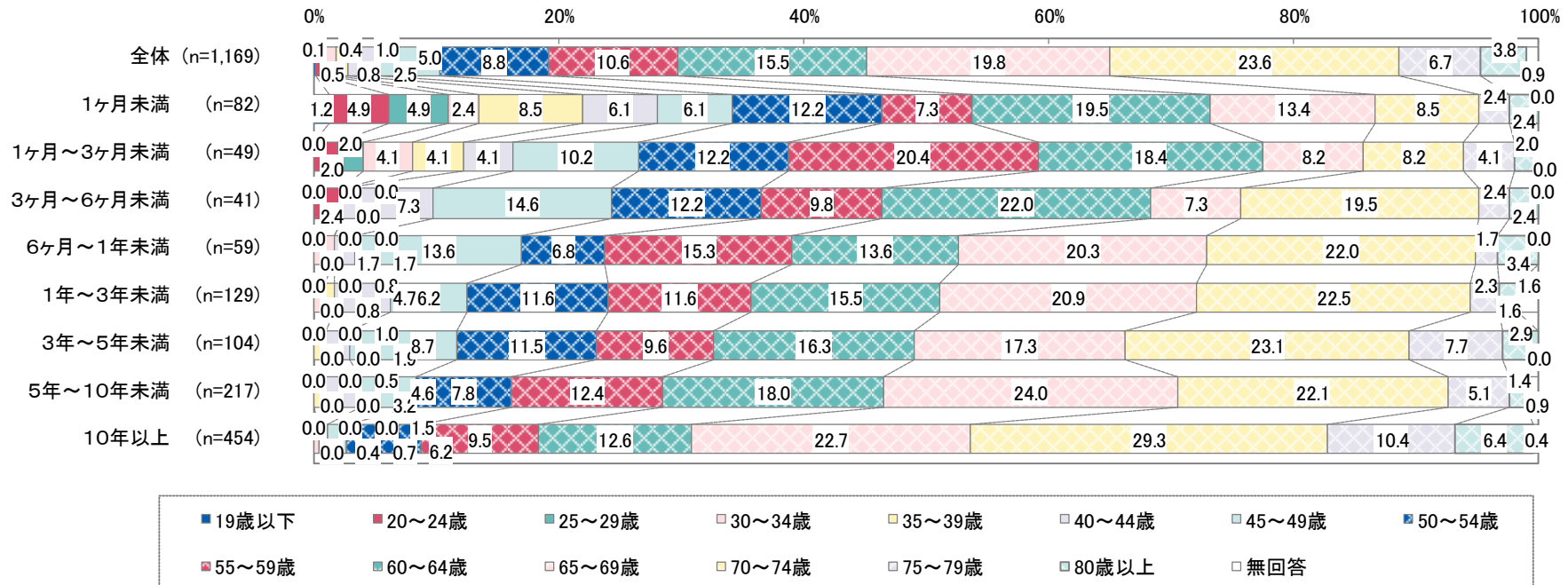
図表87 性別（今回の路上生活期間別）



年齢

- 年齢については、路上生活期間が長くなることに伴って、年齢も上がる傾向にあり、「1ヶ月～3ヶ月未満」の者では「55～59歳以下」の割合が高く（20.4%）、「6ヶ月～1年未満」の者では「65～69歳以下」の割合が高く（20.3%）、「3年～5年未満」の者では「70～74歳以下」の割合が高い（23.1%）。

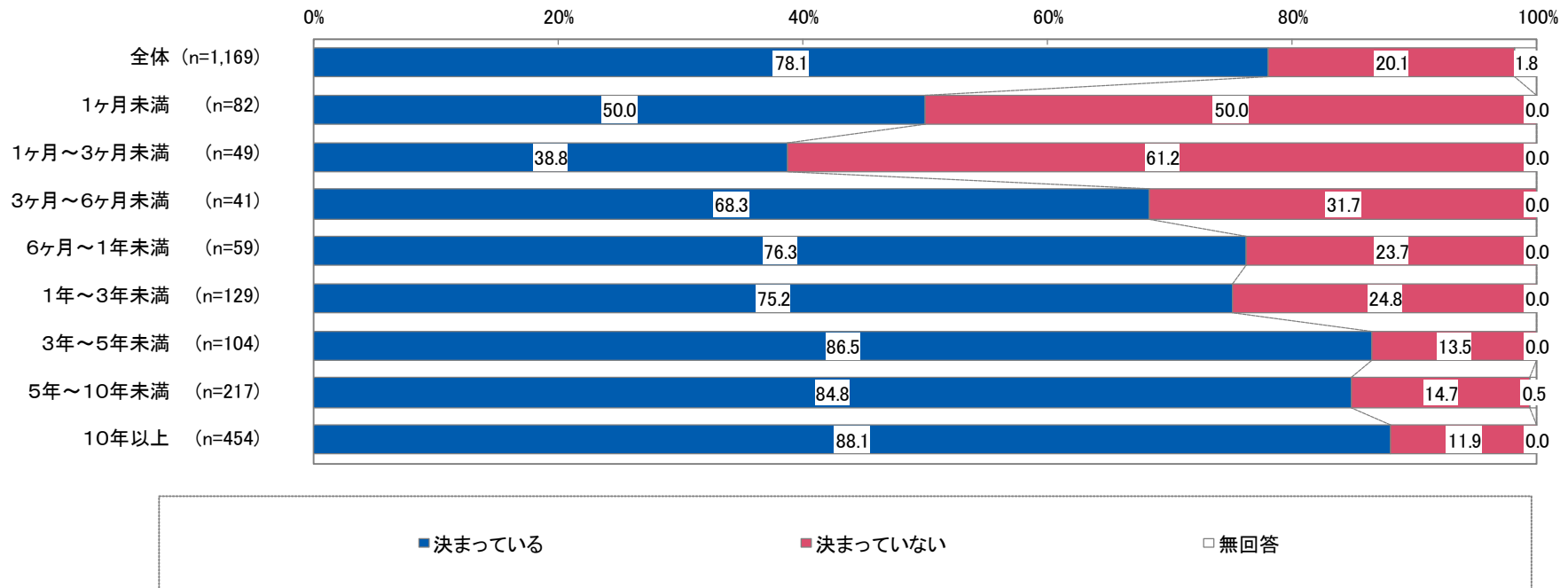
図表88 年齢（今回の路上生活期間別）



問 1 寝ている場所

- 寝ている場所については、「3ヶ月以上」の者では「一定の場所で決まっている」の割合が高くなる傾向にある。

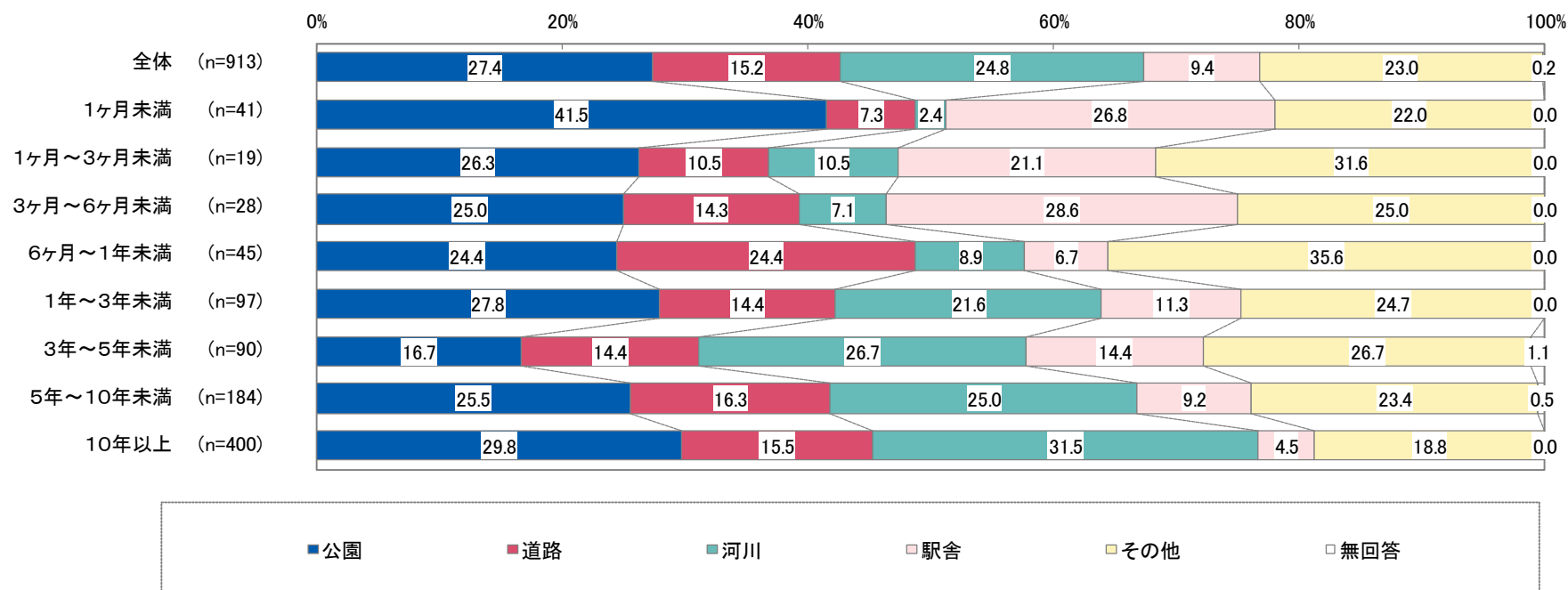
図表89 寝ている場所（今回の路上生活期間別）



問 1 - 1 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所（具体的に）については、「1ヶ月未満」の者では「公園」の割合が高く（41.5%）、「3～6ヶ月未満」の者では「駅舎」の割合が高く（28.6%）、「6ヶ月～1年未満」の者では「道路」の割合が高く（24.4%）、「10年以上」の者では「河川」の割合が高い（31.5%）。

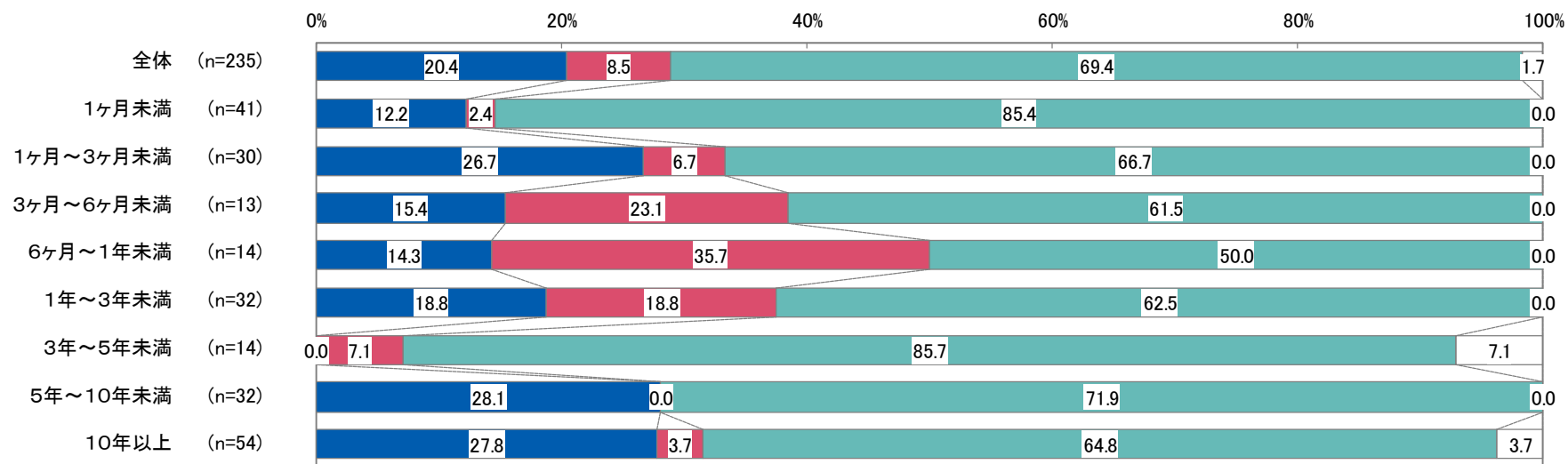
図表90 寝ている場所（具体的に）（今回の路上生活期間別）



問 1 - 2 寝ている場所を変更する理由

- 寝ている場所を変更する理由について、「6カ月～1年未満」では「他のホームレス等との関係の悪化」の割合が高い（35.7%）。

図表91 寝ている場所を変更する理由（今回の路上生活期間別）



■ 敷地・建物の管理者から退去を求められるため

■ 他のホームレス等との関係の悪化

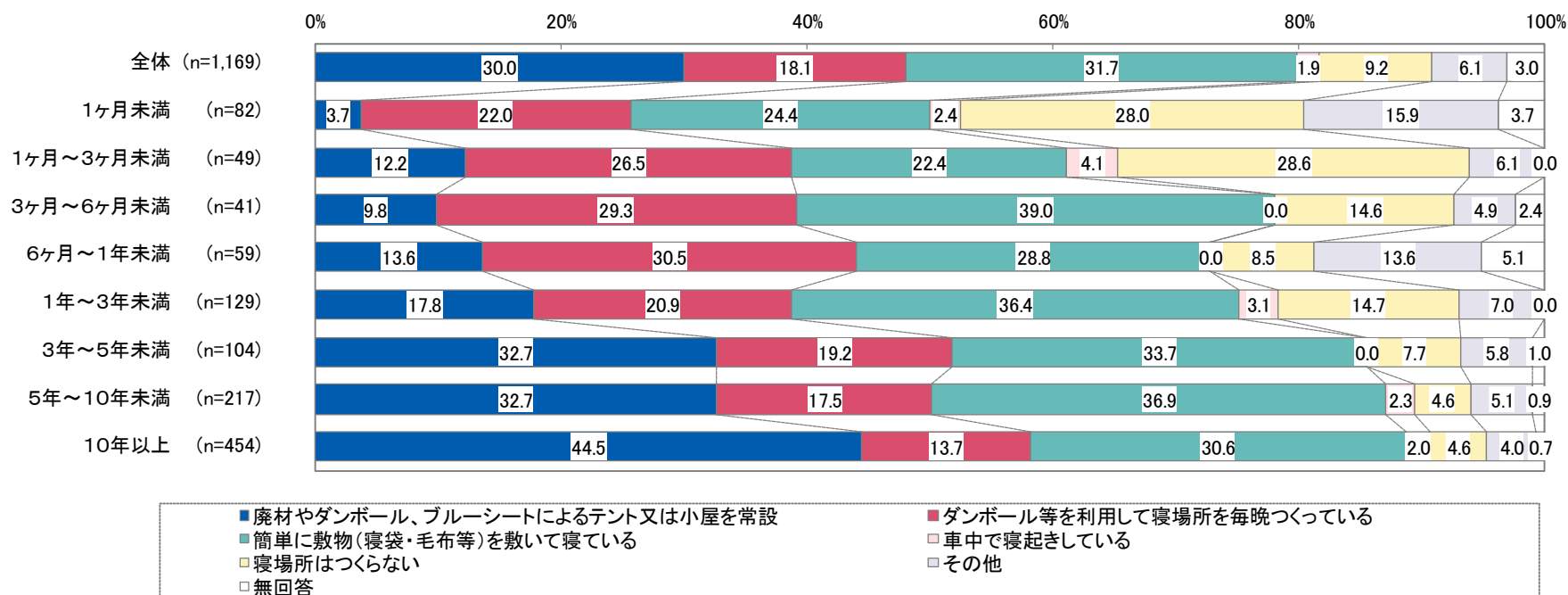
■ その他

□ 無回答

問 2 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、路上生活期間が長くなることに伴って、「テント又は小屋を常設」の割合が高くなり、「寝場所をつくらない」の割合が低くなる傾向にある。「3ヶ月～10年未満」の者では「寝場所をつくらない」の割合が高い。

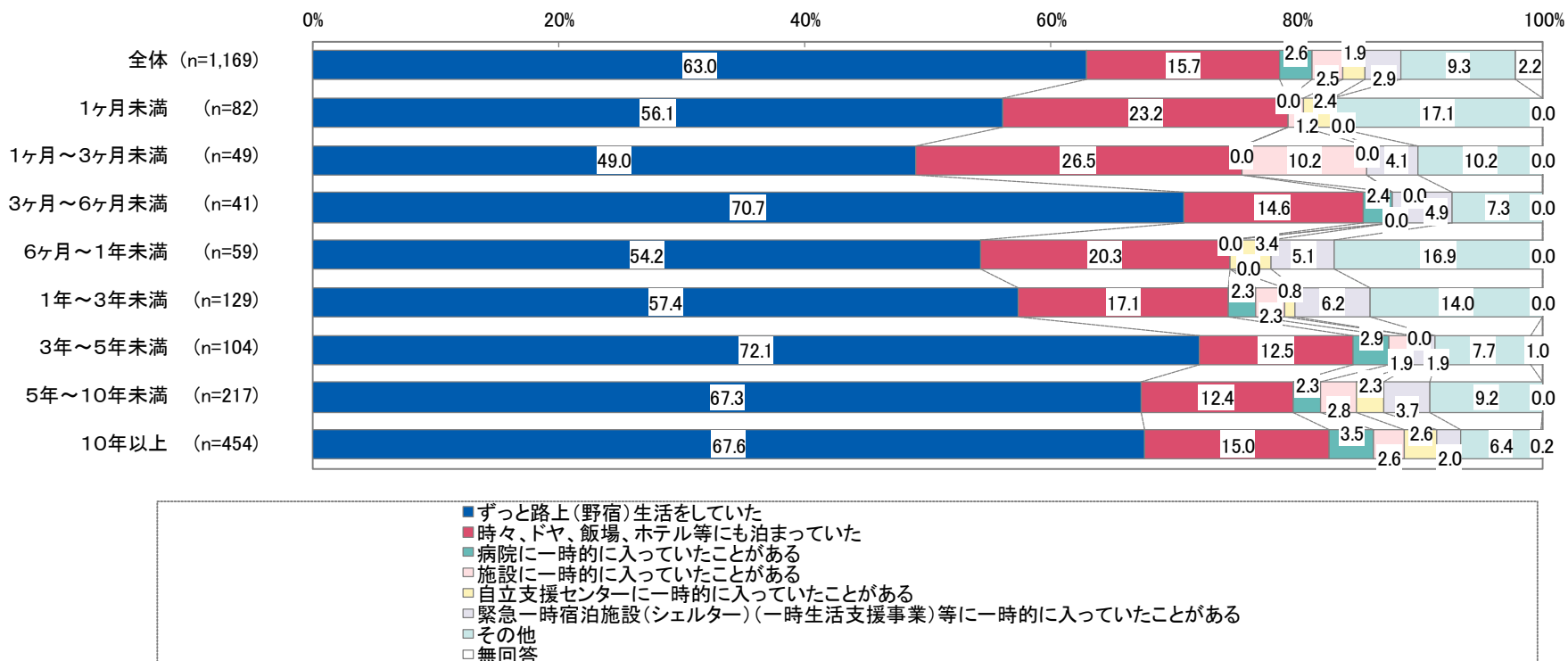
図表92 寝場所を作る方法（今回の路上生活期間別）



問 4 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、路上生活期間にかかわらず「ずっと路上（野宿）生活をしていた」の割合が高いが、一定数は路上生活以外との行き来がある。

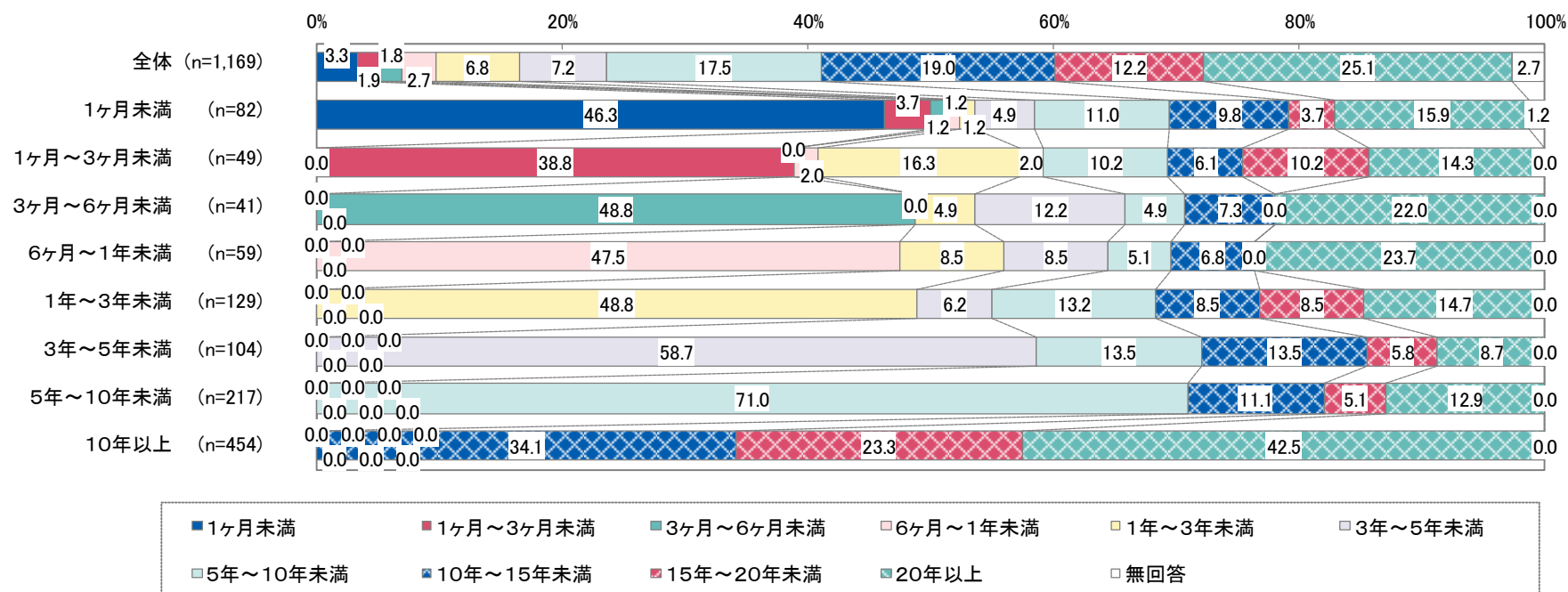
図表93 今回の路上生活の継続について（今回の路上生活期間別）



問 5 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上生活をしてからの期間について、「10年以上」の者では「20年以上」の割合が高い（42.5%）。

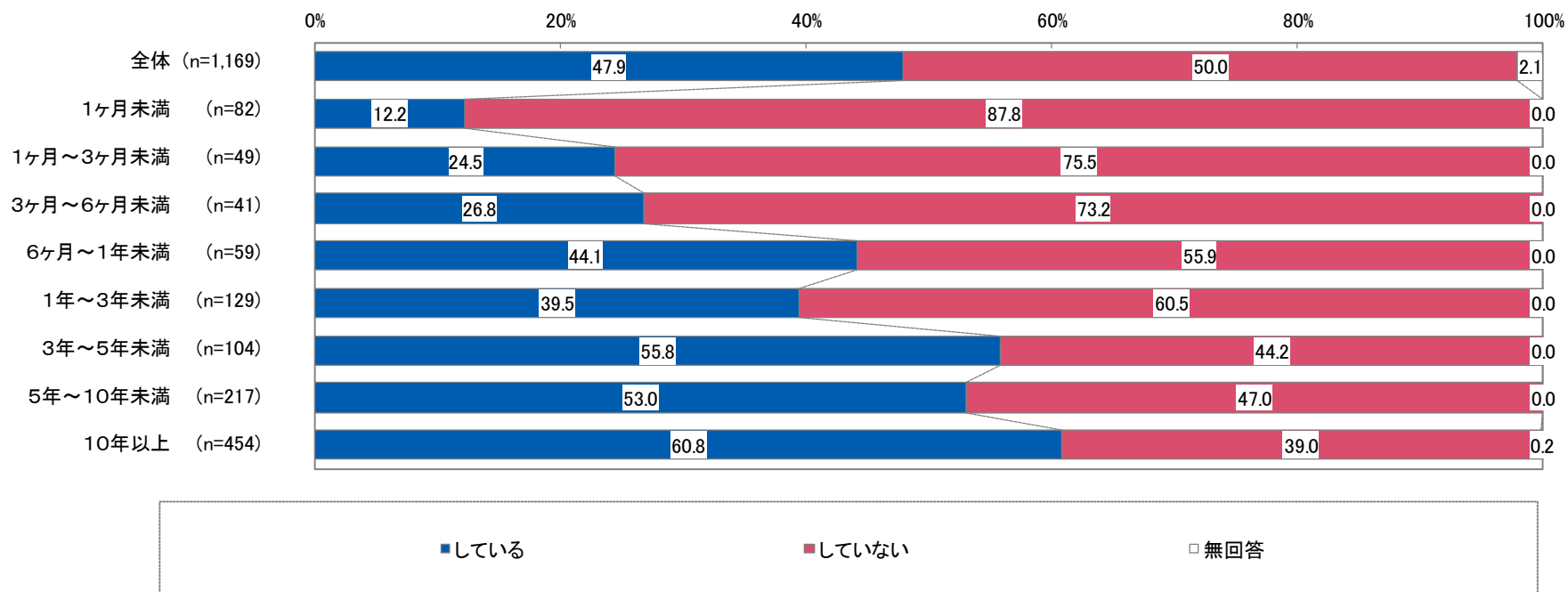
図表94 初めて路上生活をしてからの期間（今回の路上生活期間別）



問 6 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「3年以上」の者では「している」の割合が高い。

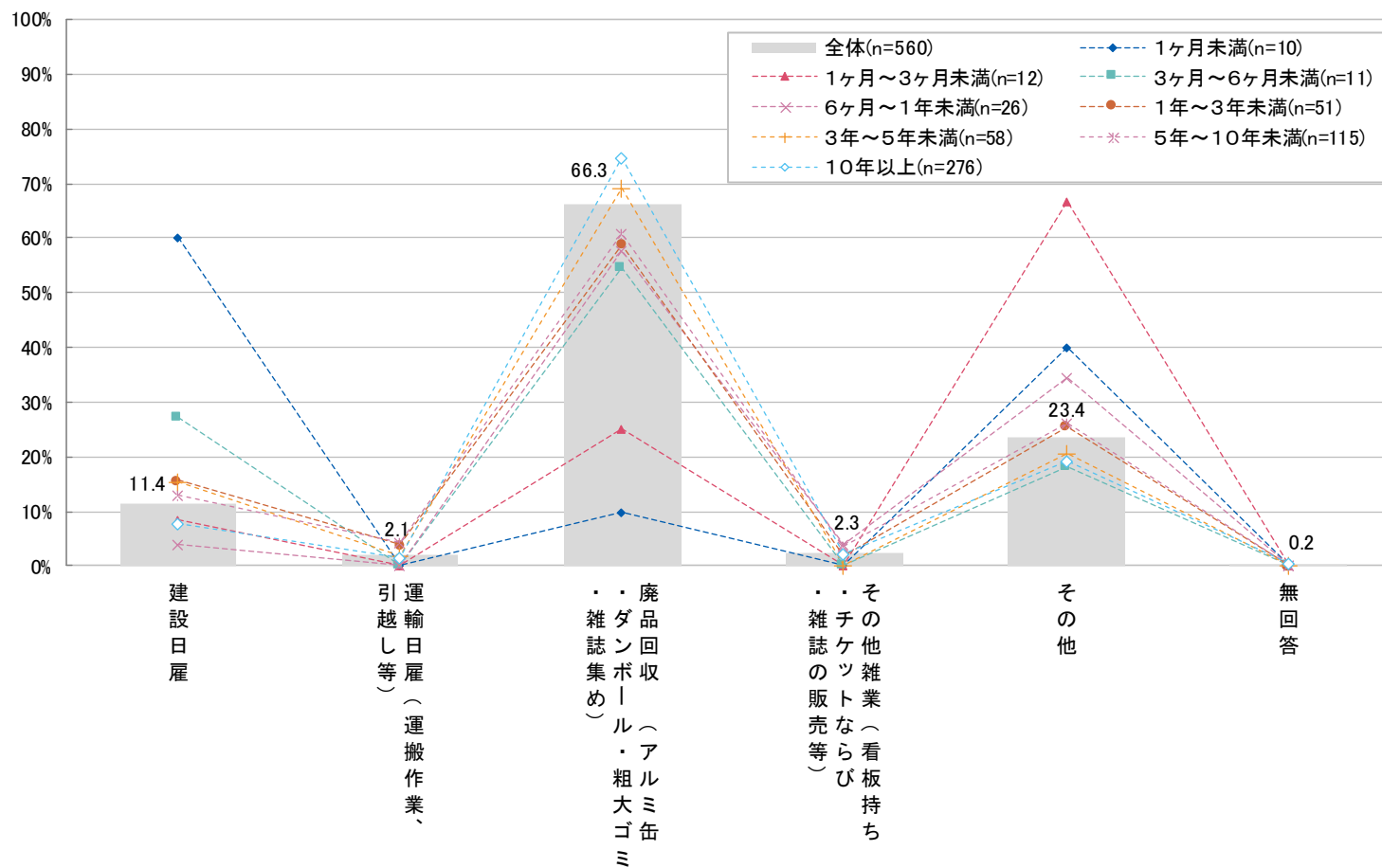
図表95 現在収入のある仕事（今回の路上生活期間別）



問 6 - 1 仕事（具体的に）

- 仕事内容については、「1ヶ月未満」の者では「建設日雇」の割合が高く、「1ヶ月未満」及び「1ヶ月～3ヶ月未満」の者以外では「廃品回収」の割合が高い。

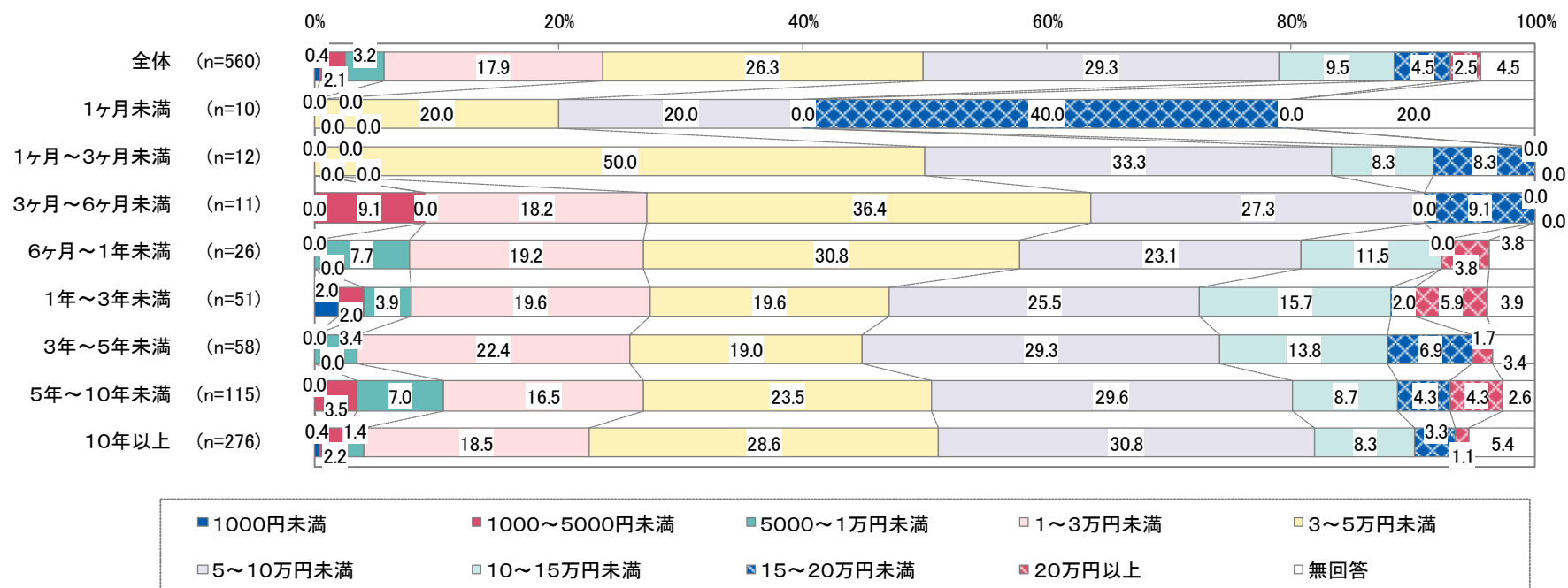
図表96 仕事（具体的に）（今回の路上生活期間別）



問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による平均収入について、「1ヵ月未満」の者では「15～20万円未満」の割合が高い（40.0%）。また、「1ヵ月～3ヵ月未満」の者では「3～5万円未満」の割合が高い（50.0%）。

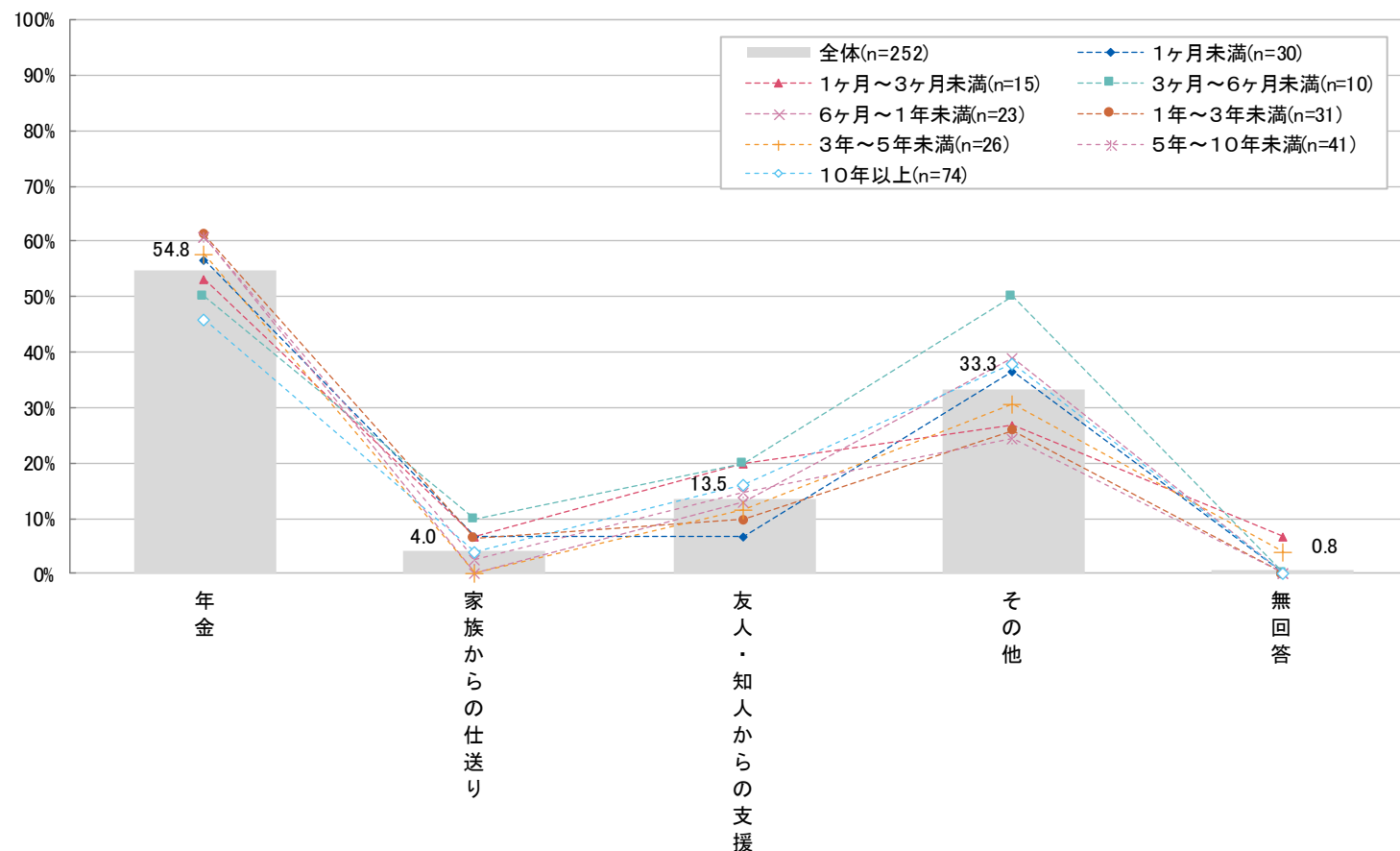
図表97 仕事による平均収入（今回の路上生活期間別）



問 7 - 1 仕事以外の収入の種類

- 仕事以外の収入の種類については、路上生活期間にかかわらず「年金」の割合が高く、「1ヶ月～3ヶ月」「3ヶ月～6ヶ月未満」の者では「友人・知人からの支援」の割合が高い。

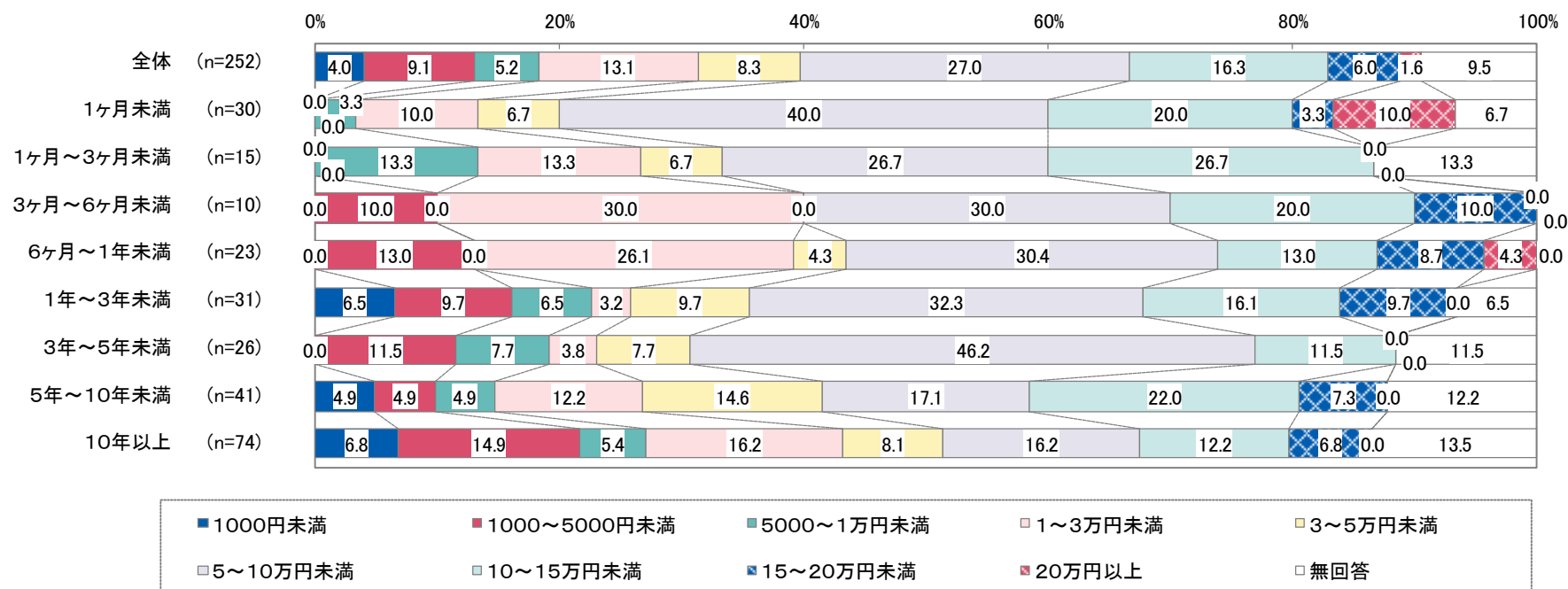
図表98 仕事以外の収入の種類（今回の路上生活期間別）



問 7 - 2 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の平均収入（月額）については、「1ヶ月未満」の者では「5～10万円未満」の割合が高く（40.0%）、「5年～10年未満」の者では、「10～15万円未満」の割合が高い（22.0%）。

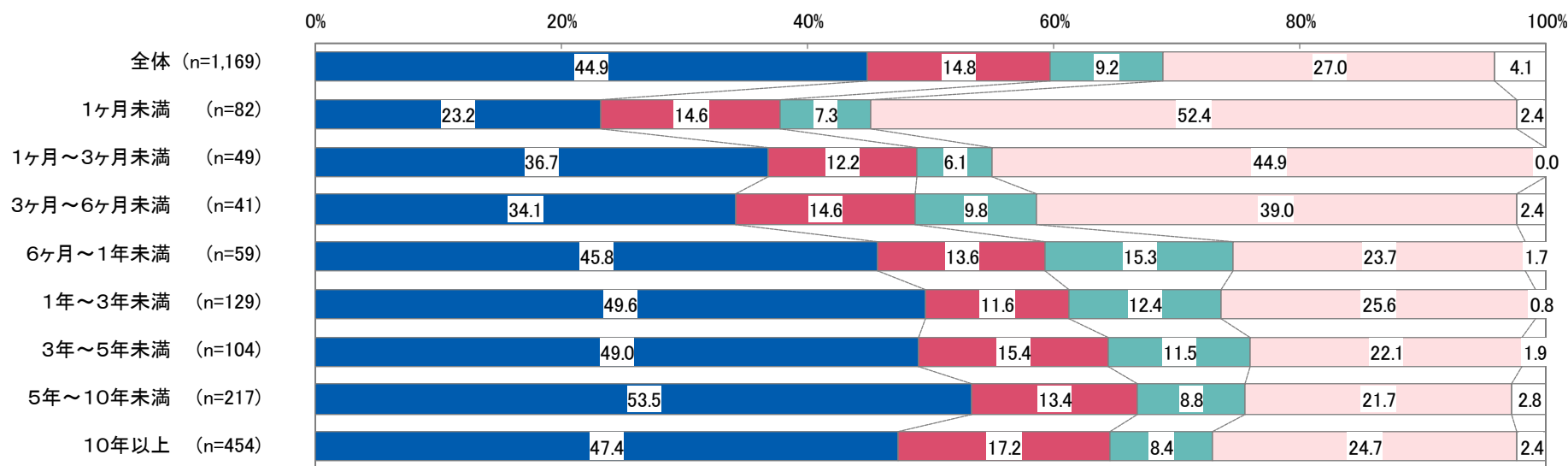
図表99 仕事以外の平均収入（今回の路上生活期間別）



問 9 周囲とのつながり

- 挨拶をする相手がいるかについては、「6ヶ月未満」の者では「あてはまらない」の割合が高く、「6ヶ月」以上の者は「あてはまる」の割合が高い。

図表100-1 周囲とのつながりについて：挨拶をする相手がいる＜現在＞



■ あてはまる

■ ややあてはまる

■ あまりあてはまらない

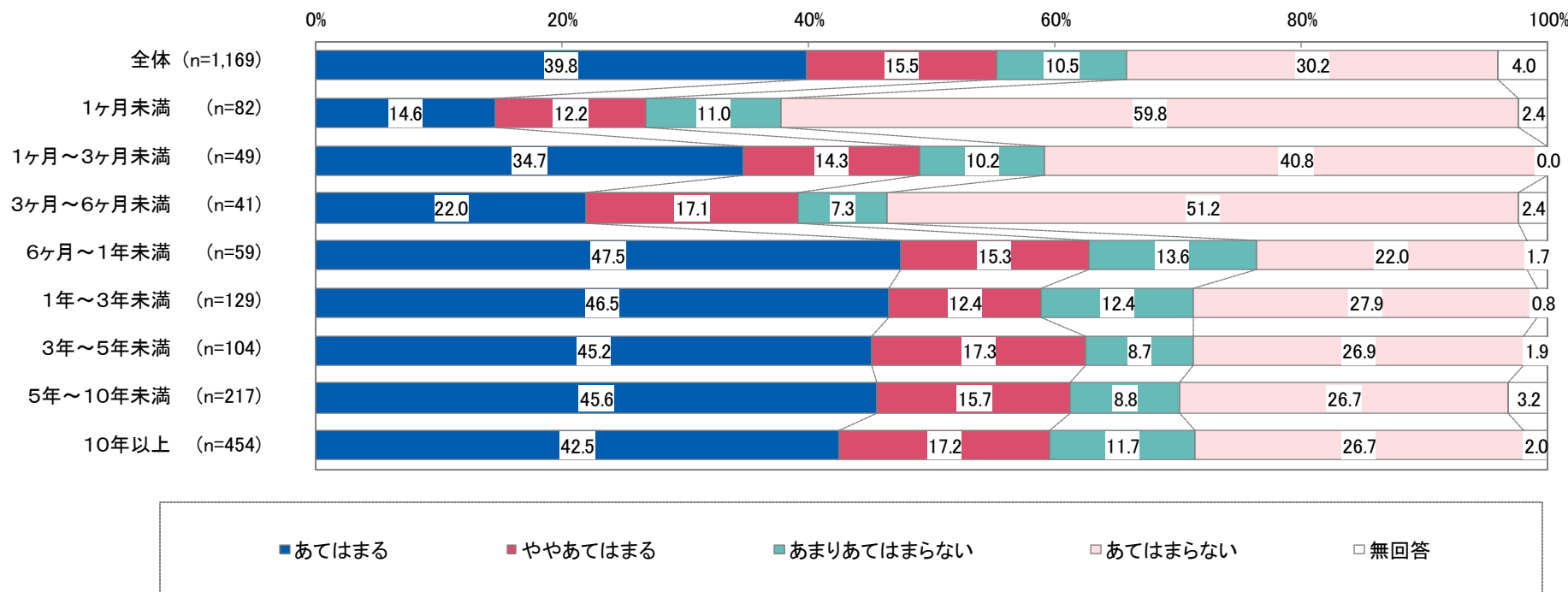
■ あてはまらない

□ 無回答

問 9 周囲とのつながり

- 世間話をする相手がいるかについては、「6ヶ月未満」の者では「あてはまらない」の割合が高く、「6ヶ月」以上の者は「あてはまる」の割合が高い。

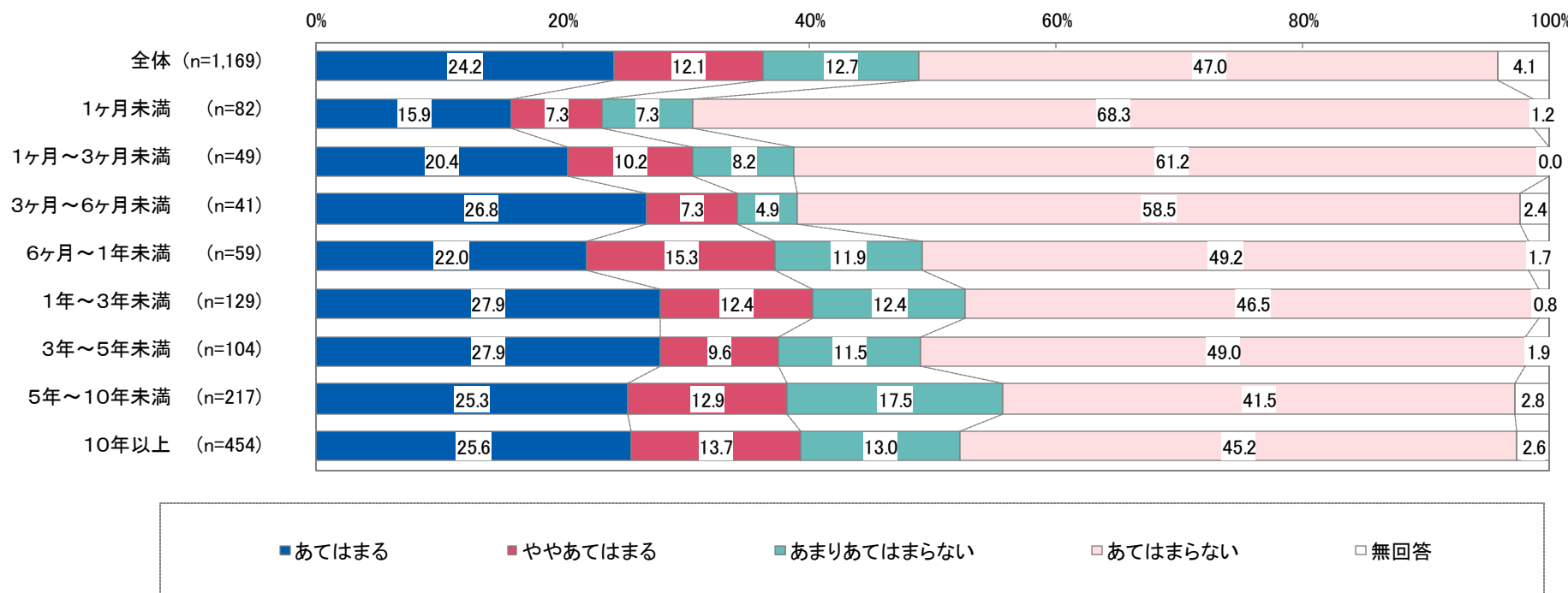
図表100-2 周囲とのつながりについて：世間話をする相手がいる＜現在＞



問 9 周囲とのつながり

- 困った時に相談できる相手がいるかについては、「1ヶ月未満」の者の「あてはまる」の割合が低い。

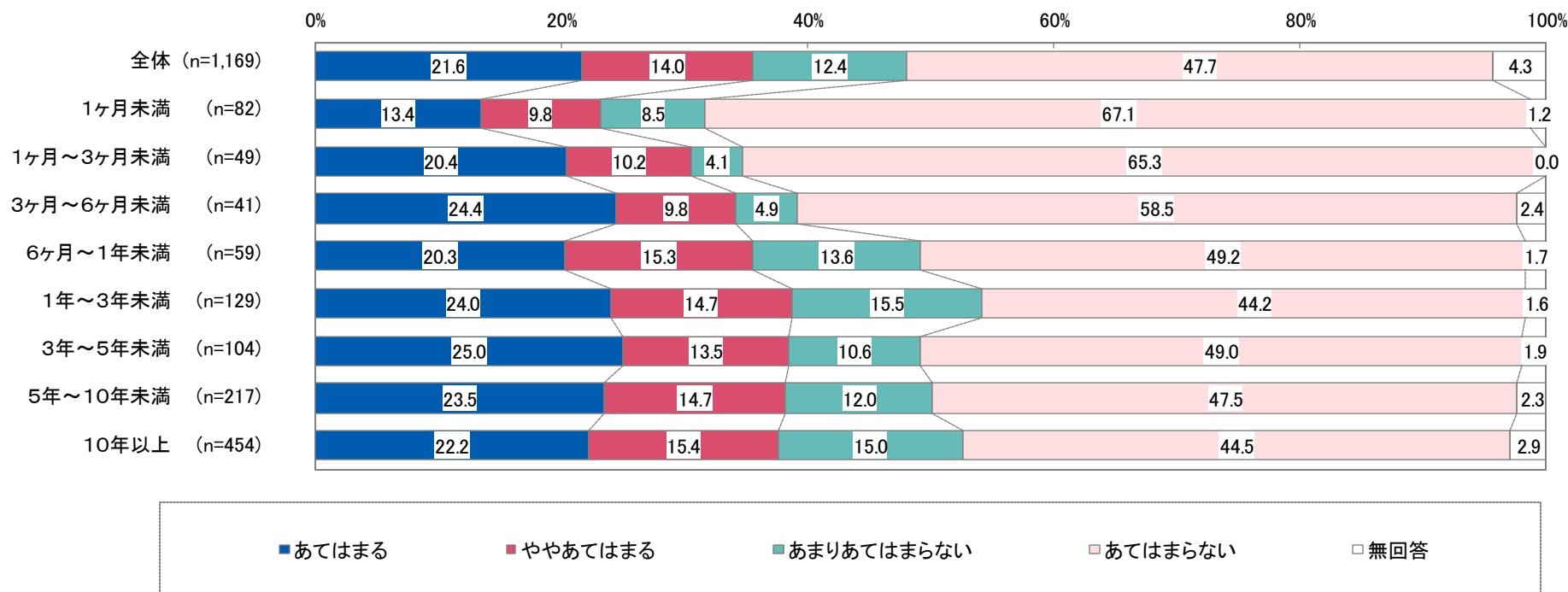
図表100-3 周囲とのつながりについて：困った時に相談できる相手がいる＜現在＞



問 9 周囲とのつながり

- 困った時に助けてくれる相手がいるかについては、「1ヶ月未満」の者の「あてはまる」の割合が低い。

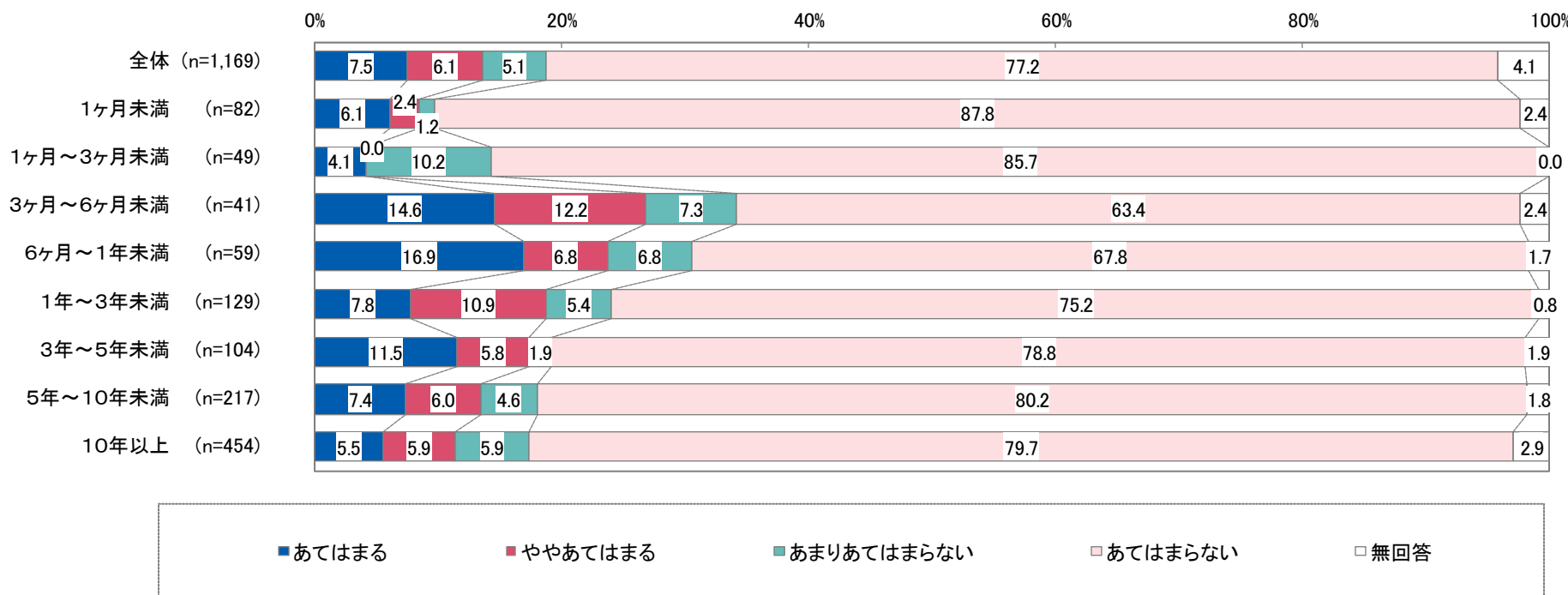
図表100-4 周囲とのつながりについて：困った時に助けてくれる相手がいる＜現在＞



問 9 周囲とのつながり

- NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加しているかについては、「3ヶ月～1年未満」の者の「あてはまる」の割合が高い。

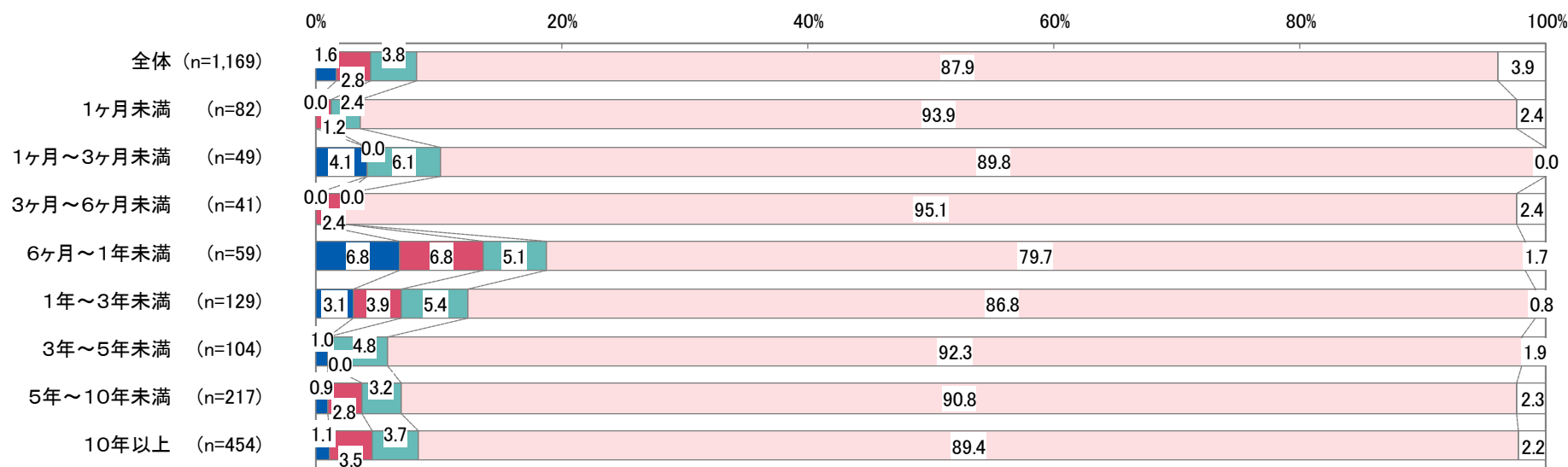
図表100-5 周囲とのつながりについて：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問 9 周囲とのつながり

- NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加しているかについては、「6ヶ月～1年未満」の者の「あてはまる」の割合が高い（6.8%）。

図表100-6 周囲とのつながりについて：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



■あてはまる

■ややあてはまる

■あまりあてはまらない

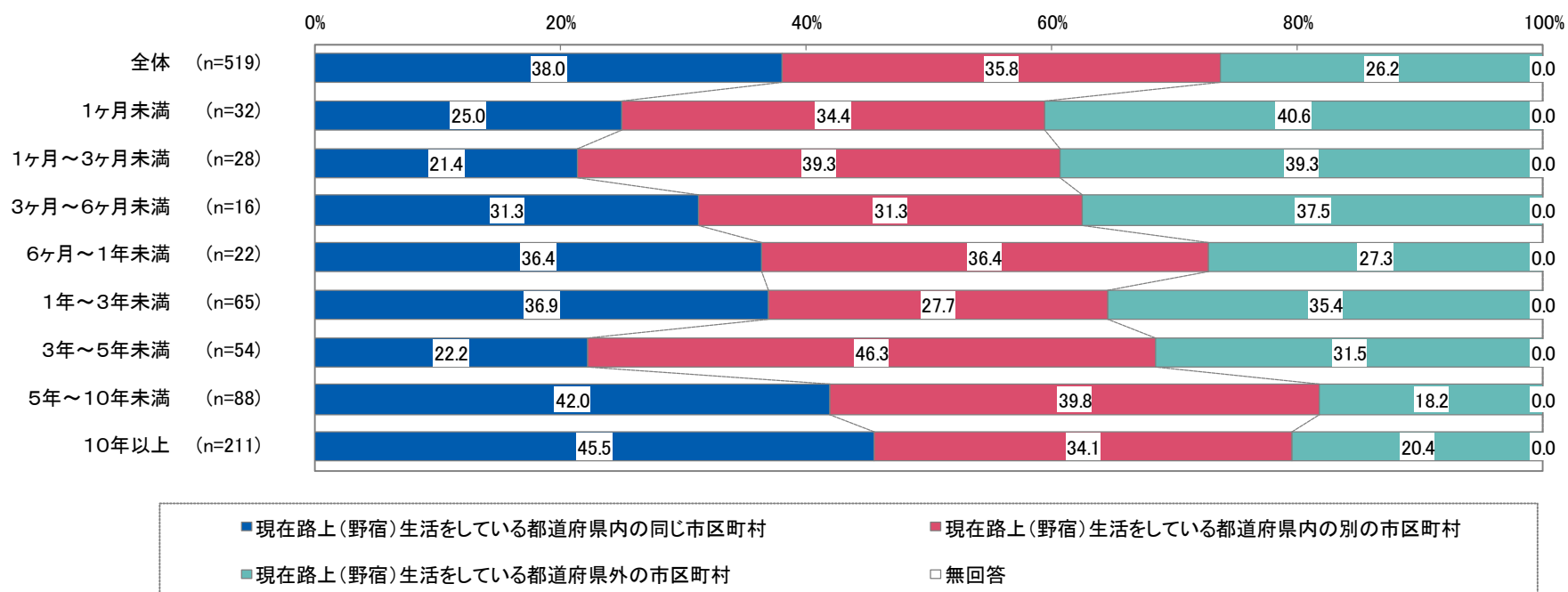
■あてはまらない

□無回答

問 1 8 - 1 別の路上生活場所

- （別の路上（野宿）生活の経験がある人の）別の路上（野宿）生活場所については、「5年以上」の者では「同じ市区町村」の割合が高く、「3年～5年未満」の者では「別の市区町村」の割合が高く、「1ヶ月未満」の者では「都道府県外」の割合が高い。

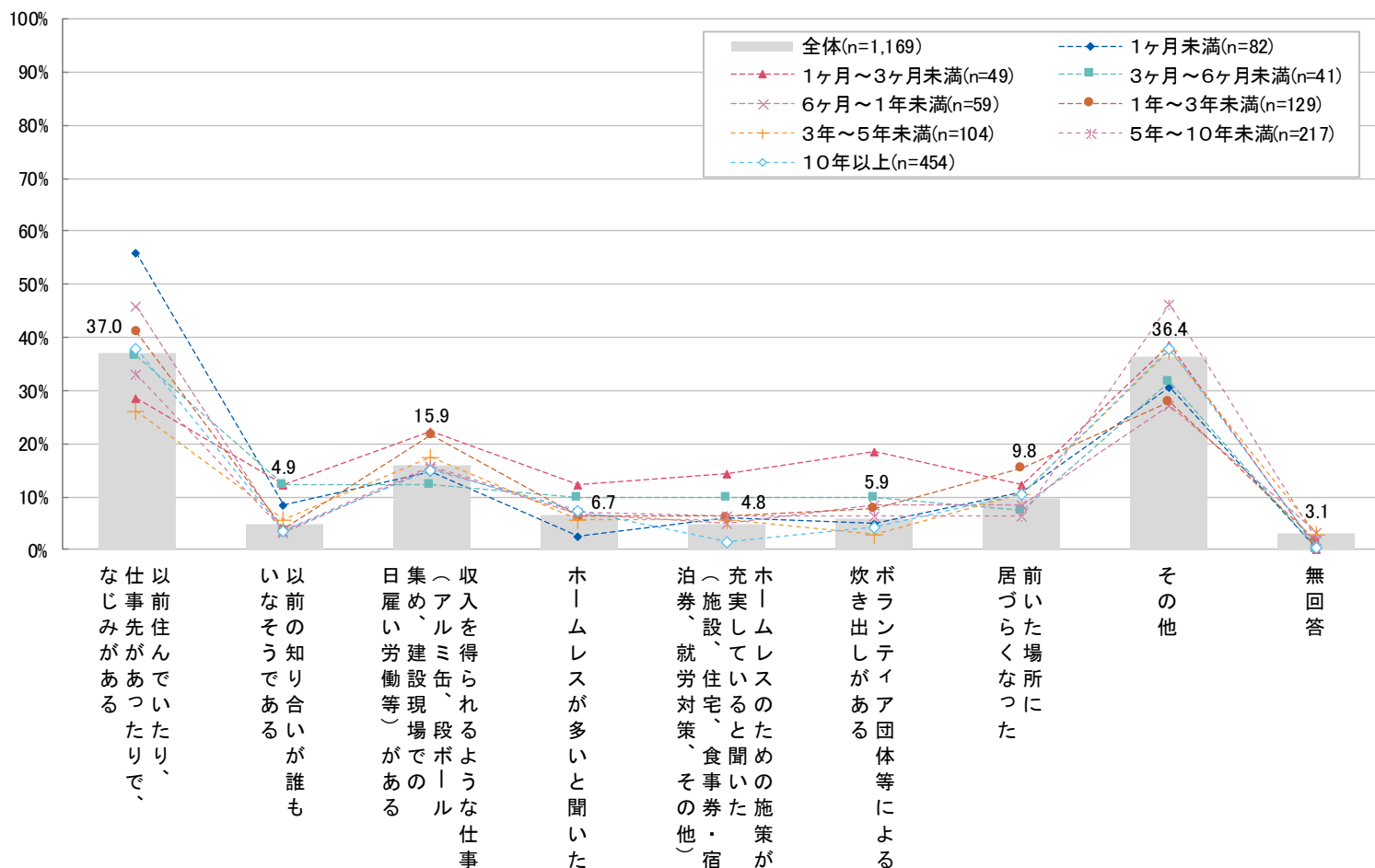
図表101 別の路上生活場所（今回の路上生活期間別）



問 1 9 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村にきた主な理由については、「1ヶ月未満」及び「6ヶ月～1年未満」の者では「なじみがある」の割合が高い傾向にある。

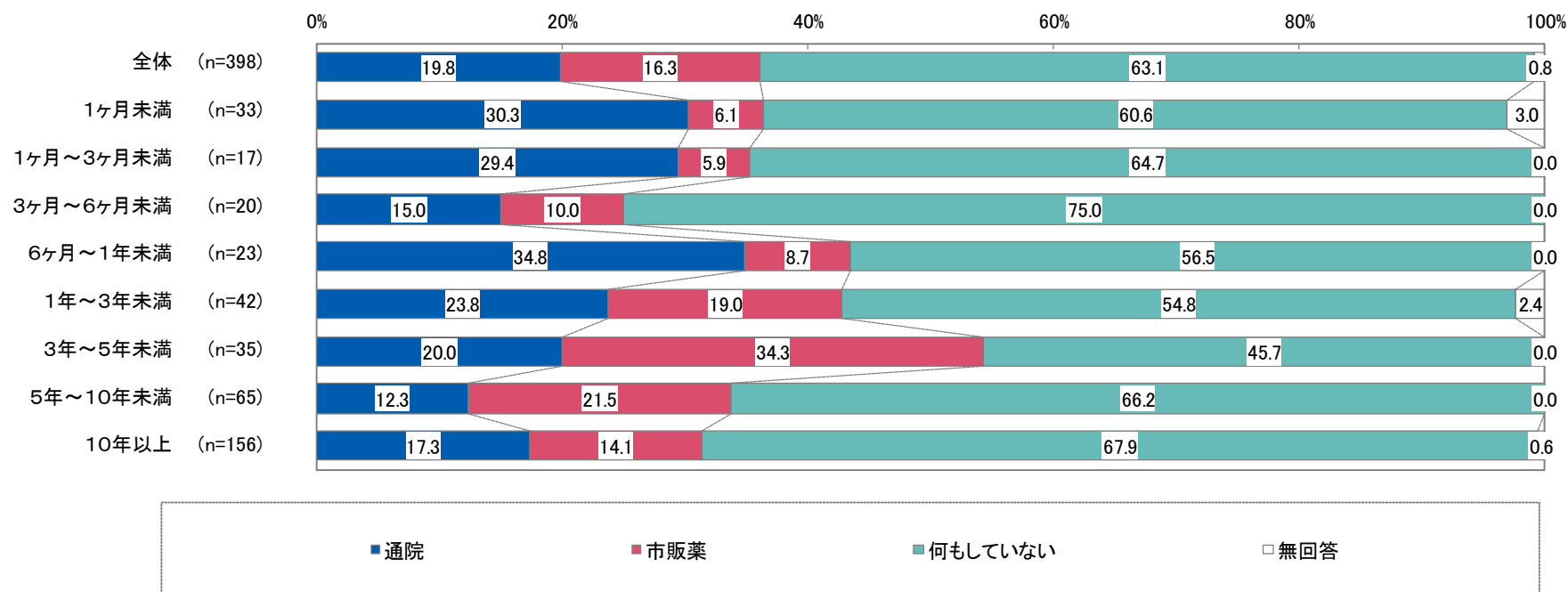
図表102 現在の市区町村にきた主な理由（今回の路上生活期間別）



問 2 1 - 1 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法

- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法について、「3年～5年未満」の者では「市販薬」の割合が高い（34.3%）。

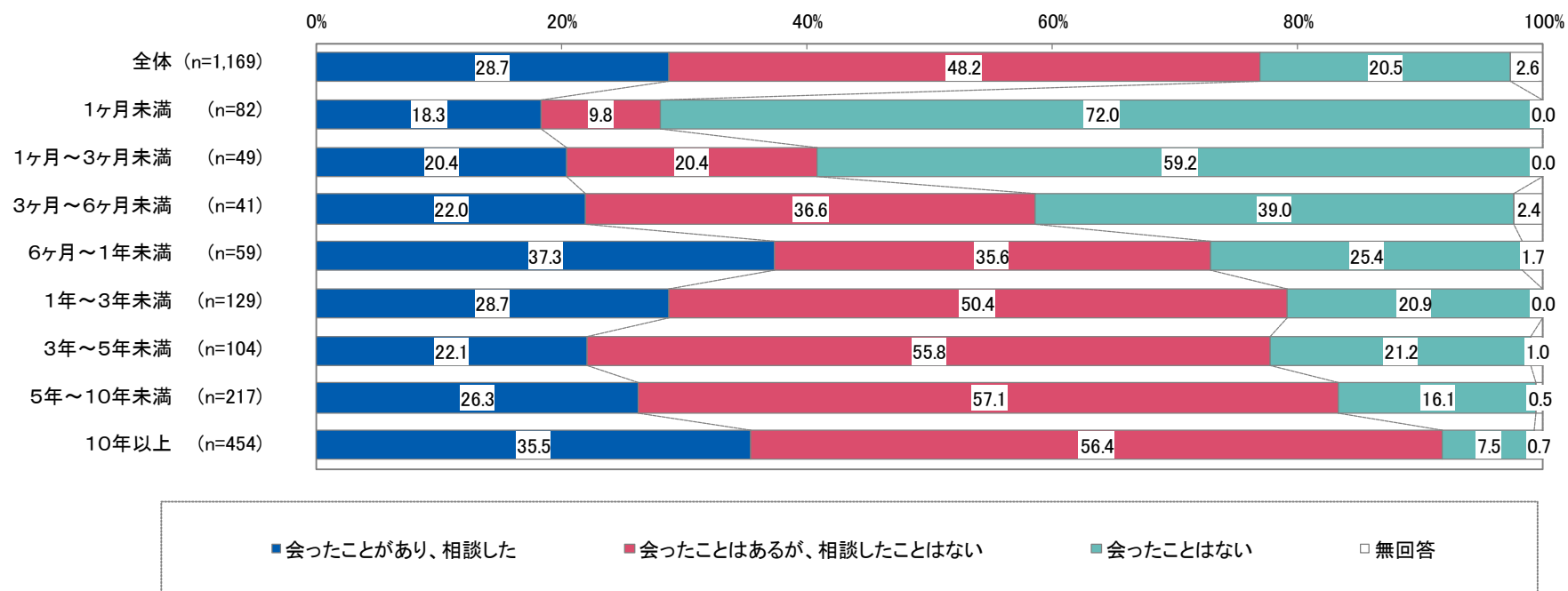
図表103 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法（今回の路上生活期間別）



問 2 7 巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「3ヶ月以上」の者では「（相談の有無によらず）会ったことがある」の割合が高い。

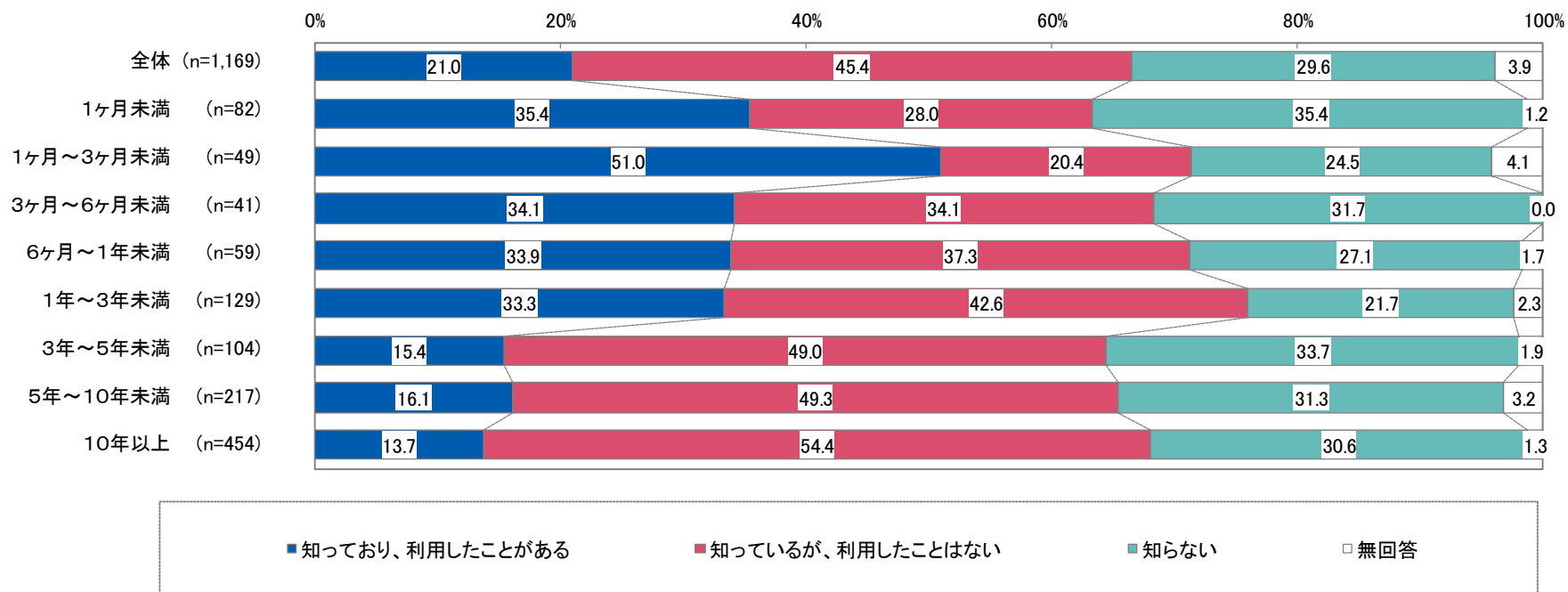
図表104 巡回相談員に会ったこと（今回の路上生活期間別）



問 28 シェルター内容の認知度・利用度

- ・ シェルターの内容の認知度・利用度については、今回の路上生活期間が短いほど、「知っており、利用したことがある」の割合が高い傾向にある。
- ・ 「1ヶ月～3ヶ月未満」の者では「利用したことがある」の割合が高い（51.0%）。

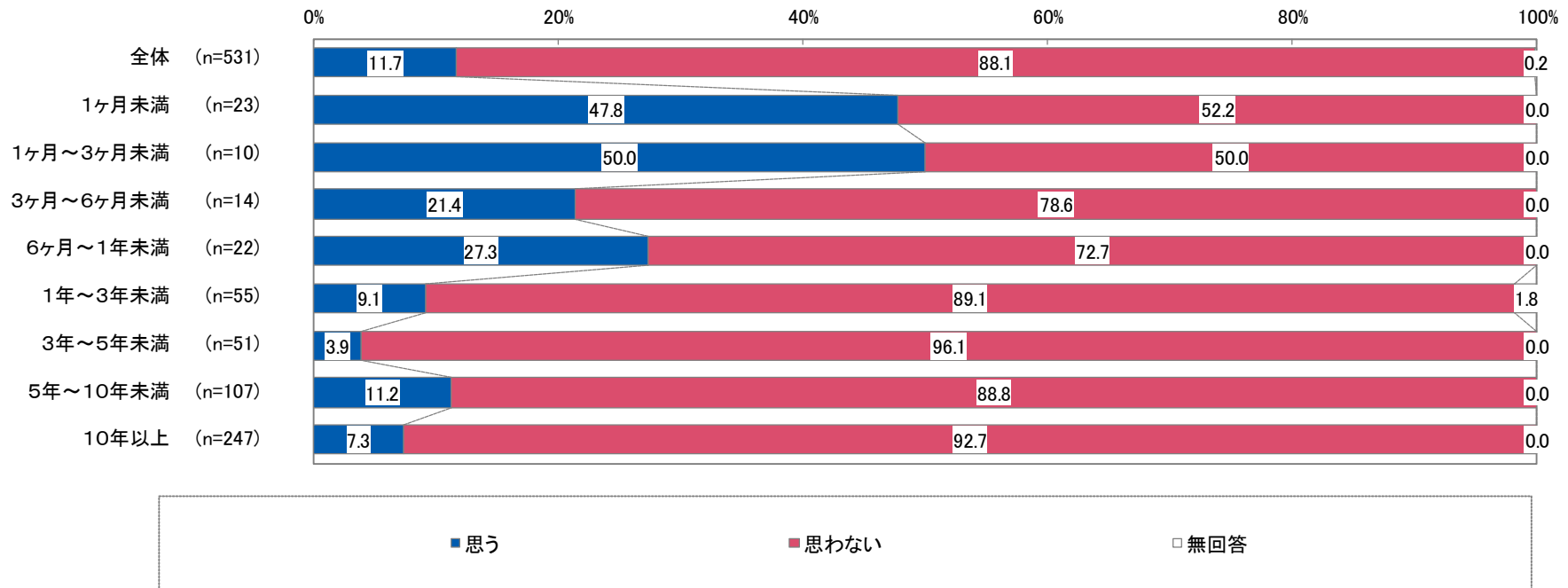
図表105 シェルター内容の認知度・利用度（今回の路上生活期間別）



問 2 8 - 1 シェルターの利用意向

- シェルターの利用意向については、今回の路上生活期間が短いほど、「思う」の割合が高い傾向にある。
- 「3ヶ月未満」の者では「思う」の割合が高い（50.0%）。

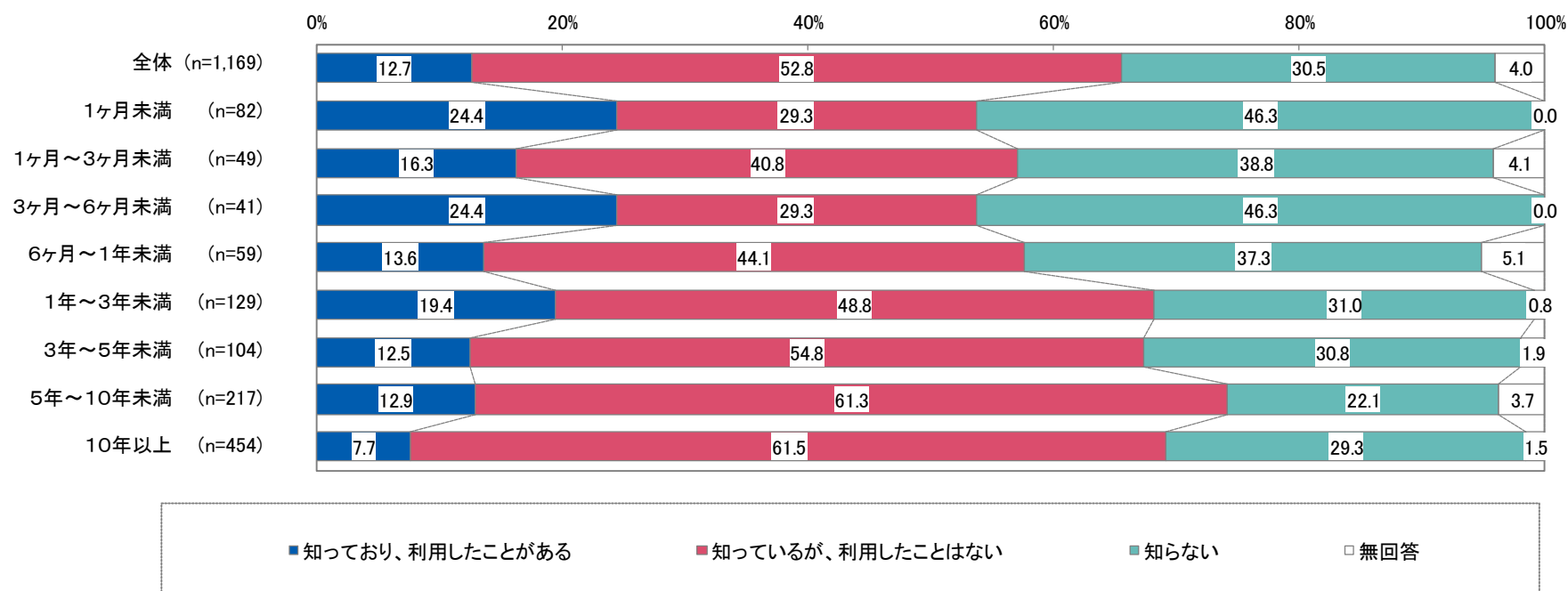
図表106 シェルターの利用意向（今回の路上生活期間別）



問 2 9 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、今回の路上生活期間が短いほど、「知っており、利用したことがある」の割合が高い傾向にある。
- 「1ヶ月未満」及び「3ヶ月～6ヶ月未満」の者では「利用したことがある」の割合が高い（それぞれともに24.4%）。

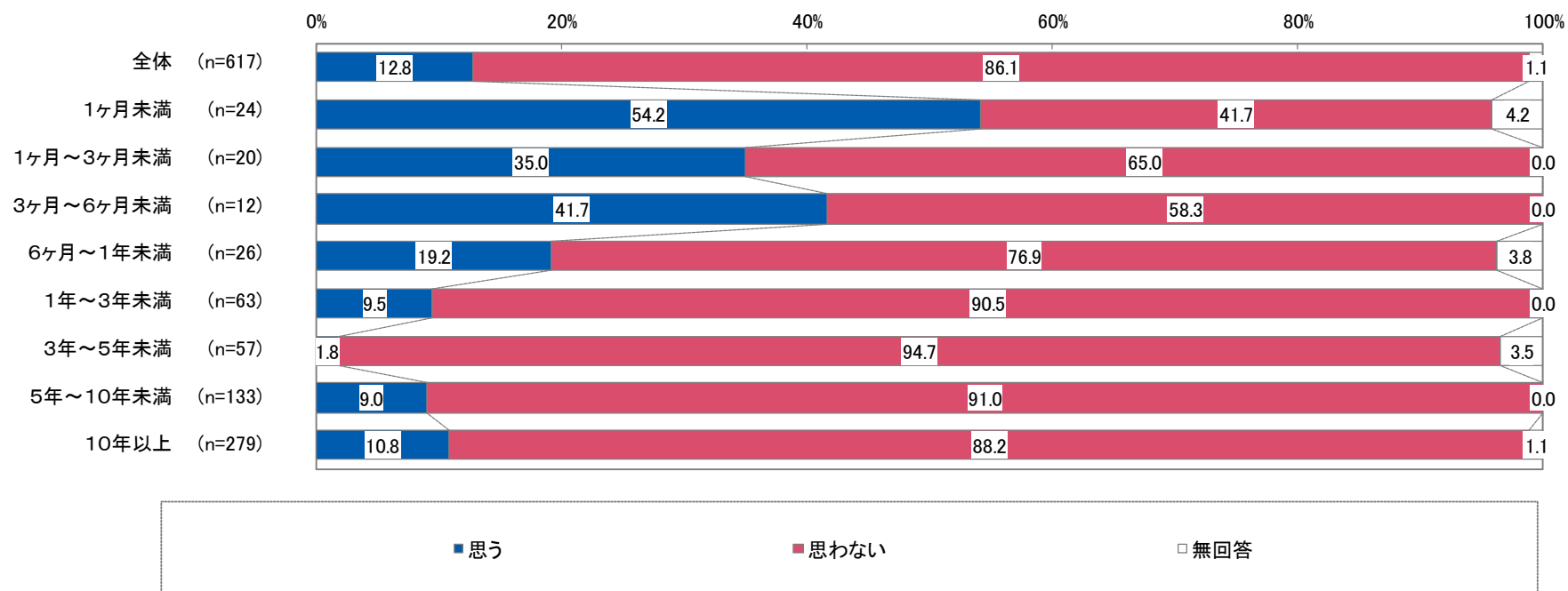
図表 107 自立支援センターの内容の認知度・利用度（今回の路上生活期間別）



問 2 9 - 4 自立支援センターの利用意向

- 自立支援センターの利用意向については、「6ヶ月未満」の者では「思う」の割合が高く、「6ヶ月以上」の者では「思う」の割合が低い。

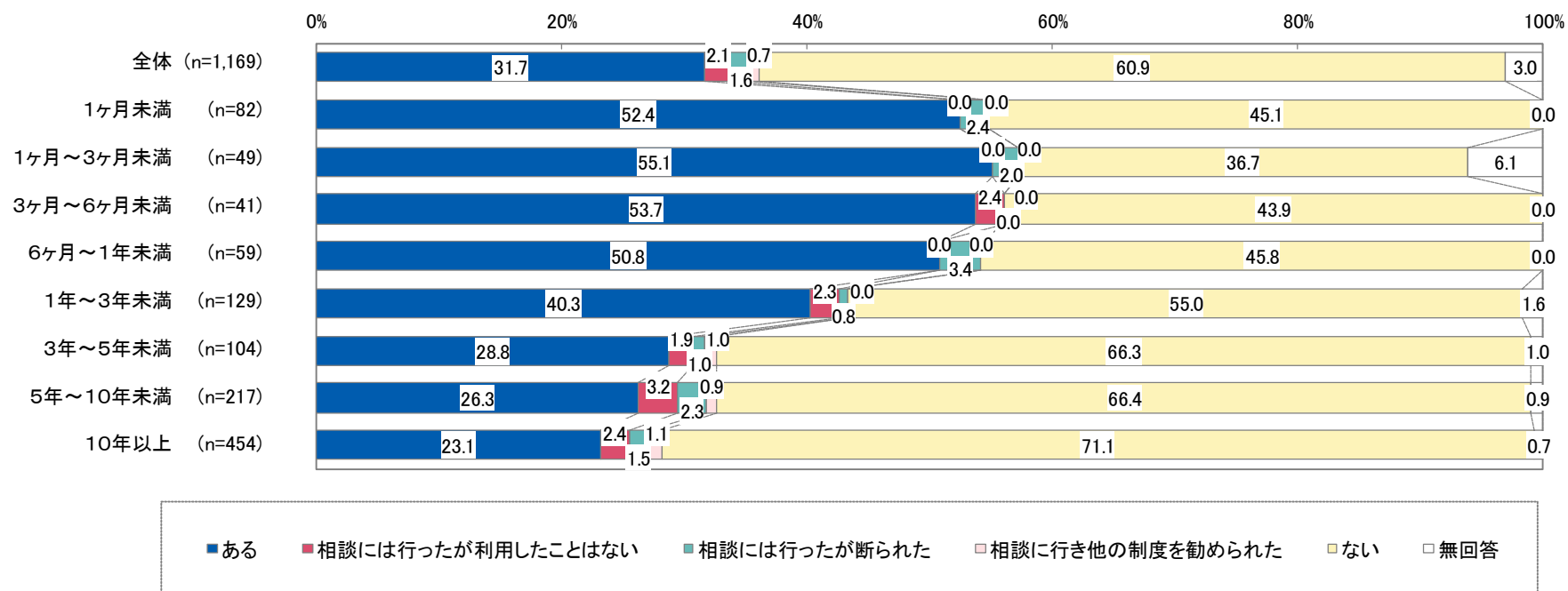
図表108 自立支援センターの利用意向（今回の路上生活期間別）



問 3 1 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「1年未満」の者では「ある」の割合が高い傾向にある。

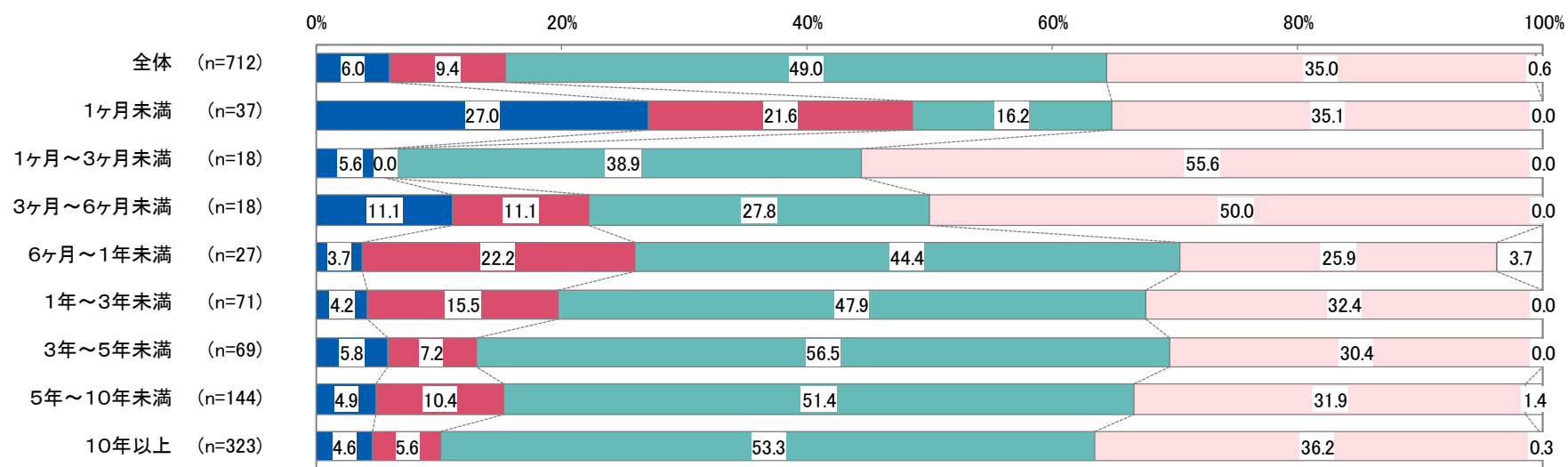
図表109 生活保護の利用経験（今回の路上生活期間別）



問 3 1 - 3 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「6ヶ月～1年未満」の者では「自分は利用できないと思っている」の割合が高く（22.2%）、「6ヶ月以上」の者では「生活保護制度を利用したくない」の割合が高い傾向にある。

図表 110 生活保護制度を利用しなかった理由（今回の路上生活期間別）

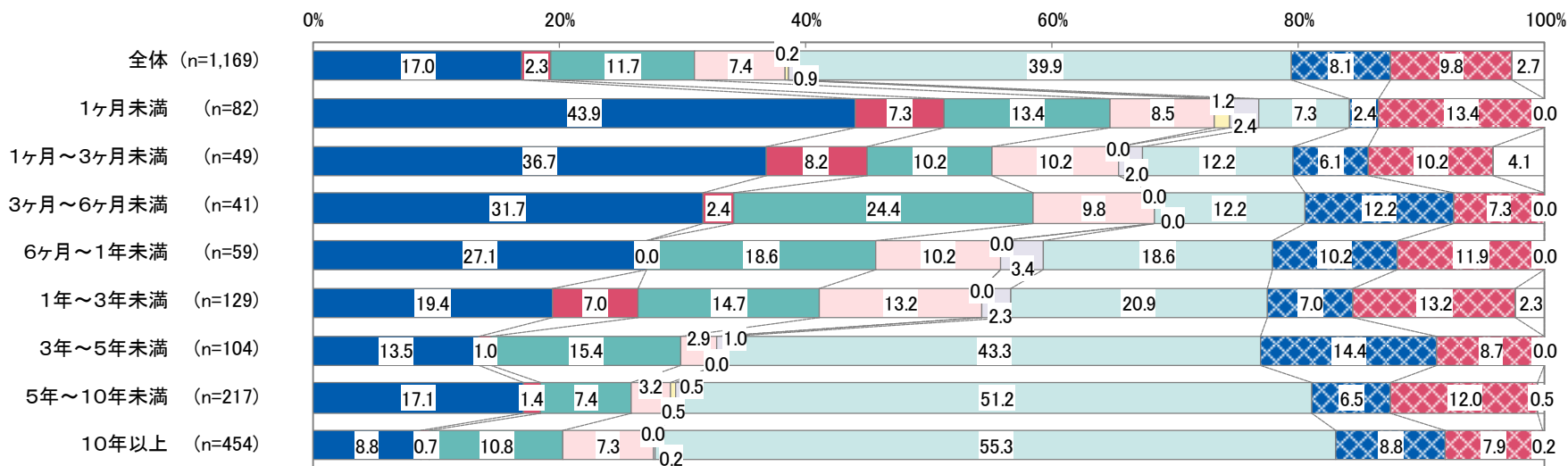


■ 生活保護制度を知らない ■ 生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている ■ 生活保護制度を利用したくない ■ その他 □ 無回答

問 3 6 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「1年未満」の者では「（アパートに住み、就職して+寮付きの仕事で）自活したい」の割合が高く、「3年以上」の者では「今のままでいい」の割合が高くなる傾向にある。

図表111 今後望んでいる生活（今回の路上生活期間別）

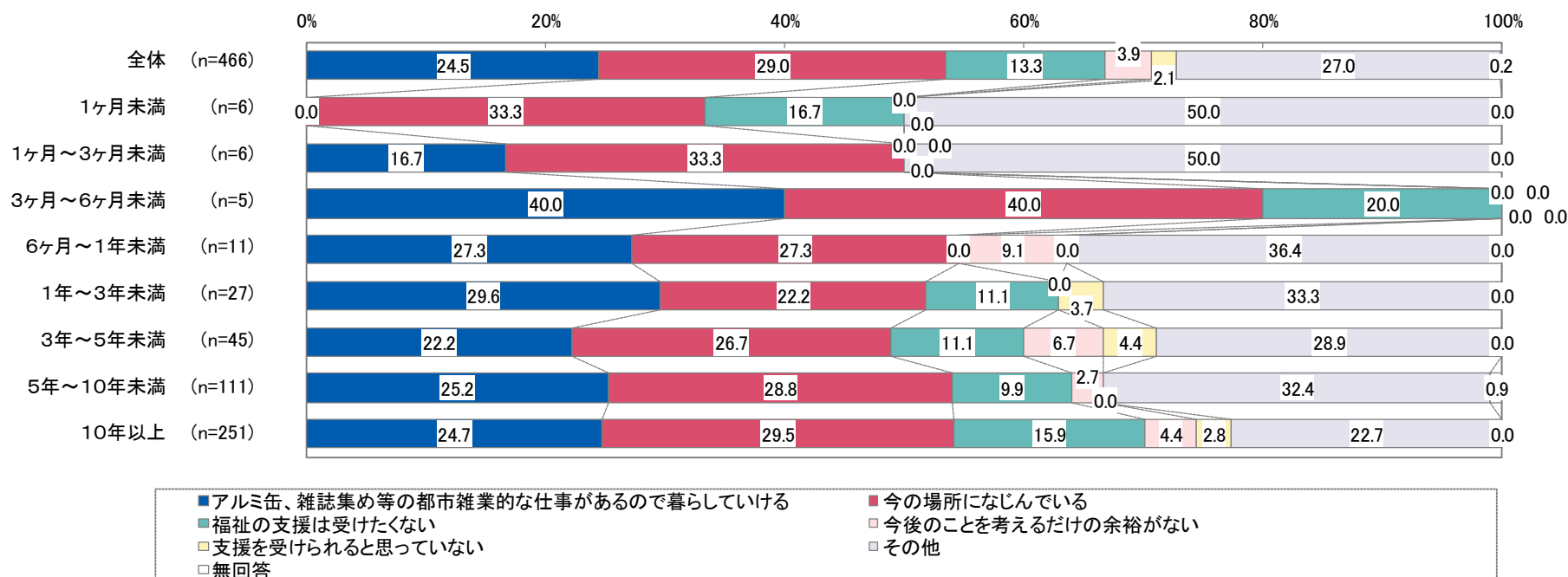


- アパートに住み、就職して自活したい
- 寮付きの仕事で自活したい
- アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつけない
- 就職することはできないので何らかの福祉(生活保護や施設入所等)を利用して生活したい
- 入院したい
- 家族の元に戻りたい
- 今のままでいい(路上(野宿)生活)
- わからない
- その他
- 無回答

問 3 6 - 1 今のままでいい理由

- 今のままでいい理由については、「6ヶ月～1年未満」の者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」「今の場所になじんでいる」の割合が高い（それぞれ27.3%）。
- 「3年以上」の者では「今の場所になじんでいる」の割合が高い傾向にある。

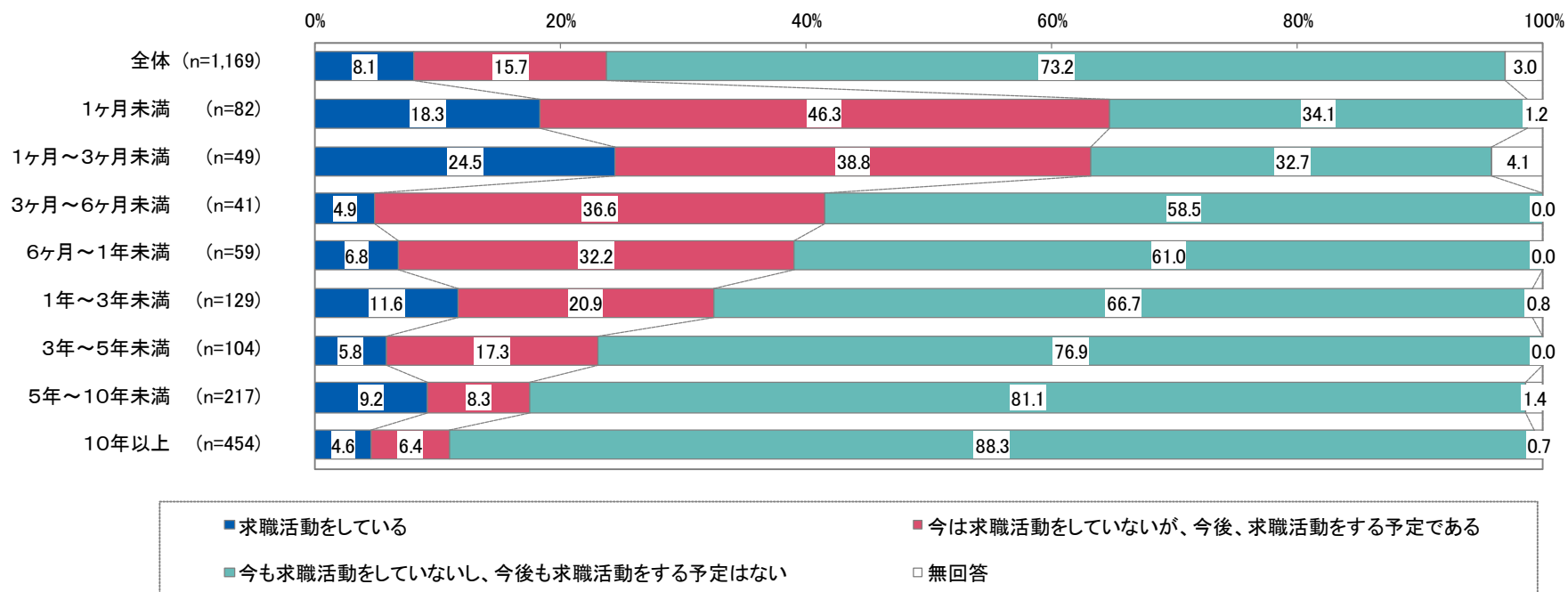
図表 112 今のままでいい理由（今回の路上生活期間別）



問 3 7 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「3ヶ月未満」の者では「求職活動をしている」及び「今後、求職活動する予定である」の割合が高く、「3ヶ月以上」の者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

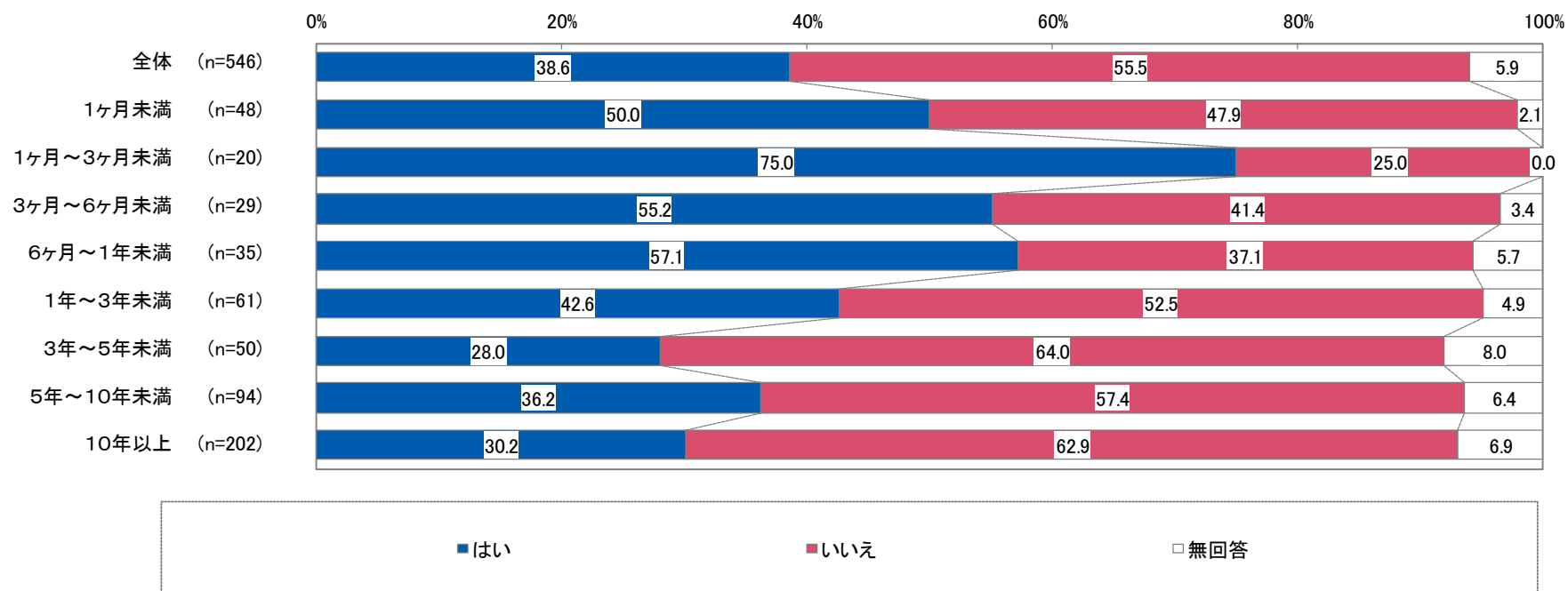
図表113 就職するための求職活動（今回の路上生活期間別）



問 3 7 - 3 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意欲については、「1年未満」の者では「はい」の割合が高く、「1年以上」の者では「いいえ」の割合が高い。

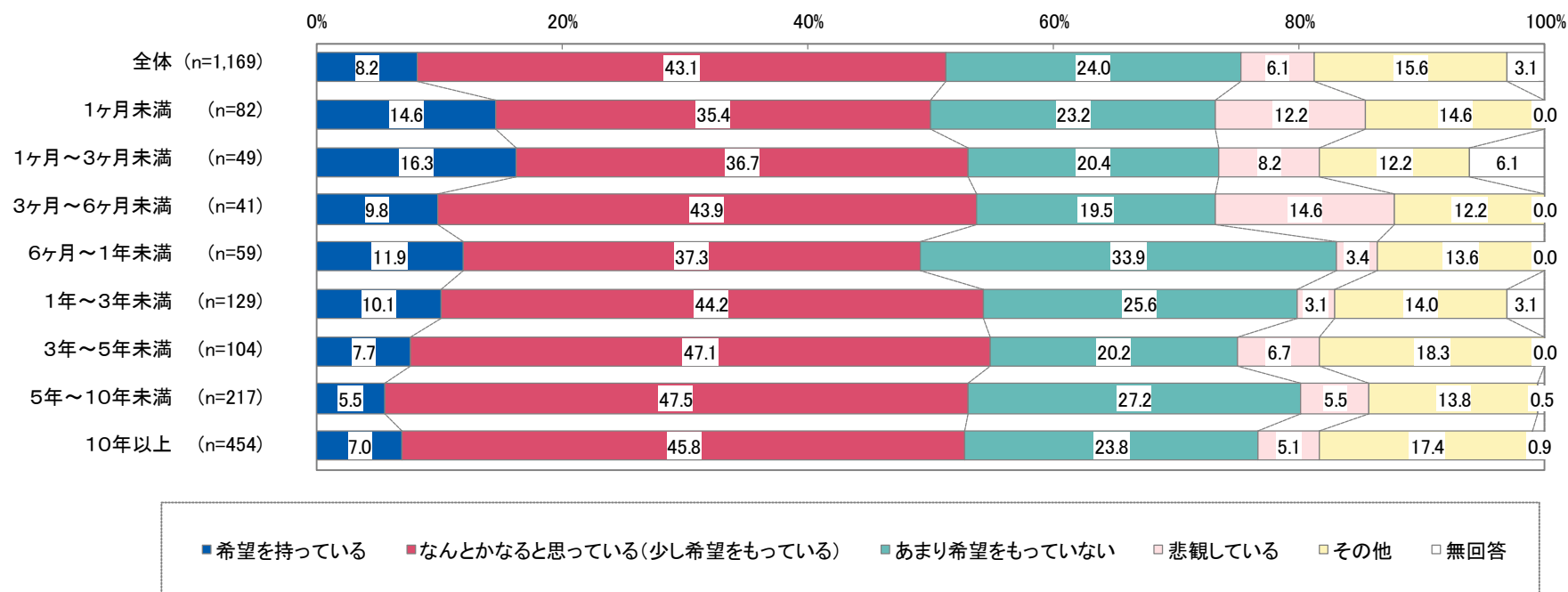
図表 114 軽作業への参加意向（今回の路上生活期間別）



問 4 7 現在の気持ち

- 現在の気持ちについて、「6カ月～1年未満」の者では「希望を持っている」「なんとかなると思っている（少し希望をもっている）」の割合が低い。

図表115 現在の気持ち（今回の路上生活期間別）



支援制度

利用タイプ別

4

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

路上生活期間別の傾向について

今後の生活

- 今後の生活では、何らかの制度利用経験者と比べ、制度を利用していない者は、現状の路上生活を維持したい割合が高い。

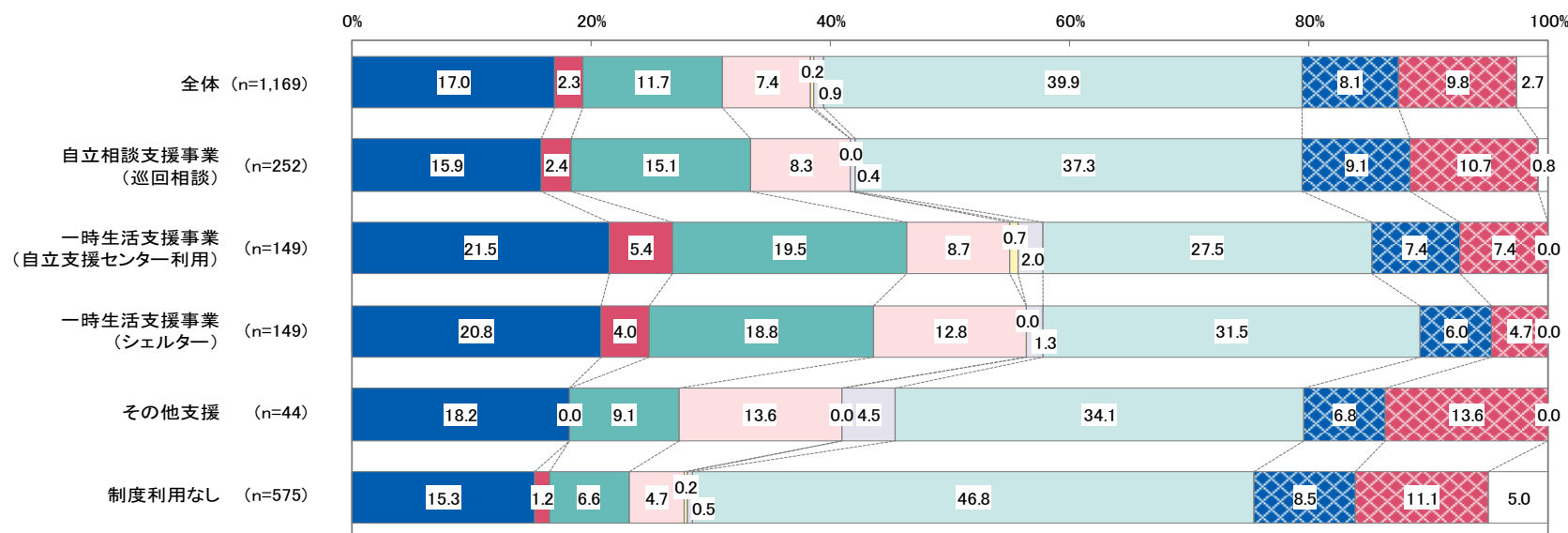
求職活動の状況

- 求職活動では、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「求職活動をしている＋求職活動をする予定である」の割合が高く、「巡回相談」経験者及び「制度利用無し」者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

問 3 6 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：17.0%、自立支援センター：21.5%、シェルター：20.8%）の割合が高く、「制度利用無し」者では「今のままでいい」（全体：39.9%、制度利用無し：46.8%）の割合が高く、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では割合が低い。

図表116 今後望んでいる生活（支援制度利用タイプ別）

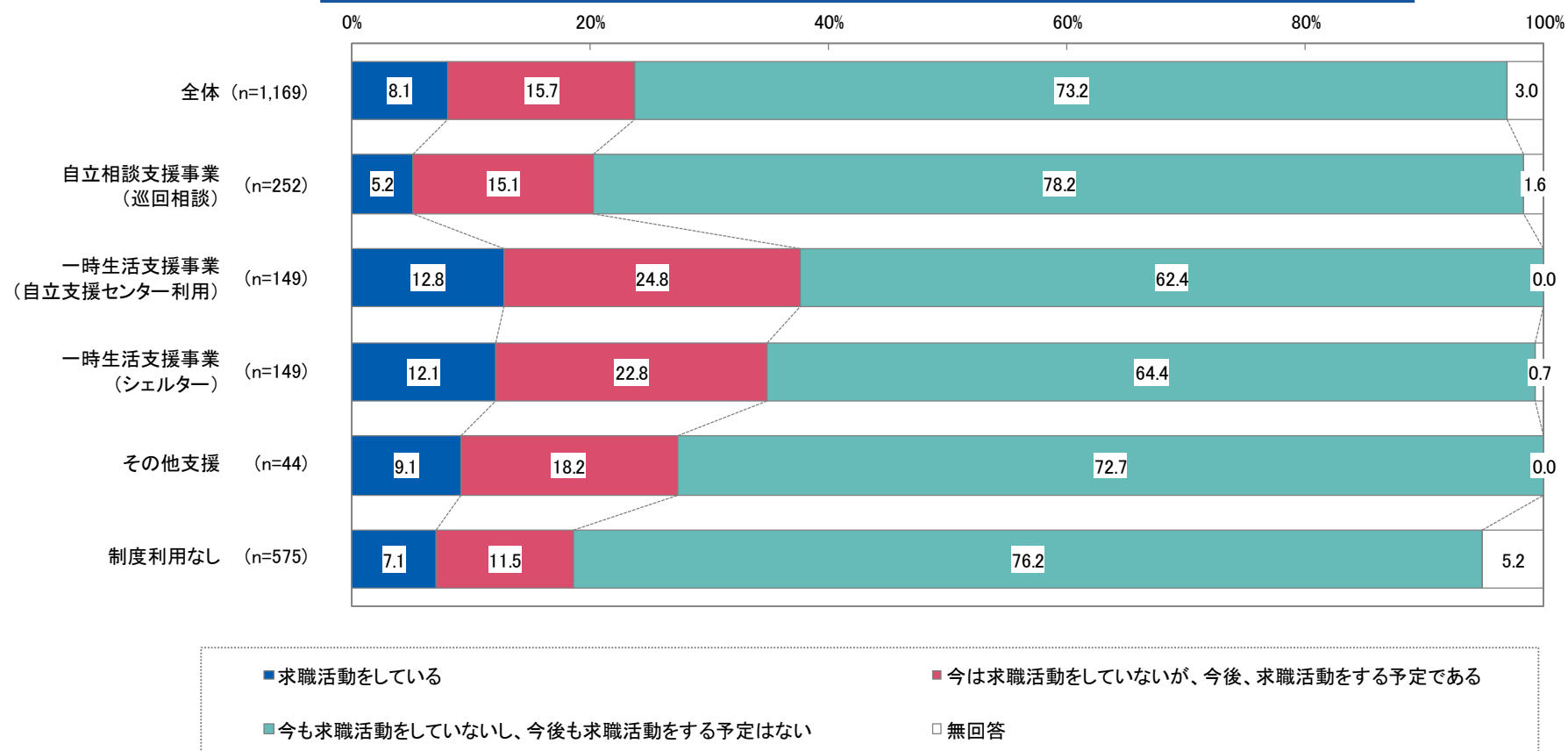


- アパートに住み、就職して自活したい
- 寮付の仕事で自活したい
- アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつけない
- 就職することはできないので何らかの福祉(生活保護や施設入所等)を利用して生活したい
- 入院したい
- 家族の元に戻りたい
- 今のままでいい(路上(野宿)生活)
- わからない
- その他
- 無回答

問 3 7 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「求職活動をしている＋求職活動する予定である」（全体：23.8%、自立支援センター：37.6%、シェルター：34.9%）の割合が高く、「巡回相談」経験者及び「制度利用無し」者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

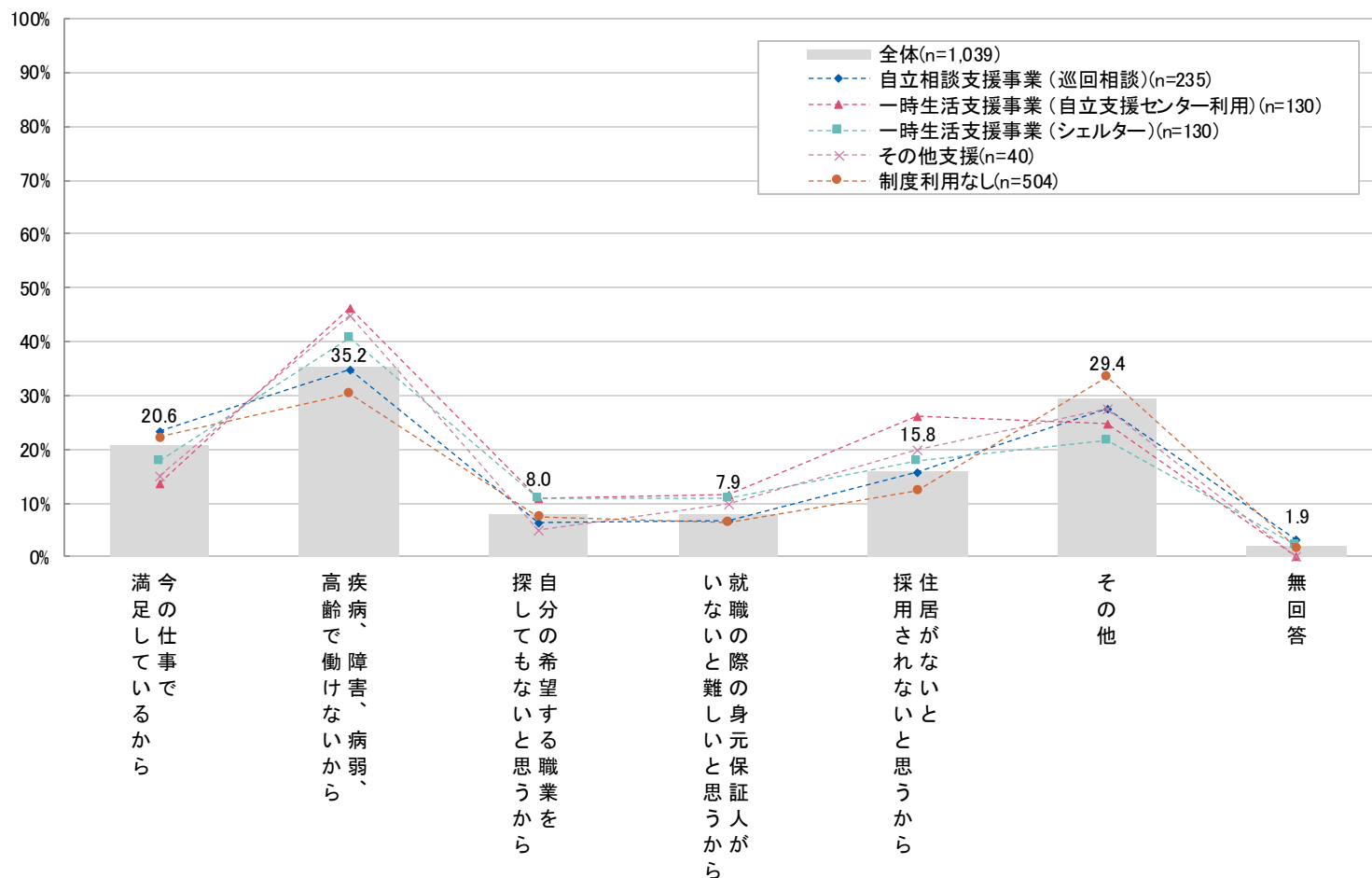
図表117 就職するための求職活動（支援制度利用タイプ別）



問 3 7 - 2 求職活動をしていない理由

- 求職活動をしていない理由については、支援制度利用タイプにかかわらず、「疾病、障害、病弱、高齢」の割合が高い。

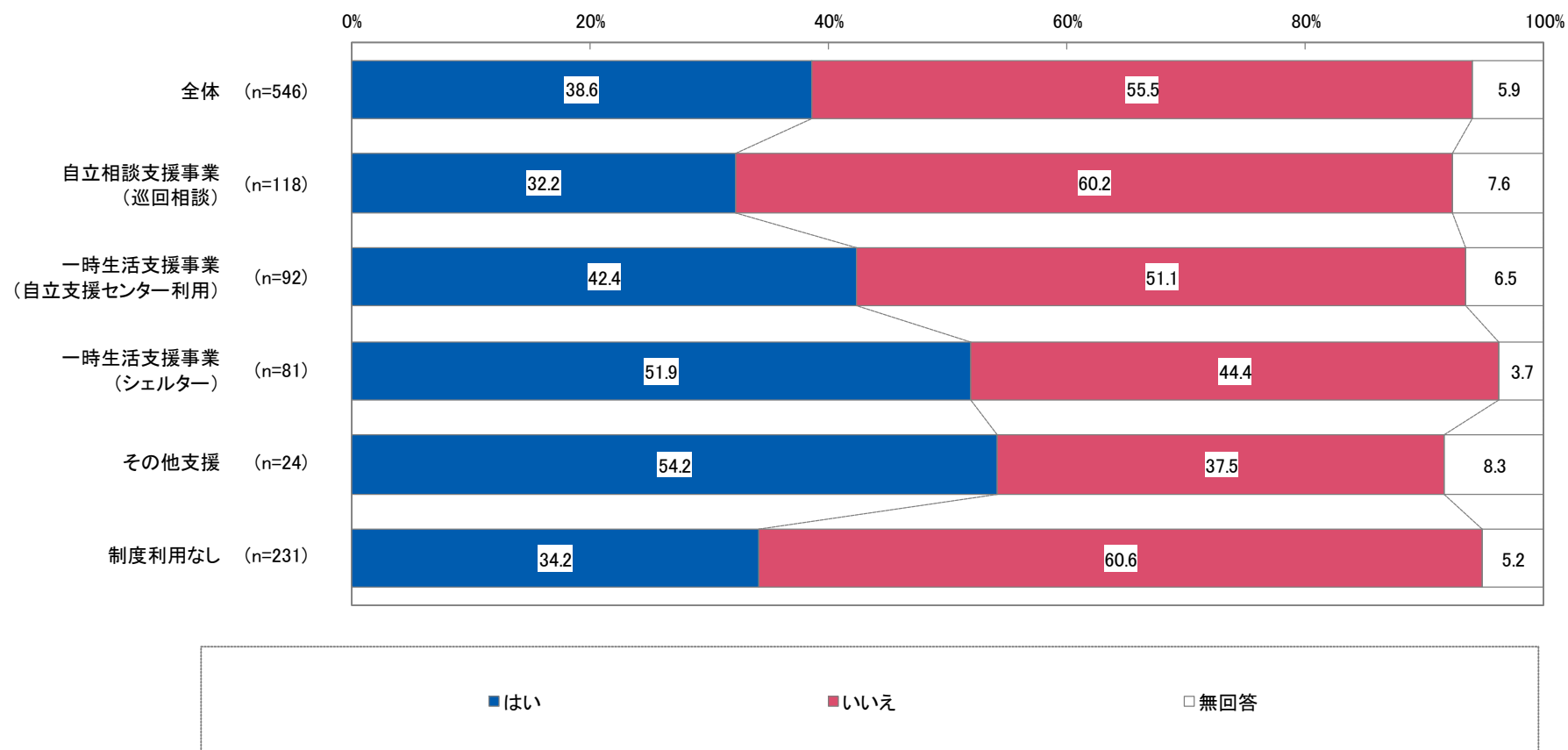
図表118 求職活動をしていない理由（支援制度利用タイプ別）



問 3 7 - 3 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向については、「シェルター」利用経験者では「はい」（全体：38.6%、シェルター：51.9%）の割合が高く、「制度利用無し」「巡回相談」者では「いいえ」の割合が高い。

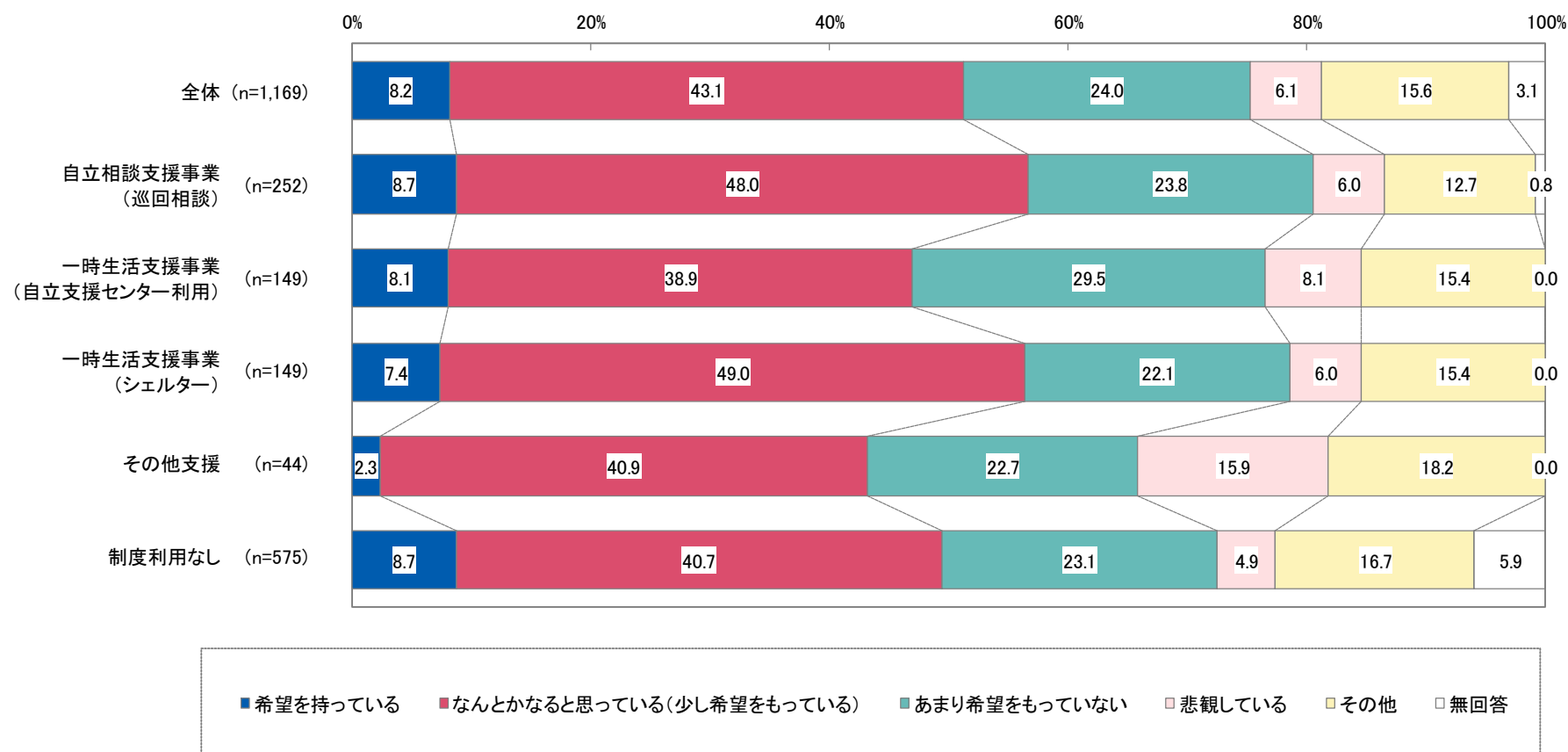
図表 119 軽作業への参加意向（支援制度利用タイプ別）



問 4 7 現在の気持ち

- 現在の気持ちについては、「巡回相談」利用経験者では「希望を持っている」（全体：8.2%、自立相談支援事業：8.7%）の割合が高く、「シェルター」利用経験者では「なんとかなると思っている」の割合が高い（全体：43.1%、シェルター：49.0%）。

図表120 現在の気持ち（支援制度利用タイプ別）



地域別 (事業実施別)

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

地域別（事業実施別）の傾向について

路上での生活

- ・ 寝場所では、「一時生活支援事業未実施自治体」は一定の場所で決まっている割合が高い。
- ・ 具体的な寝場所では、「一時生活支援事業未実施自治体」は河川の割合が高く、その他の事業実施自治体では公園の割合が高い。
- ・ 寝場所をつくる方法では、「一時生活支援事業未実施自治体」はテント又は小屋を常設する割合が高い。
- ・ 仕事では、「一時生活支援事業未実施自治体」は仕事により収入を得ている割合が高く、「シェルターのみ実施自治体」は仕事による収入を得ている割合が低い。

路上生活までのいきさつ

- ・ 初めて路上生活をする前に住んでいた地域との関係では、「一時生活支援事業未実施自治体」は同一県内の同じ市町村の割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- ・ シェルター、自立支援センターの周知度・利用度では、「自立支援センター」実施自治体及び「シェルター、自立支援センターの双方」は、周知度・利用度ともに高い。
- ・ 生活保護は、「自立支援センター」実施自治体及び「シェルター、自立支援センターの双方」実施自治体は利用経験の割合が高い。

地域別（事業実施別）の傾向について

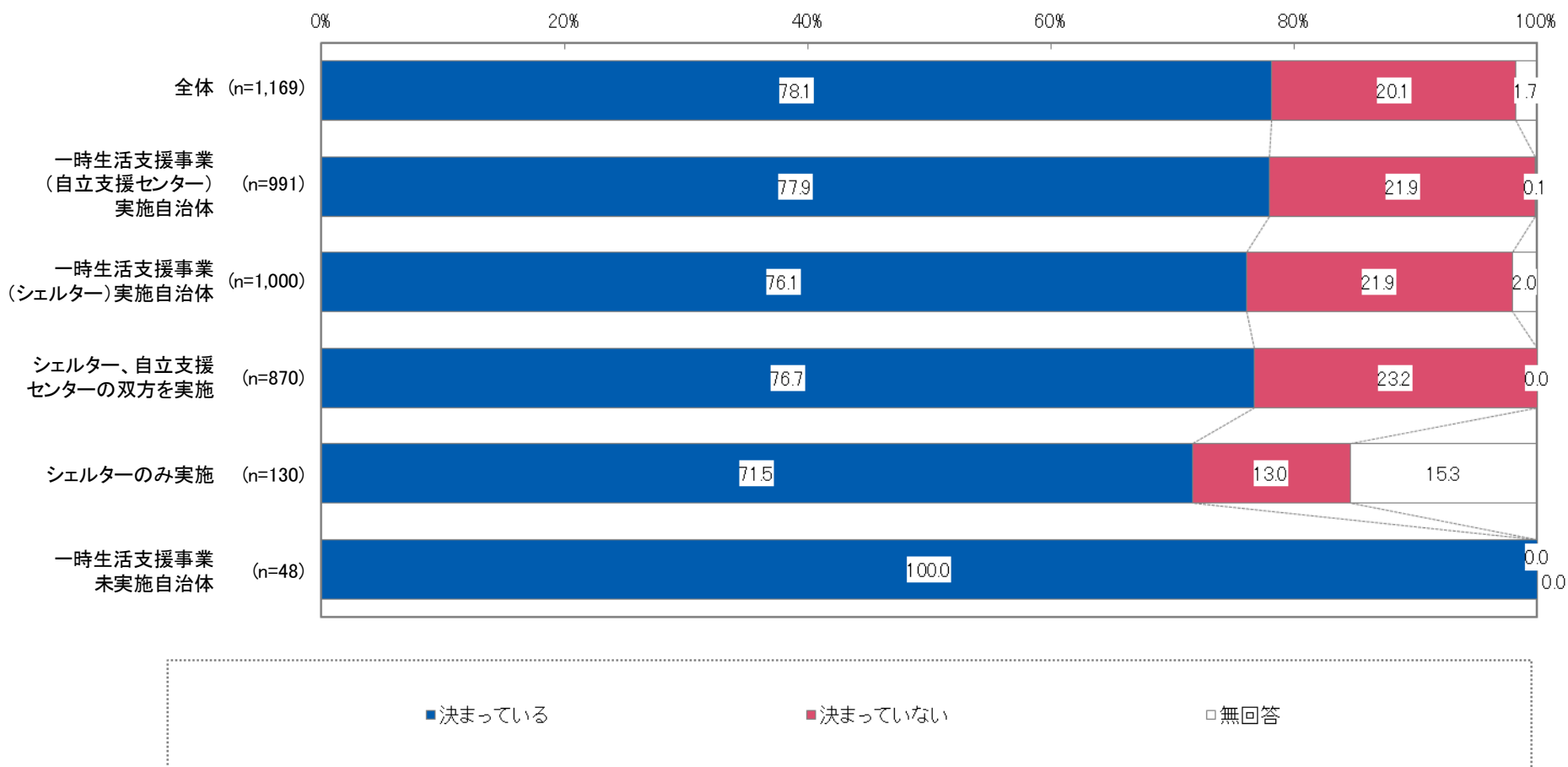
今後の生活

- 今後望んでいる生活では、「シェルターのみ実施」及び「一時生活支援事業未実施自治体」は、現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

問 1 寝ている場所

- 寝ている場所については、「一時生活支援」未実施自治体では、「一定の場所で決まっている」（全体：78.1%、一時生活支援未実施自治体：100.0%）の割合が高く、「シェルター」実施自治体では「一定の場所で決まっている」の割合が低い（71.5%）。

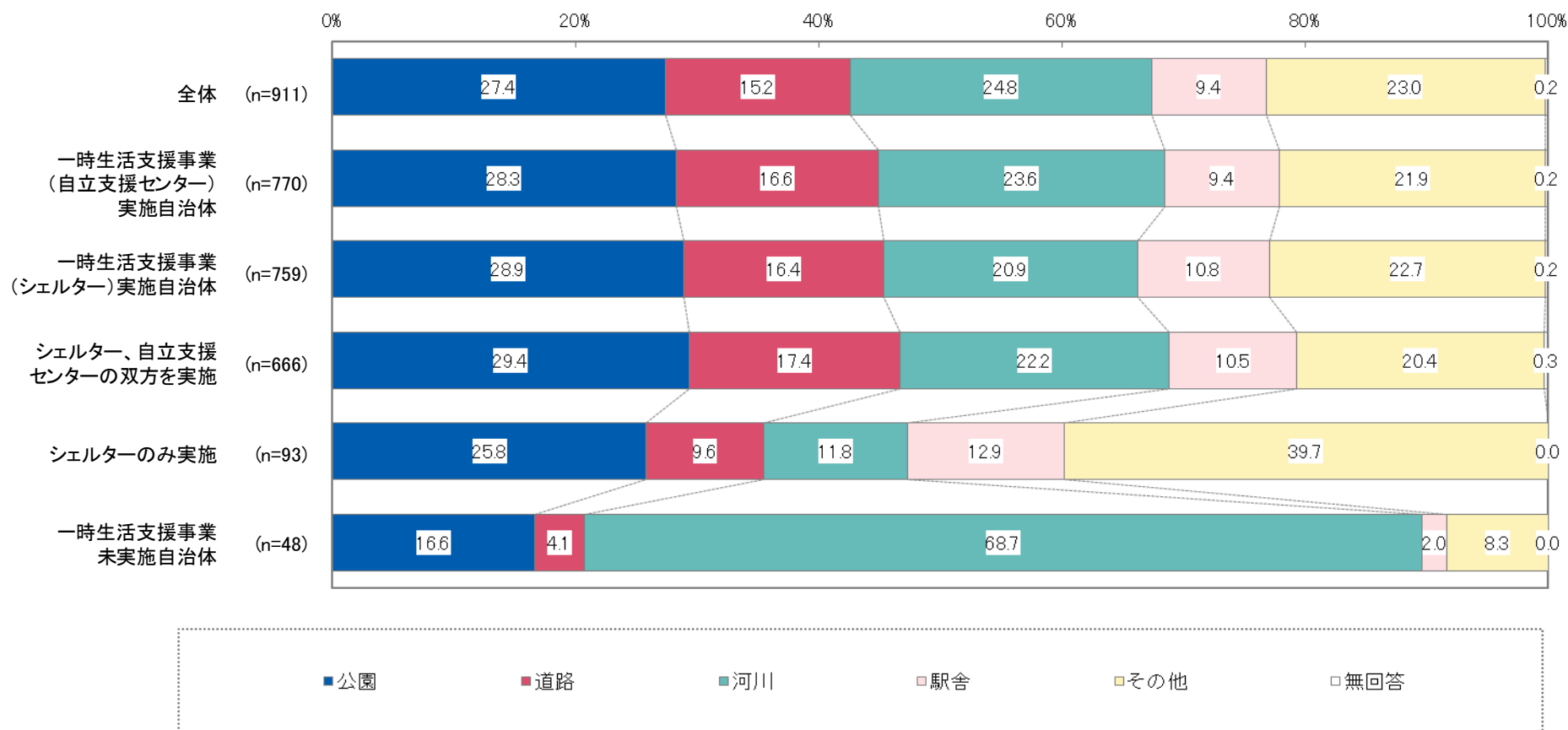
図表121 寝ている場所（地域別（事業実施別））



問 1 - 1 寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「シェルター」及び「シェルターと自立支援センターの双方」実施自治体では「公園」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「河川」（68.7%）の割合が高い。

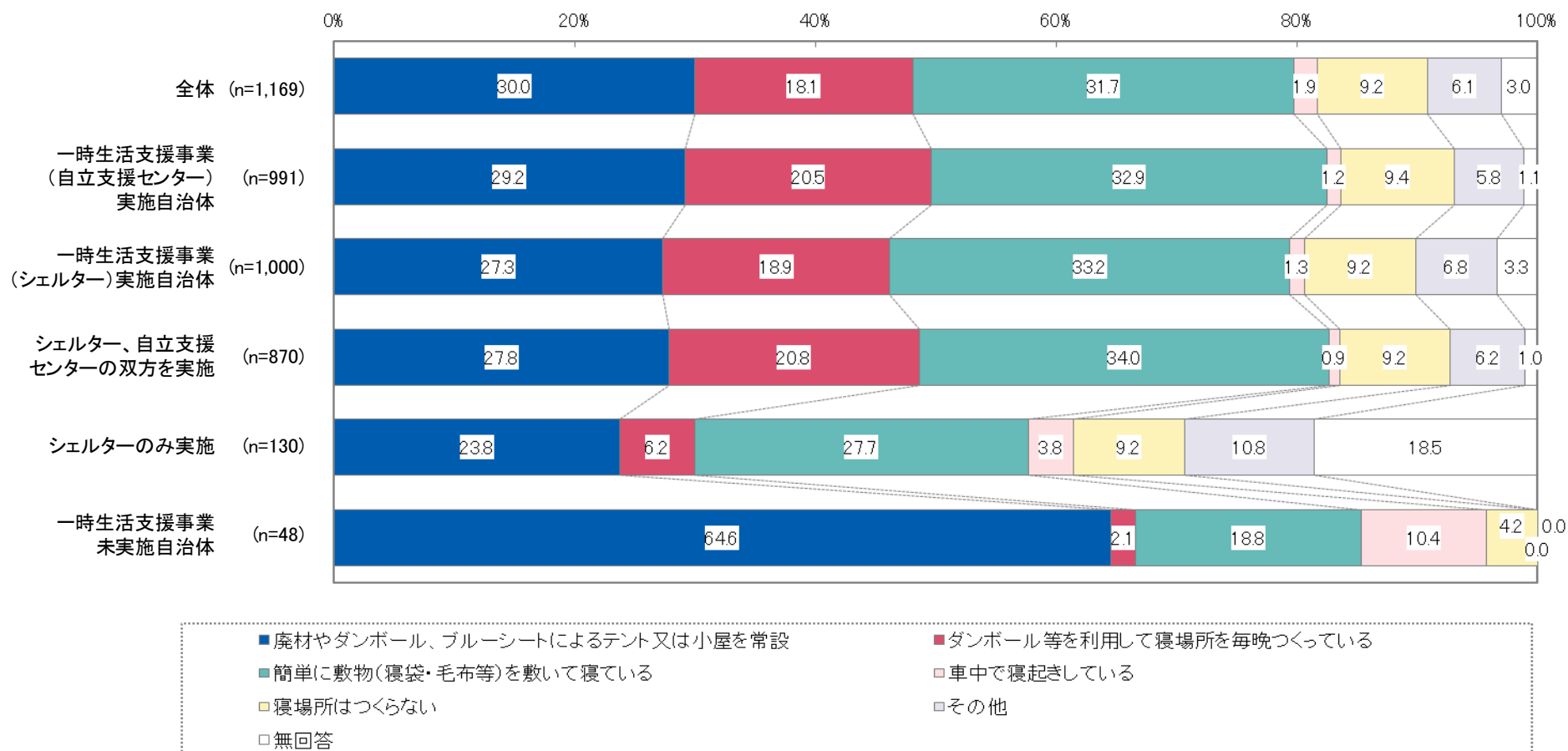
図表122 寝ている場所（具体的に）（地域別（事業実施別））



問 2 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「自立支援センター」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「小屋を常設」（全体：30.0%、自立支援センター：29.2%、一時生活支援事業未実施：64.6%）の割合が高い。

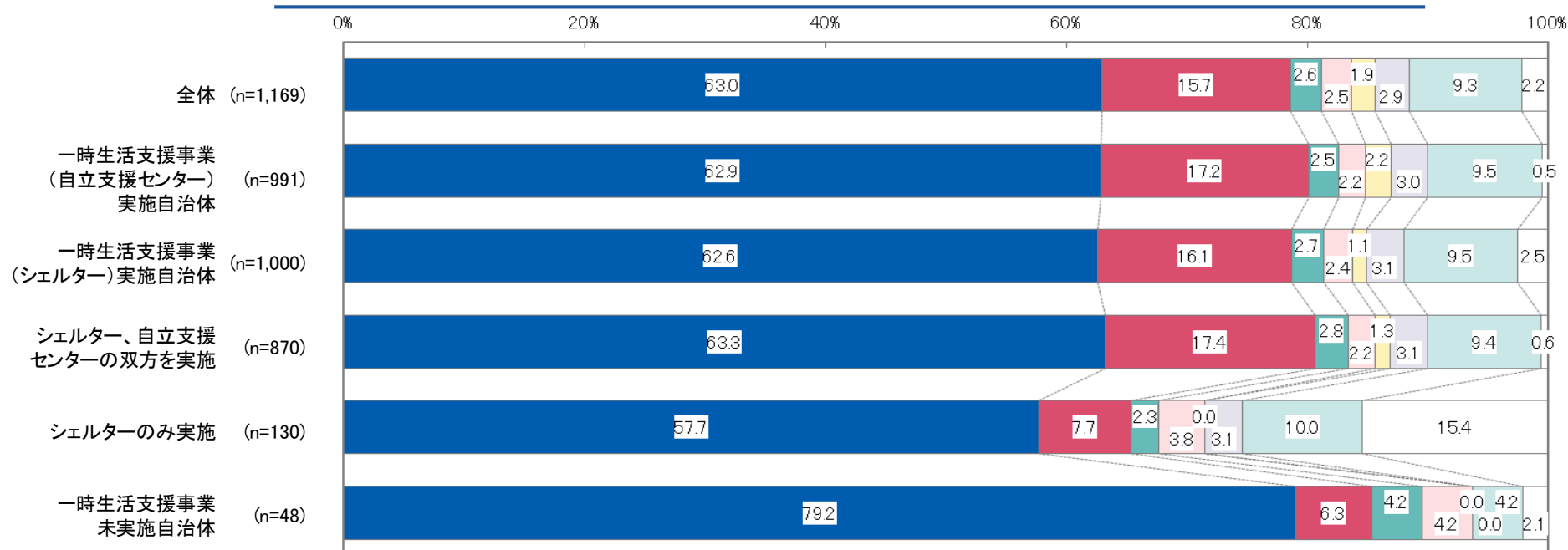
図表123 寝場所を作る方法（地域別（事業実施別））



問 4 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、「シェルター、自立支援センターの双方を実施」及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ずっと路上（野宿）生活をしていた」（全体：63.0%、シェルターと自立支援センター：63.3%、一時生活未実施：79.2%）の割合が高い。

図表124 今回の路上生活の継続について（地域別（事業実施別））

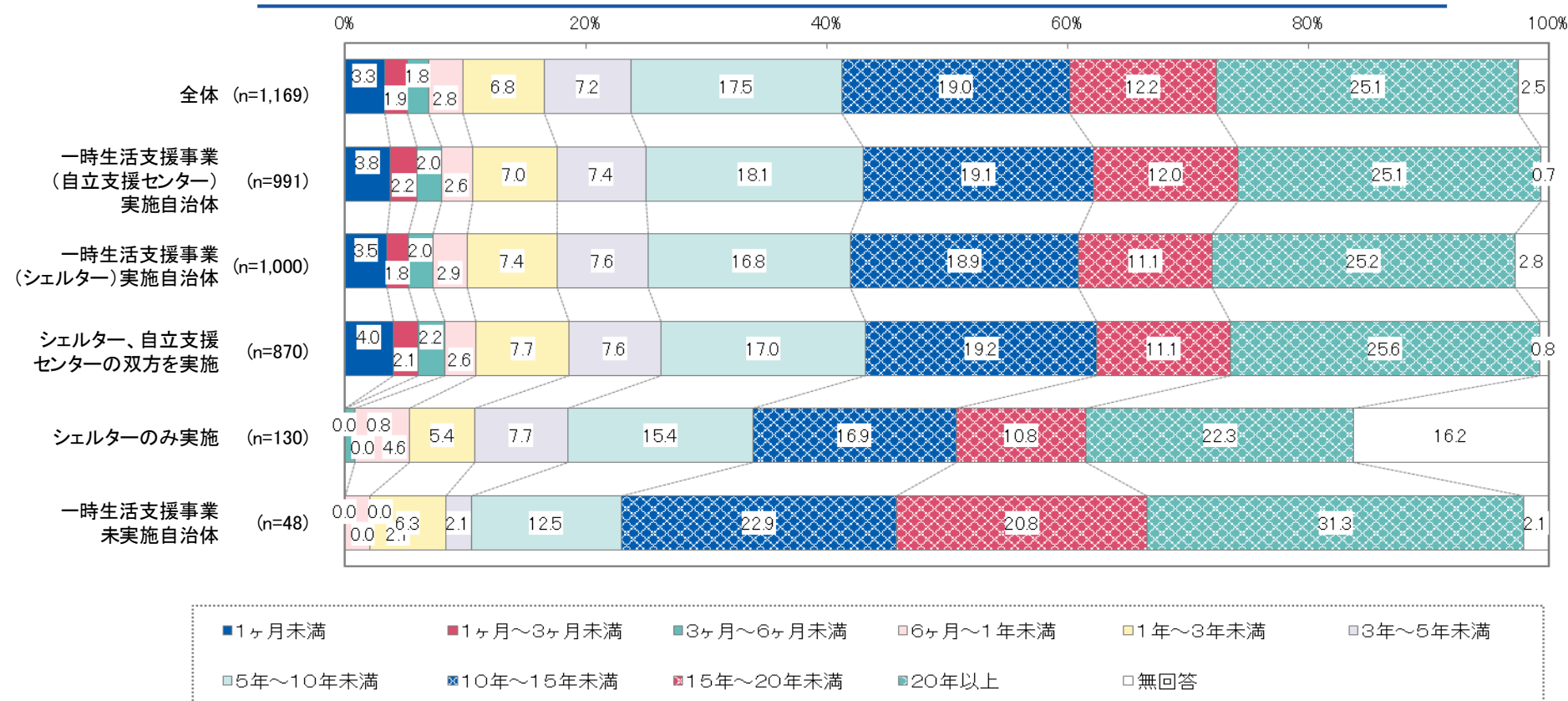


- ずっと路上（野宿）生活をしていた
- 時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた
- 病院に一時的に入っていたことがある
- 施設に一時的に入っていたことがある
- 自立支援センターに一時的に入っていたことがある
- 緊急一時宿泊施設（シェルター）（一時生活支援事業）等に一時的に入っていたことがある
- その他
- 無回答

問 5 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めての路上（野宿）生活をしてからの期間については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「10年以上」の割合が高い。

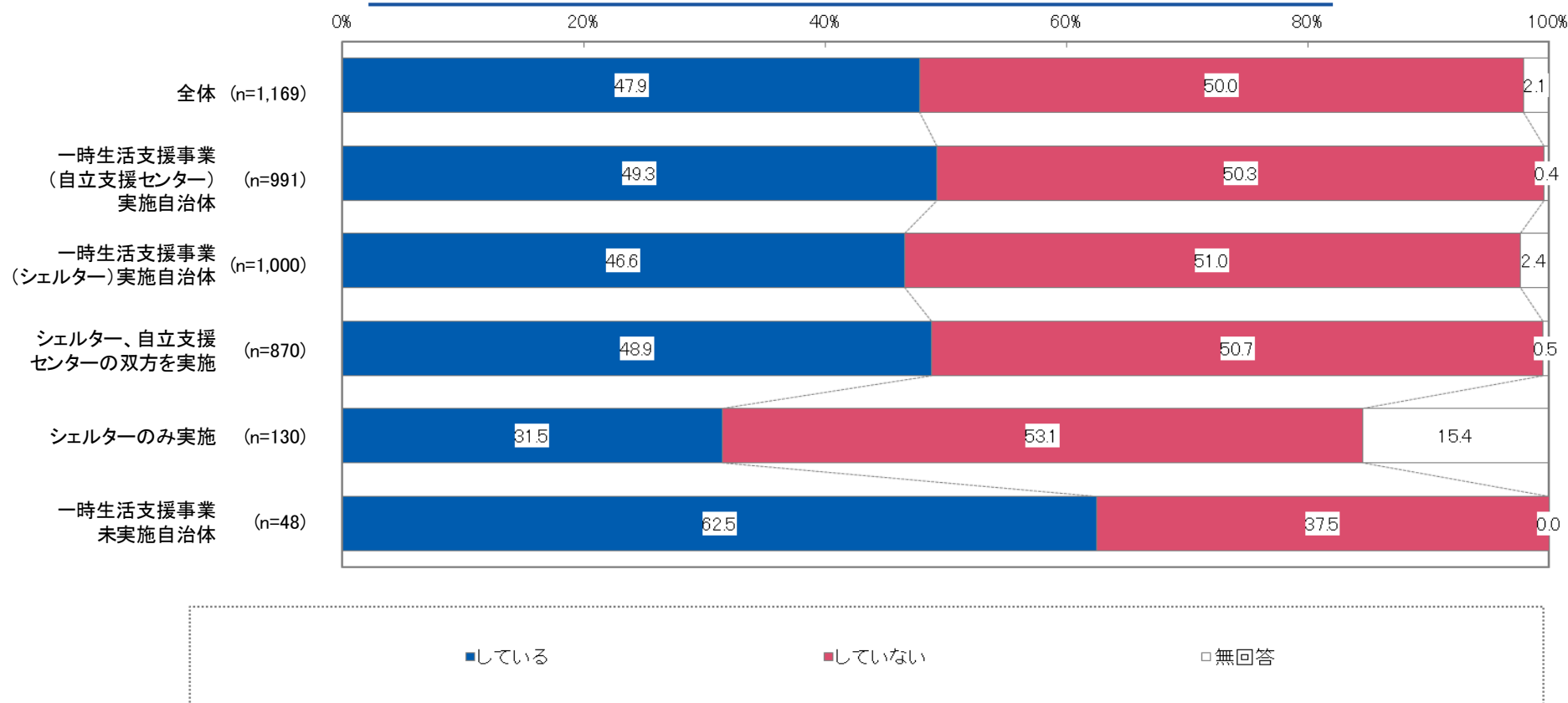
図表125 初めて路上生活をしてからの期間（地域別（事業実施別））



問 6 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについては、「一時生活支援事業未実施」自治体では「している」（全体：47.9%、一時生活未実施：62.5%）の割合が高く、「シェルターのみ」実施自治体では「していない」の割合が高い。

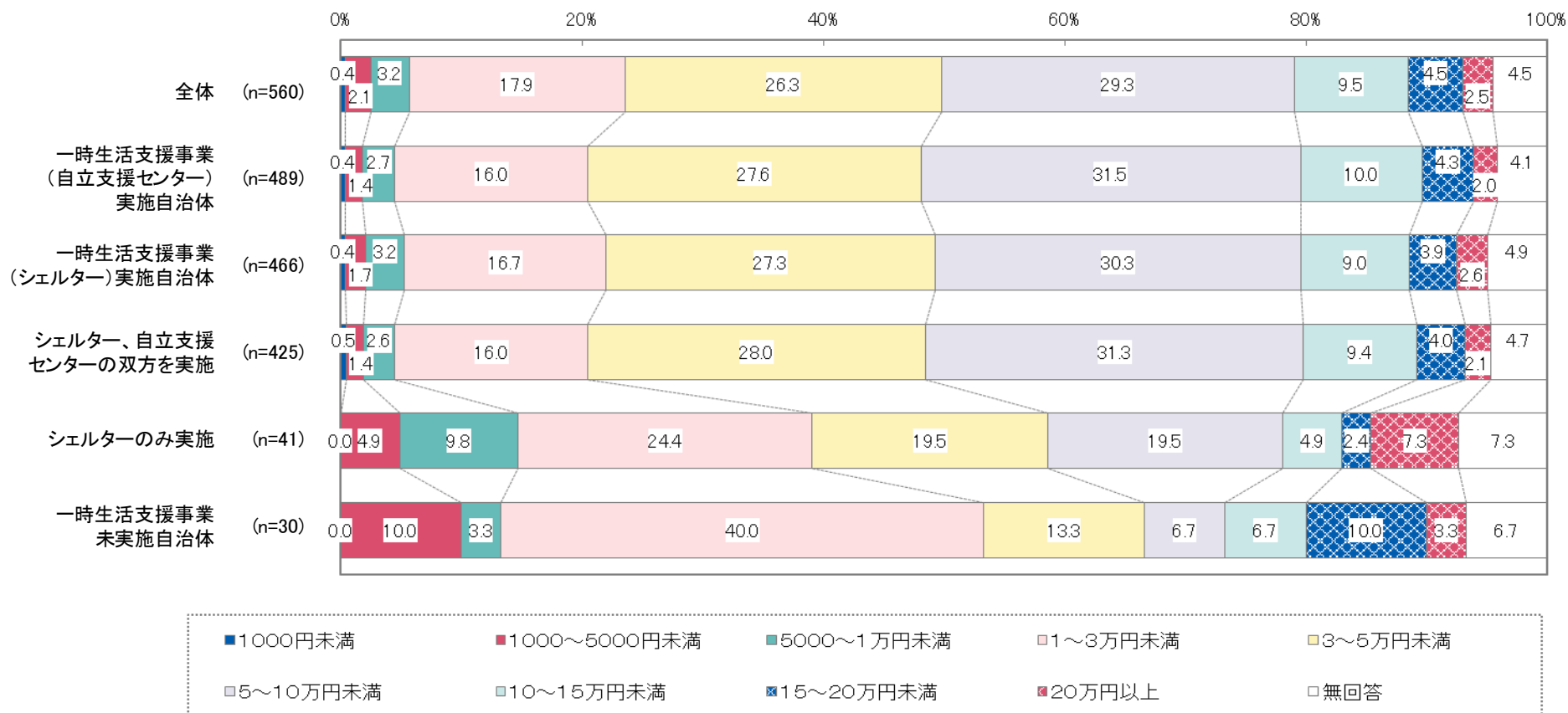
図表126 現在収入のある仕事（地域別（事業実施別））



問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による収入（月額）については、「自立支援センター」「シェルター、自立支援センターの双方を実施」実施自治体では「5～10万円未満」（全体：29.3%、自立支援センター：31.5%、シェルター：30.3%、自立支援センターの双方を実施：31.3%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「1～3万円未満」（全体：17.9%、一時生活未実施：40.0%）の割合が高い。

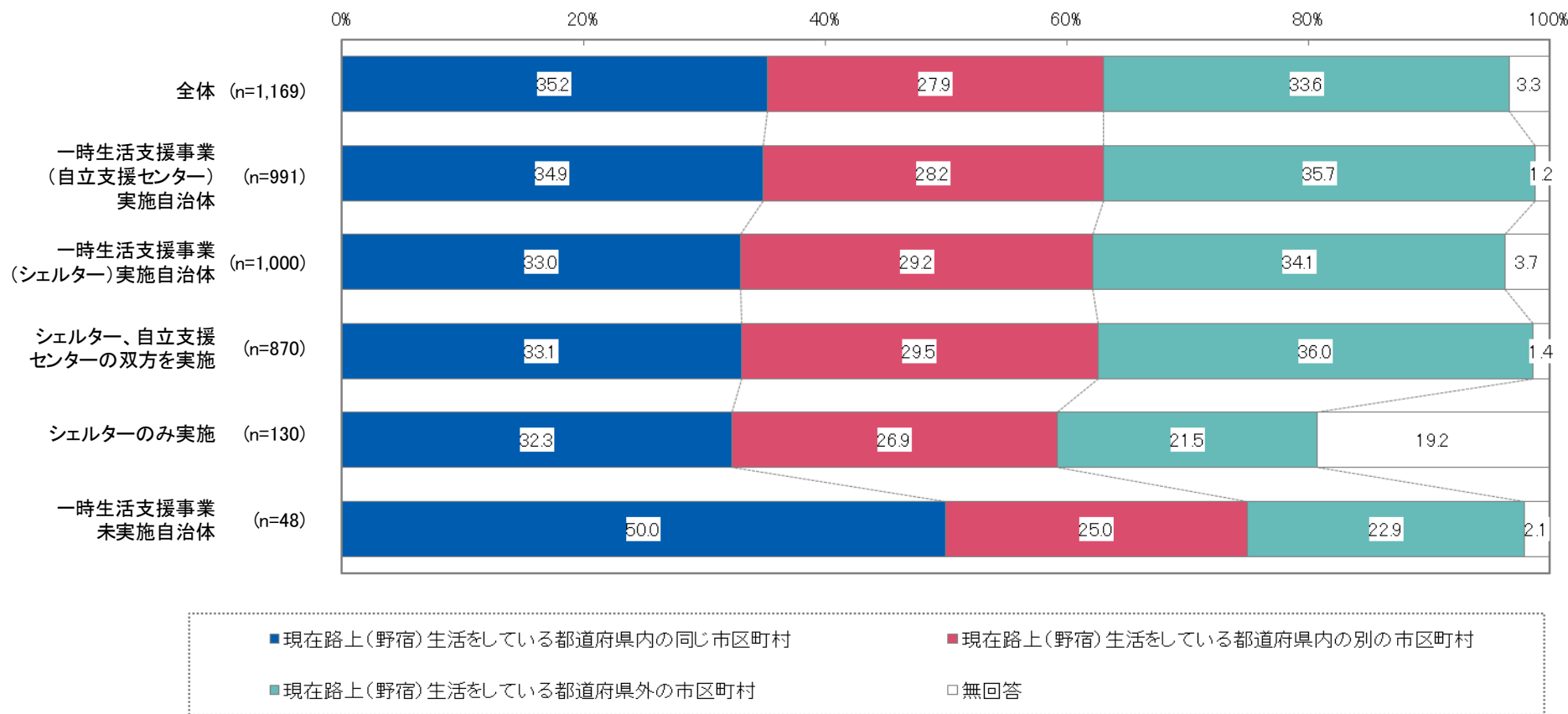
図表127 仕事による平均収入（地域別（事業実施別））



問 1 3 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高く（50.0%）、「現在路上生活をしている都道府県外の市区町村」の割合が低い（22.9%）。

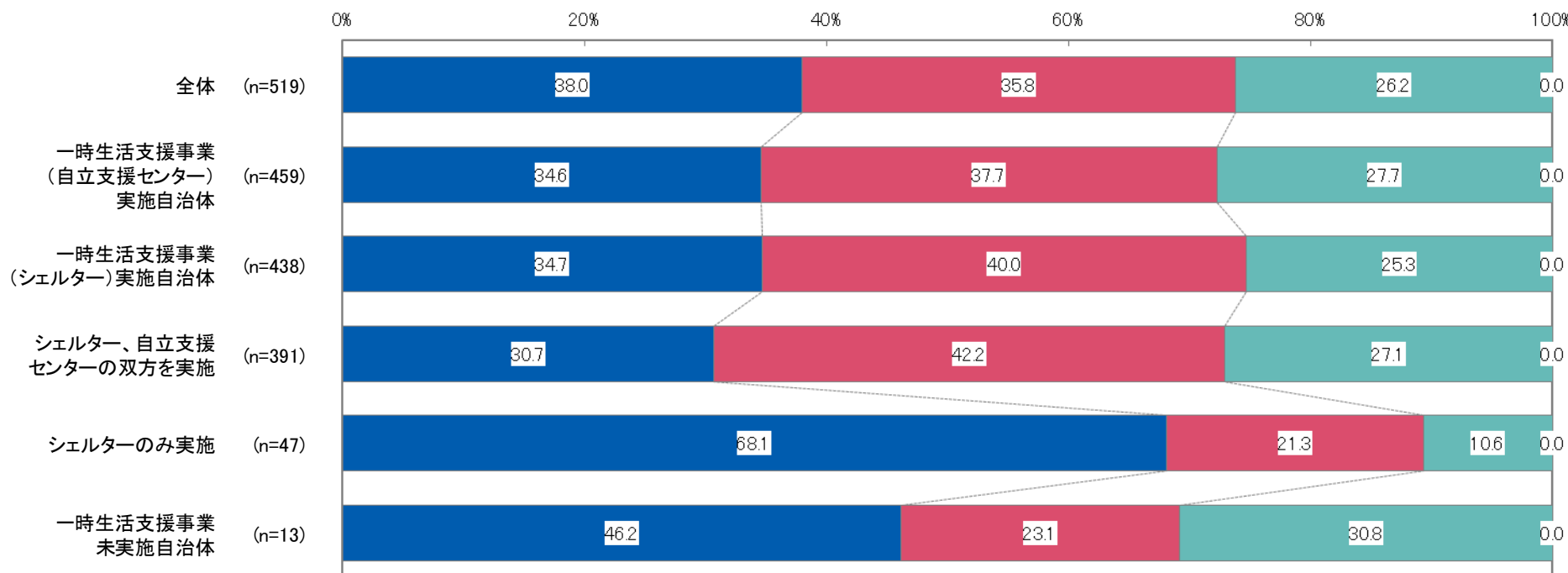
図表 128 初めて路上生活をする前に住んでいた地域（地域別（事業実施別））



問 1 8 - 1 別の路上生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所での経験については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高い。

図表129 別の路上生活場所（地域別（事業実施別））



■ 現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の同じ市区町村

■ 現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の別の市区町村

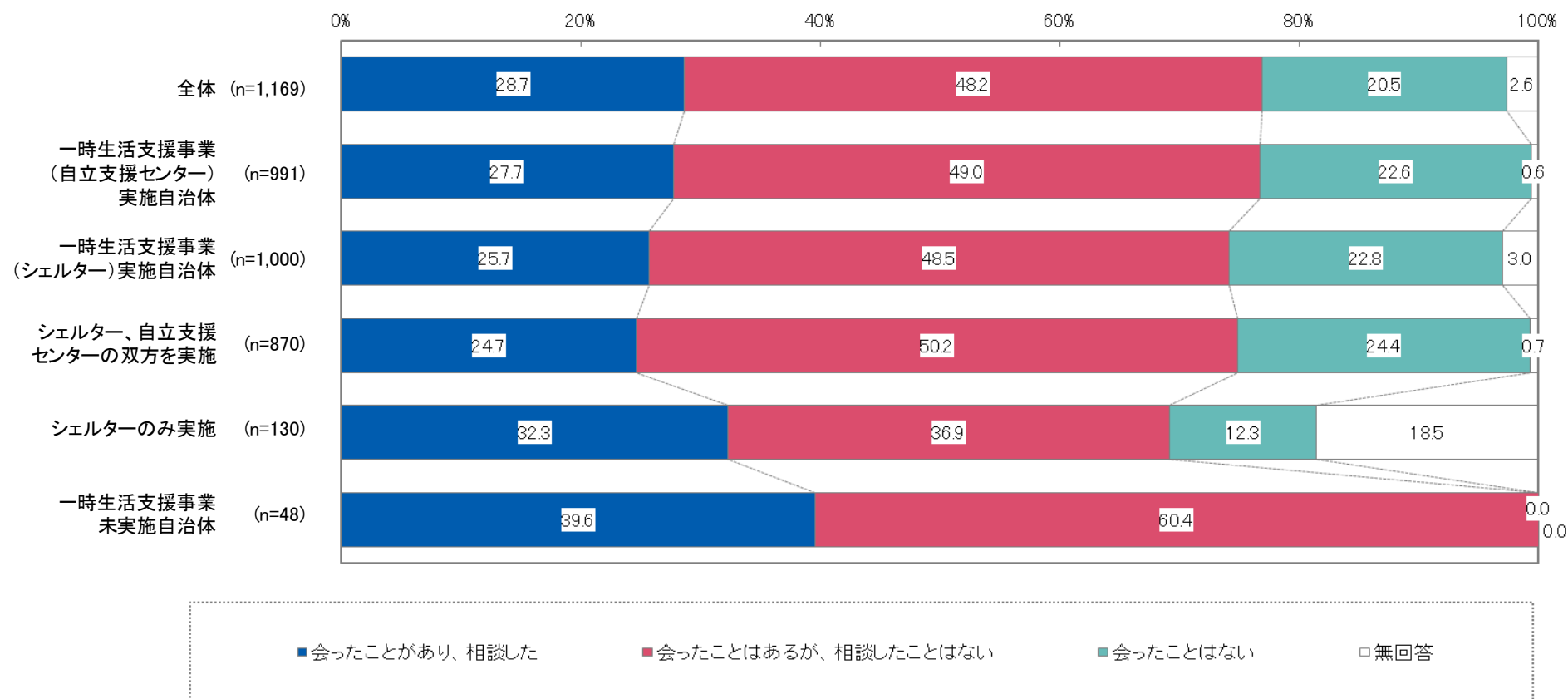
■ 現在路上（野宿）生活をしている都道府県外の市区町村

□ 無回答

問 2 7 巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「一時生活支援事業未実施」自治体では「会ったことはあるが、相談したことはない」（全体：48.2%、一時生活未実施：60.4%）の割合が高い。

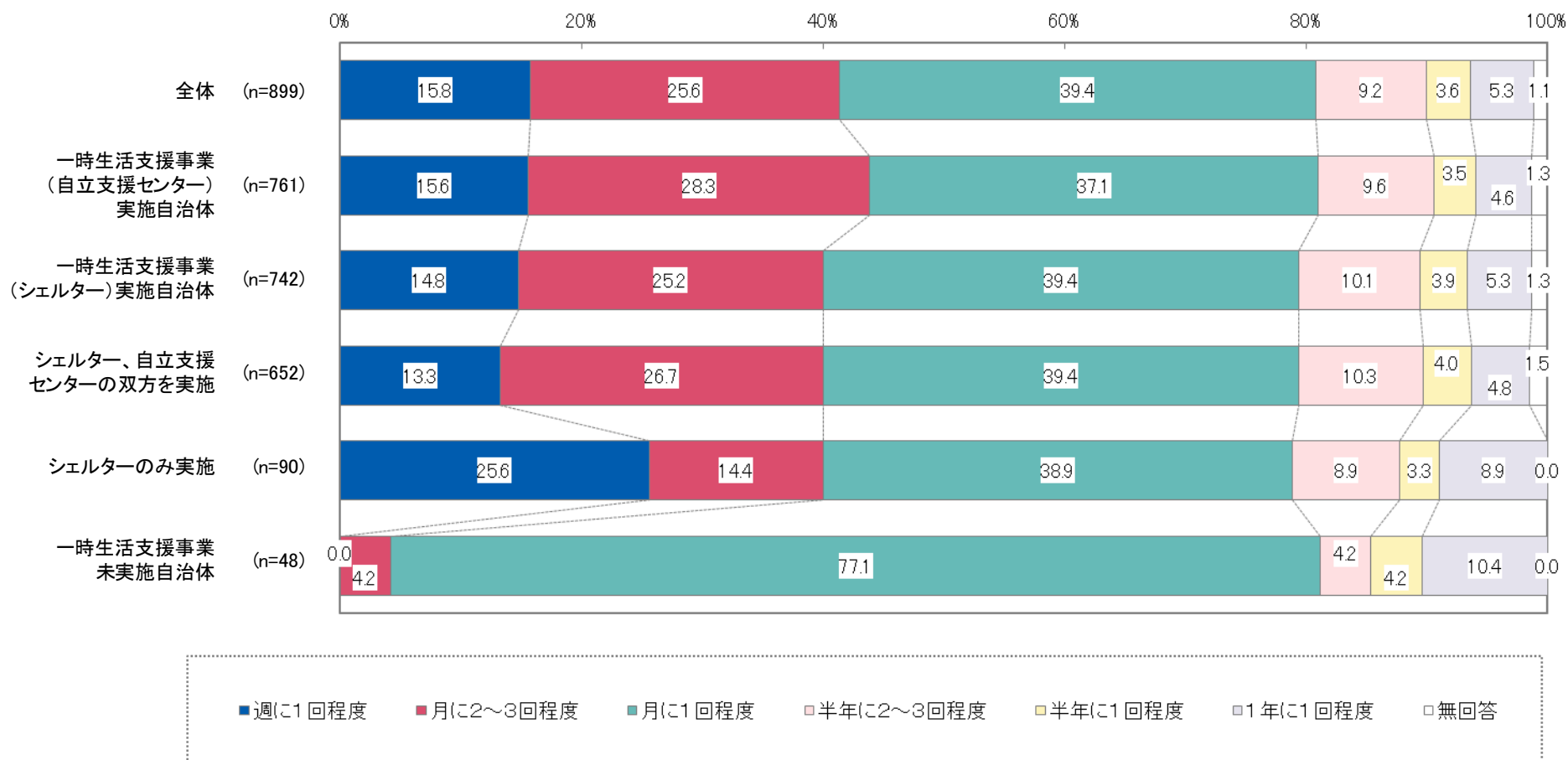
図表130 巡回相談員に会ったこと（地域別（事業実施別））



問 27-1 巡回の頻度

- 巡回の頻度については、「シェルターのみ」実施自治体では「週に1回程度」（全体：15.8%、シェルターのみ：25.6%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「月に1回程度」（全体：39.4%、一時生活未実施：77.1%）の割合が高い。

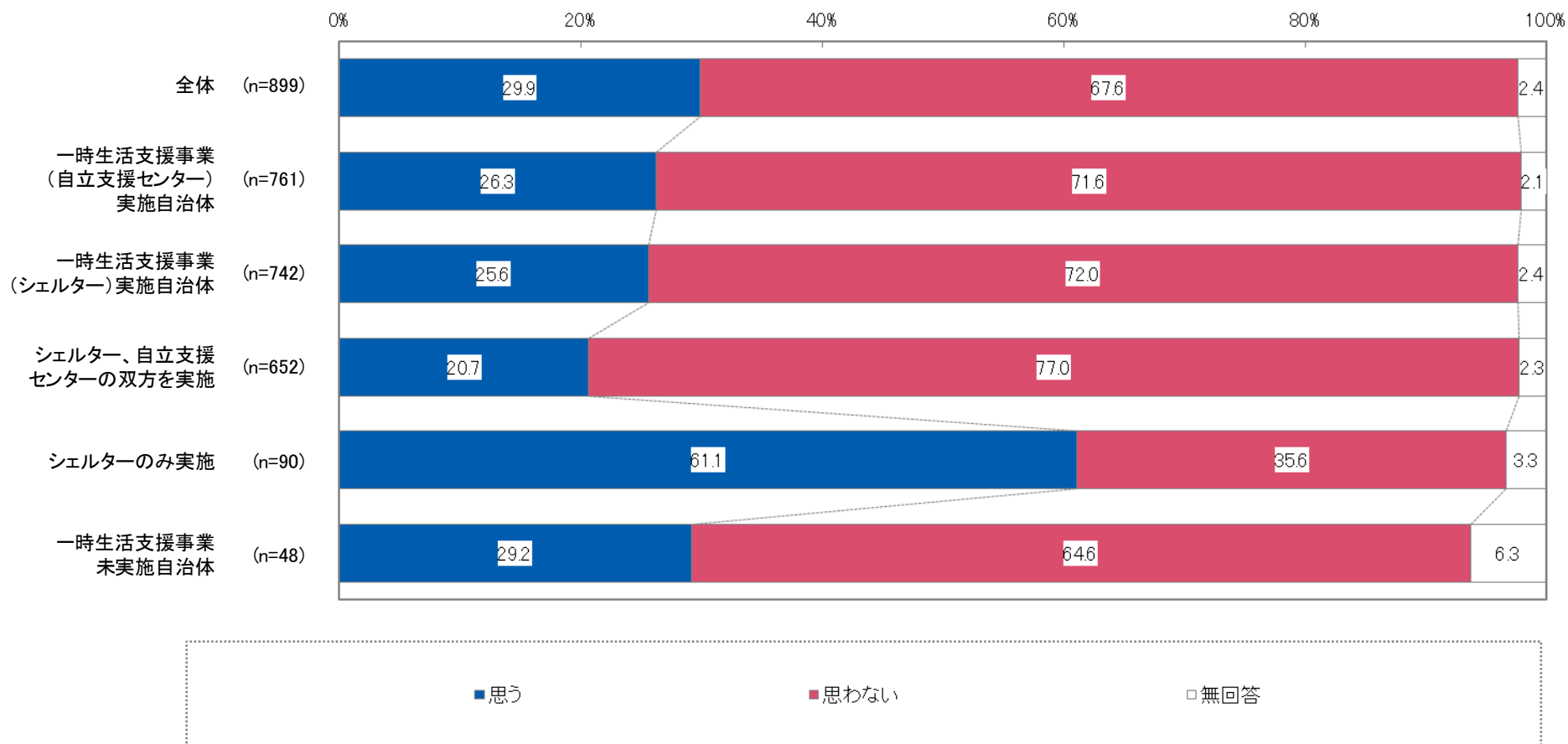
図表131 巡回の頻度（地域別（事業実施別））



問 27-2 頻繁に巡回するようになったと思うか

- 巡回相談員が頻繁に巡回するようになったと思うかについては、「シェルターのみ」実施自治体では「思う」（全体：29.9%、シェルターのみ：61.1%）の割合が高く、「シェルター、自立支援センターの双方を実施」自治体では「思う」の割合が低い（20.7%）。

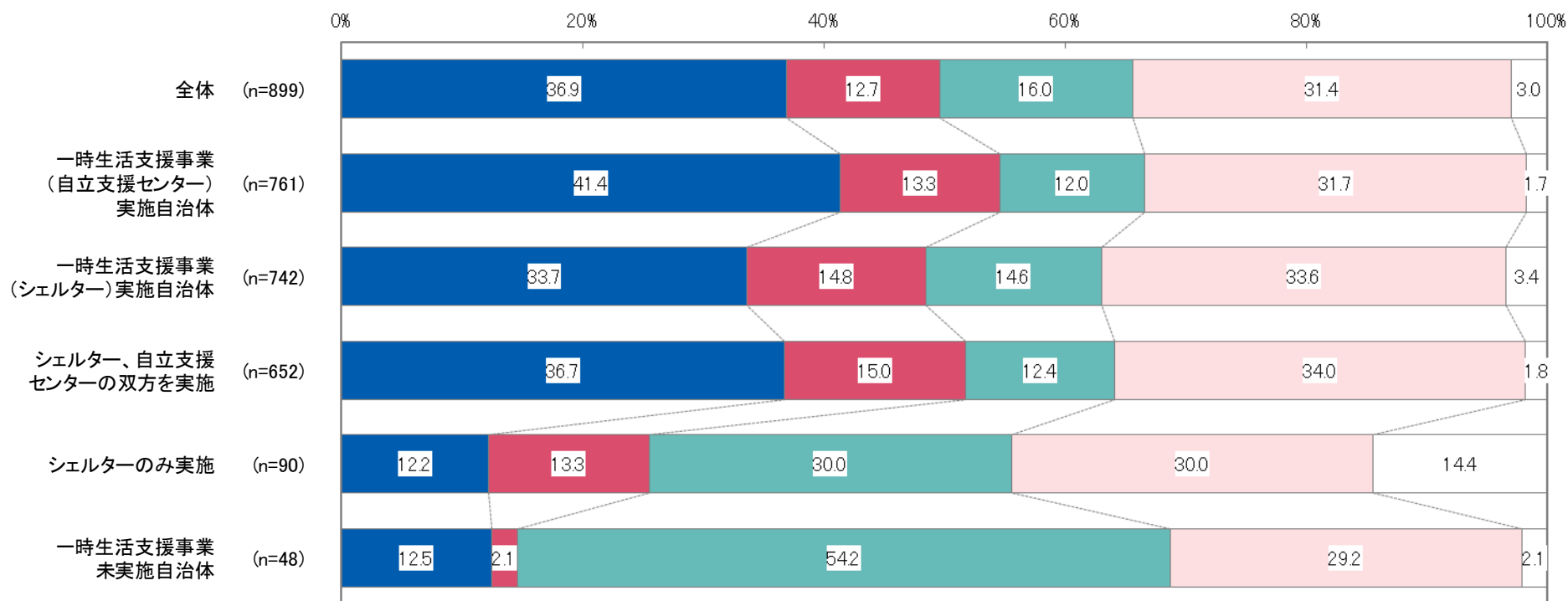
図表132 頻繁に巡回するようになったと思うか（地域別（事業実施別））



問 27-4 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 自立支援センターやシェルター等の利用の勧めについては、「一時生活支援事業（自立支援センター）」実施自治体では「自立支援センターの利用を勧められた」（全体：36.9%、一時生活支援事業：41.4%）の割合が高い。

図表133 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（地域別（事業実施別））

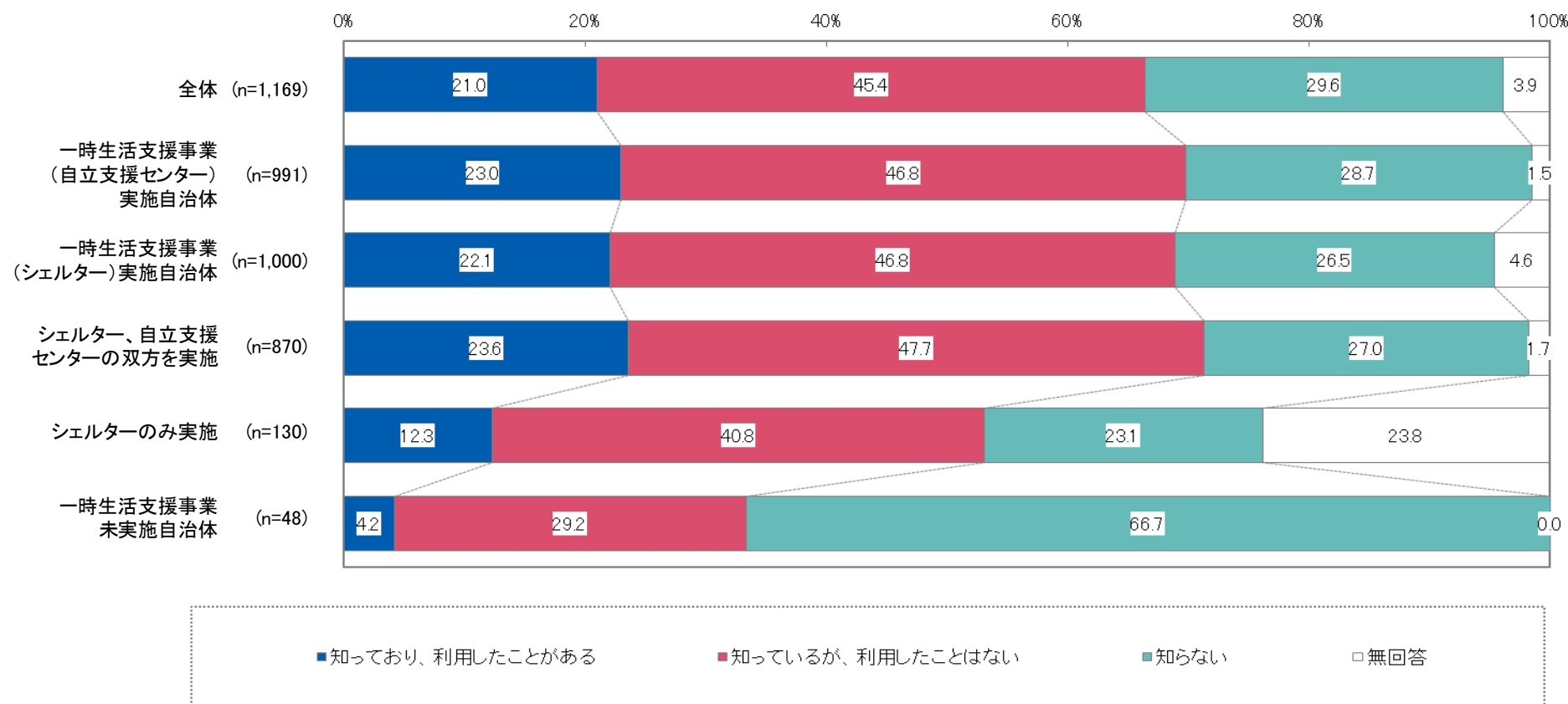


■ 自立支援センターの利用を勧められた ■ シェルターの利用を勧められた ■ その他のサービスの利用を勧められた □ 特に勧められなかった □ 無回答

問 28 シェルター内容の認知度・利用度

- ・ シェルターの内容の認知度・利用度については、「シェルターのみ」実施自治体では「知っており、利用したことがある」の割合が低く（12.3%）、「シェルター、自立支援センターの双方を実施」自治体では「知っているが利用したことはない」の割合が高い（47.7%）。

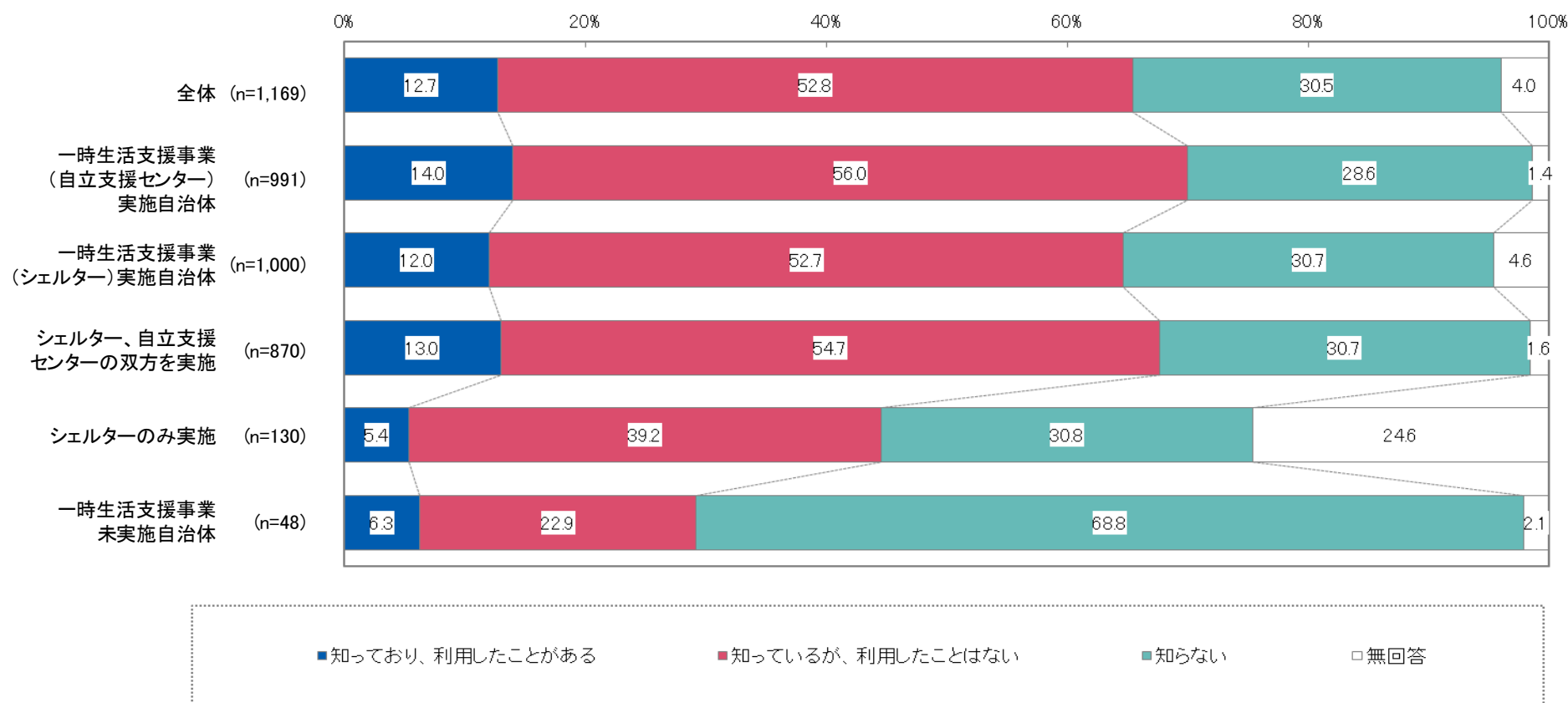
図表134 シェルター内容の認知度・利用度（地域別（事業実施別））



問 2 9 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、「自立支援センター」実施自治体では、「知っており、利用したことがある」の割合が高く（全体：12.7%、自立支援センター：14.0%）、「知っているが、利用したことはない」の割合が高い（全体：52.8%、自立支援センター 56.0%）。

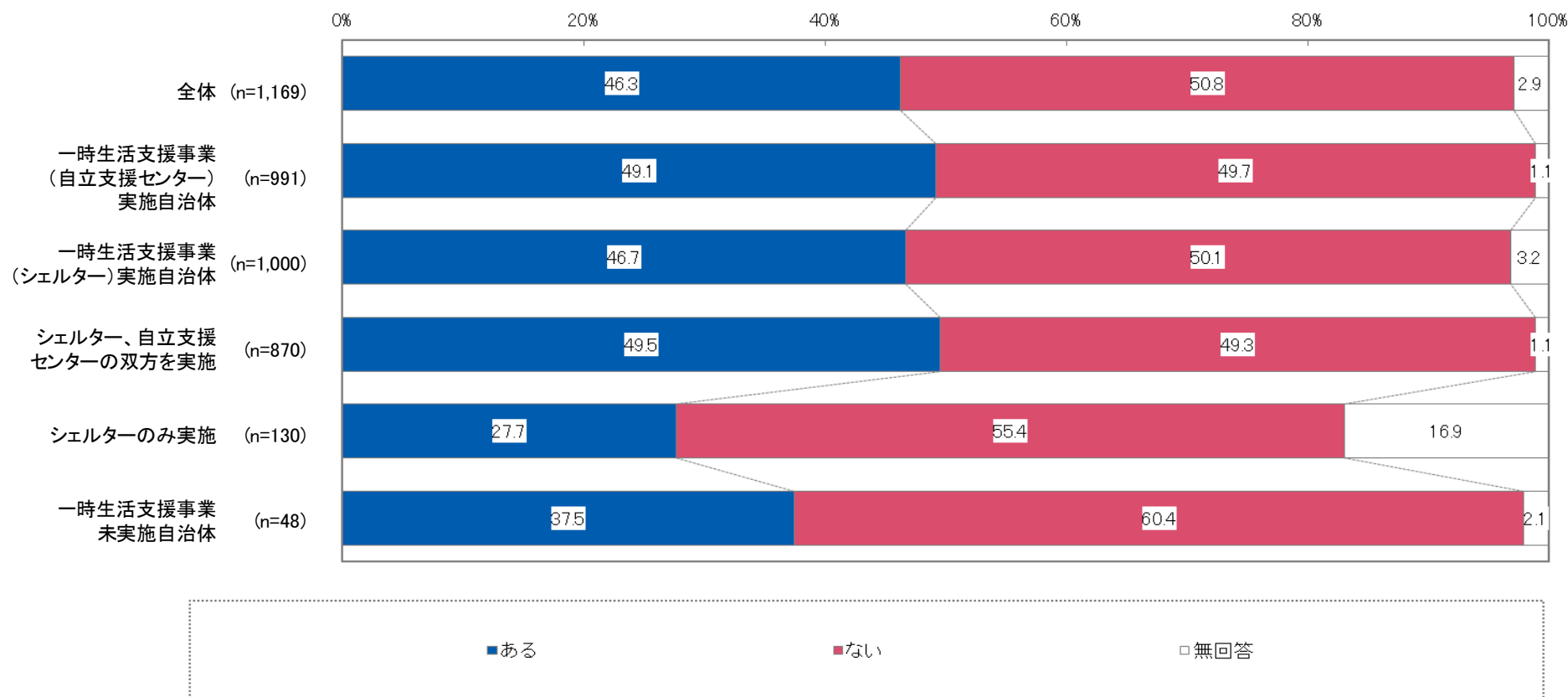
図表 135 自立支援センターの内容の認知度・利用度（地域別（事業実施別））



問 3 0 公的機関への相談

- 公的機関への相談については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ある」（全体：46.3%、シェルターのみ：27.7%、一時生活未実施：37.5%）の割合が低い。

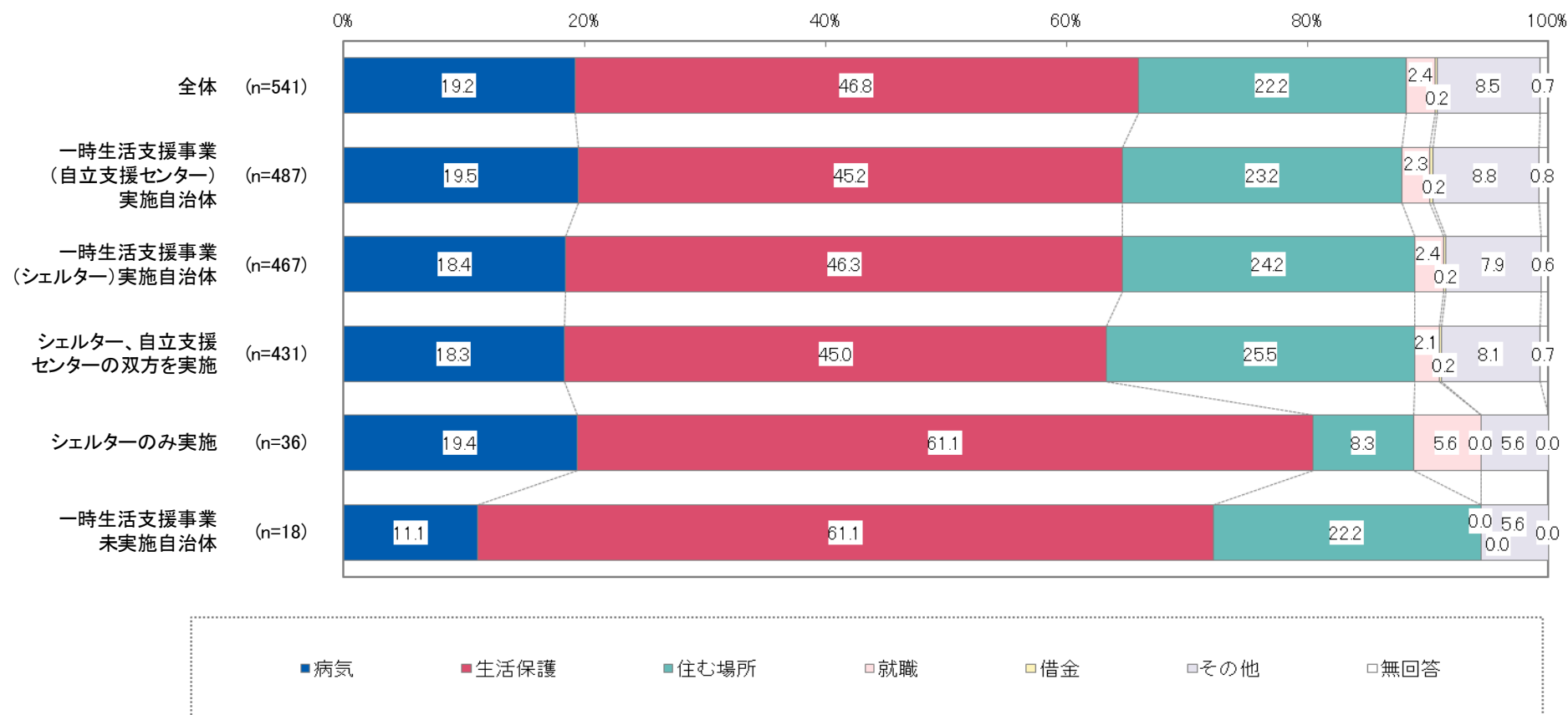
図表136 公的機関への相談（地域別（事業実施別））



問 3 0 - 1 公的機関への相談内容

- 公的機関への相談内容については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「生活保護」（全体：46.8%、シェルターのみ：61.1%、一時生活未実施：61.1%）の割合が高く、「シェルターのみ」実施自治体では「住む場所」（全体：22.2%、シェルターのみ：8.3%）の割合が低い。

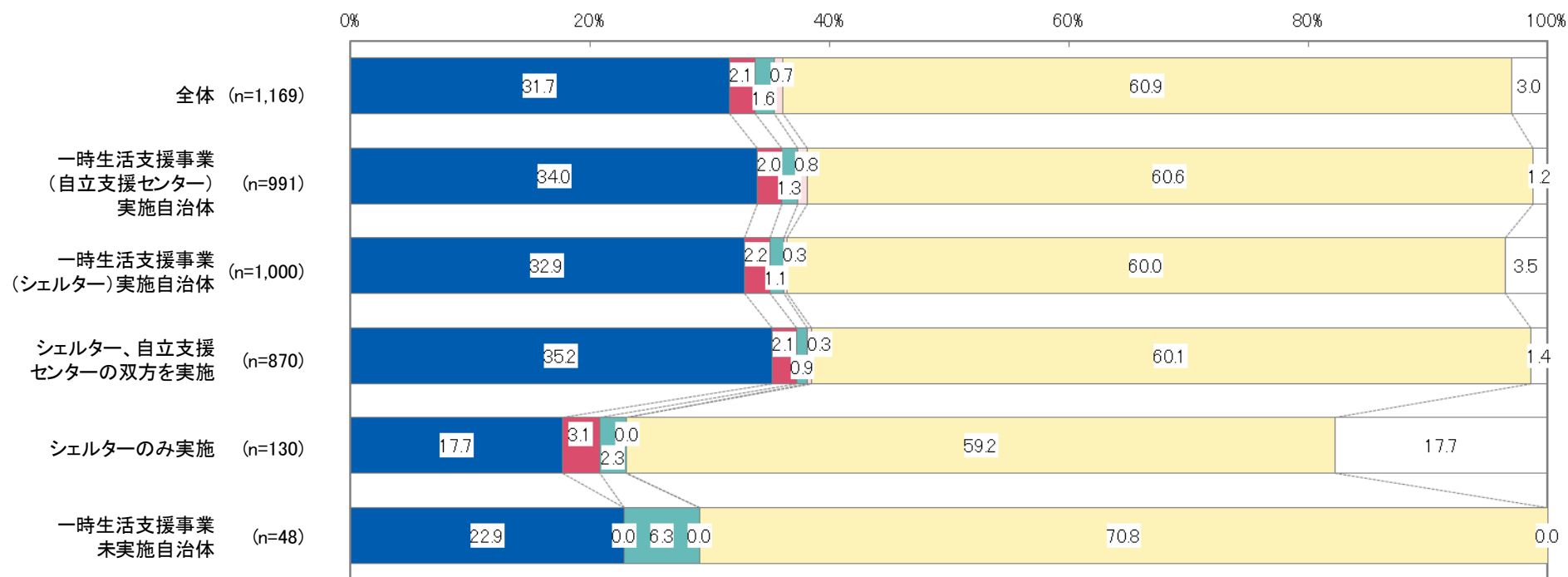
図表137 公的機関への相談内容（地域別（事業実施別））



問 3 1 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ある」（全体：31.7%、シェルターのみ：17.7%、一時生活未実施：22.9%）の割合が低い。

図表138 生活保護の利用経験（地域別（事業実施別））

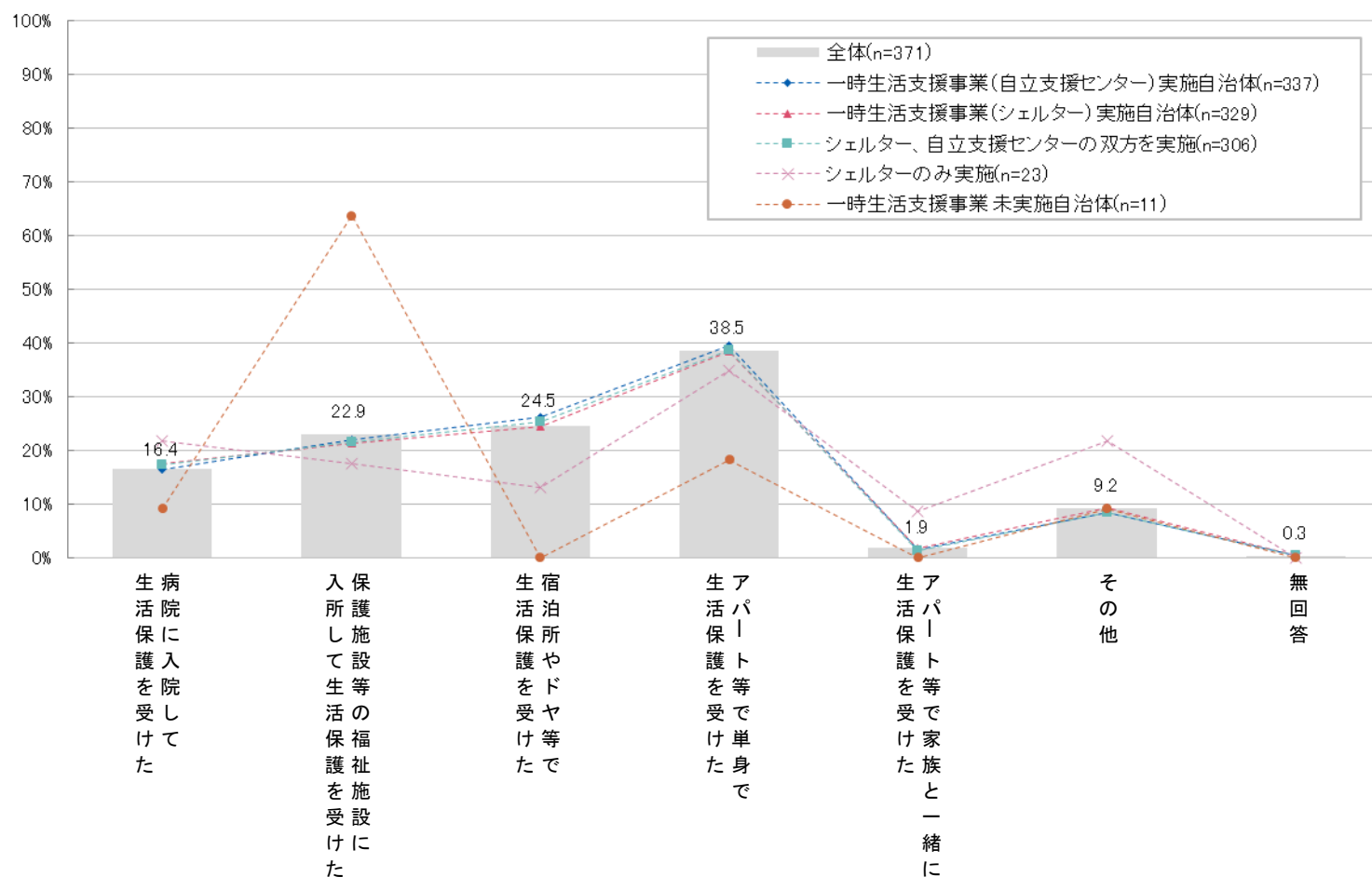


■ ある
 ■ 相談には行ったが利用したことはない
 ■ 相談には行ったが断られた
 ■ 相談に行き他の制度を勧められた
 ■ ない
 □ 無回答

問 3 1 - 1 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「一時生活支援事業未実施」自治体以外では「アパート等で単身で生活保護を受けた」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた」の割合が高い。

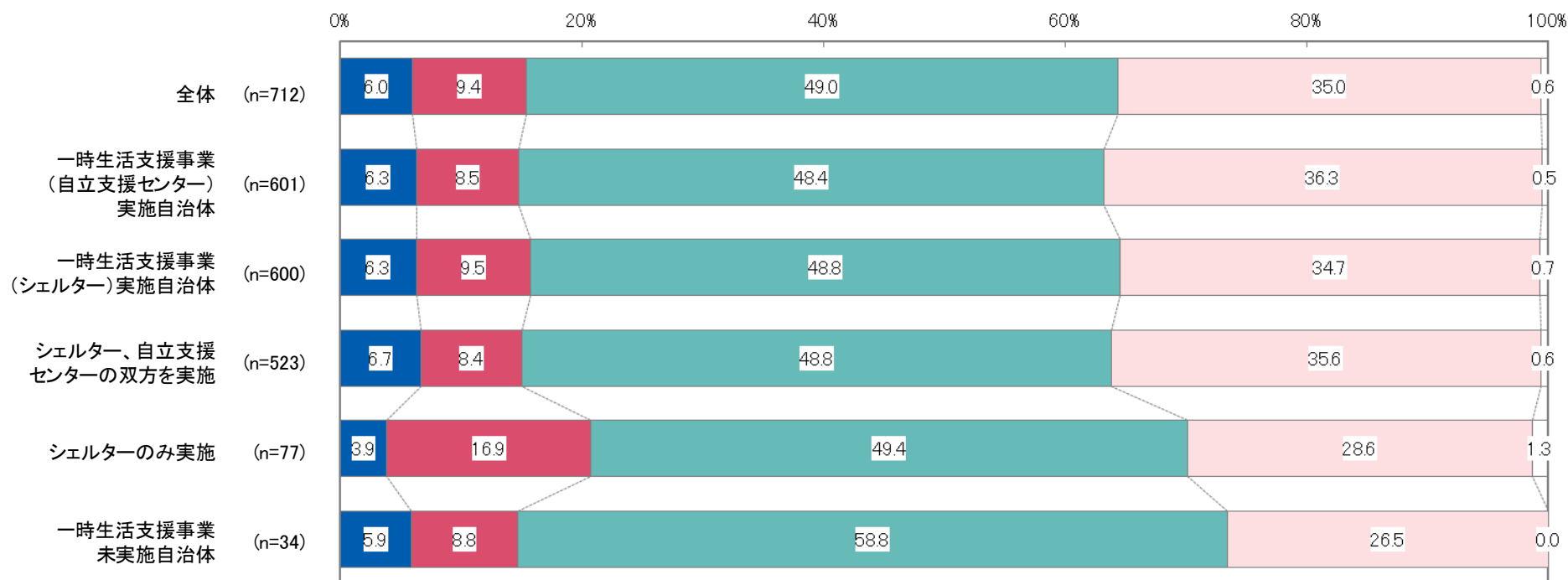
図表139 生活保護制度の利用方法（地域別（事業実施別））



問 3 1 - 3 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「シェルターのみ」実施自治体では「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（全体：9.4%、シェルターのみ：16.9%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「生活保護制度を利用したくない」（全体：49.0%、一時生活未実施：58.8%）が高い。

図表 140 生活保護制度を利用しなかった理由（地域別（事業実施別））

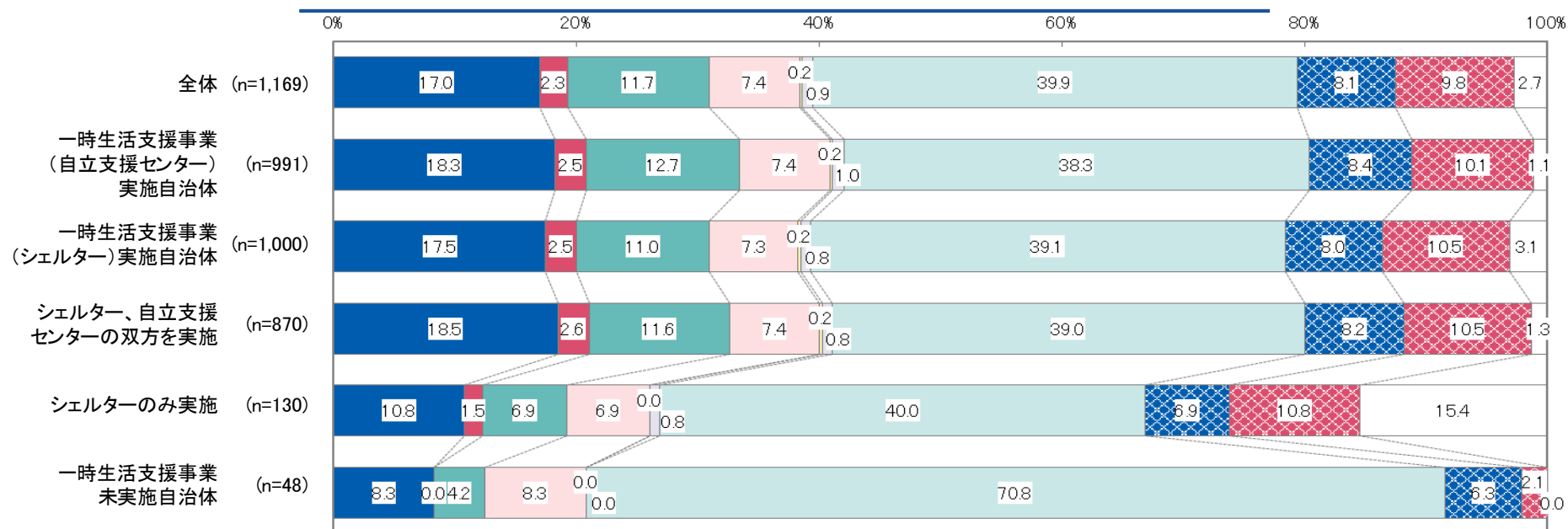


■生活保護制度を知らない ■生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている ■生活保護制度を利用したくない ■その他 □無回答

問 3 6 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：17.0%、シェルターのみ10.8%、一時生活未実施：8.3%）の割合が低く、「今のままでいい」（全体：39.9%、シェルターのみ：40.0%、一時生活未実施：70.8%）の割合が高い。

図表 141 今後望んでいる生活（地域別（事業実施別））

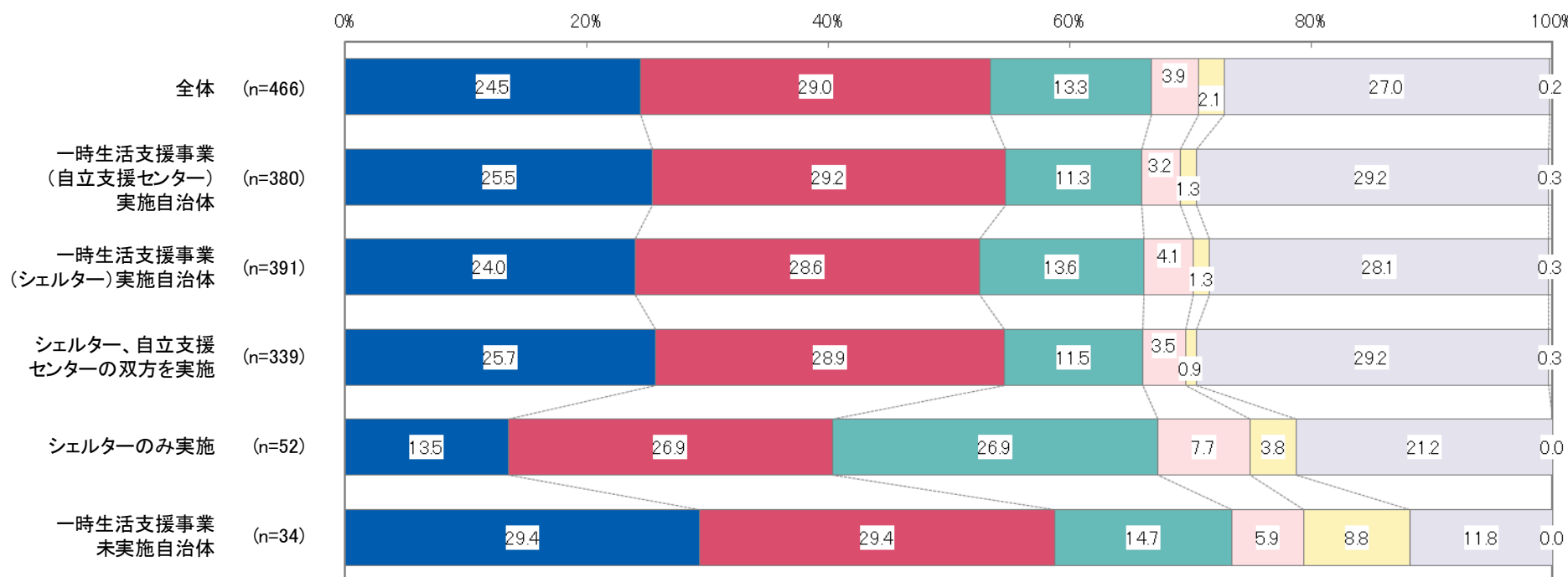


- アパートに住み、就職して自活したい
- 寮付の仕事で自活したい
- アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつけない
- 就職することはできないので何らかの福祉(生活保護や施設入所等)を利用して生活したい
- 入院したい
- 家族の元に戻りたい
- 今のままでいい(路上(野宿)生活)
- わからない
- その他
- 無回答

問 3 6 - 1 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「シェルターのみ」実施自治体では「今の場所になじんでいる」及び「福祉の支援は受けたくない」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「都市作業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高い。

図表 142 今のままでいい理由（地域別（事業実施別））



- アルミ缶、雑誌集め等の都市雑業的な仕事があるので暮らしていける
- 今の場所になじんでいる
- 福祉の支援は受けたくない
- 今後のことを考えるだけの余裕がない
- 支援を受けられと思っていない
- その他
- 無回答

地域別（人口別）

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

地域別（人口別）の傾向について

路上での生活

- 具体的な寝場所では、人口50万人以上の自治体で起居する者は公園の割合が高く、人口50万人未満の自治体で起居する者は河川の割合が高い。
- 寝場所をつくる方法では、人口50万人未満の自治体で起居する者はテント又は小屋を常設する割合が高い。
- 仕事では、人口50万人未満、200万人以上の自治体で起居する者は仕事により収入を得ている割合が高い。

路上生活までのいきさつ

- 初めて路上生活をする前に住んでいた地域との関係では、人口30万人未満の自治体で起居する者は同一都道府県内の別の市町村から移動している割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルター、自立支援センターの周知度は、30万人以上の自治体に起居する者では知っている割合が高く、利用度では、50万人以上の自治体に起居する者で利用した経験がある割合が高い。
- 生活保護では、人口50万人以上の自治体に起居する者は利用経験の割合が高い。また、人口50万人～100万人の自治体に起居する者は、制度を利用できないと思っている割合が高い。

地域別（人口別）の傾向について

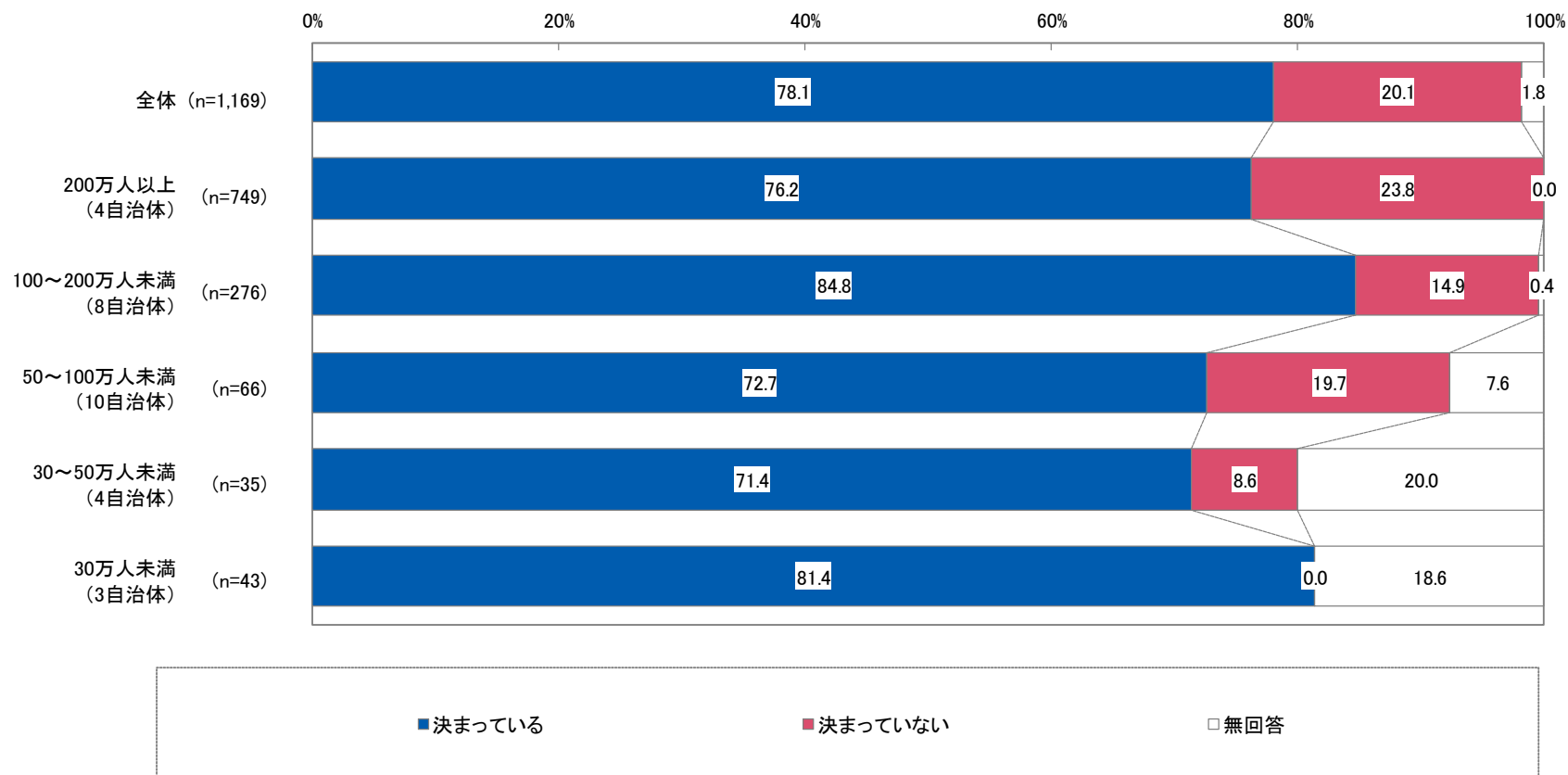
今後の生活

- 今後望んでいる生活では、人口規模の小さい自治体になればなるほど、現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

問 1 寝ている場所

- 寝ている場所については、「人口100～200万人未満」の自治体では「一定の場所で決まっている」の割りたいが高く（全体：78.1%、人口100～200万未満：84.8%）、「200万人以上」の自治体では「決まっていない」の割合が高い（全体：20.1%、人口200万人以上：23.8%）。

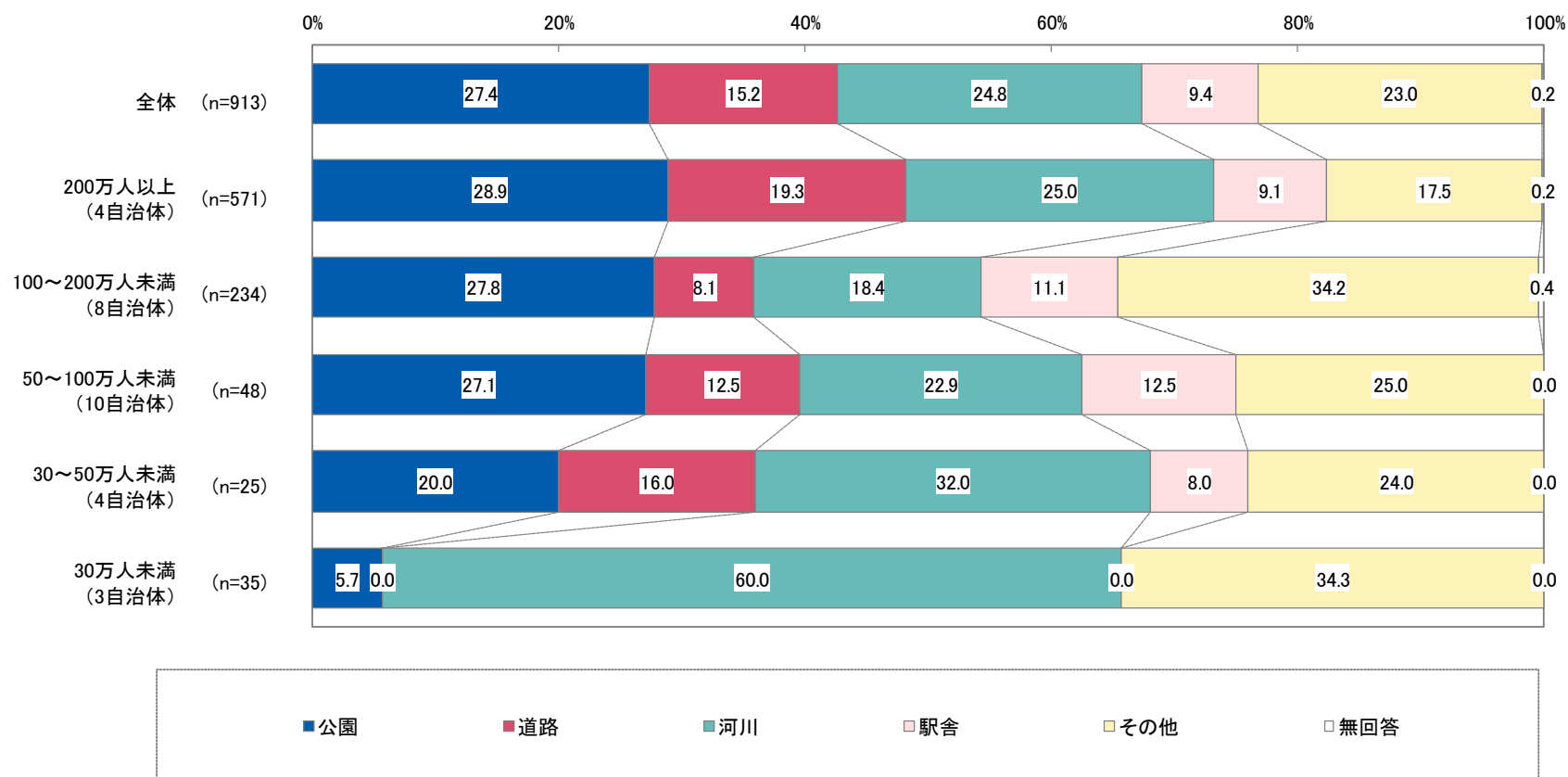
図表143 寝ている場所（地域別（人口別））



問 1 - 1 寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「人口200万人以上」の自治体では「公園」及び「道路」の割合が高く（それぞれ28.9%、19.3%）、「人口30万人未満」の自治体では「河川」の割合が高い（60.0%）。

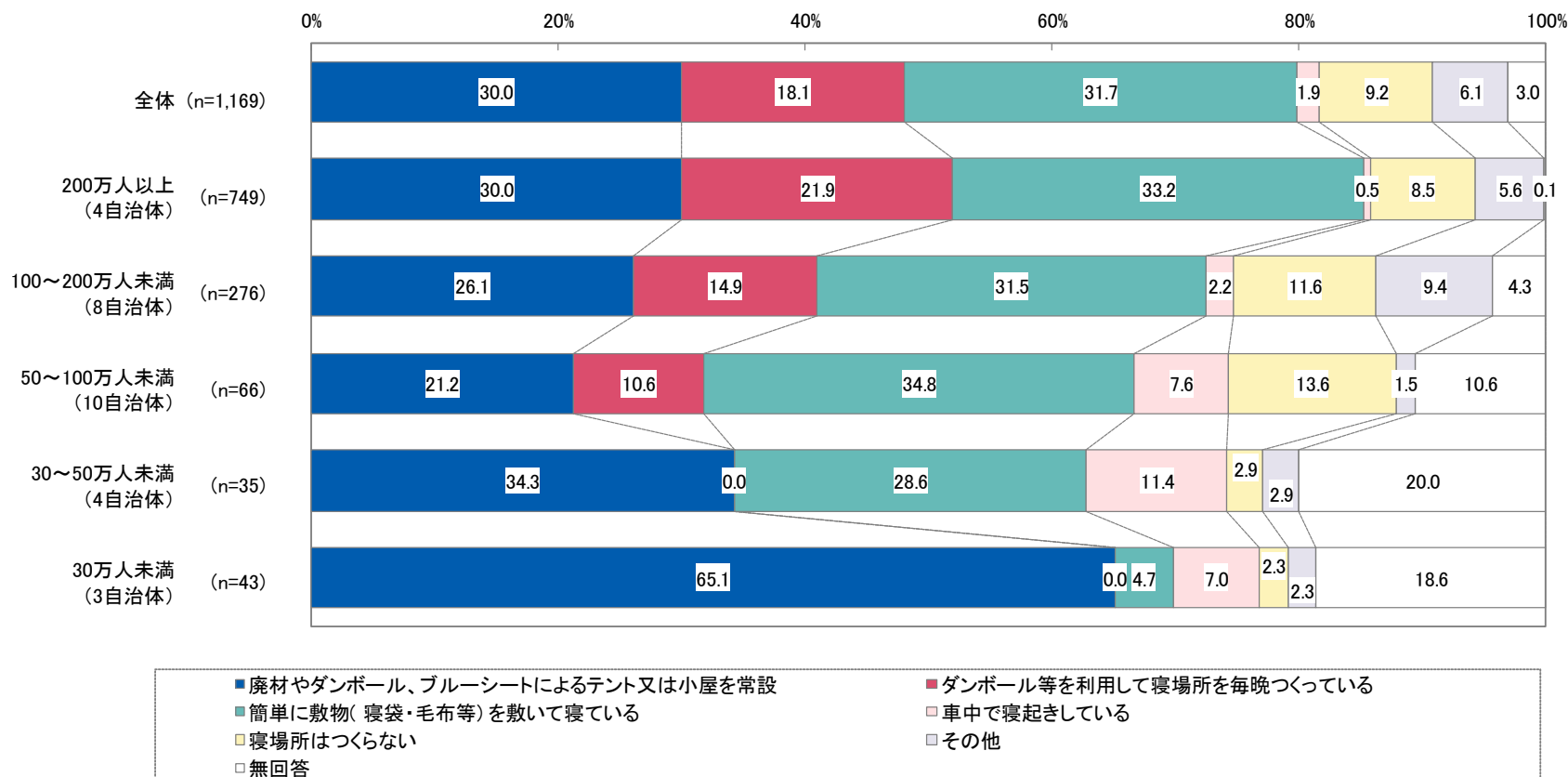
図表144 寝ている場所（具体的に）（地域別（人口別））



問 2 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「人口50万人以上」の自治体では「敷物を敷いて寝ている」の割合が高く、「人口200万人以上」の自治体では「ダンボール等を利用」の割合が高く（21.9%）、「人口30万人未満」の自治体では「小屋を常設」の割合が高い（65.1%）。

図表145 寝場所を作る方法（地域別（人口別））



問 4 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上生活の継続については、「人口200万人以上」の自治体では「時々、ドヤ、飯場、ホテル等」の割合が高く（19.0%）、「人口30万人未満」の自治体では「ずっと路上生活をしていた」の割合が高く（69.8%）、「人口100～200万人未満」の自治体では「自立支援センターに一時的に」の割合が高い（3.3%）。

図表146 今回の路上生活の継続について（地域別（人口別））

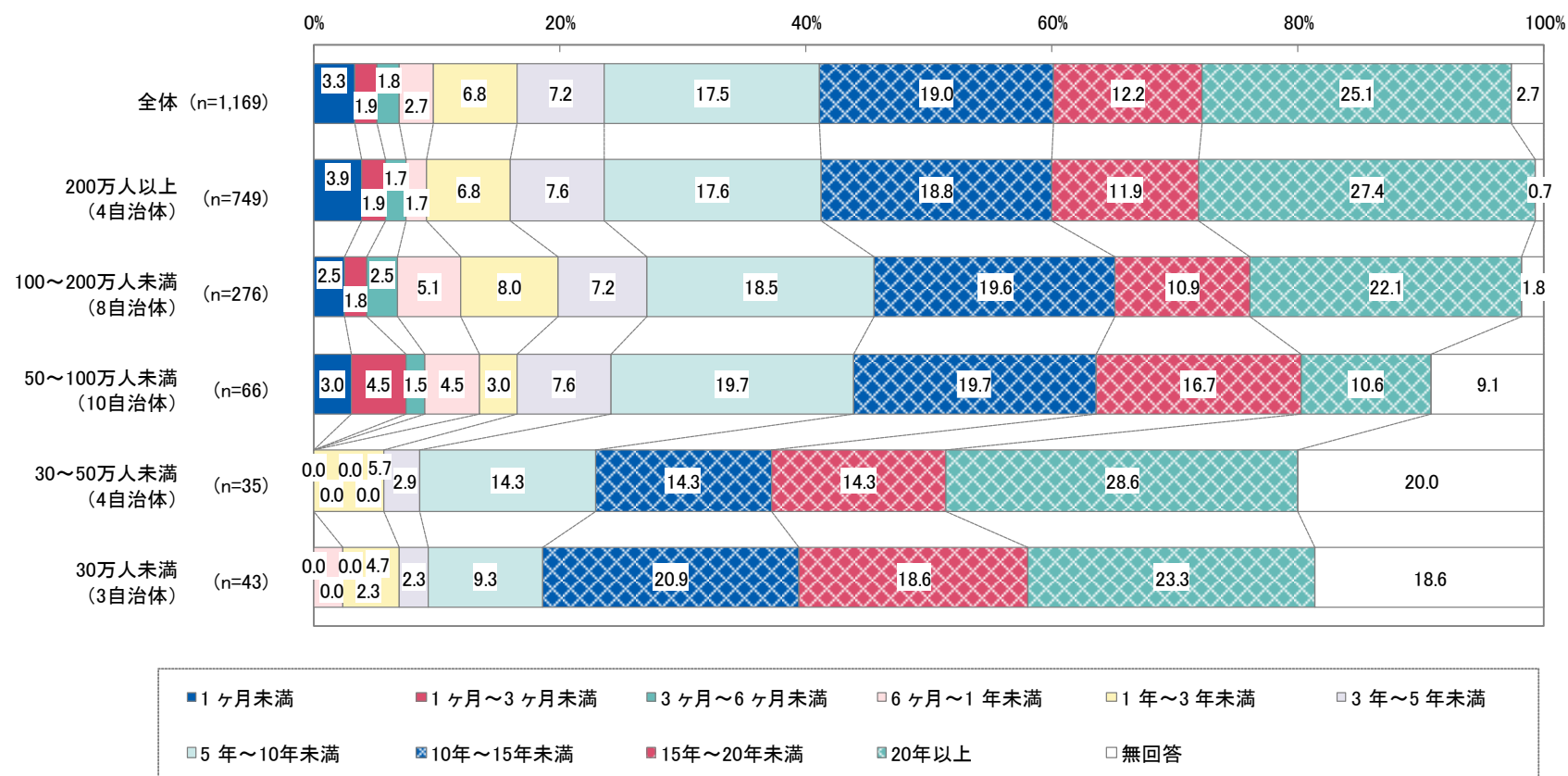


- ずっと路上(野宿)生活をしていた
- 時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた
- 病院に一時的に入っていたことがある
- 施設に一時的に入っていたことがある
- 自立支援センターに一時的に入っていたことがある
- 緊急一時宿泊施設(シェルター)(一時生活支援事業)等に一時的に入っていたことがある
- その他
- 無回答

問 5 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上（野宿）生活をしてからの期間については、「人口30万人未満」の自治体では「10年以上」の割合が高い。

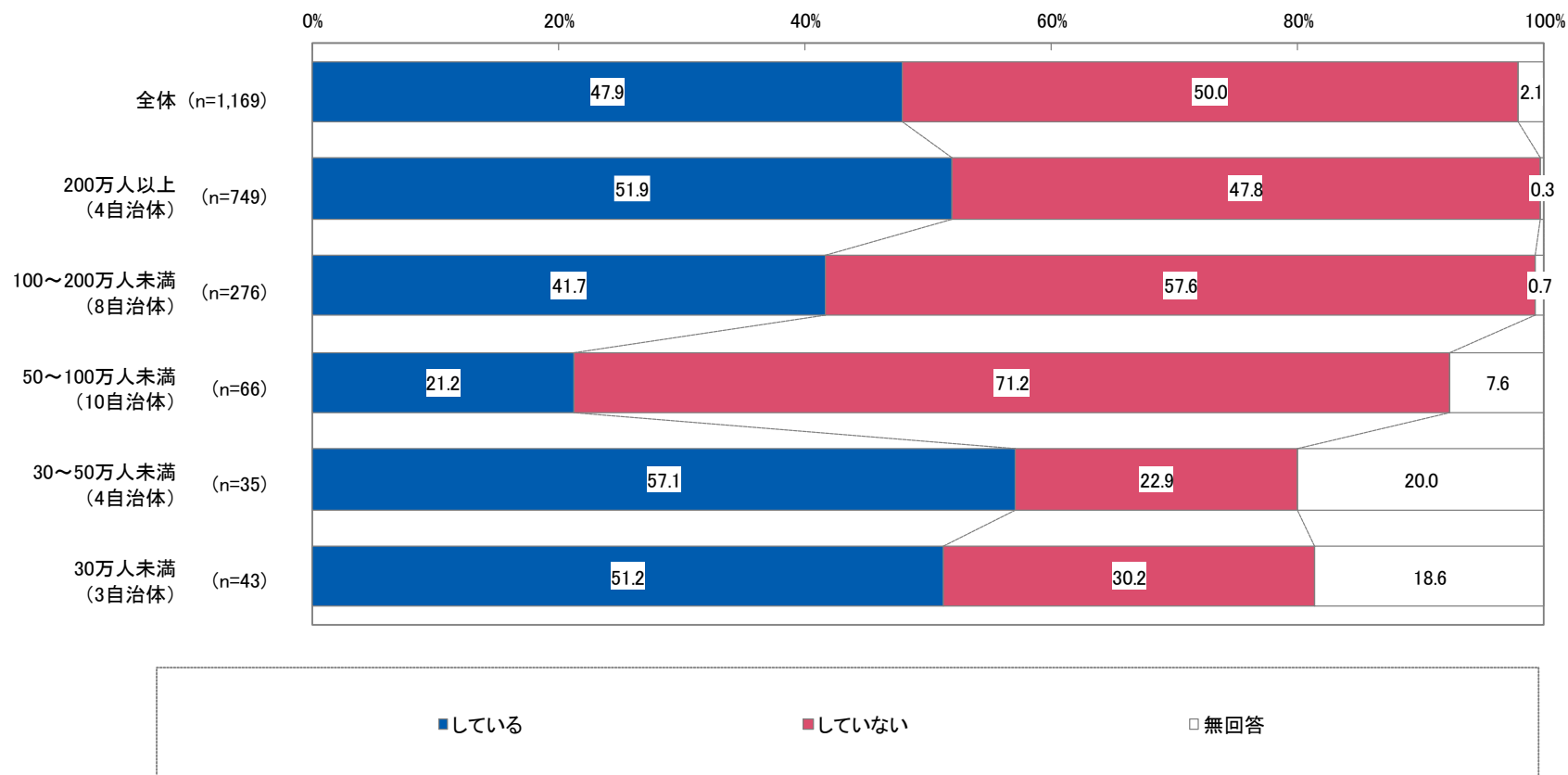
図表147 初めて路上生活をしてからの期間（地域別（人口別））



問 6 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについては、「人口30～50万人未満」の自治体では「している」（全体：47.9%、30～50万人未満：57.1%）の割合が高く、「人口50～100万人未満」の自治体では「していない」の割合が高い（71.2%）。

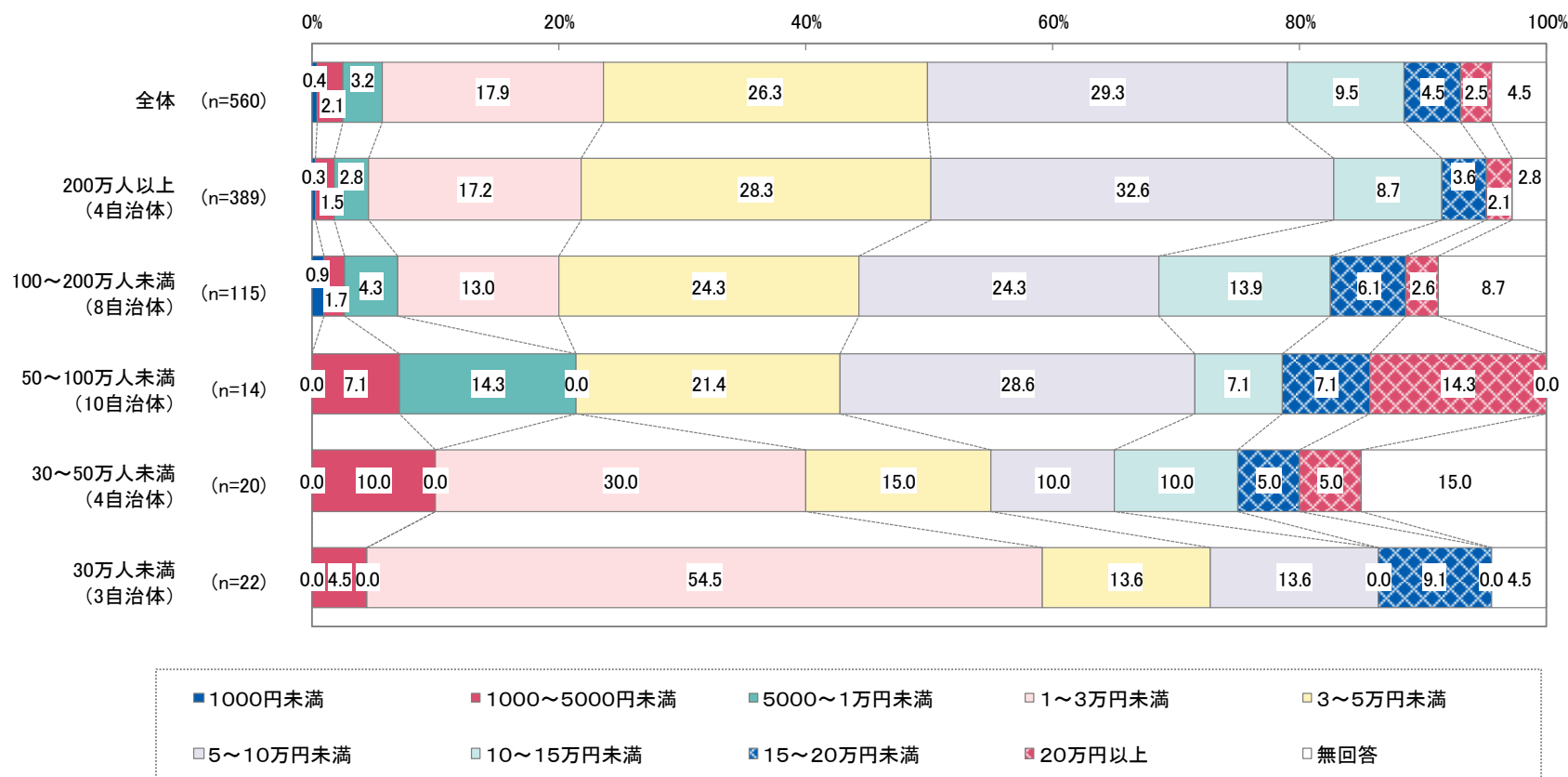
図表148 現在収入のある仕事（地域別（人口別））



問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による収入（月額）については、「人口50万人未満」の自治体では「1～3万円未満」（全体：17.9%、30～50万人未満の自治体：30.0%、30万人未満：54.5%）の割合が高く、「人口200万人以上」の自治体では「5～10万円未満」（全体：29.3%、200万人以上：32.6%）の割合が高い。

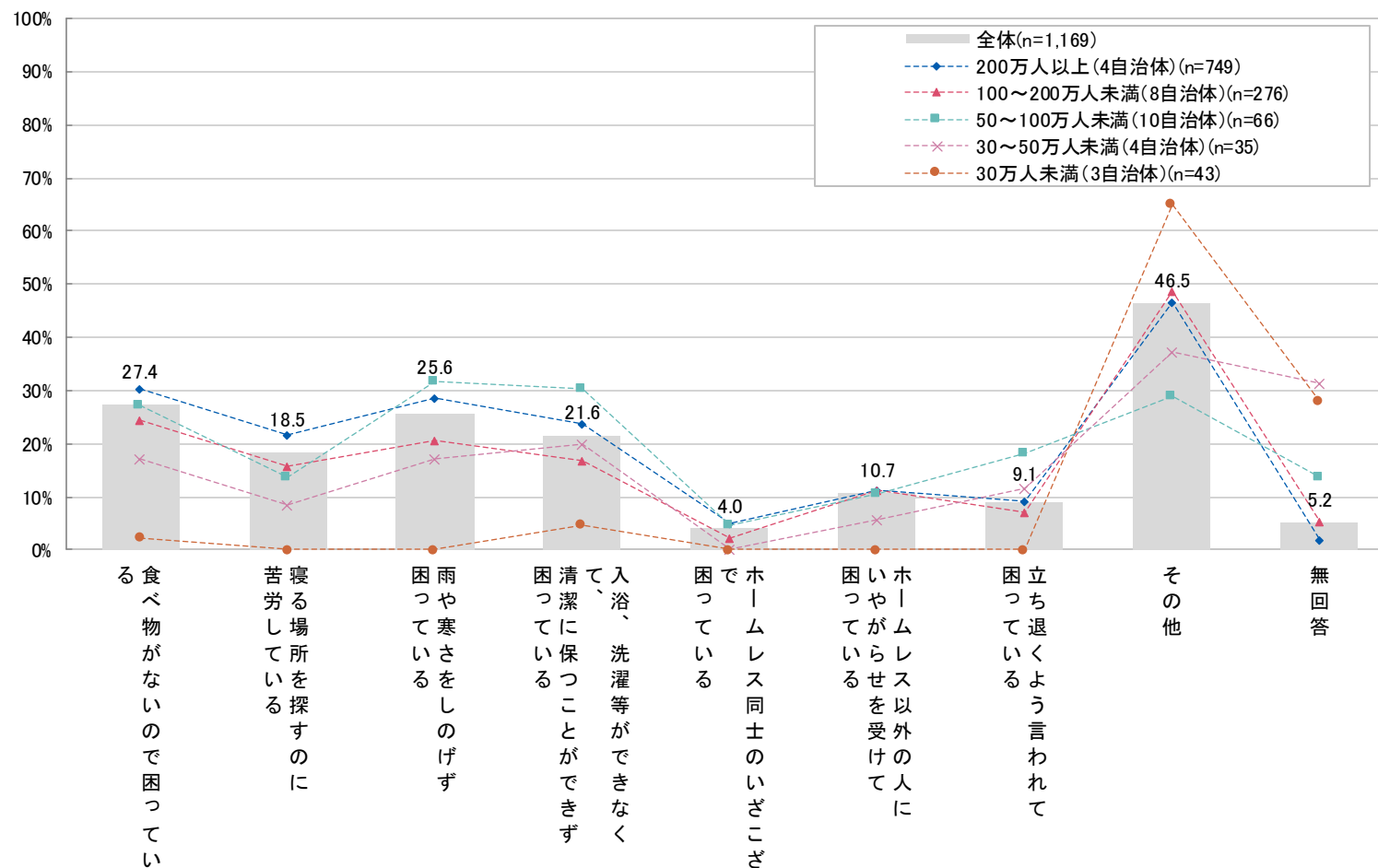
図表149 仕事による平均収入（地域別（人口別））



問 8 路上生活で困っていること

- 路上（野宿）生活の中で、困っていることについては、「人口200万人以上」の自治体では「食べ物が十分にないので困っている」の割合が高く、「人口50～100万人」では「雨や寒さをしのげずに困っている」の割合が高い。

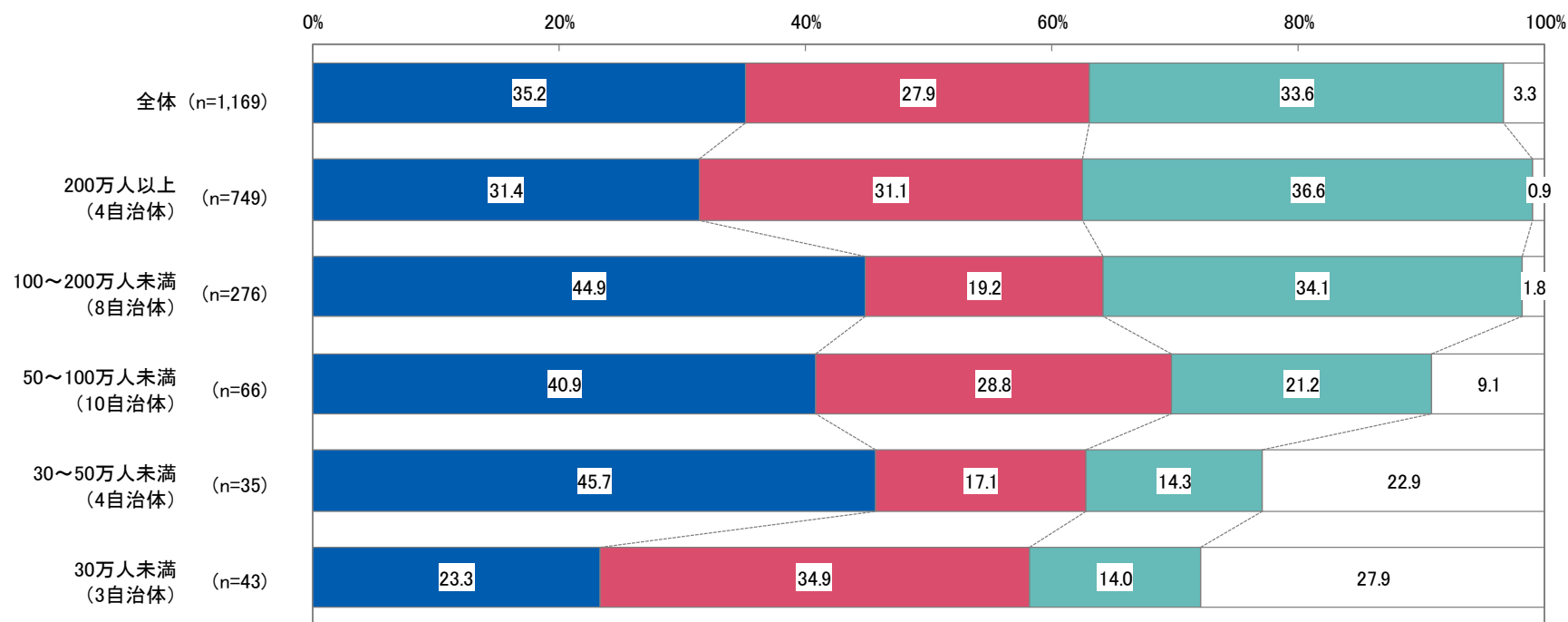
図表150 路上生活で困っていること（地域別（人口別））



問 1 3 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「人口30～50万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村の割合が高く（全体：35.2%、人口50～100万人未満：45.7%）、「人口30万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」（全体：27.9%、30万人未満：34.9%）の割合が高い。

図表151 初めて路上生活をする前に住んでいた地域（地域別（人口別））



■現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の同じ市区町村

■現在路上(野宿)生活をしている都道府県内の別の市区町村

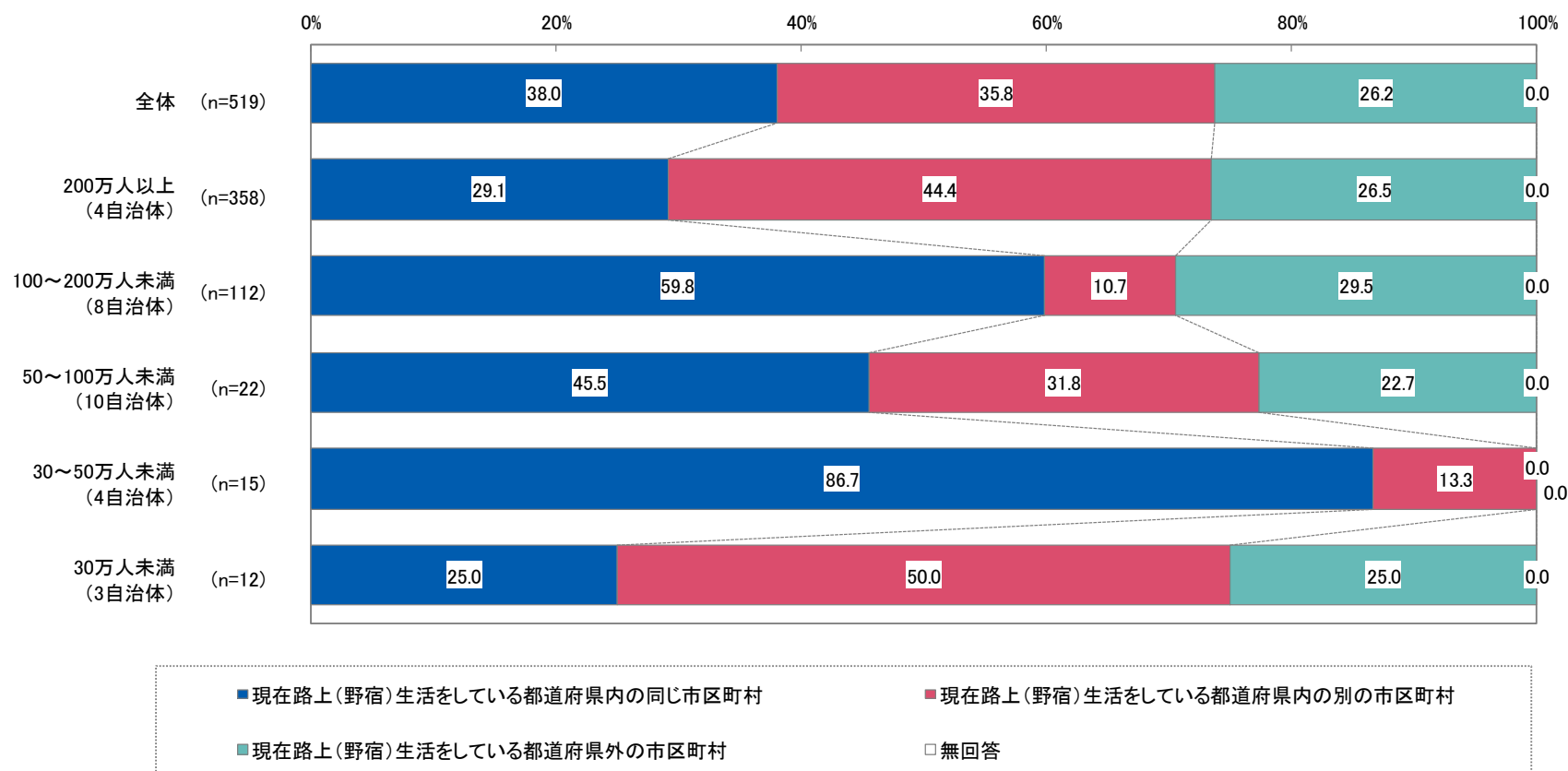
■現在路上(野宿)生活をしている都道府県外の市区町村

□無回答

問 1 8 - 1 別の路上生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所での経験については、「人口30～50万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高く（全体：38.0%、30～50万人未満：86.7%）、「人口200万人以上」及び「人口30万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」の割合が高く割合が高い（それぞれ44.4%、50.0%）。

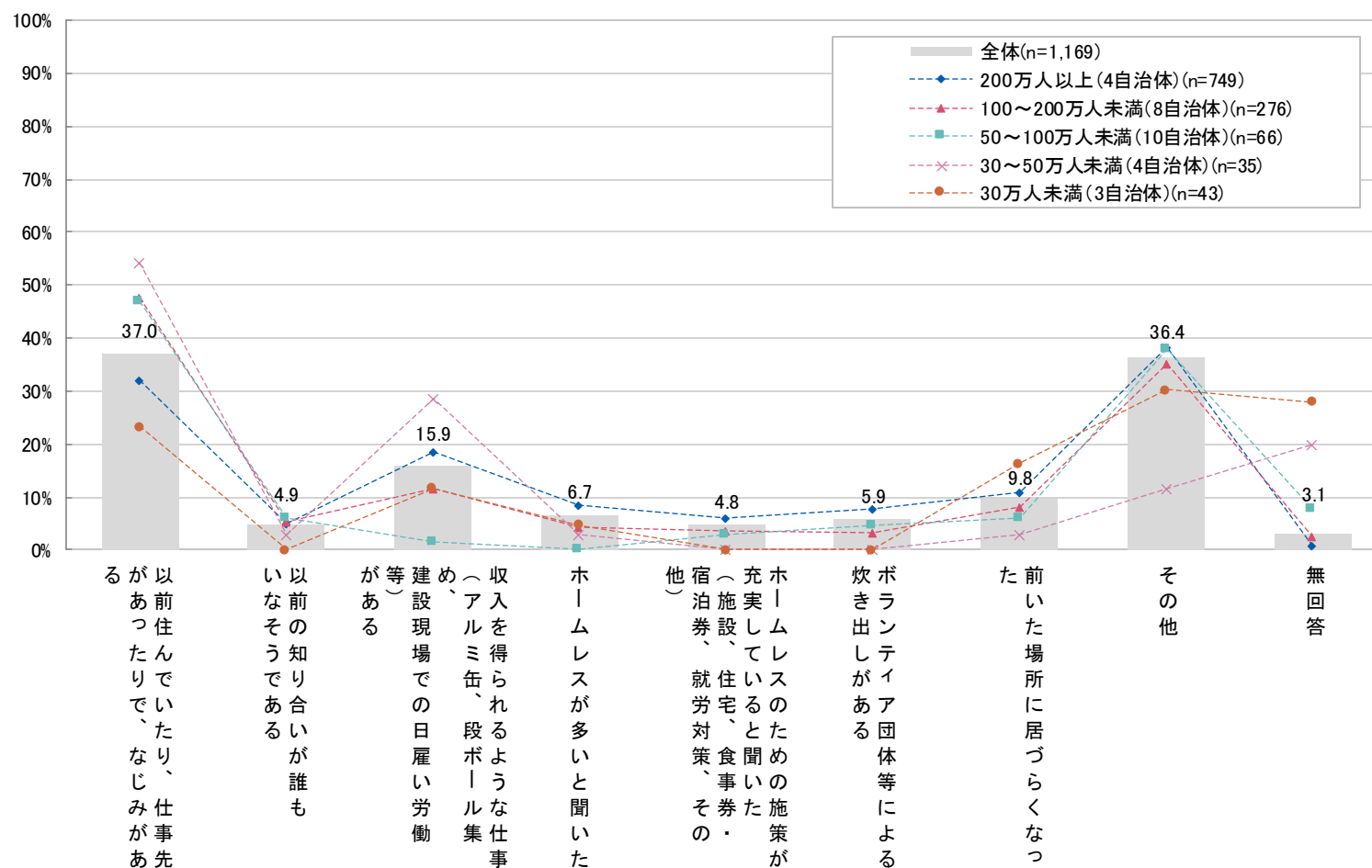
図表152 別の路上生活場所（地域別（人口別））



問 1 9 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村にきた主な理由については、「人口30～50万人未満」の自治体では「以前住んでいた、仕事先があったり、なじみがある」の割合が高く、「人口200万人以上」の自治体では「ホームレスが多いと聞いた」の割合が高く、「人口30万人未満」の自治体では「前いた場所に居づらくなった」の割合が高い。

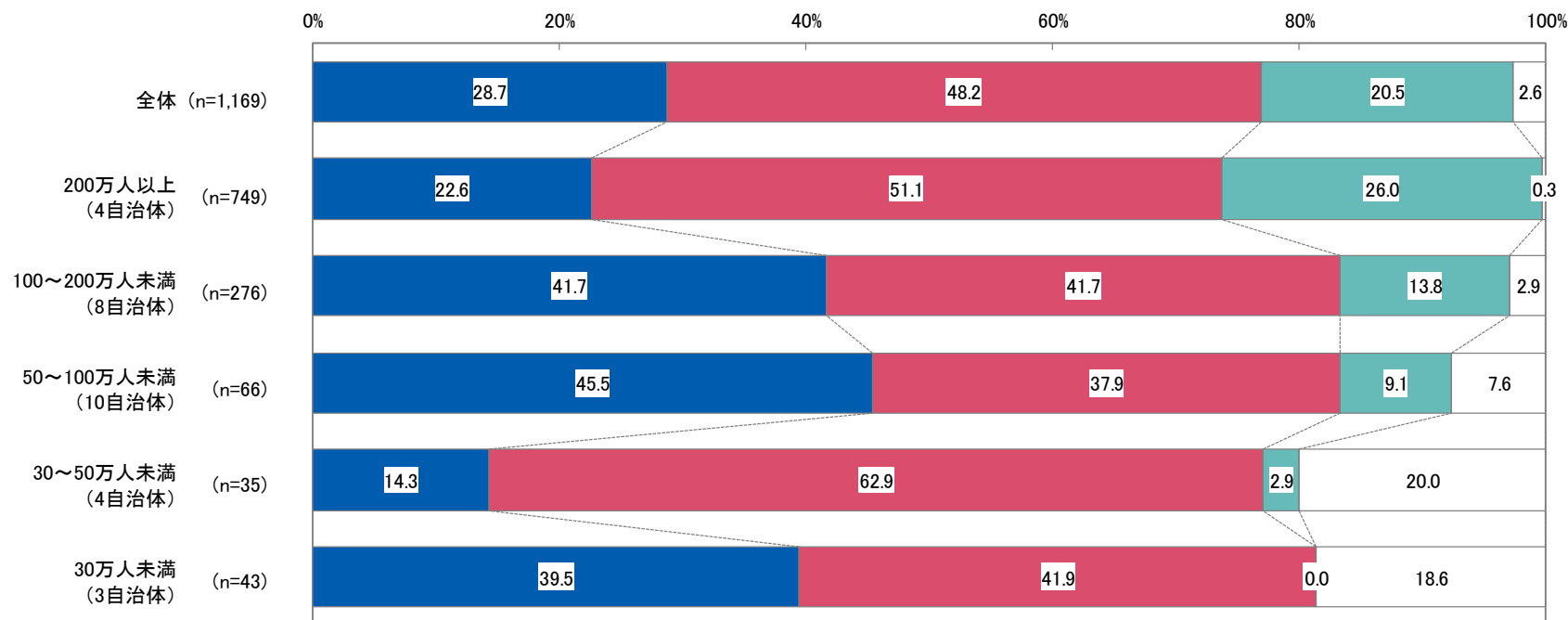
図表153 現在の市区町村にきた主な理由（地域別（人口別））



問 2 7 巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「人口100～200万人未満」及び「人口50～100万人未満」の自治体では「会ったことがあり、相談した」（全体：28.7%、100～200万人未満：41.7%、50～100万人未満：45.5%）の割合が高い。
- 「人口30～50万人未満」の自治体では「会ったことはあるが、相談したことはない」（全体：48.2%、30～50万人未満：62.9%）の割合が高い。

図表154 巡回相談員に会ったこと（地域別（人口別））



■ 会ったことがあり、相談した

■ 会ったことはあるが、相談したことはない

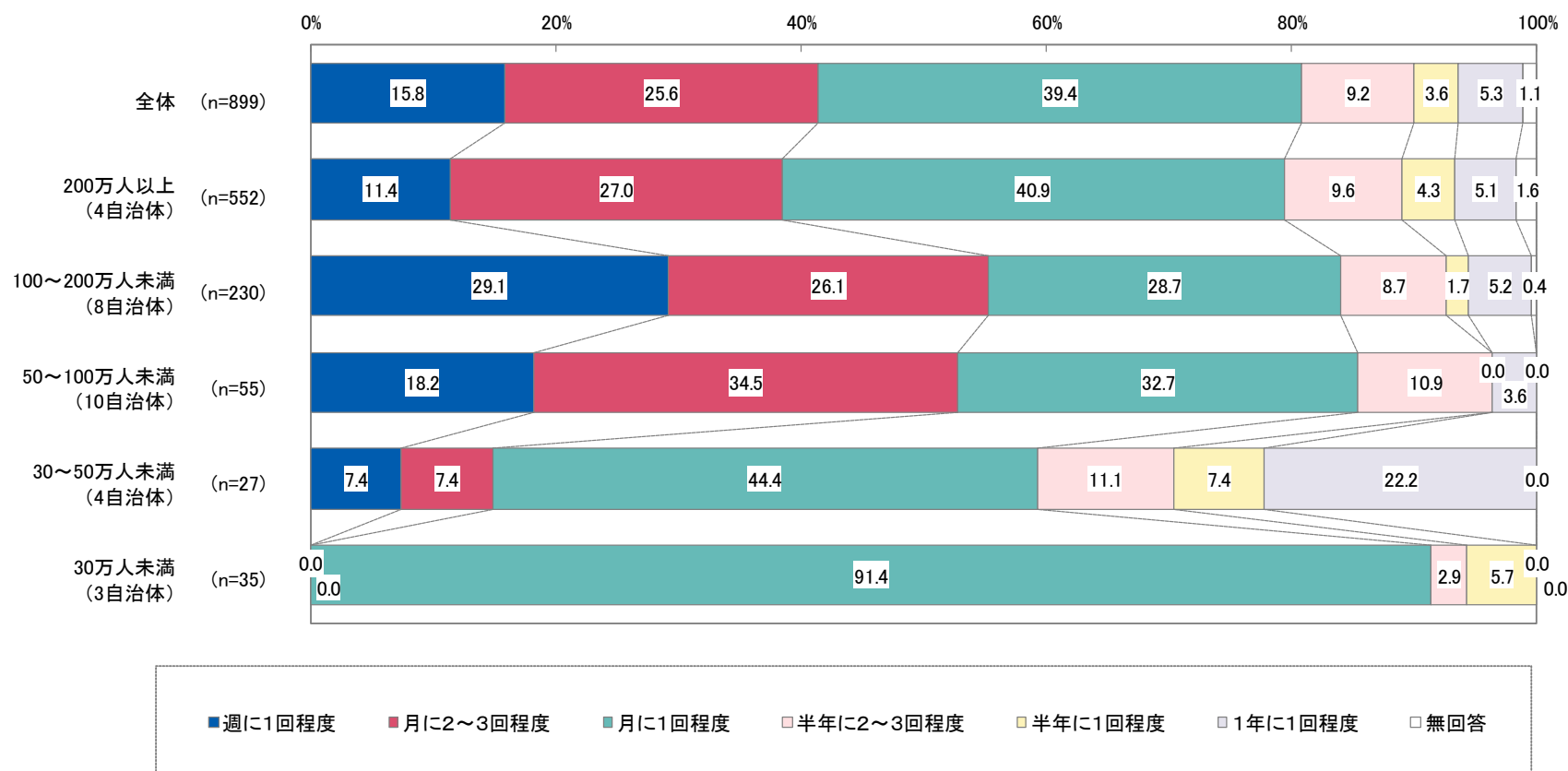
■ 会ったことはない

□ 無回答

問 27-1 巡回の頻度

- 巡回の頻度については、「人口100～200万人未満」の自治体では「週に1回程度」（29.1%）の割合が高く、「人口50～100万人未満」の自治体では「月に2～3回程度」（34.5%）の割合が高く、「人口30～50万人未満」及び「人口30万人未満」の自治体では「月に1回程度」（全体：39.4%、30～50万人未満：44.4%、30万人未満：91.4%）の割合が高い。

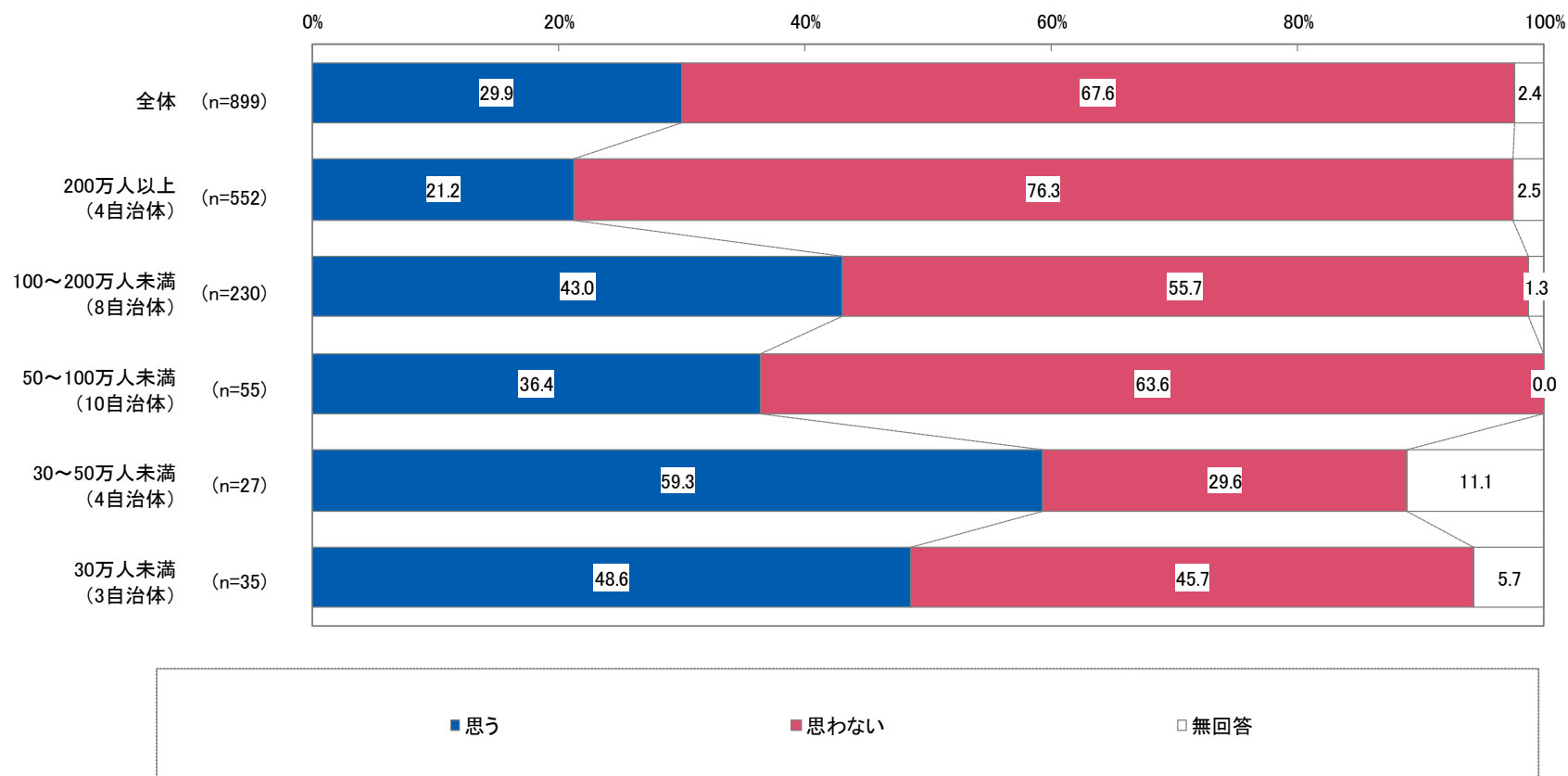
図表155 巡回の頻度（地域別（人口別））



問 27-2 頻繁に巡回するようになったと思うか

- 巡回相談員が頻繁に巡回するようになったと思うかについては、「人口30～50万人未満」及び「人口30万人未満」の自治体では「思う」（全体：29.9%、30～50万人未満：59.3%、30万人未満：48.6%）の割合が高い。

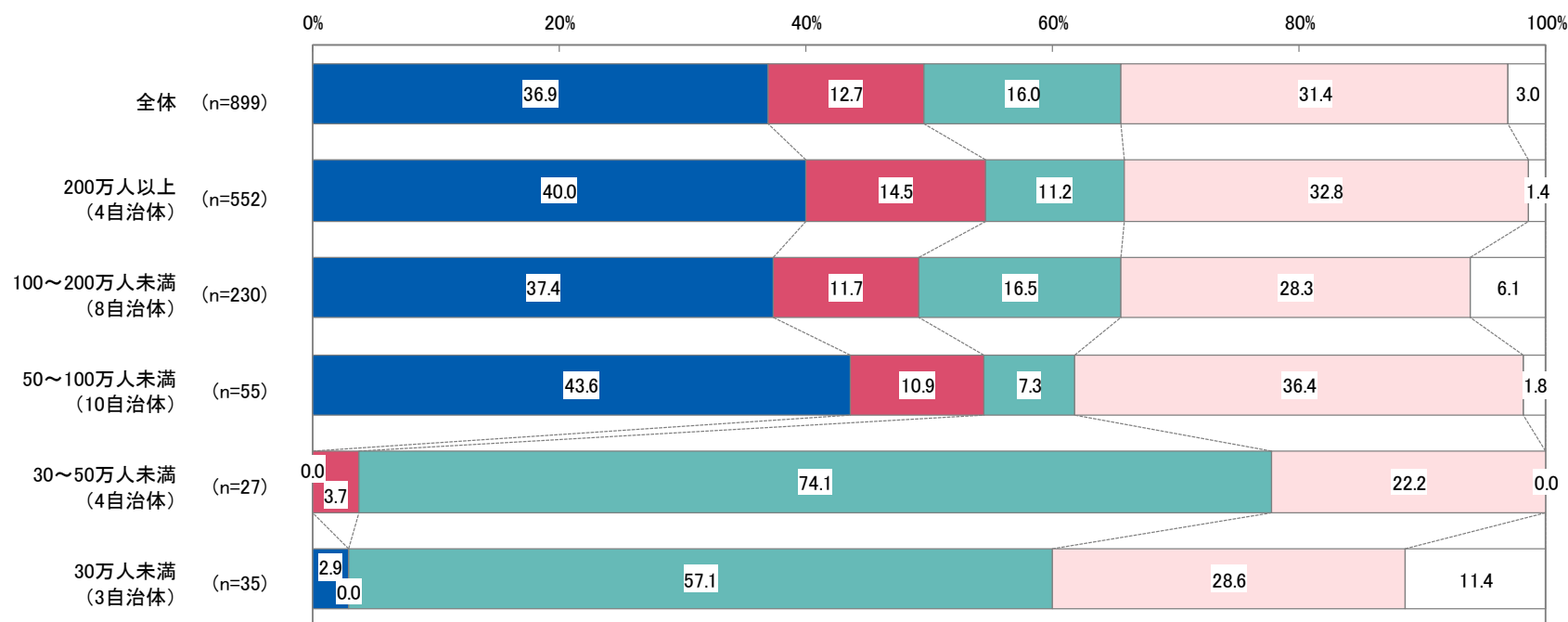
図表156 頻繁に巡回するようになったと思うか（地域別（人口別））



問 27-4 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められたかについては、「人口50～100万人未満」の自治体では「自立支援センターの利用を勧められた」の割合が高く（43.6%）、「人口30～50万人未満」の自治体では「その他のサービスの利用を勧められた」の割合が高いが（74.1%）。

図表157 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（地域別（人口別））

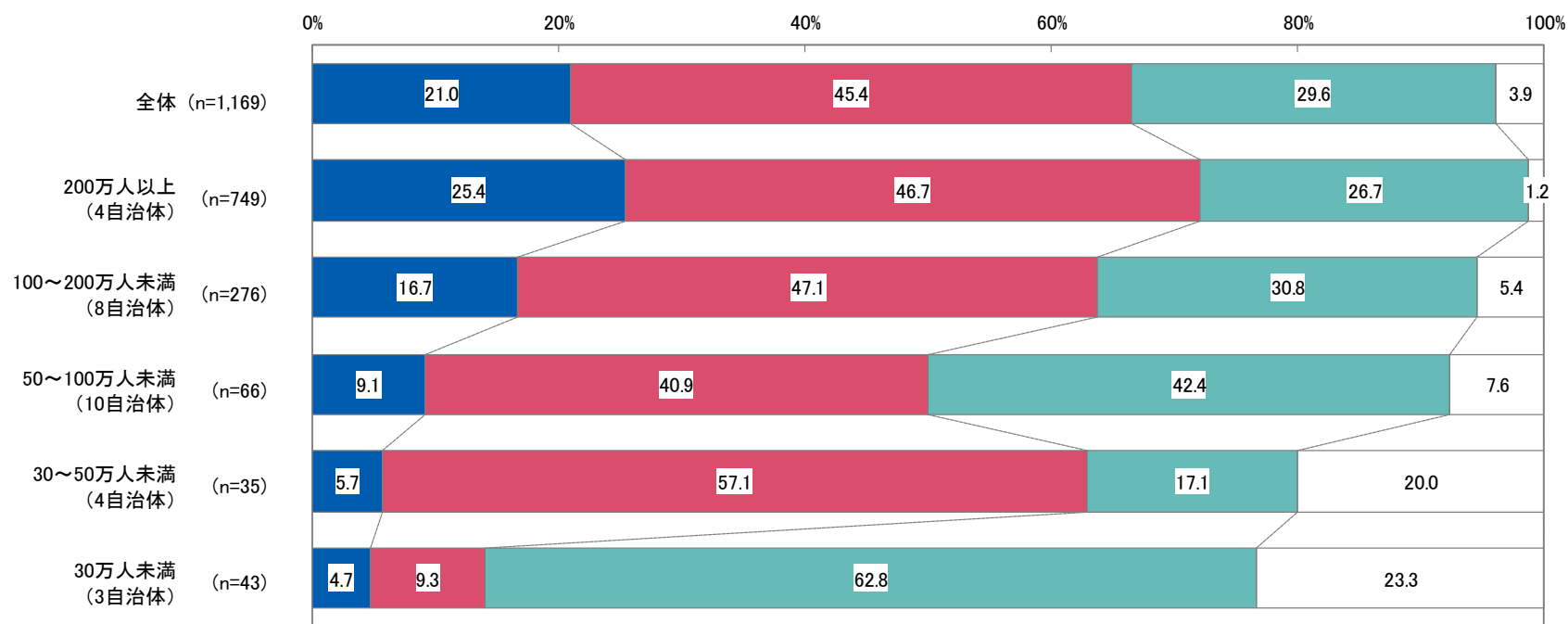


■ 自立支援センターの利用を勧められた ■ シェルターの利用を勧められた ■ その他のサービスの利用を勧められた ■ 特に勧められなかった ■ 無回答

問 2 8 シェルター内容の認知度・利用度

- ・ シェルターの内容の認知度・利用度については、認知度・利用度ともに「人口200万人以上」の自治体では割合が高い。

図表158 シェルター内容の認知度・利用度（地域別（人口別））



■ 知っており、利用したことがある

■ 知っているが、利用したことはない

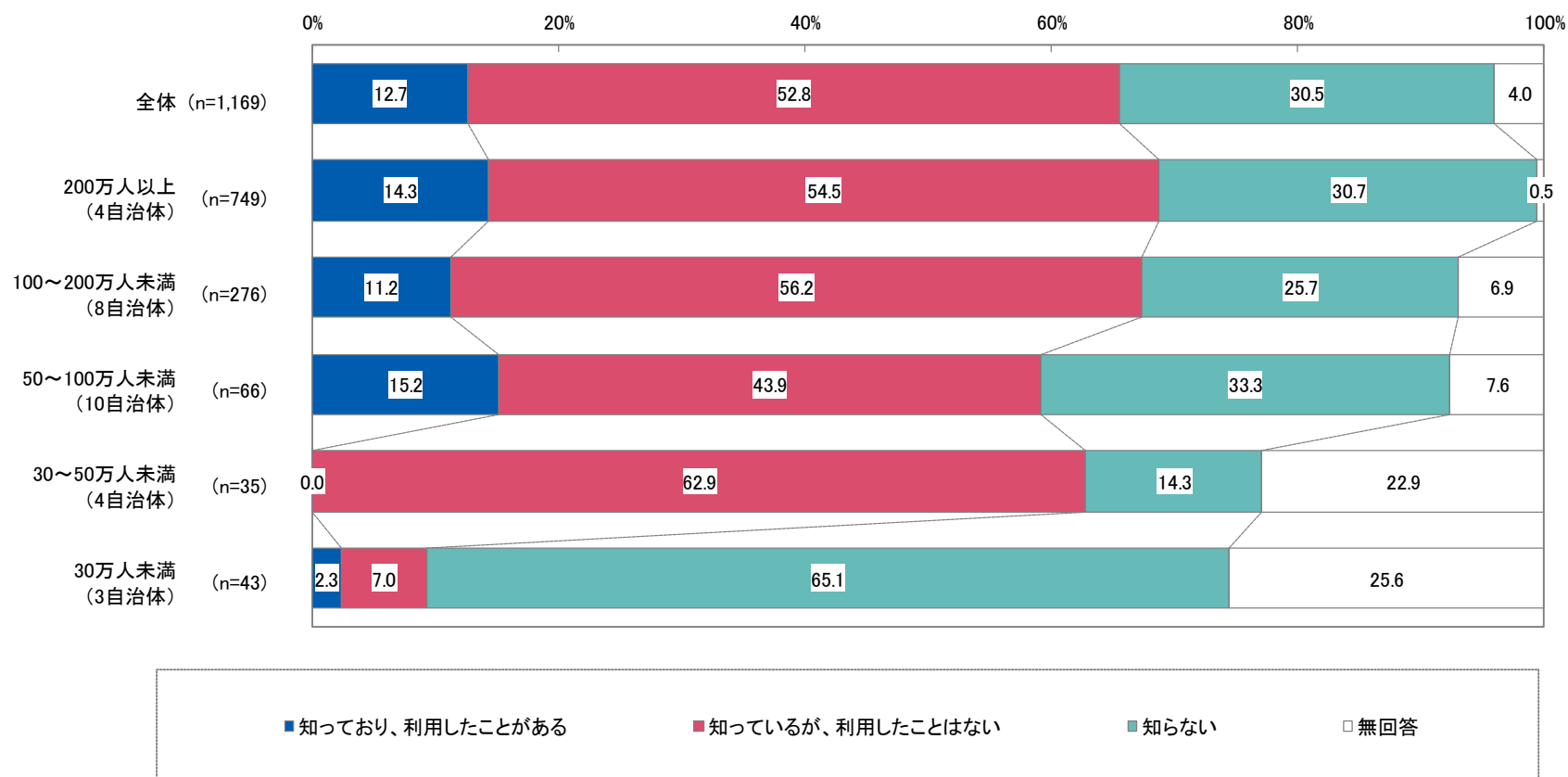
■ 知らない

□ 無回答

問 2 9 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、認知度・利用度ともに「人口200万人以上」の自治体では割合が高い。

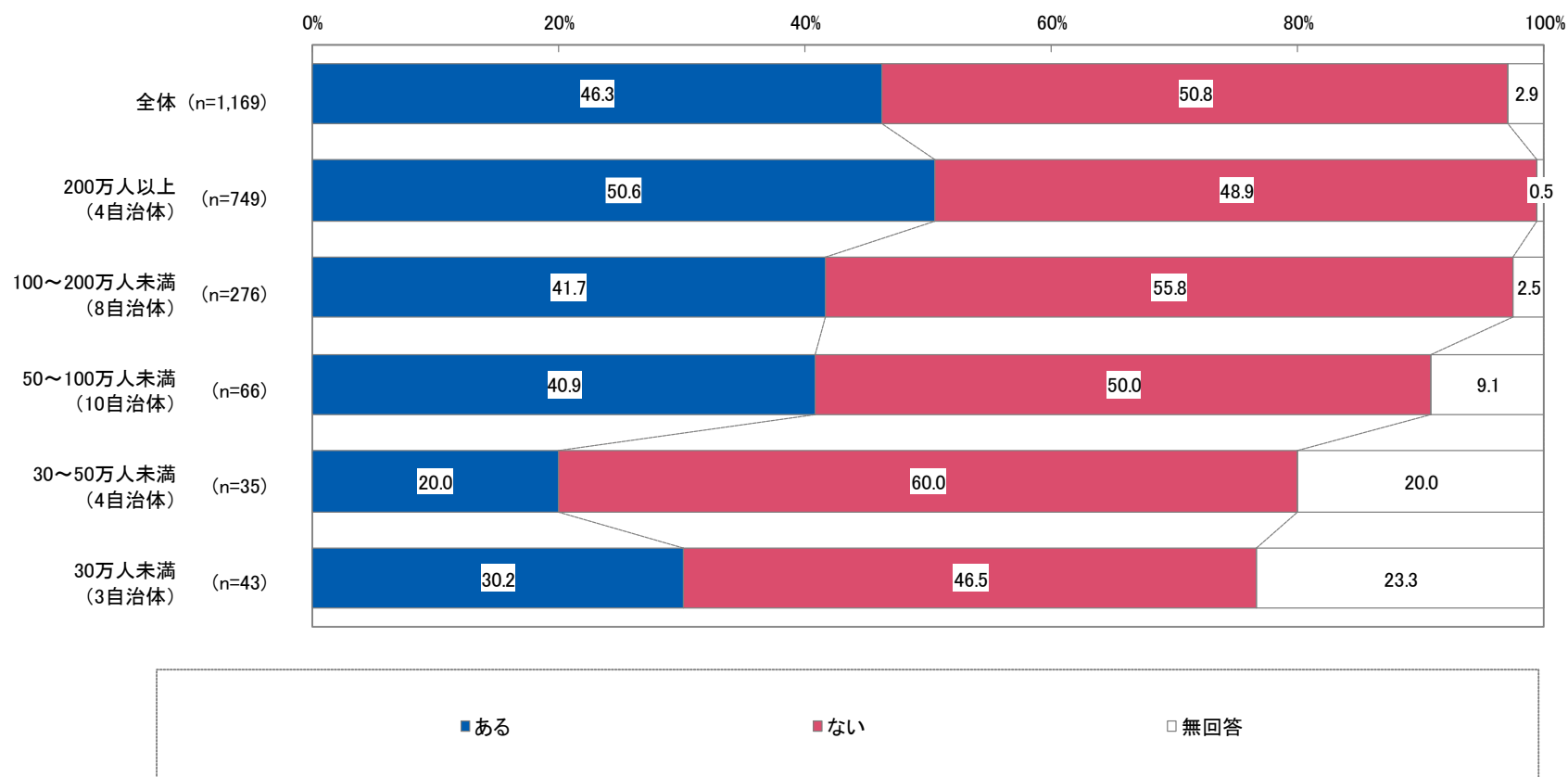
図表159 自立支援センターの内容の認知度・利用度（地域別（人口別））



問 3 0 公的機関への相談

- 公的機関への相談については、「人口30～50万人未満」の自治体では「ある」（全体：46.3%、人口30～50万人未満：20.0%）の割合が低い。

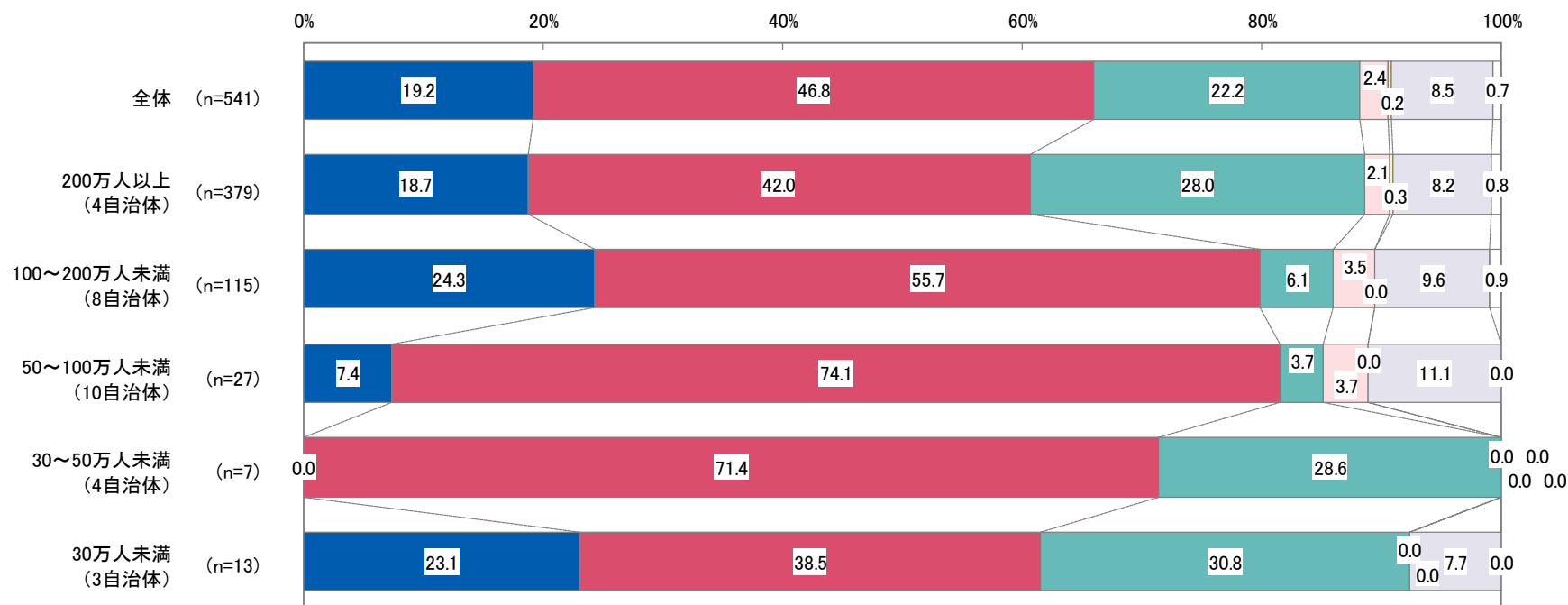
図表160 公的機関への相談（地域別（人口別））



問 3 0 - 1 公的機関への相談内容

- 公的機関への相談内容については、「人口100～200万人未満」の自治体では「病気」（24.3%）の割合が高く、「人口50～100万人未満」の自治体では「生活保護」の割合が高いほか、「人口30万人未満」及び「人口30～50万人未満」の自治体では「住む場所」の割合が高い（それぞれ30.8%、28.6%）。

図表161 公的機関への相談内容（地域別（人口別））

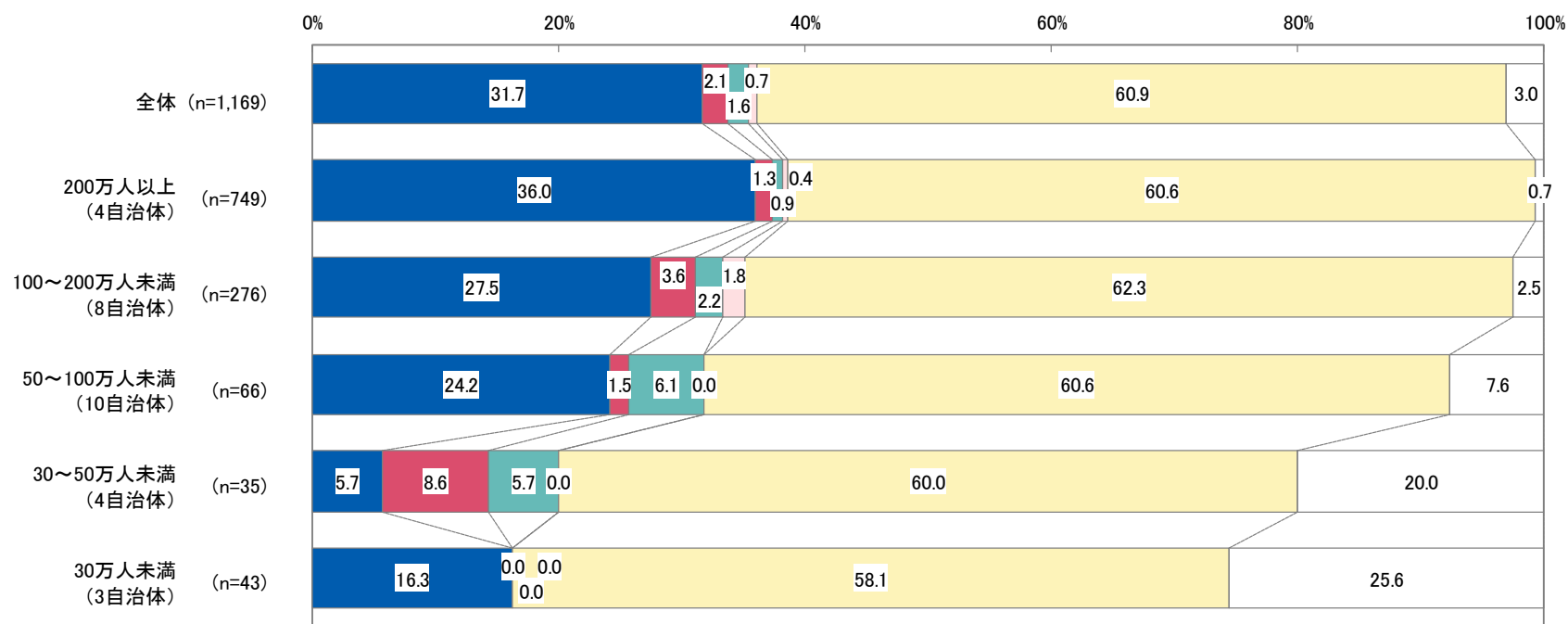


■ 病気 ■ 生活保護 ■ 住む場所 ■ 就職 ■ 借金 ■ その他 ■ 無回答

問 3 1 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「人口50万人未満」の自治体では「ある」（全体：31.7%、30万人未満：16.3%、30～50万人未満：5.7%）の割合が低い。

図表162 生活保護の利用経験（地域別（人口別））

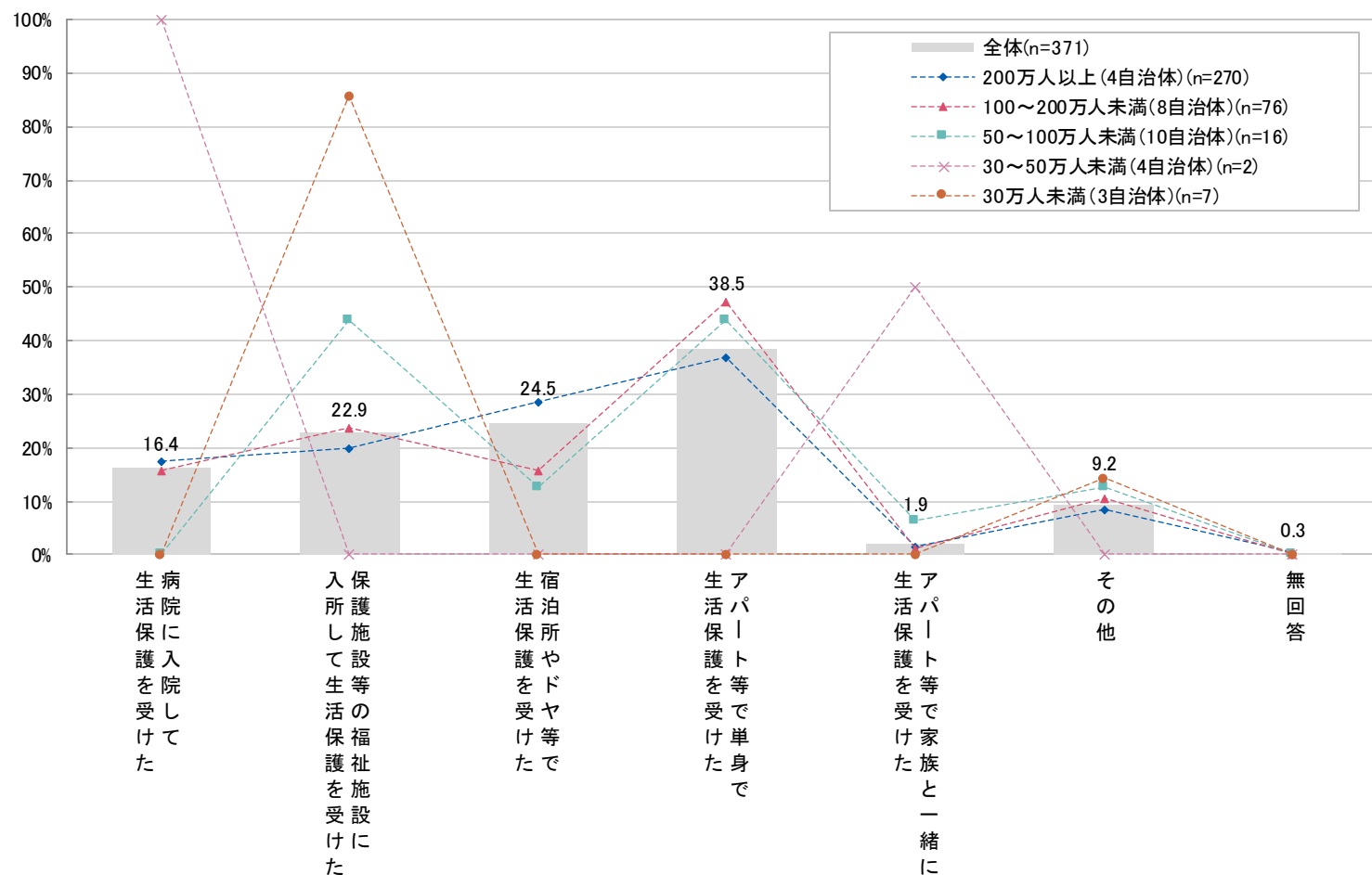


■ ある
 ■ 相談には行ったが利用したことはない
 ■ 相談には行ったが断られた
 ■ 相談に行き他の制度を勧められた
 ■ ない
 ■ 無回答

問 3 1 - 1 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「人口100～200万人未満」の自治体では「アパート等で単身で生活保護を受けた」の割合が高い。

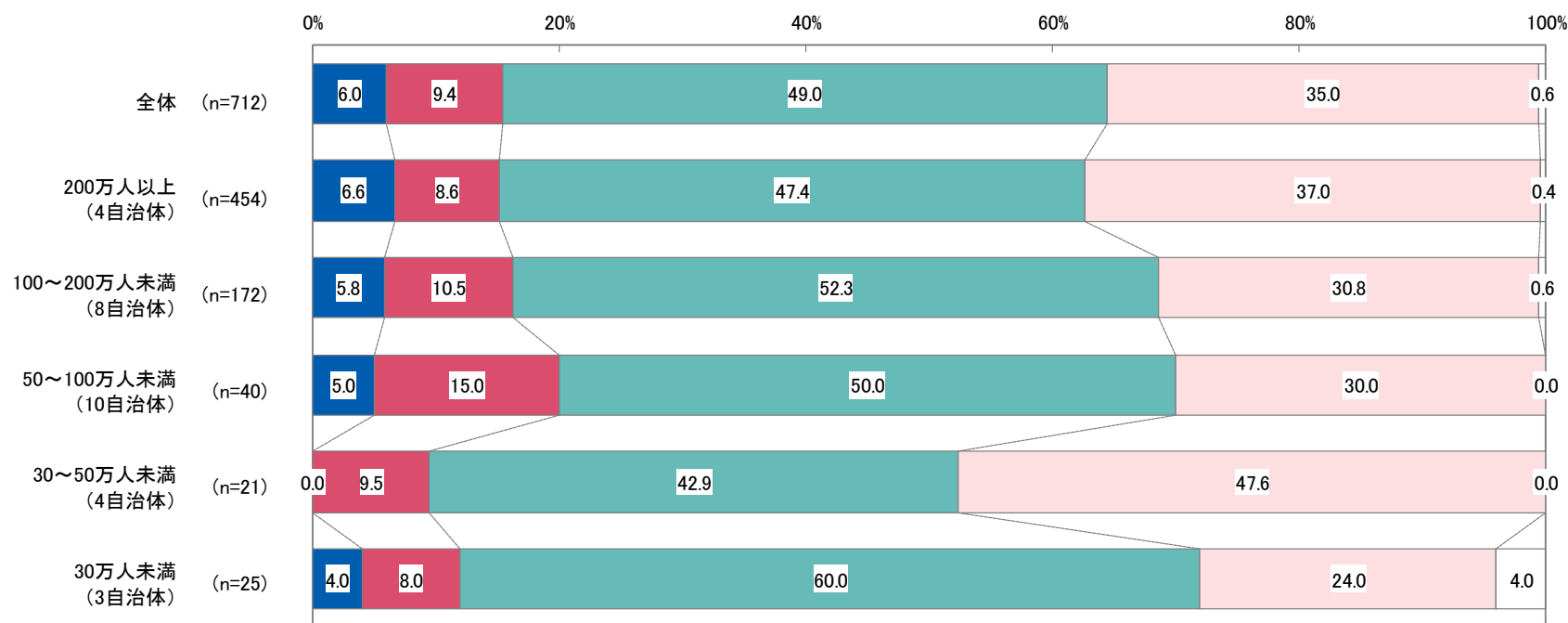
図表163 生活保護制度の利用方法（地域別（人口別））



問 3 1 - 3 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「人口50～100万人未満」の自治体では「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（15.0%）の割合が高く、「人口30万人未満」の自治体では「生活保護を利用したくない」（60.0%）の割合が高い。

図表164 生活保護制度を利用しなかった理由（地域別（人口別））

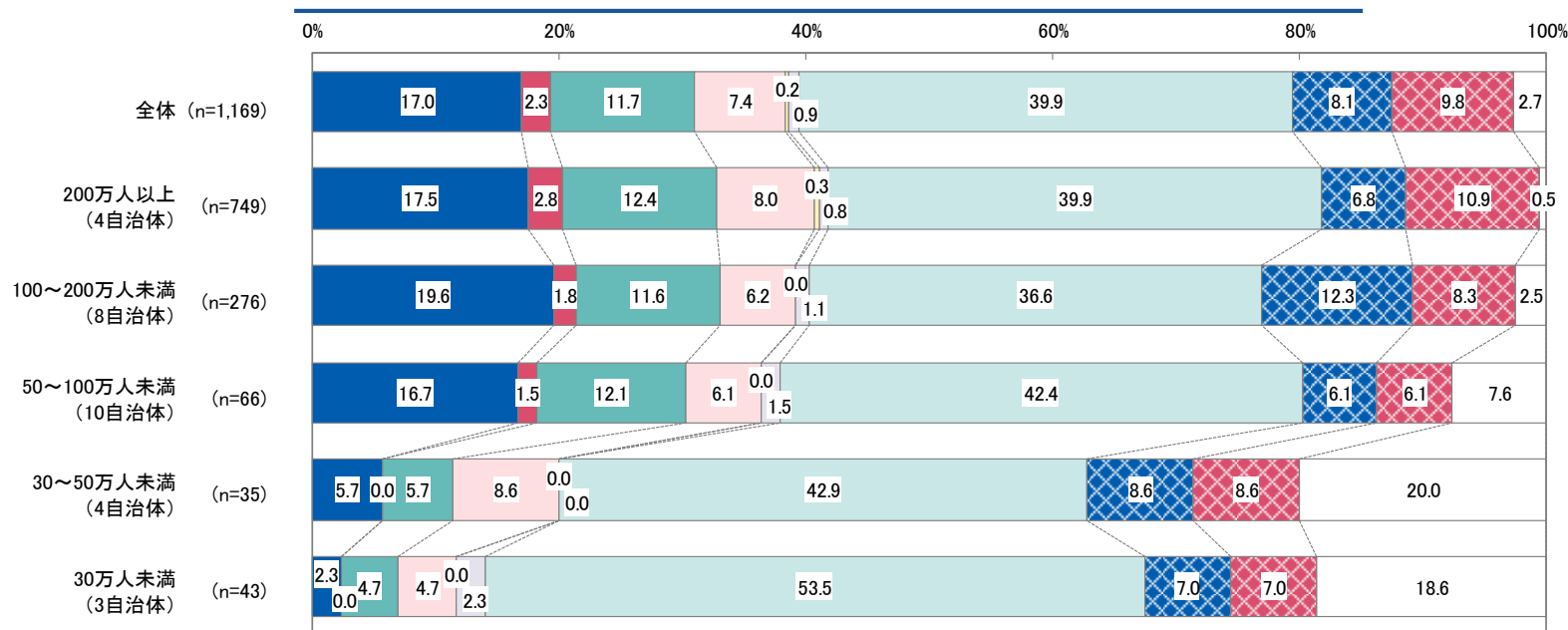


■生活保護制度を知らない ■生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている ■生活保護制度を利用したくない ■その他 □無回答

問 3 6 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「人口100～200万人未満」及び「人口200万人以上」の自治体では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：17.0%、100～200万人未満：19.6%、200万人以上：17.5%）の割合が高く、人口規模が小さくなるほど「今のままでいい」の割合が高い傾向にあり、「人口30万人未満」では割合が高い(53.5%)。

図表165 今後望んでいる生活（地域別（人口別））

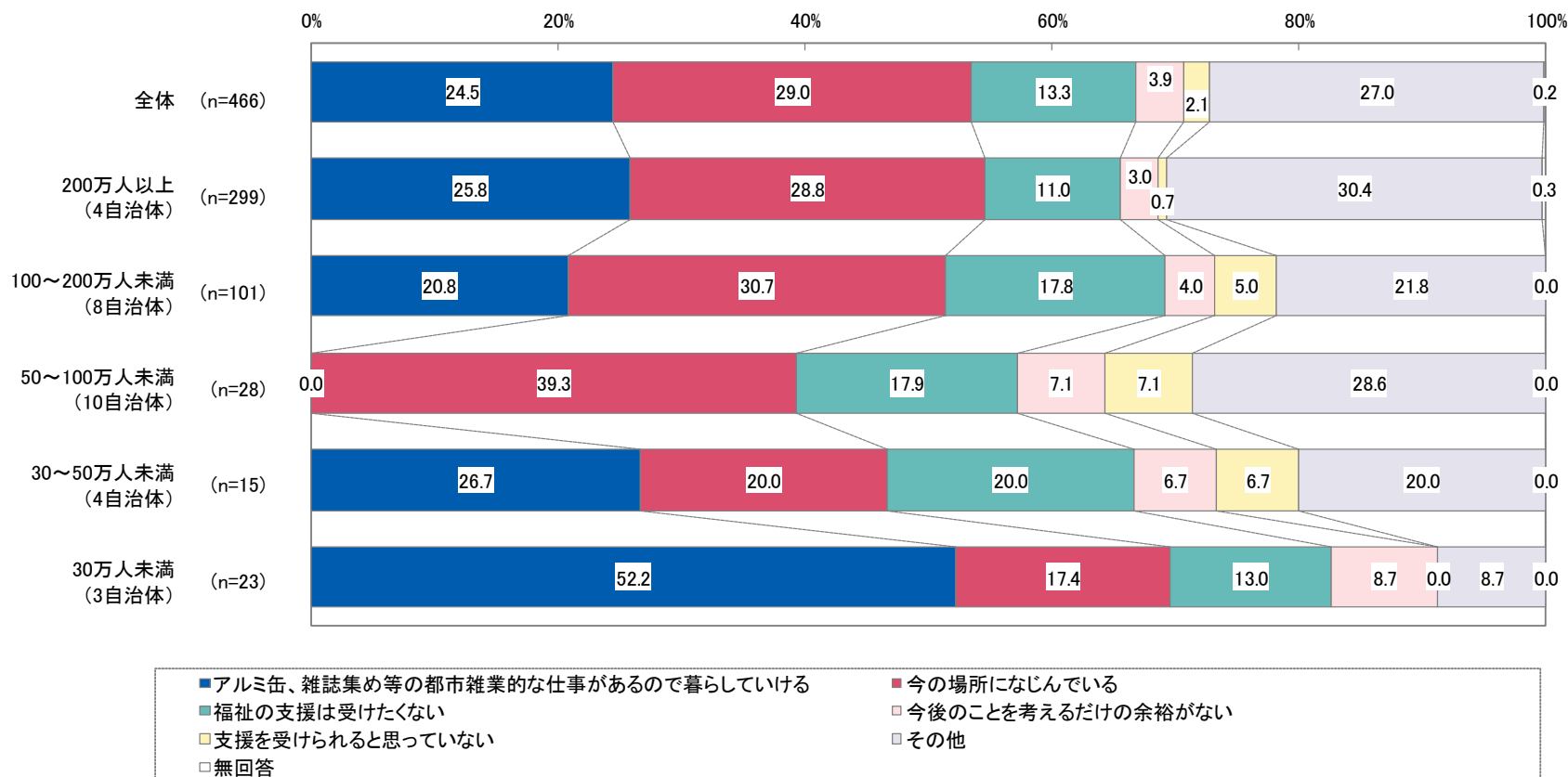


- アパートに住み、就職して自活したい
- 寮付の仕事で自活したい
- アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつけない
- 就職することはできないので何らかの福祉（生活保護や施設入所等）を利用して生活したい
- 入院したい
- 家族の元に戻りたい
- 今のままでいい（路上（野宿）生活）
- わからない
- その他
- 無回答

問 3 6 - 1 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「人口30万人未満」の自治体では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く（52.2%）、「人口50～100万人未満」の自治体では「今の場所になじんでいる」の割合が高い傾向にある（39.3%）。

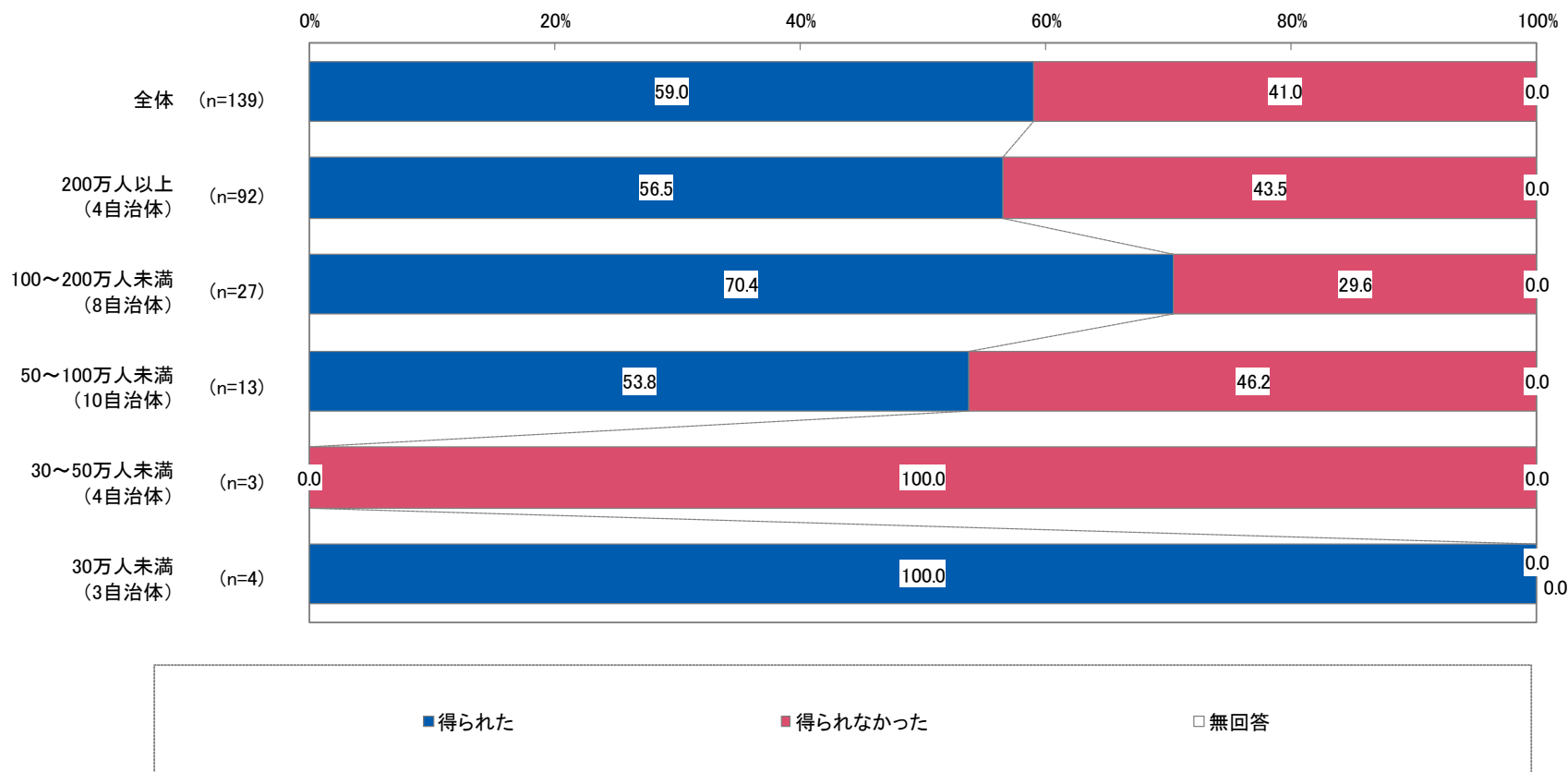
図表166 今のままでいい理由（地域別（人口別））



問 3 9 - 2 安い家賃の情報

- 安い家賃の民間賃貸住宅に関する情報が得られたかについては、「人口100～200万人未満」の自治体及び「人口30万人未満」の自治体では「得られた」（全体：59.0%、30万人未満：100.0%、100～200万人未満：70.4%）の割合が高い。

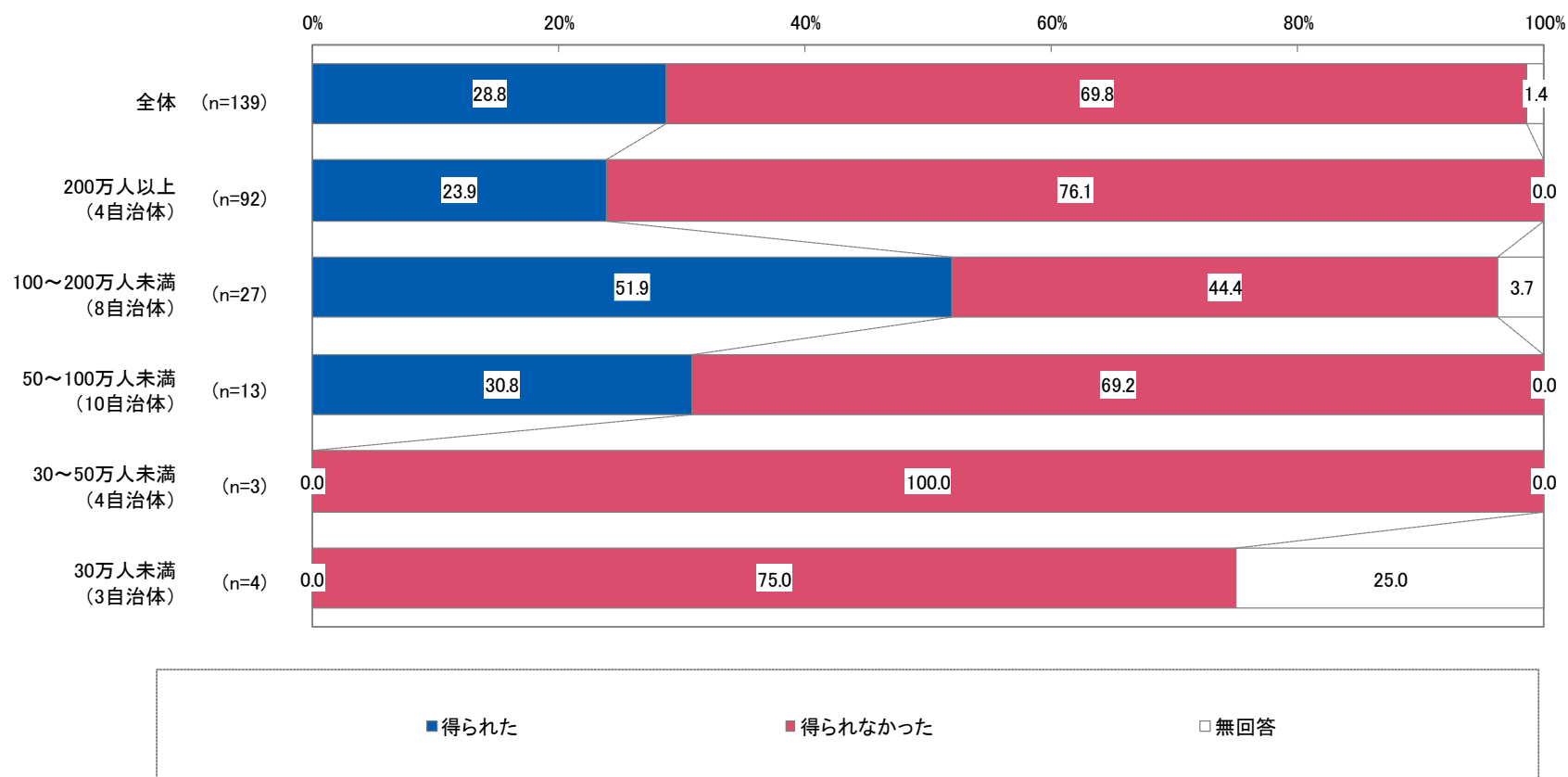
図表167 安い家賃の情報（地域別（人口別））



問 3 9 - 3 民間保証会社の情報

- 民間保証会社の情報が得られたかについては、「人口100～200万人未満」の自治体以外では「得られなかった」の割合が高い。

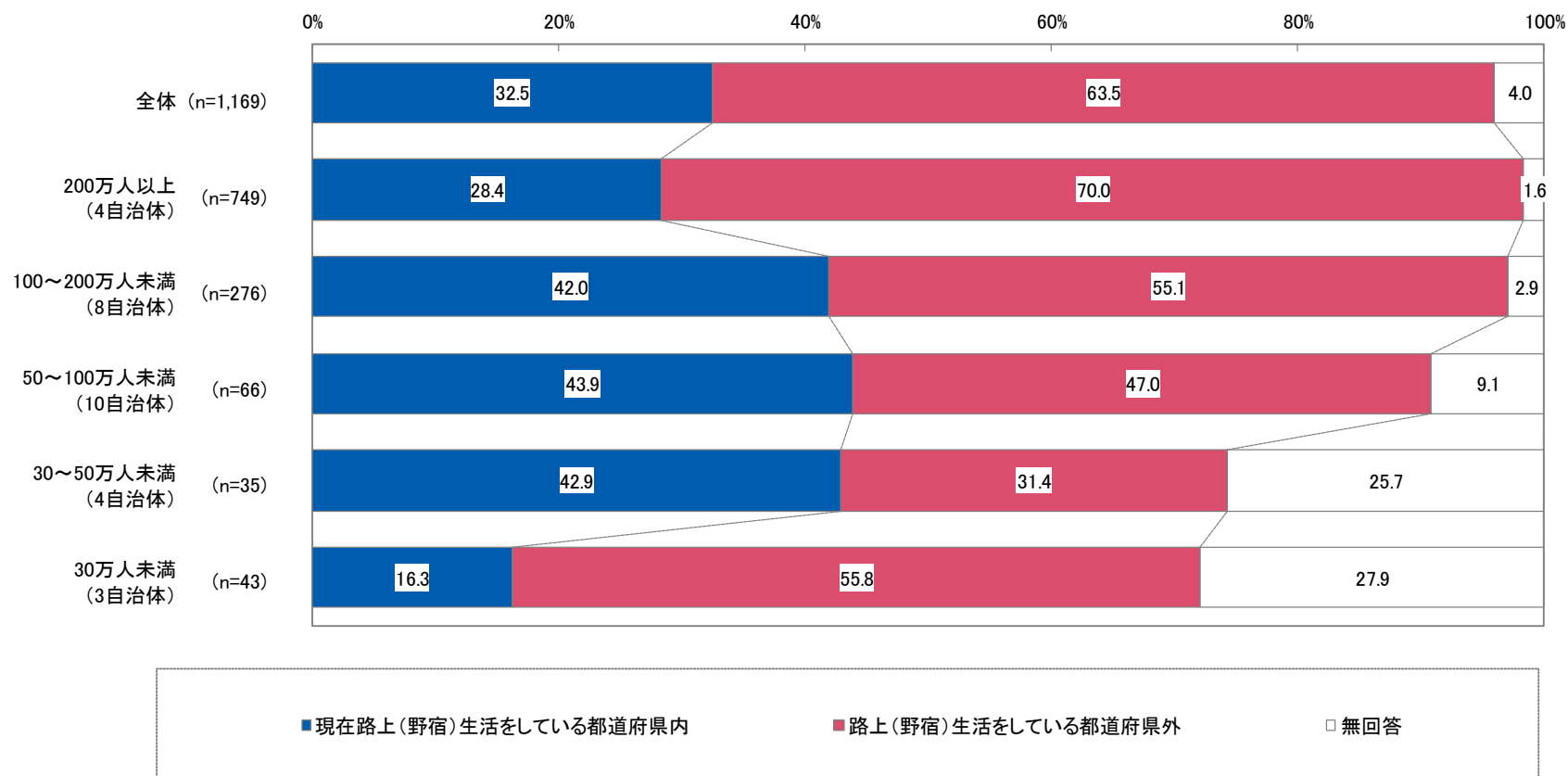
図表168 民間保証会社の情報（地域別（人口別））



問 4 0 出身地

- 出身地については、「人口30～50万人未満」及び「人口50～100万人未満」の自治体では「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内」（全体：32.5%、人口30～50万人未満：42.9%、50～100万人未満：43.6%）の割合が高い。

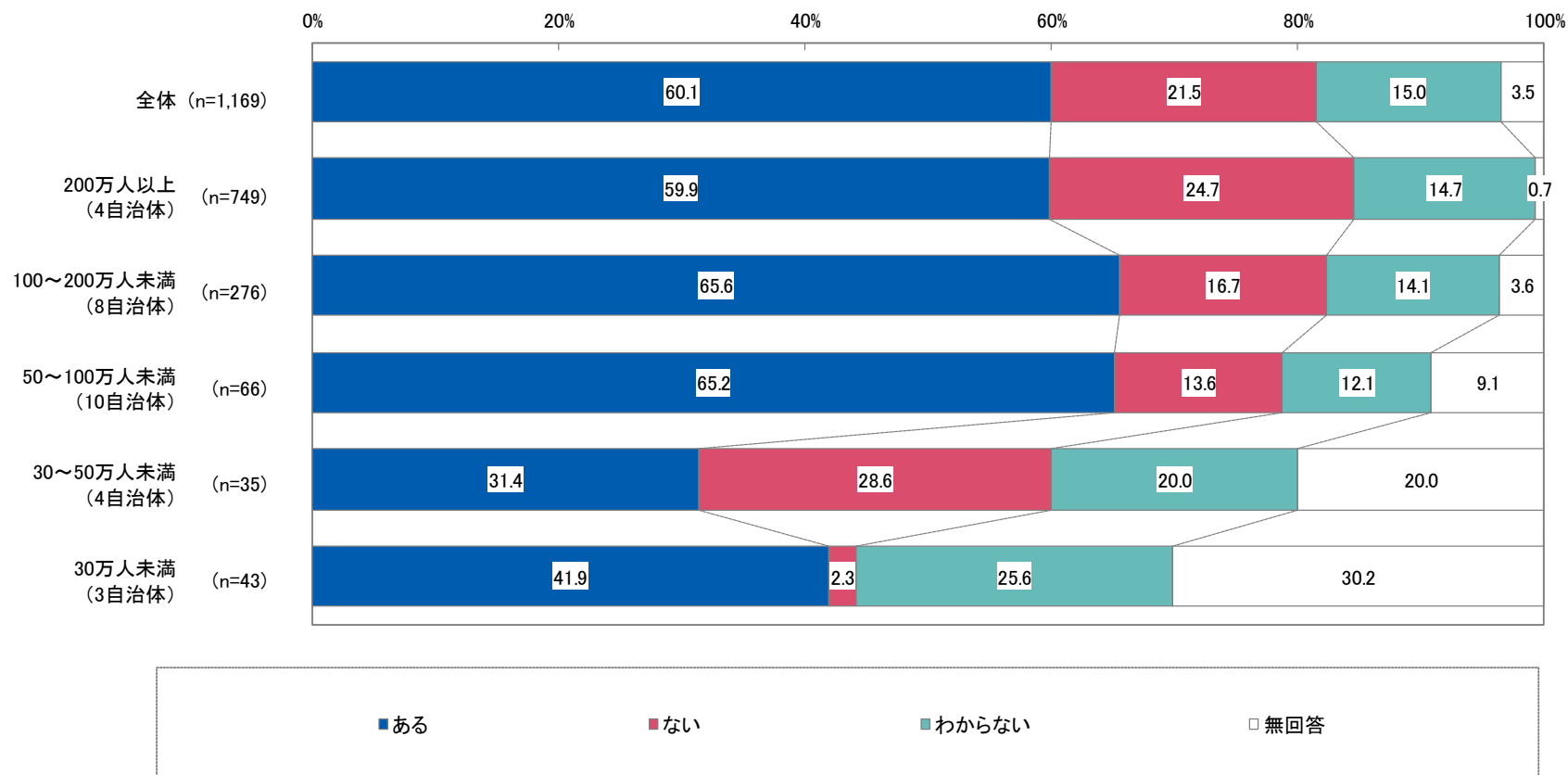
図表169 出身地（地域別（人口別））



問 4 3 公的年金の保険料の納付

- 公的年金の保険料の納付状況については、「人口50万人未満」以外の自治体では「ある」の割合が高い。

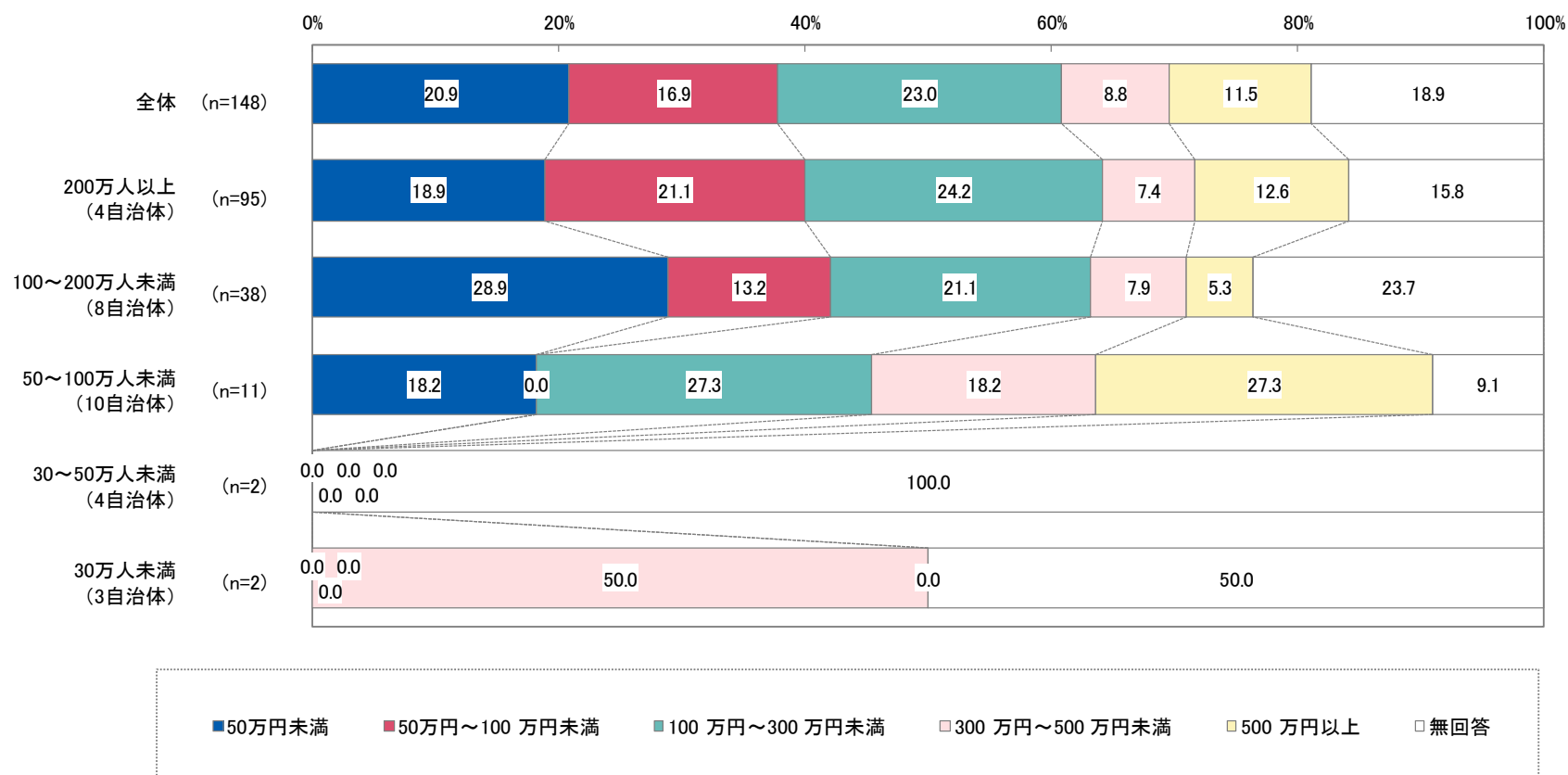
図表170 公的年金の保険料の納付（地域別（人口別））



問 4 4 - 1 借金の金額

- 借金の金額については、「人口200万人以上」の自治体では「100～300万円未満」の割合が高く（24.2%）、「人口100～200万人未満」では「50万円未満」の割合が高く（28.9%）、「人口50～100万人未満」では「100～300万円」「500万円以上」の割合が高い（それぞれ27.3%）。

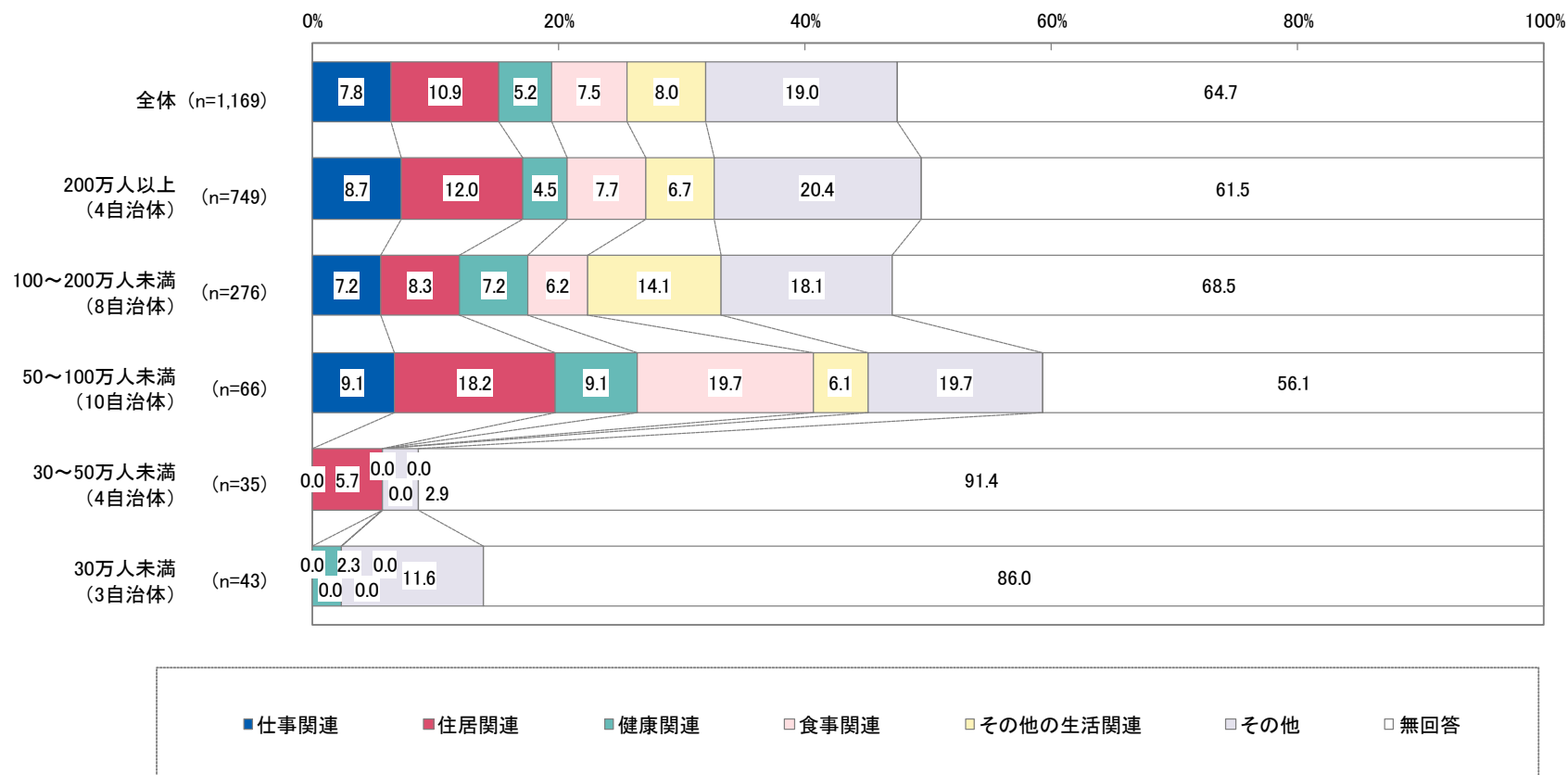
図表171 借金の金額（地域別（人口別））



問 4 9 行政への要望・意見

- 行政への要望・意見については、「人口200万人以上」の自治体では「住居関連」の割合が高く（12.0%）、「人口50～100万人未満」の自治体では「食事関連」の割合が高い（19.7%）。

図表172 行政への要望・意見（地域別（人口別））



設問間クロス集計

ひと、くらし、みらいのために

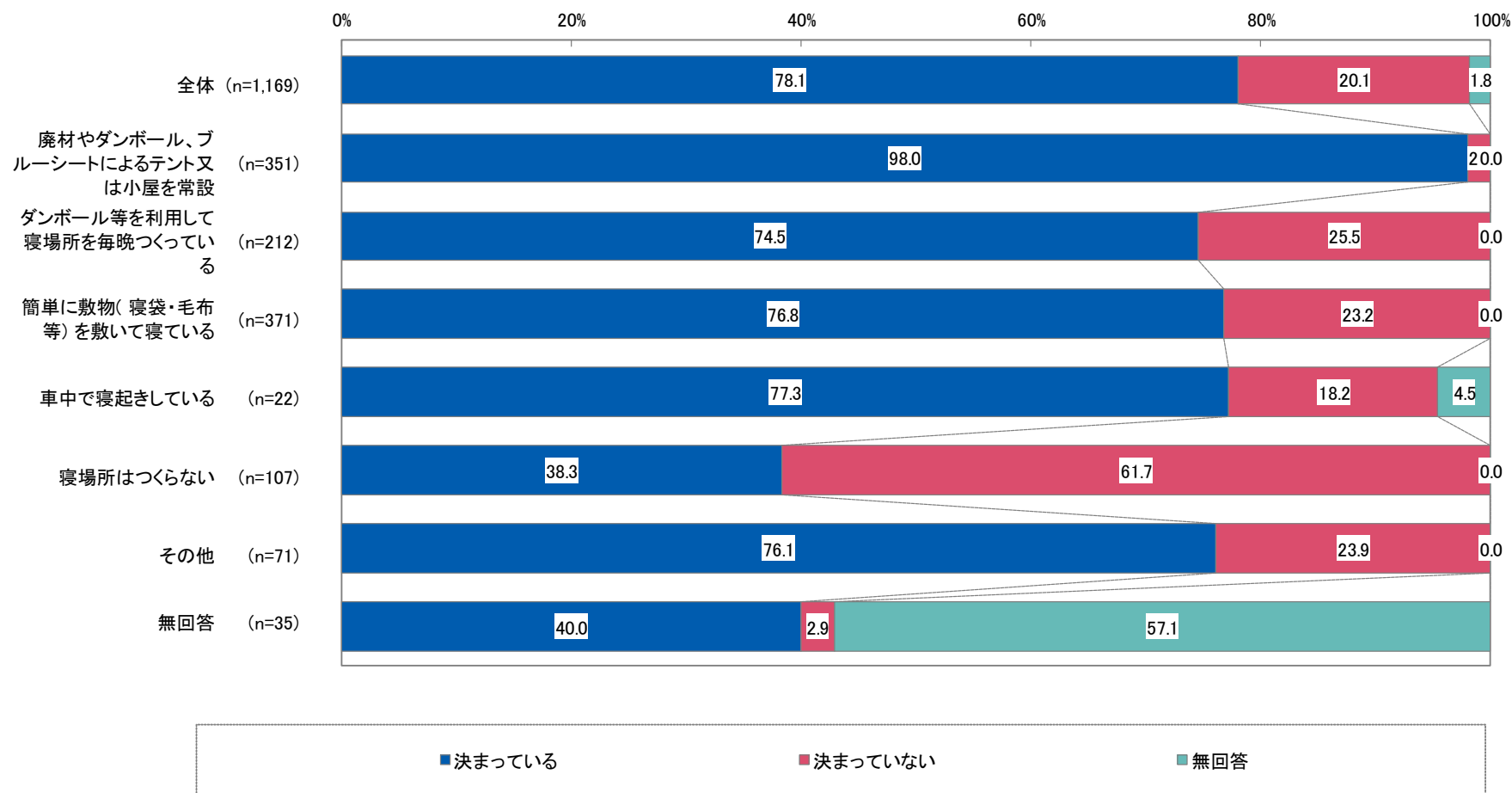


厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

問2 寝場所のつくり方×問1 寝ている場所

- 寝場所のつくり方と寝ている場所について、「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」は「一定の場所で決まっている」割合が高く（98.0%）、「寝場所をつくらない」では「決まっていない」の割合が高い（61.7%）。

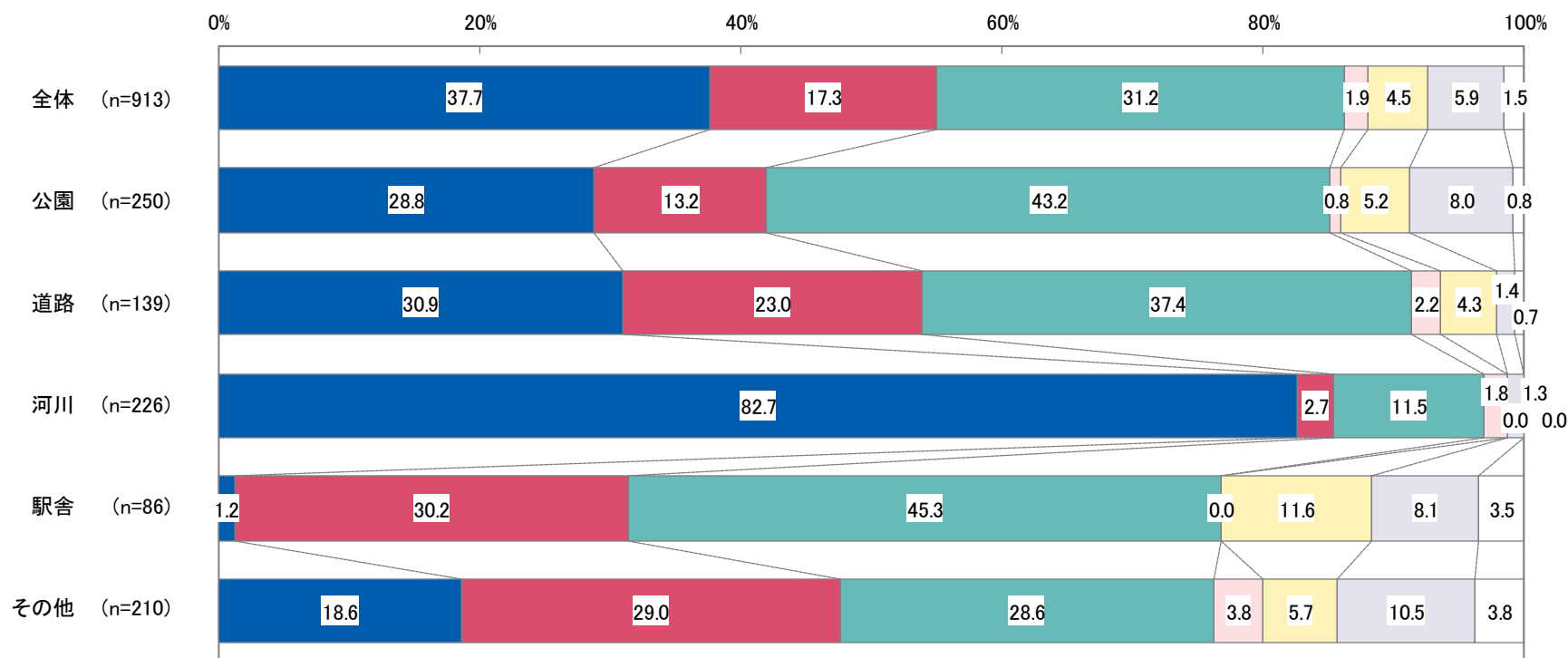
図表173 問2寝場所の作り方×問1寝ている場所



問 1 - 1 寝ている場所（具体的に） × 問 2 寝場所の作り方

- 寝ている場所と寝場所の作り方との関係については、「河川」では、「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」の割合が高く（82.7%）駅舎では「ダンボール等を利用して寝場所を毎晩つくっている」（30.2%）、「敷物を敷いて寝ている」の割合が高い（45.3%）。

図表174 寝ている場所（具体的に） × 寝場所の作り方



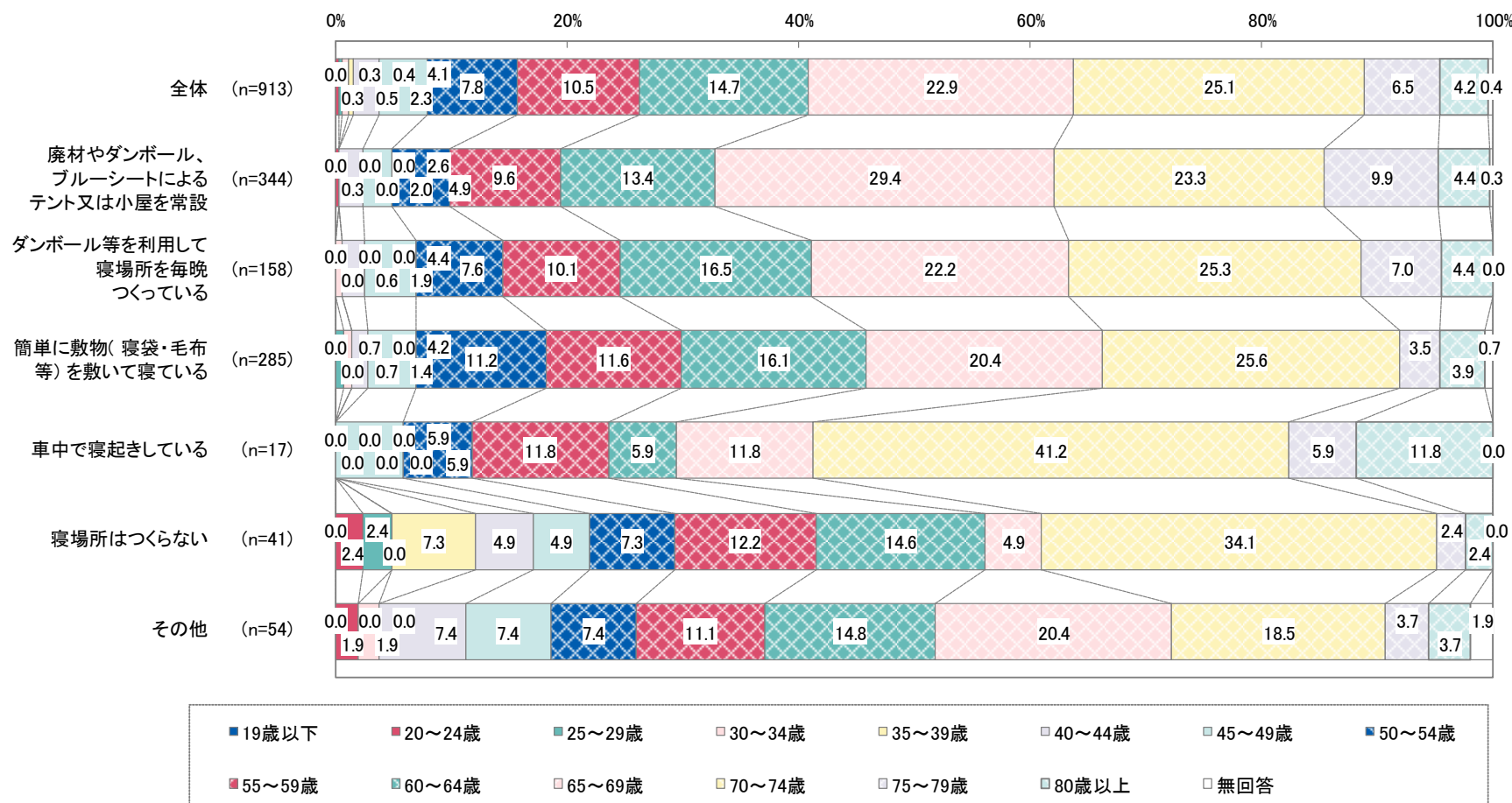
■ 廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設
■ 簡単に敷物(寝袋・毛布等)を敷いて寝ている
■ 寝場所はつくらない
□ 無回答

■ ダンボール等を利用して寝場所を毎晩つくっている
■ 車中で寝起きしている
■ その他

問 2 寝場所の作り方（寝場所が決まっている人のみ） × 年齢

- 寝場所の作り方が「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」と回答した人では、「65～69歳」の割合が高く（29.4%）、「車中で寝起きしている」と回答した人では、「70～74歳」の割合が高い（41.2%）。

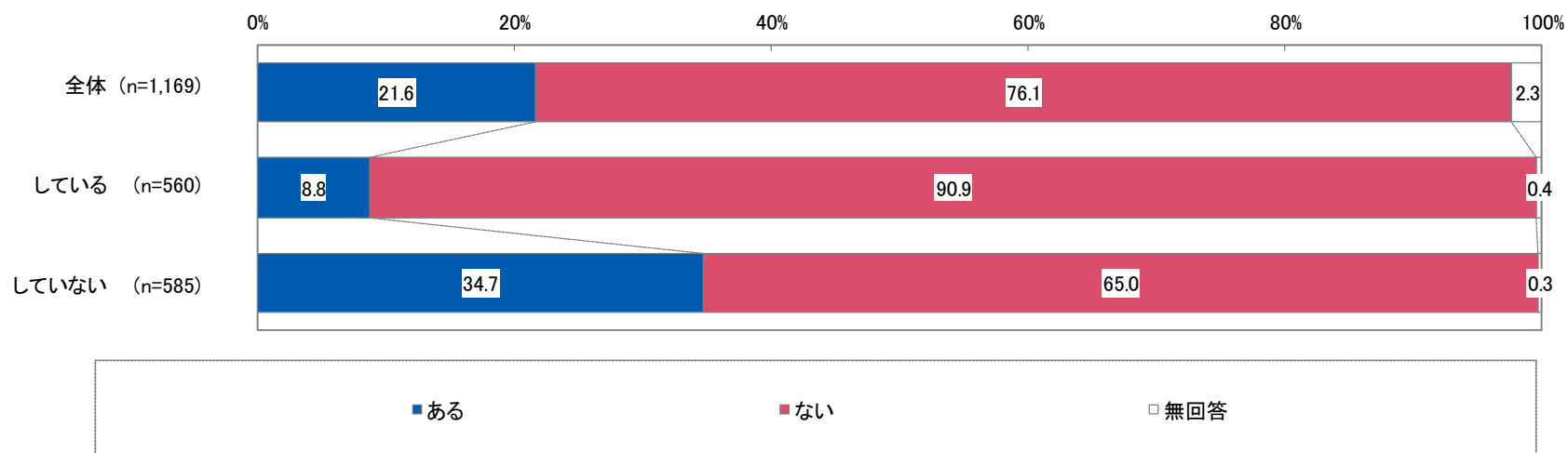
図表 175 寝場所の作り方（寝場所が決まっている人のみ） × 年齢



問 6 現在収入のある仕事をしている × 問 7 ここ 3 ヶ月の仕事以外の収入

- 収入のある仕事と仕事以外の収入の有無との関係については、「（現在収入のある仕事を）していない」者の方が、仕事以外の収入が「ある」と回答した割合が高い（34.7%）。

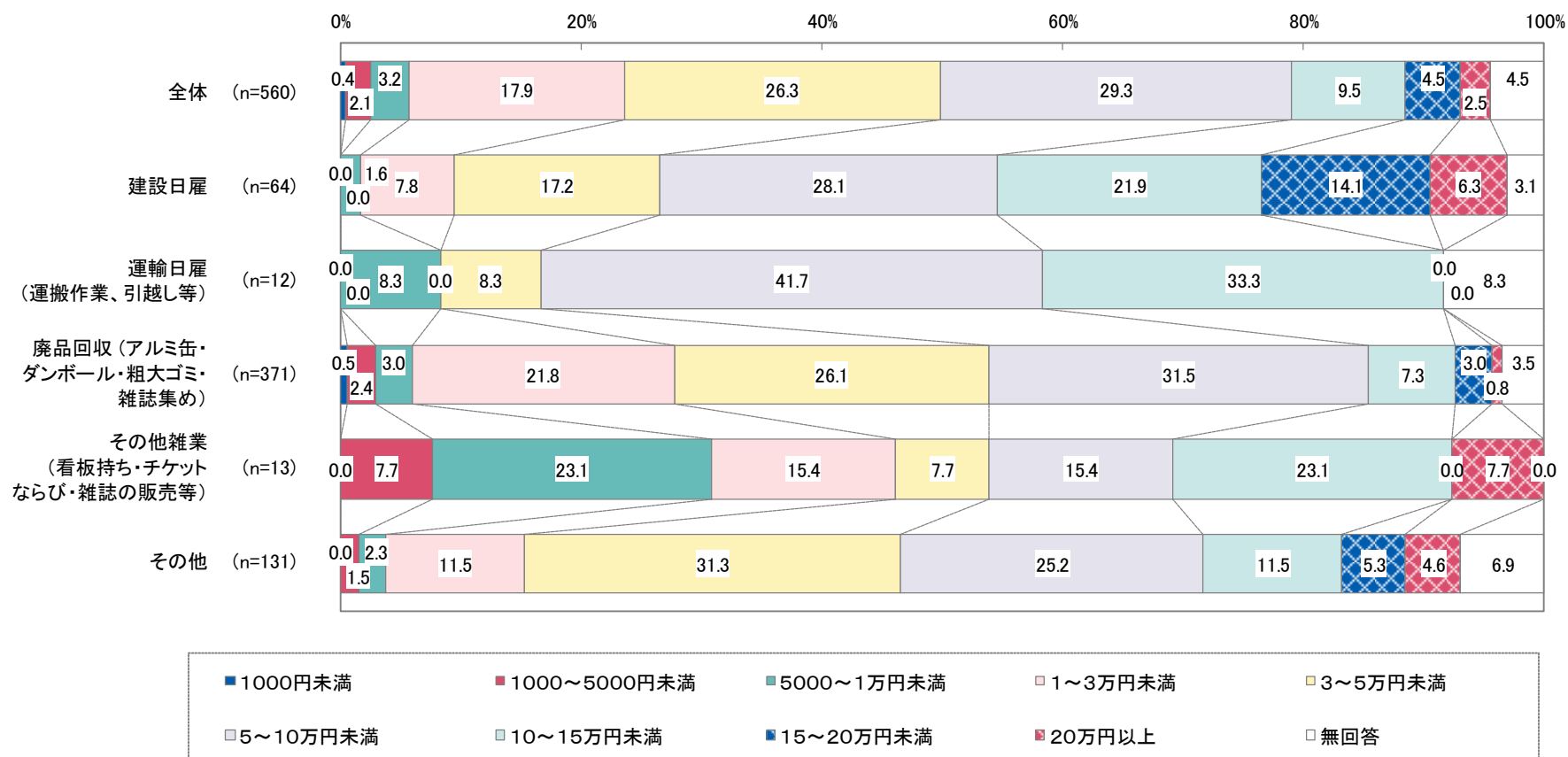
図表 176 現在収入のある仕事をしている × ここ 3 ヶ月の仕事以外の収入



問 6 - 1 仕事（具体的に）（複数回答） × 問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による収入と平均収入（月額）との関係については、「建設日雇」、「運輸日雇」、「廃品回収」では「5～10万円未満」の割合が高い（それぞれ28.1%、41.7%、31.5%）。

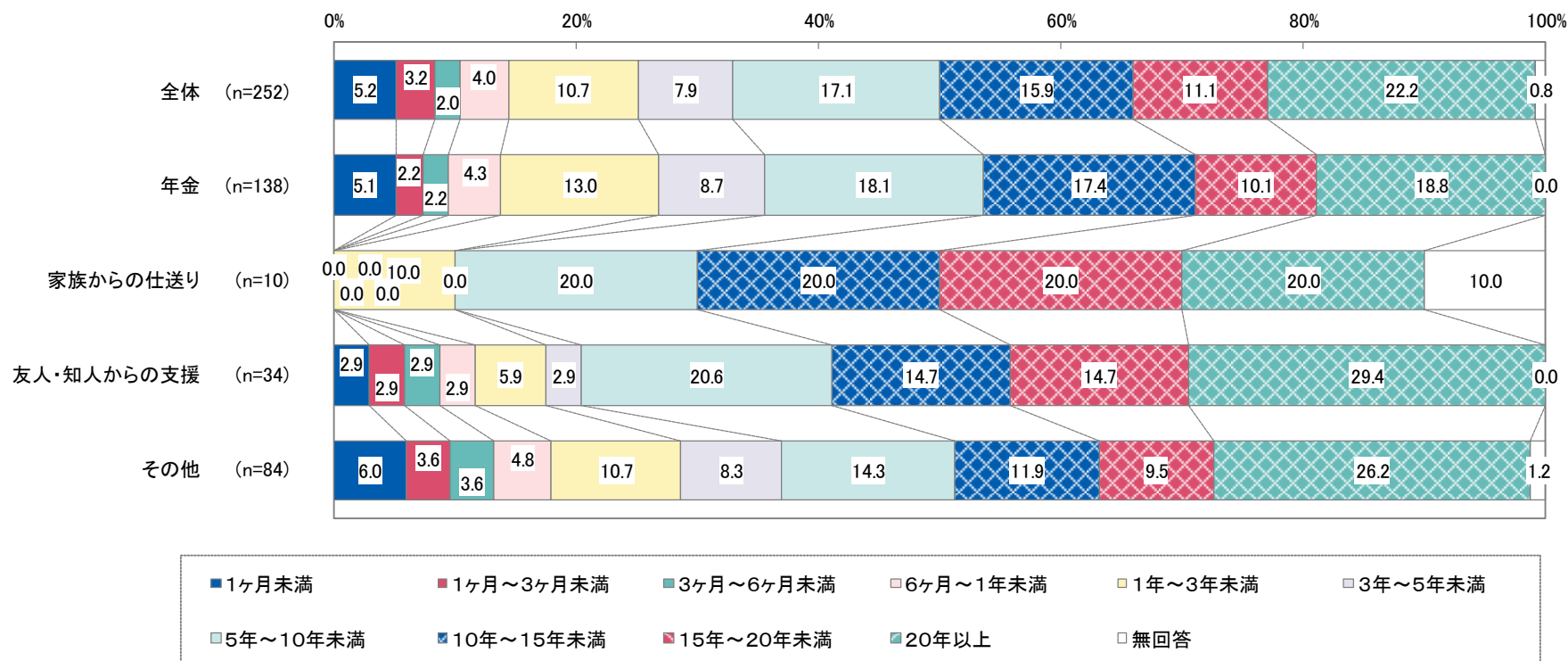
図表 177 仕事（具体的に）（複数回答） × 仕事による平均収入



問 7 - 1 仕事以外の収入の種類（複数回答） × 問 5 初めての路上生活をしてからの期間

- 仕事以外の収入の種類と初めての路上生活をしてからの期間の関係については、「年金」では「20年以上」と回答した者の割合が高い（18.8%）。
- 「家族からの仕送り」では、「5年～10年未満」「10年～15年未満」「15年～20年未満」「20年以上」の割合が高い（それぞれ20.0%）。

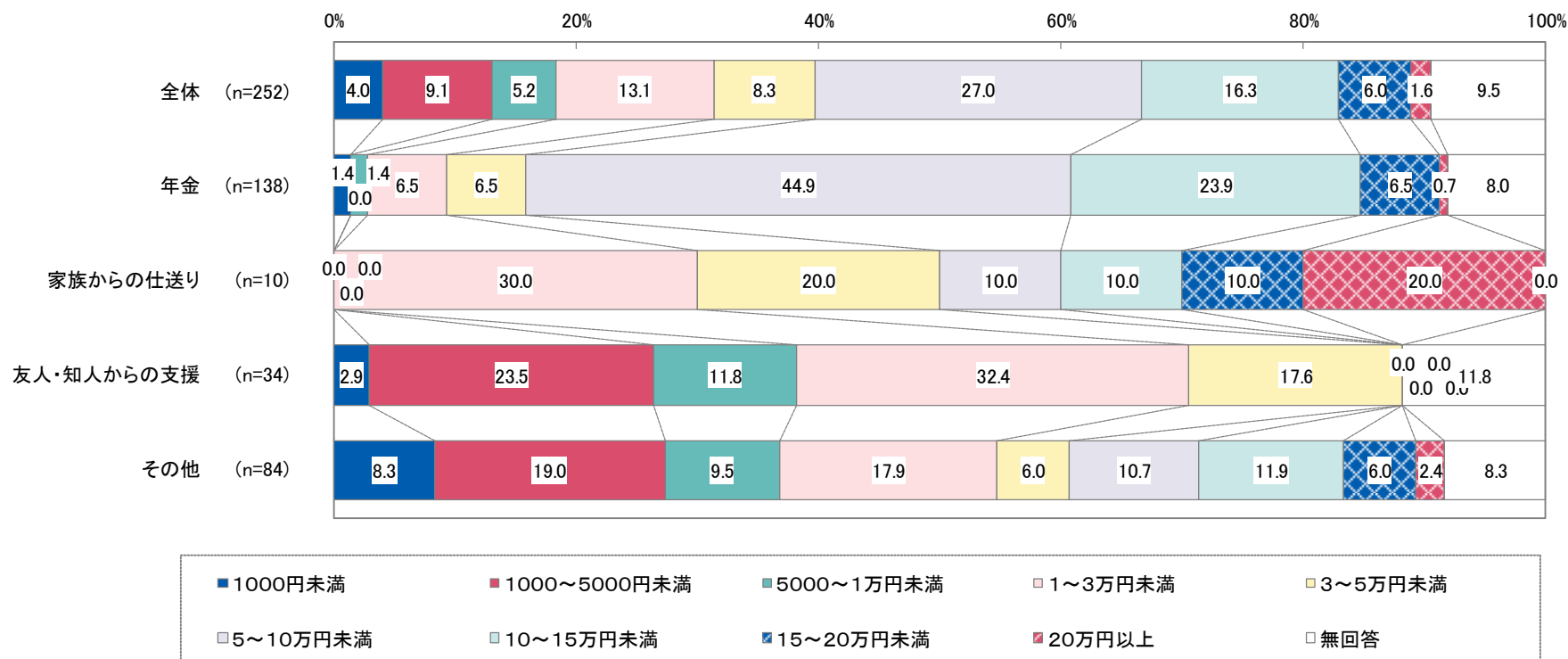
図表178 仕事以外の収入の種類（複数回答） × 初めての路上生活をしてからの期間



問 7－1 仕事以外の収入の種類（複数回答） × 問 7－2 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の収入の種類と仕事以外の平均収入（月額）との関係については、「年金」を受給している者では「5～10万円未満」の割合が高い（44.9%）。
- 「家族からの仕送り」「友人・知人からの支援」を受けている者では「1～3万円未満」の割合が高い（30.0%）。

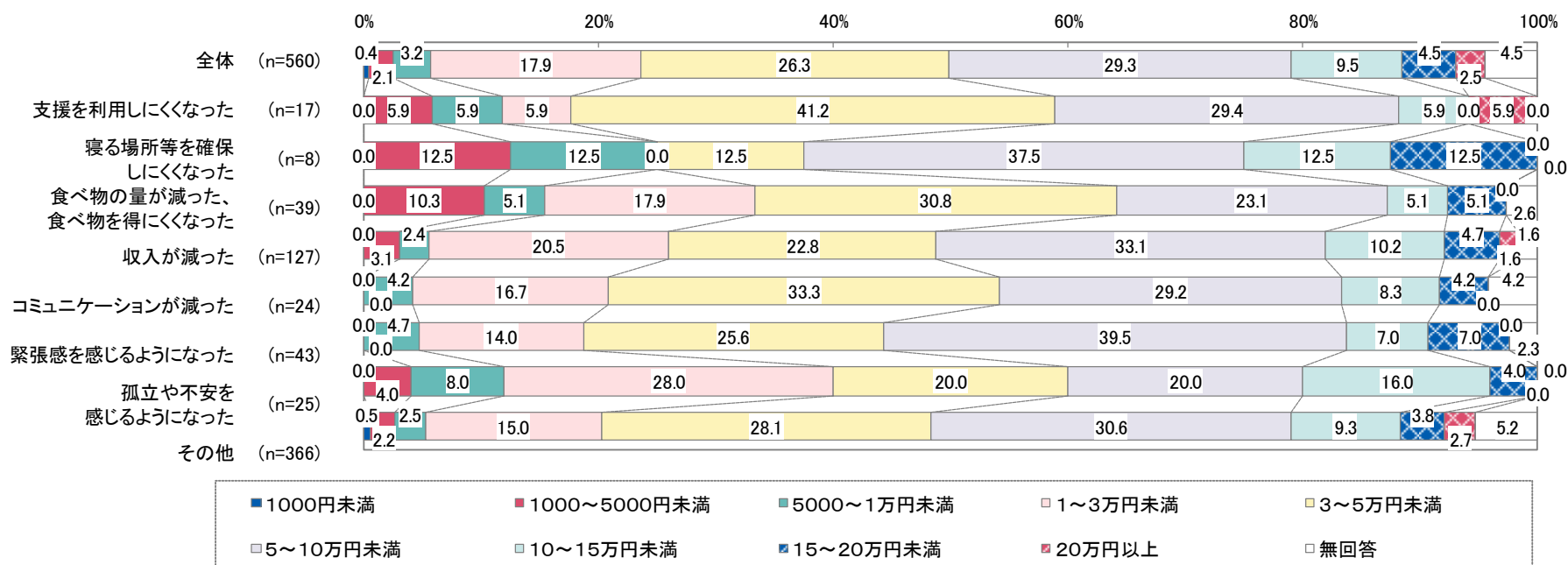
図表179 仕事以外の収入の種類（複数回答） × 仕事以外の平均収入



問 10 コロナの影響 × 問 6 - 2 仕事による平均収入

- コロナの影響と仕事による平均収入との関係については、「支援を利用しにくくなった」と回答した者では「3～5万円未満」の割合が高い（41.2%）。
- 「収入が減った」と回答した者では「5～10万円未満」の割合が高い（33.1%）。

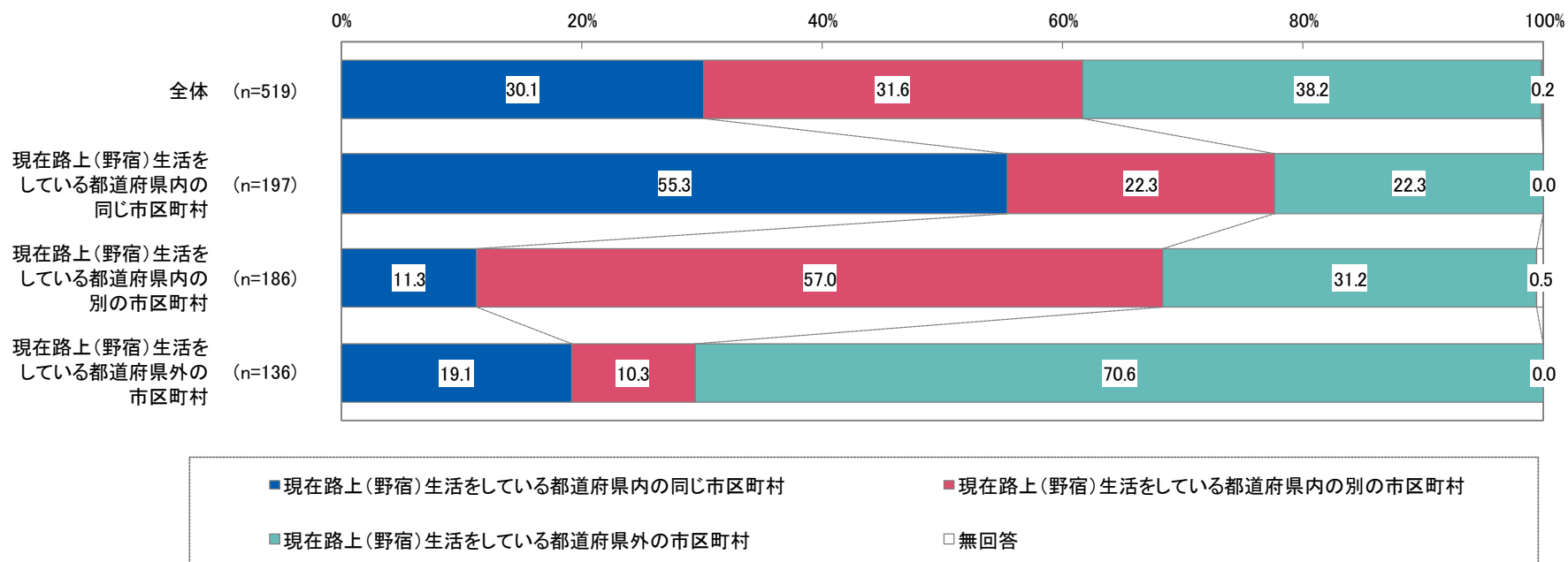
図表180 コロナの影響×仕事による平均収入



問 1 8 - 1 別の路上生活場所 × 問 1 3 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 路上（野宿）生活後に別の場所に移動経験のある者の移動パターンは、初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域からの移動パターンと同様である割合が高い。

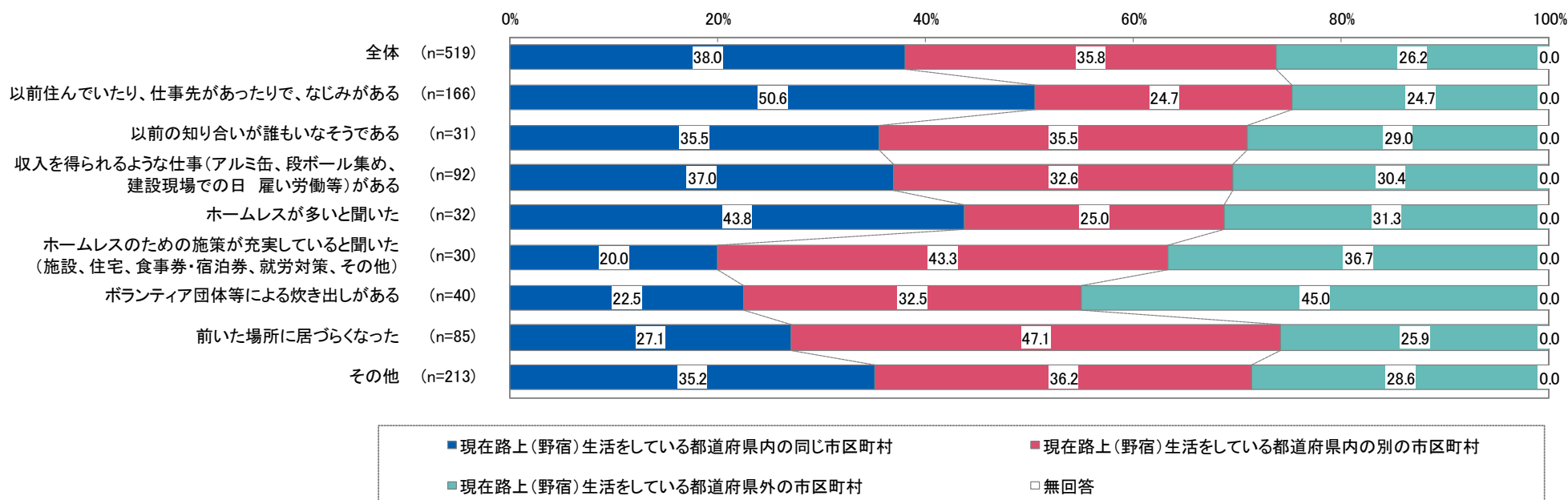
図表 1 8 1 別の路上生活場所 × 初めて路上生活をする前に住んでいた地域



問 1 9 現在の市区町村に来た主な理由（複数回答） × 問 1 8 - 1 別の路上生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所については、「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の者では「なじみがある」ことを理由とする割合が高い（50.6%）。
- 「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の別の市区町村」から来た者では「ホームレスのための施策が充実していると聞いた」を理由とする割合が高い（43.3%）。
- 「現在路上（野宿）生活をしている都道府県外の市区町村」から来た者では「ボランティア団体等による炊き出し」を理由とする割合が高い（45.0%）。

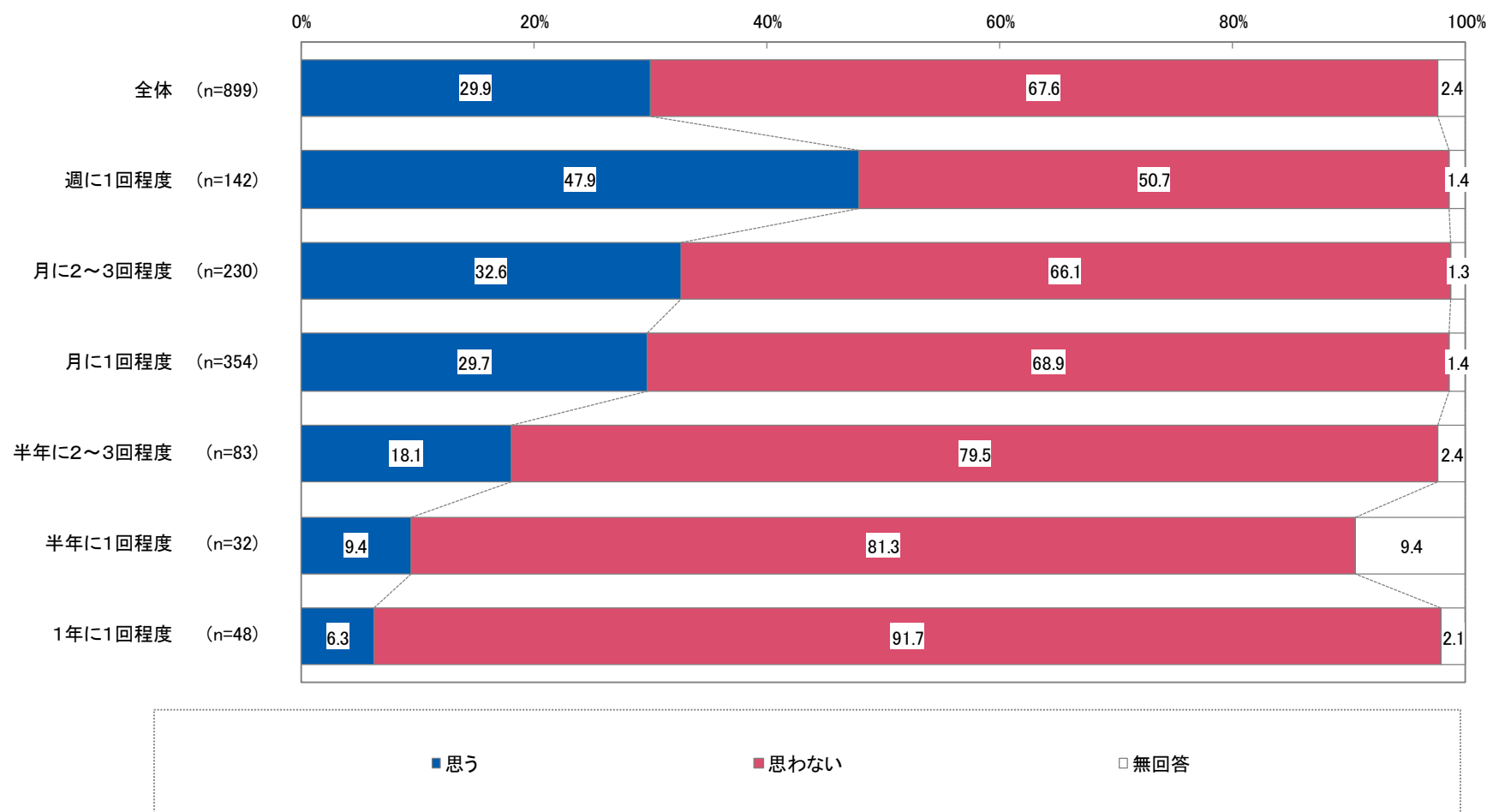
図表 1 8 2 現在の市区町村に来た主な理由（複数回答） × 別の路上生活場所



問 2 7 - 1 巡回の頻度 × 問 2 7 - 2 頻繁に巡回するようになったと思うか

- 「巡回の頻度」と「頻繁に巡回するようになったと思うか」との関係では「月に1回程度」以上の巡回があることにより、「思う」の割合が高い傾向にある。

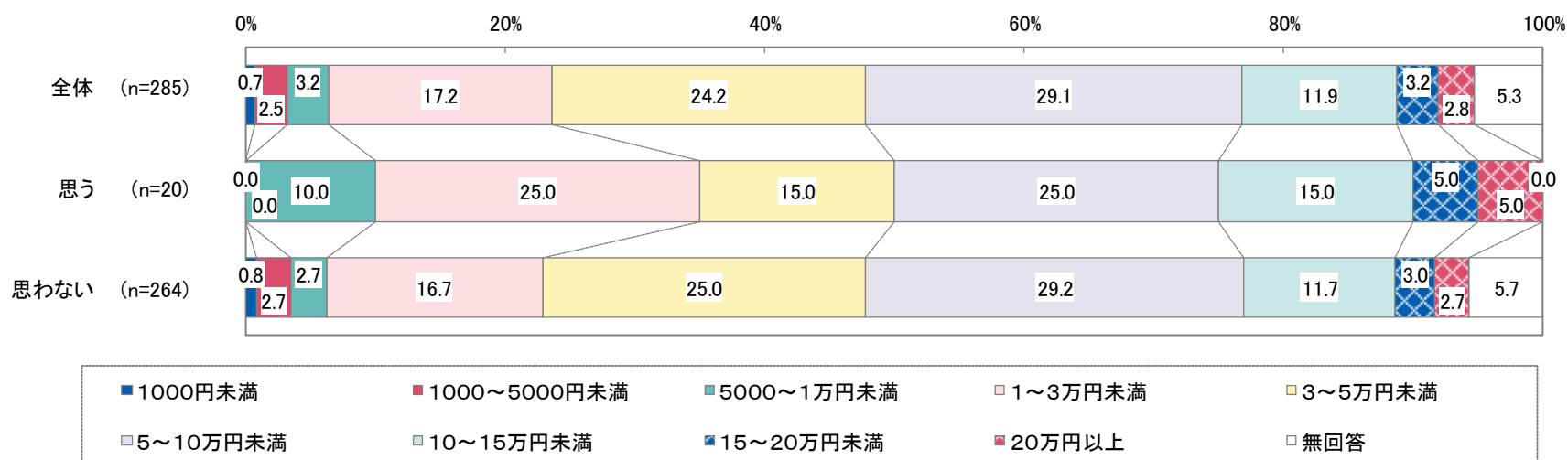
図表183 巡回の頻度×頻繁に巡回するようになったと思うか



問 2 8 - 1 シェルターの利用意向 × 問 6 - 2 仕事による平均収入

- 仕事による収入（月額）については、「（シェルターを利用したいと）思わない」者では「3～5万円未満」及び「5～10万円未満」の割合が高い（それぞれ25.0%、29.2%）。

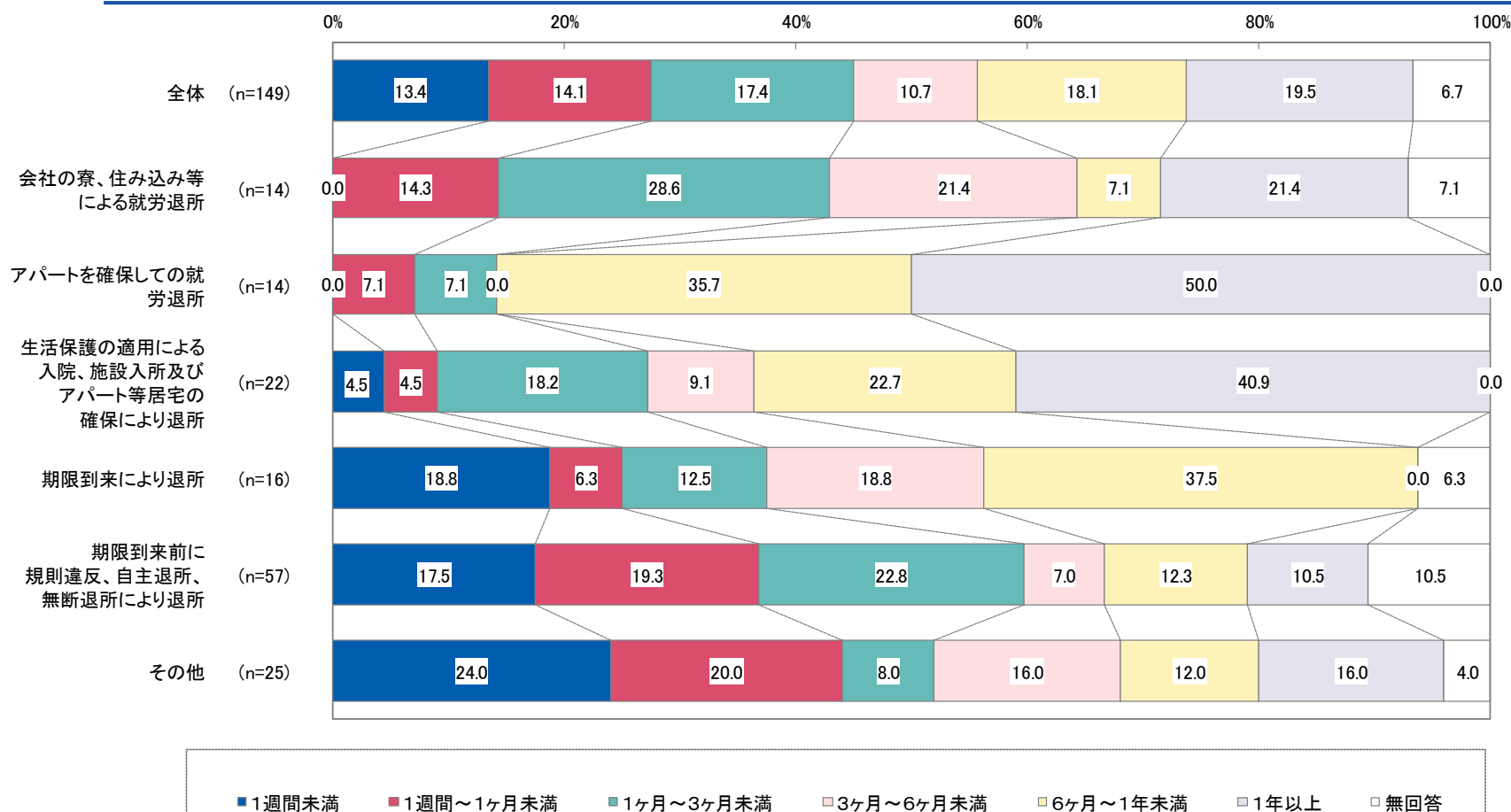
図表184 シェルターの利用意向×仕事による平均収入



問 2 9 - 2 自立センターの退所理由 × 問 2 9 - 1 退所から路上（野宿）生活に戻るまでの期間

- 自立支援センターの退所から路上生活に戻るまでの期間については、退所理由を、「アパートを確保しての就労退所」、「生活保護の適用」（と回答した者では、「1年以上」の割合が高い（それぞれ50.0%、40.9%）。「無断退所」と回答した者では、「1ヶ月～3ヶ月未満」の割合が高い（22.8%）。

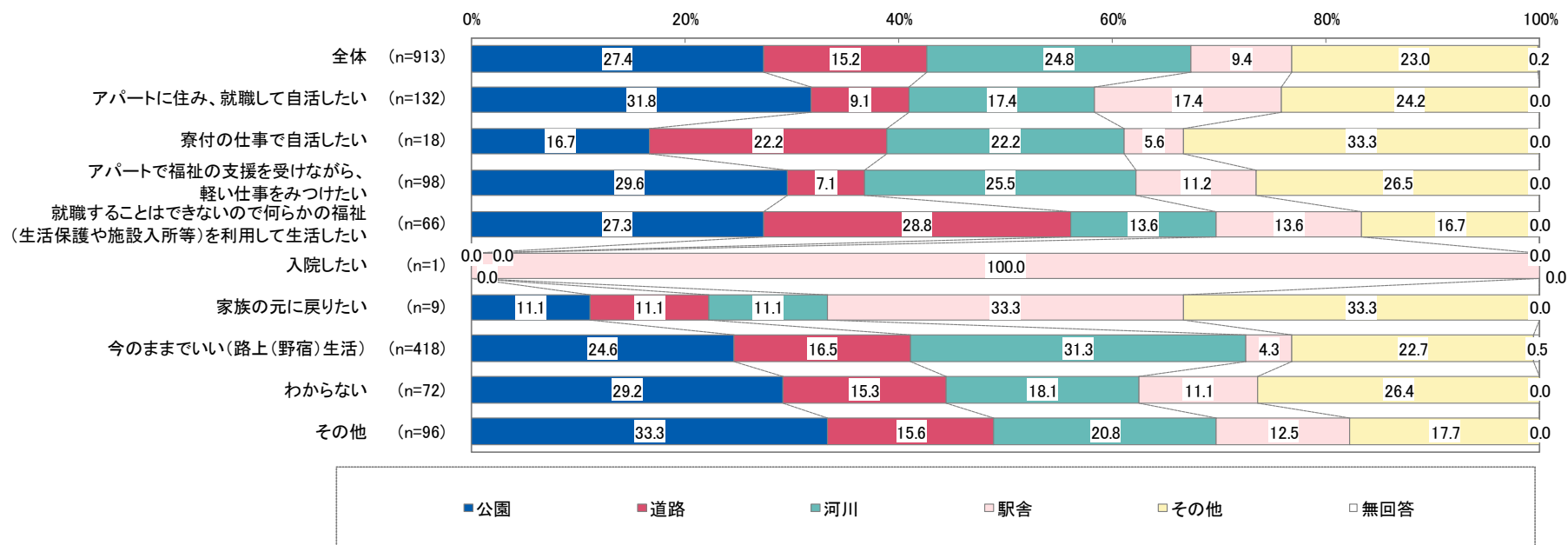
図表185 自立センターの退所理由×退所から路上（野宿）生活に戻るまでの期間



問3 6 今後望んでいる生活 × 問1 - 1 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所と今後望んでいる生活との関係については、「アパートに住み、就職」、「何らかの福祉を利用」では「公園」にいる者の割合が高い。「今のままでいい」では「河川」にいる者の割合が高い（31.3%）。「家族の元に戻りたい」では「駅舎」にいる者の割合が高い（33.3%）。

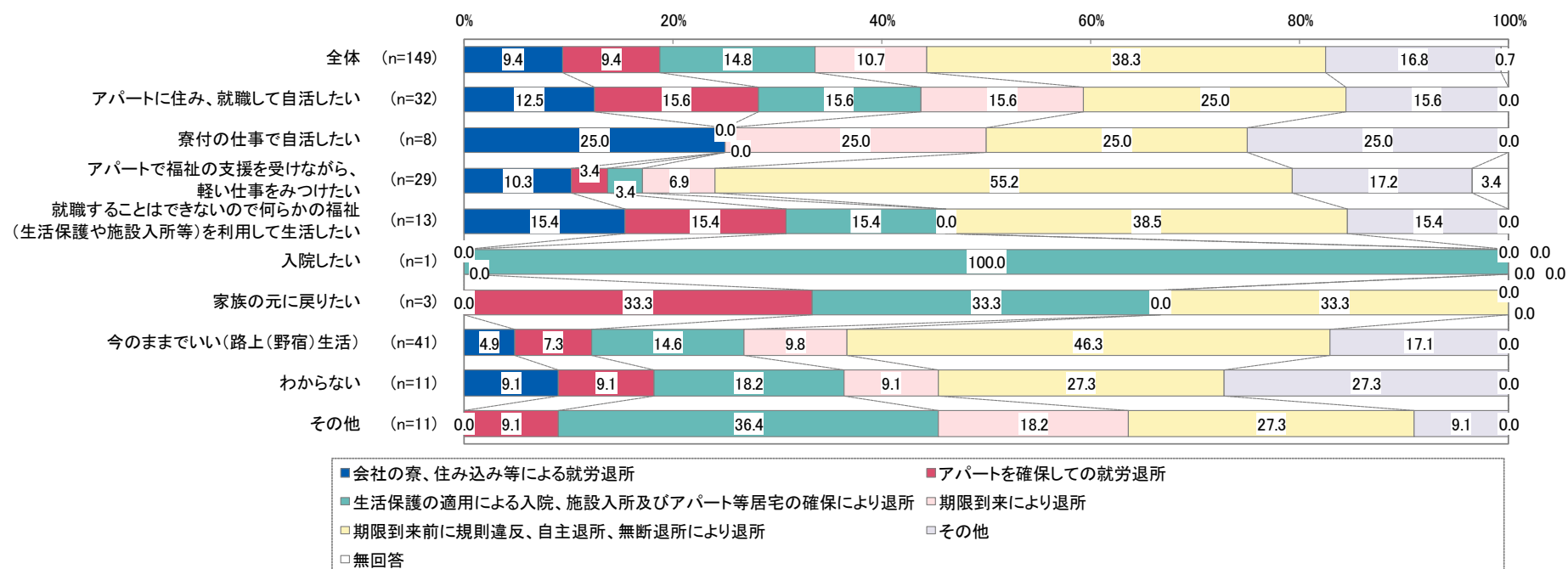
図表186 今後の望んでいる生活×寝ている場所（具体的に）



問36 今後望んでいる生活 × 問29-2 自立センターの退所理由

- 今後望んでいる生活と自立支援センターの退所理由との関係については、「会社の寮、住み込み等による就労退所」と回答した者では「寮付の仕事で自活」の割合が高い（25.0%）。「無断退所等」と回答した者では、「今のままでいい」の割合が高い（46.3%）。

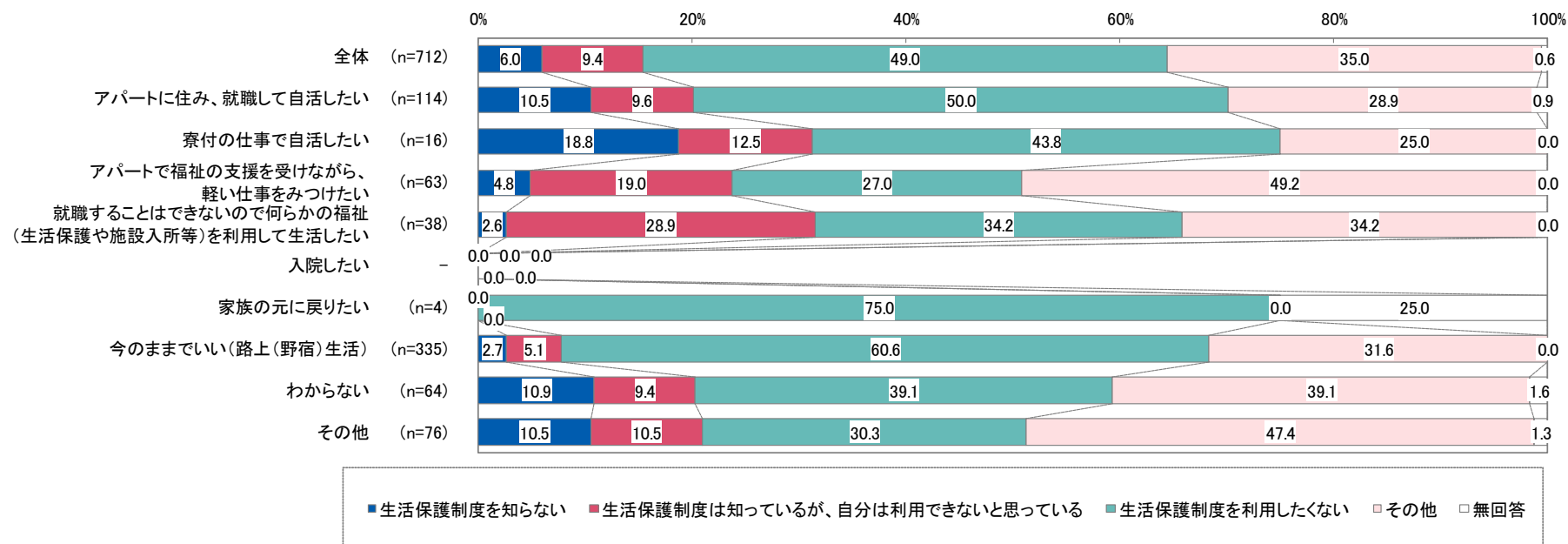
図表187 今後の望んでいる生活×自立センターの退所理由



問36 今後望んでいる生活 × 問31-3 生活保護制度を利用しなかった理由

- 今後望んでいる生活と生活保護制度を利用しなかった理由の関係については、「自分は利用できないと思っている」と回答した者では「何らかの福祉を利用したい」割合が高い（28.9%）。「生活保護を利用したくない」と回答した者では「アパートに住み、就職」、「寮付きの仕事で自活」、「今のままでいい」の割合が高い（それぞれ50.0%、43.8%、60.6%）。

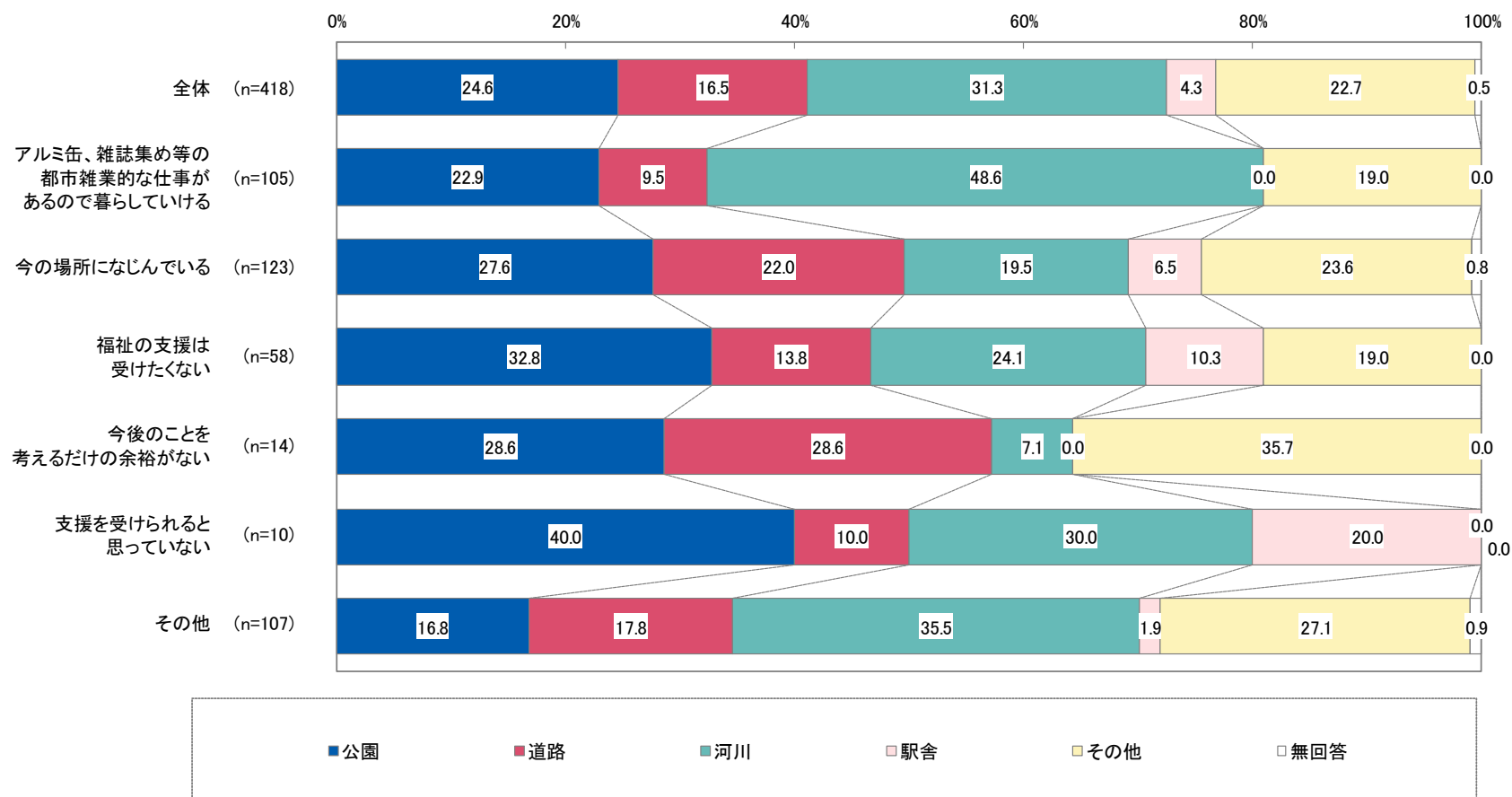
図表188 今後望んでいる生活×生活保護制度を利用しなかった理由



問36-1今のままでいい理由 × 問1-1寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所と今のままでいい理由の関係については、「河川」にいる者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高い（48.6%）。「公園」にいる者では「福祉の支援は受けたくない」及び「支援を受けられると思っていない」の割合が高い（それぞれ32.8%、40.0%）。「道路」にいる者では「今後のことを考えるだけの余裕がない」の割合が高い（28.6%）。

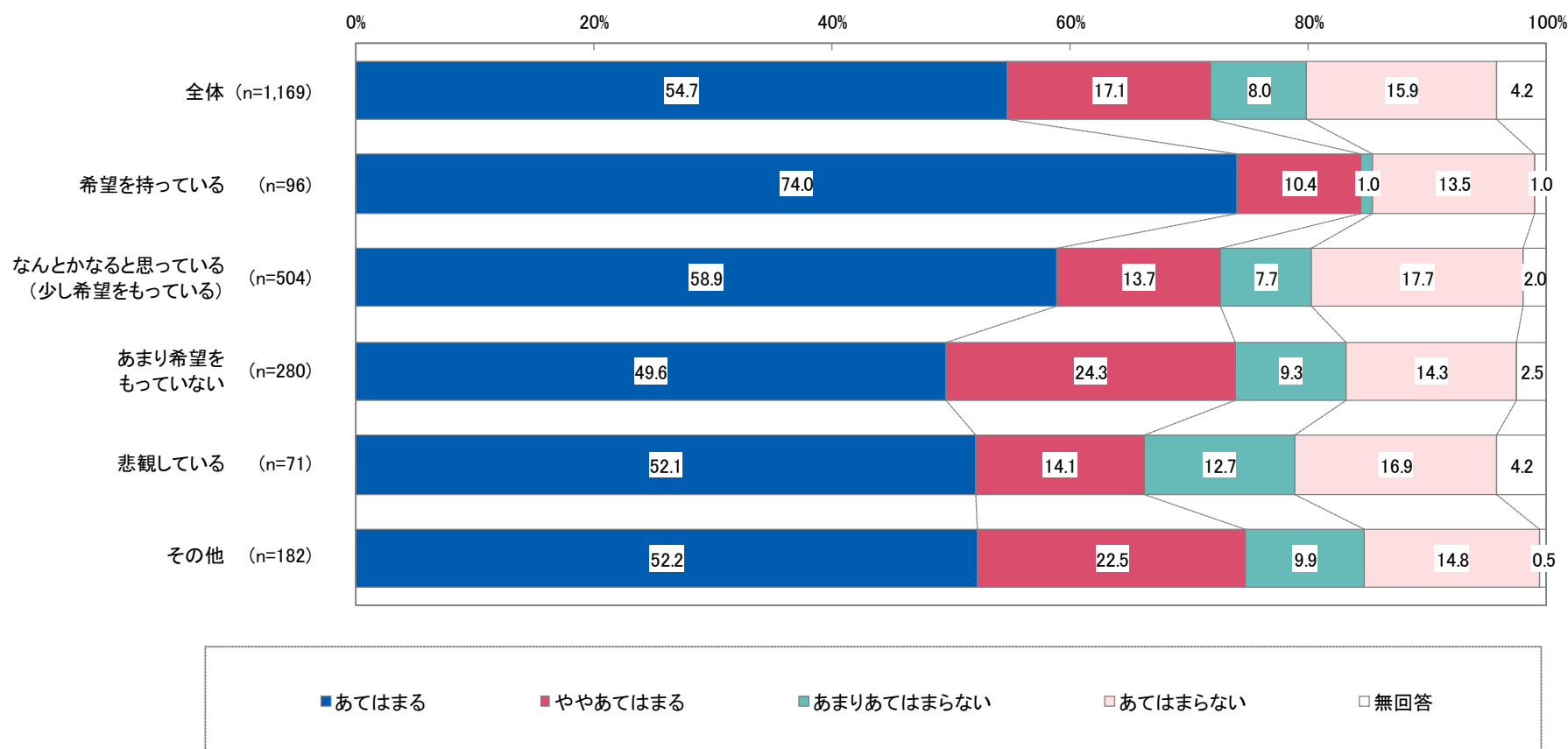
図表189 今のままでいい理由×寝ている場所（具体的に）



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（挨拶をする相手がいる（路上・野宿 生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（74.0%）。「あまり希望を持っていない」者では「やや当てはまる」及び「あまり当てはまらない」の割合が高い（それぞれ24.3%、9.3%）。

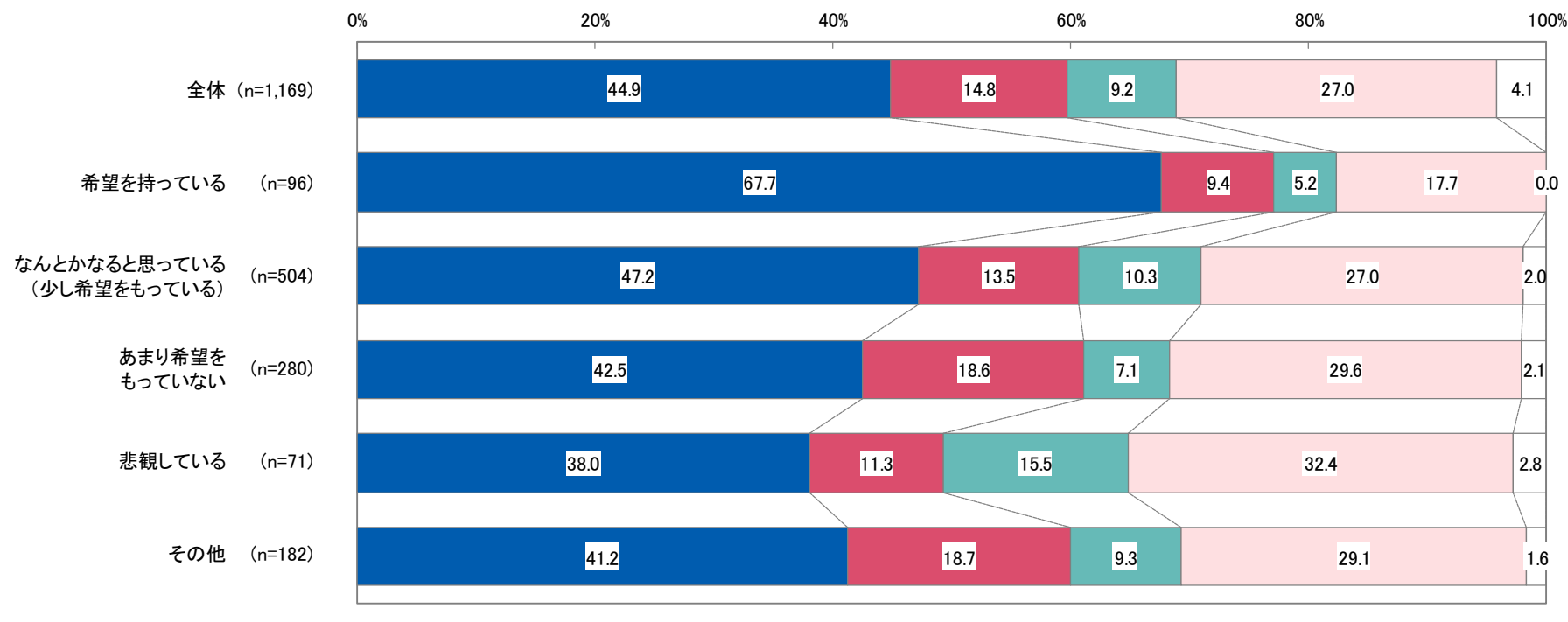
図表190-1 現在の気持ち×周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（挨拶をする相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（67.6%）。「悲観している」者では「あまり当てはまらない」及び「当てはまらない」の割合が高い（それぞれ15.5%、32.4%）。

図表190-2 現在の気持ち×周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜現在＞

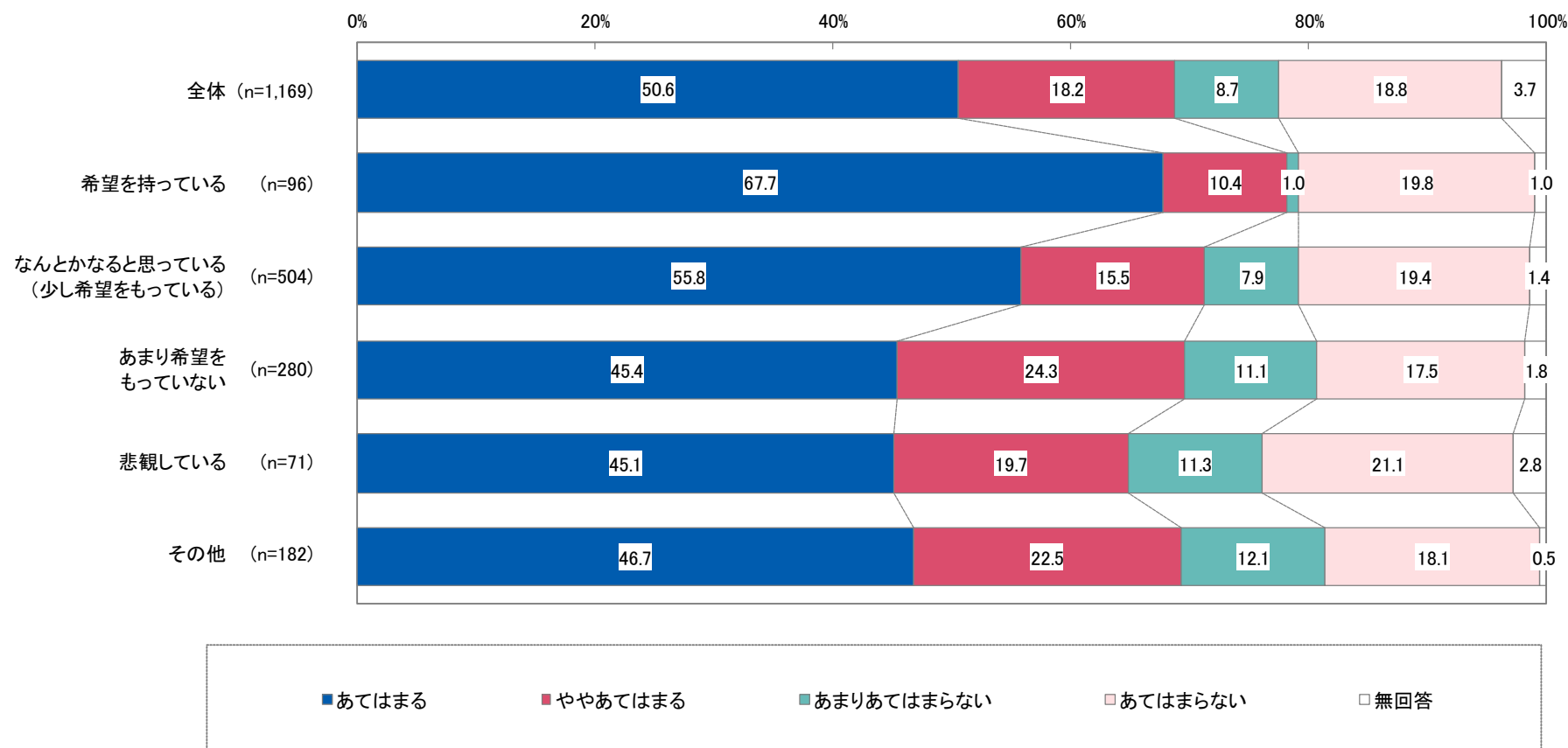


■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない □無回答

問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（世間話をする相手がいる（路上・野宿 生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（67.7%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

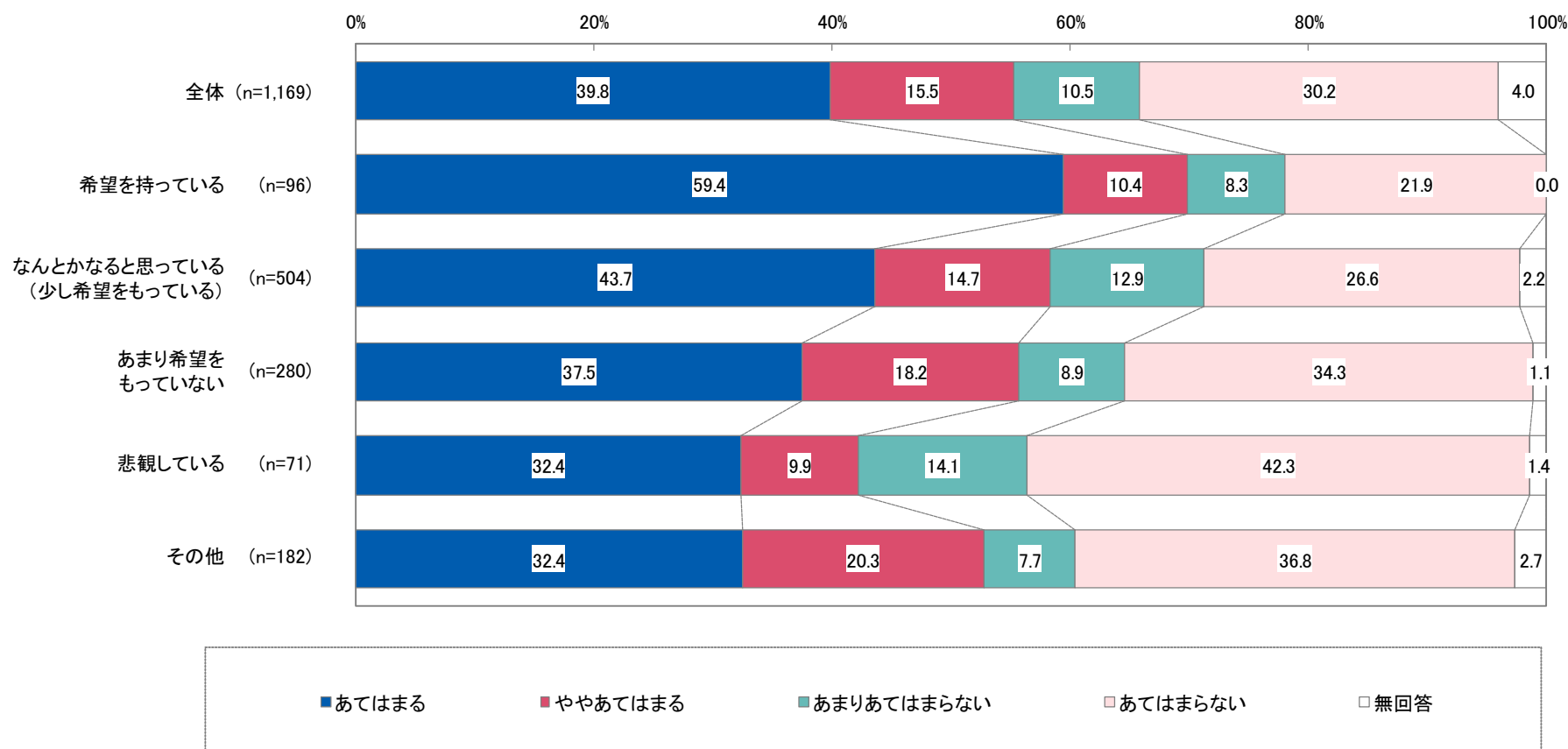
図表190-3 現在の気持ち×周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（世間話をする相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（59.4%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

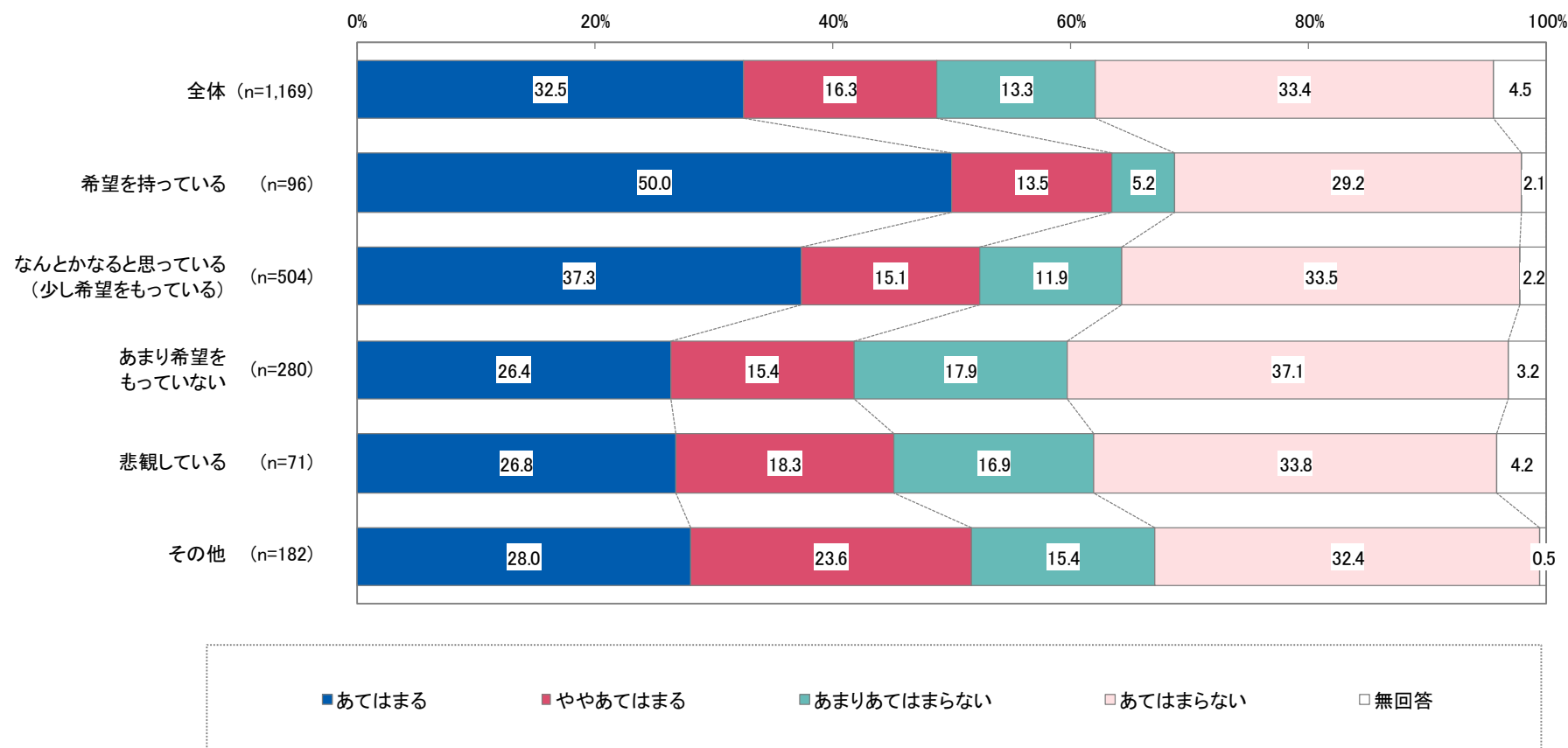
図表190-4 現在の気持ち×周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜現在＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に相談できる相手がいる（路上・野宿 生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（50.0%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

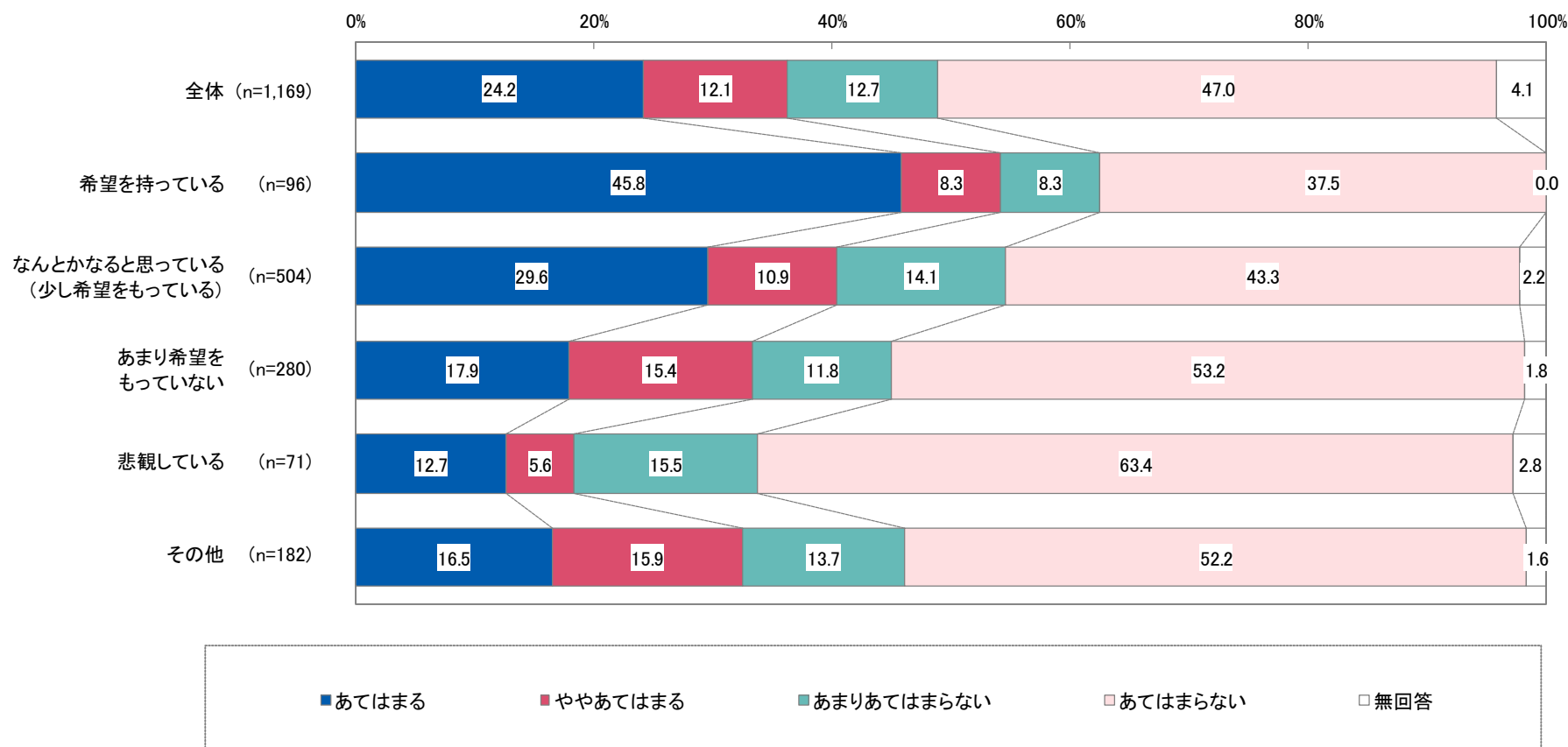
図表190-5 現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる<路上（野宿）生活前>



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に相談できる相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（45.8%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

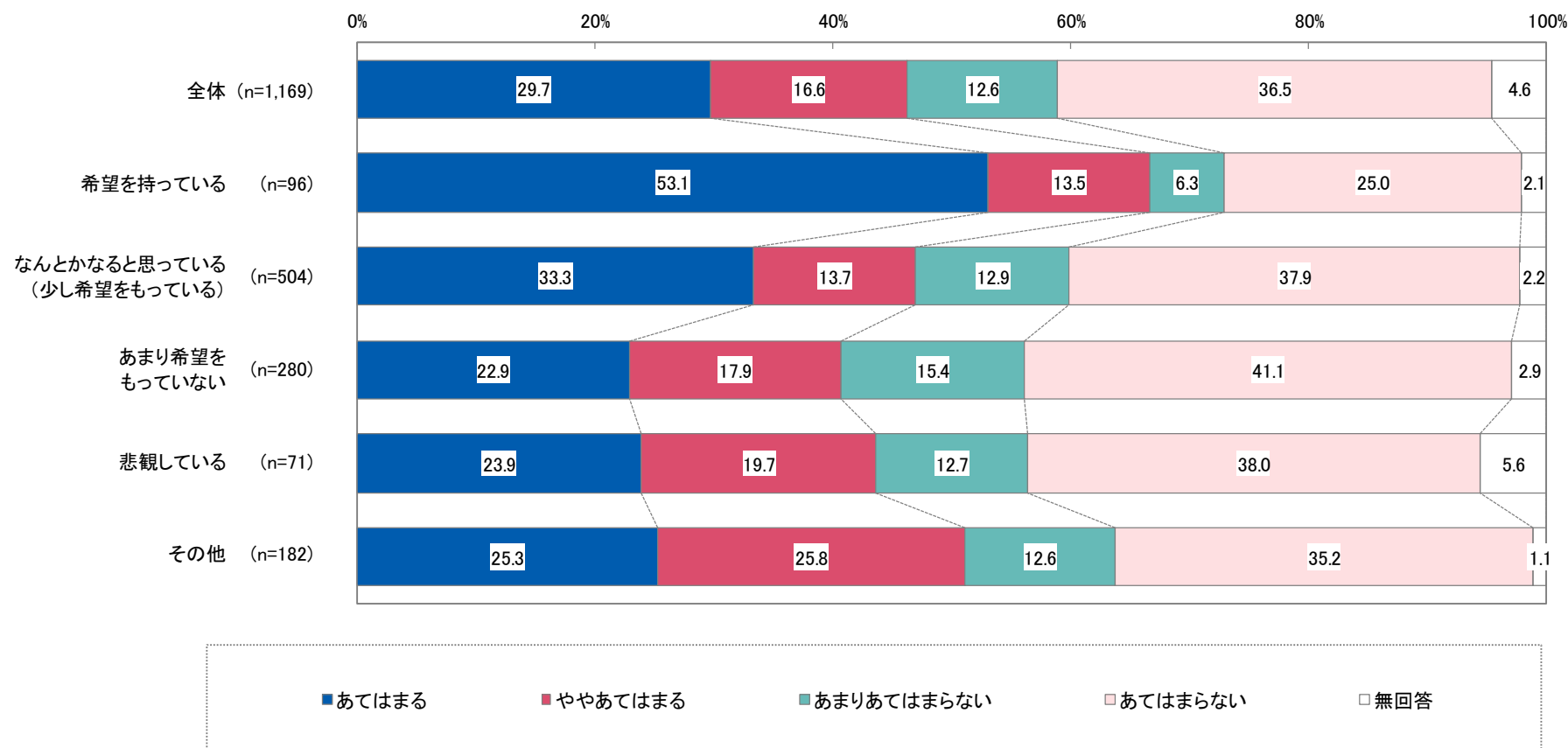
図表190-6 現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜現在＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に助けてくれる相手がいる（路上・野宿 生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（53.1%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

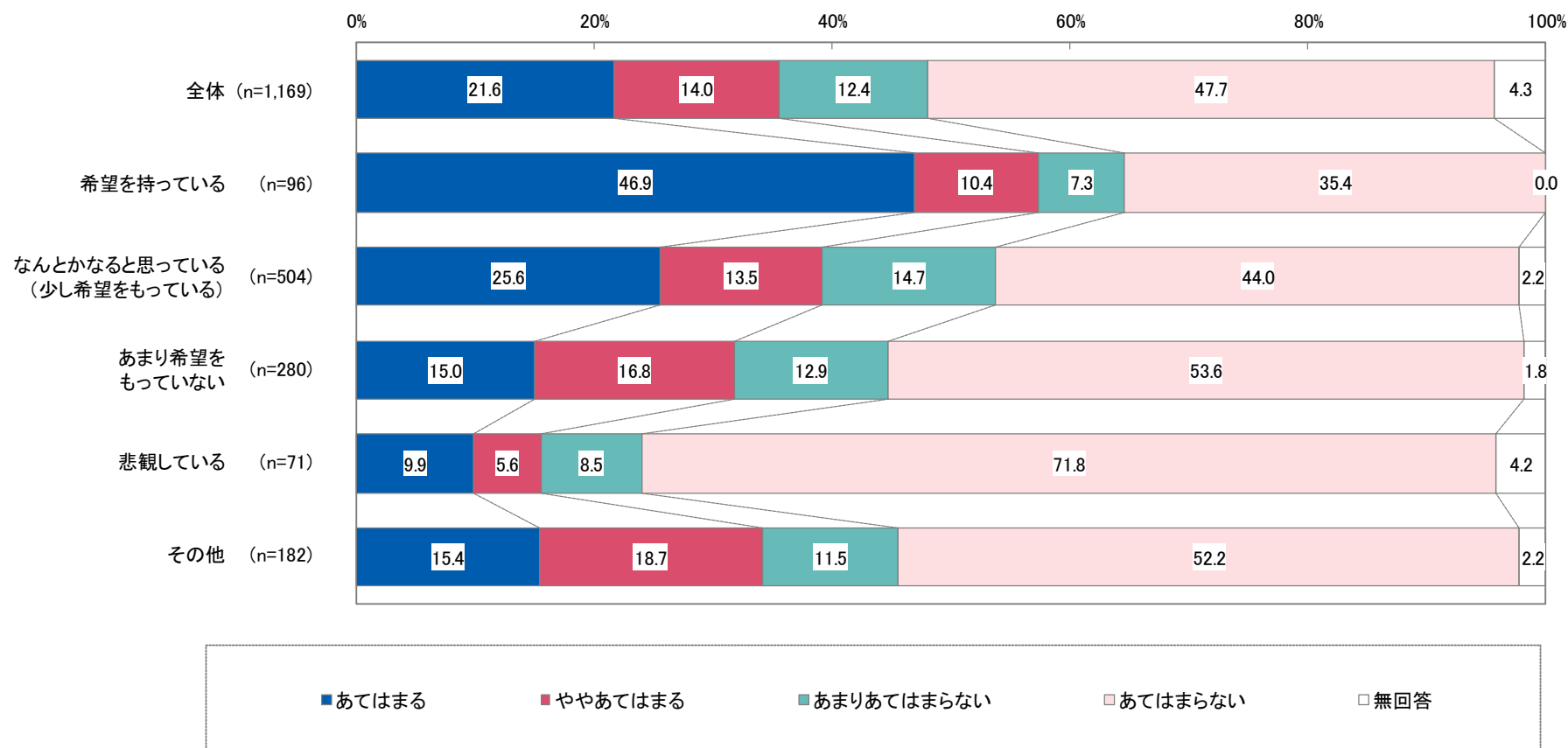
図表190-7 現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる<路上（野宿）生活前>



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に助けてくれる相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（46.9%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

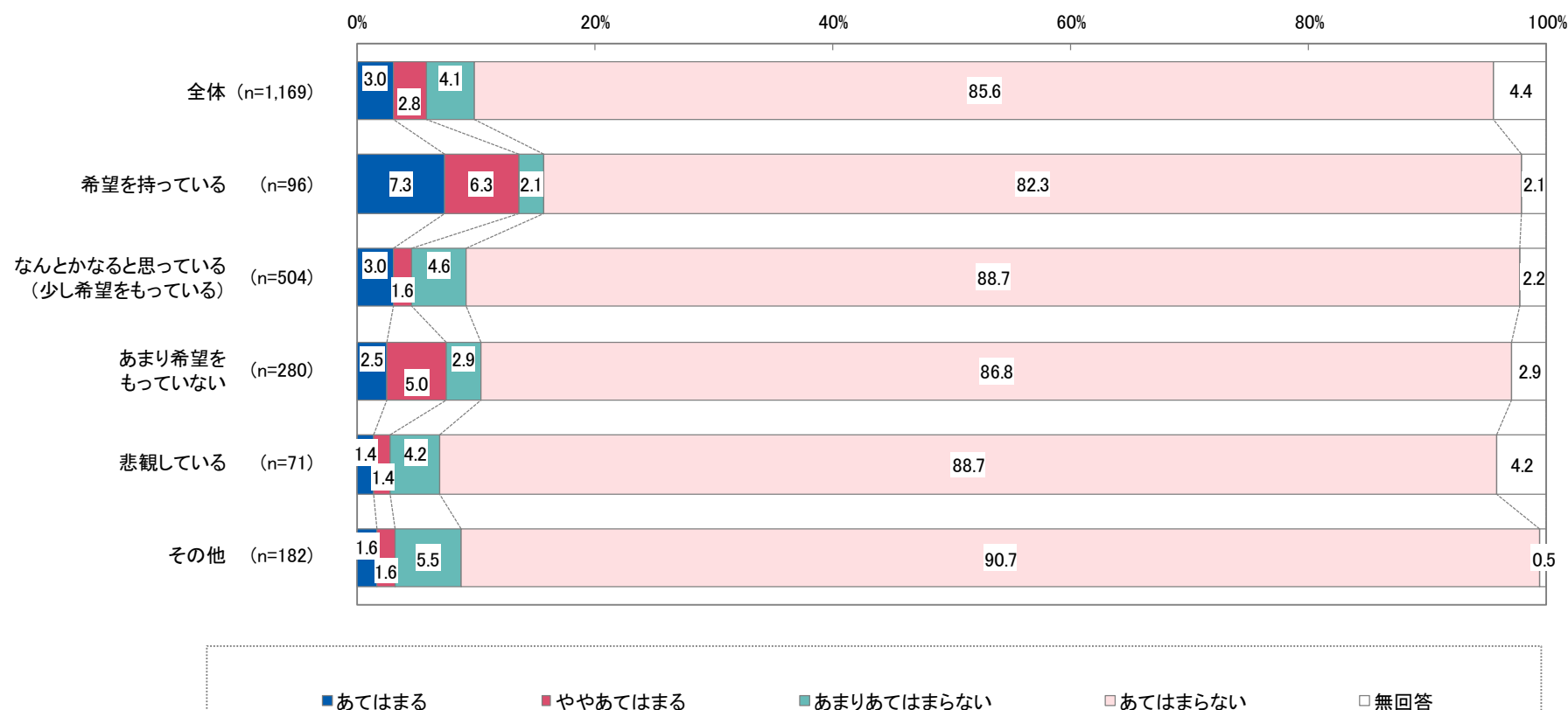
図表190-8 現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜現在＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（NPO等の団体が開催する集会・相談回答に参加している（路上・野宿 生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（7.3%）。全体に「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

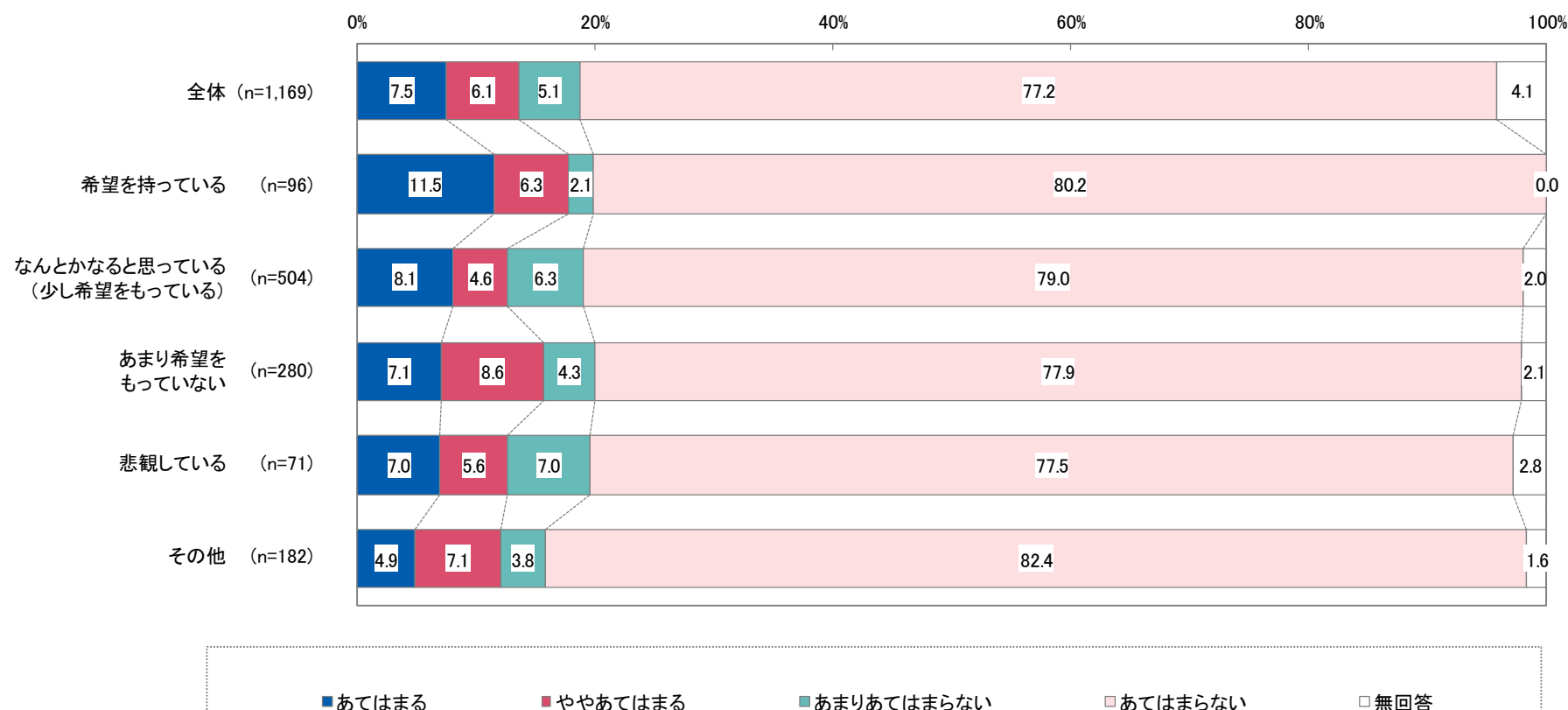
図表190-9 現在の気持ち×周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜路上（野宿）生活前＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（NPO等の団体が開催する集会・相談回答に参加している（現在）、に）あてはまる」の割合が高い（11.5%）。全体に「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

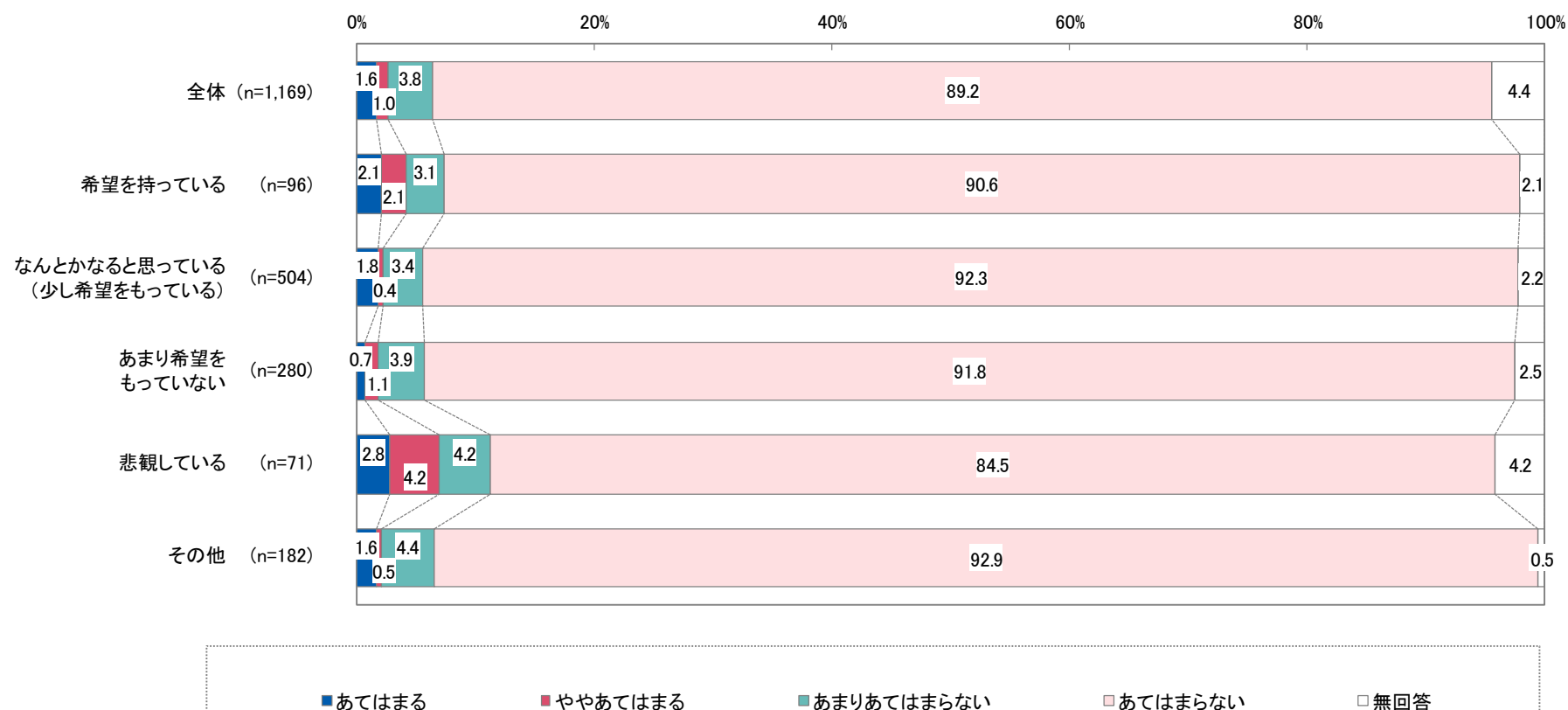
図表190-10 現在の気持ち×周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「悲観している」者では「（行政が開催する集会・相談回答に参加している（路上・野宿生活前）、に）あてはまる」の割合が高い（2.8%）。全体に「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

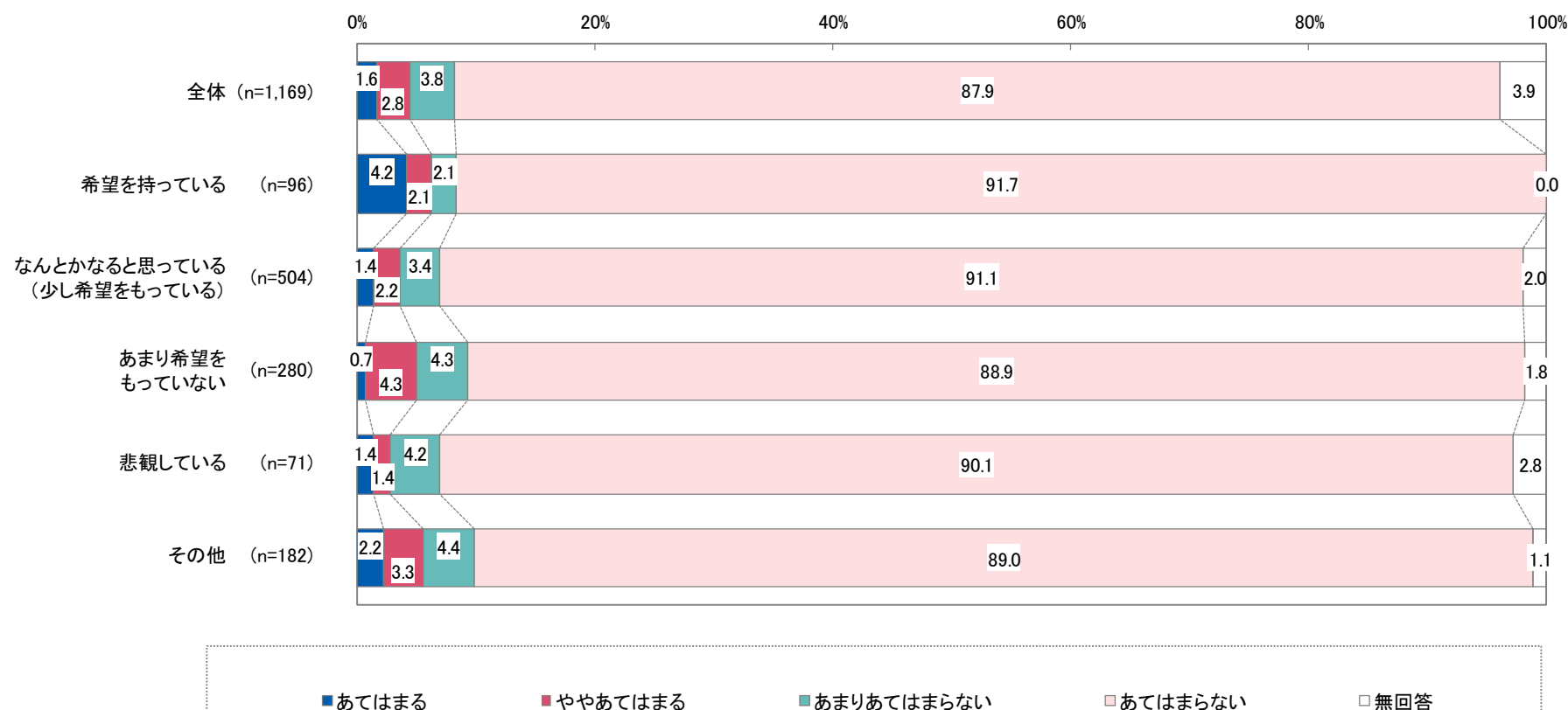
図表190-11 現在の気持ち×周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜路上（野宿）生活前＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 9 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、全体に「（行政が開催する集会・相談回答に参加している（現在）に）あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

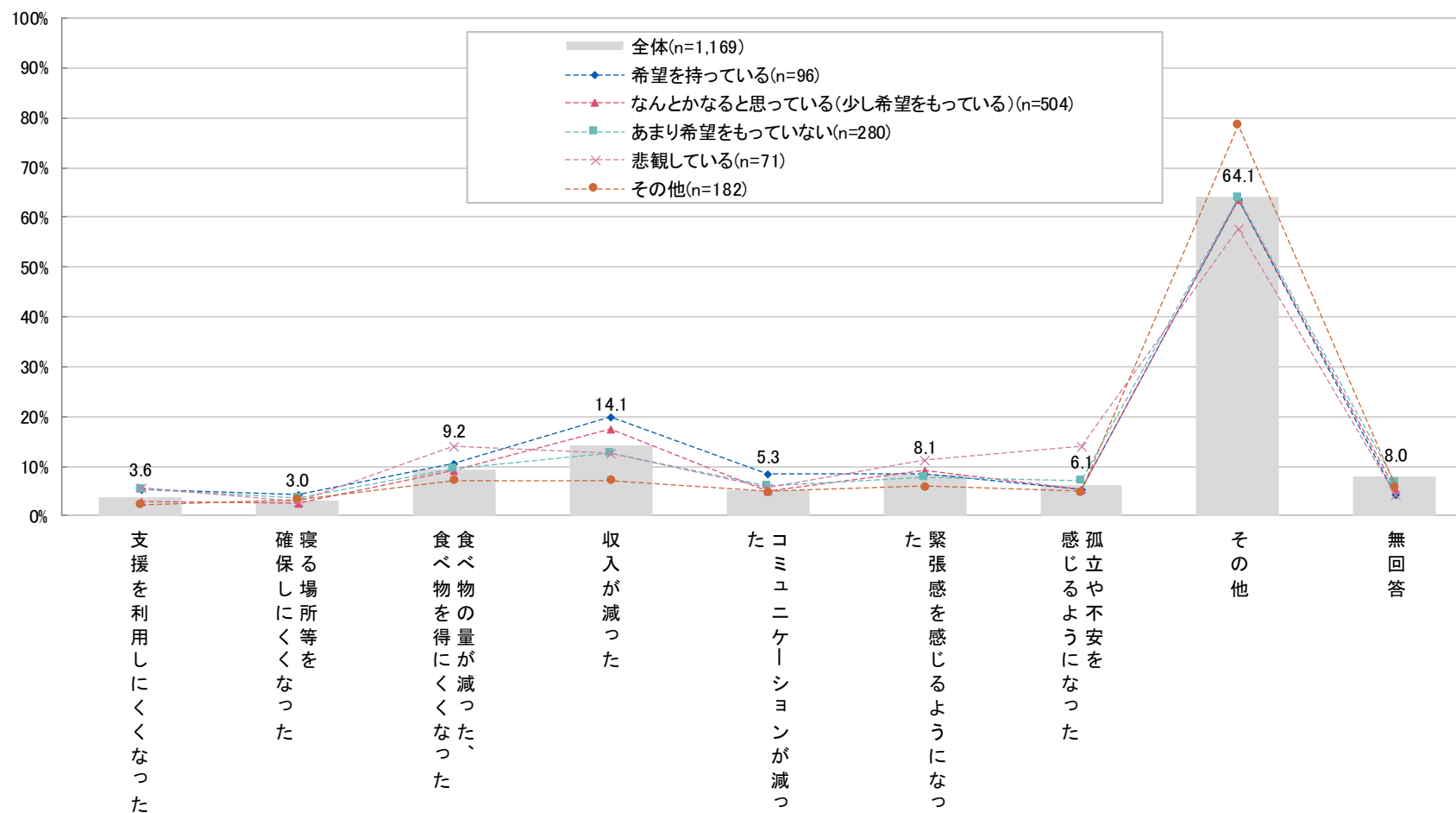
図表190-12 現在の気持ち×周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問 4 7 現在の気持ち × 問 1 0 コロナの影響

- 現在の気持ちとコロナの影響については、「希望を持っている」者では「収入が減った」の割合が高い。「悲観している」者では「食べ物が減った」の割合が高い。

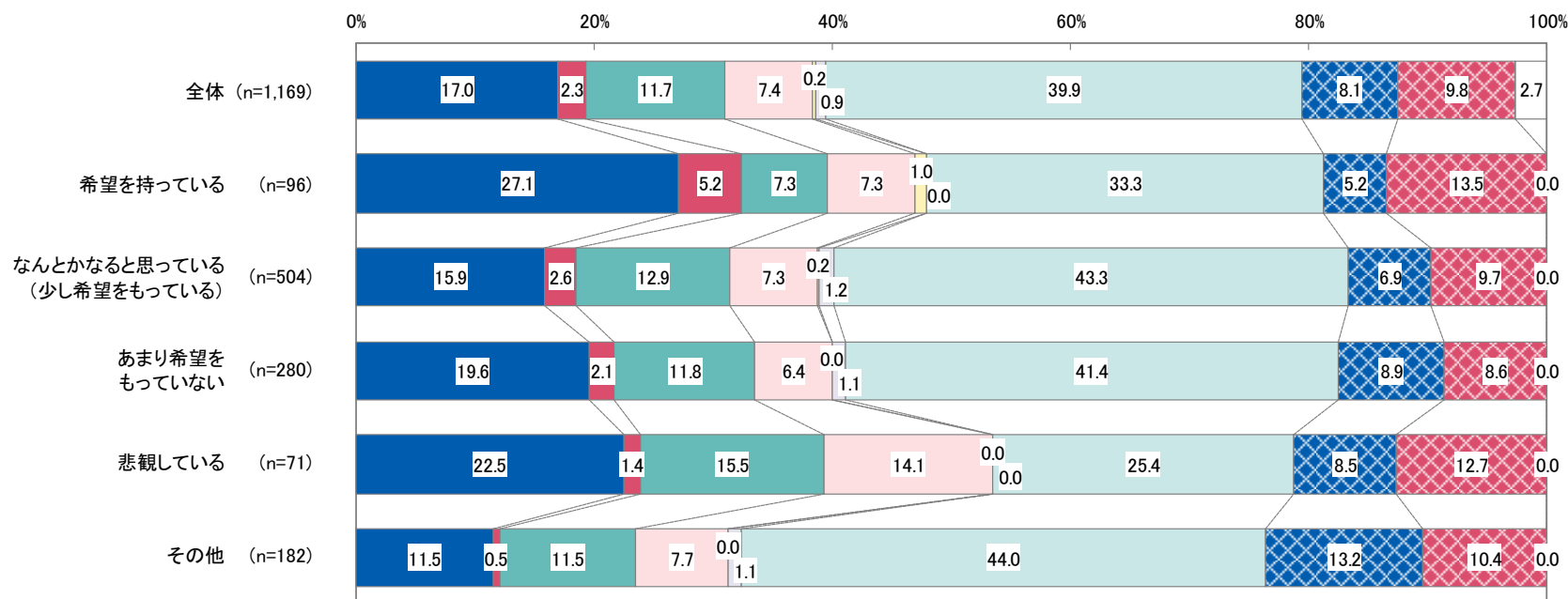
図表 191 現在の気持ち×コロナの影響



問 4 7 現在の気持ち × 問 3 6 今後望んでいる生活

- 現在の気持ちと今後望んでいる生活については、「希望を持っている」者では「アパートに住み、就職して自活したい」の割合が高い（27.1%）。
「悲観している」者では「今のままでいい」の割合が低い（25.4%）。

図表192 現在の気持ち×今後望んでいる生活

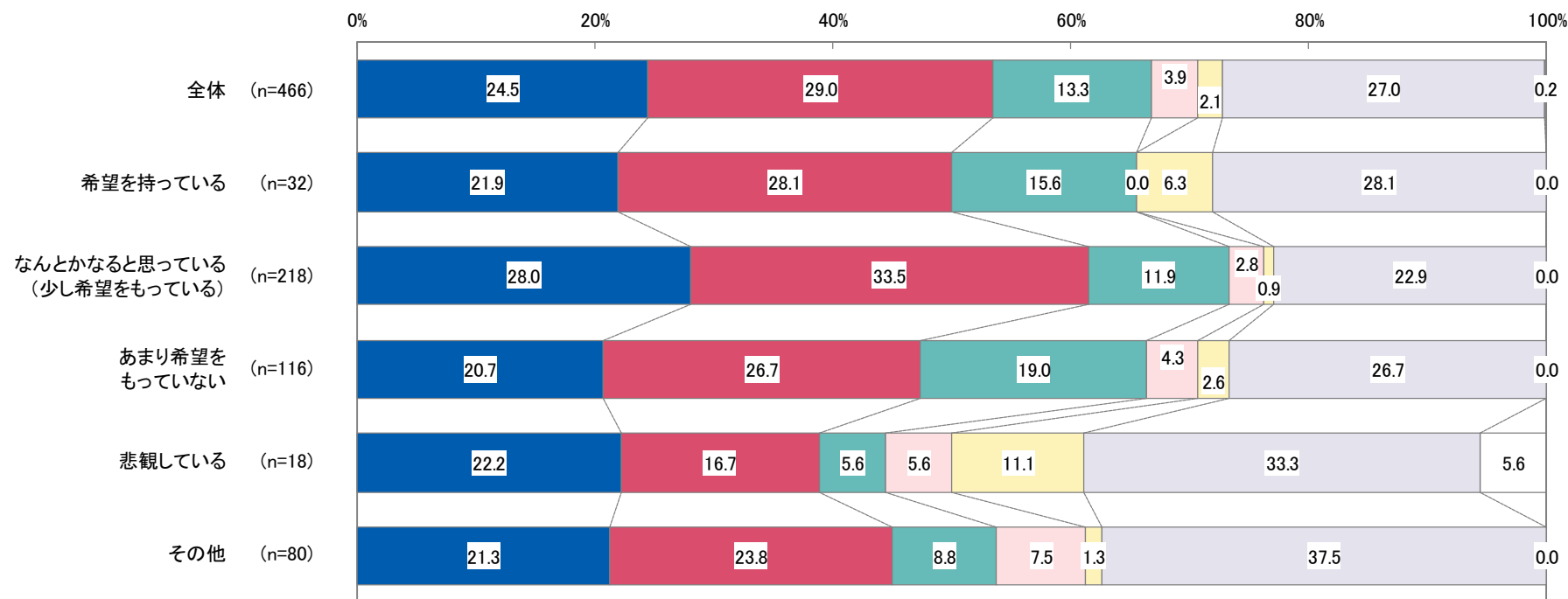


- アパートに住み、就職して自活したい
- 寮付の仕事で自活したい
- アパートで福祉の支援を受けながら、軽い仕事をみつきたい
- 就職することはできないので何らかの福祉（生活保護や施設入所等）を利用して生活したい
- 入院したい
- 家族の元に戻りたい
- 今のままでいい（路上（野宿）生活）
- わからない
- その他
- 無回答

問 4 7 現在の気持ち × 問 3 6 - 1 今のままでいい理由

- 現在の気持ちと今のままでいい理由については、「なんとかなると思っている」者では「都市雑業的な仕事がある」「今の場所になじんでいる」の割合が高い（それぞれ28.0%、33.5%）。「悲観している」者では「支援を受けられると思っていない」の割合が高い（11.1%）。

図表 193 現在の気持ち×今のままでいい理由



- アルミ缶、雑誌集め等の都市雑業的な仕事があるので暮らしていける
- 今の場所になじんでいる
- 福祉の支援は受けたくない
- 今後のことを考えるだけの余裕がない
- 支援を受けられると思っていない
- その他
- 無回答

問 4 7 現在の気持ち × 問 3 7 就職するための求職活動

- 現在の気持ちと就職するための求職活動については、「希望を持っている」者では「求職活動をしている」の割合が高い（17.7%）。「悲観している」者では「今はしていないが今後求職活動をする予定である」の割合が高い（21.1%）。

図表194 現在の気持ち×就職するための求職活動

